北埋調報　54

江別市

西野幌12遺跡

—道立野幌総合運動公園用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

昭　和　63　年　度

財団法人　北海道埋蔵文化財センター

例　言

1　この報告書は北海道立野幌総合運動公園用地内における埋蔵文化財発掘調査のうち西野幌12遺跡に関するものである。

2　調査は、北海道教育委員会の指示により、北海道住宅都市部の委託を受けて、財団法人北海道埋蔵文化財センターが実施した。本書に記載の出土資料は北海道教育委員会が保管する。

3　本書の編集は調査部調査第一課が担当した。各章の執筆はⅠ谷島由貴。Ⅱ谷島由貴。Ⅲ－１・２高橋和樹。ⅣのＨ－５・Ｐ－214～222・ＴＰ－11を工藤義衛、小ピットを高橋和樹、フレイク・チップ集中・焼土、その他の遺構については、各調査担当者の遺構日誌等に基づき谷島由貴が概要を記し、遺構出土遺物のうち土器は高橋和樹、石器は谷島由貴が分担した。Ⅴ－１高橋和樹。Ⅴ－２谷島由貴。Ⅴ－３工藤義衛。Ⅵ花岡正光（調査第四課)。

4　遺構の実測は園部亜佐子・木下昭仁・中村芳子・南出洋子・和田千恵子・桂島キヨ子・田中(波川)静江・須貝尚樹・佐々木亜貴・鍋島直久ほか、各担当調査員がおこなった。遺物の写真は菊池慈人が担当した。遺構図などのトレースは村上明美、遺物の実測・トレースは山田真理子・木下昭仁・小林晴美・鍋島直久、遺物の復元・拓本・集計・図版作成等は中嶋政子・小川順子・小島栄子、石器材質の肉眼的鑑定は、調査第四課花岡正光が行った。

5　遺構の表記については、以下に示す記号を用い、確認順に番号を付した。
竪穴住居跡：Ｈ　　土壙・土壙墓：Ｐ　　Ｔピット：ＴＰ
　実測図の縮尺は以下のとおりである。
竪穴住居　１：60＆１：40、土壙　１：40、Ｔピット　１：40、炉跡　１：40
土器実測図・拓影　１：３、石器　１：２（一部の礫石器は１：４)、土製品・石製品１：２

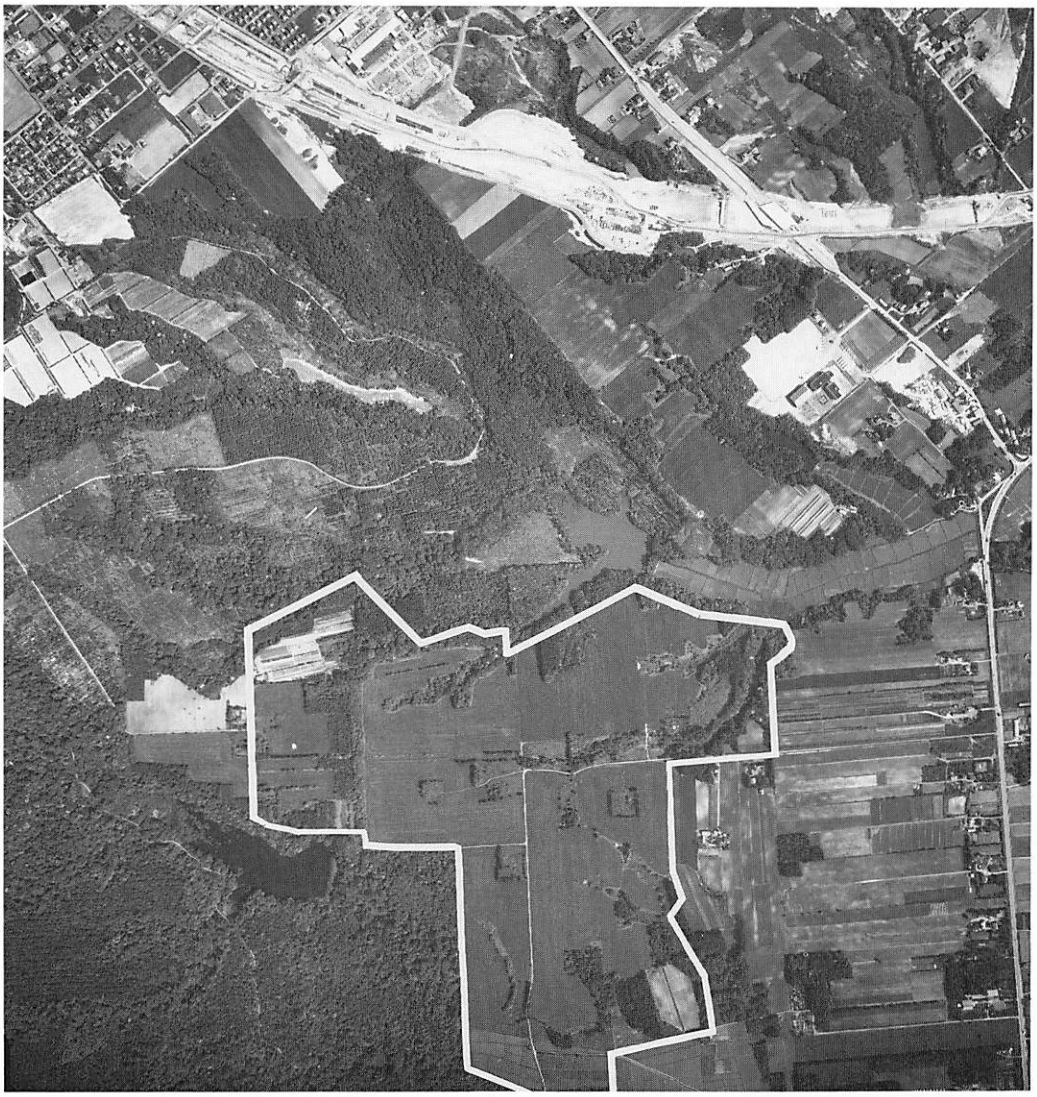
6　調査にあたっては次の機関や人々の指導ならびに協力をいただいた。(順不同・敬称略)
北海道教育委員会、江別市教育委員会、北海道開拓記念館、札幌市教育委員会、赤石慎三、赤松守雄、天野哲也、石川直章、石橋孝夫、石本省三、稲垣和幸、上野秀一、右代啓視、内山真澄、浦辻栄治、上屋真一、遠藤龍畝、大井晴男、大島直行、大谷敏三、大野　享、加藤邦雄、金子浩昌、木村英明、北沢　実、工藤　肇、久保　泰、後藤秀彦、古原敏弘、斎藤　傑、佐藤一夫、佐藤訓敏、佐藤隆広、澤　四郎、柴田信一、杉浦重信、瀬川拓郎、園部真幸、高橋正勝、田中源一、田村俊之、田部　淳、谷岡康孝、土屋周三、鶴丸俊明、手塚　薫、寺崎康史、百々幸雄、豊原熙司、直井孝一、中村　齊、西　幸隆、西本豊弘、野村　崇、羽賀憲二、林　謙作、平川善祥、増川栄一、松下　亘、松田　猛、松野康弘、松谷純一、三浦孝一、三野紀雄、宮夫靖夫、森　広樹、山田悟郎、矢吹俊男、横山英介、吉崎昌一、吉田玄一、渡辺秀一、渡辺俊一

目　次

例言

Ⅰ　調査の概要……1
　1　調査要項……1
　2　調査体制……1
　3　調査のあらまし……2
Ⅱ　遺跡の位置と環境……8
Ⅲ　発掘調査の方法……12
　1　調査区の設定……12
　2　層序……12
　3　遺物の分類……16
　　1)　土器……16
　　2)　石器……17
　　3)　土製品・石製品……17
Ⅳ　遺構……18
　1　縄文早期の遺構……18
　2　縄文中期の遺構……35
　3　縄文晩期の遺構……135
　4　続縄文期の遺構……154
　5　時期不明の遺構……220
　6　Ｔピット……225
　7　炉跡……226
　8　小ピット・柱穴……228
　9　フレイク・チップ集中……253
　10　焼土……258
Ⅴ　発掘区出土の遺物……270
　1　土器……270
　2　石器……323
　3　土製品・石製品……390
付編　明赤褐色土について……399
　西野幌12遺跡で採取された白色火山灰について……401
　西野幌12遺跡の土器の胎土分析について……403
結語　……411

　引用・参考文献……412



空　中　写　真

国土地理院発行のＨＯ―81―１　Ｃ９―28を使用した。

（白枠内：道立野幌総合運動公園用地）

Ⅰ　調査の概要

1．調査要項

事業名　　北海道立野幌総合運動公園用地内埋蔵文化財発掘調査

事業委託者　　北海道住宅都市部

事業受託者　　財団法人　北海道埋蔵文化財センター

遺跡名　　西野幌12遺跡（北海道教育委員会登載番号：Ａ－02－106）

所在地　　江別市西野幌497-1番地ほか

調査年度・調査面積・調査期間

調査年度	和和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度
調査期間	10月1日 3月31日	7月1日 3月31日	5月9日 3月31日	5月24日 3月31日	8月20日 3月31日	5月7日 3月31日	8月24日 平成元年 3月31日
調査対象面積	3,500㎡	6,213㎡	5,064㎡	7,754㎡	4,550㎡	2,287㎡	943㎡

2．調査体制

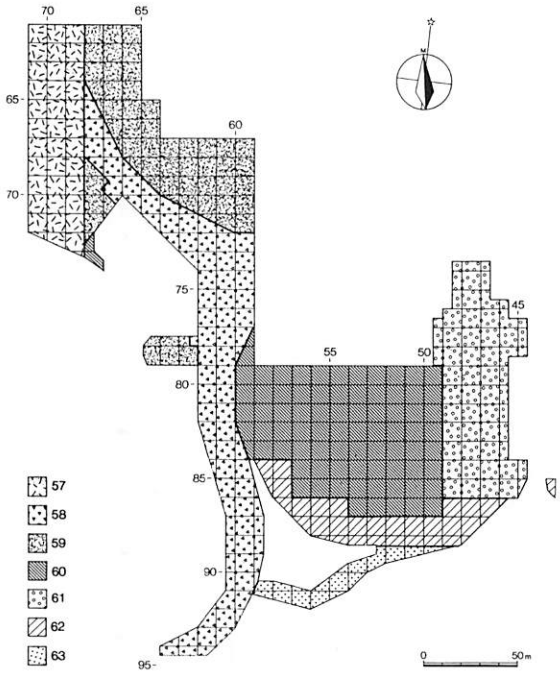
調査年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度
理事長	浅井理一郎	中村　龍一	中村　龍一	中村　龍一 5月30日まで 植村　敏 6月1日から	植村　敏	植村　敏 6月25日まで 澤　宣彦 6月26日から	澤　宣彦
専務理事		山本　慎一	山本　慎一	山本　慎一	山本　慎一	山本　慎一	山本　慎一 5月30日まで 永田　春男 6月1日から
常務理事		藤本　英夫	藤本　英夫	藤本　英夫	藤本　英夫	藤本　英夫	竹田　輝雄 6月1日から
業務部長	皆川　富三	横田　直成	横田　直成	間宮　道男	間宮　道男	間宮　道男	伊藤　庄吉
調査部長	藤本　英夫	竹田　輝雄	竹田　輝雄	中村　福彦	中村　福彦	中村　福彦	中村　福彦
	調査第1班	調査第4班	調査第3班	調査第2班	調査第2班	調査第2課	調査第1課
発掘担当者	種市　幸生	種市　幸生	種市　幸生	種市　幸生	田才　雅彦	高橋　和樹	高橋　和樹
文化財保護主事	増川　栄一	佐川　俊一	高橋　和樹	田才　雅彦	田中　哲郎	葛西　智義	谷島　由貴
		浦辻　栄治	佐川　俊一	田口　尚			
			佐藤　和雄				
嘱託		葛西　智義	森岡　健治	寺崎　康史	皆川　洋一	谷島　由貴	工藤　義衛
			寺崎　康史				

3．調査のあらまし

北海道住宅都市部は、1989年開催予定の第44回国民体育大会（はまなす国体）に向けて、昭和56年10月、江別市西野幌に63.7haにおよぶ総合運動公園の建設計画を策定した。この計画に伴い昭和57年度から、同公園の造成工事に着手する運びとなった。用地内には下学田遺跡などが周知されていることから、昭和56年10月、住宅都市部と北海道教育委員会は埋蔵文化財保護のための事前協議を行った。その結果、道教委が所在確認調査（表面踏査）を実施し、工事計画区域内に８ヵ所の包蔵地（西野幌11遺跡・西野幌12遺跡・西野幌13遺跡・西野幌14遺跡・西野幌15遺跡・西野幌16遺跡・西野幌17遺跡・下学田遺跡）の分布することが確認された。道教委は所在確認調査にもとづき範囲確認調査を昭和57年度・58年度・60年度の３度にわたり実施した。調査方法は対象面積の１％を掘開することを基本とし、必要に応じてトレンチ調査を併用した。この結果をもとに再度、両者が協議を行い、現状保存の困難なものについて記録保存調査を昭和57年度から行うに至った。発掘調査は、道教委の指示により昭和57年度以降、住宅都市部の委託を受けて財団法人北海道埋蔵文化財センターが実施する運びとなった。

西野幌12遺跡は登載当初、西野幌12遺跡と西野幌17遺跡の別な２つの遺跡であった。しかし、昭和58年度に北海道教育委員会が実施した範囲確認調査の結果、両遺跡は一つの広がりであることが判明し、以来西野幌12・17遺跡と仮称してきた。昭和61年度、道教委と遺跡名称について協議の結果、西野幌12遺跡として統合された。遺跡の範囲は51,165㎡であった。

本遺跡は昭和57年度以来、毎年発掘調査が継続されてきた。７年間の調査面積は30,311㎡におよぶ。検出された遺構は竪穴住居跡４軒、住居跡状遺構４基、土壙211基、Ｔピット11基、炉跡１基、小ピット・柱穴409個、フレイク・チップ集中47ヵ所、焼土が約786㎡である。土器・石器などの総出土点数は543,125点である。昭和57・58年度は園路になる区域を3,500㎡と6,213㎡の調査が行われた。59年度の調査は硬式野球場用地の一部5,064㎡を行った。60年度からは軟式野球場用地の調査を継続して行い、60年度7,754㎡、61年度4,550㎡、62年度2,287㎡、63年度は補助園路943㎡の調査を実施した。



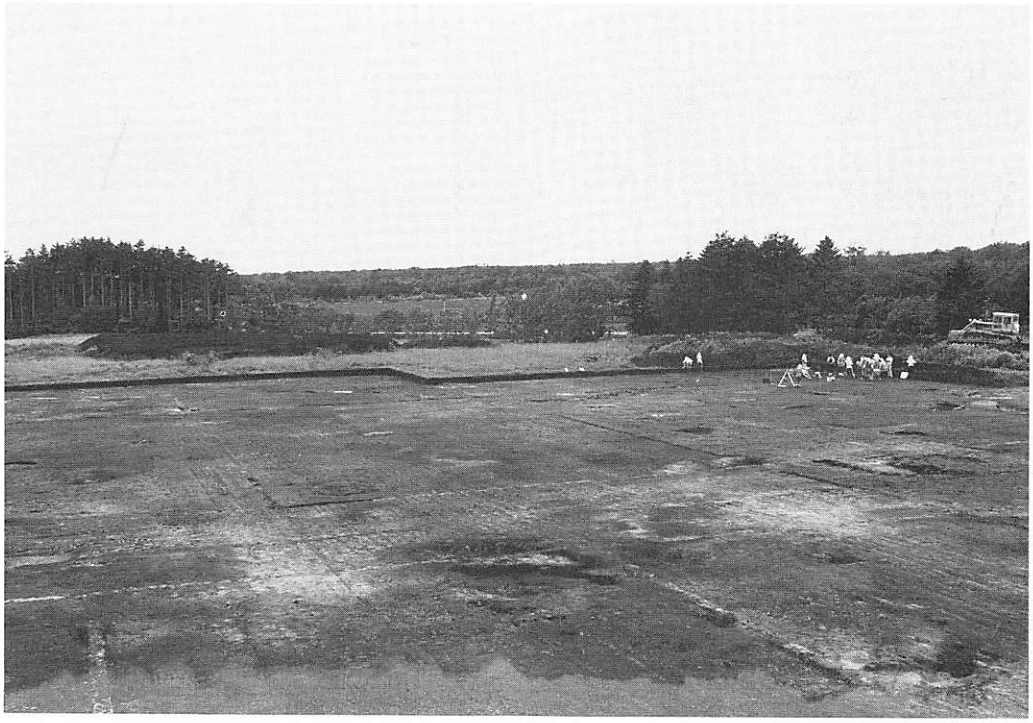
遺跡遠景　N→S

遺跡遠景　S→N

昭和57年度の調査

昭和58年度の調査

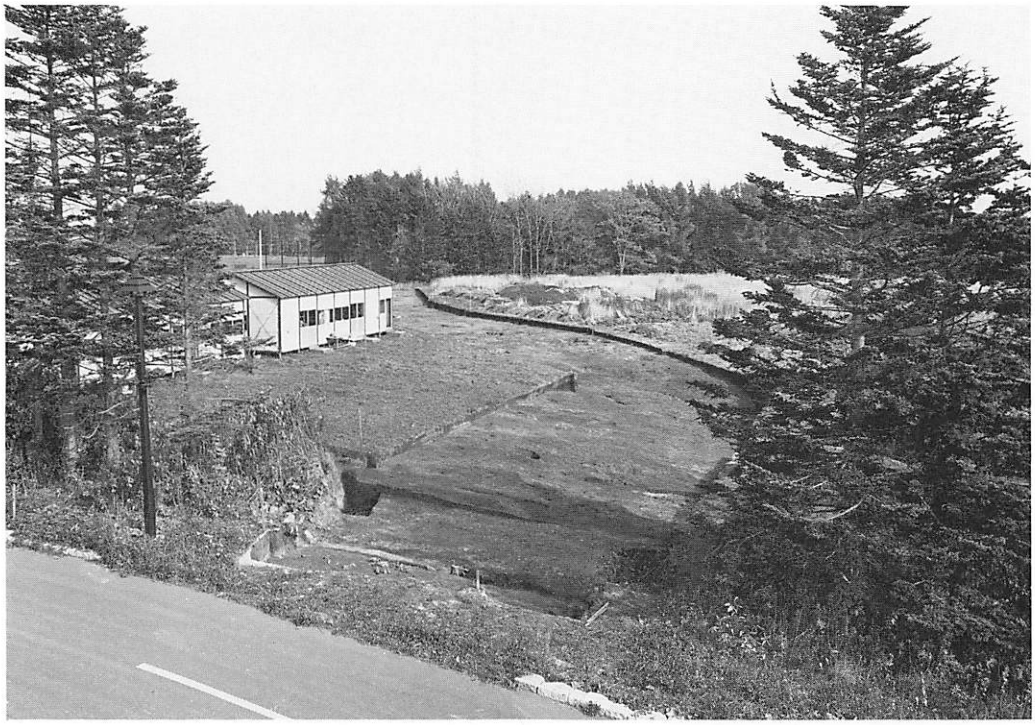
昭和59年度の調査



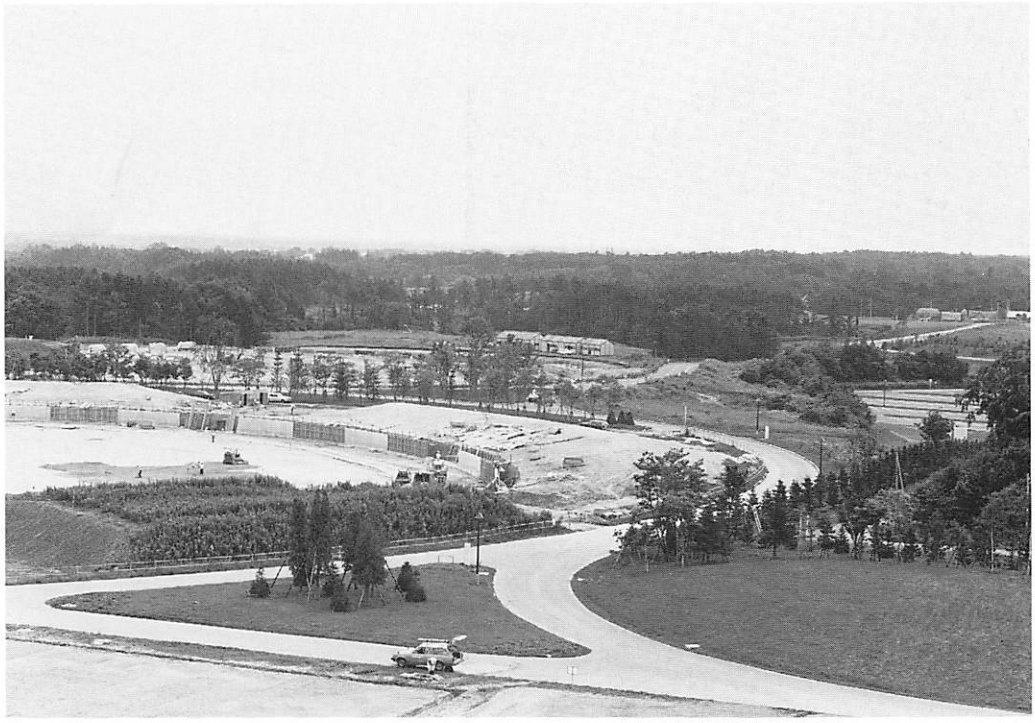
昭和60年度の調査

昭和61年度の調査

昭和62年度の調査



昭和63年度の調査



遺跡の遠景(昭和62年度)

Ⅱ　遺跡の位置と環境

西野幌12遺跡は、石狩平野の南東部、半島状に北側に向けて突出した野幌丘陵の東北部に位置する。札幌市内を貫流する豊平川と支笏湖に端を発して石狩川へと注ぐ千歳川に挟まれた丘陵で、標高50～100mの南北を軸とする背斜構造を持つ。このうち狭義には野津幌川と裏の沢川を結ぶ線以北が野幌丘陵と呼ばれている。本遺跡は丘陵の東側に「下学田面」と区分され、表層は元野幌粘土層に覆われている平坦面の縁辺に立地する。東側は沖積平野に面した標高18～30mの東に緩く傾斜した台地で、多くの湧水があり小沢により複雑に開析されている。そのような小流が本遺跡の西から南へ巡り、更に北上して同様な小河川「筋違川」と合流し早苗別川となり、江別太付近で千歳川に流れ込んでいる。旧夕張川との合流点から下流、石狩川との合流点である江別太に至る間の千歳川は河川改修以前は江別川と称されていた。ここでは河川がしばしば氾濫し、その流域には南北に長い低湿な泥炭原野である野幌原野が広がっていた。野幌の名の由来は永田方正氏の『北海道蝦夷語地名解』では、アイヌ語「ヌプル・ヲチ」（いつも濁っている処）とし、知里真志保氏の昭和29年版『駅名の起源』では、アイヌ語「ヌプ・オル・オ・ペッ」（野中の川）という二つの解がある。山田秀三氏は後者を取り、元来の位置を野津幌川の辺としている。また、早苗別川（サノユベ）について山田氏は北埋調報25『西野幌11遺跡』に寄せられた見解において、sana-yupe-ot（ot は下略）で〔浜（石狩川畔）の方にある・江別川〕であろうとしている。

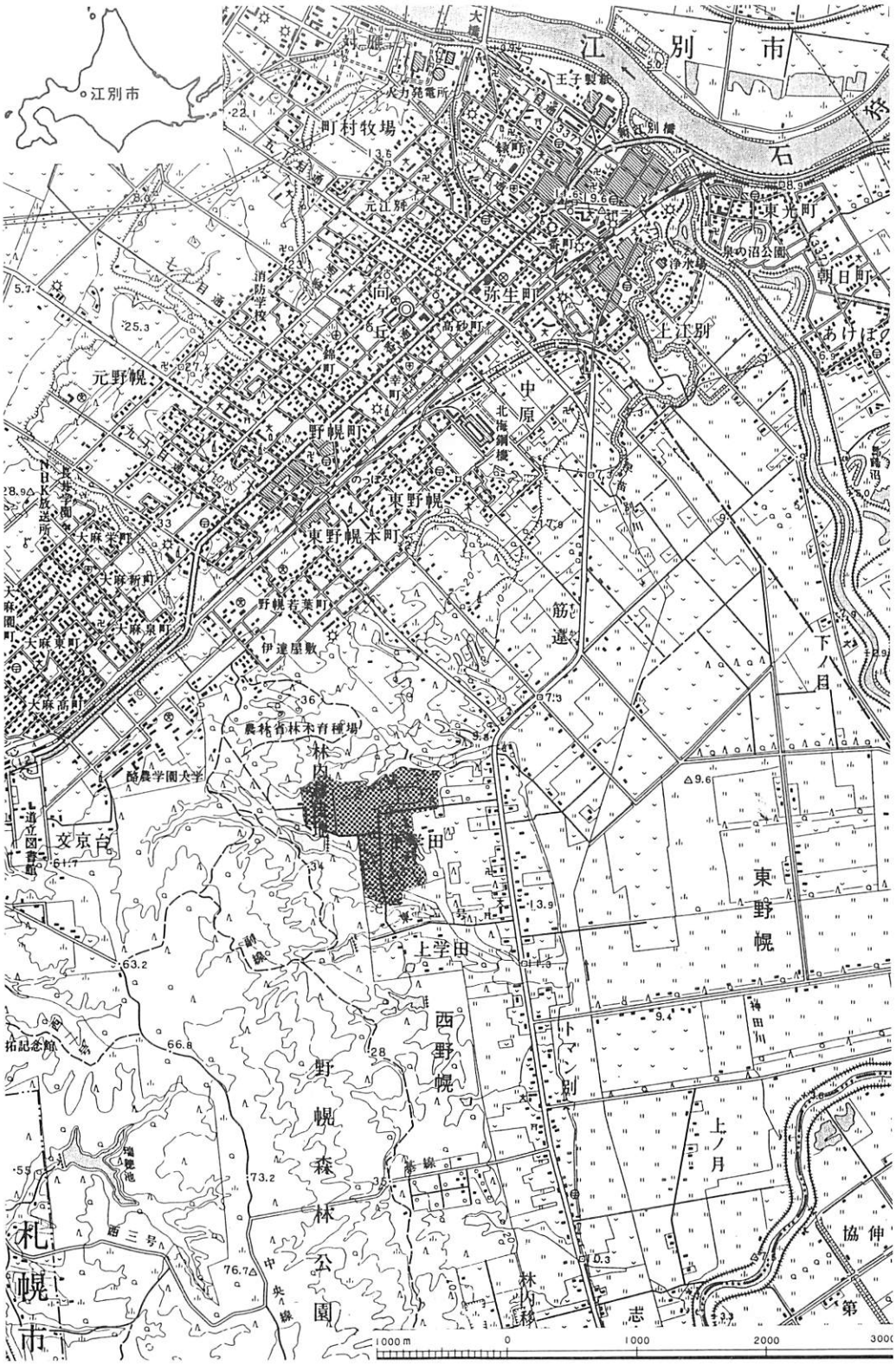
石狩平野から勇払平野に到る石狩―苫小牧低地帯は、風の通り道となりこの辺りの平均気温は札幌での測定よりやや低い。また、初夏には太平洋側から千歳川の川筋を通り霧が流れ込んでくる。野幌丘陵はトドマツを主体とする針葉樹林・針広混交林が広がり、冷温帯と亜寒帯との接点にある原始性の強い平地林として有名であり500種以上の植物がみられる。また、動物相も豊富で国の天然記念物クマゲラなど多数の野生動物が生息している。このうち20.4㎢が昭和43年に道立自然公園野幌森林公園に指定された。

付近は、古来から日本海と太平洋を結ぶルートと、石狩川を遡り内陸部に到るルートの分岐点にあたる。このため野幌丘陵は、先史時代には南と北の文化圏の接点になっていた重要な地点にといえよう。丘陵の周辺、及び複雑に開析された沢のそばに多数の遺跡が存在している。

道立野幌総合運動公園用地内の遺跡には、北東部に西野幌11遺跡、北部に西野幌13遺跡、北西部に下学田遺跡、西部に西野幌14遺跡、中央部南側に西野幌12遺跡（本遺跡）、東側に西野幌15遺跡、南部に西野幌16遺跡がある。何れも沢に面した台地の縁辺部に立地する。本遺跡は沢を挟んで西野幌15遺跡・西野幌16遺跡と相対する位置にあたる。

野幌には明治22年頃より北越殖民社が入植をはじめた。下学田は明治26、7年頃に入植があり、同時期、江別村学田地（小学校用地）に編入され、下学田・上学田の地名が現在も残っている。

遺跡の現況は西側と南東側が林地で、中央は草地である。草地部分は耕作により北側が削平され南側は凹凸が均されて平坦にされていた。



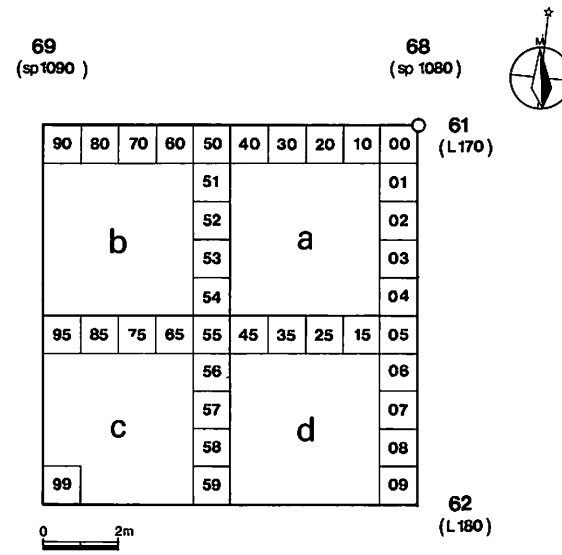
道立野幌総合運動公園用地の位置図

（この図は国土地理院発行　５万分の１地形図「江別」を複製・加筆したものである）

Ⅲ　発掘調査の方法

1．調査区の設定

道立野幌総合運動公園予定地には、道々江別―恵庭線と、道々野幌運動公園線の交点を基点とする直交座標が設定されており、これに基づいて40m毎のメッシュをかけた1：2,500地形図が発行されている。これが埋蔵文化財関係の協議や調査に際しても原図となったことは、既刊の報告書にも触れたとおりであり（北埋文1986、1988）、7年間に亘る西野幌12遺跡の発掘調査区も、この座標系に従って設定した。すなわち、真北に6°15′西偏する南北方向では、工事用のSP400を調査区の0、西方に10m移動したSP410を1と順次読みかえ、東西方向については、工事用のR440を0と決め、南方10mのR430を1、RとLの境界は44、L10を45という具合に定めた。グリッド名は、南北方向の番号を先に、東西方向のそれを後につづけて命名することにした。例えば、SP1080、L170の交点が発掘区の68―61杭となり、この杭を北東の一角にもつ10m区画が68－61区である。調査の際はさらに5×5m毎に4分割し、北東部の小グリッドから順に逆時計まわりにa～dと呼称して作業を進めた。また、柱穴などの記録や遺物の取り上げには、必要に応じて、図のように北東端の00から南西端の99に至る、1×1m毎の100分割した区画を利用した。なお、当地での磁針方位は、ほぼ西偏 8°30′であり、地形図等には、星印の真北と、Mを付した磁北とを併せて表示している。



68-61 Grid

2．層序

野幌総合運動公園用地内の遺跡群における基本的な層序は、既刊の報告書でも述べたように（北埋文1988）、相互に本質的な一致が認められ、以下の大別した4つの層からなる。

Ⅰ層　表土（耕作土）

Ⅱ層　黒色土（主要な遺物包含層で、遺構の掘り込み面もこの層にあると判断される）

Ⅲ層　褐色粘質土（漸移層）

Ⅳ層　黄褐色粘土（支笏軽石流堆積物起源の元野幌層と呼ばれる地層の一部）

西野幌12遺跡では、7年の調査期間中に、折り込みの土層断面図の左下の位置図に太線で示した部分について、それぞれ断面実測を実施した。層堆積は場所によって若干の相違があり、

それぞれ細分したが、基本層序に大差はない。南北方向の54ラインを丘陵上の一般的な例として、また一直線ではないが、56―92杭を挟む東西方向のラインを、層が厚く重なる沢地形の代表例として掲載し、以下に層名を列記する。なお、Ⅱ層黒色土中に、赤褐色の焼土層が濃密に介在する地区が少なからず認められたが、焼土層については、後章で具体的に報告する。

Ⅰ層（Ⅰａ）　暗褐色の耕作土。黄褐色粘土粒や黒色土粒などを混在させる。

Ⅰｂ層　やややわらかな黄茶褐色土。傾斜地に堆積した表層土である。

Ⅰｃ層　傾斜地にみられる表層土で、色調がやや不整に変化する褐色土。

Ⅱ層　黒色土。焼土を介在させたり、やや粘質の強い暗褐色土に変わる所もある。谷部分などでは、焼土主体のⅡｂ層を境に、上方のⅡａ層と下のⅡｃ層とに分層できる。なお、Ⅱ層直上に稀に残る火山灰については、後章で触れる。

Ⅱａ-1層　やや黄褐色がちな褐色土。比較的短期間の内に再堆積した土層らしい。

Ⅱａ-2層　やや暗茶褐色がちな褐色土。

Ⅱａ-3層　二次的に流れ込んだ焼土粒の含有が多い、赤茶褐色がちな褐色土。

Ⅱａ-4層　Ⅱａ-2層とほぼ同一な褐色土で、一部に暗黄褐色砂質土の混在がみられる。

Ⅱａ-5層　黄茶褐色がちな褐色土。焼土粒や木炭粒、土器片などの遺物をやや多量に混在させる。部分的に特に黄褐色がちな色調を呈する所がある。

Ⅱａ-6層　暗灰茶褐色がちな褐色土。炭粒や赤橙褐色焼土粒を点在させ、遺物の包含も多い。黄灰色粘土の小ブロックを介在させるところもみられる。

Ⅱｂ-1層　暗赤茶褐色土。厚さ1㎝弱の真黒色炭層を介在させる、赤茶褐色焼土がちな土層。土器片などの混在も認められる。

Ⅱｂ-2層　暗灰茶褐色土。若干の炭粒や少量の黄褐色粘土粒が点在している。

Ⅱｂ-3層　暗赤茶褐色砂質土。砂質状の焼土粒を混合する、やや堅くしまった土層。

Ⅱｃ-1層　やや暗灰褐色がちな、粘性に富んだ黒色土。上部に遺物が点在する。

Ⅱｃ-2層　暗灰色がちな黒褐色粘質土。

Ⅲ層（Ⅲａ）　褐色粘質土。堅くしまりがちな漸移層。氷楔に関連するらしい、暗灰褐色がちな汚れがつづく部分も少なからず認められる。

Ⅲｂ層　灰褐色粘質土。谷部分に厚く堆積した漸移層で、より粘性に富んでいる。

Ⅲｃ層　黄褐色粘質土。基盤の粘土層の上部が、暗褐色や黒褐色がちにシミ状に汚れた感じの層で、堅くしまっている。

Ⅳ層　淡黄褐色粘土。やや砂質がちで、粘性が強い。

以上のほか、実測図中に示した焼土や風倒木に伴う攪乱層、そして下記の攪乱層がみられた。

Ａ層　ごく最近の人為的な攪乱穴を埋める土層で、耕作土と黄褐色粘土が主体。

Ｂ層　木の根による攪乱層で暗褐色土主体。下方ほどボソボソとやわらかい。

Ｃ層　より古い木の根などによる攪乱層。黒色土主体で、下方ほど褐色がち。

Ｄ層　地下水の影響で変質したらしい、灰褐色がちの砂っぽくやわらかな粘土層。

3．遺物の分類

1) 土器

土器の分類は野幌総合運動公園用地内におけるこれまでの調査と同様、基本的に、大麻１遺跡（北埋文1981）や吉井の沢の遺跡群（北埋文1982）など、江別市内の調査、報告例における分類基準に従った。縄文時代草創期の０群土器および擦文時代に属するⅦ群土器は、西野幌12遺跡では検出されていない。

〈Ⅰ群〉　縄文時代早期に属する土器群

a類　貝殻腹縁圧痕文、条痕文のある土器群

b類　縄文、撚糸文、絡条体圧痕文、組紐圧痕文、貼付文等のある土器群

本遺跡の出土資料は、b－２類に細分されるコッタロ式に相当するものが主体である。

〈Ⅱ群〉　縄文時代前期に属する土器群

a類　縄文尖底土器群

b類　円筒土器下層式、植苗式、大麻Ⅴ遺跡出土資料などに相当するもの

〈Ⅲ群〉　縄文時代中期に属する土器群

a類　円筒土器上層式に相当するものなど前半期のもの

b類　a類に後続する土器群で、b－１、b－２、b－３類に細分される。

b－１類　天神山式に相当するもの

b－２類　柏木川式およびそれに併行するもの

b－３類　北筒式および煉瓦台式に相当するもの

〈Ⅳ群〉　縄文時代後期に属する土器群

a類　余市式、手稲砂山式、入江式などに相当するもの

b類　ウサクマイＣ式、船泊上層式、手稲式、鮏澗式に相当するもの

c類　堂林式に相当するもの

〈Ⅴ群〉　縄文時代晩期に属する土器群

a類　大洞Ｂ、ＢＣ式に相当するもの

b類　大洞C_1、C_2式に相当するもの

c類　大洞Ａ式などに相当するもの、タンネトウＬ式に類するもの

〈Ⅵ群〉　　続縄文時代の土器群

続縄文時代初頭の資料から後北式の後半期のものまでみられる

2) 石器

石器の分類は器種別の分類をおこない記号による細分は行っていない。剝片石器には石鏃、ポイントまたはナイフ、ドリル、つまみ付ナイフ、スクレイパー類の他に、U・Rフレイク（utilized flake とretouched flake）などがある。礫石器には石斧、敲石、くぼみ石、すり石、北海道式石冠、石錘、石鋸、砥石、石皿、台石などがある。この他、石核（コア）、剝片・砕片（フレイク・チップ）、原石などがある。

一覧表中の石器石材については、次の略称を用いた。

And.	(Andesite)	安山岩	Aga.	(Agate)	めのう
Aga-Sh.	(Agatized-Shale)	めのう質頁岩	Bas.	(Basalt)	玄武岩
Cla.	(Clayslate)	粘板岩	Che.	(Chert)	チャート
Gab.	(Gabbro)	斑糲岩	Gne.	(Gneiss)	片麻岩
Gra.	(Granite)	花崗岩	Gr. Po.	(Granite Porphyry)	花崗斑岩
Ha-Sh.	(Hard-Shale)	硬質頁岩	Mud.	(Mudstone)	泥岩
Obs.	(Obsidian)	黒曜石	Per.	(Peridotite)	橄欖岩
Phy.	(Phyllite)	千枚岩	Por.	(Porphyrite)	玢岩
Qua.	(Quartzite)	珪岩	Rhy.	(Rhyolite)	流紋岩
Sa.	(Sandstone)	砂岩	Sa. Mud.	(Sandy Mudstone)	砂質泥岩
Sch.	(Schist)	片岩	Ser.	(Serpentinite).	蛇紋岩
Sh.	(Shale)	頁岩	Si. Sh.	(Silicious Shale)	珪質頁岩
Si. Tu.	(Silicious Tuff)	珪質凝灰岩	Tu.	(Tuff)	凝灰岩

3) 土製品・石製品

土製品には土器片を利用した有孔・無孔の円盤、三角形土製品、土玉、棒状土製品、焼成粘土塊などがある。

石製品には有孔円盤、玉、垂飾とその未製品、環状石斧などがある。

Ⅳ　遺構

本遺跡は昭和57年度以来、毎年発掘調査が継続されてきた。検出された遺構は竪穴住居跡４軒、住居跡状遺構４基、土壙211基、Ｔピット11基、炉跡１基、小ピット・柱穴409基、フレイク・チップ集中47基、焼土が約786㎡である。各年度ごとの検出した遺構数は次のとおりである。57年度、土壙43基、Ｔピット２基。58年度、竪穴住居跡３軒、住居跡状遺構2基、土壙109基、Ｔピット６基、炉跡１基、小ピット・柱穴92個、焼土約５㎡。59年度、土壙９基、Ｔピット２基、焼土約６㎡。60年度、土壙９基、小ピット・柱穴15個、フレイク・チップ集中12ヶ所、焼土約256㎡。61年度、土壙４基、焼土約293.5㎡。62年度、住居跡状遺構２基、土壙25基、小ピット・柱穴279個、フレイク・チップ集中31ヶ所、焼土約195㎡。63年度、竪穴住居跡１軒、土壙12基、Ｔピット１基、小ピット・柱穴23個、フレイク・チップ集中４ヶ所、焼土約30㎡を検出している。

これらについて、可能な限り時期別、形態別に報告する。各々の遺構は検出順に番号が付されているため、実測図、写真、遺物の注記などにおける混乱を避け、遺構番号の変更は最小限にとどめることにした。そのため、本報告書における遺構の掲載順序は遺構番号とは関係なく、甚だ前後が入り乱れたものとなった。そこでインデックスを兼ねて次の表を参照されたい。

１．縄文早期の遺構

縄文早期の遺構には、竪穴住居跡１軒（Ⅱ－３）、土壙３基（Ｐ－141・67・99）がある。

番号	掲載頁	時期	遺構名	位置	平面形	確認面(cm) 長径×短径		底面(cm) 長径×短径		深さ(cm)	調査年度 昭和
1		縄文早期	H-3	59·60-89·90	隅丸方形	572	562	558	548	17	58
2		縄文早期	P-141	60-91	円形	82	80	58	52	12	58
3		縄文早期	P-67	66-68	楕円形	63	55	51	45	9	58
4		縄文早期	P-99	60-91	不整円形	80	70	95	95	58	58
5		縄文中期	H-1	59-90	楕円形	368	314	324	300	17	58
6		縄文中期	H-2	59-90	楕円形	380	270	346	238	18	58
7		縄文中期	H-5	57-90·91						30	63
8		縄文中期	H-4	53-87	円形	274		256		18	62
9		縄文中期	P-193	57-85·86	不整円形	200	190	155	180	20	62
10		縄文中期	P-155	59-91	楕円形	290	190	240	154	45	58
11		縄文中期	P-143	59-86	不整楕円形	250	170	218	146	20	58
12		縄文中期	P-52	62-73	楕円形	166	127	159	120	11	58
13		縄文中期	P-97	60-79	不整形	190	120	155	100	16	58
14		縄文中期	P-131	59-81	楕円形	138	88	120	65	15	58
15		縄文中期	P-119	59·60-83	楕円形	157	106	110	50	20	58
16		縄文中期	P-123	60-83	不整楕円形	153	112	130	100	10	58
17		縄文中期	P-190	54-86	楕円形	160	100	145	76	17	62
18		縄文中期	P-152	60-90	楕円形	158	107	140	100	17	58
19		縄文中期	P-184	46-83	不整楕円形	158	110	136	82	22	61
20		縄文中期	P-126	59·60-86	楕円形	138	85	90	60	40	58
21		縄文中期	P-186	52-87	楕円形	128	63	118	55	20	62
22		縄文中期	P-183	44-84	長円形	140	56	126	54	14	61
23		縄文中期	P-187	57-85	楕円形	120	75	45	67	30	62

遺構一覧表(1)

番号	掲載頁	時期	遺構名	位置	平面形	確認面(cm) 長径×短径		底面(cm) 長径×短径		深さ (cm)	調査年度 昭和
24		縄文中期	P-191	57-85	楕円形	95	35	90	30	7	62
25		縄文中期	P-189	58-84	楕円形	85	50	62	24	43	62
26		縄文中期	P-147	59-89	楕円形	85	54	64	38	28	58
27		縄文中期	P-161	59-91	楕円形	120	58	108	50	10	58
28		縄文中期	P-135	60-91	楕円形	150	90	141	75	50	58
29		縄文中期	P-222	56・57-91	楕円形	186	130	172	103	24	63
30		縄文中期	P-220	57-90	不整円形	141		122		14	63
31		縄文中期	P-221	57-90	不整円形	147		126		8	63
32		縄文中期	P-216	57-91	不整円形	112	106			6	63
33		縄文中期	P-217	57-91	楕円形	123	90	58	51	10	63
34		縄文中期	P-218	58-90・91	楕円形	113	79	67	65	10	63
35		縄文中期	P-215	57-91	楕円形	104	72	90	45	17	63
36		縄文中期	P-214	57-91	楕円形	92	51	33	25	10	63
37		縄文中期	P-142	59-85	楕円形	118	93	88	68	42	58
38		縄文中期	P-198	50-88	楕円形	90	70	65	45	40	62
39		縄文中期	P- 86	63-71	円形	80	70	55	47	40	58
40		縄文中期	P-185	47-87	円形	103	100	70	67	36	62
41		縄文中期	P-212	50-88	不整円形	141	124	11	90	38	63
42		縄文中期	P-211	52-88	円形	90	87	78	72	20	63
43		縄文中期	P-219	56・57-90・91	円形	128	120	111	105	15	63
44		縄文中期	P-163	66-63	円形	82	71	65	54	17	59
45		縄文中期	P-199	50-88	円形	78	63	57	45	17	62
46		縄文中期	P-200	50-88	卵形	100	76	86	68	15	62
47		縄文中期	P-117	60-82・83	円形	100	92	89	81	15	58
48		縄文中期	P-132	61-82	円形	78	78	64	58	16	58
49		縄文中期	P-188	57-84	不整円形	45	39	31	25	5	62
50		縄文中期	P-144	59-86	円形	82	80	77	72	10	58
51		縄文中期	P-148	59-89	楕円形	112	85	98	70	9	58
52		縄文中期	P-162	59・60-91	楕円形	94	70	63	50	8	58
53		縄文中期	P-136	60-91	不整円形	71	62	47	40	12	58
54		縄文中期	P- 84	64-70	楕円形	190	47	180	35	7	58
55		縄文中期	P-194	57-85	楕円形	68	44	45	32	10	62
56		縄文中期	P- 92	61-79	楕円形	69	52	51	34	16	58
57		縄文中期	P-111	59-88	楕円形	88	60	45	28	22	58
58		縄文中期	P-172	59-82	円形	66	62	41	39	20	60
59		縄文中期	P-173	59-82	円形	35	30	20	18	13	60
60		縄文中期	P-113	60-82	円形	51	43	41	35	19	58
61		縄文中期	P-109	61-82	円形	62	61	56	50	20	58
62		縄文中期	P-124	60-83	円形	48	42	44	39	20	58
63		縄文中期	P-127	60-84	円形	56	45	48	41	12	58
64		縄文中期	P-145	60-85	円形	50	43	35	28	15	58
65		縄文中期	P-137	59-85	円形	38	30	26	23	15	58
66		縄文中期	P-140	59-85	円形	45	38	33	27	13	58
67		縄文中期	P-154	59-86	円形	45	42	38	27	20	58
68		縄文中期	P-157	58-86	円形	53	42	44	33	20	58
69		縄文中期	P-159	60-81	円形	43	42	32	30	20	58
70		縄文中期	P-125	60-83	円形	43	43	36	34	19	58
71		縄文中期	P-192	57-84	円形	45	40	34	30	15	62
72		縄文中期	P-196	55-87	円形	42	38	30	28	7	62
73		縄文中期	P-197	56-86	円形	45	42	37	30	7	62
74		縄文中期	P-195	55-87	円形	53	47	40	34	12	62
75		縄文中期	P-206	50-88	溝状	77	13	78	6	28	62

遺構一覧表(2)

番号	掲載頁	時　期	遺構名	位　置	平　面　形	確認面(cm) 長径×短径		底　面(cm) 長径×短径		深さ (cm)	調査年度 昭和
76		縄文中期	P-204	50-88	溝　状	92	14	85	8	14	62
77		縄文中期	P-205	50-88	溝　状	88	15	80	8	14	62
78		縄文中期	P-209	54-86	溝　状	91	32	74	11	26	62
79		縄文中期	P-207	54-86	溝　状	98	14	90	8	13	62
80		縄文中期	P-208	54-86	溝　状	100	38	85	11	27	62
81		縄文中期	P-201	54-87	溝　状	87	21	84	11	17	62
82		縄文中期	P-202	54-87	溝　状	86	19	70	11	13	62
83		縄文中期	P-203	54-87	溝　状	90	32	73	24	15	62
84		縄文中期	P-210	55-88	溝　状	53	22	38	13	18	62
85		縄文中期	P-213	51-88	溝　状	82	42	61	25	24	63
86		縄文晩期	P-181	58-83	円　形	59	50			19	61
87		縄文晩期	P-134	59-82	楕円形	69	52	40	35	31	58
88		縄文晩期	P-158	59-85	円　形	58	48	42	28	20	58
89		縄文晩期	P-121	60-83	円　形	61	52	56	47	31	58
90		縄文晩期	P-150	59-89	円　形	38	33	25	22	12	58
91		縄文晩期	P- 96	60-77	円　形	72	70	41	40	18	58
92		縄文晩期	P- 95	60-77	楕円形	62	52	44	36	9	58
93		縄文晩期	P- 94	60-77	円　形	70	62	28	22	22	58
94		縄文晩期	P- 93	60-77	楕円形	74	55	57	35	10	58
95		縄文晩期	P- 90	59・60-78	円　形	47	46	25	23	8	58
96		縄文晩期	P-129	59-81	円　形	70	68	59	52	10	58
97		縄文晩期	P-130	59-81	円　形	75	73	50	47	19	58
98		縄文晩期	P-103	60-81・82	円　形	107	89	92	68	22	58
99		縄文晩期	P-114	60-8 2	円　形	106	105	90	67	23	58
100		縄文晩期	P-175	59-83	円　形	35	33	13		20	60
101		縄文晩期	P-174	59-83	円　形	73	72	48	45	12	60
102		続縄文	P- 26	70-68	円　形	136	124	100	96	51	57
103		続縄文	P- 50	66-67	楕円形	80	52	68	40	12	58
104		続縄文	P- 81	64-70	円　形	80	73	60	58	30	58
105		続縄文	P- 22	69-68	円　形	130	120	108	95	58	57
106		続縄文	P- 21	70-69・70	円　形	145	142	102	98	50	57
107		続縄文	P- 23	70-70	円　形	142	130	105	133	52	57
108		続縄文	P- 28	70-70	不整円形	138	116	80	72	21	57
109		続縄文	P-166	66-64	円　形	75	75	58	52	7	59
110		続縄文	P- 2	68-65	円　形	73	71	60	56	15	57
111		続縄文	P- 32	70-65	円　形	61	56	48	44	12	57
112		続縄文	P- 29	68-65	円　形	82	80	64	68	20	57
113		続縄文	P- 30	69-65	円　形	65	64	60	46	17	57
114		続縄文	P- 5	69-66	円　形	64	60	51	43	20	57
115		続縄文	P- 33	69・70-66	円　形	80		75		32	57
116		続縄文	P- 10	70-67	円　形	125	120	76	72	55	57
117		続縄文	P- 11	70-67	円　形	135	128	107	94	46	57
118		続縄文	P- 12	70-67	円　形	90	80	71	66	25	57
119		続縄文	P- 14	69-66	円　形	135	125	80	50	53	57
120		続縄文	P- 15	69-66・67	円　形	110	98	76	50	45	57
121		続縄文	P- 16	69-67	円　形	103	100	90	72	22	57
122		続縄文	P- 20	70-67	円　形	111	105	80	65	55	57
123		続縄文	P- 34	70-67	円　形	110	102	70	64	34	57
124		続縄文	P- 37	70-67	円　形	135	127	103	91	30	57
125		続縄文	P- 27	70-68	円　形	120	103	100	100	20	57
126		続縄文	P- 8	70-68	円　形	89	80	53	48	25	57
127		続縄文	P- 38	70-69	円　形	105	97	82	59	26	57

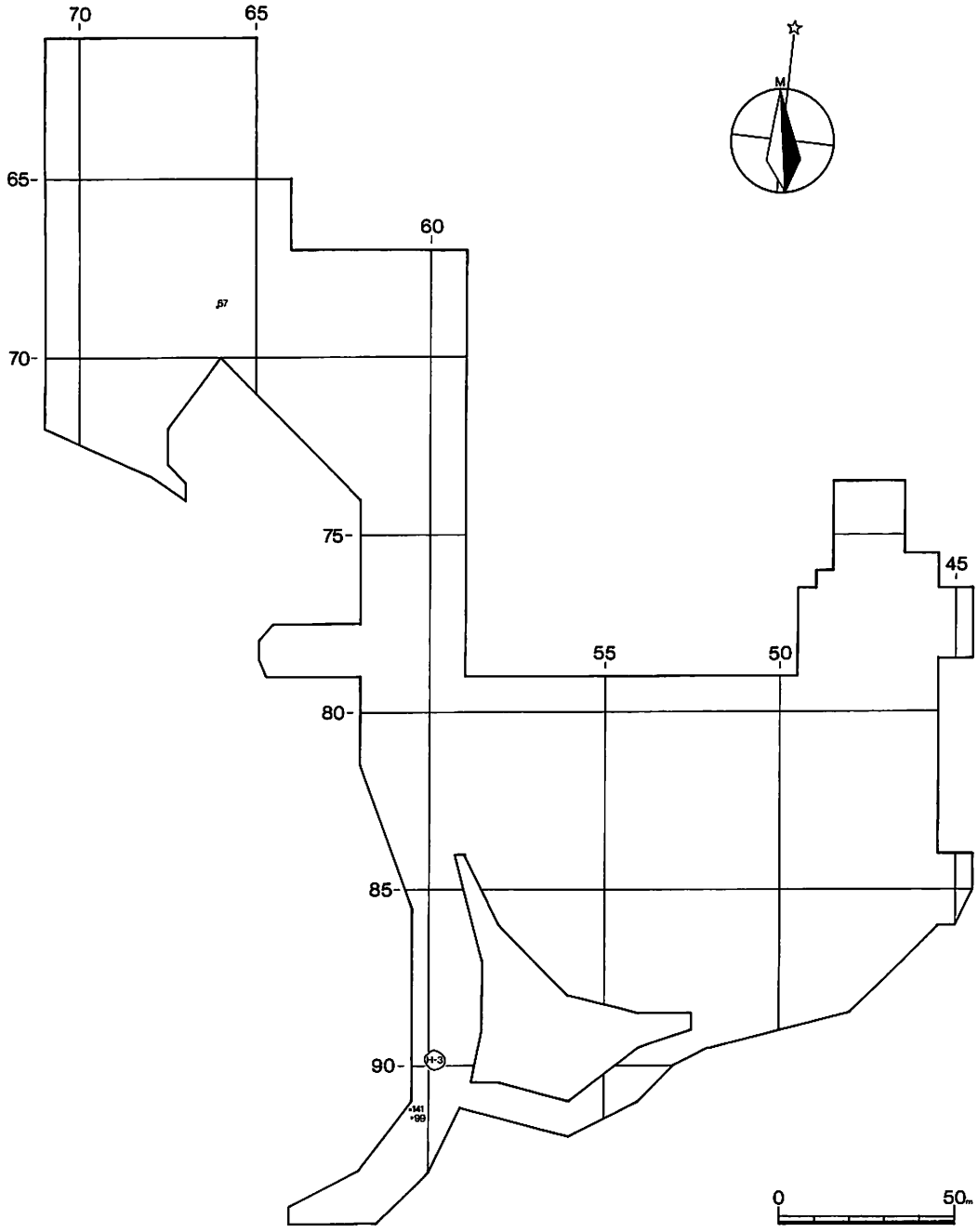
遺構一覧表(3)

番号	掲載頁	時期	遺構名	位置	平面形	確認面(cm) 長径×短径		底面(cm) 長径×短径		深さ(cm)	調査年度 昭和
128		縄文	P-39	70-69	円形	121	100	95	85	27	57
129		縄文	P-56	67-66	円形	60	58	42	40	12	58
130		縄文	P-63	67-67	円形	86	78	73	64	38	58
131		縄文	P-66	66-68	円形	93	85	75	65	41	58
132		縄文	P-48	65-69	円形	90	80	60	50	38	58
133		縄文	P-49	64-69	円形	73	71	63	62	40	58
134		縄文	P-167	65-63	不整形	95		85		15	59
135		縄文	P-164	66-63	円形	85	76	70	54	16	59
136		縄文	P-165	66-63	楕円形	82	63	63	50	14	59
137		縄文	P-1	68-64	円形	63	56	48	45	30	57
138		縄文	P-31	68-65	円形	104	90	74	62	13	57
139		縄文	P-3	68-65	円形	90	90	72	67	20	57
140		縄文	P-9	68-66	円形	116	107	100	90	40	57
141		縄文	P-6	69-66	円形	69	65	62	59	22	57
142		縄文	P-7	69-66	円形	76	67	64	59	27	57
143		縄文	P-13	70-66	円形	68	67	49	45	22	57
144		縄文	P-45	70-67	円形	80	78	67	52	40	57
145		縄文	P-43	68-67	円形	112	90	88	63	45	57
146		縄文	P-17	68-67	円形	68	65	54	50	34	57
147		縄文	P-18	68-67	円形	76	73	66	64	42	57
148		縄文	P-19	68-67	円形	80	80	70	60	55	57
149		縄文	P-41	68-67	円形	82	73	72	53	25	57
150		縄文	P-42	68-67	円形	83	82	68	66	32	57
151		縄文	P-24	68-67	円形	93	85	84	77	32	57
152		縄文	P-25	69-68	不整円形	83	74	65	55	30	57
153		縄文	P-36	70-68	円形	67	62	48	43	21	57
154		縄文	P-54	67-66	円形	95	91	53	50	30	58
155		縄文	P-55	67-66	円形	76	67	70	55	13	58
156		縄文	P-57	67-66	楕円形	76	60	54	48	16	58
157		縄文	P-58	66-66	円形	66	62	60	50	13	58
158		縄文	P-53	67-65	円形	93	89	53	52	20	58
159		縄文	P-60	66-67	円形	60	53	49	38	20	58
160		縄文	P-101	61-69	楕円形	135	98	112	87	25	58
161		縄文	P-51	66-67	円形	94	91	73	73	17	58
162		縄文	P-61	66・67-67	円形	77		56		20	58
163		縄文	P-62	66-67	円形	84	78	70	60	22	58
164		縄文	P-170	64-67	円形	78	69	68	55	10	58
165		縄文	P-169	64-67・68	円形	78	67	65	52	8	58
166		縄文	P-64	66-67	円形	71	65	54	47	27	58
167		縄文	P-171	64-66	不整円形	54	52	48	40	8	58
168		縄文	P-68	66-69	円形	71	69	57	55	10	58
169		縄文	P-72	66-68	円形	85	82	49	49	32	58
170		縄文	P-69	65-69	円形	68	68	55	50	35	58
171		縄文	P-47	65-69	円形	95	83	82	72	35	58
172		縄文	P-76	65-69	円形	75	70	49	38	24	58
173		縄文	P-82	65-69	円形	85	75	51	45	39	58
174		縄文	P-78	64-69	円形	69	60	44	40	39	58
175		縄文	P-85	64-69	楕円形	64	51	53	43	12	58
176		縄文	P-79	65-69	円形	90	78	78	65	21	58
177		縄文	P-44	64-70	円形	80	72	61	55	36	58
178		縄文	P-40	64-70	円形	78		56		46	58
179		縄文	P-75	65-70	円形	75	69	59	53	9	58

遺構一覧表(4)

番号	掲載頁	時期	遺構名	位置	平面形	確認面(cm) 長径×短径		底面(cm) 長径×短径		深さ(cm)	調査年度 昭和
180		縄文	P-80	65-70	円形	78	72	69	64	32	58
181		縄文	P-73	65-70	円形	67	64	53	52	15	58
182		縄文	P-91	64-70	円形	68	61	50	40	15	58
183		縄文	P-83	64-70	円形	67	64	64	59	9	58
184		縄文	P-156	64-70	円形	78	70	55	50	25	58
185		縄文	P-102	60-81	円形	102	96	78	68	37	58
186		縄文	P-104	60-81	円形	85	76	70	64	20	58
187		縄文	P-106	60-82	円形	80	75	58	54	40	58
188		縄文	P-107	60-82	円形	98	92	73	68	43	58
189		縄文	P-108	61-82	円形	90	80	66	58	15	58
190		縄文	P-112	60-82	円形	85	85	70	68	25	58
191		縄文	P-115	60-82	円形	83	79	64	62	20	58
192		縄文	P-116	60-83	円形	95	91	70	63	22	58
193		縄文	P-120	60-83	円形	77	71	59	52	19	58
194		縄文	P-118	60-83	円形	85	80	75	65	30	58
195		縄文	P-122	60-85	円形	90	88	77	75	24	58
196		縄文	P-138	59-85	円形	58	51	34	32	6	58
197		縄文	P-71	65-69	楕円形	112	78	80	40	32	58
198		縄文	P-4	70-65	楕円形	92	70	70	56	11	57
199		縄文	P-35	70-67・68	卵形	68	60	54	40	18	57
200		縄文	P-59	66・67-67	卵形	70	65	54	46	13	58
201		縄文	P-65	66-67	楕円形	74	58	58	45	10	58
202		縄文	P-77	65-68	楕円形	115	77	91	62	22	58
203		縄文	P-70	66-68・69	楕円形	60	52	38	32	30	58
204		縄文	P-46	65-69	楕円形	75	61	68	45	12	58
205		縄文	P-87	65-69・70	楕円形	63		43		10	58
206		縄文	P-74	65-70	円形	85	70	60	48	9	58
207		縄文	P-105	60-82	楕円形	87	70	60	53	20	58
208		縄文	P-139	59-85	楕円形	65	49	50	35	10	58
209		縄文	P-133	61-82	円形	80	72	91	81	32	58
210			P-128	59-83	円形	46	40	30	25	23	58
211			P-180	59-81	円形	45	45	25	23	27	60
212			P-176	59-83	円形	40	37	13	11	13	60
213			P-178	59-81	円形	60	55	35	32	23	60
214			P-177	59-81	円形	51	49	31	29	11	60
215			P-168	65-66	不整円形	76	68	60	60	10	59
216			P-160	59-90	楕円形	68	56	40	35	7	58
217			P-110	59-85	円形	63	55	52	50	8	58
218			P-179	58-82	円形	60	57	44	42	17	60
219			P-182	45-84	楕円形	125	92	50	42	40	61
220		縄文	TP-8	59-88	小判形	114	59	82	40	71	58
221		縄文	TP-9	59-89	小判形	132	83	108	35	133	58
222		縄文	TP-11	57-90	小判形	120	88	106	40	97	63
223		縄文	TP-1	70-68	溝状	205	40	198	17	71	57
224		縄文	TP-2	69-69	溝状	222	29	220	16	50	57
225		縄文	TP-7	66-71	溝状	178	49	183	20	78	59
226		縄文	TP-6	63-78	溝状	232	48	248	20	80	59
227		縄文	TP-4	61-81・82	溝状	310	55	315	16	82	58
228		縄文	TP-5	60-90	溝状	210	49	180	16	80	58
229		縄文	TP-3	59-90	溝状	210	26	200	5	85	58
230		縄文	TP-10	59-90・91	溝状	214	14	214	10	70	58
231		縄文	炉跡	60-90	楕円形	63	48	41	32	10	58

遺構一覧表(5)



縄文早期の遺構位置図

H－3

調査区南側の59－89区に位置する。隅丸方形を呈し、中央に直径約１ｍを測る円形の浅い付属ピットを有する。床面はⅣ層に掘込まれている。主柱穴と考えられる東・南・西の小ピットの間隔は約2.5ｍだが、北側のものはやや西によっており等間隔をなさない。炉は検出されなかった。土器は中央のピットに集中して約140片遺存していたほか、床面の北西側に約40片、南東側に約80片が見出された。いずれもⅠ群ｂ－２類に属する土器で、色調は一般に黄赤褐色がち、比較的薄手で焼成は堅緻である。１は沈線文をもつ口縁片で、口唇部にも刻みが１つ残されており、裏面には貝殻条痕文がみられる。２～４の口唇部には、縄による刻みが加えられている。５～12は刻みのある細めの貼付文が付された胴部破片。13は摩耗のためはっきりしないが口縁部と思われる。22の底部内面には小さな突起がある。このような突起の縄文早期の類例は、登別市川上Ｂ遺跡に求められる(北埋文1983)。2～4、８～23、26が中央のピット出土、他は床面。23は頁岩を素材にしたつまみ付ナイフで床面から出土した。中央が欠損している。つまみ部と刃部の重さは各々1.4gと2.1gである。他に黒曜石剥片が２点出土した。

P－141

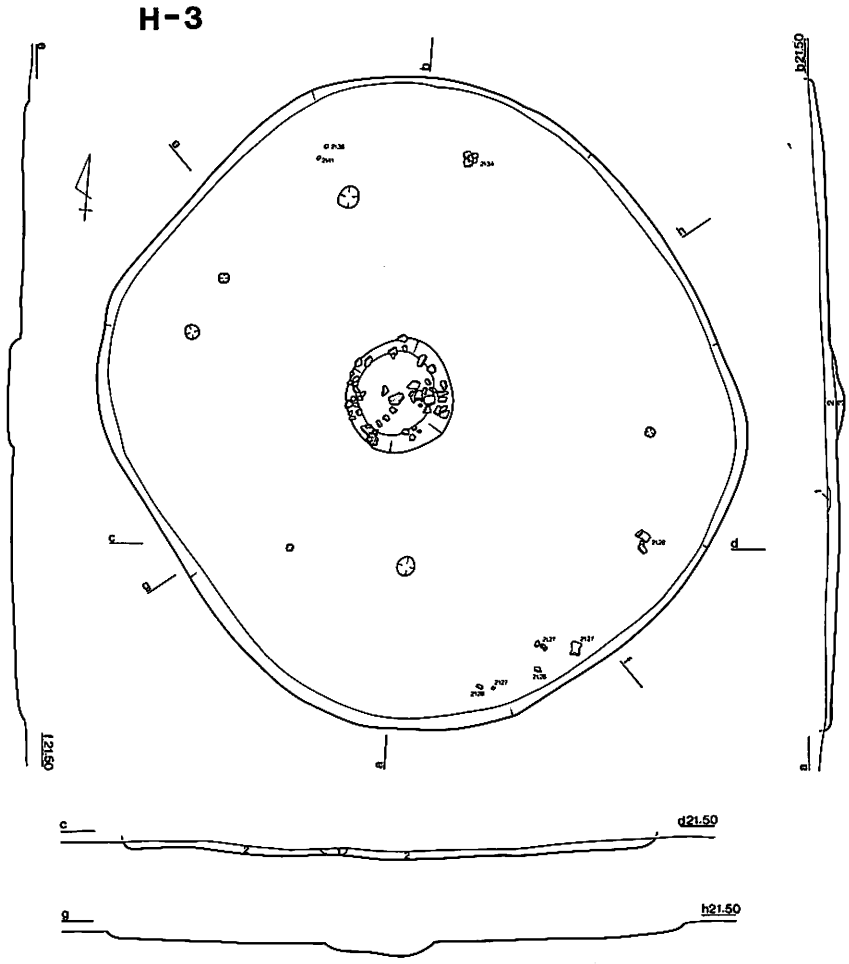
Ｈ－３の南南東に約12ｍ離れた60－91区に位置する。壙底はⅣ層の上面に掘込まれている。ピットの周囲から同一個体の土器が出土したことや、南側に柱穴様の小ピットが検出されたことなど、Ｈ－３と同様な中央部に付属ピットを持つ竪穴住居跡であった可能性も考えられる。その場合、床面はⅢ層中にあったと思われる。出土した土器はいずれもⅠ群ｂ－2類に属するもので、その数816点程。１～４は２本のやや太めの貼付文をめぐらせた口縁片で、貼付文および口唇上には縄による刻みが加えられている。５～13の貼付文も縄による刻みを有し、４～６の口唇上の刻みは棒状工具によるもの。14～16には細めの、刻みのある貼付文が付加されている。17～19には斜位の、20～22には羽状縄文の境界に配された横位の縄端による刺突文列がみられる。24～32には絡条体圧痕文が加えられている。33・34は羽状縄文を地文とする胴部片。35～39は外側へやや張り出す形状の平底の底部片で、35には短縄文がみられる。40は有孔円盤の未成品で、ボタン状の貼瘤が付された土器片を利用し、表と裏の両側から穿孔を加えているが貫通はしていない。49は厚みのある黒曜石のＲフレイク。他に黒曜石剥片が17点出土した。

P－67

調査区の北側、66－68区に位置する。上部は風倒木痕により攪乱を受けている。表面の摩耗したⅠ群ｂ－２類の土器片が検出された事や、掘込みの深いことなどから縄文早期の土壙と推定したが、周囲に続縄文期の土壙の多い地区であり、確実ではない。

P－99

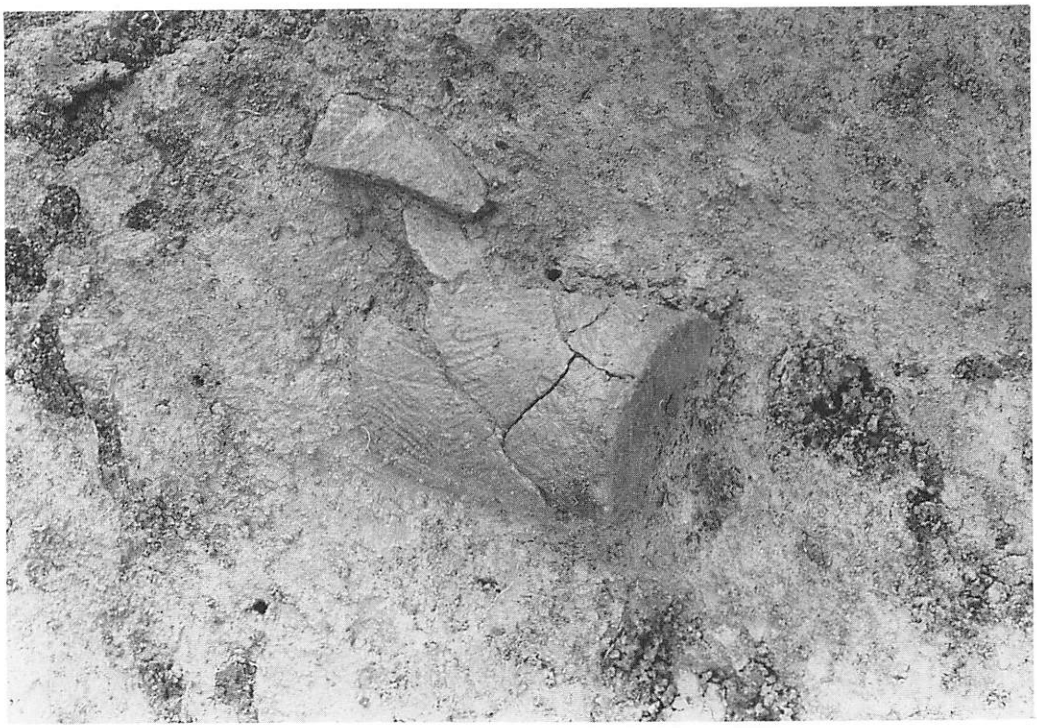
Ｐ－141の南約2ｍの60－91区で検出された。壙底部の大きい袋状である。覆土の上部からⅢ群の土器が出土している。１～４は、斜行縄文を地文とする土器の胴部片で、１には半截竹管を利用した縦位の押引文が、２には平篦的な工具による、やや左下がりの刺突文列がみられる。他に黒曜石剥片１点、礫９点が出土した。



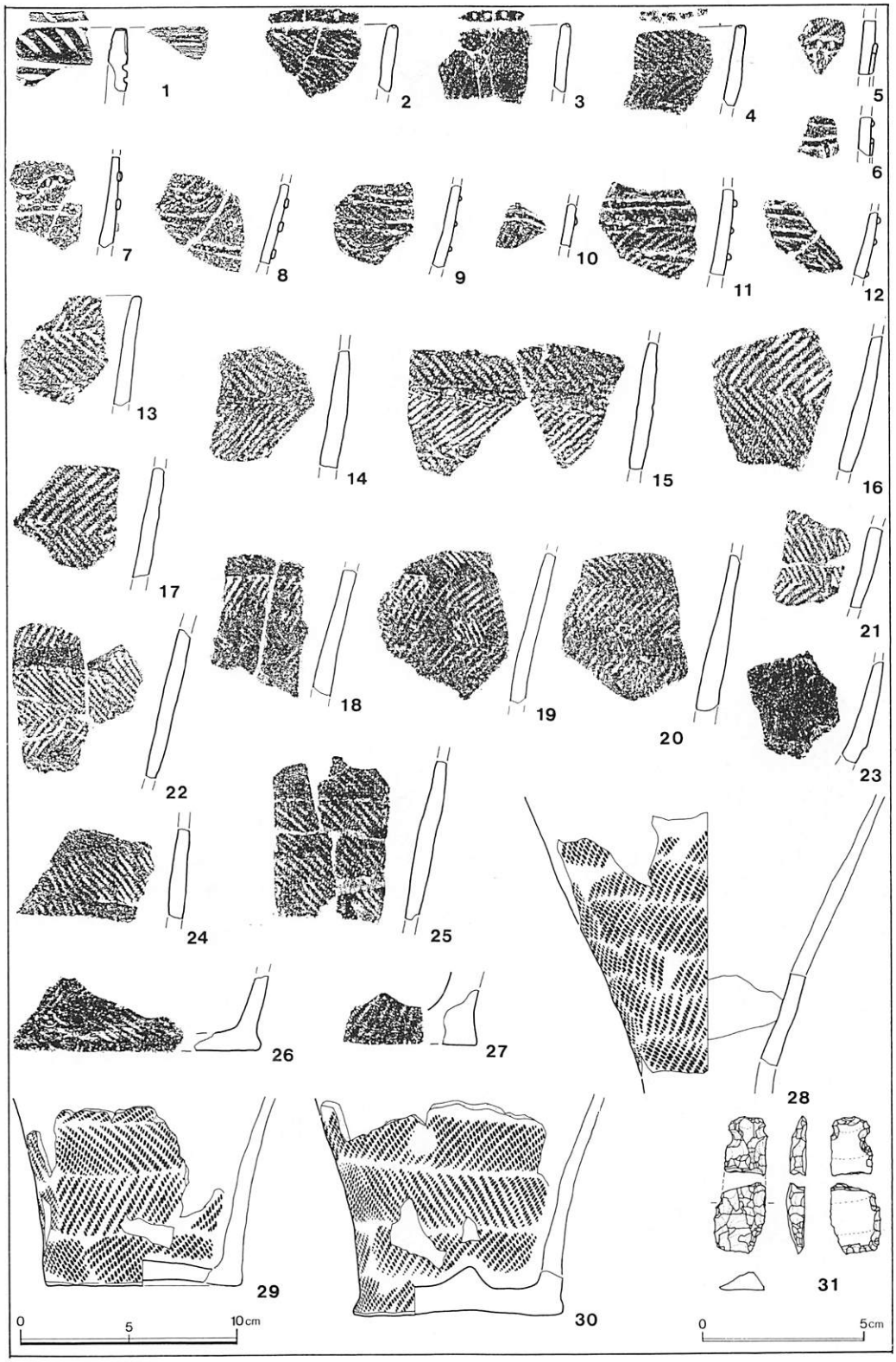
1．黒褐色土
2．茶褐色土
3．暗茶褐色土

0 1m

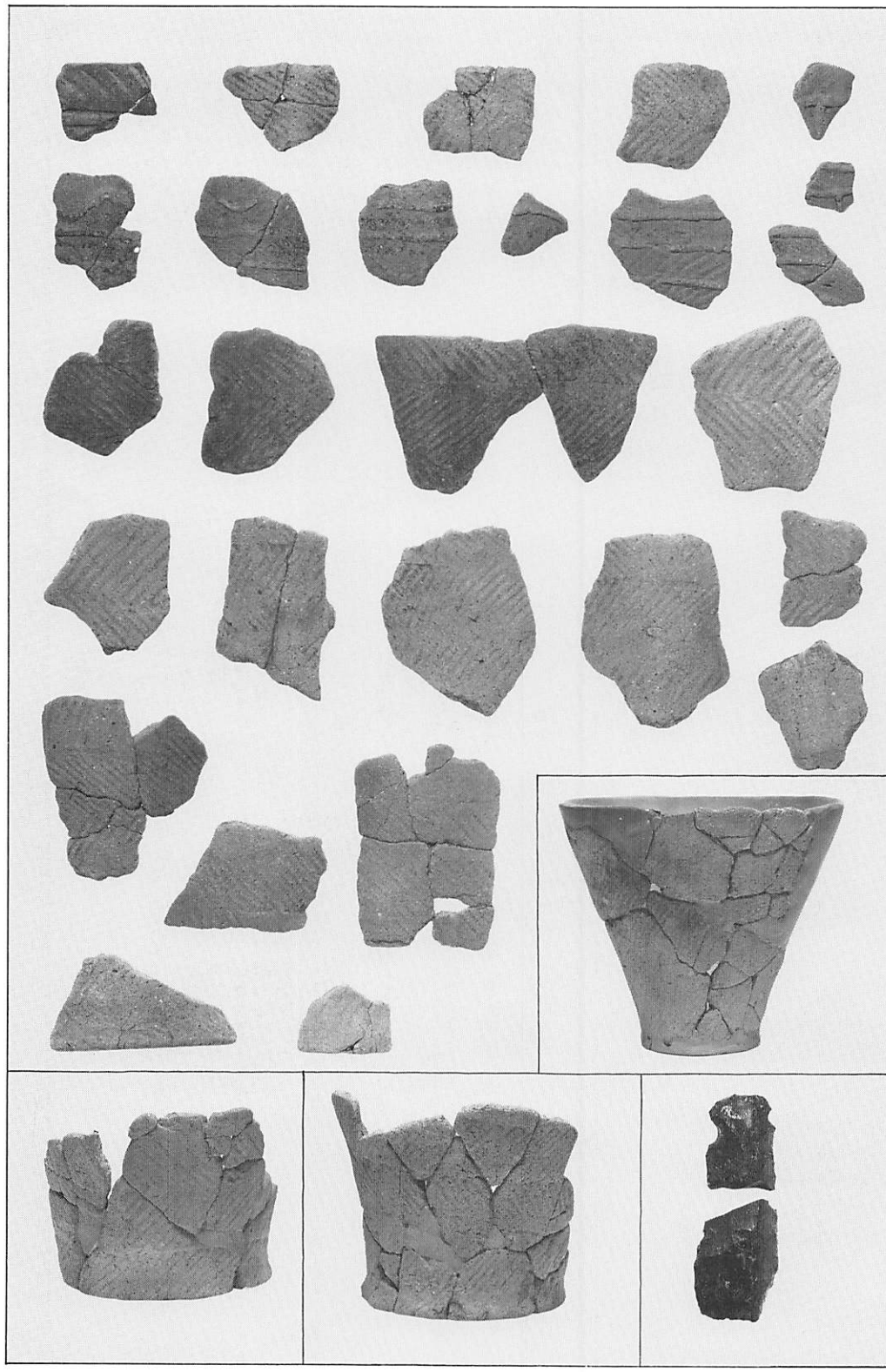
H—3



土器出土状況

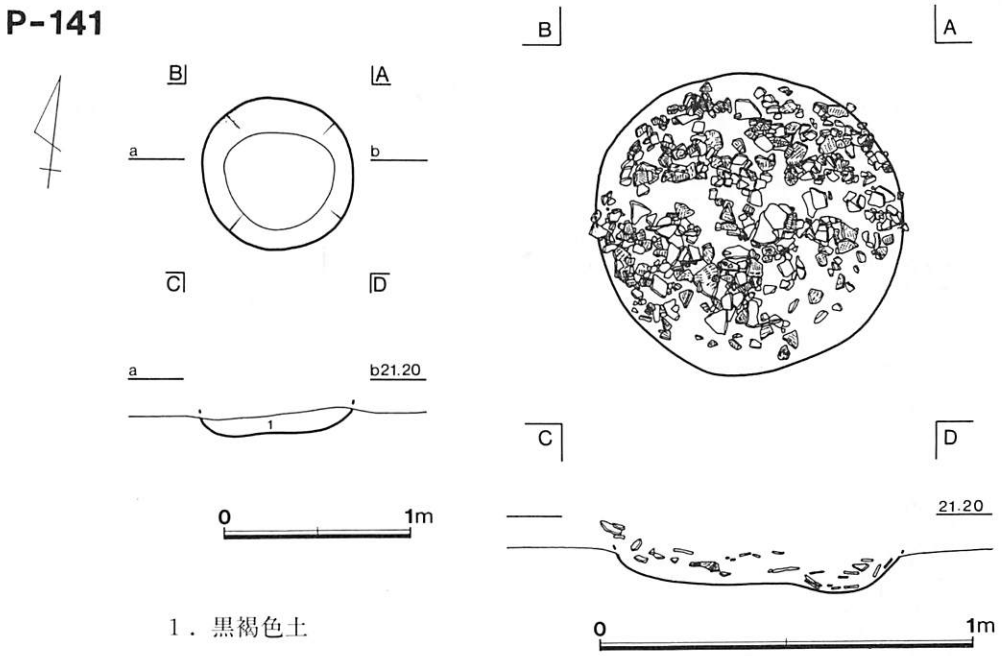

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
0
5
10cm
0
5cm

H－3の出土遺物

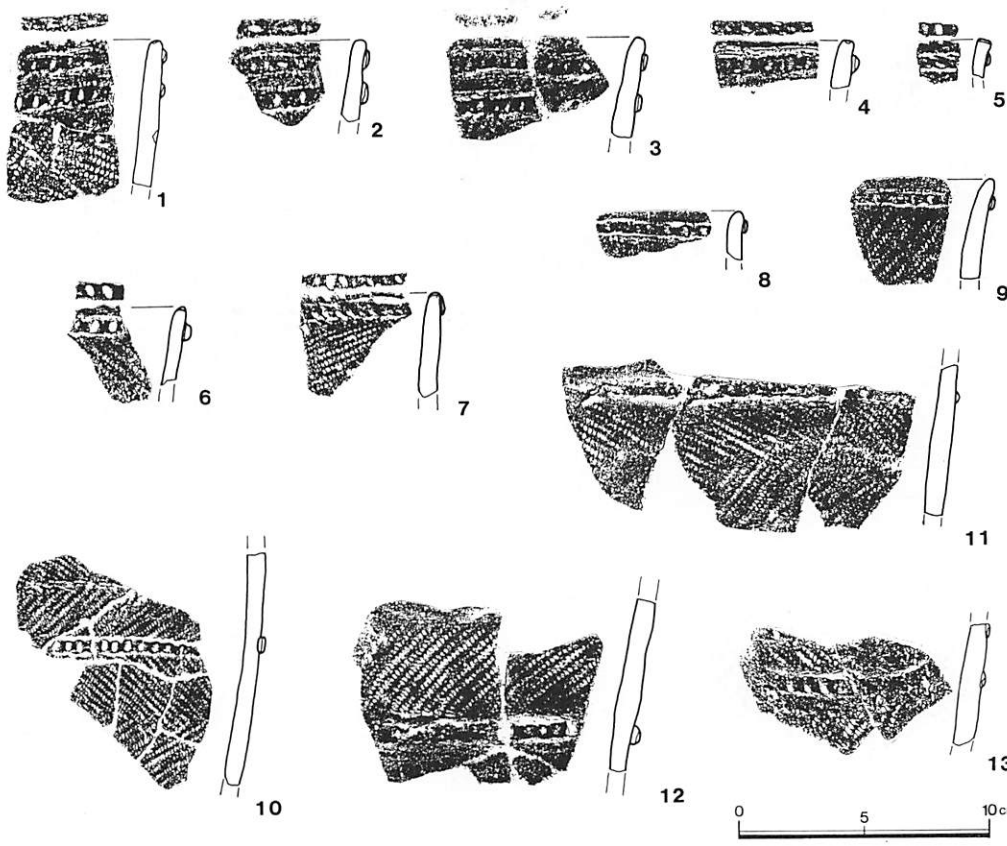


H－3の出土遺物

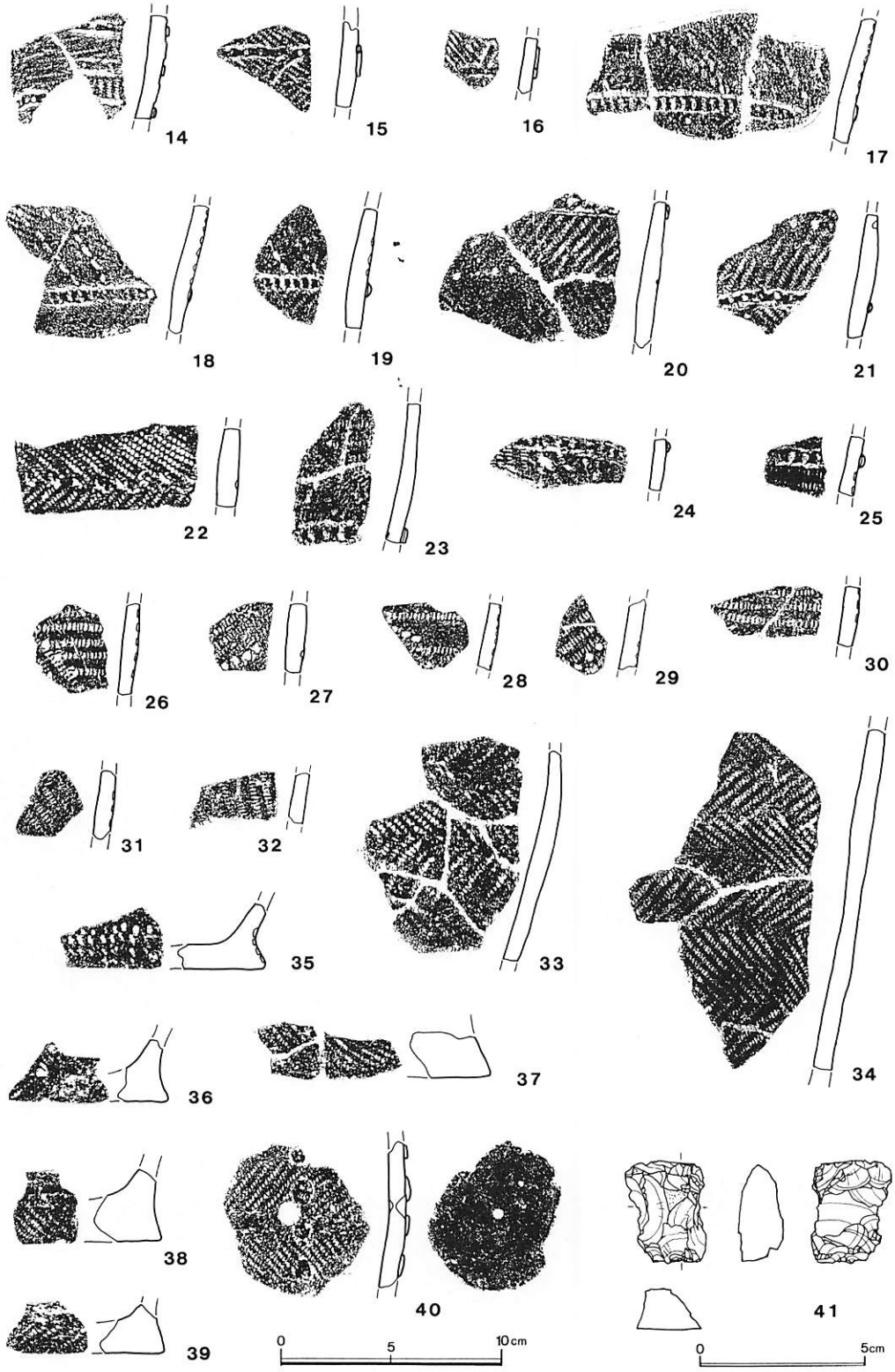
P-141



1．黒褐色土



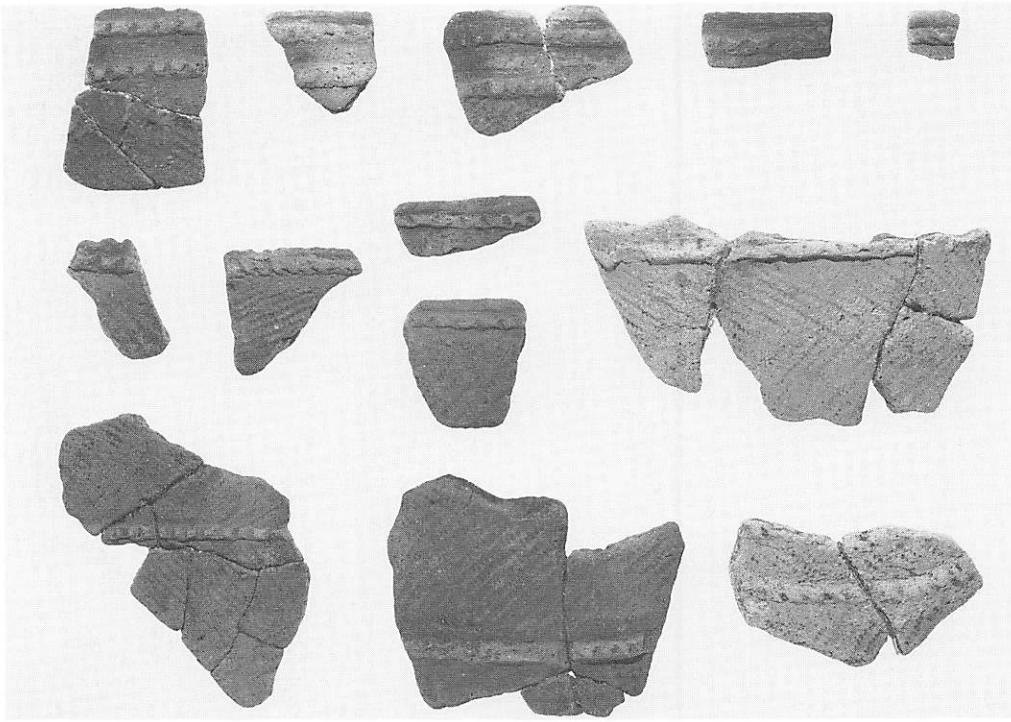
P—141

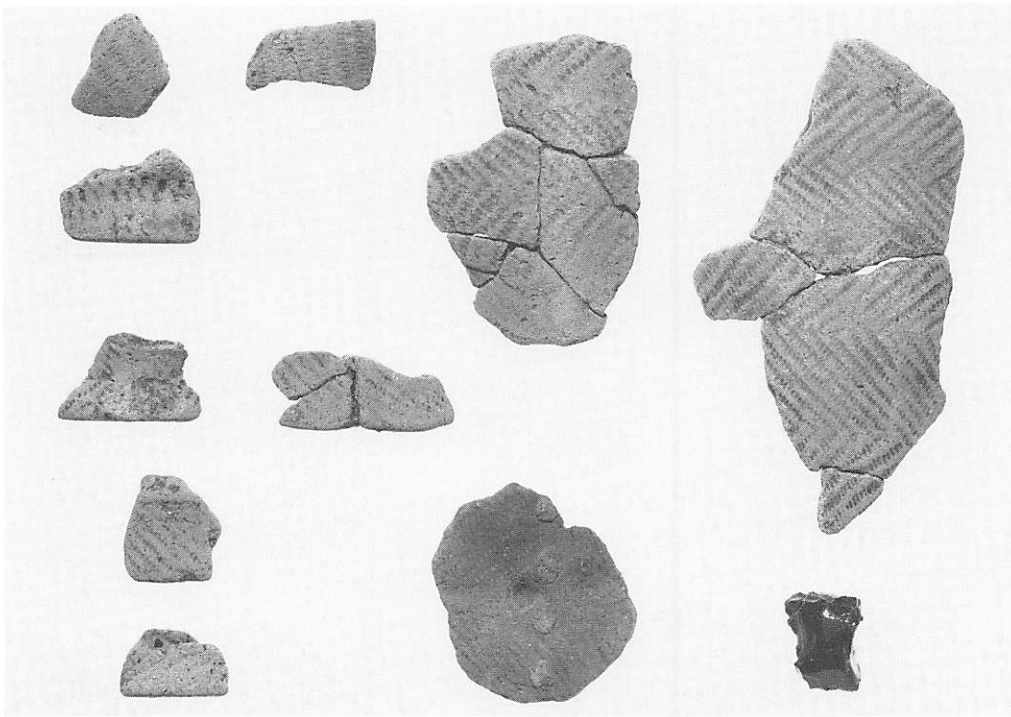

14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
0
5
10cm
0
5cm

P—141の出土遺物

P—141土器出土状況

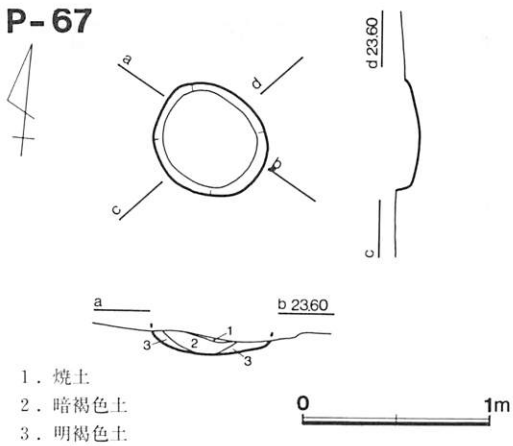
P—141完掘

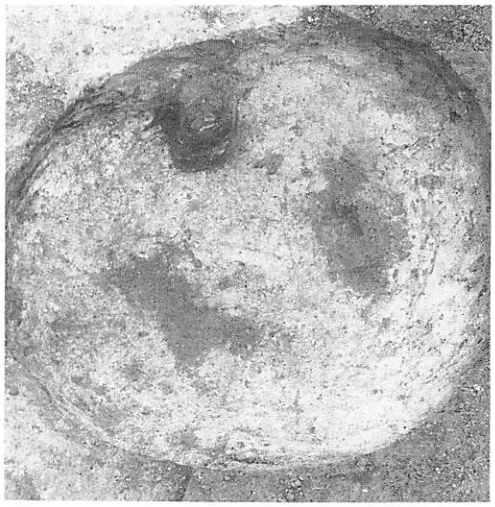




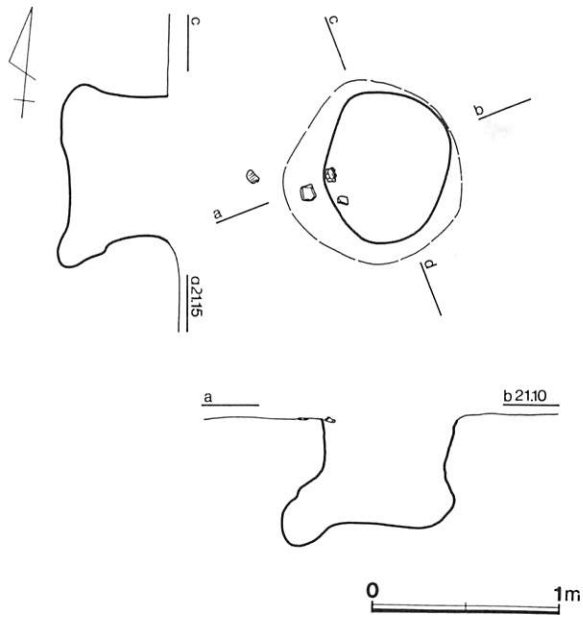
P—141の出土土器

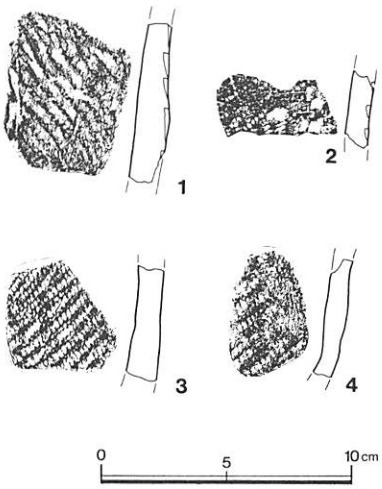
P-67

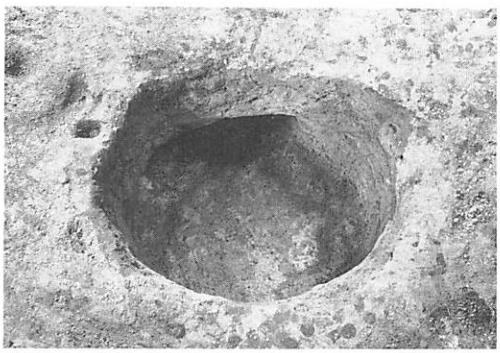


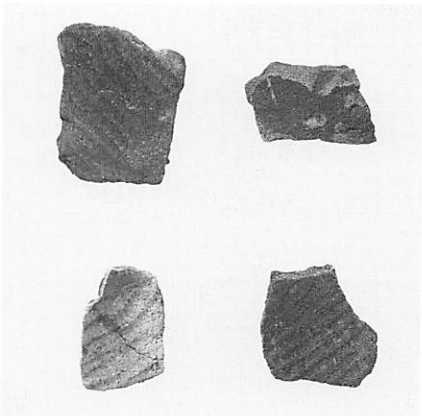


P-99

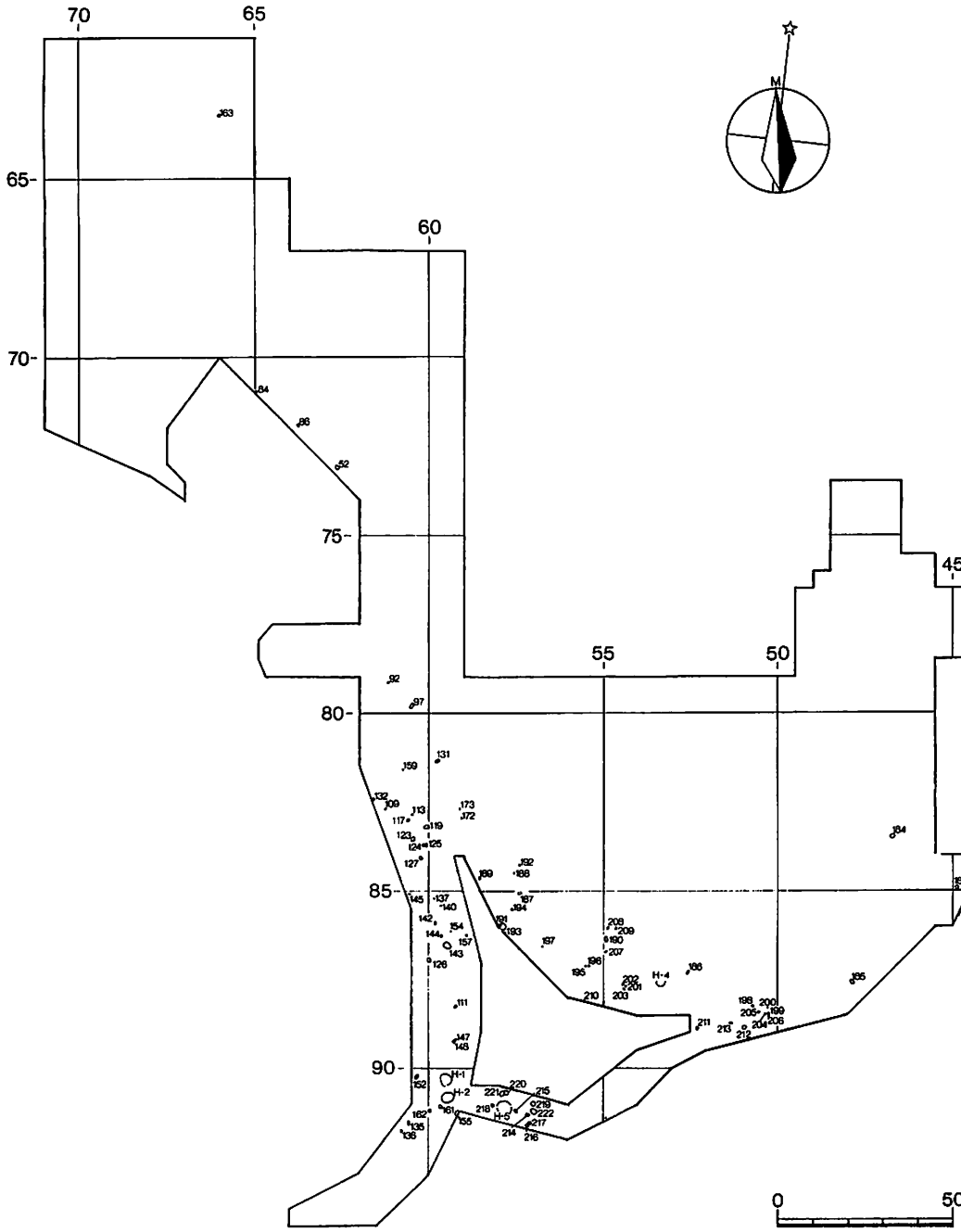








P—67・P—99



縄文中期の遺構位置図

2．縄文中期の遺構

縄文中期の遺構には、竪穴住居跡３軒、住居跡状遺構４基、土壙72基などがある。これらの遺構は、構造や形態、規模などの差に基づいて序列を決めた。

竪穴住居跡にはＨ－１・２・５があり、調査区の南側、台地の南西端部に位置する。他の遺構も含め、検出はⅢ層中またはⅣ層の上面に至って行われたものがおおい。そのため、壁の上半は検出の遅れや耕作により失われているものが大半である。また、掘込みが浅く床面・底面がⅣ層に至らないものもあったと考えられる。

住居跡状遺構にはＨ-４・Ｐ-143･155･193がある。径２～３ｍの浅い皿状を呈し、炉を特たない。柱穴は検出が少なく、上屋についても不明な点が多い。Ｈ－４以外は土器・石器など遺物が豊富に出土し作業場跡と推定される。

土壙は調査区の中央部から南に多く分布する。平面形が楕円形（長径と短径の比が1.3以上）のものと円形のものはほぼ半数ずつあり、他に細長く溝状を呈する土壙が11基ある。前者には、掘込みが浅く横断面形の皿状を呈するものが¾ある。

平面形が楕円形または、やや長い不整形を呈し、長径が約１ｍ以上の土壙には、Ｐ－52・97・131・119・123・190・152・184・126・186・183・187・161・135・222・220・221･216･217･218・215・214（遺構一覧表番号12～23・27～38・51）がある。Ｐ－126・187・135・142・198の横断面形はボール状または、鍋底状になるもの。他は浅い皿状であった。Ｐ－119･123･152・184・126・221は覆土上部に焼土が堆積している。

平面形が円形を呈し、直径が約80cm以上の土壙には、Ｐ－86・185・212・211･219･163･199・200・117・132・144（遺構一覧表番号39～48・50）がある。Ｐ－86･185･212の断面形はボール状または、鍋底状であるが、他は浅い皿状を呈している。

平面形が楕円形または、やや長い不整形を呈し。長径が約１ｍ以下の小型の土壙には、Ｐ－191・189・147・162・136・84・194・92・111（遺構一覧表番号24～26･52～57）がある。Ｐ－189・147・92・111の横断面形はボール状であるが、他は浅い皿状を呈している。

平面形が円形を呈し、直径が約60cm以下の小型の土壙には、Ｐ－188・172・173・113・109・124・127・145・137・140・154・137・140・154・157・159・125・192・196・197・195（遺構一覧表番号49・58～74）がある。Ｐ－127・157・196・197・195は掘込みが浅く、断面形は皿状を呈する。Ｐ－145･154の壙底は一方に傾斜している。他はボール状または、鍋底状を呈している。

Ｐ－201～210・213（遺構一覧表番号75～85）は長径１～0.5ｍ・短径0.4～0.1ｍの細長い溝状を呈し、覆土の状態は大半が自然堆積である。確認面はⅢ層又はⅣ層上面である。壙底はⅣ層中に掘り込まれている。Ｐ－208・209は焼土帯に位置し、覆土上部に焼土が落ち込んでいた。この２基は焼土が形成される前に構築されている。形態は小型のＴピット様である。しかし、小型で掘込みが浅すぎるため、構築目的が落し穴とは考え難い。Ⅳ層の粘土を採取するために掘られたことなどが考えられる。

以下、遺構一覧表の順に報告する。

H－1

調査区南側の沢に挟まれた台地、59－90区に位置する。平面形は長軸が北西を向く楕円形を呈する。掘込み面はⅡ層中にあったと思われるが耕作により捉えられない。床面はⅣ層に掘り込まれている。北側の壁は一部風倒木痕により攪乱を受けている。北東側の床面からフレイク・チップが多量に検出された。中央のピットは覆土に焼土化した土を僅かに含み炭化した胡桃などの炭化物が検出されていることから炉と推定される。南西側の小ピットからは炭化物と焼骨様のものが検出されている。H－1からは約180点の土器片が検出されており、その90%近くがⅢ群b－1類に属するものである。1は南側の床面直上から一括出土した、Ⅲ群b－1類の復元土器で、全周の半分程と底部が欠失している。胴半部がふくらむ深鉢形を呈し、現存2個の口縁突起の下には橋状把手が連結している。突起や把手を取り巻いて、貼付帯と、先の細く丸い棒状工具による連続刺突文が配されており、口縁部の内面にも縄文が施されている。2～5、18は覆土出土のb－1類土器で、2～4には、半截竹管を引いた押引文が2段ずつ残されている。6～17、19は覆土中に見出されたⅢ群b－3類土器で、6には円形刺突文と押引文がめぐり、7は無文小型の口縁片。8・9には結束第一種のある羽状縄文が、12～14には綾絡文がみられる。19には文様であろうか、ぞんざいに突き引いた痕が2個残されている。20～27は石鏃。黒曜石を素材にしている。20～22は菱形のもの、23～26は有茎のもの、27は下半が欠損しており形態は不明である。25は焼けている。20・22～24は床面出土、21・25～27は覆土から出土した。28～30はポイントまたはナイフ。黒曜石を素材にしている。29・30は基部破片。31・32はスクレイパーで黒曜石を素材にしている。33・34は石斧。泥岩を素材にしている。34は破片を再加工しているもの。35・36はU・Rフレイク。黒曜石を素材にしている。各々の重さは20-0.8g、21-0.7g、22-1.1g、23-0.7g、24-0.4g、25-0.5g、26-1.0g、27-0.3g、28-1.0g、29-3.6g、30-3.2g、31-5.1g、32-4.8g、33-6.4g、34-3.6g、35-6.0g、36-4.2g。他に黒曜石剥片2,771点、泥岩・片岩剥片52点、礫11点が出土した。

H－2

H－1の南側約2m離れて検出された。楕円形を呈し、長軸方向は東南東を向く。南西側に厚さ約5cmの焼土があり、炉と考えられる。この焼土の上部には木炭が多く出土した。北東壁際の床面直上から土器が出土している。これを接合、復元したのが1で、口縁部の半分以上が欠失している。推定口径19.2cm、器高26.7cm、底径10.2cm程の比較的単純な器形の深鉢形土器。ほぼ平坦な口唇上には、半截竹管による押引文が刻まれ、口縁部には、小さくやや不整な形状の円形刺突文が加えられている。器面はかなり摩耗しており、縄文の判然としない部分も多いが、地文は単節の斜行縄文らしい。胎土には多量の砂礫が含まれている。2は1と同一の口縁片。3は円形刺突文の一部が残存する口頸部の破片で、地文は結束第一種のある羽状縄文。4は1と同一地点の出土品で、器面は摩耗しているが、縦横の押引文が観察できる。5は縄文のある破片。いずれもⅢ群b－3類土器で、3・5は覆土出土。6は安山岩を用いた台石。両面に円錐状の使用痕がみられる。重さは1,560g。他に黒曜石剥片24点と礫3点が出土した。

H－5

調査区の南寄り57-90・91区に位置している。早苗別川に注ぐ大きな沢に面した南向きの斜面で、すぐ北側には、ＴＰ－11、Ｐ-220、221、東側にはＰ-215が、さらに20mほど北には中期前葉頃と思われる住居跡、Ｈ-1が検出されている。厚さ5～10cmの表土を取り除くと多量の土器片とともに汚れた焼土が検出されたため、グリッドと平行に幅１ｍのトレンチをいれ、Ⅲ層の上面でプランを確認した。東側は風倒木によって壊されている。汚れた焼土は上屋を覆った土が焼け落ちたものと思われ、床面にはさらに純粋な焼土と炭化材が拡がっていた。上面形は斜面のため南側の⅔が不明であったが、焼土と炭化材の分布から見てほぼ円形と推測される。壁は、北側しか残っておらず、ゆるやかにたちあがり細い壁柱穴がみられる。床面はⅢ層からⅡ層にかけて造られており、あまり堅くなく斜面に沿ってゆるやかに傾斜している。また、黒曜石および硅岩のフレイク・チップが散乱し、細かい炭化物で汚れていた。中央に深さ３cmほどの浅いピットが検出されたが、焼土はみられなかった。柱穴は、主柱穴と推測される深いものが二つ、壁から1m程離れたほぼ対称的な位置にあり、中に炭化材が残っていた。柱穴付近から北壁に伸びている炭化材は、住材と思われる。住居跡の南側で小型の土器、西側には砥石と石斧が並んで出土している。炭化材は北側に特に多くまた、保存状態もよく、太さ5～8cmの棒状と幅20cm前後で板状を呈するの二つのタイプがみられた。樹種については依頼中だが同定未了である。住居跡の時期は縄文中期末葉と推測されるが、炭化材のC^{14}による絶対年代は4080±120ＢＰという数字がでている。1、2は、Ⅲ群ｂ-3類土器で口縁が外反し胴部がふくれる器形である。底部は少し外に張り出す。胎土に少量の繊維を含み、焼きは、やわらかい感じである。口縁部に四つの小突起を持ち口唇に刻みが加えられる。器面には結束第一種羽状縄文が施されている。内外面の調整は、粗く特に内面下部は爪の痕が残っている。２は、斜め下方から棒状工具による刺突が加えられている。３～９は、Ⅲ群ｂ類土器である。羽状縄文、4・5は、ＬＲ縄文が施文されている。６は、ＬＲ縄文の上から綾絡が施文されている。7～9は、いずれも底部である。７は、刺突列がめぐり８は、無文。９は、結束第１種の羽状縄文が施文されている。10は、ポイント、11・12は、スクレイパーで、いずれも黒曜石製である。11～15は、石斧である。12は、縦長の泥岩の薄片を素材とし、一部石面が残っている。14は、後端を欠き、両側縁に擦痕が見られる。15は、中央部で二つに折れ刃部がつぶれており、やはり両側縁に擦痕がみられる。16は、14の石斧と並んで出土した砥石で、四面が使用されている。17は、たたき石で半分に割れている。18はくぼみ石で両面に敲打痕がみられる。19・20は、砂岩製の台石である。

H－4

調査区中央のやや南寄り、53-87区に位置する。検出が遅れたため北側の形状は不明であるが、ほぼ円形であったと推定される。掘込はⅡ層にあり、床面はⅢ層である。炉は検出されていない。南東側の覆土上部にフレイク・チップ集中がある。西側壁際の覆土から土器片が出土した。1は径の小さな竹管状の工具による円形刺突文を2段めぐらせ、その間に付した隆帯を押引き状の刺突文列で刻む口縁片。2・3には斜行縄文があり、3は結束第一種によるもの。１はⅢ群ｂ－２類、他はｂ－３類と思われる。他に礫１点、黒曜石剝片40点、片岩剝片５点が出土した。

P－193

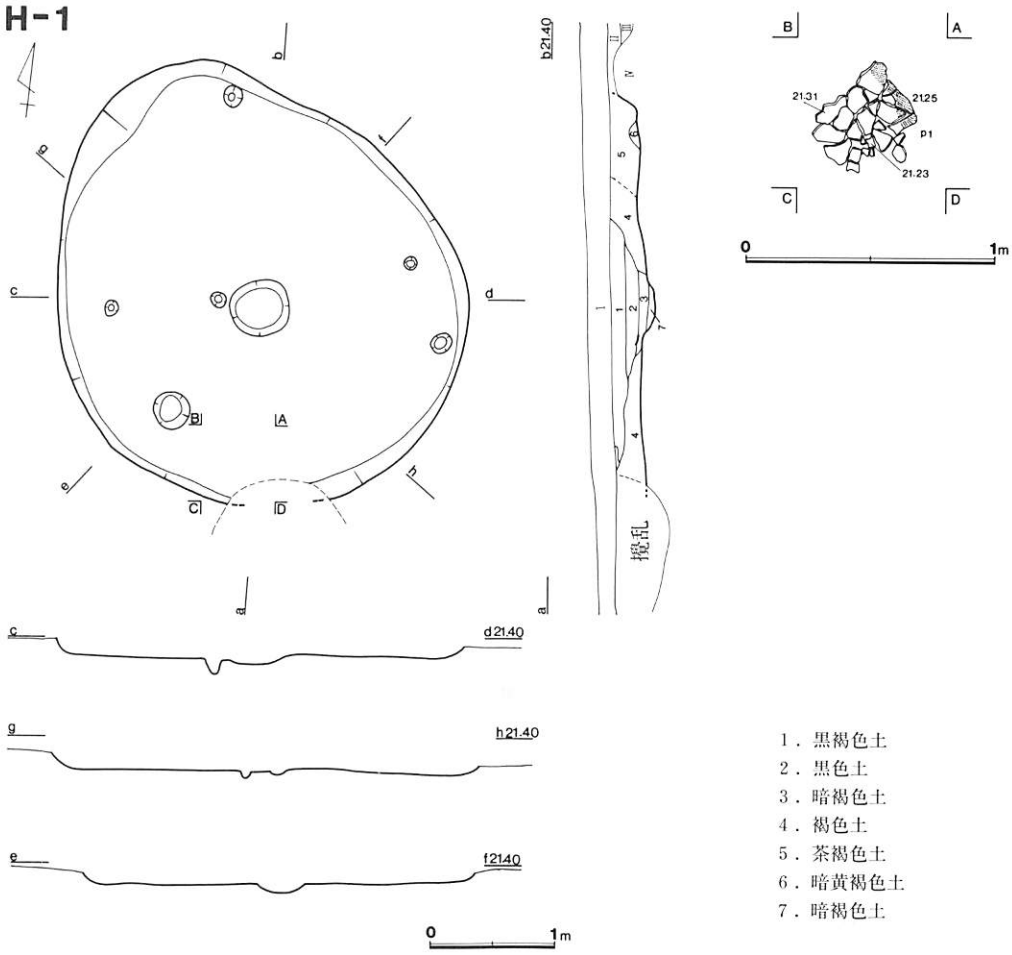
57-85･86区に位置する。西側のP-191を切っている。東側は道路の側溝により攪乱を受けている。覆土から100点を超える土器片が出土した。1・2は、摩耗の進んだⅢ群a類の破片。6～9は、円形刺突文をもつⅢ群b－3類の口縁部。7には押引き的な刺突文列が加えられている。10・11は小型薄手のもの。12・13は、低い隆帯に連続刺突が刻まれる土器で、13はⅢ群b－2類に属するもの。14～16は、結束第一種や第二種のみられるⅢ群b－3類の胴部片。18・19は平底の底部片。3～5は、縄線文をもつⅣ群a類の口縁片で、5の縄線文原体は結節部を有する。20はポイントまたはナイフの基部破片。黒曜石を素材にしている。重さは7.2g。21～23はドリル。珪質頁岩を素材にしている。剝片の一端に錐部を作りだしている。21の重さは1.2g、22は1.3g、23は3g。24は砥石の破片で、3点が接合している。砂岩を用い、重さは194g。他に黒曜石剝片107点、頁岩剝片9点、片岩または泥岩剝片36点、礫34点が出土した。

P－155

H－2の南東3mの59－91区に位置する。覆土から150点以上の土器片が出土している。1以外は全てⅢ群b－3類に属し、器面の摩耗した例が少なくない。1は刻みのある貼付文が密に並ぶⅠ群b－2類の胴部片。2は南側で一括出土した口縁片で、2種類以上の工具を利用した押引文が口縁部と口唇上をめぐっている。3～5はやや小型の口縁片。6・7は口縁部に肥厚帯のみられないもの。8～10は断面三角状の肥厚帯を有する例で、8には都合4段の押引文がある。11・15・16では結束第二種の回転押捺がみられる。17～20は平底の底部。21～23はポイントまたはナイフの破片。黒曜石を素材にしている。21の重さは1.9g、22は4g、23は30.1g。24・25はドリル。剝片に錐部を作りだしている。24は珪岩を素材にし、重さは0.6g。25の素材は珪質頁岩、重さは1.4g。26はつまみ付ナイフ。硬質頁岩を素材にし、重さは5.5g。27は石斧破片。泥岩を素材にし、ペッキングによる整形がみられる。重さは390.4g。28は凹石。安山岩を用い、重さは323.3g。29は砥石破片。a面右側に2条の溝と中央にやや浅い数条の溝がみられる。砂岩を素材にし、重さは18.8g。床面から検出した。他は覆土から検出されている。他に礫14点、黒曜石剝片90点、めのう剝片2点、片岩または泥岩剝片23点が出土した。

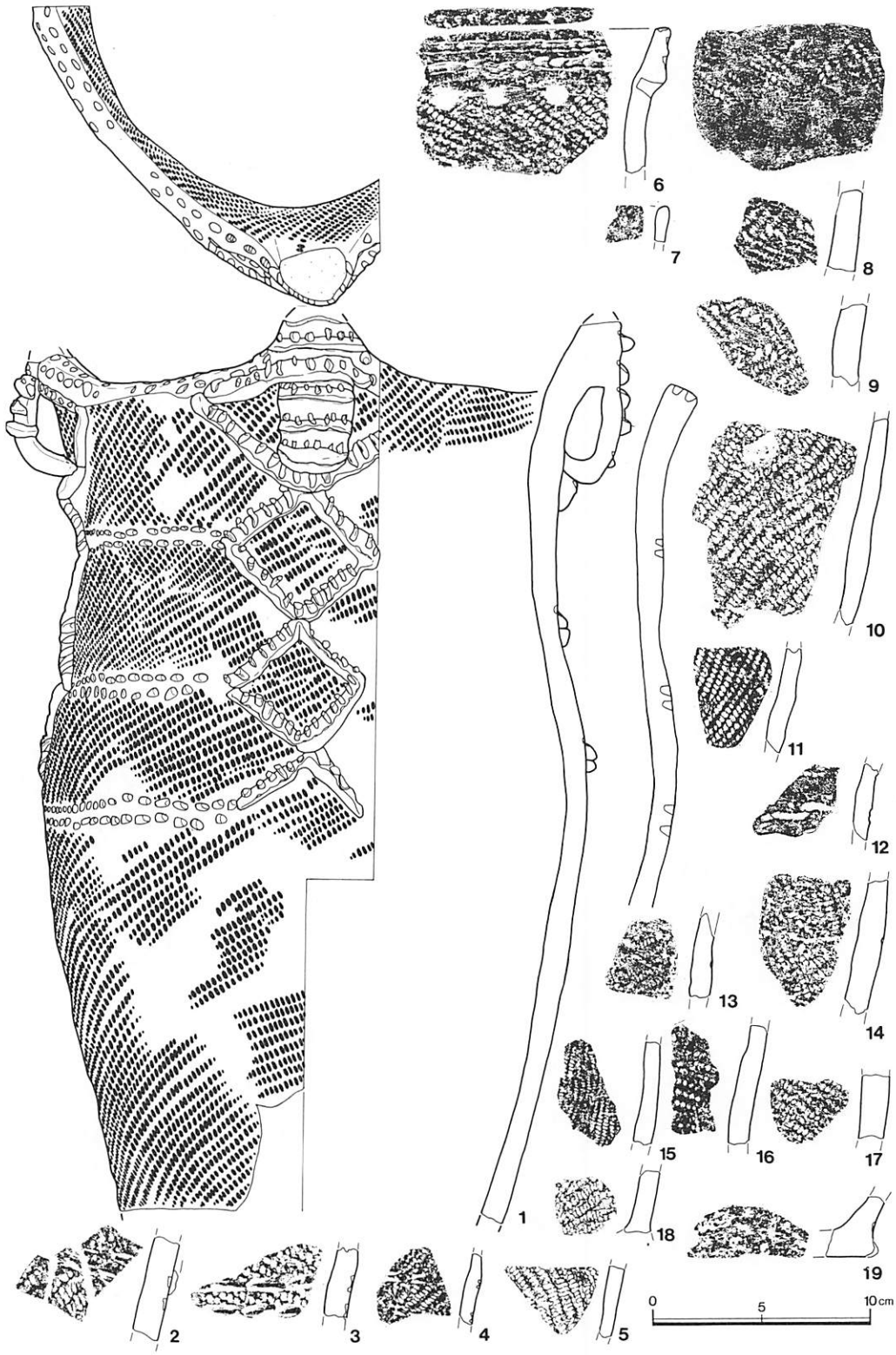
P－143

調査区中央の西南西、59－86区に位置する。壙底はやや丸味のある皿状を呈する。出土遺物は中央部に濃く分布している。覆土は自然埋没状態を示す。覆土から60点余りの土器片が出土している。斜位の沈線文がみられるⅢ群b－1類の4以外は、Ⅲ群b－3類に属するもので、摩耗した破片が少なくない。1～3は、押引きや連続する刺突が刻まれた口縁片。5・7には結束第二種が、6には平篦の押引きがある。11は2本単位の撚糸文。16は石鏃。b面に1次剝離面を残している。重さは1.4g。17～20はポイントまたはナイフ。17の重さは4.3g。18～20は基部破片。重さは18が4.9g、19が9.4g、20が7.6g。21はエンドスクレイパー。a面に原石面を残している。重さは5.5g。16～21は黒曜石を素材にしている。22は石斧破片。片岩を素材にしている。重さは60.3g。他に礫8点と、黒曜石剝片125点、片岩または泥岩剝片12点が出土した。

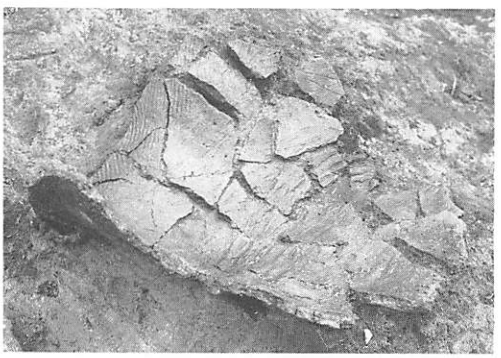


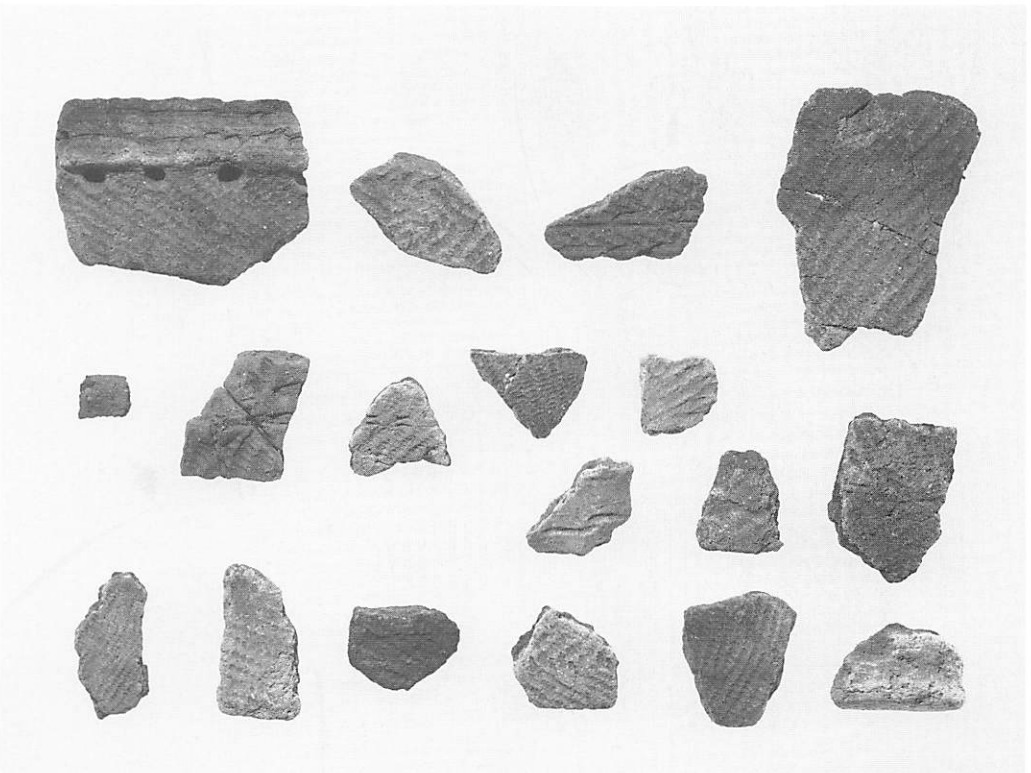
1．黒褐色土
2．黒色土
3．暗褐色土
4．褐色土
5．茶褐色土
6．暗黄褐色土
7．暗褐色土

H—1

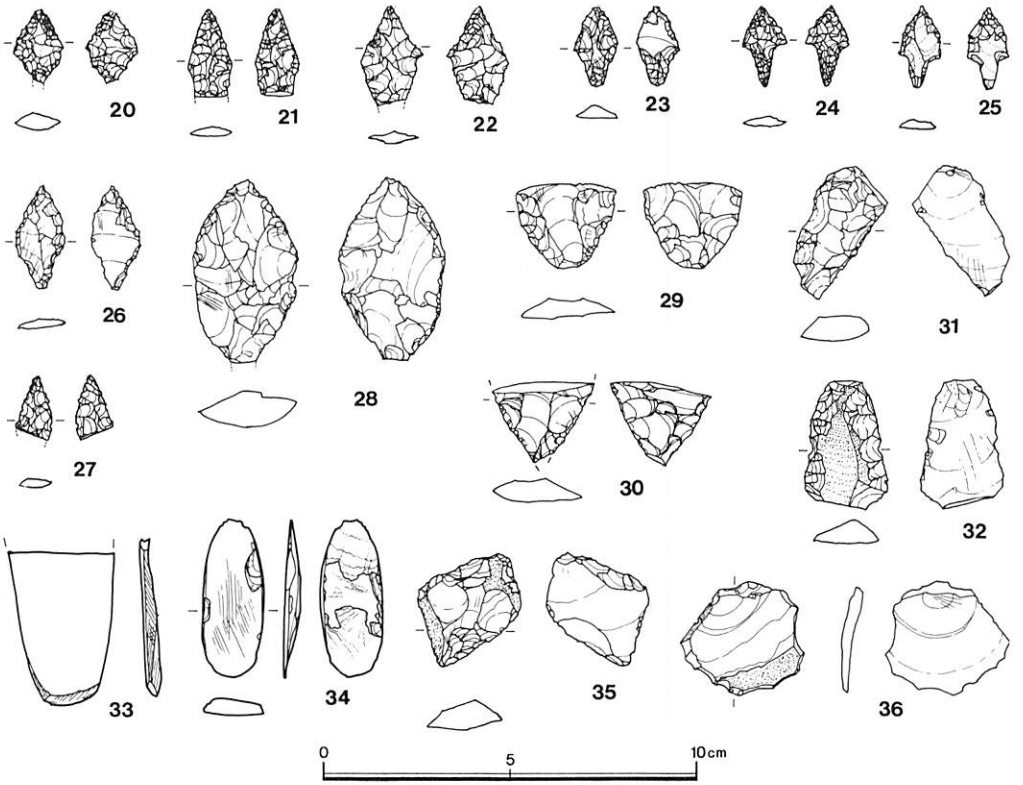


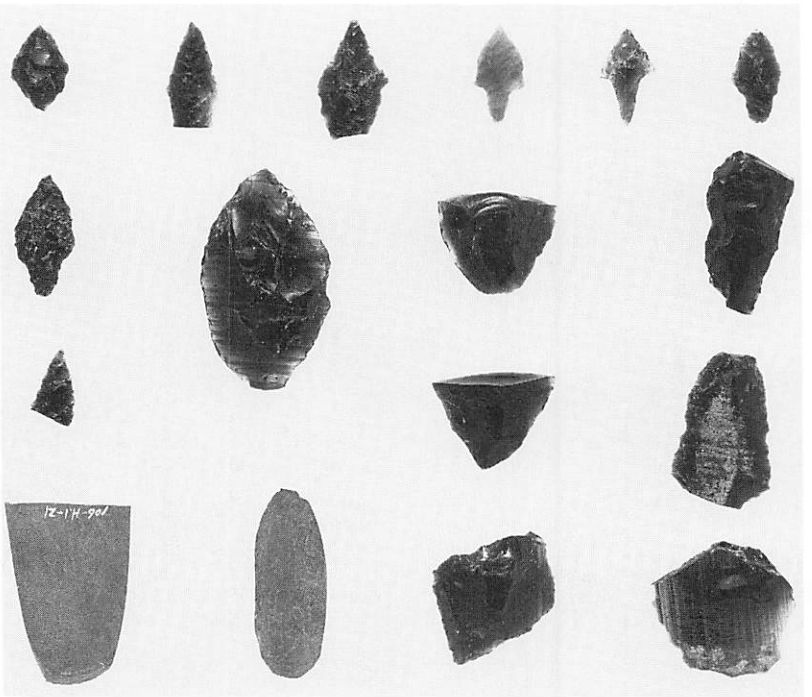
H－1の出土土器





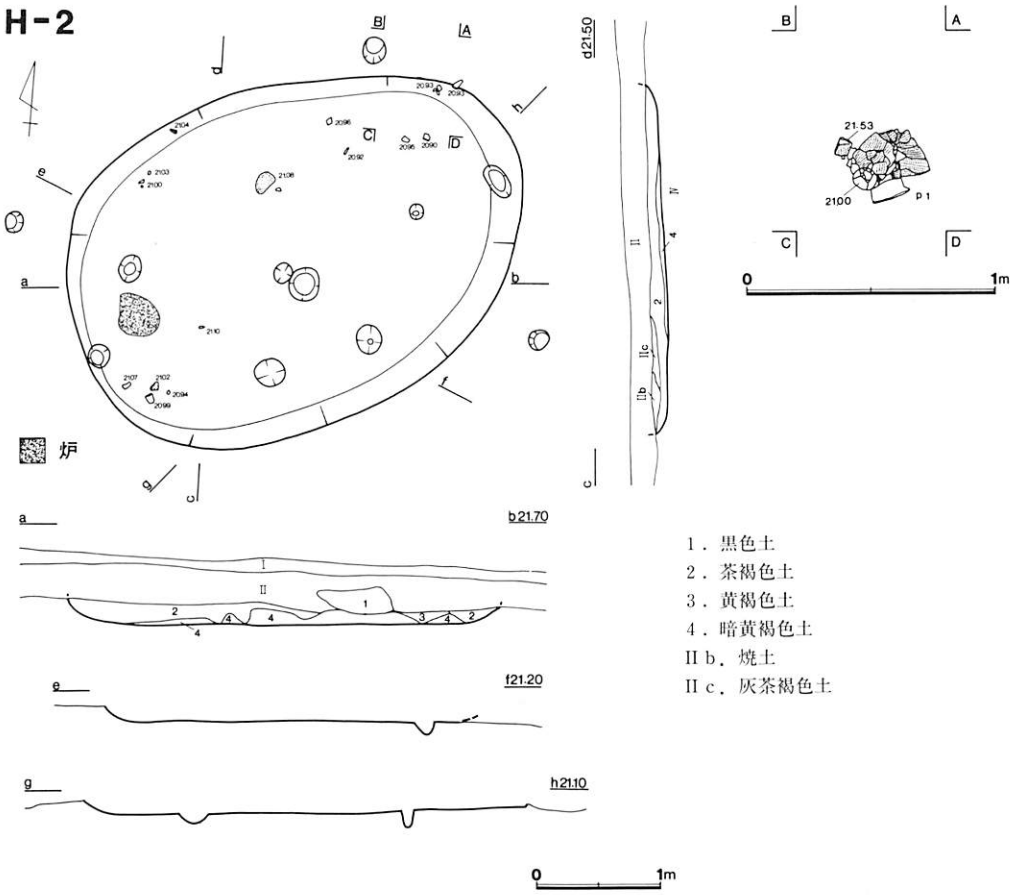
H—1の出土土器



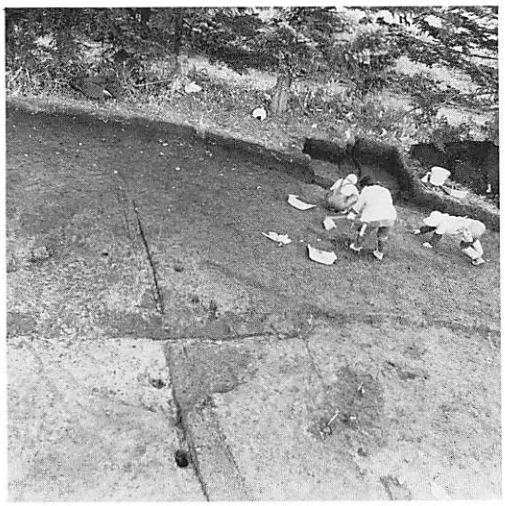


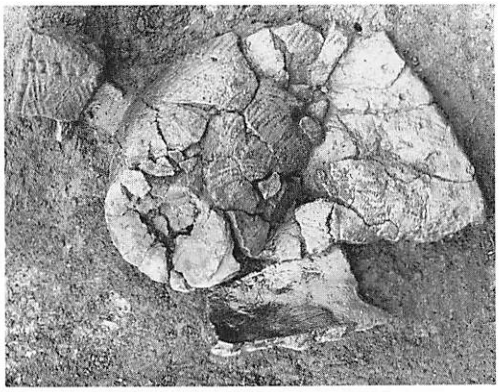
H－1の出土石器

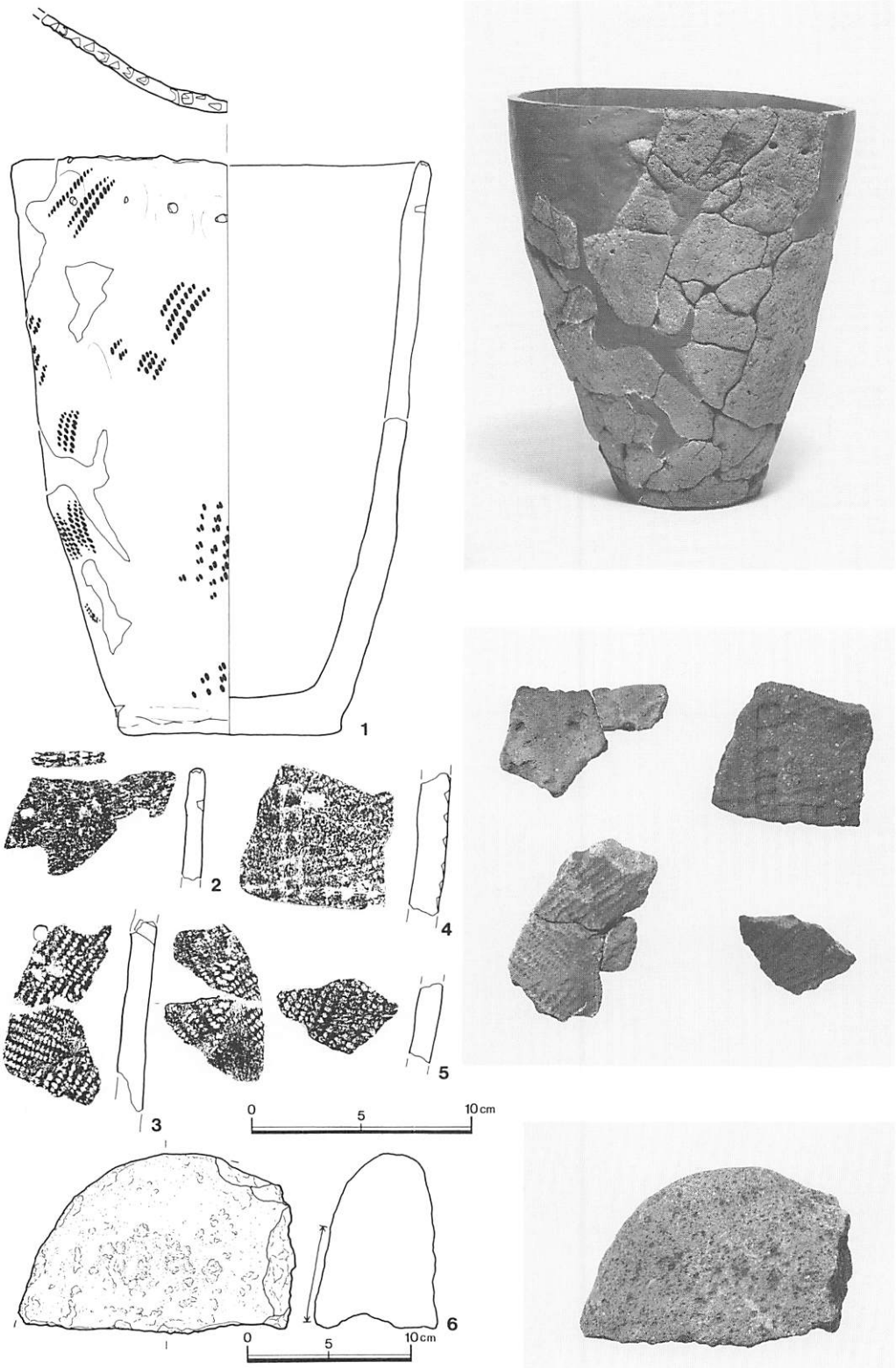
H-2



1．黒色土
2．茶褐色土
3．黄褐色土
4．暗黄褐色土
IIb．焼土
IIc．灰茶褐色土

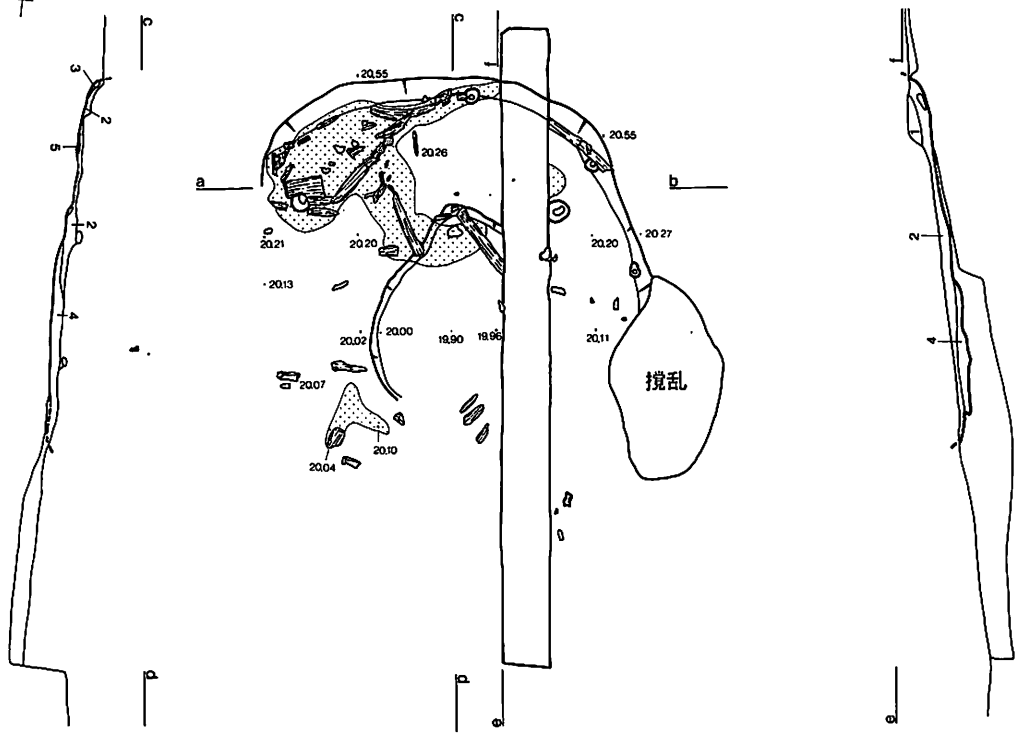




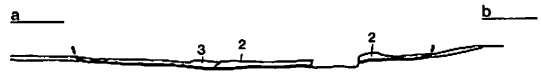


H－2の出土遺物

H-5

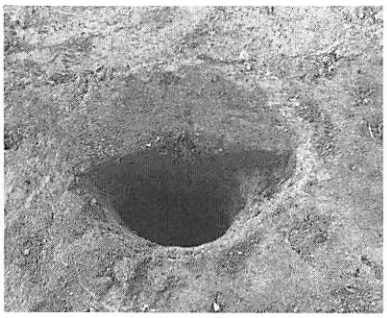


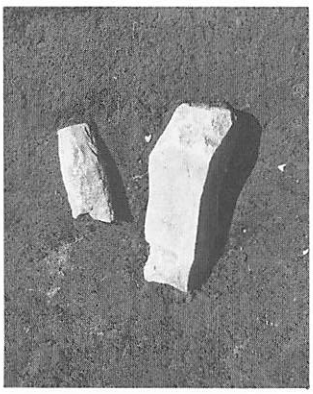
焼土



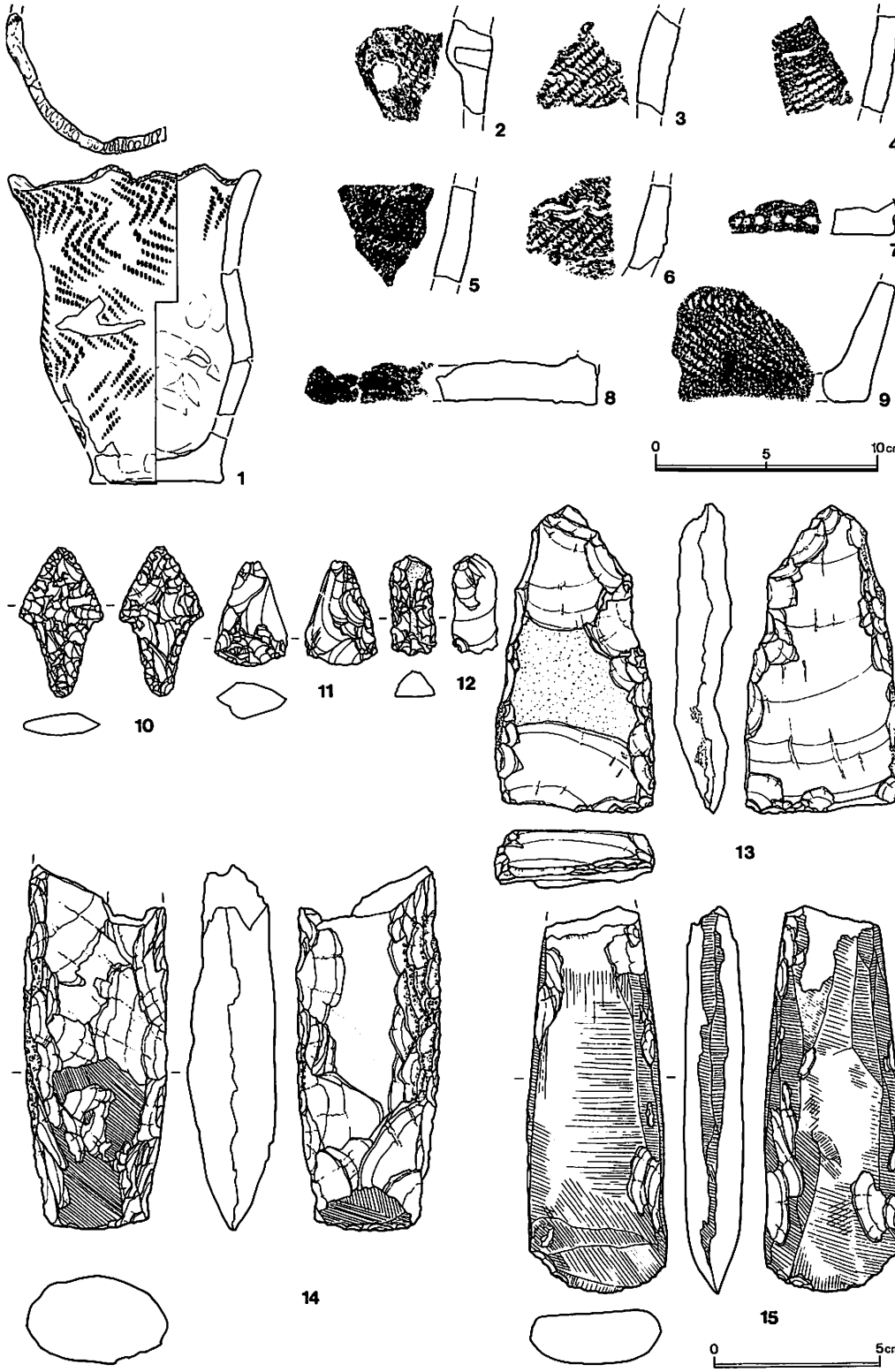
0 1m

1．赤褐色土（焼土を含む）
2．褐色土（木炭・粘土粒を含む）
3．黒色土
4．暗褐色土
5．黒色土・炭化物

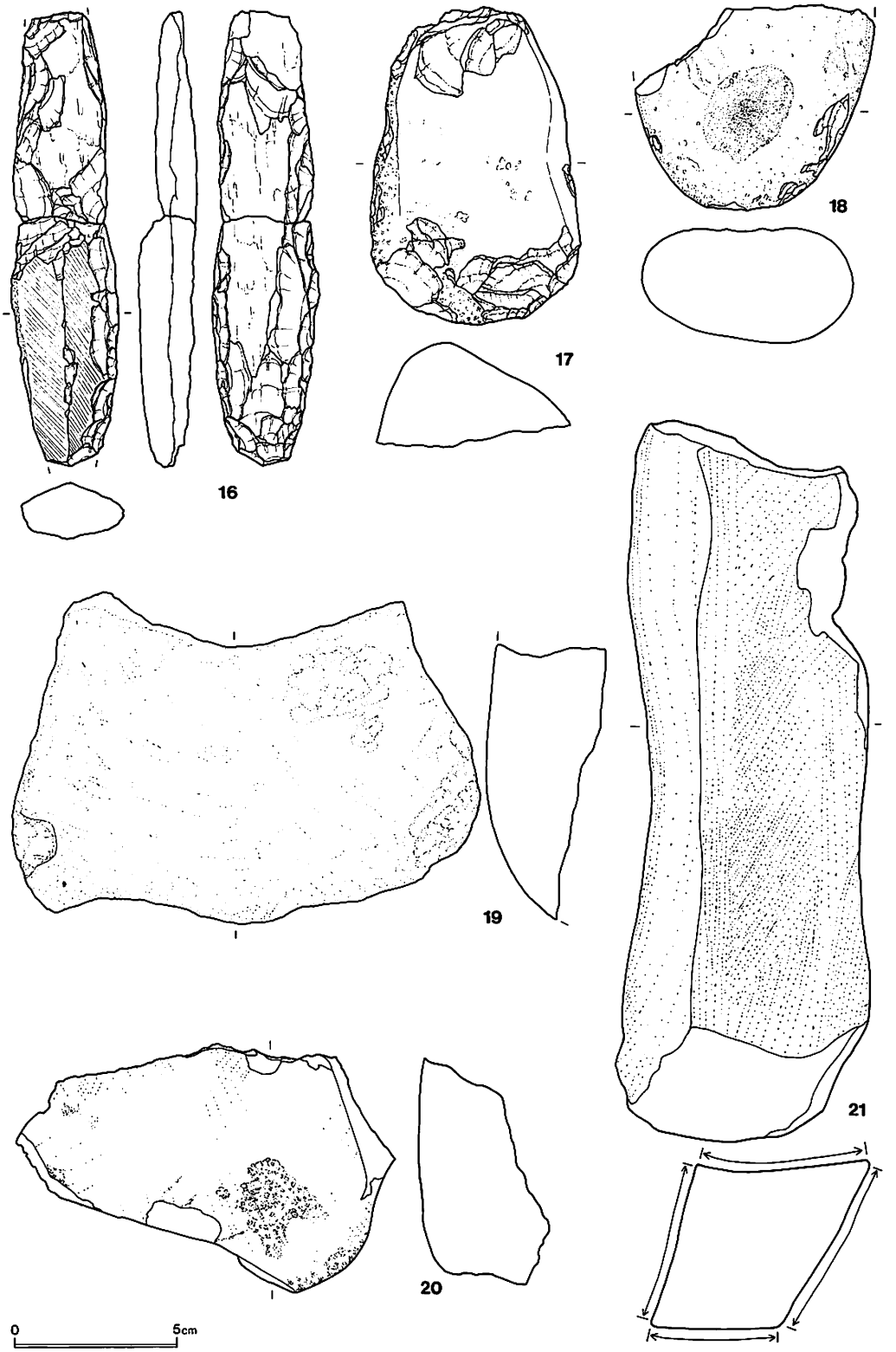




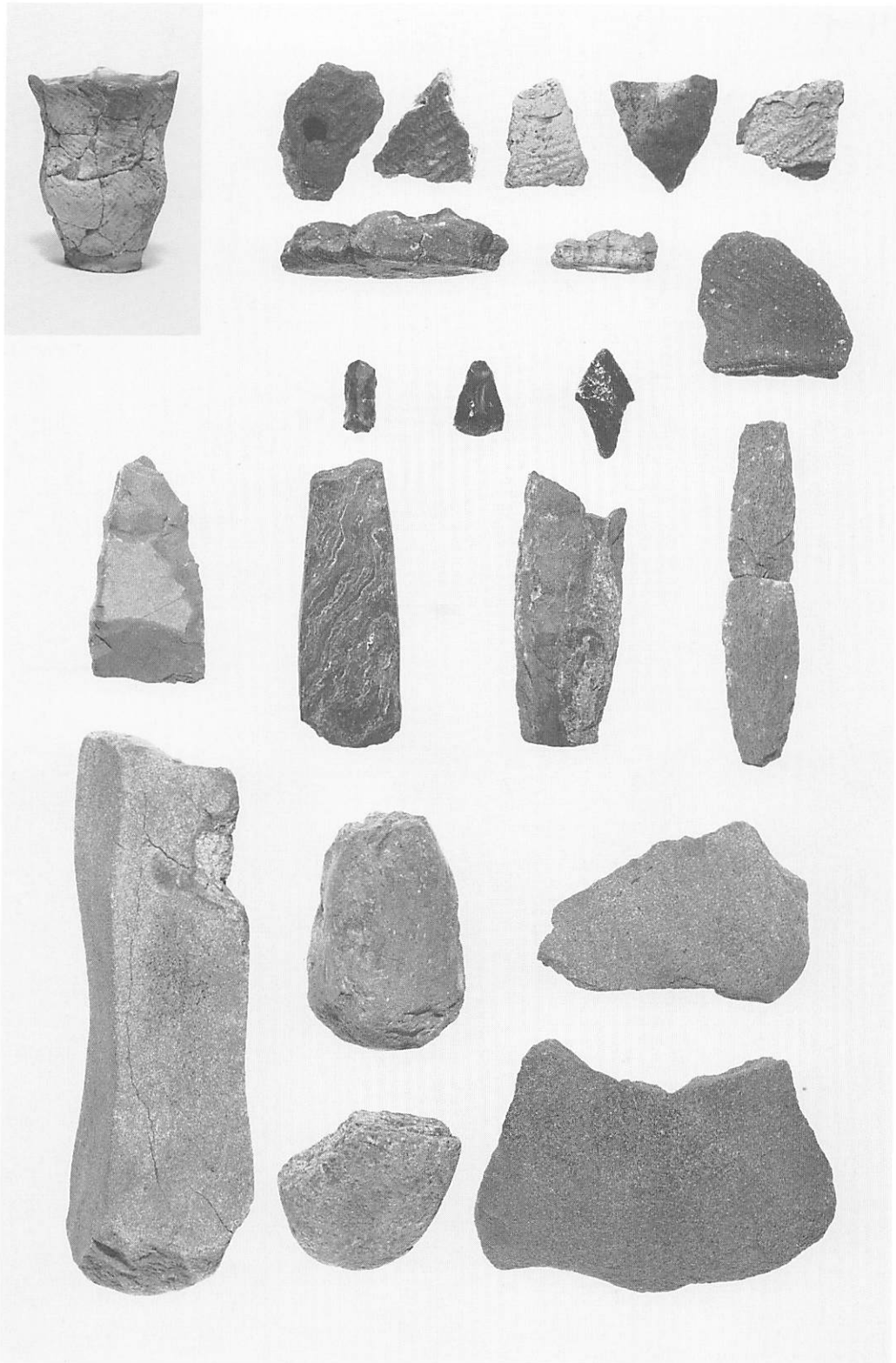
H—5



H－5の出土遺物

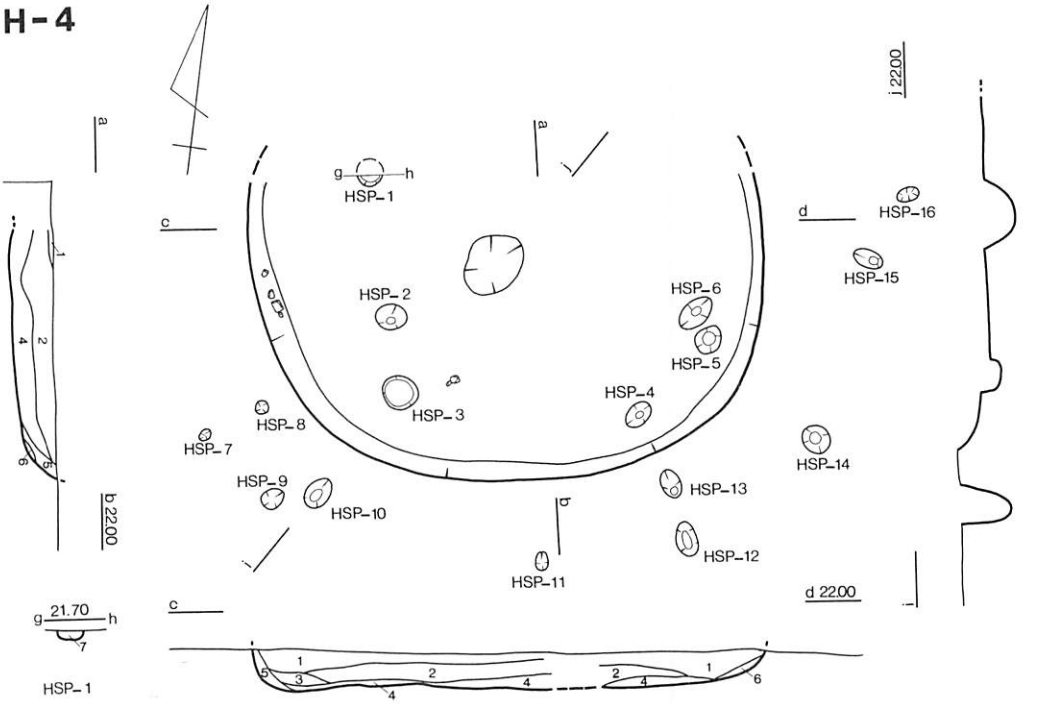


H－5の出土石器



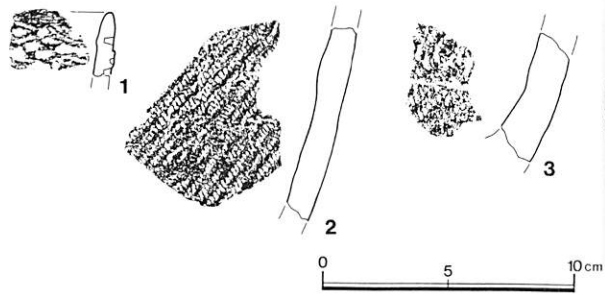
H－5の出土遺物

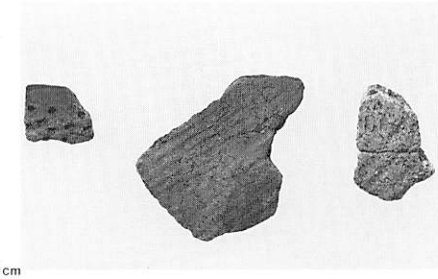
H-4



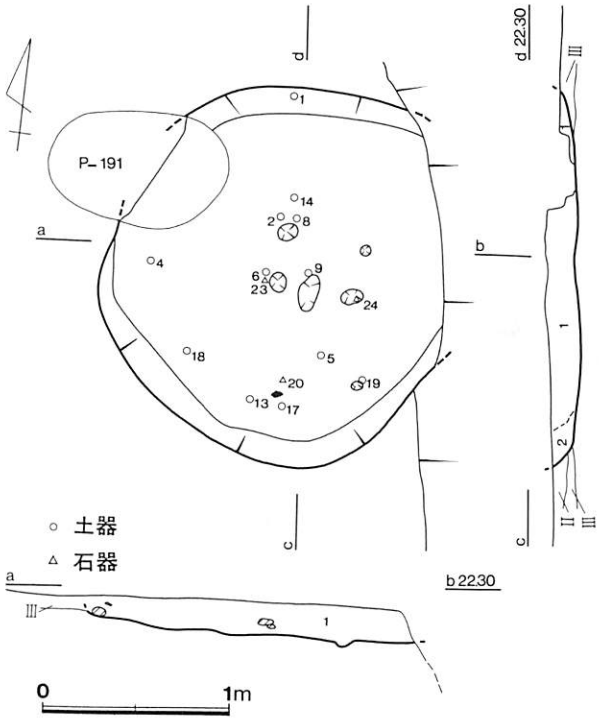
1．黒色土
2．黒灰褐色土
3．暗灰褐色土
4．暗褐色土（黄褐色土と黒色土が粒状に混る）
5．暗褐色土
6．暗黄褐色ローム
7．黒茶褐色土

H—4

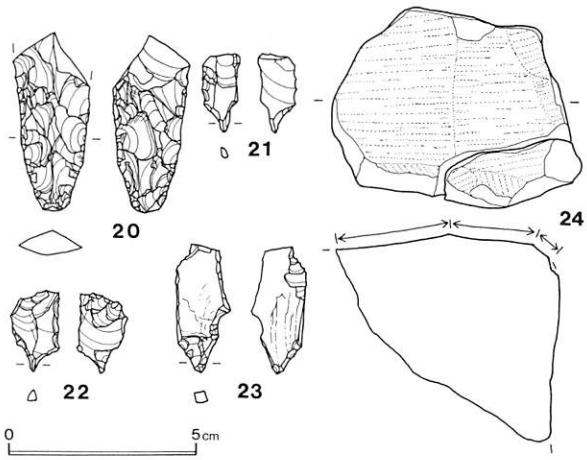


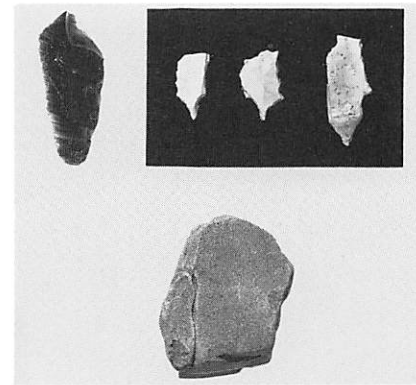


P-193

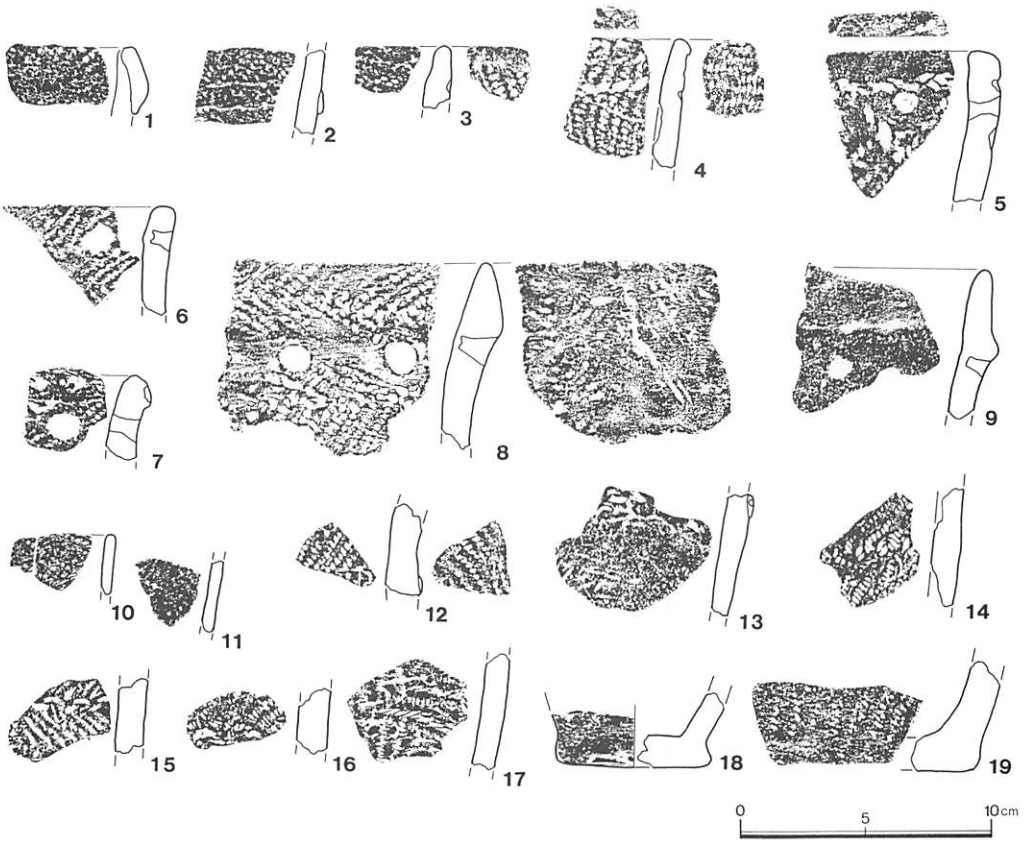


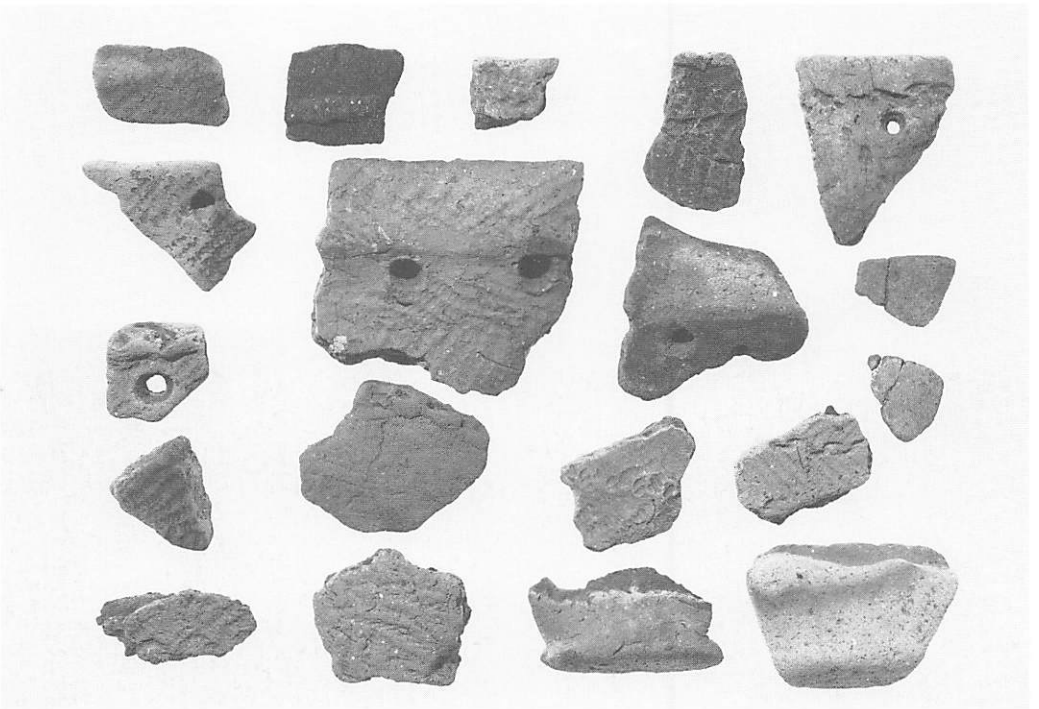
1．黒褐色土
2．暗褐色土





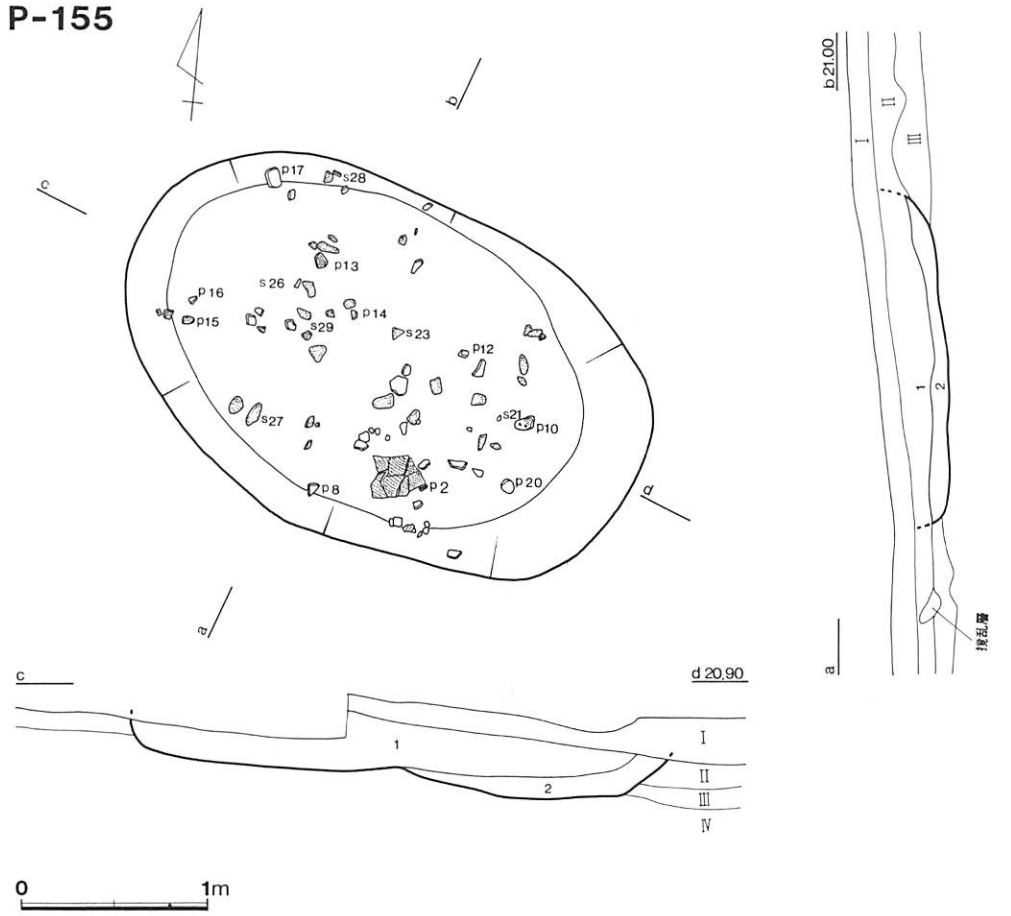
H—4出土遺物・P—193



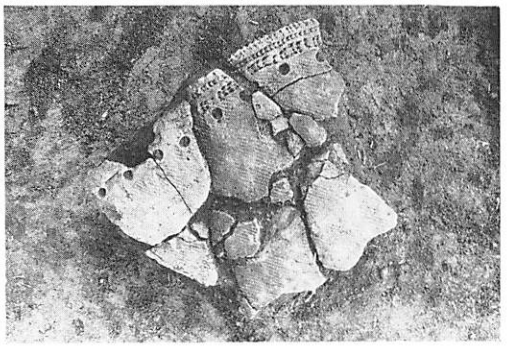


P—193の出土土器

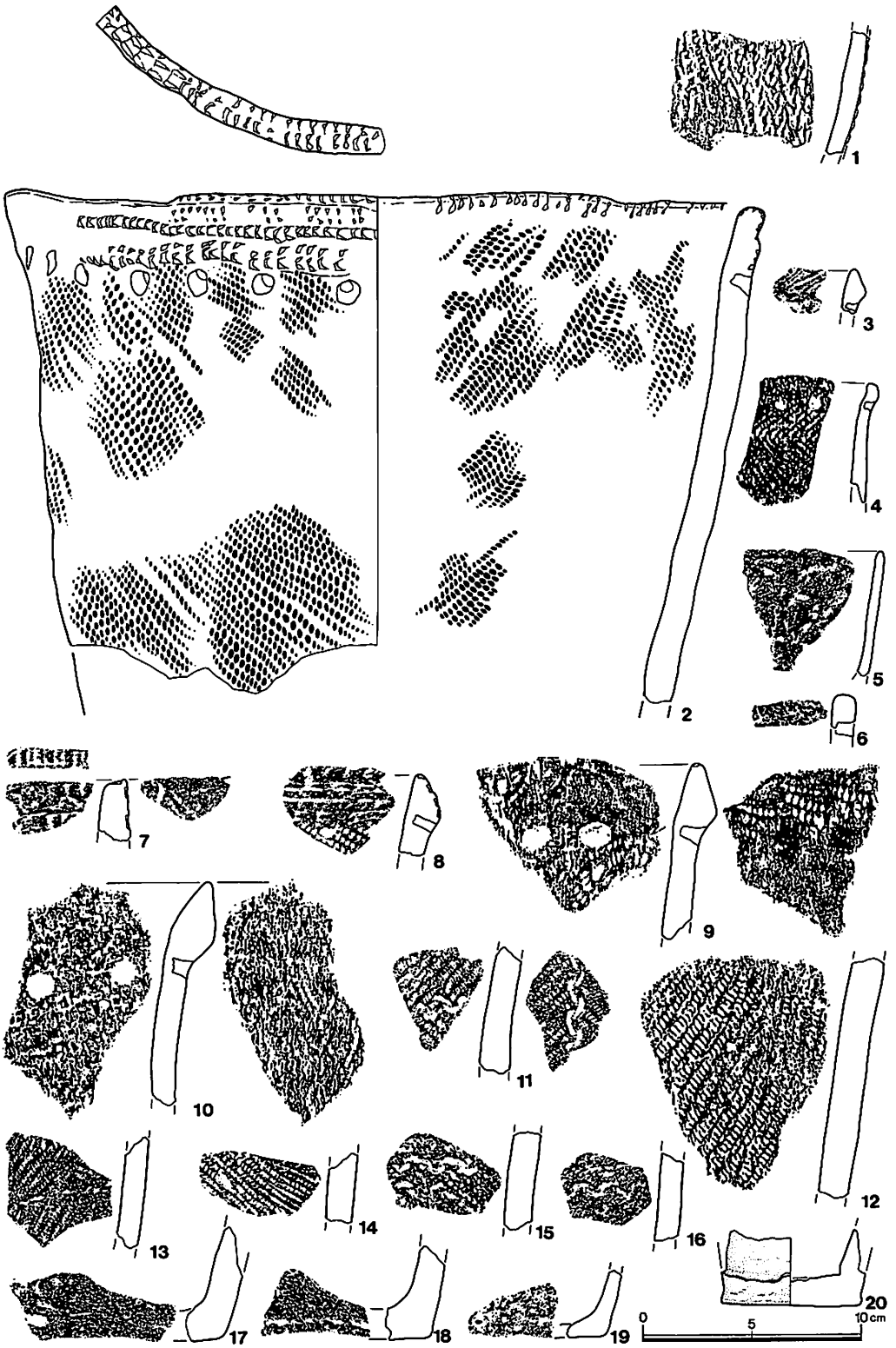
P-155



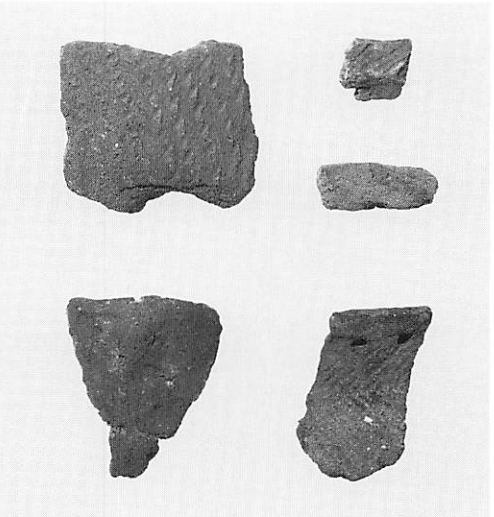
1．黒褐色土
2．暗茶褐色土

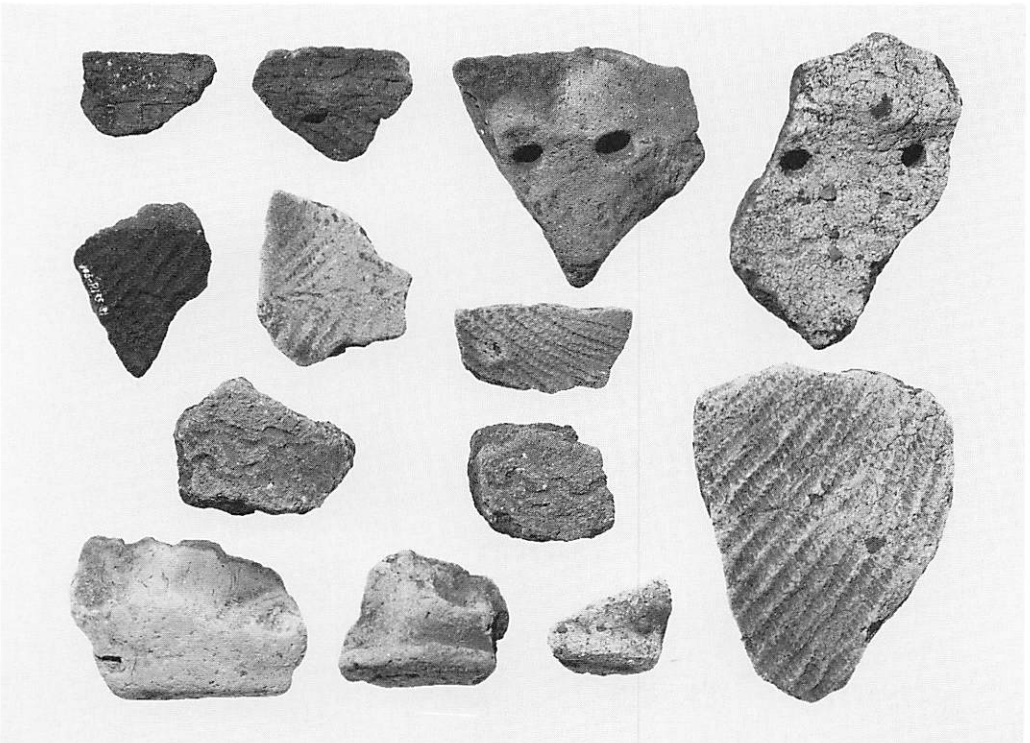


P—155

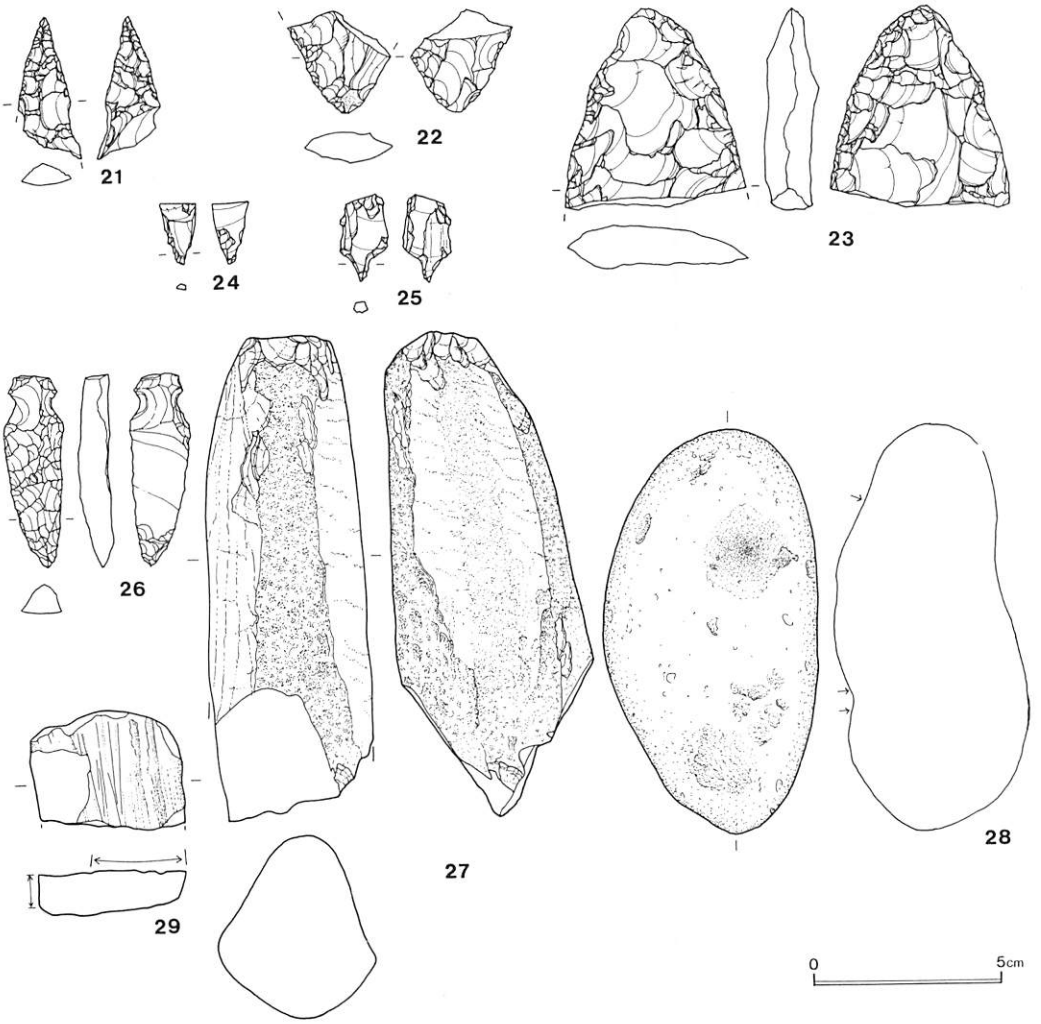


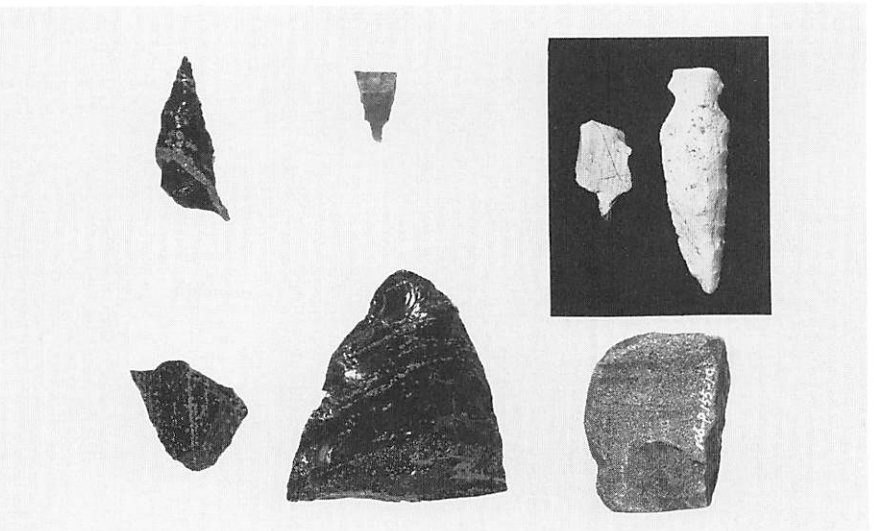
P—155の出土土器





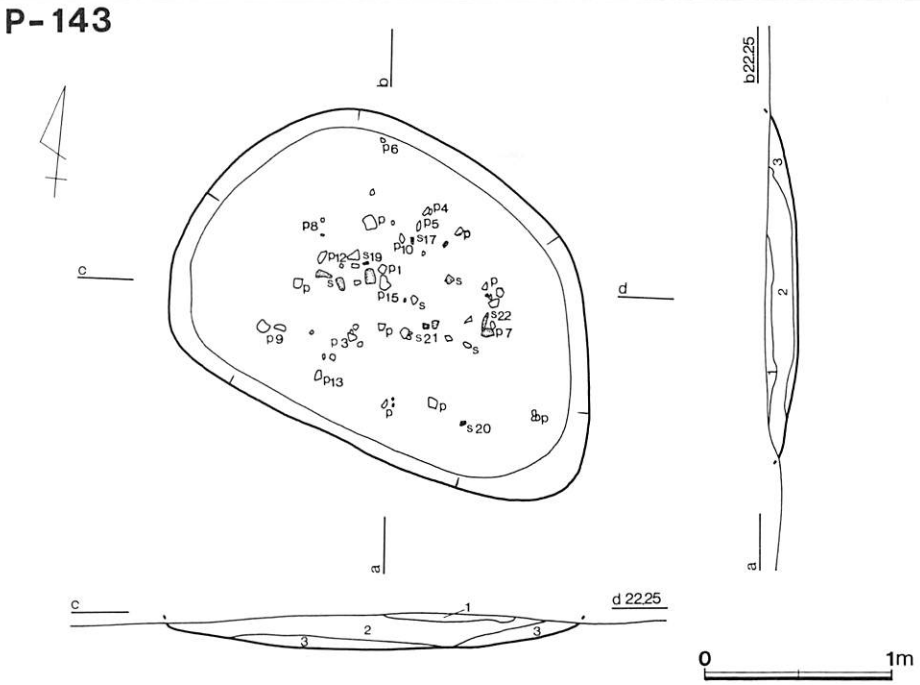
P—155の出土土器

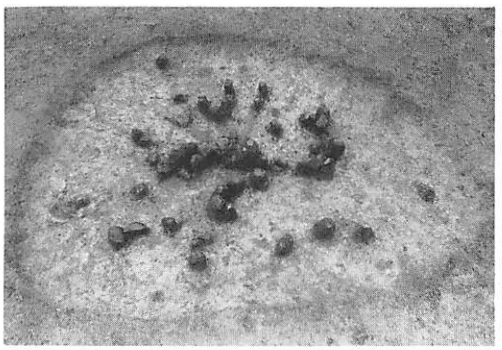




P—155の出土石器

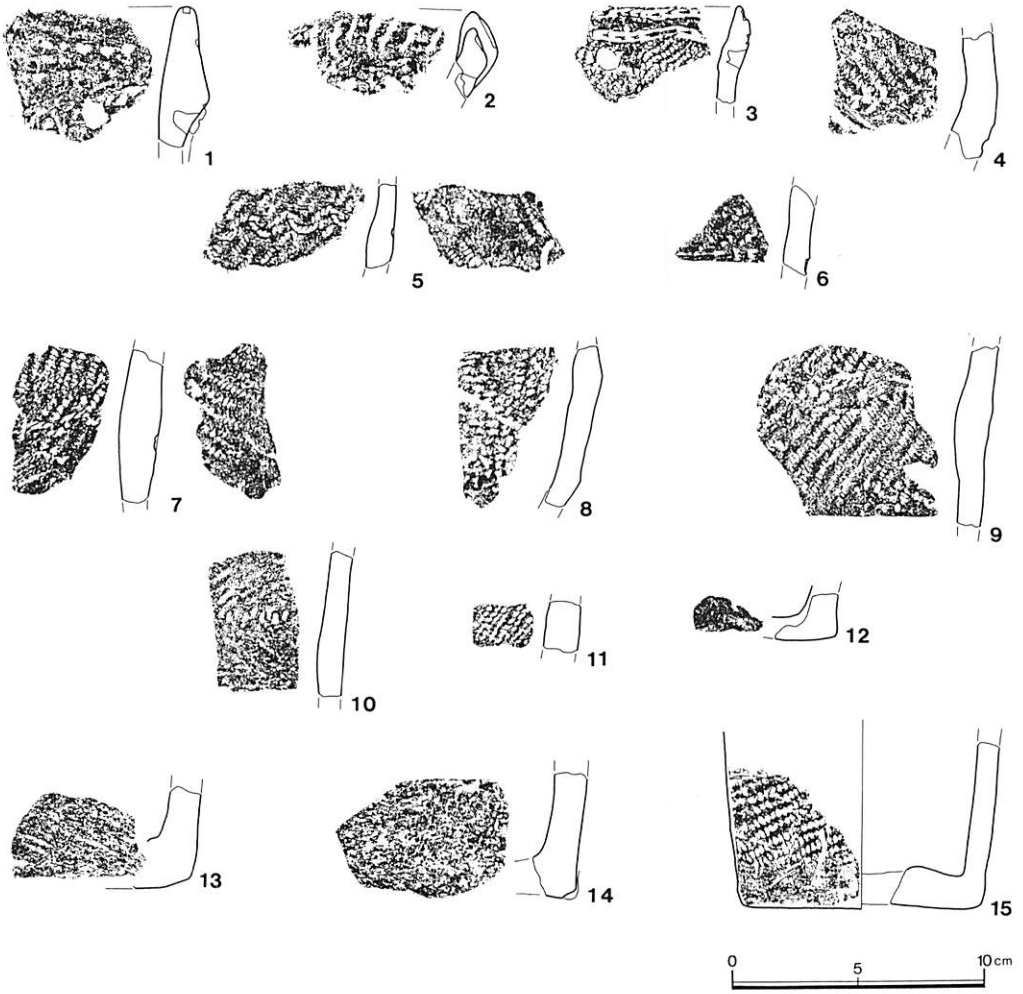
P-143

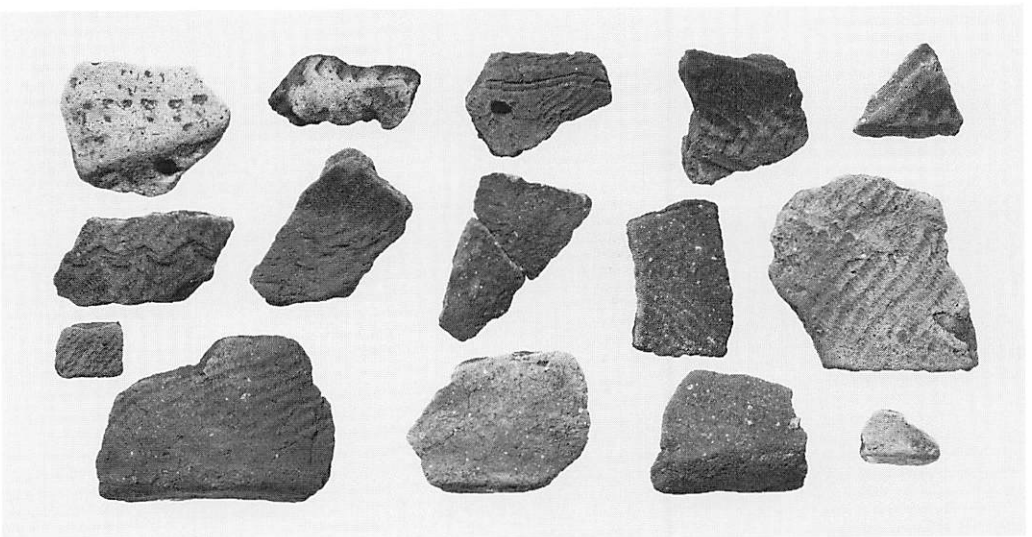




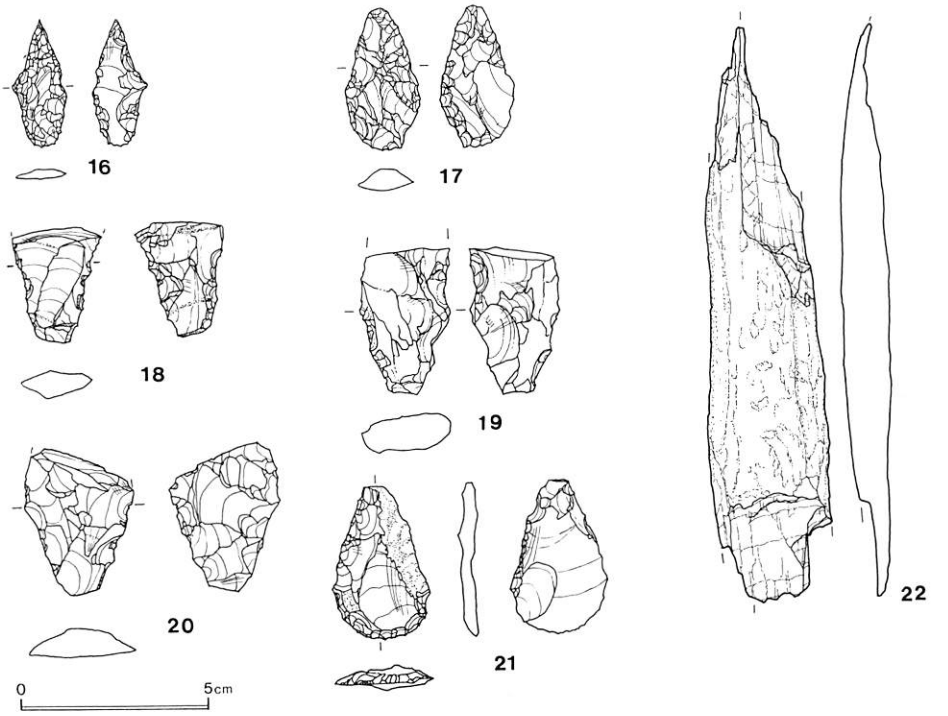
1．黒色土（粒状）
2．暗褐色土
3．黄褐色土

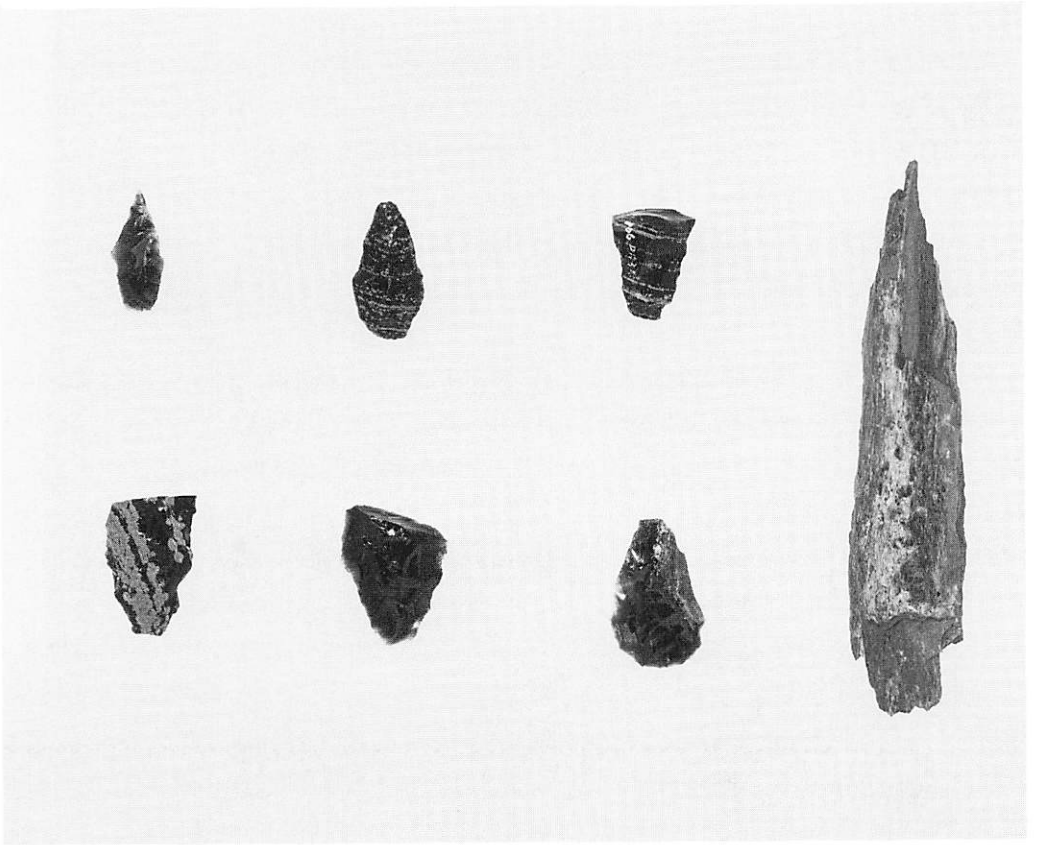
P—155の出土石器・P—143





P—143の出土土器





P—143の出土石器

P－52

小さな沢に向かう傾斜地の62－73区に位置する。壙底はやや凹凸のある皿状である。壙底から20点余のⅢ群ｂ－３類土器が出土。１の肥厚帯には弧状の刺突文が密に刻まれ、３には縦や斜めの押引文がみられる。４は石斧破片。片岩を素材にしている。片面は焼けてやや赤化している。重さは119.4g。他に礫１点、黒曜石剥片11点、片岩または泥岩剥片26点が出土した。

P－97

調査区の中央西側、60－79区に位置する。壙底は南側がやや低い。１は肥厚帯に円形の刺突文を並べたもの。２・３は薄手で、肩部に隆帯状の高まりがあり、縄線文が押捺されている。４には３条の縄線文がみられる。６には平篦による連続刺突文がめぐり、７の底面は再利用され、叩かれて凹んでいる。４はⅢ群ｂ－２類、他はｂ－３類。８は石斧破片。片岩を素材にし、打ち欠きとペッキングにより成・整形している。重さは498.5g。他に礫が２点検出されている。

P－131

調査区中央西側、59-81区に位置する。覆土上部に焼土がみられた。１～３は、覆土から採集されたⅢ群ｂ－３類土器の胴部破片。１には単節の斜行縄文が施されている。２・３は小片で、地文がみられない。黄茶褐色がちで、胎土に多量の砂を含む。４は石斧。粘板岩の扁平礫を素材とし、その周囲を研磨して成・整形している。重さは126.4g。他に礫が２点検出した。

P－119

調査区の中央西側、59・60－83区に位置する。確認面に焼土を検出した。覆土からⅢ群ｂ－３類を主体とする土器片が出土。１は口唇や内面にも縄文があり、肥厚帯に２段の押引文がめぐるもの。２はⅢ群ｂ－２類に属する口縁片で、半截竹管の押引きと綾絡文とがみられる。３・４は胴部片。５・６の底部片は、摩耗が進んでいる。７は石斧破片。泥岩を素材に打ち欠きと研磨により成・整形している。重さは43.2g。８は砥石破片。砂岩を素材にし、重さは86g。９は使用痕のある黒曜石剥片。重さは3.1g。他に礫１点と黒曜石剥片６点を検出している。

P－123

P-119の南東3.5m、59・60-83区に位置する。覆土上部に焼土が堆積していた。１はⅢ群ｂ－２類の口縁片で、貼付帯と押引き状の刻みがあり、縦位の貼付帯は剥落している。２・３には無節の斜縄文と綾絡文がみられる。他に礫１点と黒曜石剥片９点、泥岩剥片４点が出土した。

P－190

調査区中央のやや南寄り、54－86区に位置する。壙底はやや凹凸がある。覆土から40点近くのⅢ群ｂ－３類に属する土器片が出土している。器面が摩耗し、文様の不明瞭な例が少なくない。１・２は裏面にも縄文があり、３～５には綾絡文が加えられている。10はやや薄手の胴部片。11には、底面への移行部に沈線がみられ、意図的な施文と思われる。12は石斧破片。千枚岩を素材にして打ち欠きにより整形している。重さは29.2g。13は凹石。安山岩を用いている。重さは82.2g。14・15は砥石。砂岩を素材にしている。14は中央と北側床面のものが接合した。重さは194.6g。15の重さは64g。他に礫９点、黒曜石剥片46点、片岩剥片４点が出土した。

P－152

H－1の西6m、60-90区に位置する。覆土の南西側から焼土を検出した。柱穴状の小ピットを2基、壙底の北東と南西の中寄りに検出した。覆土から30点近くの土器片が出土。大部分はⅢ群b－3類に属するもので、多くは裏面にも縄文が施文されている。1・2の肥厚帯には押引文があり、1は口唇部にも押引きが加えられた痕跡が残されている。3は口縁部に密な刻みが並ぶもの。4・5の格子状に配された貼付帯には、押引きがみられる。6はⅠ群b－2類の破片と思われる。他に礫3点、黒曜石剥片5点、硬質頁岩剥片1点、片岩剥片2点が出土した。

P－184

調査区の東側、46－83区に位置する。覆土上部に焼土がみられた。覆土から4点のⅢ群b－3類土器が検出されている。1は口縁肥厚帯部の破片で、肥厚帯と口唇上に半截竹管による押引文がめぐり、内面にも縄文がある。2・3は縄文の施された胴部片。4の地文は結束第二種をもつ原体を回転押捺したもの。5は使用痕のある黒曜石剥片。重さは2.2g。

P－126

P-143の南西5m、59・60－86区に位置する。覆土上部に焼土がのる。1は縄線文の付された口縁片。2は貼付文の交点に小さな刺突をもつもの。4は胎土や焼成が1に近く、7の表裏には不規則に縄文が重ねられている。1・4・7はⅣ群a類らしい。他に礫が4点検出した。

P－186

調査区中央のやや南寄り、52－87区に位置する。H－4から東南東に6m離れている。覆土の上位に炭化物が分布し、中位には黒曜石剥片がまとまって検出された。総数237点、重さ88.6gをはかる。大きなものは重さ6.8gある。覆土から18点のⅢ群b－3類土器が出土。器面の摩耗した例が少なくない。1は口唇上に押引文が、2の肥厚帯には2段の押引文がある。6には結束第一種のある羽状縄文がみられる。7・8は石斧破片。7は泥岩を素材にし、打ち欠きによる成形が行われている。重さは87.2g。8は片岩を素材にペッキングと研磨による成・整形が行われている。重さは27.1g。他に礫が3点、めのう剥片が1点、片岩剥片3点が出土した。

P－183

調査区の最も東に検出された遺構である。44－84区に位置する。遺物は出土していない。

P－187

57-85区に位置する。東側は道路の側溝による撹乱を受けている。平面形は楕円を呈すると推定される。覆土から土器片が7点出土。1・2は表面の摩耗が進んだ口縁片で、1には2条の縄線文がみられる。3も摩耗のため不明瞭だが、単節の斜行縄文の一部が残る胴部片である。4は有茎の石鏃。黒曜石を素材にしている。尖端と茎が欠損している。重さは1.6g。5は北海道式石冠の上部破片と考えられる。素材は安山岩を用い、側面はペッキングにより整形、上端部は研磨がみられる。重さは28g。他に礫1点、黒曜石剥片6点、片岩剥片3点が出土した。

P－191

57-85・86区に位置する。東側半分はP-193に切られている。覆土から140点以上の土器が得

られている。大部分はⅢ群ｂ－３類に属する破片だが、器面の摩耗が進んだもの、小さくて図示に耐えないものが多い。１・２は断面三角状の肥厚帯をもつ口縁片で、２には結束第一種のある羽状縄文がみられる。３・４は肥厚帯のない口縁片。３では口唇にも縄文が施され、はっきりしないが４の内面にも縄文があるらしい。５には辛うじて押引文が残っている。６～９には結束第一種のある羽状縄文がみられる。10・11・14・15には斜行縄文が、12には羽状縄文がある。16・17は無文らしい。18は厚手で表裏に縄文がある。20～22は底部片。19は整形や一部に残る縄文の印象からⅤ群ｃ類と思われる。23はドリル。素材は珪質頁岩で、断面三角形になる棒状剝片を用い、錐部を作出している。重さは0.4g。24はつまみ付ナイフ。黒曜石を素材にしている。ａ面と左側面に原石面を残した厚い剝片を用いている。重さは20.3g。他に礫が26点、黒曜石剝片220点、頁岩剝片８点、めのう剝片７点、片岩または泥岩剝片62点が出土した。

Ｐ－189

調査区中央の58－84区に位置する。覆土から上は風倒木痕によると推定される焼土を含む撹乱層である。１は貼付帯とその縁を刻む爪形状や円形の刺突文が密に配された口縁突起部。２・３は押引文をもつ口縁片で、かすかだが３の口唇部にも押引きが残されている。４・５は円形刺突文が残る破片。９・10には、結束第一種の羽状縄文がある。14の表裏に残る痕は意図的な文様ではない。１はⅢ群ｂ－１類に、他はｂ－３類に属するもの。16は円錐形の土製品。17はポイントまたはナイフの基部破片。素材は黒曜石。重さは1.4g。18は凹石。安山岩を用い、重さは281.5g。19は北海道式石冠の破片と考えられる。素材は安山岩。重さは16g。20は砥石の破片。砂岩を用い、重さは25.8g。他に礫が63点、黒曜石剝片16点、片岩９点が出土した。

Ｐ－147

Ｐ-148に隣接した59－89区に位置する。南側の壁際覆土から礫を１点検出した。

Ｐ－161

Ｈ－２から南西に１ｍ離れた59－91区に位置する。壙底はほぼ平坦。南東側の壙底から４の土器が出土した。１は薄手で、黄赤褐色がちな色調を呈するⅠ群ｂ－２類土器の小破片である。２は灰黒褐色を呈し、斜行縄文がみられるもの。３は裏にも縄文が施された胴部片。４は結束第一種のある羽状縄文が地文となるもの。５は平底の底部片。2～5はⅢ群ｄ－３類。6はつまみ付ナイフ。珪質頁岩を素材にしている。重さは3.4g。７・８はスクレイパー。素材は黒曜石。７は縦長剝片を用い、右側辺はややコンケイブした刃部を作り出している。重さは23.2g。8は上部に原石面を残した横長剝片を用いている。重さは7.8g。９は北海道式石冠の破片と考えられる。安山岩を素材にしている。重さは14.6g。他に黒曜石剝片が14点検出されている。

Ｐ－135

調査区南西、60-91区に位置する。南西に2m離れてＰ-136がある。１～３は覆土出土のⅢ群ｂ－３類土器。１は口唇上にも縄文があり、左下の丸い凹みは新しい傷痕。２・３は摩耗や剝落のあるもので、３では内面にも縄文がみられる。４はスクレイパー。黒曜石を素材に、全周に刃部を作り出している。重さは7.8g。他に黒曜石剝片18点、片岩剝片３点が出土した。

P－222

調査区の南側56・57―91区に位置する。楕円形を呈し、壙底は平坦である。Ⅱ層を除去した段階で黒褐色の落ちこみがあり、それを取り囲むように環状に暗黄褐色土が堆積していることから検出された。付近の土壙の堆積状況とはまったく違っており、遺物は出土していない。

P－220

調査区の南側56－90区に位置する。不整円形を呈しP-221と切りあっている。壙底には凹凸があり、中央部に薄く、比較的あざやかなオレンジ色の焼土が見られた。1～4は、Ⅲ群b－3類土器、5～10はⅢ群b類土器である。11は、黒曜石、12は、珪岩のフレイクである。13は石斧の破片で敲打痕がある。

P－221

調査区の南側57－90区に位置する。不整円形を呈しP-220と切りあっている。壙底は凹凸があり立ち上がりは不明瞭である。1は、口縁部の縄文がすり消されている。5は黒曜石製のスクレイパーで、熱を受けて表面が白くなっている。

P－216

調査区の北側57－90区に位置する。不整形をなし壙底に凹凸があり立ち上がりは不明瞭である。1は、平縁で口唇に縄文が施文されている。3は、ポイント、4は、フレイクコアでいずれも黒曜石製である。5は、砥石。6はくぼみ石の破片である。

P－217

調査区の北側57－90区に位置する。不整形をなし壙底に凹凸があり立ち上がりは不明瞭である。1～6は、Ⅲ群b類土器である。7は、石斧片で泥岩製である。8は白色の礫で凝灰岩ではないかと思われるが、付近の地層にはこのような礫は存在しない。なお同様の礫について胎土分析を試みた。結果については胎土分析の項を参照されたい。

P－218

調査区の南側58―90・91区に位置する。卵形を呈し、立ち上がりはゆるやかで皿状をなす。石斧が1点出土している。

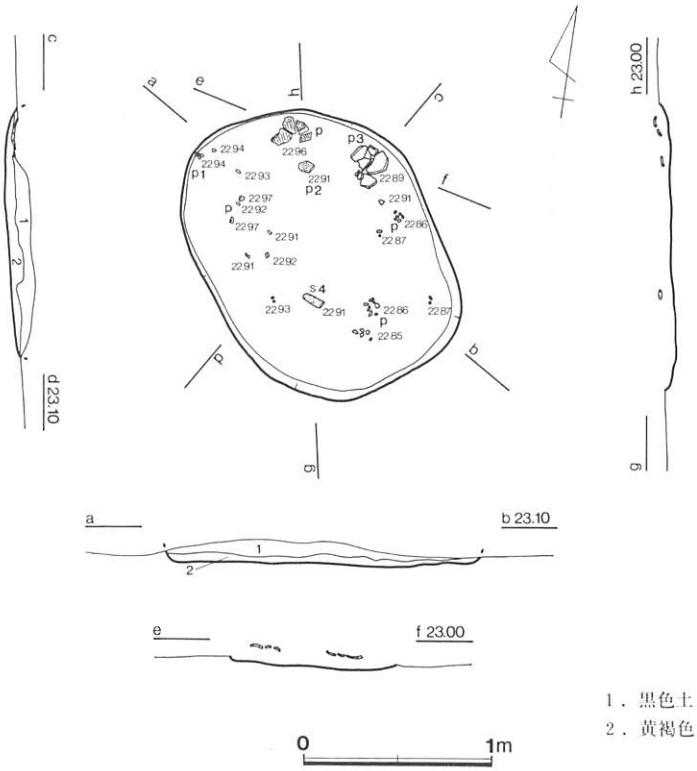
P－215

調査区の南側57－91区に位置する。楕円形を呈し立ち上がりはゆるやかで皿状をなす。Ⅲ群d類土器が出土している。

P－214

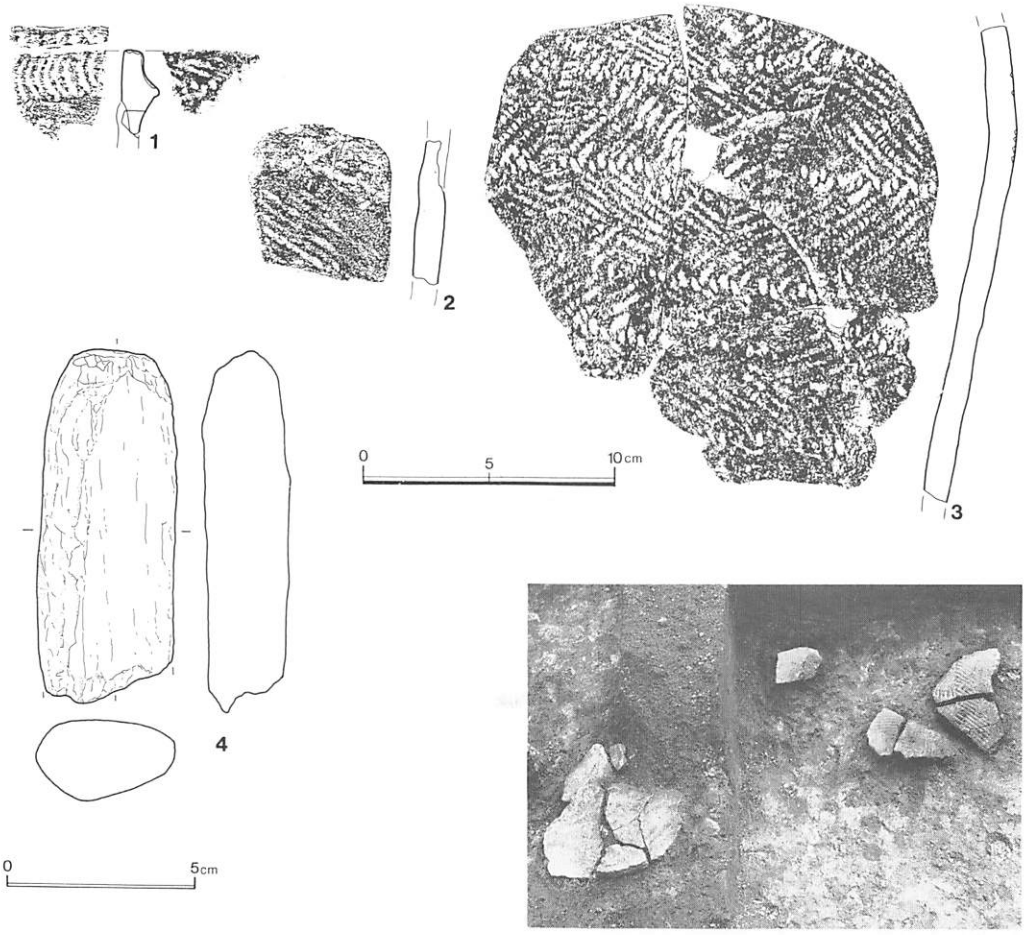
調査区の南側57－91区に位置する。楕円形をなし立ち上がりはゆるやかで皿状をなす。壙底の直上からⅢ群b類土器の胴部大片が出土している。1は、器面が橙褐色を呈し胎土に繊維を含む器面には結束第一種の羽状縄文が施文されている。内面には横位の調整痕が見られる。2は無文で縦と横に刺突列が施文されている。形状、規模、長軸の方向などはP-215と同一でありなんらかの関係が考えられる。

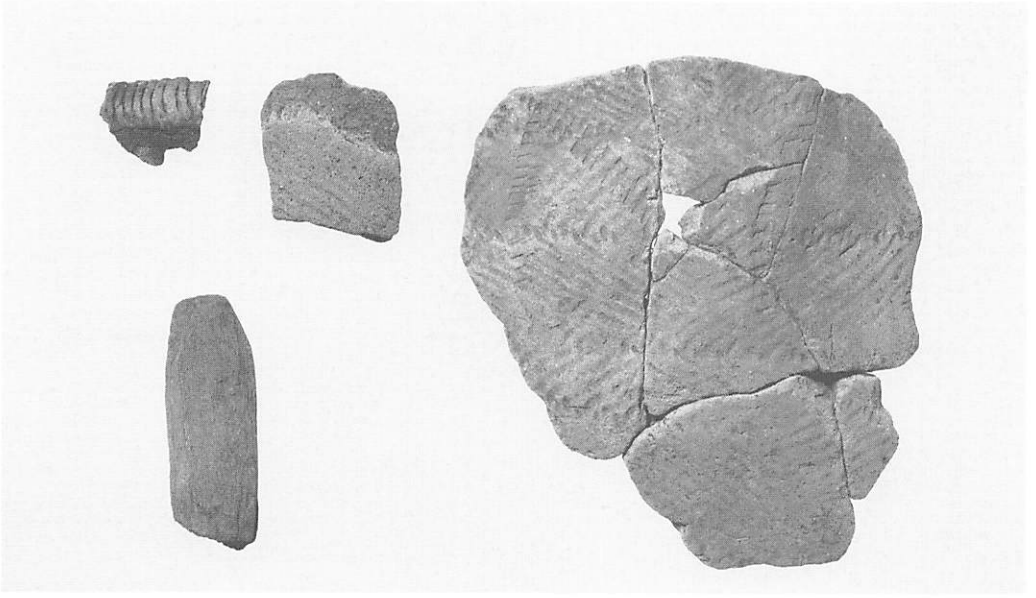
P-52



1．黒色土
2．黄褐色ローム＋黒褐色土

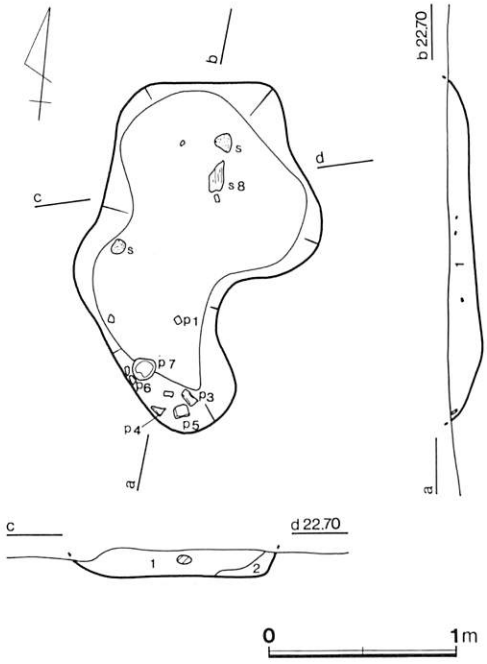
P—52



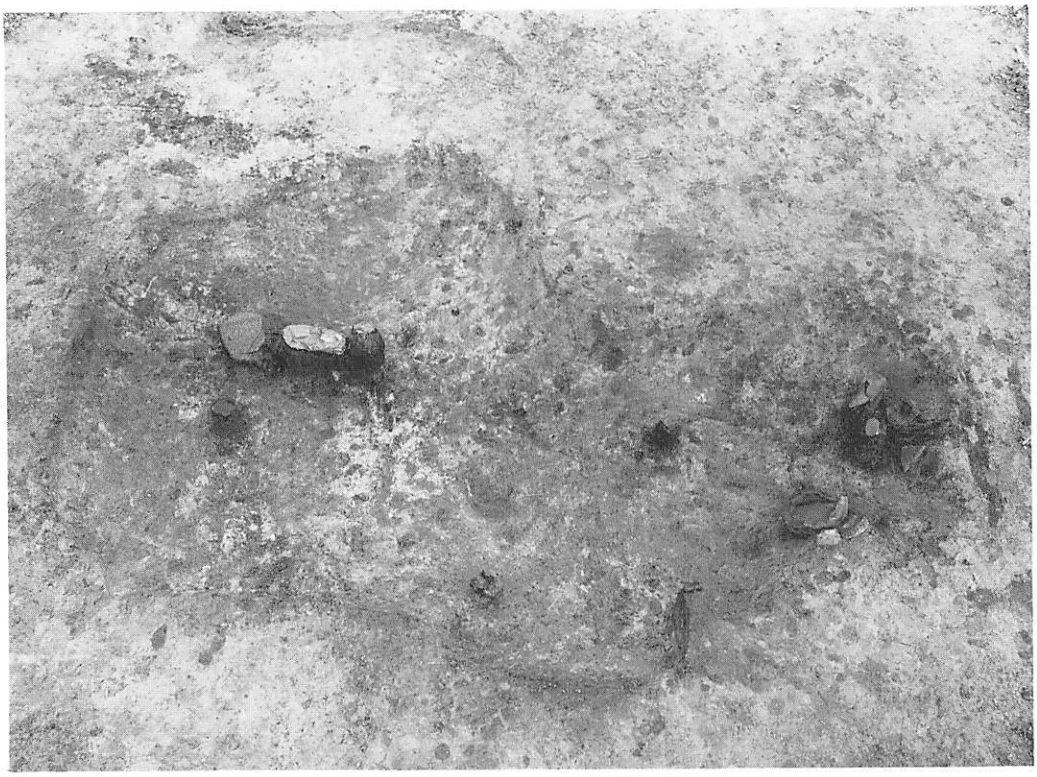


P—52の出土遺物

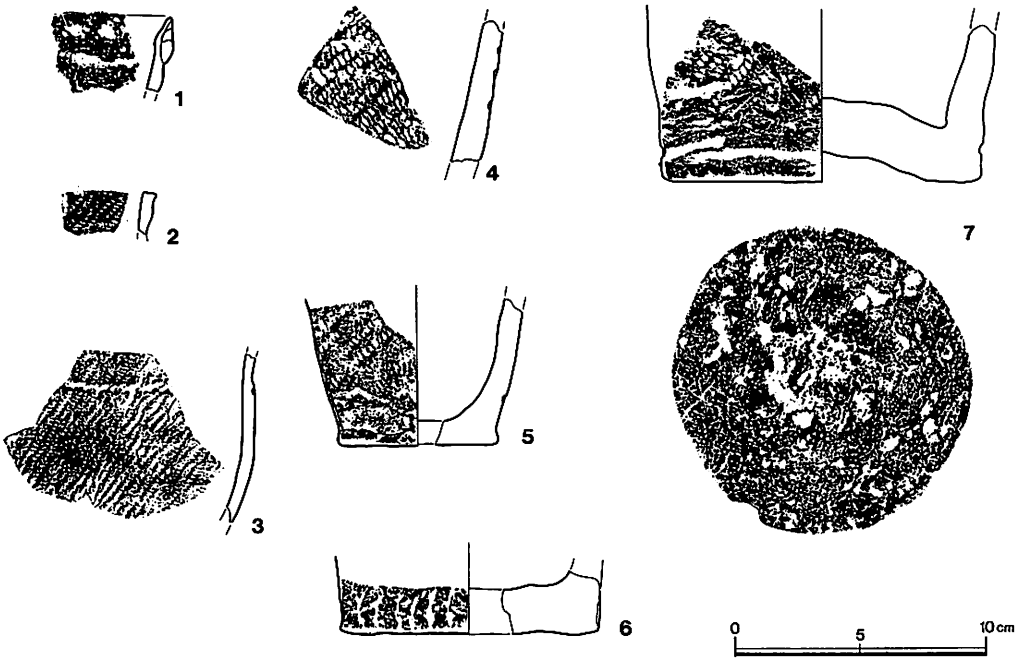
P-97

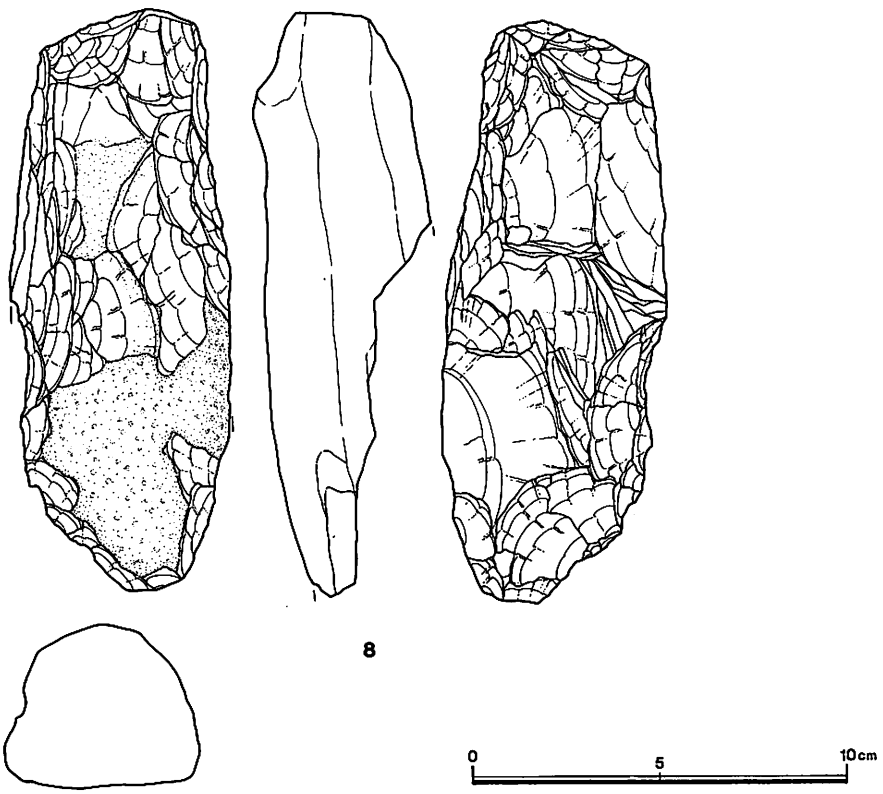


1．黒褐色土
2．茶褐色土

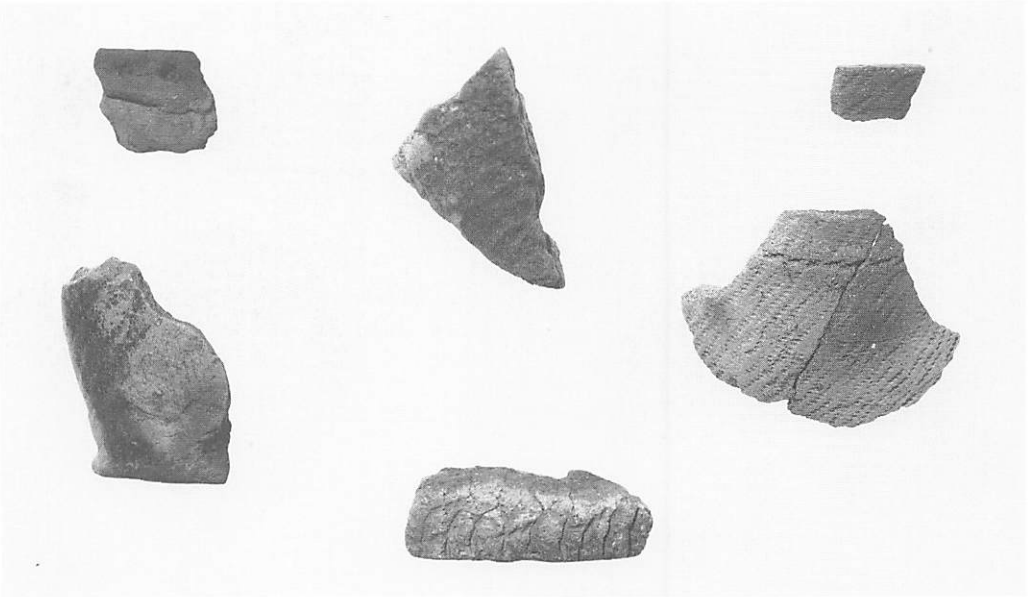


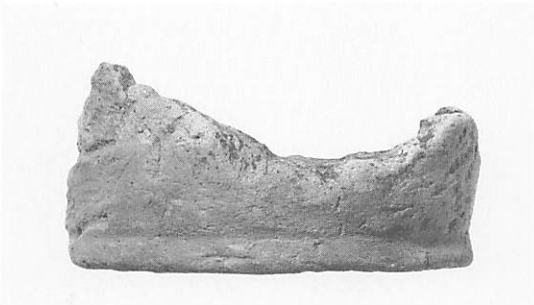
P—97

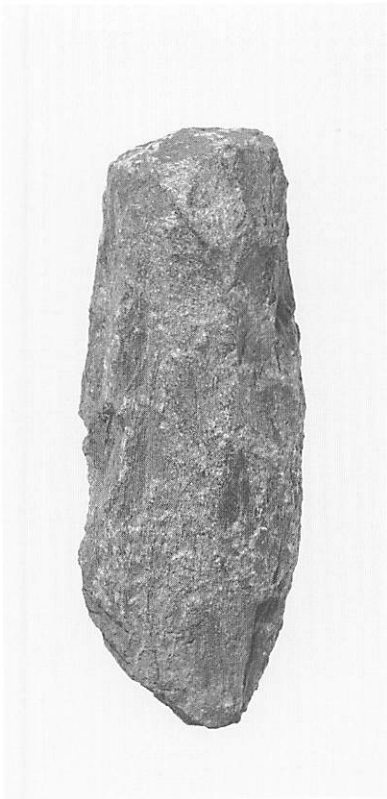




P—97の出土遺物

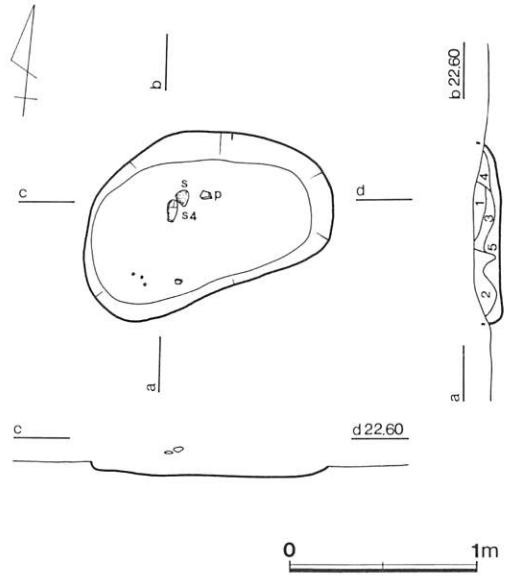




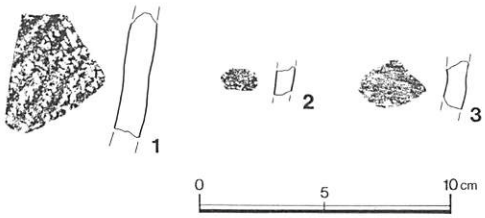


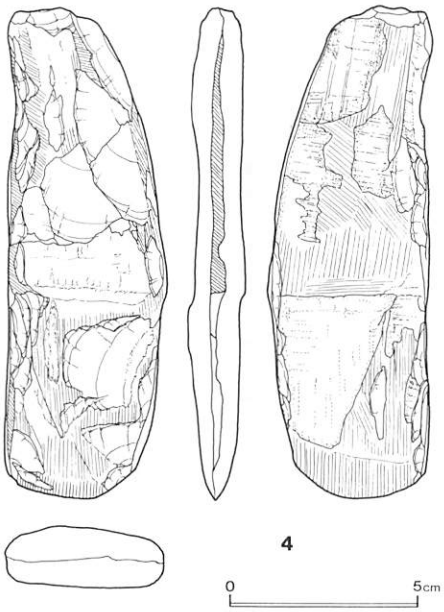
P—97の出土遺物

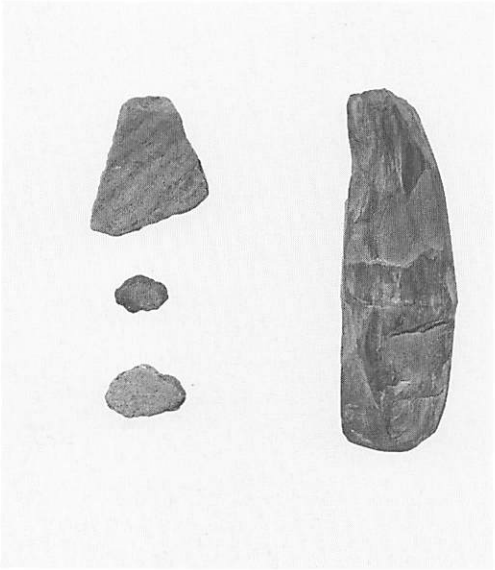
P-131



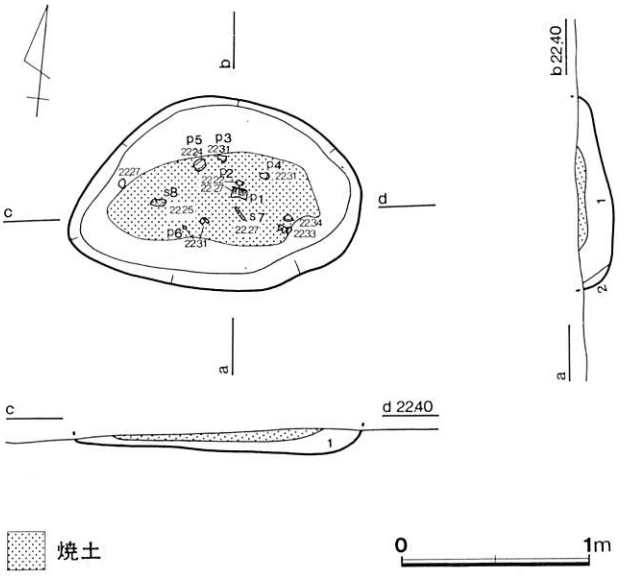
1．焼土
2．黒色土
3．暗褐色土
4．黒色土
5．暗褐色土(ローム混じり)



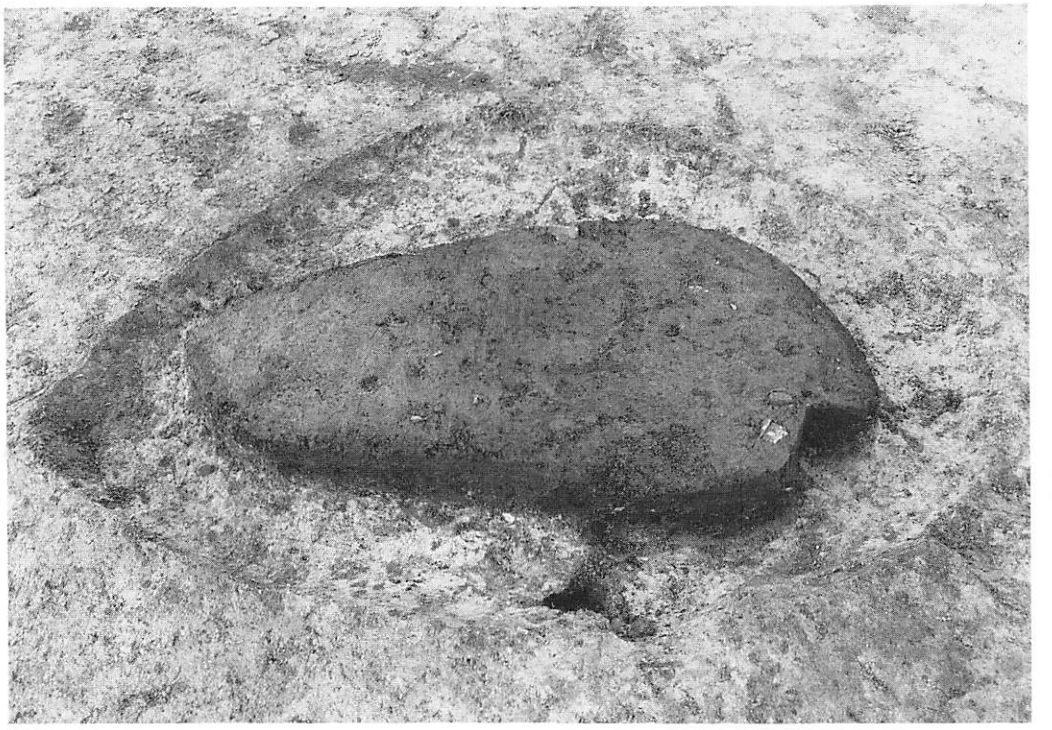




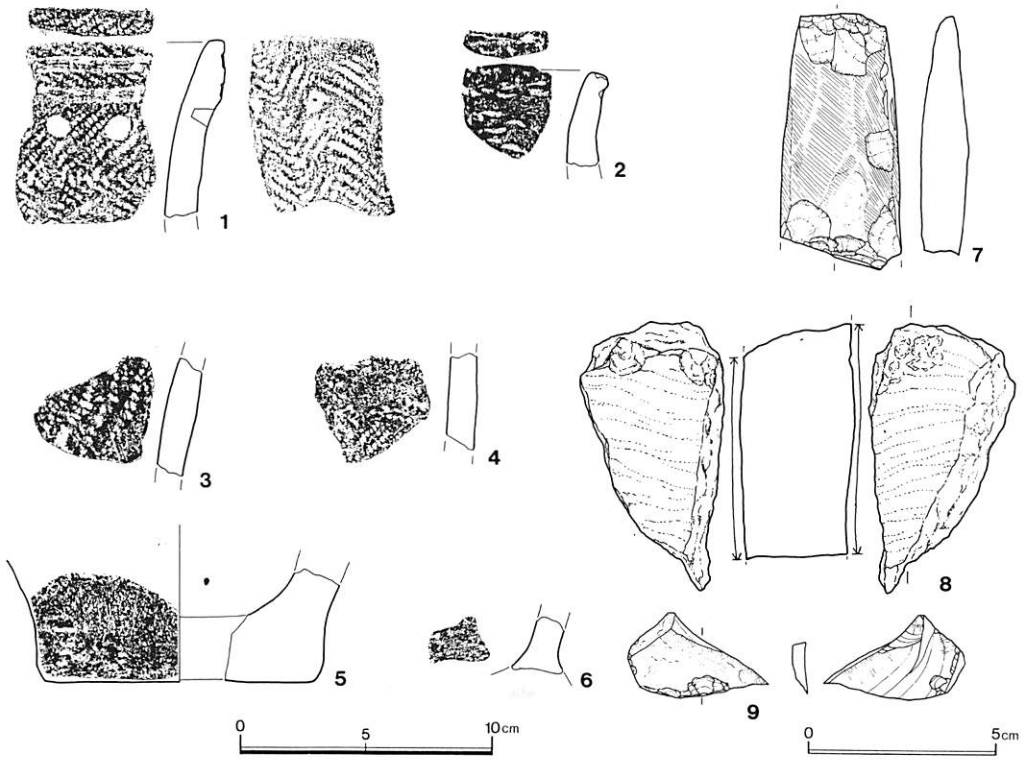
P-119

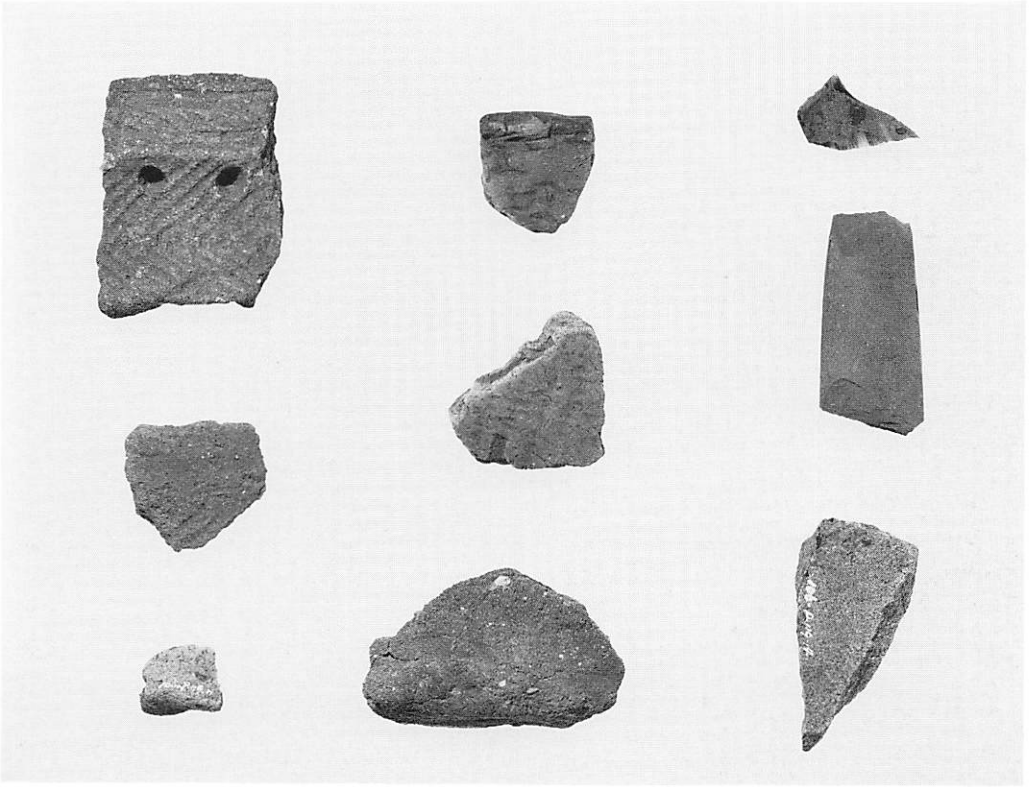


1．黒色土
2．黄褐色土



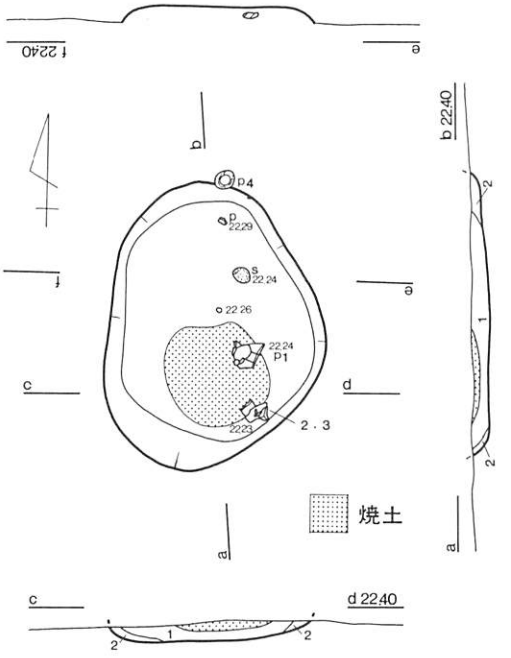
P—119

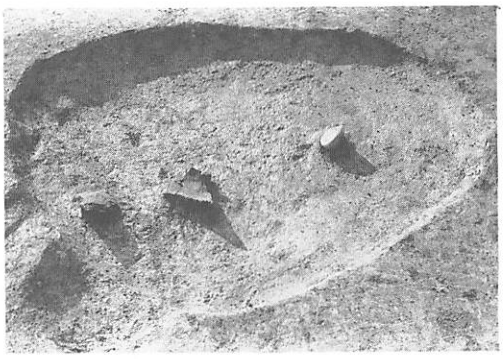




P—119の出土遺物

P-123

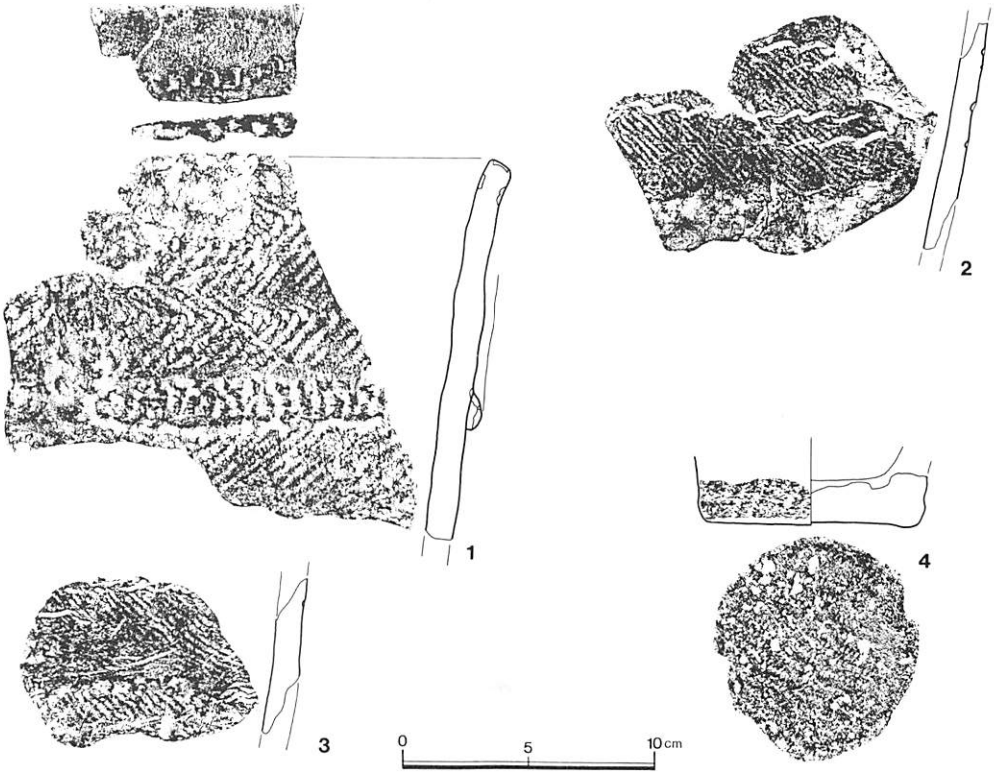


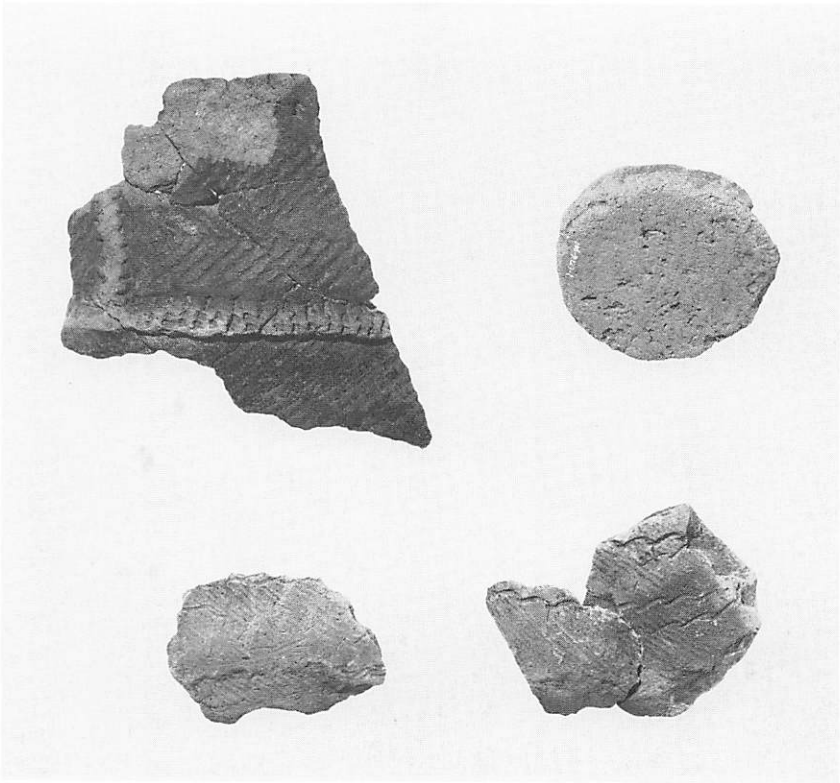


1．黒色土
2．黄褐色土
（ロームブロックを含む）

0　1m

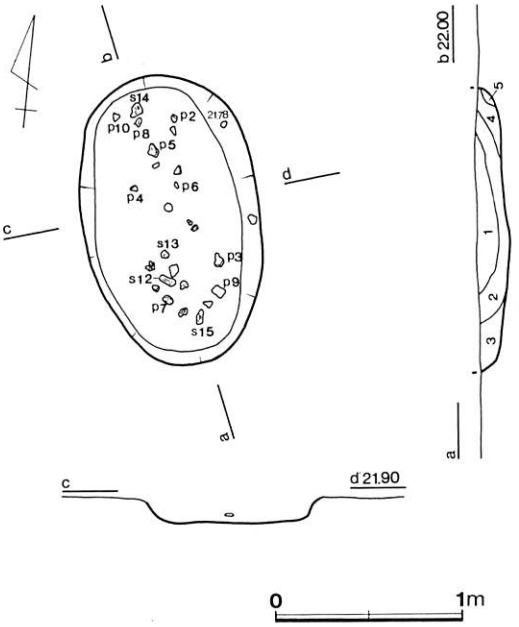
P—123



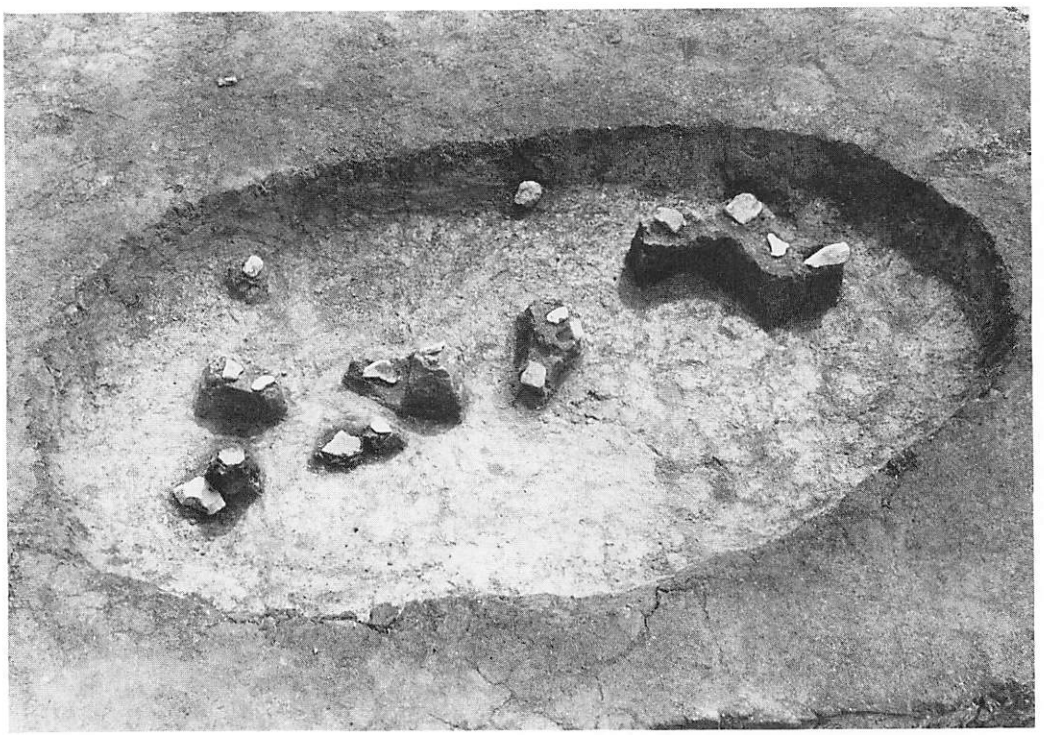


P—123の出土土器

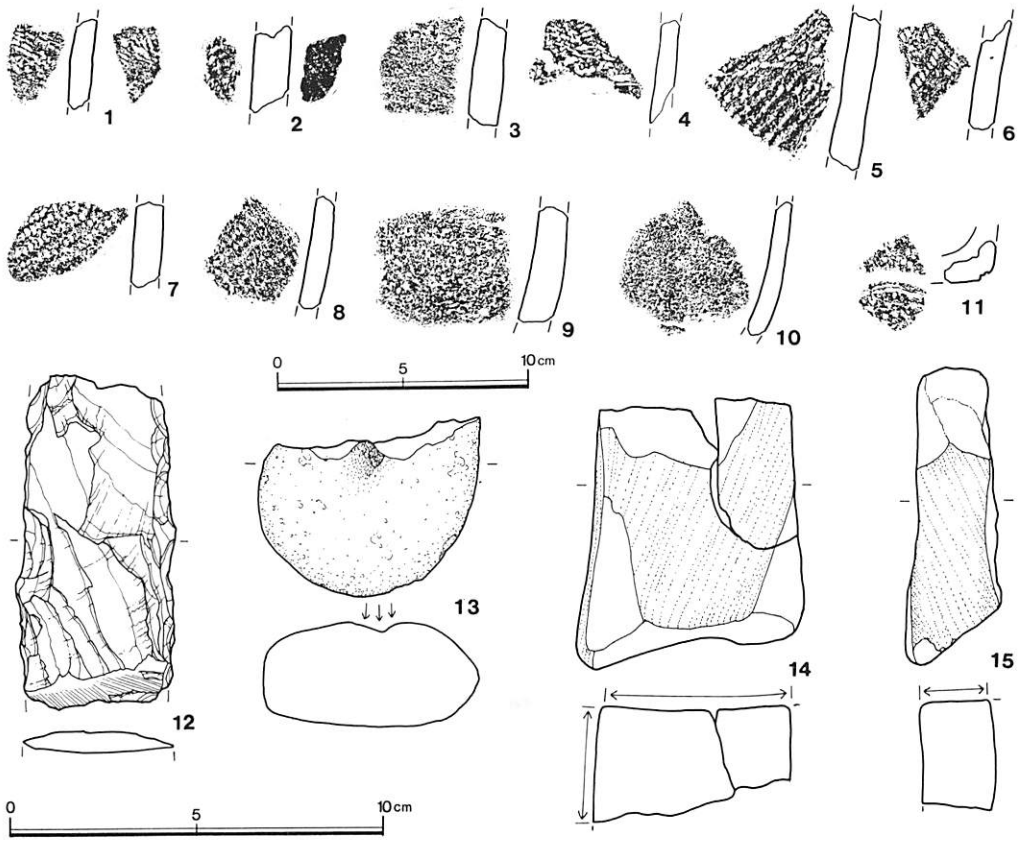
P-190

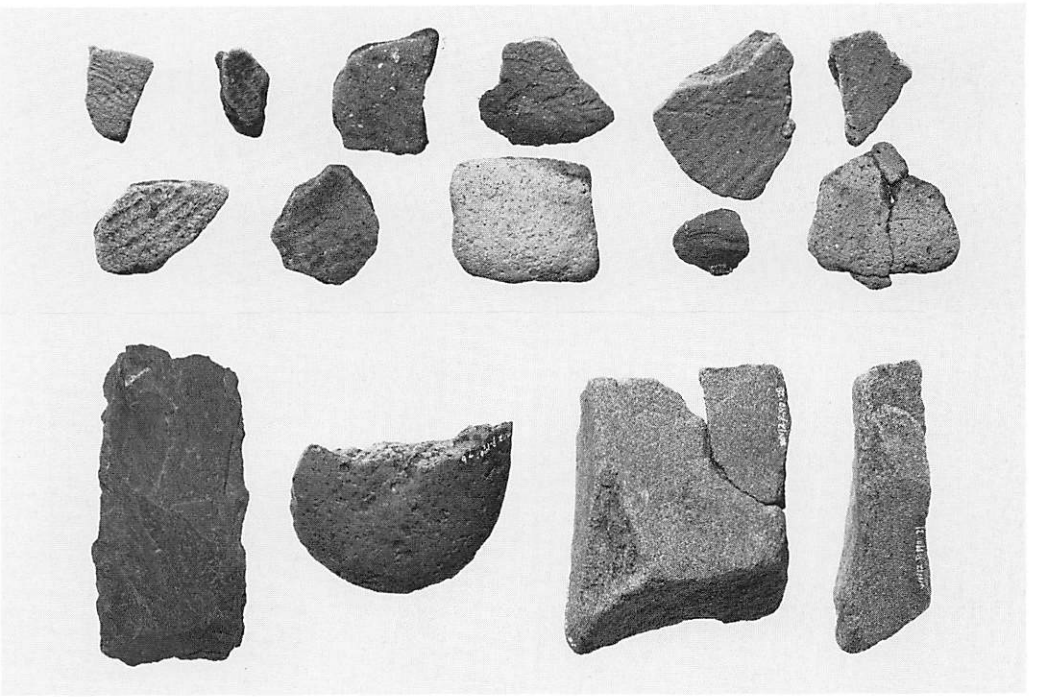


1．暗褐色土
2．黒褐色土
3．黒色土
4．黄橙色土
5．黒褐色土



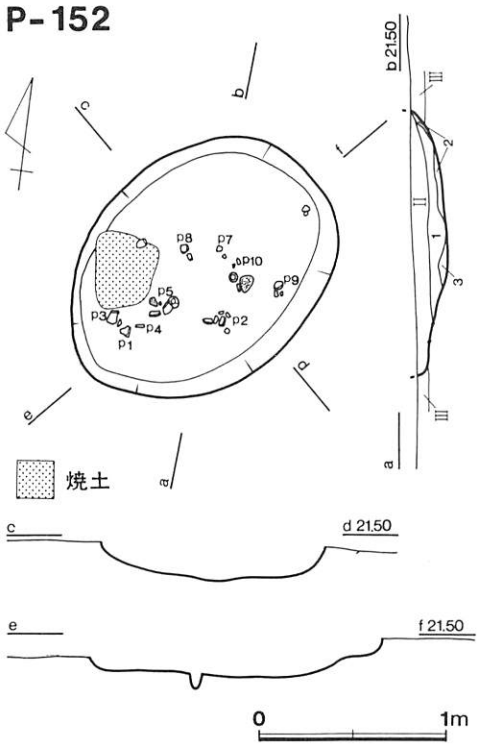
P—190



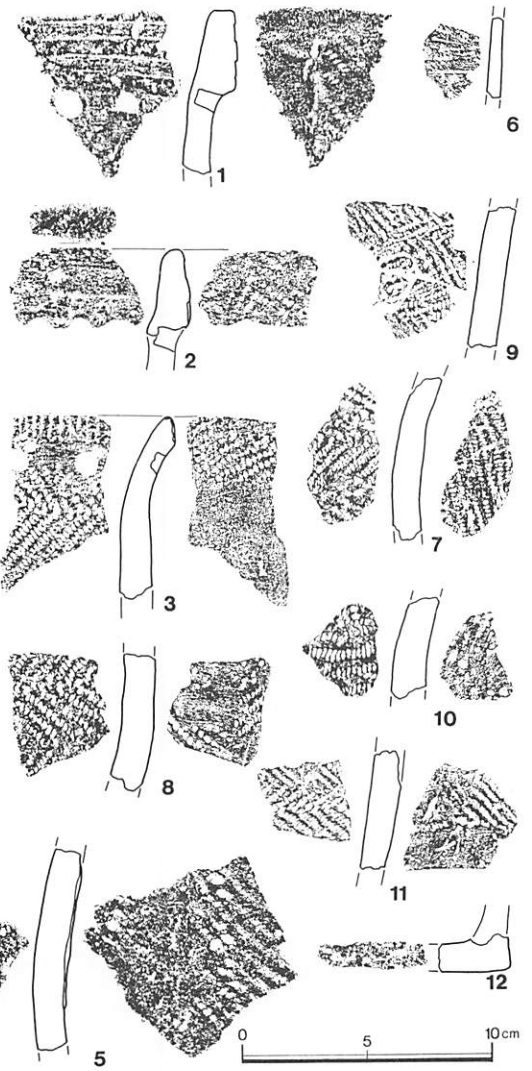


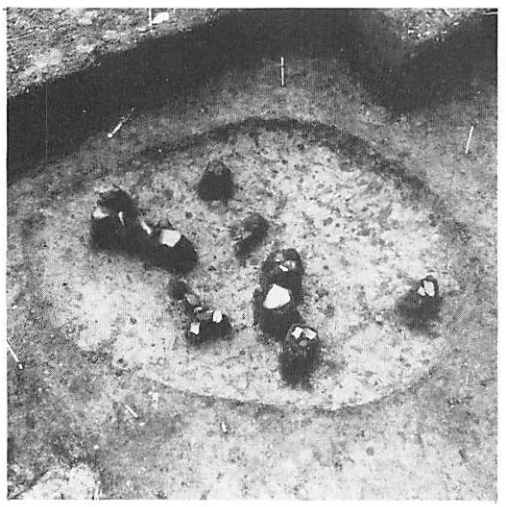
P—190の出土遺物

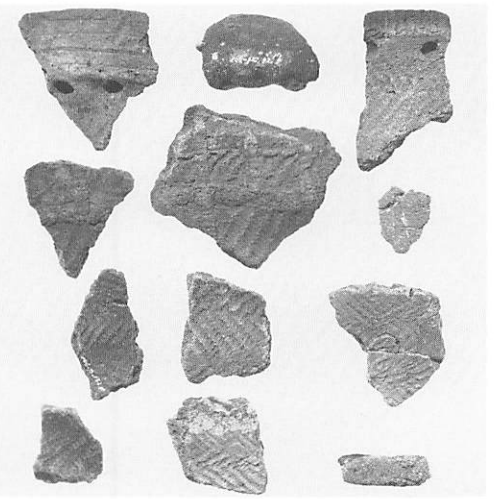
P-152



1．黒褐色土
（ロームまじり）
2．暗褐色土
3．茶褐色土
（焼土がまじる）

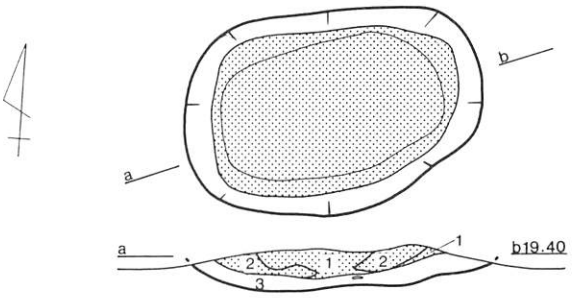






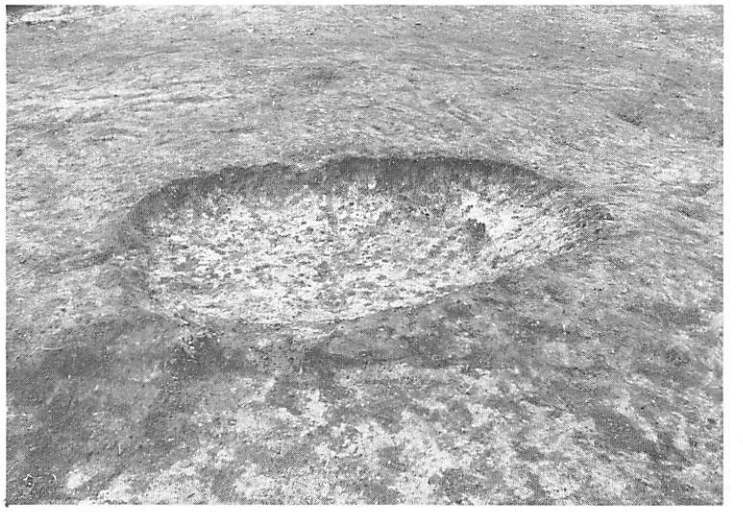
P—152

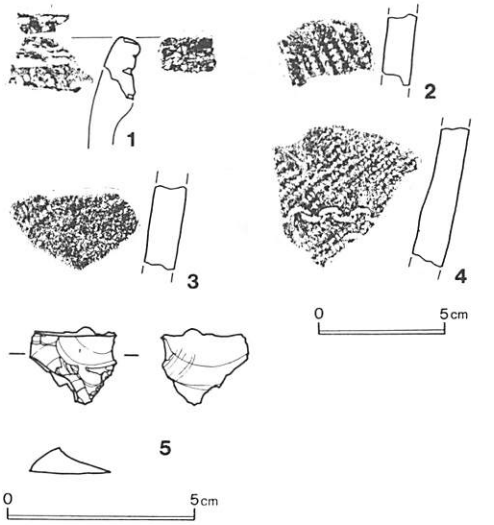
P-184

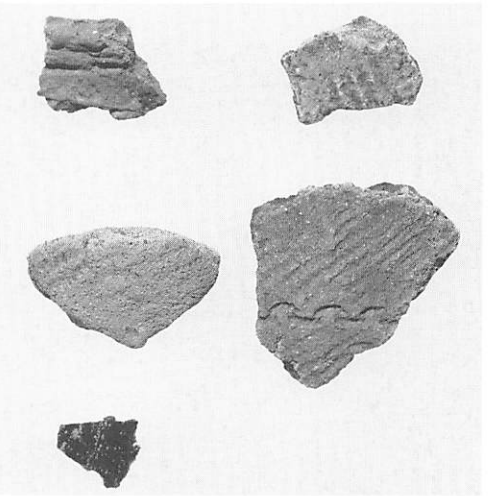


1．赤褐色土
2．暗赤褐色土
3．黒褐色土

焼土　0　1m

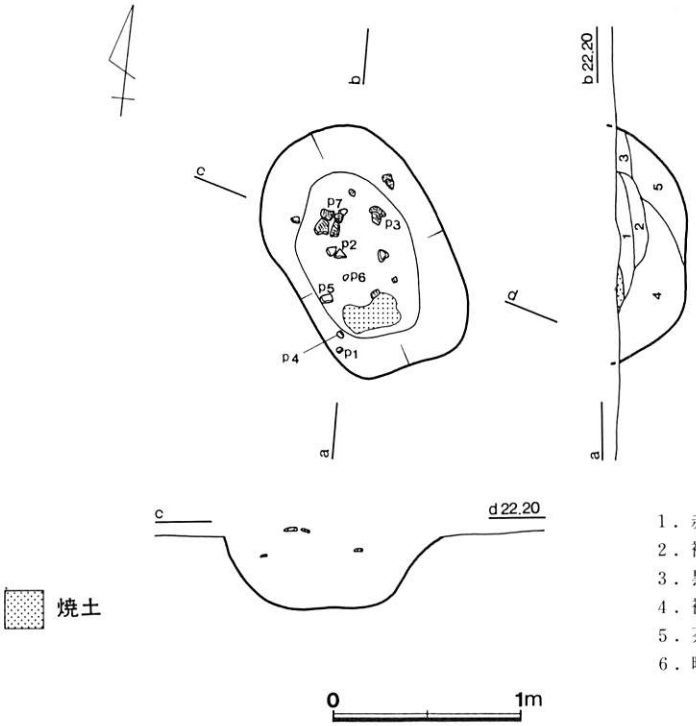




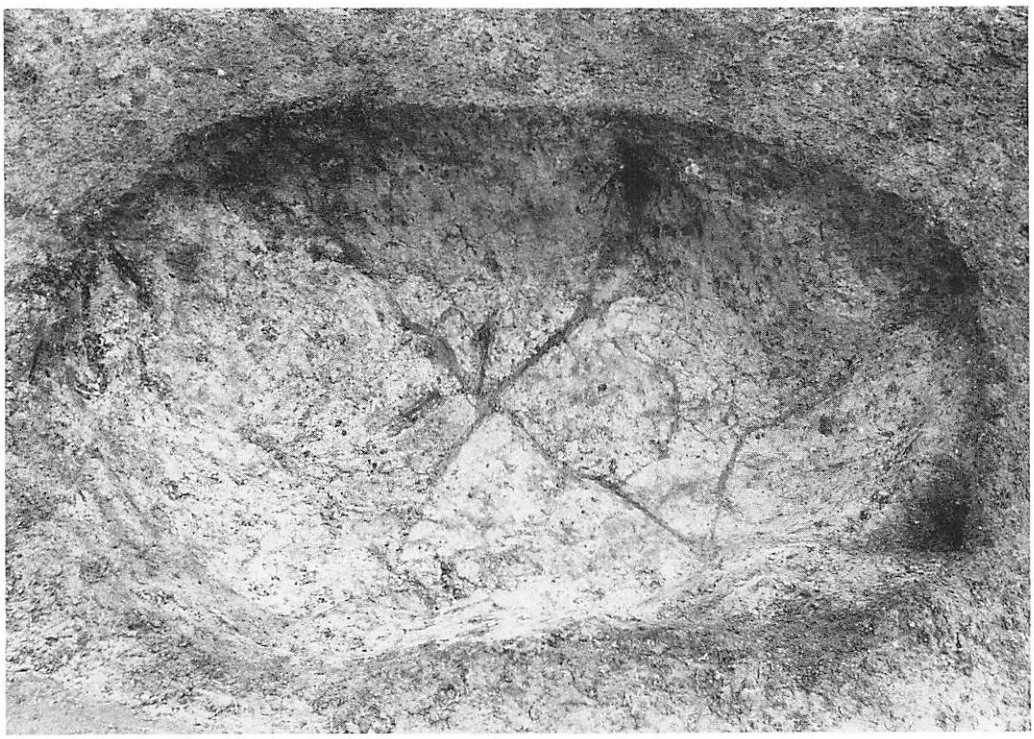


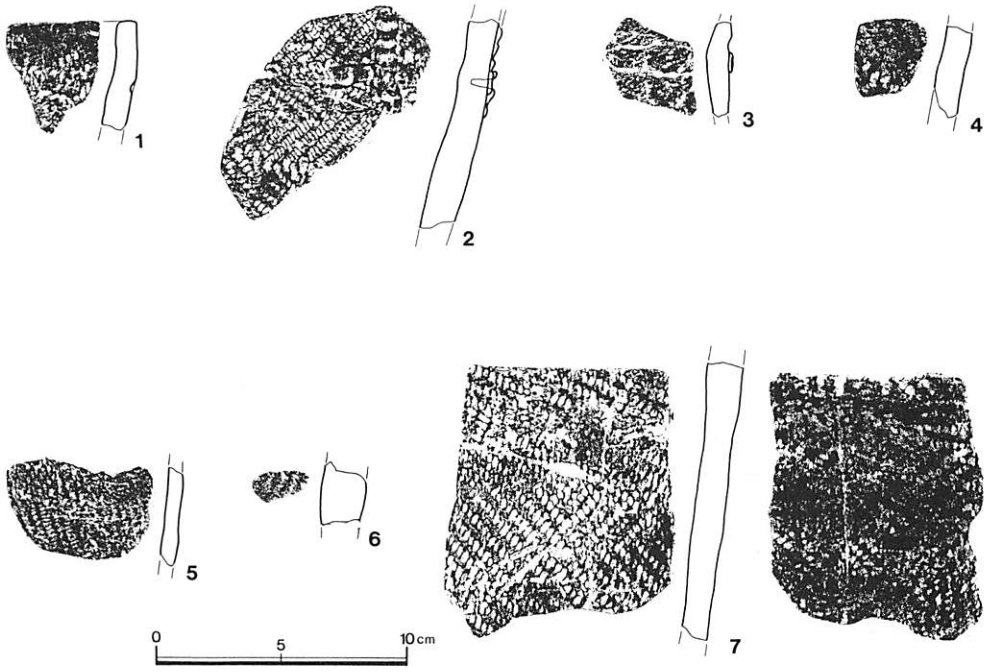
P—184

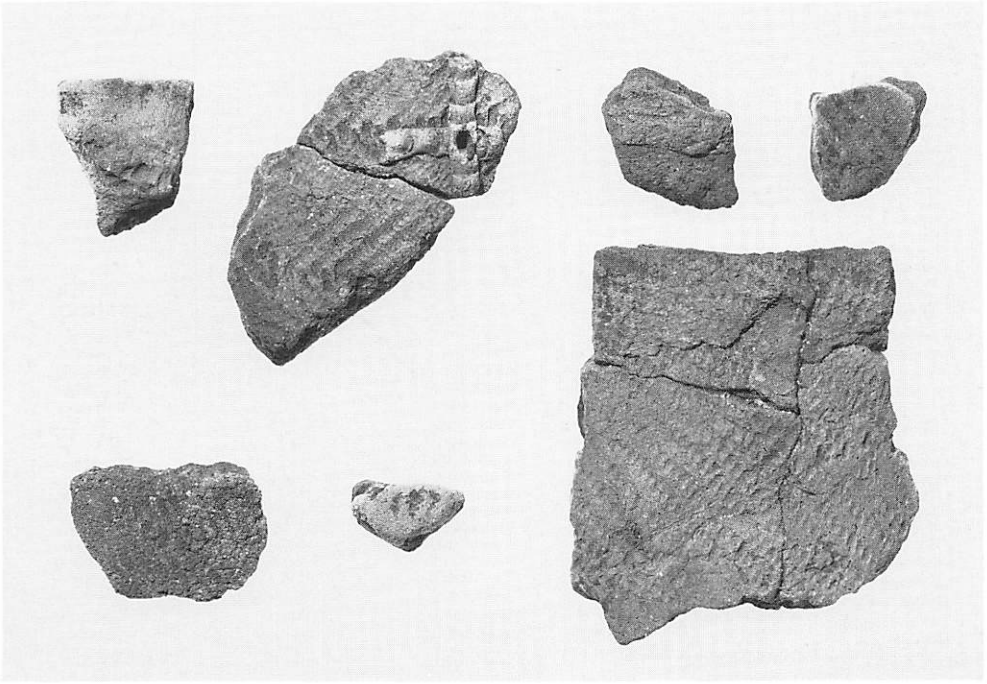
P-126



1．赤褐色土(焼土)
2．褐色土
3．黒色土
4．褐色土(黒色土にローム粒混入)
5．茶褐色土(粘性有り)
6．暗褐色土(ロームブロックを多量に含む)

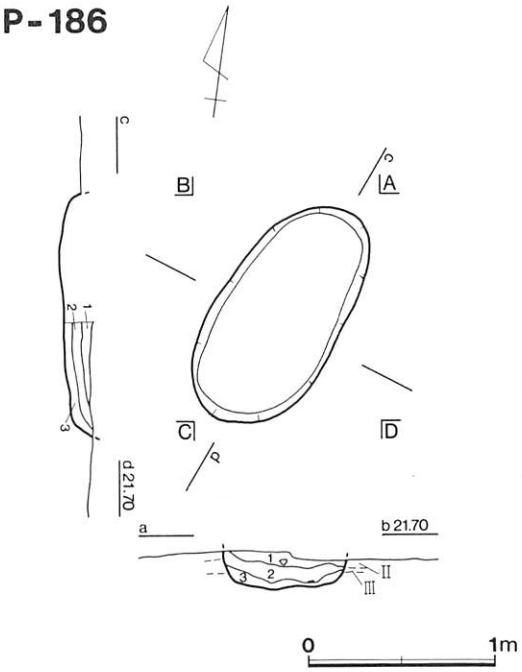


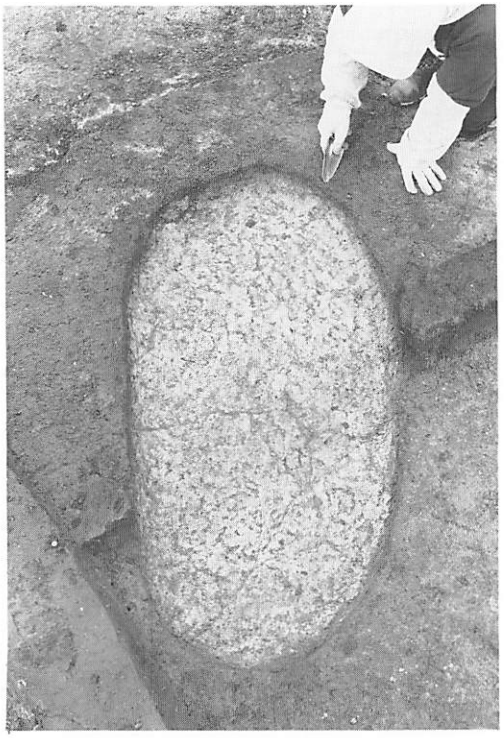




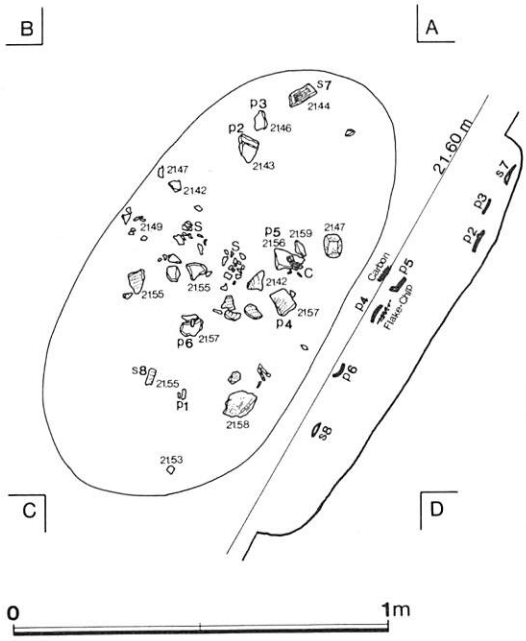
P—126の出土土器

P-186

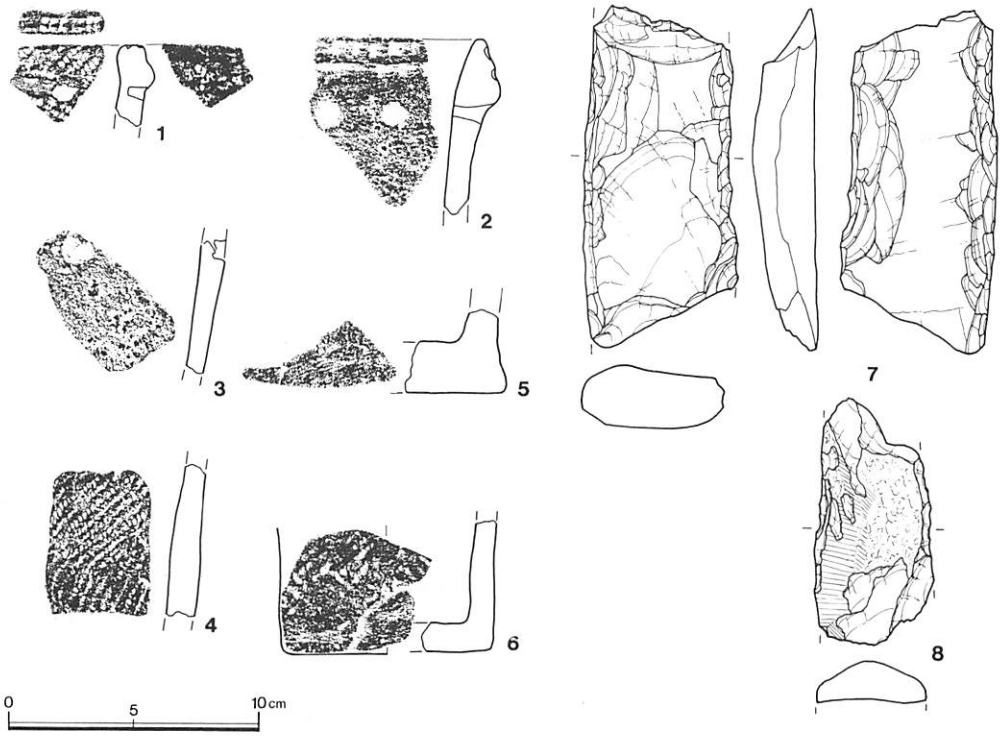


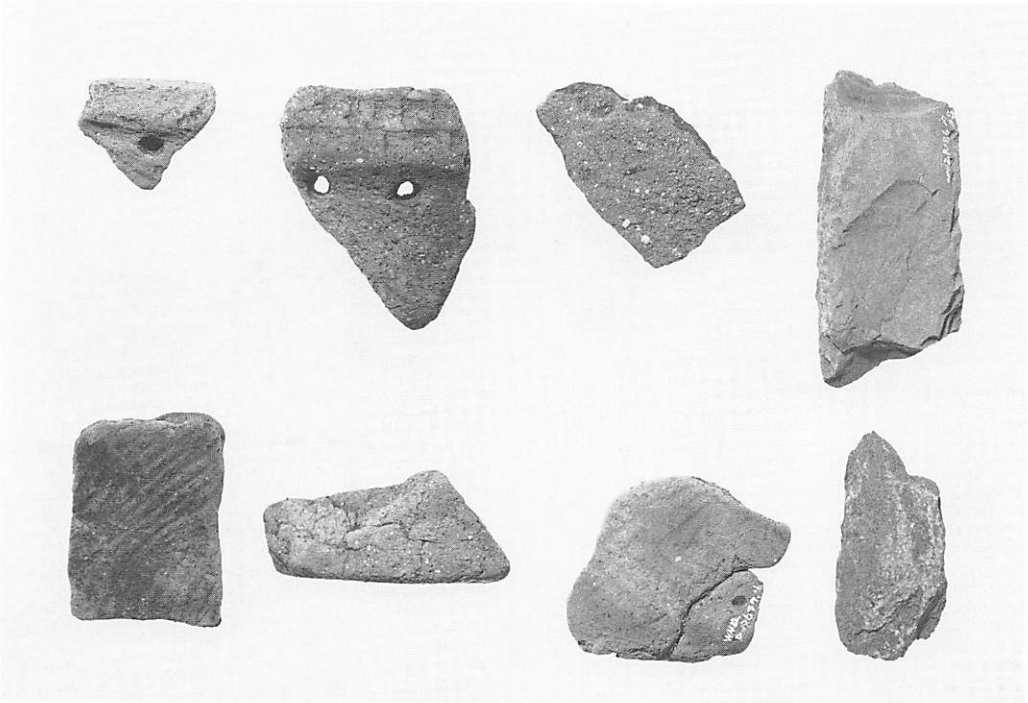


1．暗茶褐色土(中央に炭化物が入る)
2．黒褐色土
3．暗褐色土



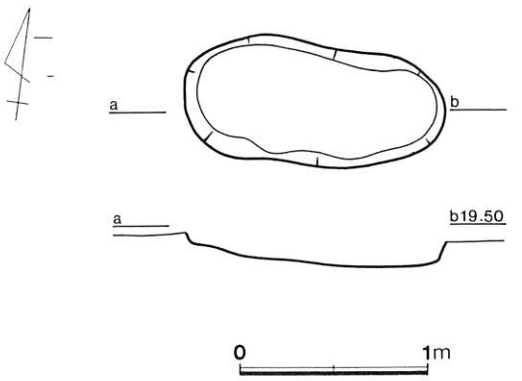
P—186



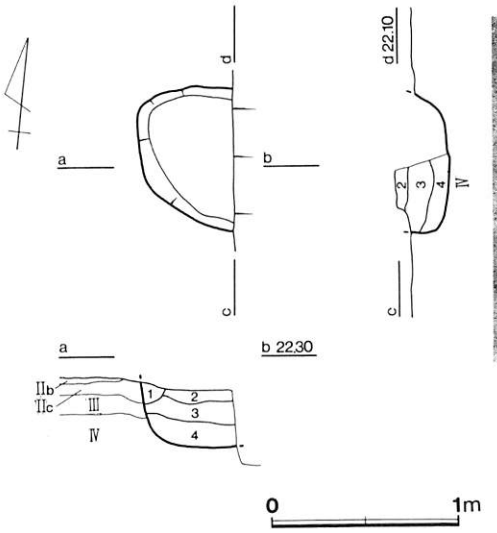


P—186の出土遺物

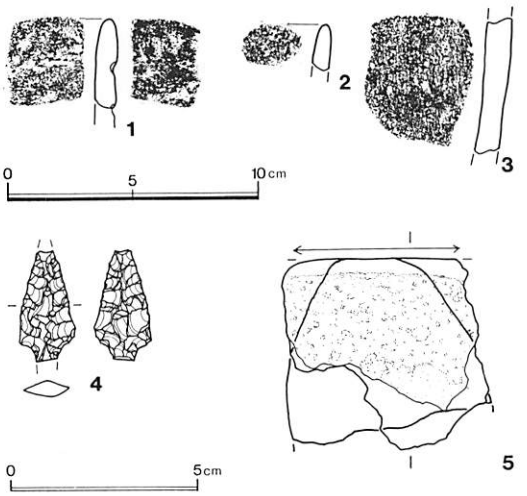
P-183

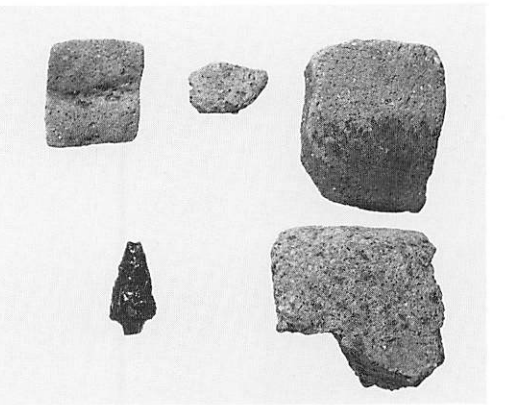


P-187

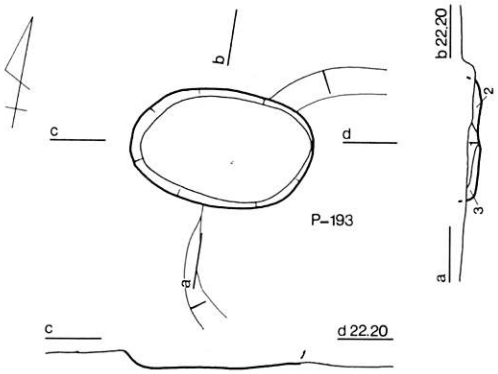


1．暗褐色土
2．黄褐色土（ローム塊に褐色土が混る）
3．暗褐色土（ローム粒が混る）
4．褐色土



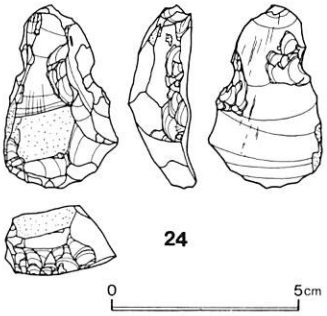


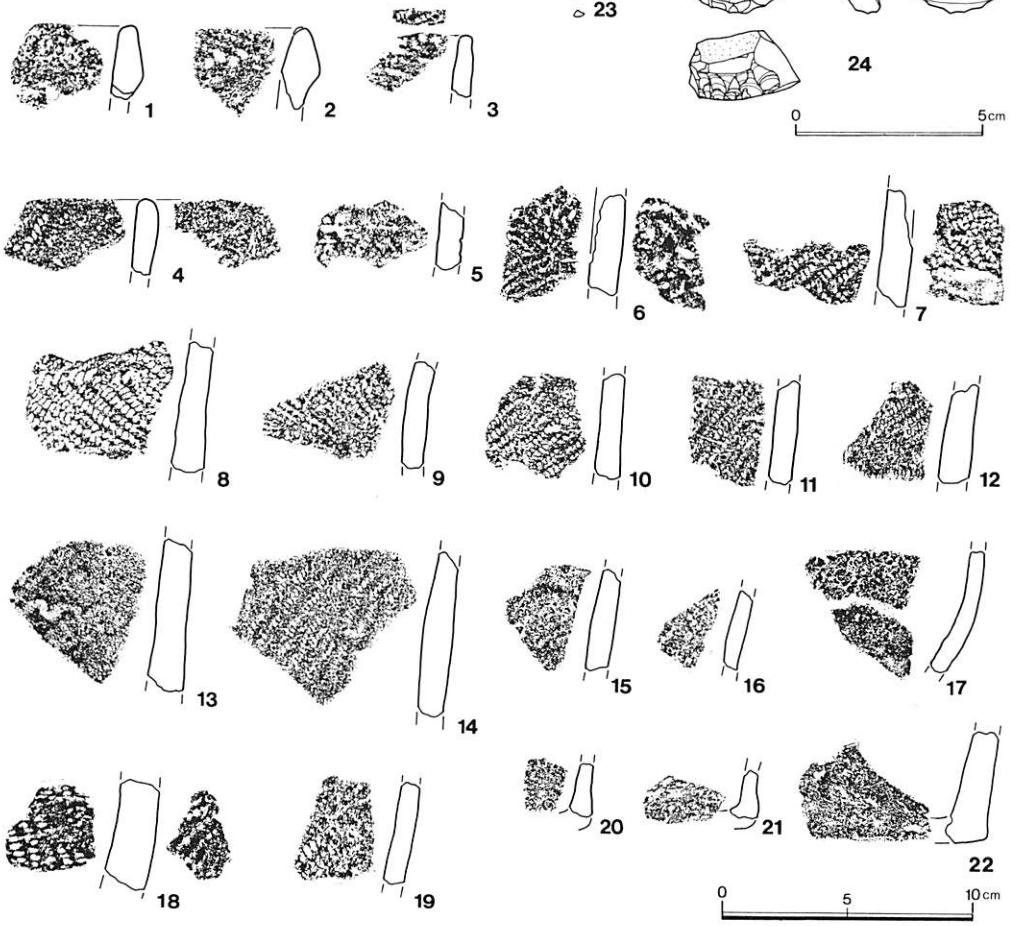
P-191



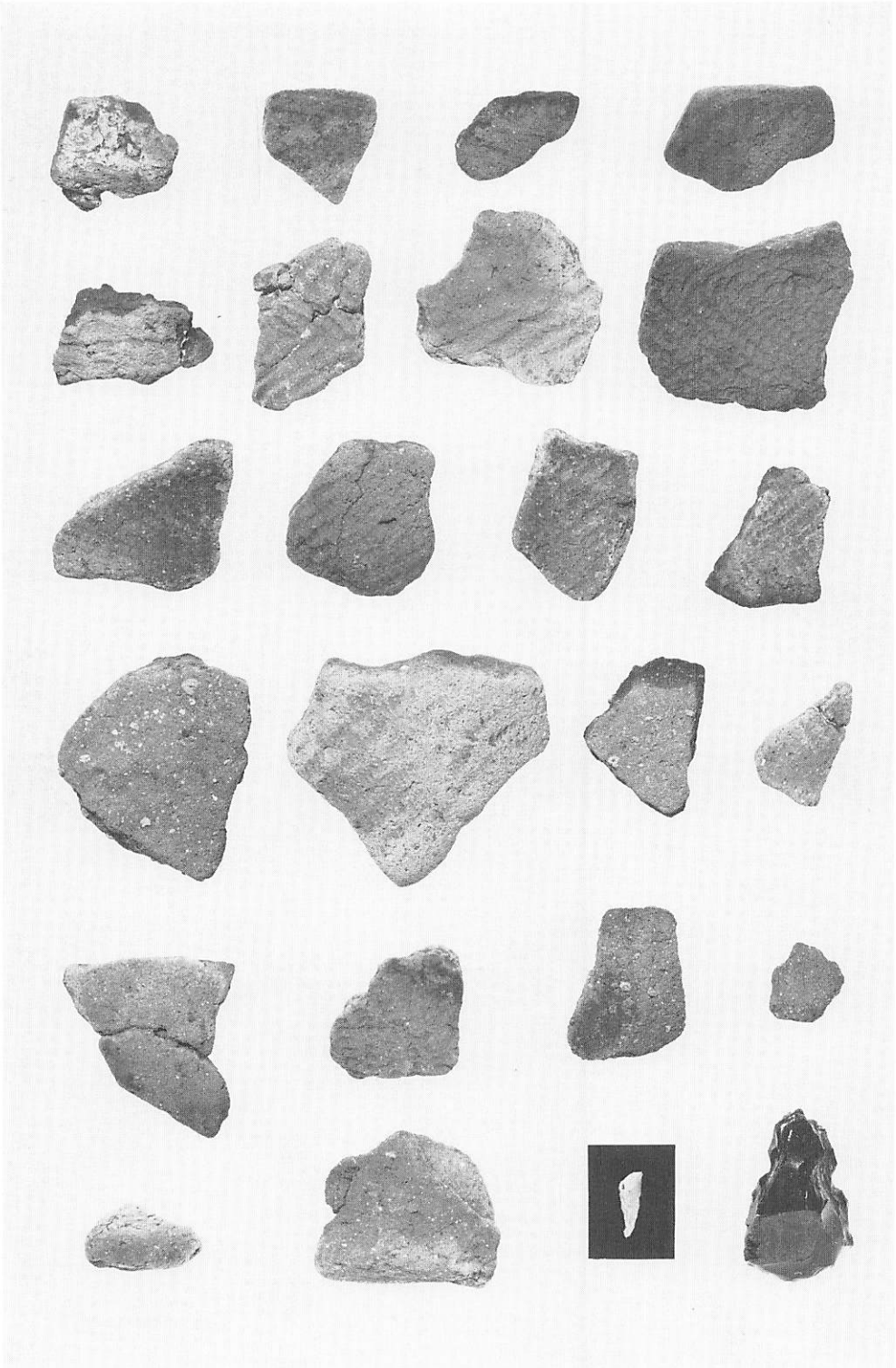
0 1m

1．暗褐色土(ローム少量を含む)
2．褐色土(まだら)



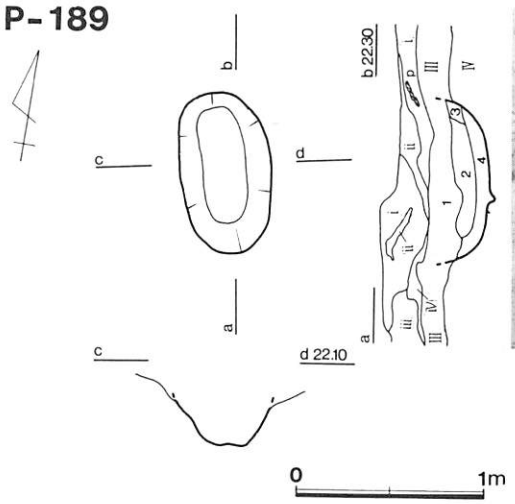


P—191

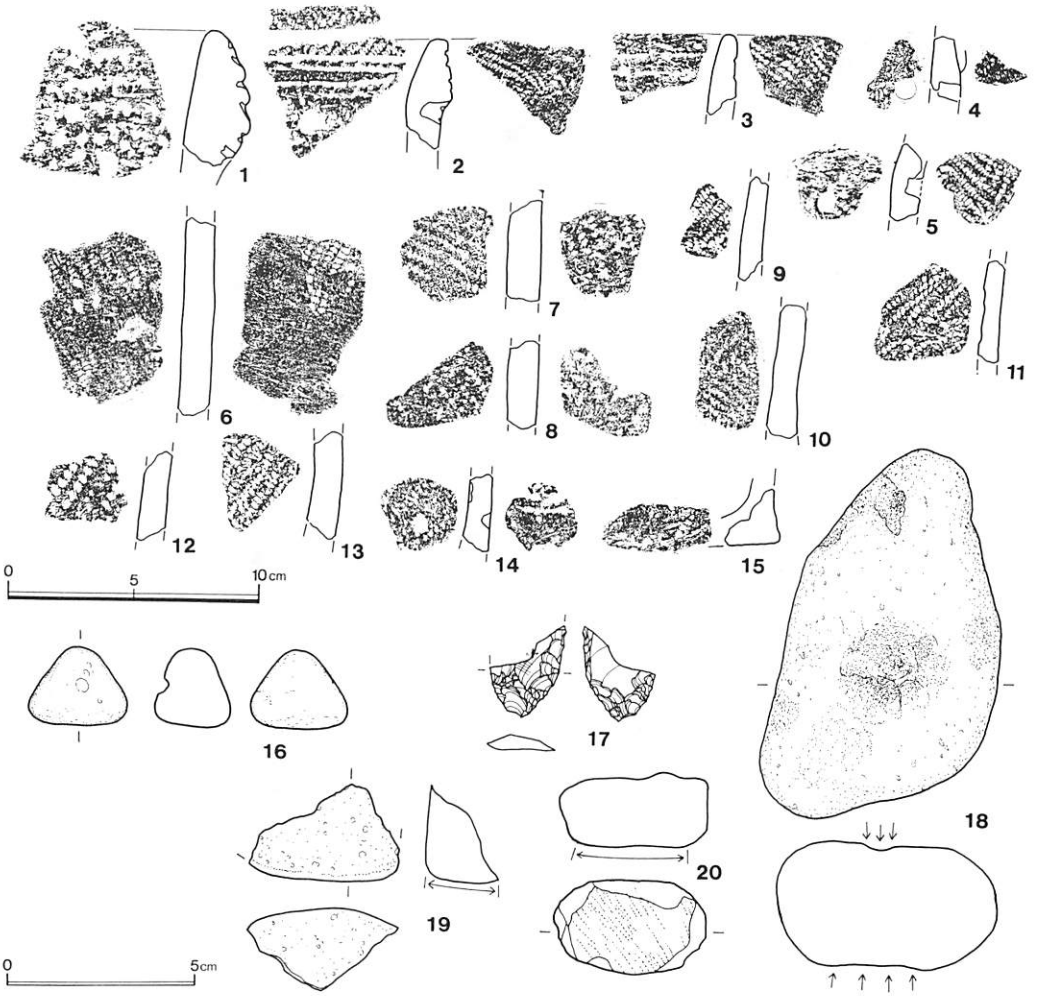


P—191の出土遺物

P-189

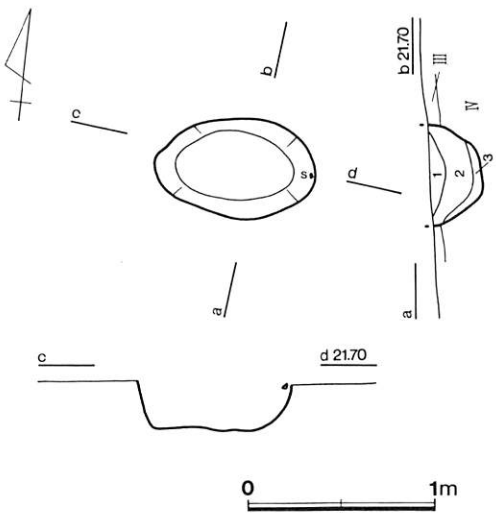


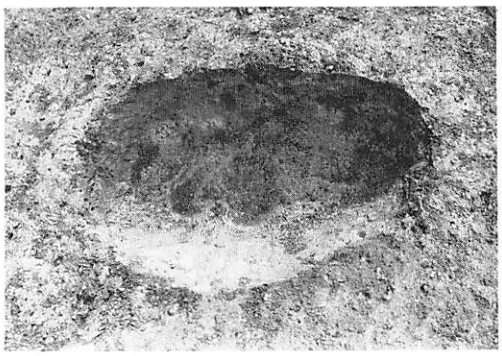
i．赤褐色土　　1．茶褐色土
ii．黒色土　　2．暗茶褐色土
iii．暗褐色土　　3．褐色土
iv．黄褐色粘質土　　4．暗褐色粘質土



P—189

P-147

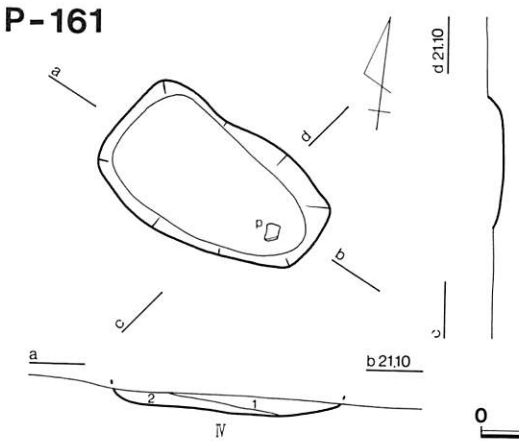


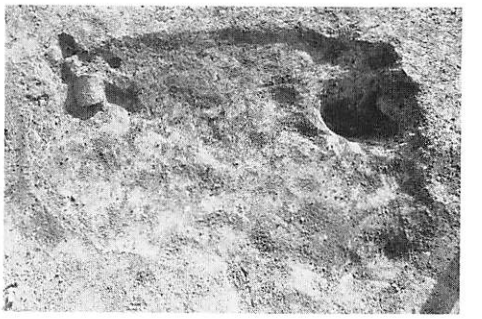


1．黒褐色土(遺構外II層に近い。粒子細かい)
2．茶褐色土(ロームをわずかに含む)
3．褐色土（2層＋ローム・ブロック）

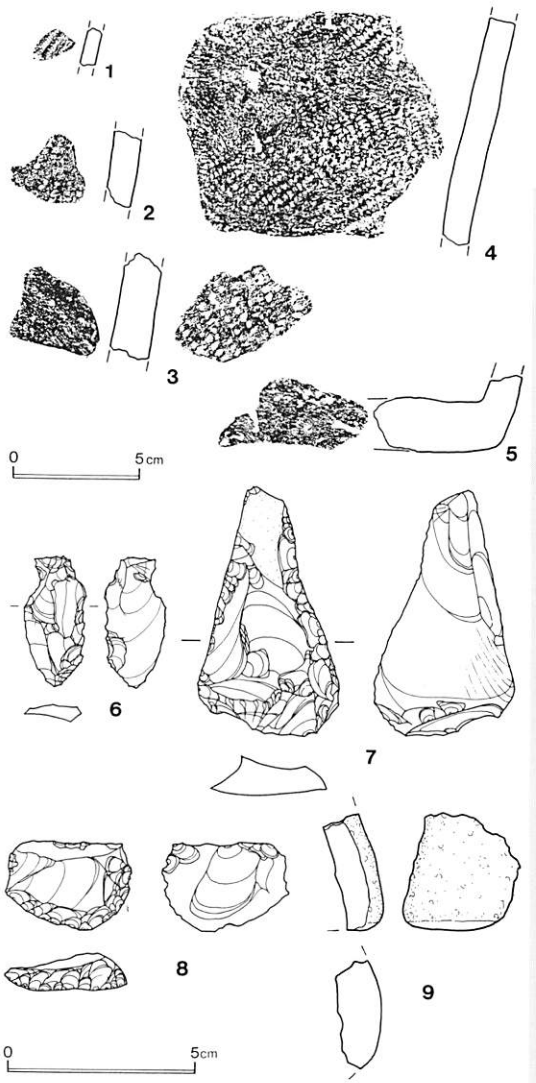
P—189の出土遺物・P—147

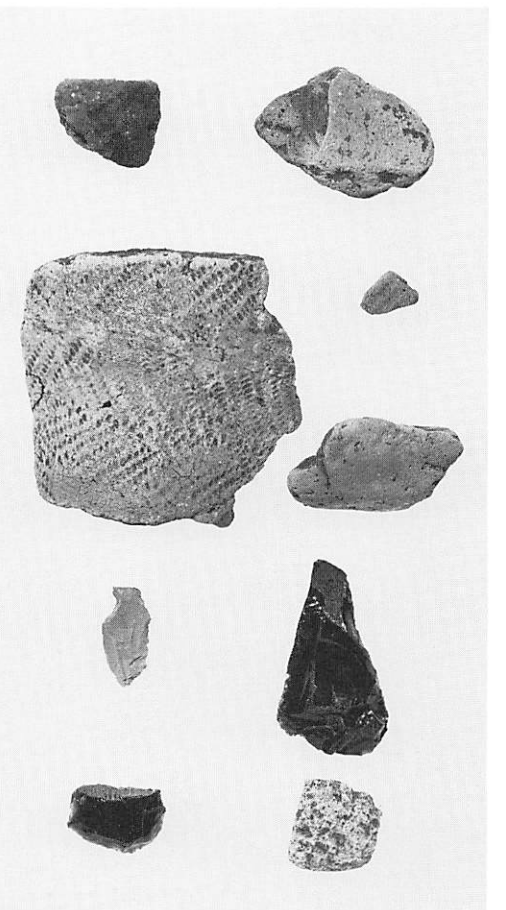
P-161



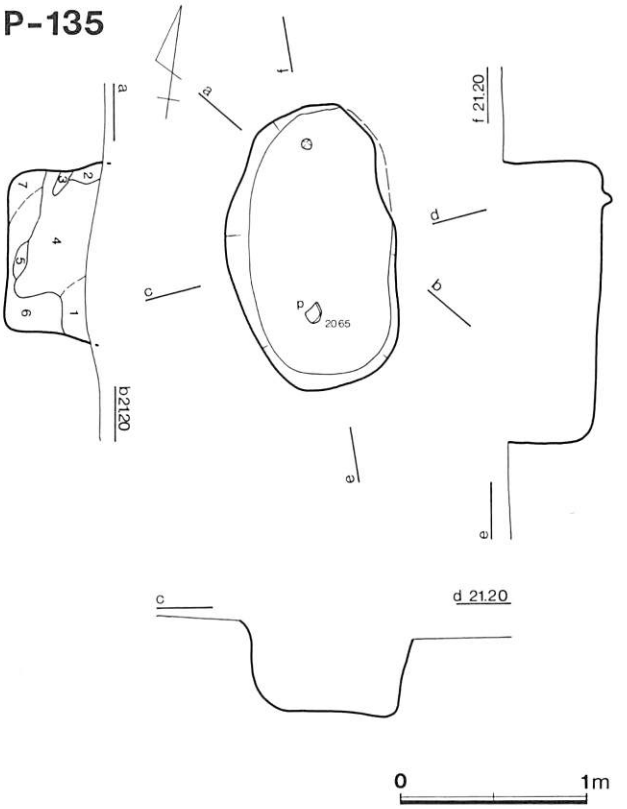


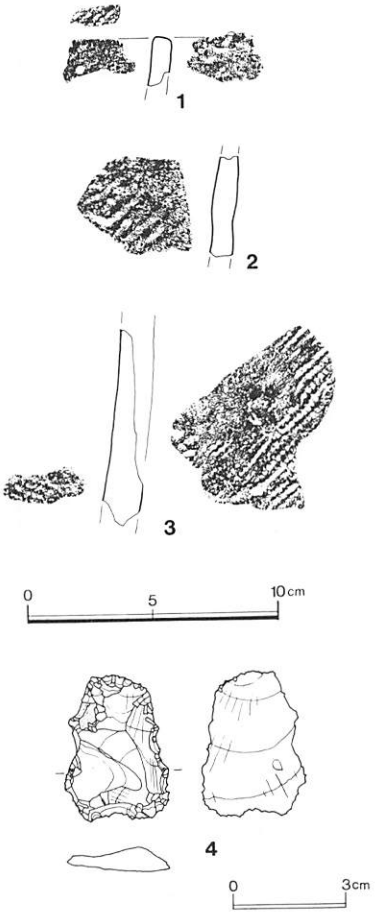
1．黒褐色土
2．茶褐色土



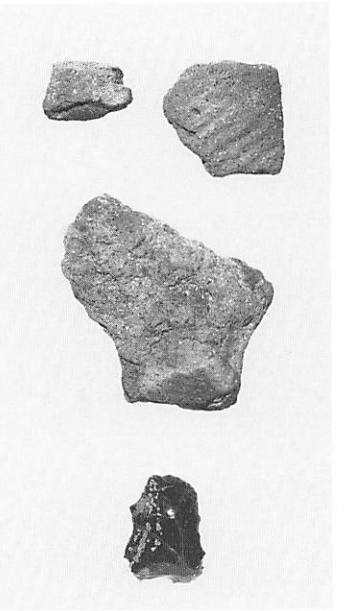


P-135



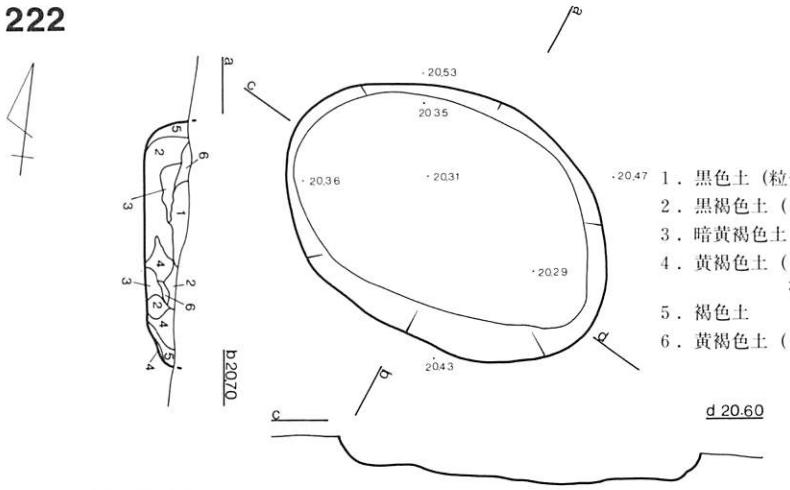


1．褐色土
2．暗黄褐色土(ローム＋1)
3．茶褐色土
4．褐色土＋ロームブロック
5．明黄褐色土
6．赤褐色土
7．黄褐色土



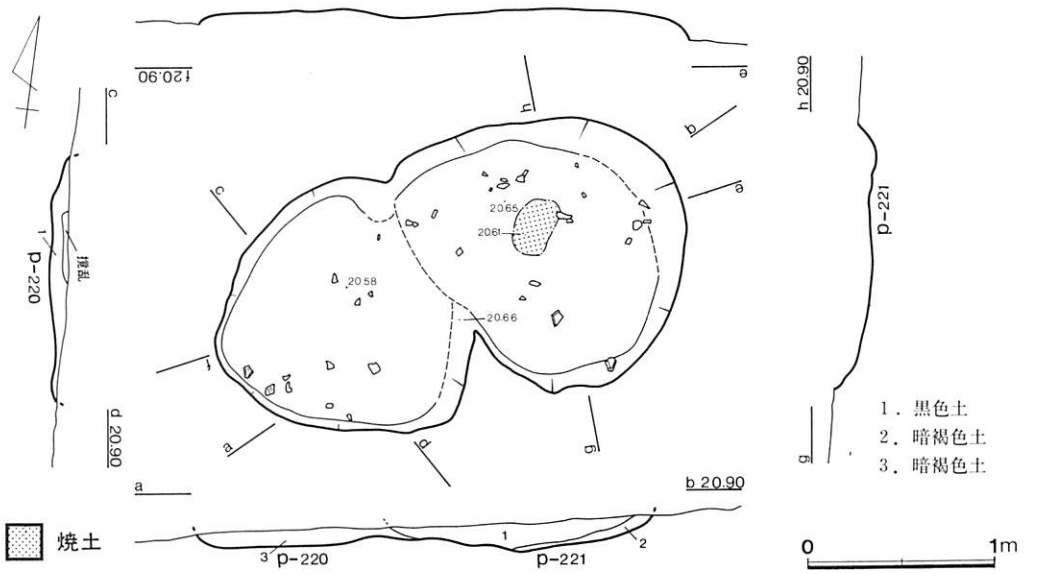
P—135

P-222

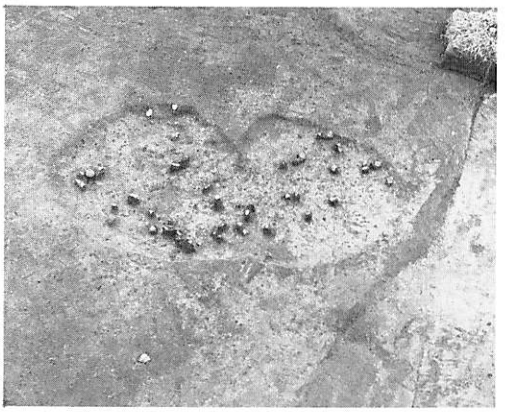


1．黒色土（粒子が細かく粘性をもつ）
2．黒褐色土（ローム粒を含む）
3．暗黄褐色土
4．黄褐色土（ロームブロックと黒色土が混じる）
5．褐色土
6．黄褐色土（ローム）

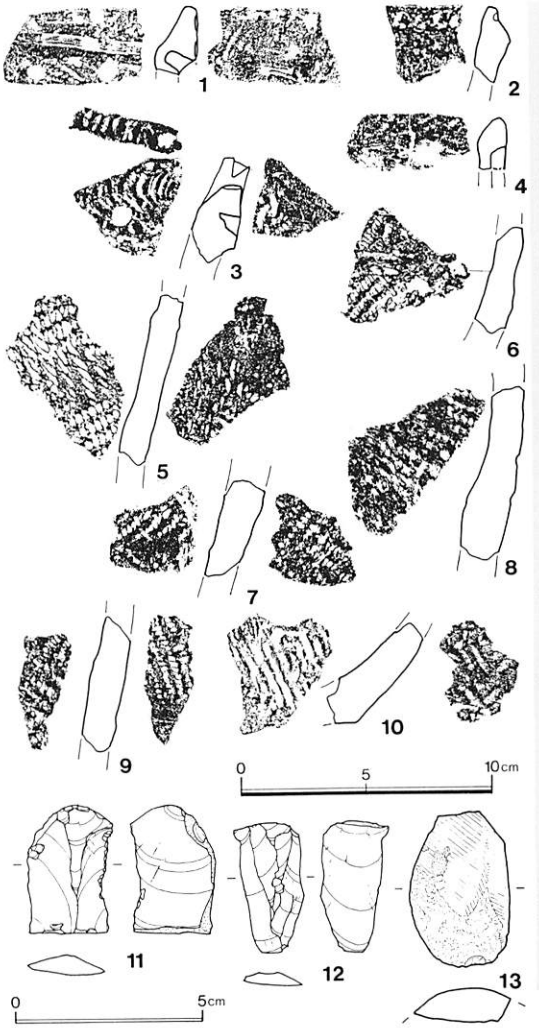
P-220 P-221

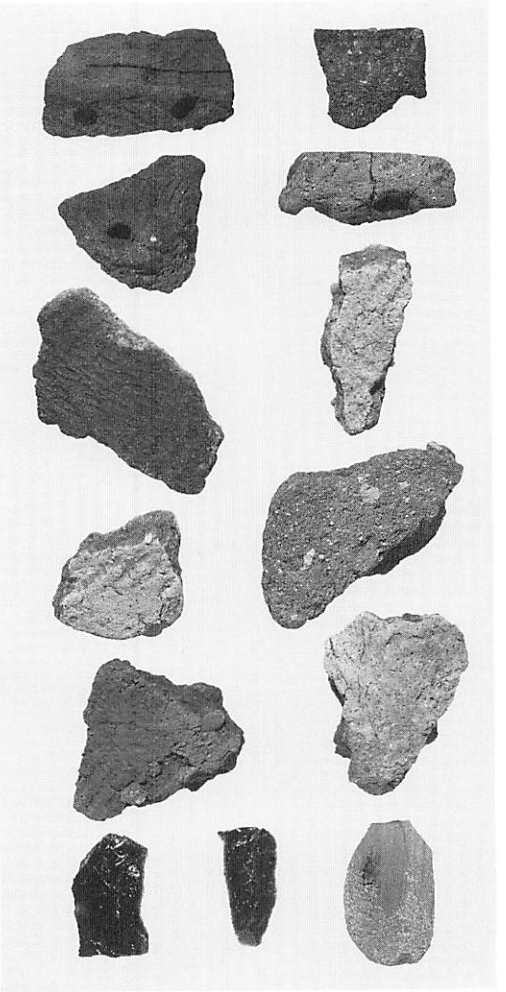


1．黒色土
2．暗褐色土
3．暗褐色土

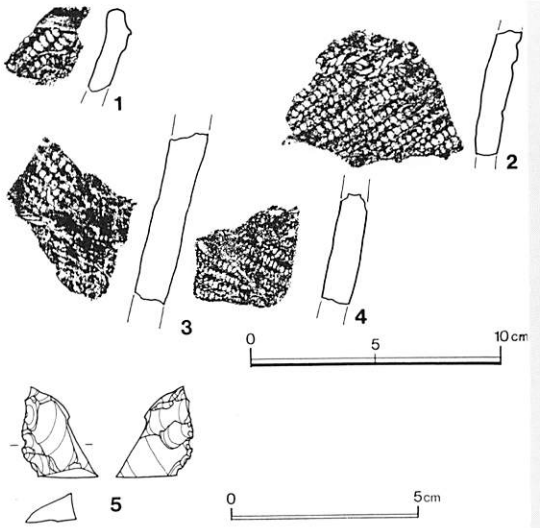


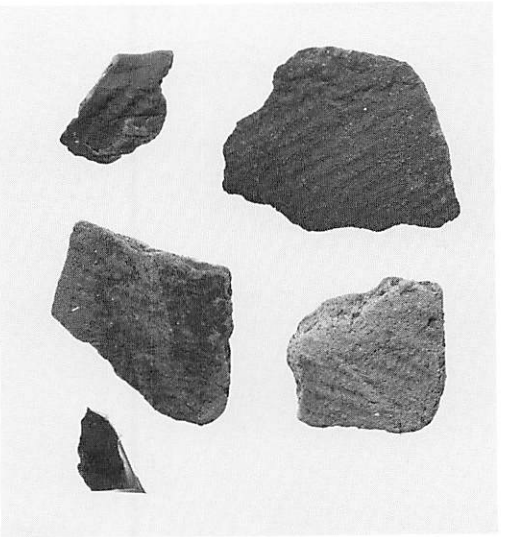
P—222・P—220・P—221



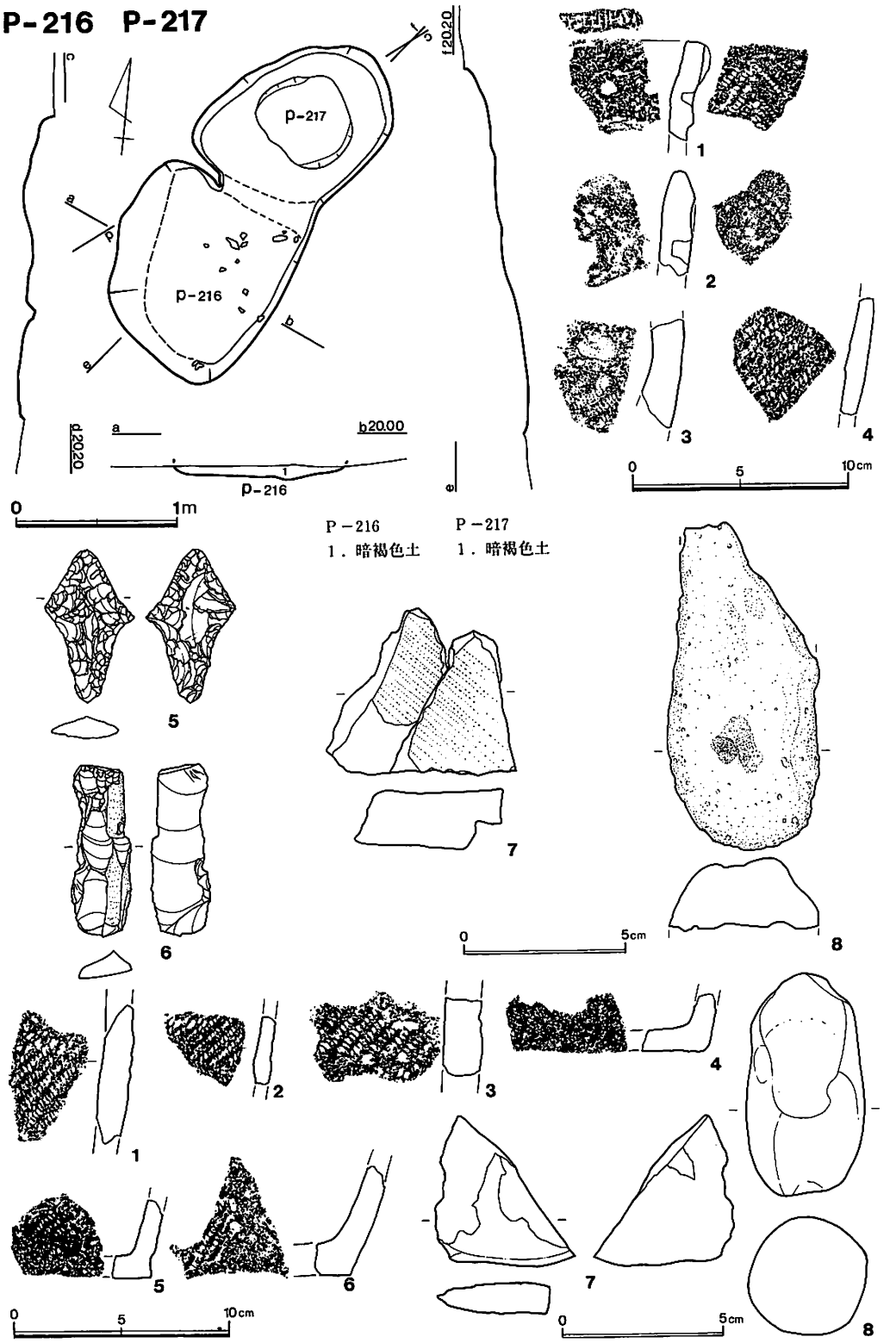


P—220の出土遺物

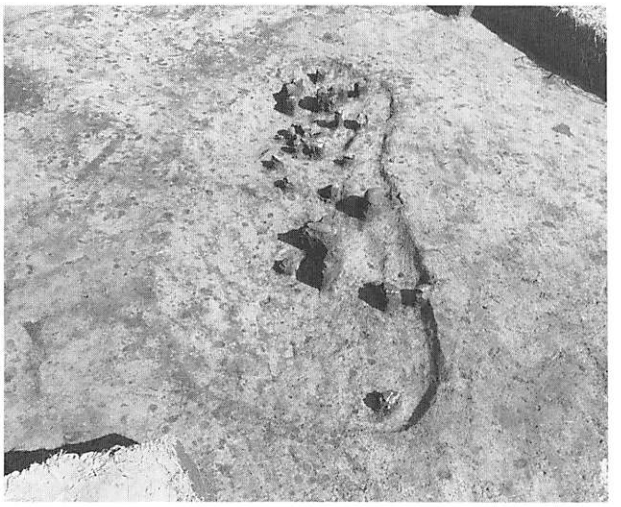


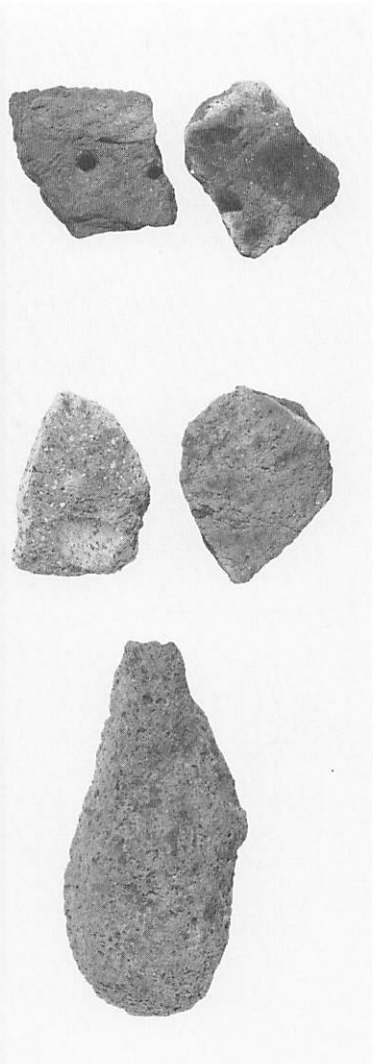


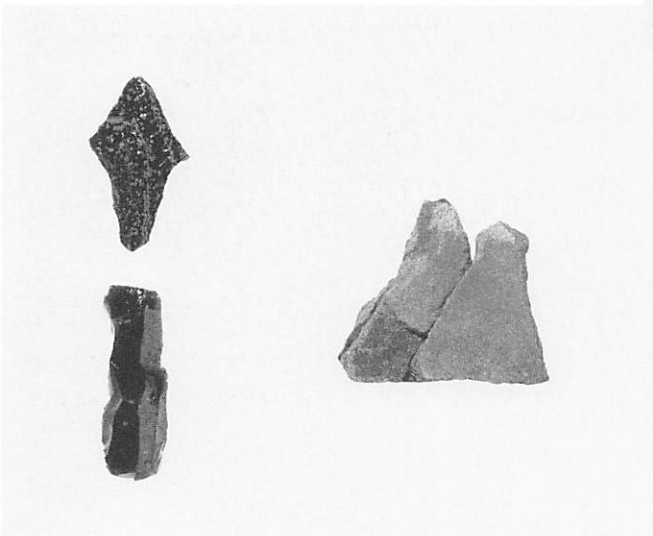
P—221の出土遺物

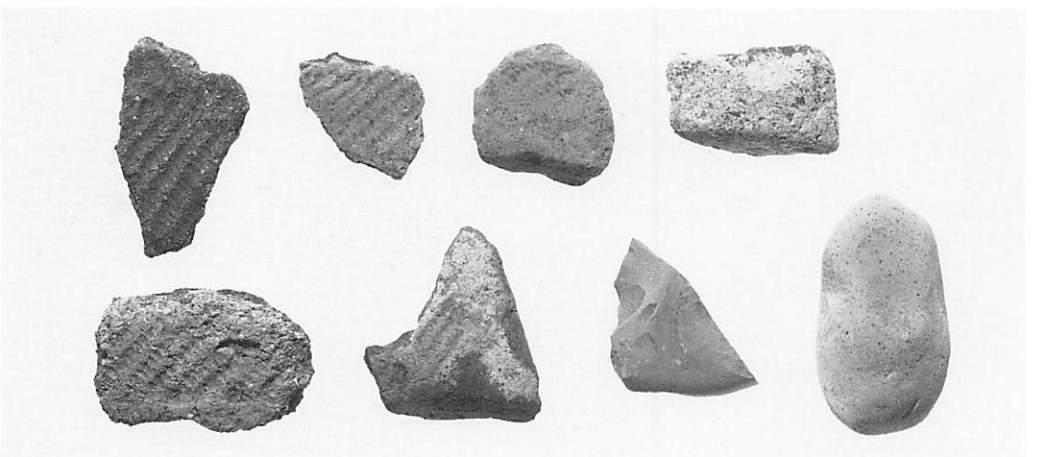

P-216 P-217
P-217
P-216
a
b
c
d
e
f20.20
d20.20
b20.00
0
1m
P－216
1．暗褐色土
P－217
1．暗褐色土
0
5
10cm
0
5cm

P—216・P—217



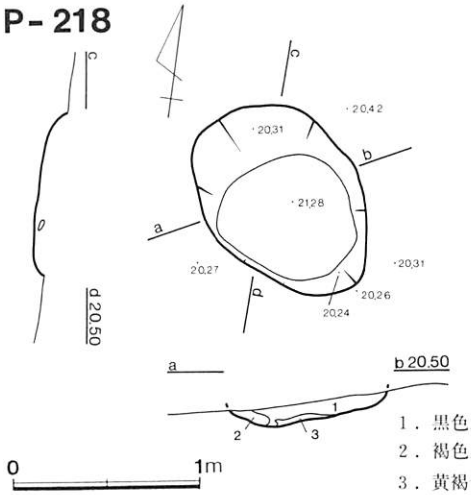


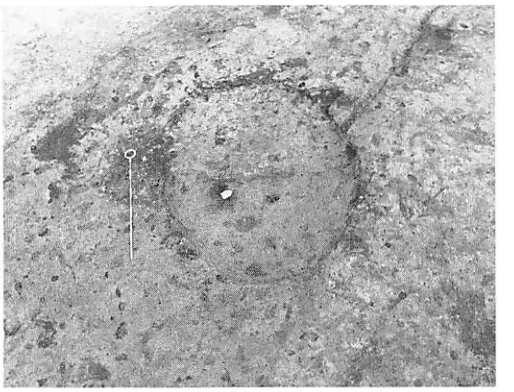




P—216・P—217

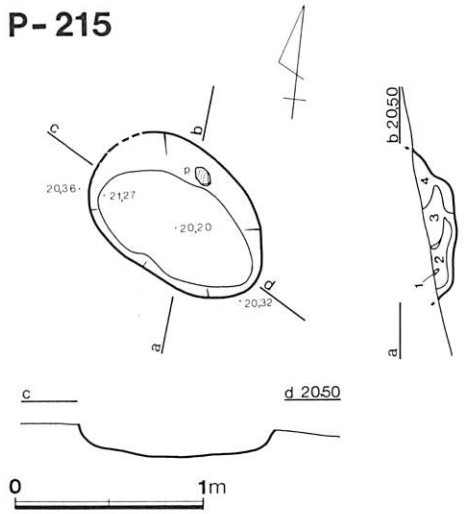
P-218

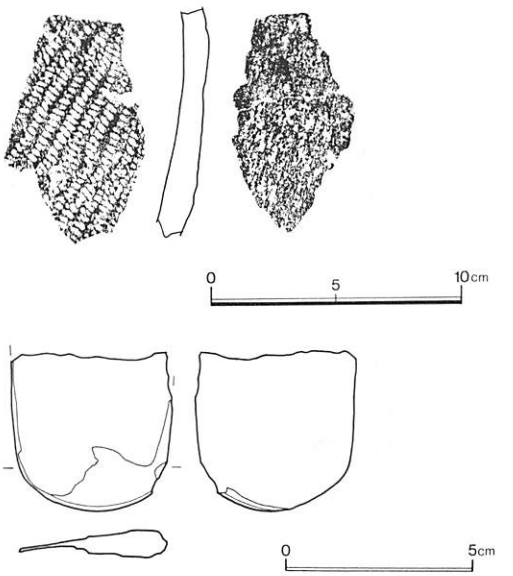


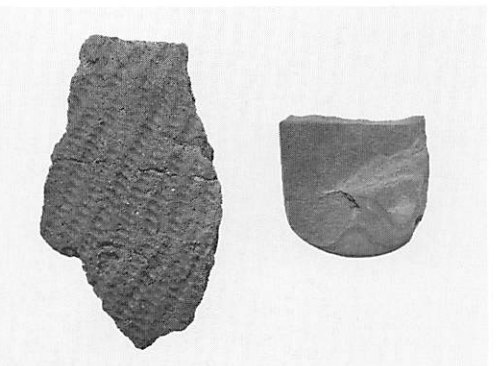


1．黒色土(少量のロームを含む)
2．褐色土
3．黄褐色土(ロームブロックを多く含む)

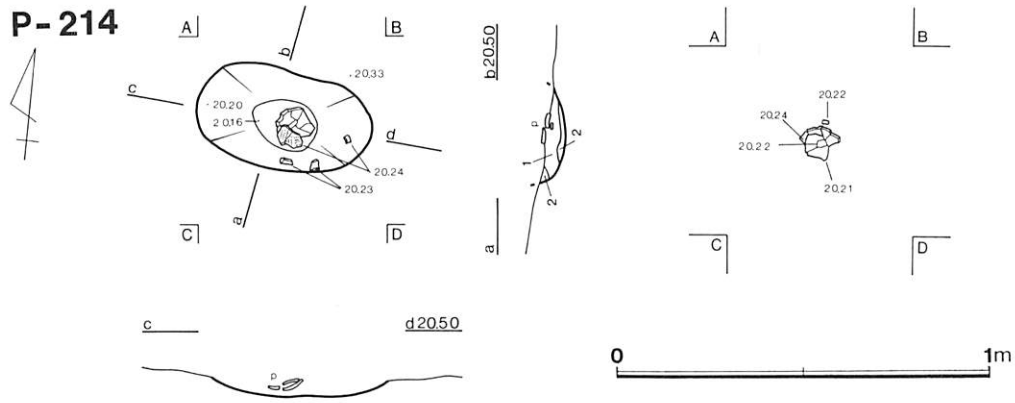
P-215



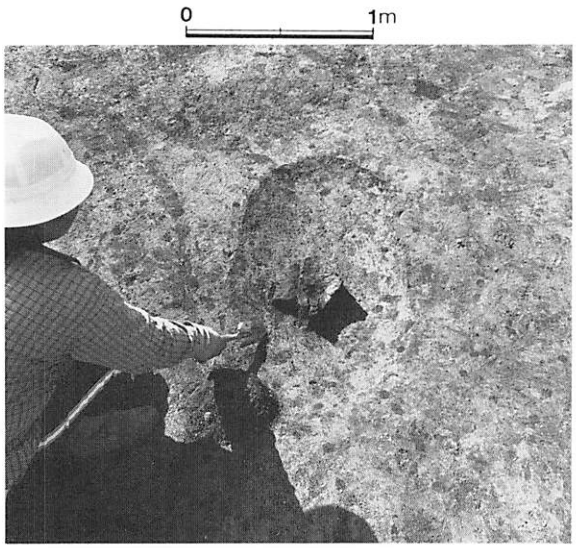


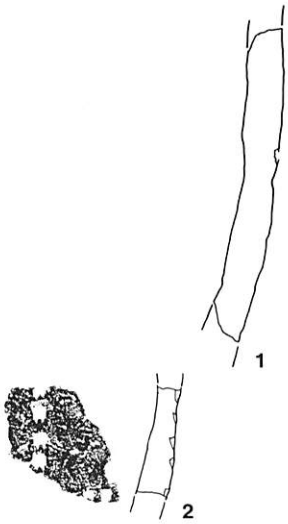


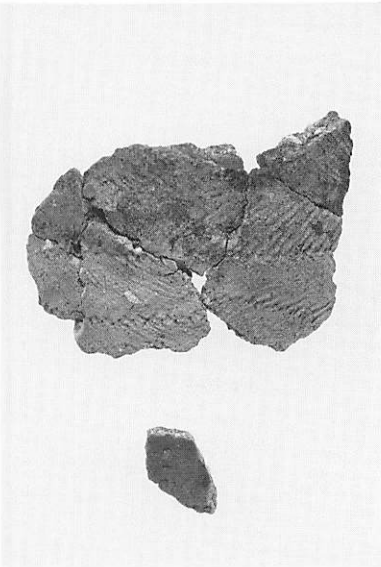
1．黒色土　　3．褐色土
2．暗黄褐色土　　4．暗褐色土



1．暗褐色土（炭化物を含む）
2．暗黄褐色土（ローム粒を含む）







0　5　10cm

P—214

P－142

調査区の中央からやや西寄りの59－89区に位置する。覆土からⅢ群ｂ－１類の土器が一個体、横倒しに押しつぶされた状態で検出された。復元された１は、４つの突起部を有するゆるやかな波状口縁の深鉢形土器で、胴半部がわずかにふくらみ、口縁部が小さく外反している。器高32.4cm、口径22cm程。平底で底径は11.4cm。全体に損耗が進み、口縁部から胴半部にかけて、外壁部が大きく剝落したりしている。色調は黄赤褐色で、胎土に多量の砂礫が含まれている。内面は丁寧に調整されており、一面に付着した炭化物のため黒褐色を呈している。突起部および口縁部肥厚帯には、短刻線が密に刻まれている。突起下の上下が二叉に分れる貼付帯は、半截竹管の内面圧痕文に刻まれており、肋骨状に配された平行沈線文が連結している。地文は複節の斜行縄文。２は摩耗の著しいⅢ群ａ類の口縁片で、肥厚帯に波状の貼付文がめぐるもの。他に礫と黒曜石剝片３点が出土した。

P－198

調査区中央の南側、50－88区に位置する。壙底は丸味を持つボール状を呈する。覆土から石皿２点、そのうち北側にある石皿の斜め上部から石斧１点、壙底から一個体の土器が横倒しに押しつぶされた状態で出土した。１は粉々に小さく割れて遺存していた一括土器を復元したもので、底径5.2cmを測る平底から体部が直状にひらく、やや細身の深鉢形土器の下半部である。色調は黄灰褐色で、焼成は良好、胎土に繊維が含まれている。地文は単節の斜行縄文。整形や内面調整がやや粗いⅢ群ｂ－３類土器。２は石斧。素材は泥岩を用い、打ち欠きと研磨による成・整形がみられる。刃部の欠けた綾線は摩耗しており使い込まれたものであろう。重さは73.8g。３・４は石皿。安山岩を用い、側面・下面にペッキングによる成・整形がみられる。３の重さは25kg、４は13kg。

P－86

調査区北西側の63－71区に位置し、他の中期の遺構と離れている。覆土から土器と黒曜石剝片が各１点出土した。１は平篦状工具による押引文が２段みられるⅢ群ｂ－３類土器の胴部破片。

P－185

調査区南東側、47－87区の沢に面した緩い斜面に位置する。壙底は古い風倒木痕により不明瞭である。３は壙底から、他は覆土から検出された。いずれもⅢ群ｂ－３類土器で、１は肥厚帯のほか口唇上にも押引きを刻むもの。２には結束第一種の羽状縄文が、３には綾絡文がある。

P－212

50－88区に位置する。平面形は楕円で壙底は北側が深く南側は緩やかに立ち上がる。遺物は

覆土上部から検出した。摩耗のため不明瞭だが1の地文は、結束第一種のある羽状縄文らしい。2も摩耗の進んだ底部片。整形の印象から1はⅢ群b－3類、2はⅢ群a類と推定される。3は凹石。砂岩の角礫を用い、重さは324.2g。4は黒曜石の石核。重さは14.8g 。

P－211

調査区中央の南側、52－88区に位置する。皿状を呈する。遺物は検出していない。

P－219

調査区の南側56･57-90･91区に位置する。略円形をなし立ち上がりははっきりしている。P－222と検出状況、土層がよく似ておりなんらかの関係が考えられる。遺物は出土していない。

P－163

66－63区に位置し、検出された遺構の最北端にある。他の縄文中期の遺構から離れている。皿状を呈し、壙底は平坦である。周囲の土壙が続縄文期のものであることから、この土壙も同時期の可能性がある。覆土の下位から土器片が出土した。1はⅢ群b－3類のやや摩耗した胴部片で、地文は結束のある原体を利用したもの。他に礫2点、片岩剝片2点が出土した。

P－199

調査区の南東50－88区に位置する。P-206に切られている。皿状を呈し、壙底はやや凹凸がある。遺物は検出していない。

P－200

P-199の2.5m北側に検出した。壙底はやや凹凸のある浅い皿状を呈する。1は覆土から採集されたⅢ群b－3類と思われる土器片で、かなり摩耗が進んで文様が判断としないが、器面には単節の斜行縄文が残り、裏にも縄文が施された痕跡を留める。2は焼成粘土塊。3・4は石鏃。黒曜石を素材にしている。3は尖頭部破片。重さは0.8g。4は壙底の2cm上の覆土から尖頭部を上に斜めに立った状態で検出した。尖頭部左側に再生の痕がみられる。重さは2g。

P－117

中央部の60-82･83区に位置する。皿状を呈する。南西側の壙底から白色粘土塊が出土した。遺物は覆土から検出された。いずれもⅢ群b－3類土器の破片で、1の肥厚帯には縄文が、口唇には短刻線様の刻みがある。2・3は摩耗した胴部片で、2には押引文と綾絡文がみられる。

P－132

調査区中央の西側、61－82区に位置する。遺物は壙底近くの覆土から出土した。

1・2はともに摩耗の進んだ胴部片。1は胎土にやや多くの繊維を含むもので、裏にも縄文がみられる。2には単節の斜行縄文がある。Ⅲ群b－3類であろう。3は片岩を素材にした石斧破片。打ち欠きと研磨により成・整形している。側辺に原石面が残っている。重さは29.3g。4はたたき石。砂岩を用いている。重さは70.8g。他に礫2点、黒曜石剥片1点が出土した。

P－188

P-192の南西約2.5m、57-84区に位置する。壙底は丸味を帯びている。1は凹石。壙底から検出した。安山岩を用いている。扁平な礫の両面と右側部に叩き痕がみられる。下半は欠損している。重さは120g。他に礫を11点検出した。

P－144

P-143の北東に約1.5m離れた59-86区に位置する。壙底は平坦である。確認面から土器が出土した。1・2はⅢ群b－3類の胴部、底部片。摩耗しているが単節の斜行縄文がみられる。

P－148

59－89区に位置し、P-147に隣接して検出された。覆土から小礫が1点出土した。

P－162

調査区の南西、59·60-91区にあり、H－2から南西に約2m離れている。壙底は南側が低く掘り込まれている。覆土から9点の土器片が検出された。損耗が進んで文様の不明瞭な例が多い。1～4はⅠ群b－2類に属するもので、1の口唇には太い刻みが加えられている。3・4は短縄文のある底部片。5は赤褐色がちな色調を呈し、複節の縄文がみられるⅢ群b－1類の破片。6～8はⅢ群b－3類の胴部片で、7には結束第二種の回転押捺が加えられており、内面に縄文が施された8つの器表面は、剝落して現存しない。9はドリル。めのう剝片の一端に錐部を作り出している。重さは1g。10はスクレイパー。黒曜石を素材に、左側辺から下辺に連続したノッチがみられる。重さは2.8g。11は石斧破片。片岩を素材にしている。重さは42.8g。12は黒曜石石核。重さは21.5g。他に黒曜石剥片5点、片岩剥片1点が出土した。

P－136

検出された遺構の中で最も南西側の60－91区に位置する。壙底は丸味を帯びている。1は表裏に縄文と、押引き的な沈線がみられる。1・2ともに覆土出土のⅢ群b－3類土器。他に黒曜石剥片3点が出土した。

P－84

調査区の北西、64－70区に位置する。続縄文期のP-156に切られている。壙底の近くから土

器の底部破片などがまとまって出土した。1～4は同一個体。推定口径26.6cmの深鉢形土器で、ほぼ平縁の口縁の4ヵ所に小さな突起がみられる。突起には垂直方向の小さな刺突が加えられている。口縁部肥厚帯には爪形状の連続刺突文が2段めぐり、口唇上には平篦による押引文が刻まれている。肥厚帯下の円形刺突文列の直下にも平篦を突き引いた押引文が2段重ねられている。地文は結束第一種のある単節の斜行縄文らしく、内面にも施文がみられる。5は別個体の胴部片で、裏には横位の調整痕が残されている。6は9.6×9.0cm程の平底の底部で、底面には縄を渦巻状に押捺したかのような圧痕がみられる。他に黒曜石剝片を1点検出した。

P－194

P-193の北東約4mの57－85区に位置する。1はドリルまたは刺突器。珪質凝灰岩を素材にしている。両面に加工を施し、上部につまみ状の加工を施している。重さは4.8g。2・3は石斧破片。泥岩を素材にして打ち欠きによる整形がみられる。2の重さは77.6g。3は98.2g。4は凹石。安山岩を用い、表面は焼けている。重さは159.8g。5は北海道式石冠の破片。玢岩を素材にしている。重さは114.6g。6は砥石破片。砂岩を用いて両面に擦り痕がみられる。重さは29.2g。他に礫を5点検出した。

P－92

調査区の中央部の61－97区で検出された。壙底は丸味がある。覆土上部から土器片がまとまって検出された。1は断面三角形の肥厚帯をめぐらせ、その上に半截竹管による刻線状の連続刺突を加えた口縁片で、口唇部内面に縄による刻みがみられる。地文には結束第二種の回転押捺がある。2は口縁にやや幅広の貼付帯を横環させ、その上に2条、口唇上に1条の縄線文を加えたもので、円形刺突文列の下にも、現存3段の縄線文がみられる。3～5は2と同一の胴部片らしい。いずれもⅢ群b－3類土器。6・7は使用痕・加工痕のある黒曜石剝片。6の重さは1.8g。7は6.9g。他に礫1点、黒曜石剝片1点が出土した。

P－111

南側の59－88区に位置する。壙底は丸味を持つ。覆土上部やや南寄りの位置から検出された1は、表裏とも無文の破片で、色調は黄茶褐色。胎土に砂が多い。Ⅲ群b－3類と思われる。2は使用痕・加工痕のある黒曜石剝片。重さは9.8g。他に礫2点、黒曜石剝片70点が出土した。

P－172

調査区の中央部59－82区に位置する。確認面より石鏃・剝片が出土している。壙底部に遺物はない。1は石鏃。黒曜石剝片の形を活かし周辺部に調整を加えている。重さは0.4g。2は使用痕・加工痕のある黒曜石剝片。重さは4.5g。他に礫1点、黒曜石剝片8点が出土した。

P－173

P-172の北約２ｍに位置する。確認面より石鏃が出土している。壙底部に遺物はない。１は石鏃。横剝ぎの黒曜石剝片を素材にしている。重さは1.4g。他に黒曜石剝片３点が出土した。

P－113

P-117の北東に約１ｍ離れた60－82区に位置する。１～５は覆土から得られた土器片で、灰褐色がちな色調を呈している。１は２条の縄線文がめぐる口縁片で、口唇上や内面にも縄文が施されている。４にも３条の縄線文が現存している。Ⅳ群ａ類と思われる。６は北海道式石冠破片。玢岩を素材にしている。重さは34.5g。他に礫を７点検出した。

P－109

調査区の中央部西側、61－82区に位置する。壙底及び覆土から礫９点を検出した。

P－124

60―83区に位置する。壙底は平坦で、西側の壁は垂直に立ち上る。東側はP-125に切られている。覆土から礫24点、片岩剝片１点が出土した。

P－127

P-124の南約３ｍ、60―84区に位置する。壙底は平坦。確認面から礫６点が出土した。

P－145

調査区中央部の南西側、60－85区に位置する。覆土及び壙底から礫24点が出土した。そのうち、１は石皿破片。安山岩を用いている。重さは950g。

P－137

59－85区に位置し、P-145の西に約７ｍ離れて検出された。１は北海道式石冠の側面と擦り面を残した破片。砂岩を素材にしている。重さは132.2g。他に、覆土及び壙底から礫23点が出土した。

P－140

P-137の南東に約2.5m離れて位置する。壙底から覆土にかけて礫８点を検出した。これらの礫のうち、１は凹石の破片。安山岩を用いており、半球状の使用痕がみられる。重さは193.4g。２・３は北海道式石冠の破片。２は砂岩を素材にしている。擦り面にはひび割れがみられる。重さは401.6g、３は玢岩を素材にし、擦り面と側面を残している。重さは104.3g。

P－154

P-145の南東に約15m離れた、59－86区に位置する。壙底は北西側が低く傾斜している。1は覆土から1点だけ採集された土器片で、摩耗が著しく、角がとれて丸い。地文などは不明で、輪積みの境目らしい線が観察できる。2～4は北海道式石冠の破片。2は安山岩を用い、重さは379.2g。3は玢岩を用いたもので擦り面と側面を残している。重さは51.9g。4は砂岩を用い、擦り面を残している。重さは41g。他に礫22点、黒曜石と泥岩剝片1点が出土した。

P－157

58—86区に位置する。壙底はややくぼんでいる。覆土及び壙底から礫13点が出土した。

P－159

調査区の中央部、60－81区に位置する。ボール状を呈する。1は覆土から検出されたⅢ群b－3類土器の胴部片で、表裏に単節の斜行縄文が施されている。器面は黄赤褐色、裏面は黄灰褐色を呈し、胎土には砂礫のほか若干の繊維が含まれている。他に覆土から礫16点が出土した。

P－125

60－83区に位置する。西側はP-124を切っている。壙底は平坦である。1は壙底近くの覆土下部に見出されたⅢ群b－3類土器。黄灰色を呈する重厚、堅緻な胴部の破片で、表裏に結束第一種のある羽状縄文原体を回転させた地文が施文されている。他に礫2点が出土した。

P－192

調査区中央部の57－84区に位置する。壙底はやや丸味を帯びている。覆土から礫6点が出土した。

P－196

調査区中央部の南側、55－87区に位置する。壙底は平坦で浅い皿状を呈する。遺物は検出していない。

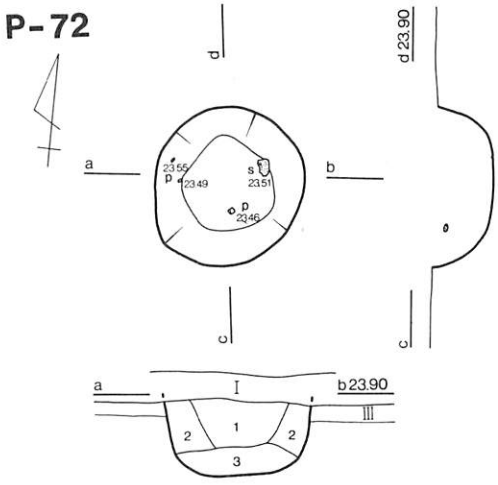
P－197

中央部のやや南側、56－86区に位置する。1は覆土下部出土の円形刺突文を有するⅢ群b－3類土器。結束第二種の結束部が口縁部肥厚帯の下縁をめぐり、口唇にも縄文がある。2は石斧破片。泥岩を素材に、刃部の剝離したものである。重さは4.7g。他に礫2点が出土した。

P－195

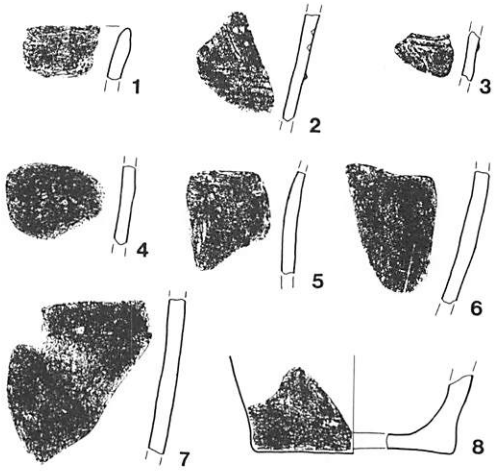
西側約20cmにP-196が隣接している。壙底はやや丸味がある。遺物は検出していない。

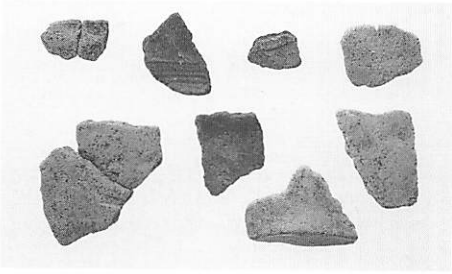
P-72



1．暗褐色土
2．黄褐色土
3．黒色土

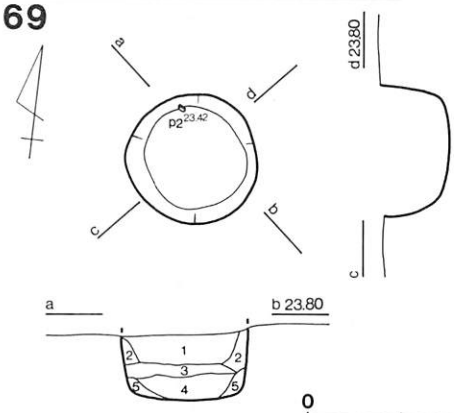
0 1m





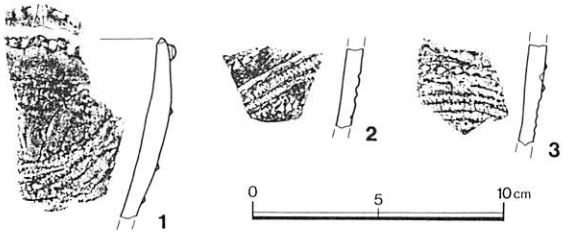
0 5 10cm

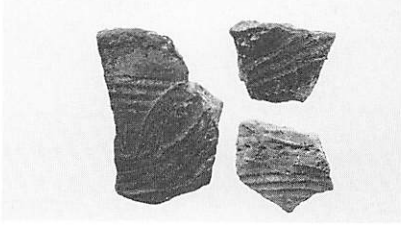
P-69



0 1m

1．黒色土
2．暗褐色土
3．明褐色土
4．黒色土
5．黄色土

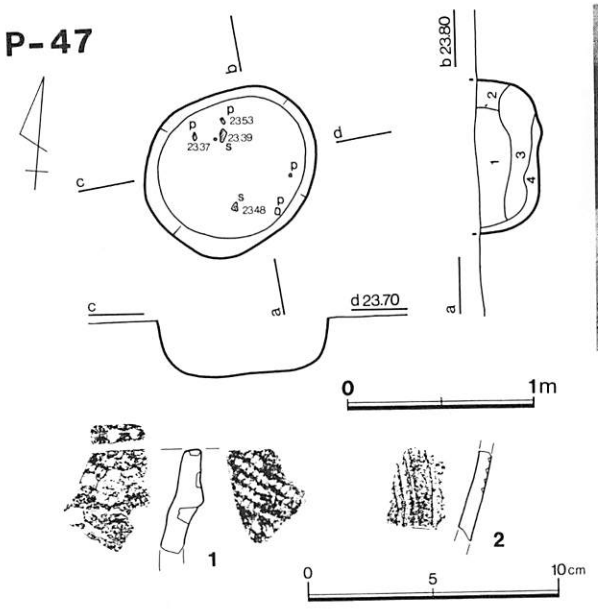




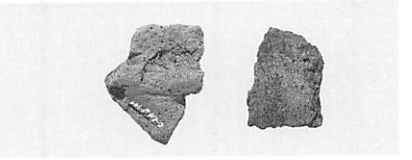
0 5 10cm

P—72・P—69

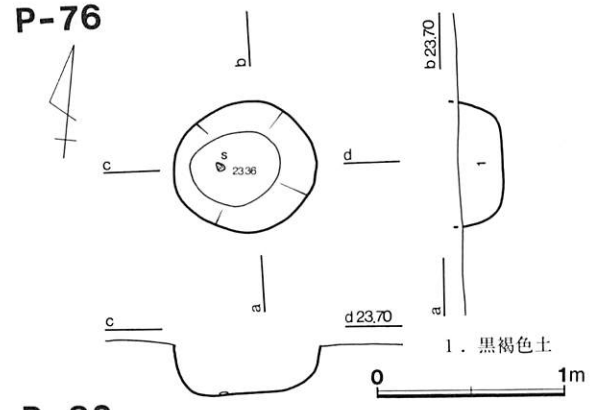
P-47



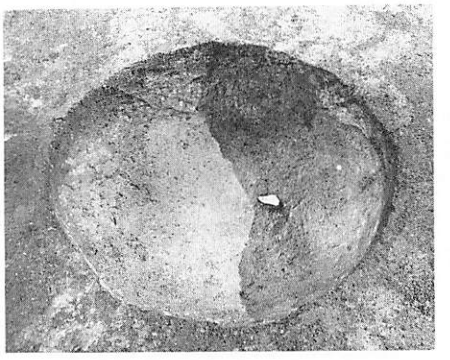
1．黒褐色土（パラパラしている）
2．黒褐色土（ロームブロック含む）
3．黒褐色土（1層より色が濃い）
4．黄褐色土



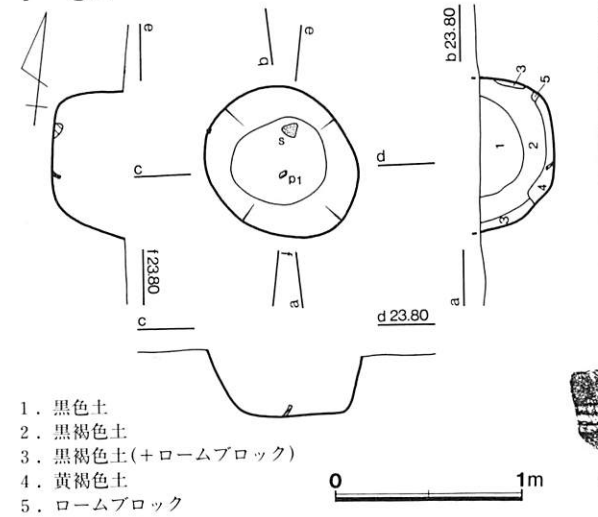
P-76



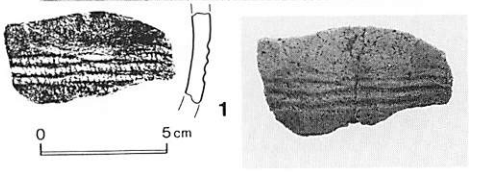
1．黒褐色土



P-82

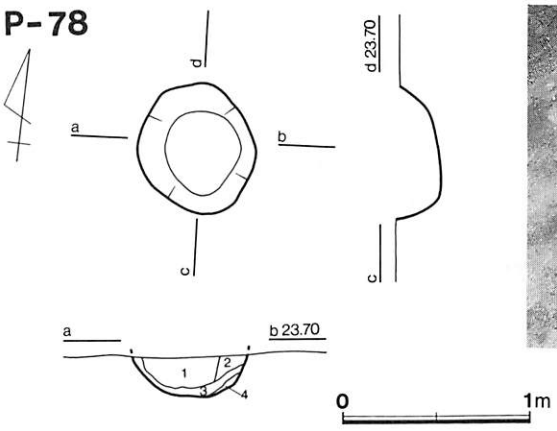


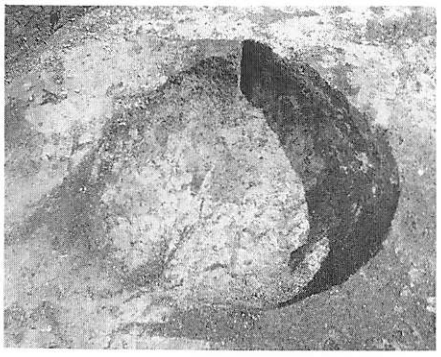
1．黒色土
2．黒褐色土
3．黒褐色土(＋ロームブロック)
4．黄褐色土
5．ロームブロック



P—47・P—76・P—82

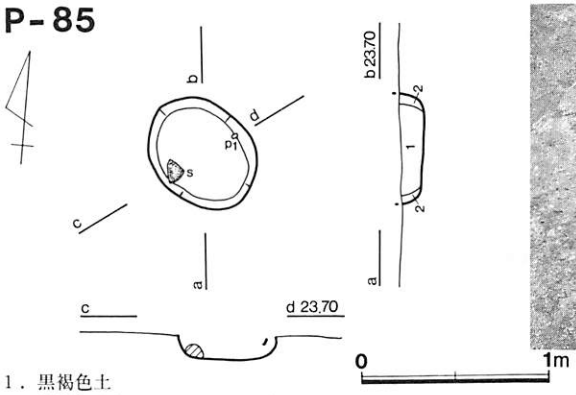
P-78



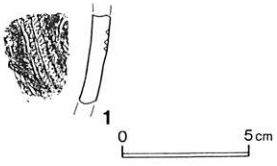


1．黒色土　　3．暗褐色土＞黄褐色土
2．暗褐色土　　4．黄褐色土

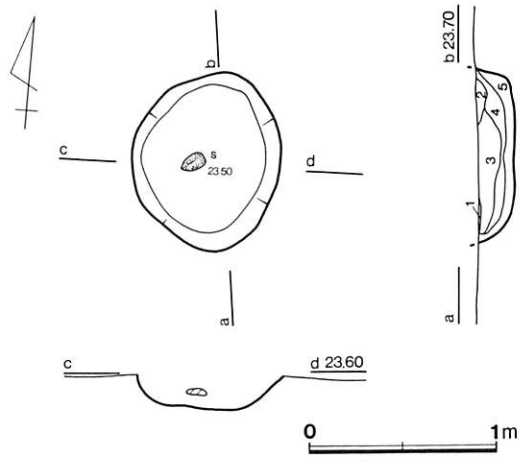
P-85

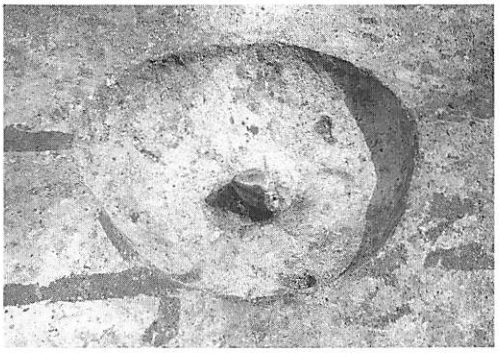


1．黒褐色土
2．黒褐色土(＋ロームブロック)

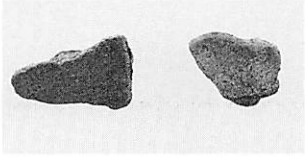


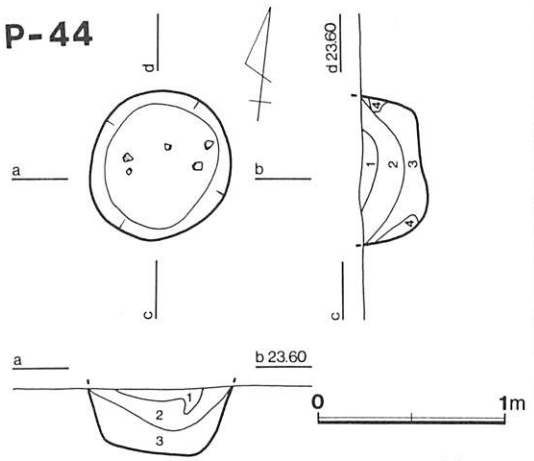
P-79

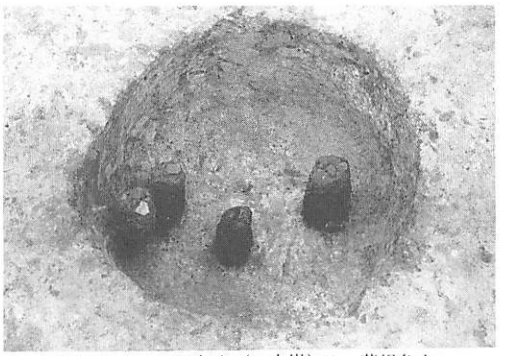




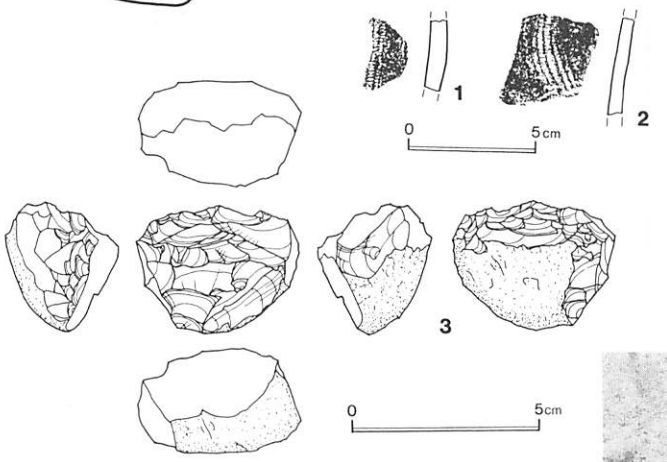
1．暗褐色土
2．撹乱
3．黒色土
4．黒色土＋ローム
5．黄褐色土

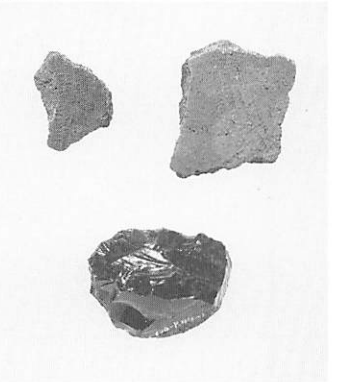


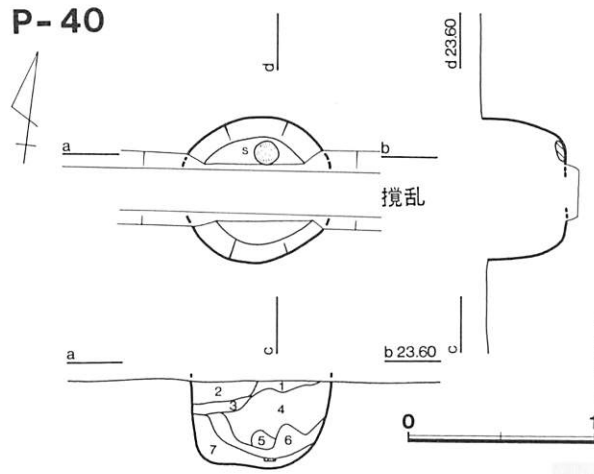


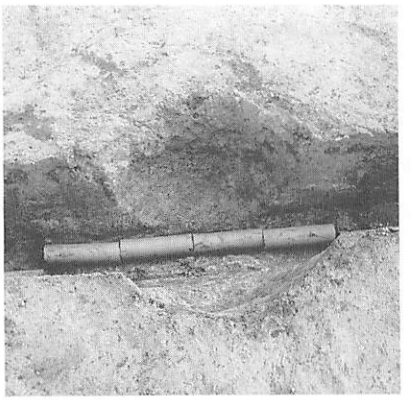


1．黄褐色土 3．黒褐色土（＋木炭）4．黄褐色土
2．黒褐色土

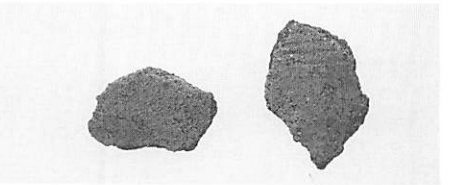






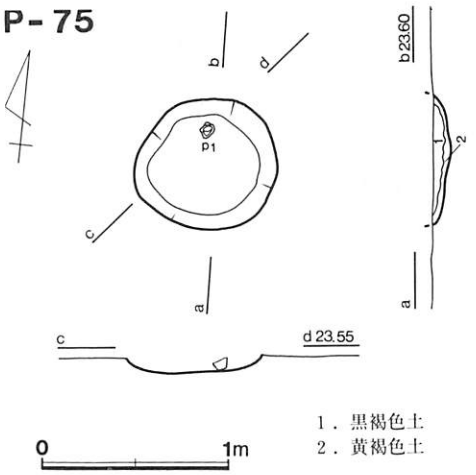


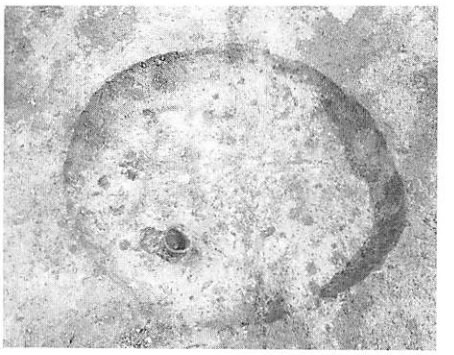
1．黒褐色土(＋ロームブロック)
2．黒褐色土
3．暗黄灰色土
4．黒褐色土
5．黒色土
6．黄灰色土
7．明黄灰色土



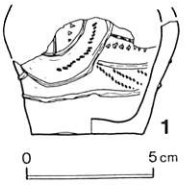
P—44・P—40

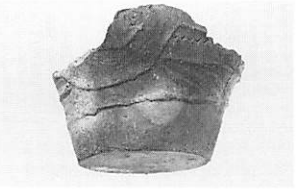
P-75



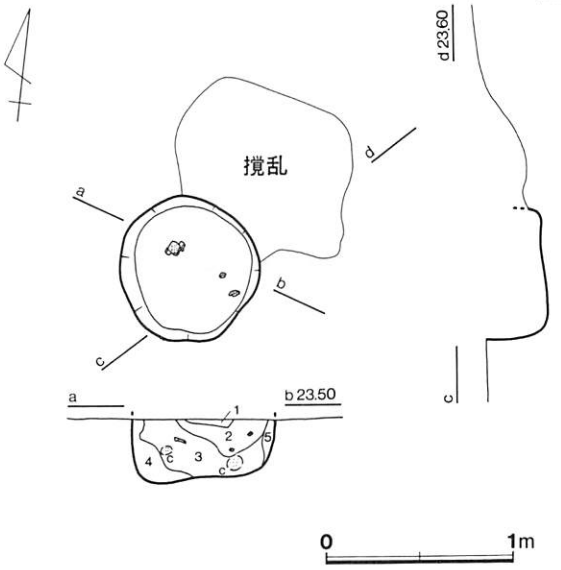


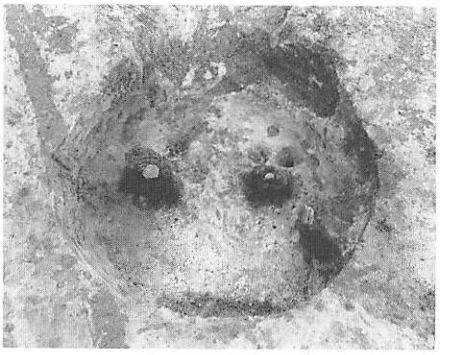
1．黒褐色土
2．黄褐色土



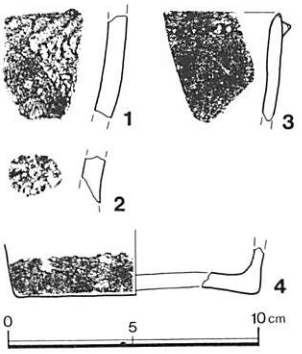


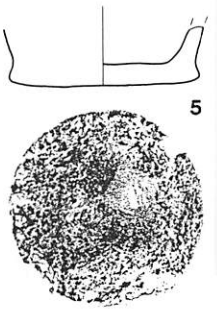
P-80

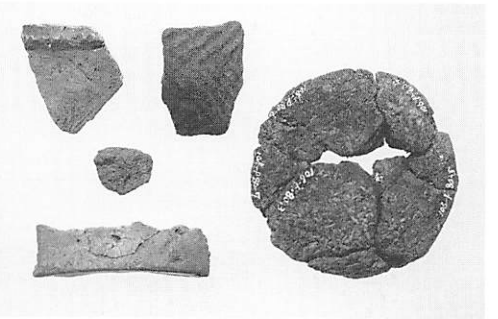




1．黄褐色土
2．黒色土
3．黒褐色土
4．明黒褐色土
5．暗黄褐色土

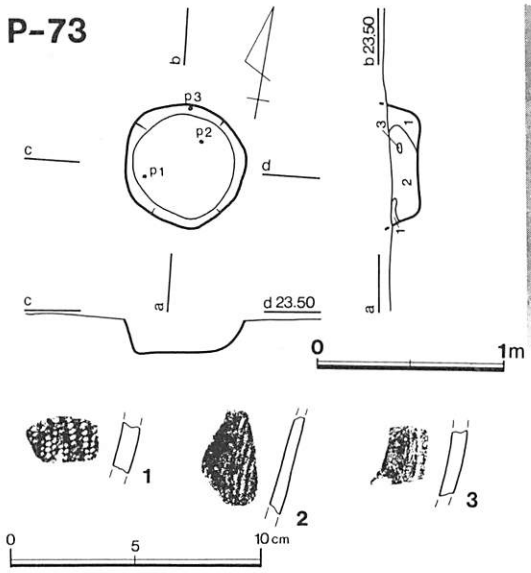




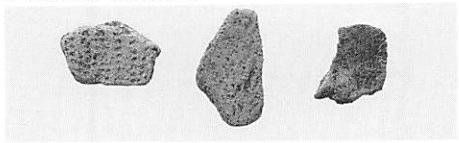


P—75・P—80

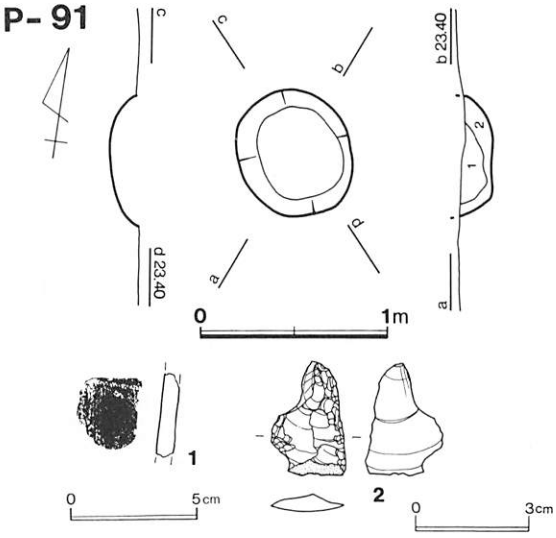
P-73

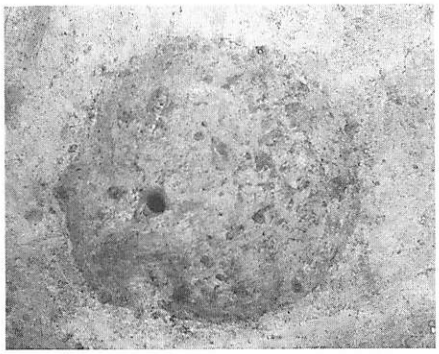


1．黒褐色土＜黄褐色土　　3．焼土
2．黒褐色土（焼土混入）

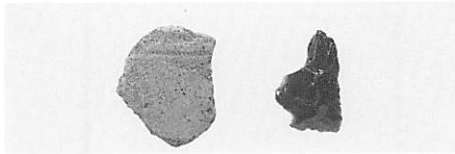


P-91

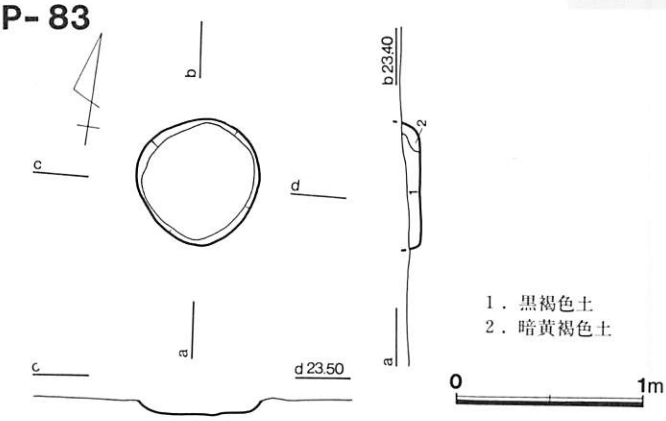




1．暗褐色土
2．暗褐色土（ローム混入）



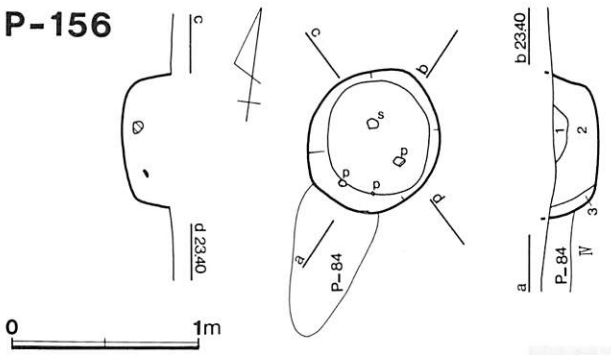
P-83



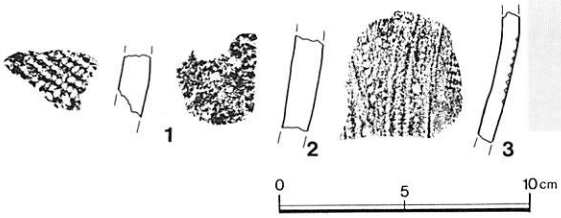
1．黒褐色土
2．暗黄褐色土

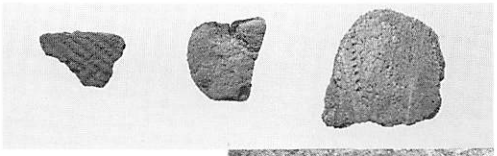
P—73・P—91・P—83

P-156

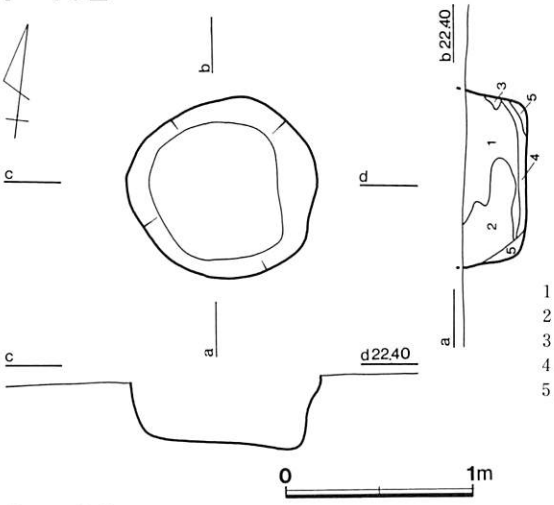


1．暗黒色土　　3．黒色土
2．暗黄褐色土

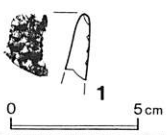


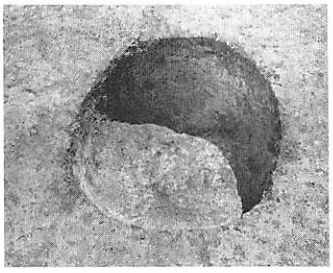


P-102

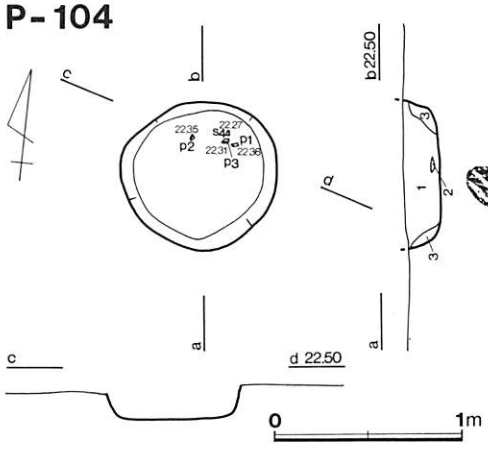


1．黒色土
2．暗褐色土
3．黄色土
4．褐色土
5．明褐色土

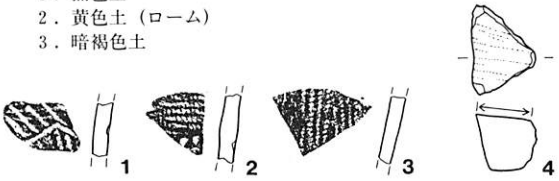




P-104

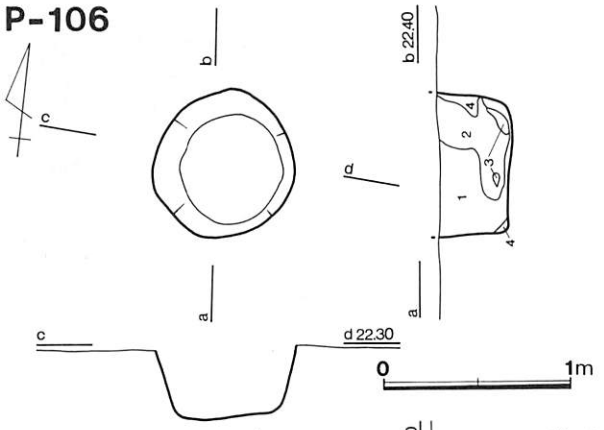


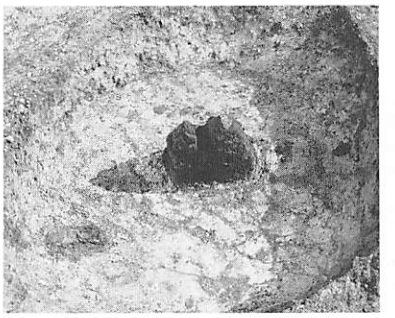
1．黒色土
2．黄色土（ローム）
3．暗褐色土



P—156・P—102・P—104

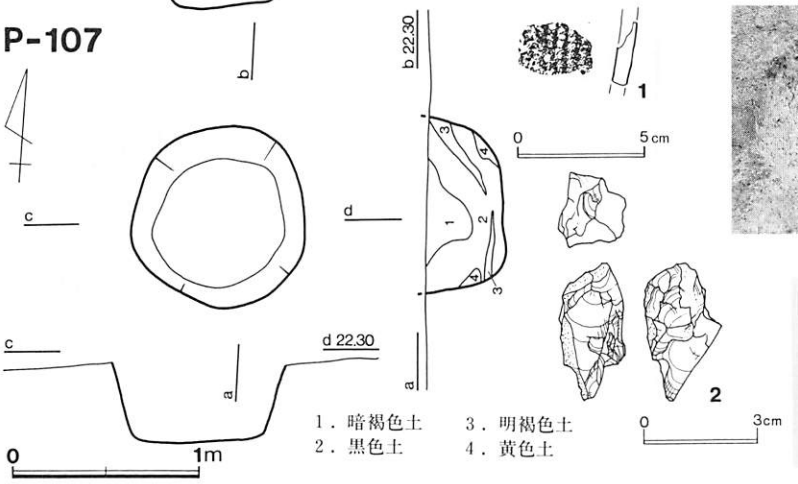
P-106

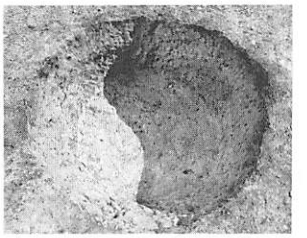


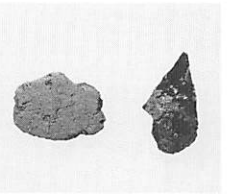


1．黒色土　3．黄色土
2．暗褐色土　4．明褐色土

P-107

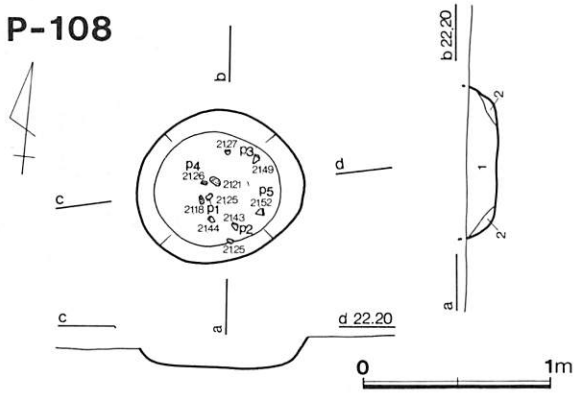


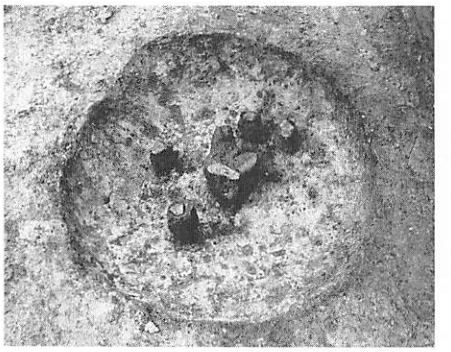




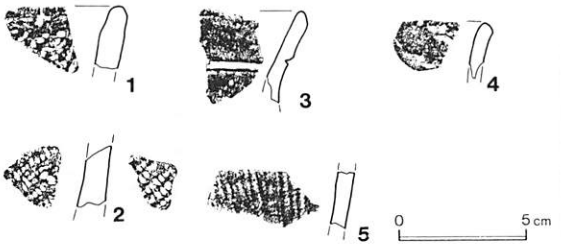
1．暗褐色土　3．明褐色土
2．黒色土　4．黄色土

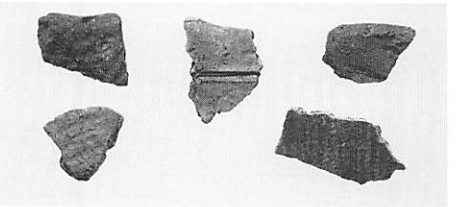
P-108



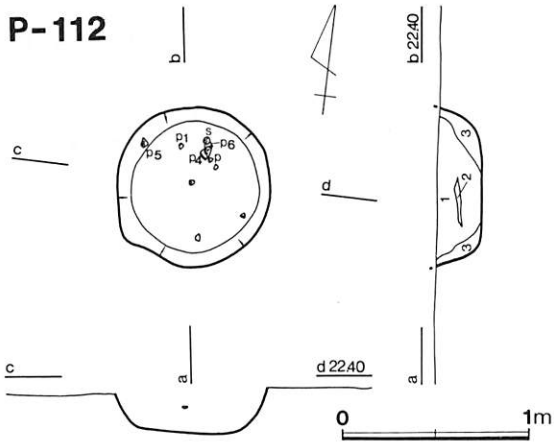


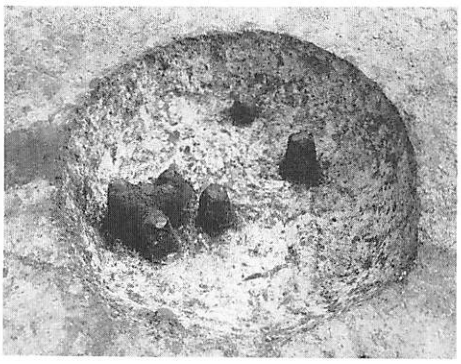
1．黒色土
2．明褐色土



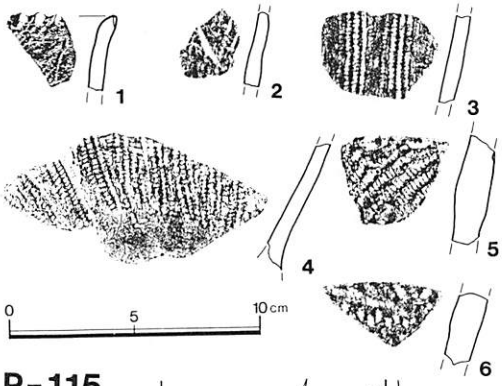


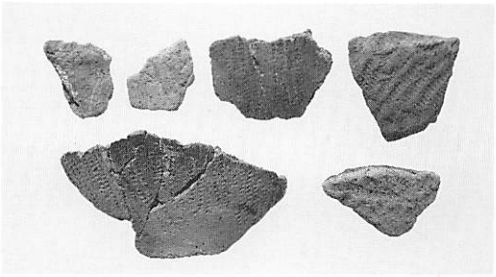
P—106・P—107・P—108

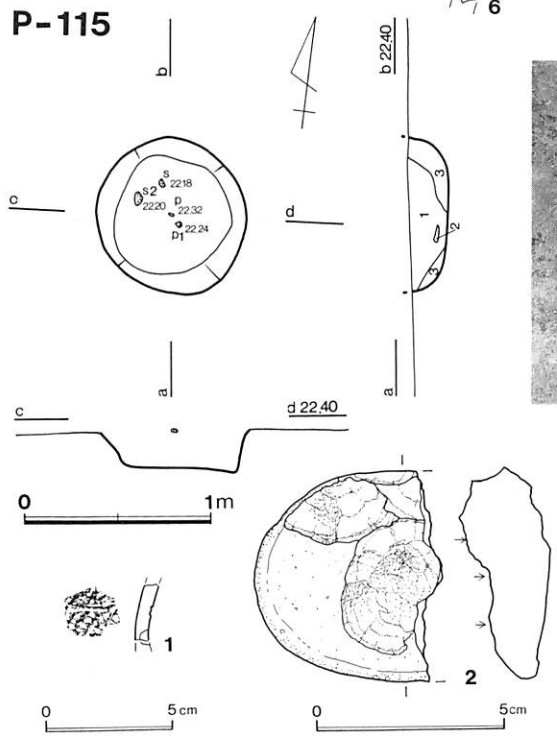


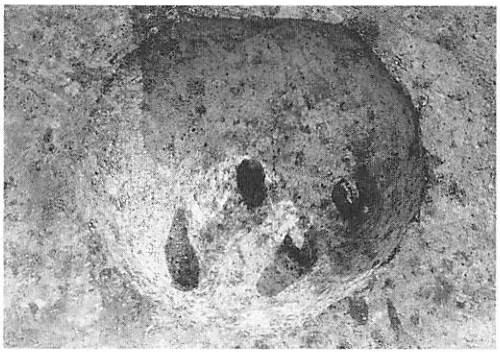


1．黒色土　　3．暗褐色土
2．褐色土

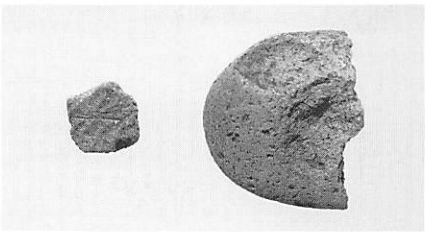






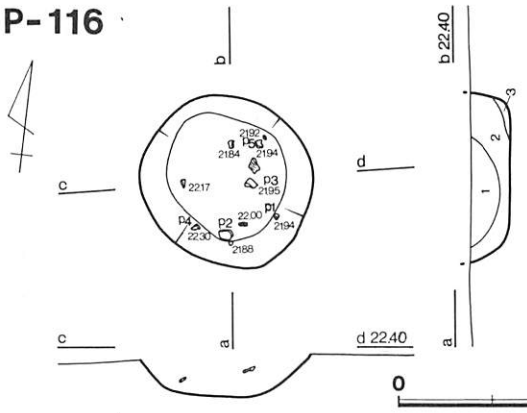


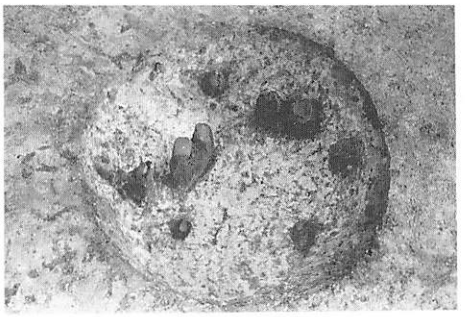
1．黒色土
2．黄色土
3．褐色土



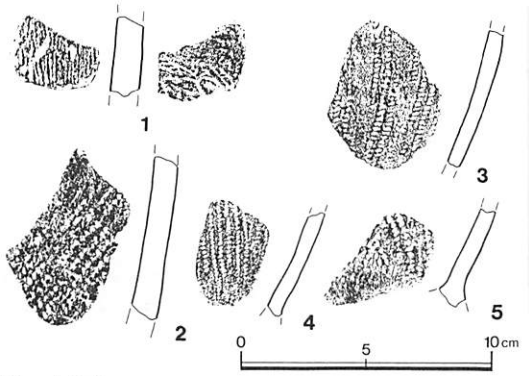
P—112・P—115

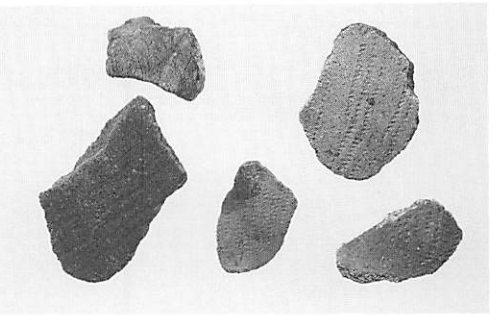
P-116



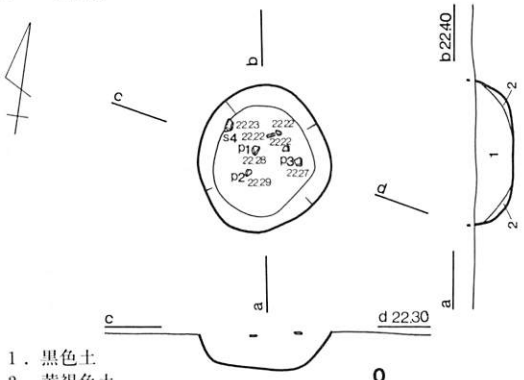


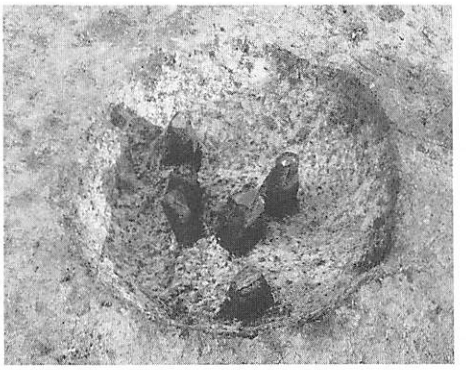
1．黒色土　3．黄褐色土
2．褐色土



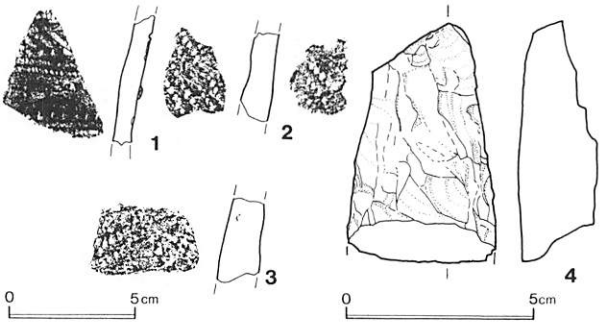


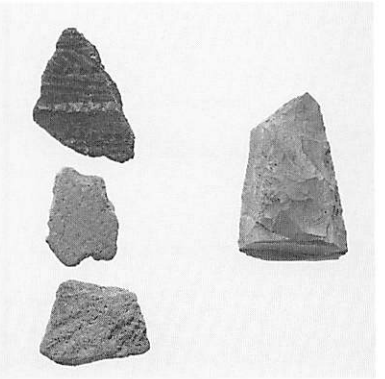
P-120





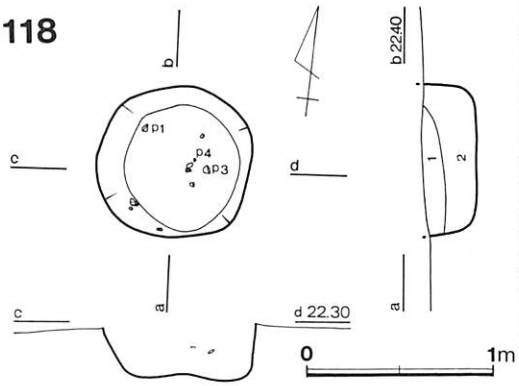
1．黒色土
2．黄褐色土

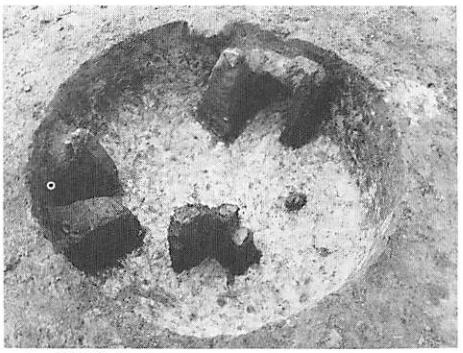




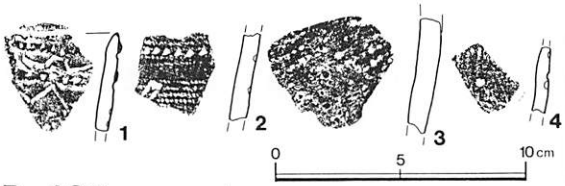
P—116・P—120

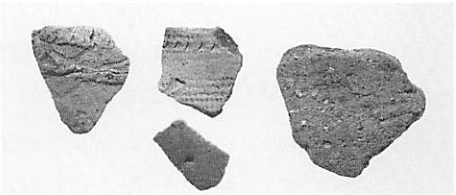
P-118



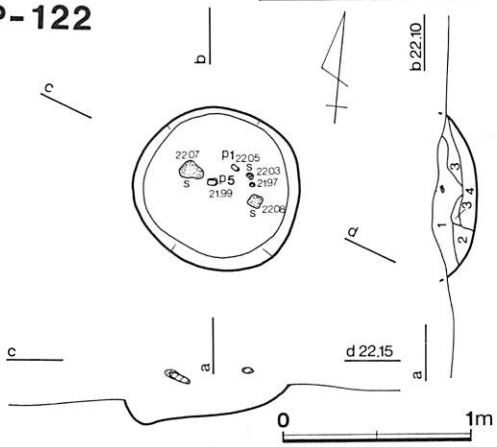


1．黒褐色土
2．黒色土（焼土ブロックを含む）

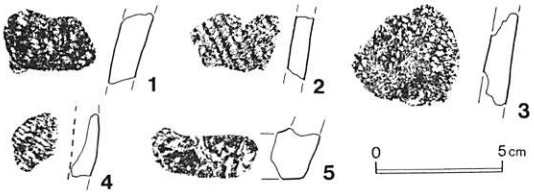


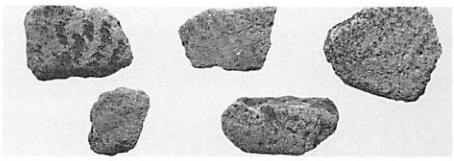


P-122

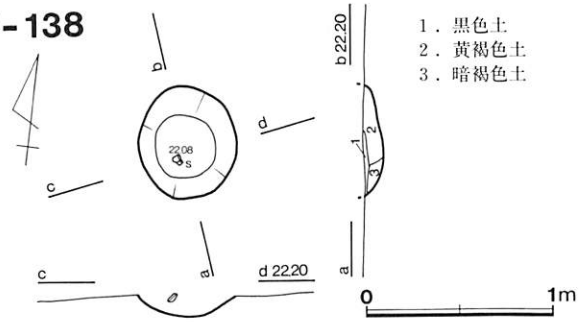


1．黒色土
2．暗褐色土
3．褐色土
4．黄褐色土





P-138



1．黒色土
2．黄褐色土
3．暗褐色土

P—118・P—122・P—138

P－71

調査区北西部の65－69区に位置する。やや括れた楕円形を呈する。壙底は西側が深くなり壁との境は不明瞭である。土層の堆積状態などから、P－77と共に風倒木痕とも考えられる。

P－4

調査区北西端部の70－65区に位置する。壙底は平坦である。覆土に炭化物を含む。1は覆土から検出されたⅥ群土器の破片で、表面は剝落、裏面も摩耗している。胎土には砂礫の含有が多く、繊維も含まれている。他に礫2点と黒曜石剝片1点が出土した。

P－35

70－67・68区に位置する。壙底は北側が深くやや傾斜する。覆土から5点のⅥ群土器の破片が検出された。1は薄手で、図の上方がさらにすぼまっており、口唇部に近い破片か、或は注口部の一部らしい。小さく刻まれた三角列点文がみられる。2は弧状の微隆起線文に区画された帯縄文と三角列点文とがある、やや丸くふくらむ胴部片。3・4には微隆起線文に縁どられた帯縄文が残されている。5は無文の胴部片で、器面は丁寧に調整されている。3～5の裏面には黒色炭化物が付着している。他に覆土から礫1点が出土した。

P－59

66・67－67区に位置し、東側にP－60が隣接する。壙底は中央が窪む浅い皿状を呈する。遺物は全て覆土から検出した。1～4はⅥ群土器の破片で、1は弧状を呈する波状縁の一部で、口唇部と口縁直下をめぐる貼付帯に密に刻みが加えられている。器面には現存3段の横帯縄文が施されている。2も口唇部と貼付帯に刻みが加えられた口縁片で、横位および縦位の帯縄文を施し、さらに弧状の微隆起線文や帯縄文、縦位の三角列点文などを付加している。3・4も微隆起線文に区画された帯縄文を直状、弧状に配し、三角列点文を刻んだもの。いずれも丁寧な内面調整がみられる。他に黒曜石剝片2点が出土した。

P－65

66－67区に位置し、南東約50cmにP－64がある。壙底は平坦で浅い皿状を呈する。覆土の北東部などから21点のⅥ群土器が検出されている。1～4は同一個体と思われる口縁片で、口縁が弧状を呈するもの。口唇には平篦状工具を連続して押圧した刻みが加えられており、波頂部にはやや長く引いた押圧がみられる。口縁直下には刻みのある貼付帯がめぐっており、波頂下には逆V字状の微隆起線文が連結している。2には微隆起線文を伴う縦位の帯縄文が施され、塗彩された赤色顔料の一部が残存している。4には横帯縄文に重ねた縦位の帯縄文があり、補修孔が穿れている。5～7は微隆起線文に区画された帯縄文と三角列点文が配された胴部片。8は平底の胴下半部で、横位および縦位の帯縄文が施文されている。他に礫1点が出土した。

P－77

65－68区に位置する。P－71と同様にやや括れた楕円形を呈し、壙底の東側が深くなるなど、風倒木痕と考えられる。

P－70

66－68・69区に位置する。壙底に凹凸がみられる。拓影2が覆土2から、他は覆土1から出土した。1は平縁の口縁片で、口唇には鋭い刻みが加えられている。器面には縦位に配した縄線文と、3段に重ねられた横位の縄線文が押捺されている。原体は単節ＲＬで、地文もこれを回転施文したもの。2はやや幅広くめぐらされた横帯縄文帯の上下に、横位の三角列点文を付加した胴部片。列点文部に塗彩された赤色顔料がわずかに残っている。3は微隆起線文と三角列点文がみられる小片で、4は薄手の平底片。いずれもⅥ群土器。他に礫1点が出土した。

P－46

65－69区に位置し、南側にＰ－47・48がある。1は覆土から得られたⅥ群土器の破片で、器面にはやや丸味があり、縦走する帯縄文が施文されている。比較的薄手で、焼成堅緻。

P－87

65－69・70区に位置する。壙底は若干凹凸のある浅い皿状を呈し、北東側は小ピットに切られている。遺物は検出していない。

P－74

65－70区に位置し、北側のＰ－75に隣接する。壙底はやや凹凸のある浅い皿状を呈する。1はやや薄手で焼成堅緻な、Ⅵ群土器の小片。器面の摩耗のため、文様などは十分観察できない。

P－105

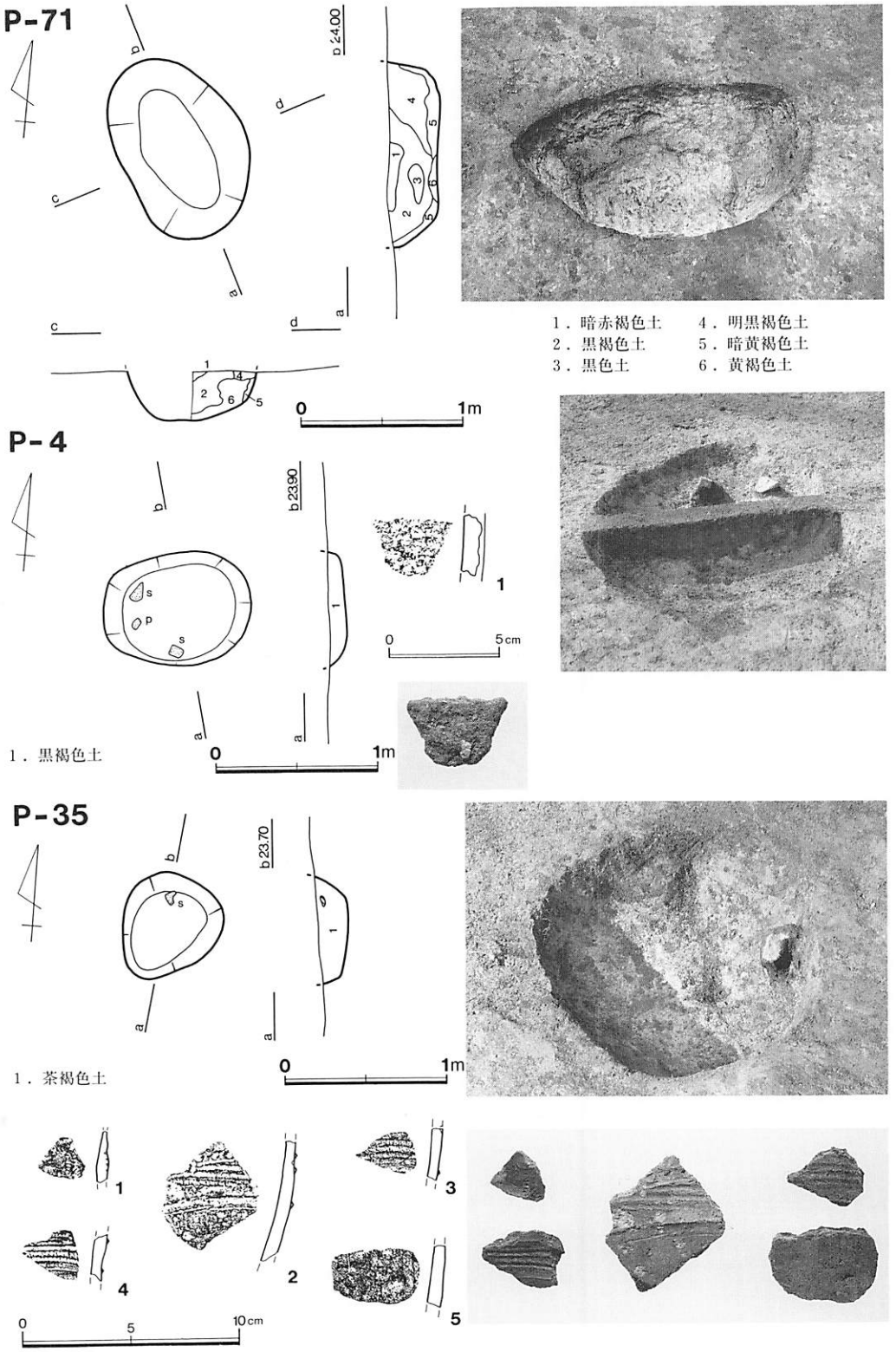
調査区中央部の60－82区に位置する。南北の壁の立ち上がりが不明瞭な浅い皿状を呈する。遺物は全て覆土から検出した。1はⅥ群土器の胴部片で、上下を横帯縄文に挟まれた、小さな平篦状工具による列点文がみられるもの。2は表裏ともに摩耗の進んだ胴部片で、単節の縄文が不明瞭ながら認められる。Ⅲ群ｂ－3類の破片であろうか。3は石斧破片。泥岩を素材にし研磨により整形している。重さは15.6g。他に礫3点、黒曜石剥片1点が出土した。

P－139

調査区中央部の59－85区に位置し、北北西側のＰ－138から約1.5m離れている。壙底は凹凸があり、西側は小ピット状に深くなっている。遺物は検出していない。

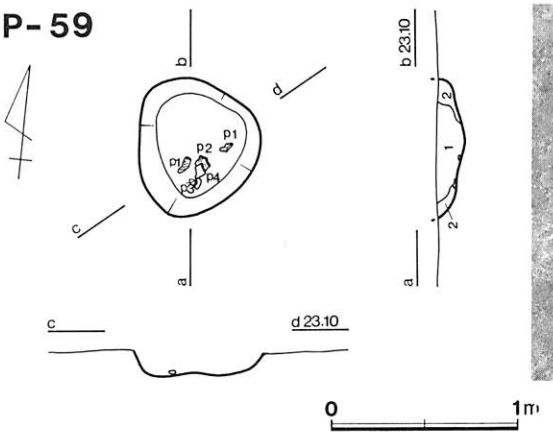
P－133

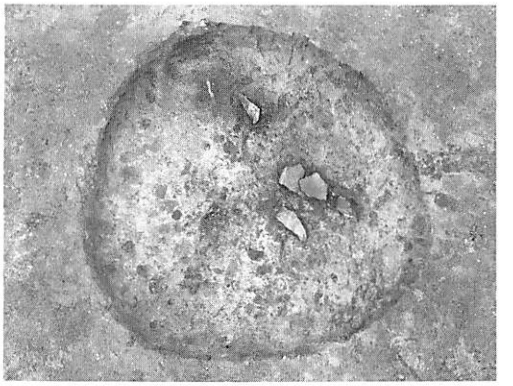
61－82区に位置する。壙底面が確認面より大きく、壁はオーバーハングした袋状を呈する。土器拓影1は壙底から出土した。1は横帯縄文が2段現存するⅥ群土器の胴部片で、器面の一部と裏面には黒色炭化物の付着がみられる。2・3は覆土中から検出された、Ⅲ群ｂ－3類に属すると思われる破片である。2は摩耗のため器面の文様は不明だが、裏面には結束第一種のある羽状縄文がみられる。3は、単節ＲＬの縄文が重ねて施文された胴部片で、内面の調整は粗く、胎土には砂礫のほか、繊維も含まれている。4は壙底から出土したポイントまたはナイフ。黒曜石を素材にしている。重さは42.2g。他に礫と黒曜石剥片、片岩剥片各1点が出土した。


P-71
b24.00
1．暗赤褐色土
2．黒褐色土
3．黒色土
4．明黒褐色土
5．暗黄褐色土
6．黄褐色土
0
1m
P-4
b23.90
1．黒褐色土
0
5cm
0
1m
P-35
b23.70
1．茶褐色土
0
1m
0
5
10cm

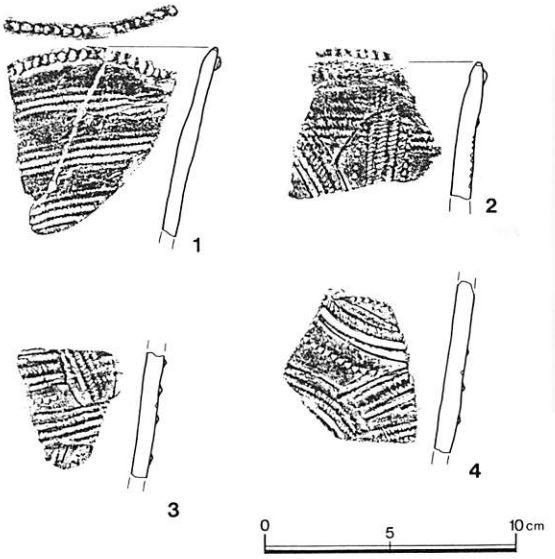
P—71・P—4・P—35

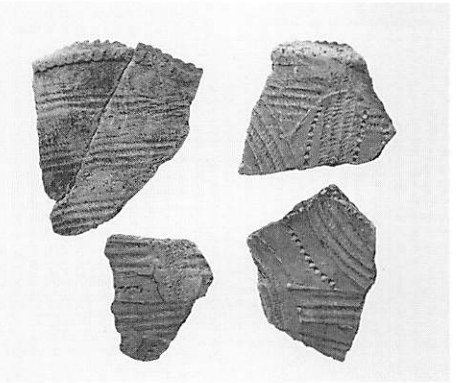
P-59



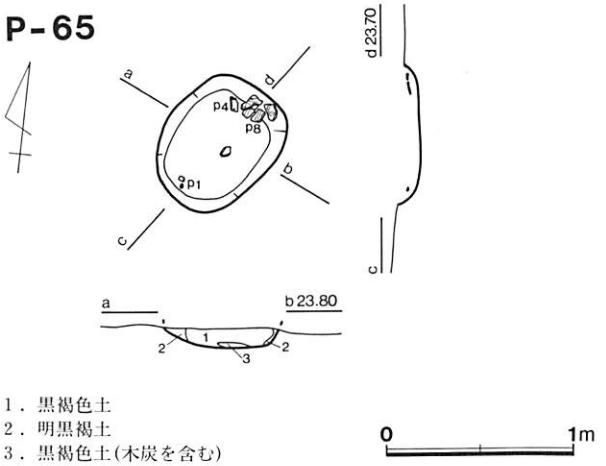


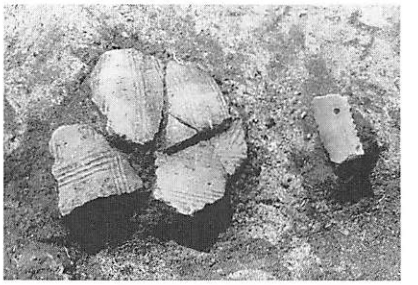
1．黒褐色土
2．黄褐色土





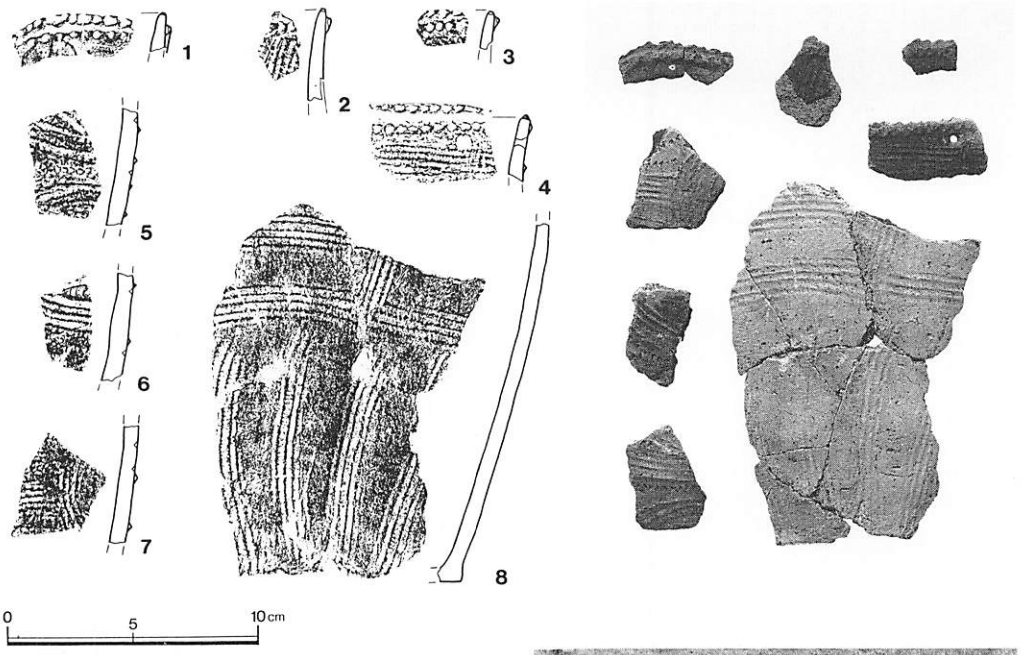
P-65

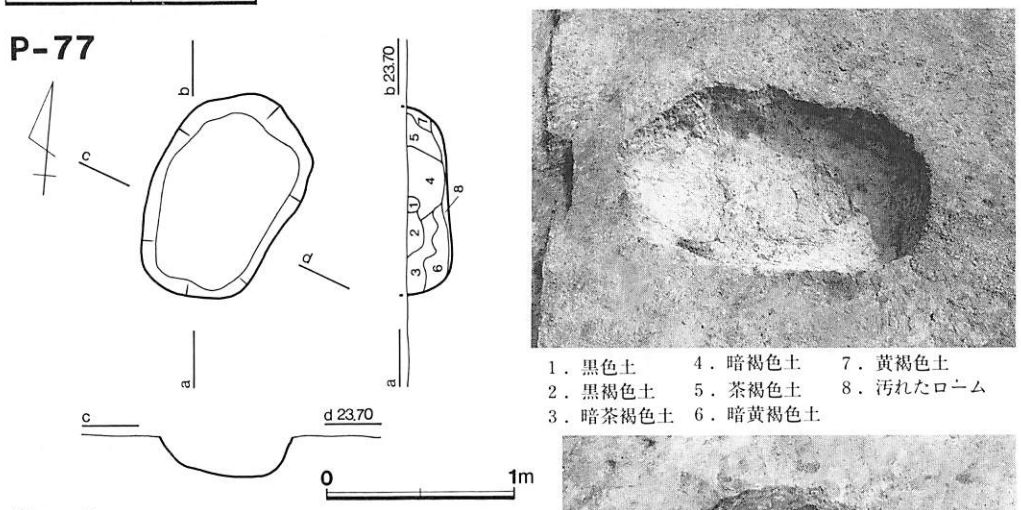




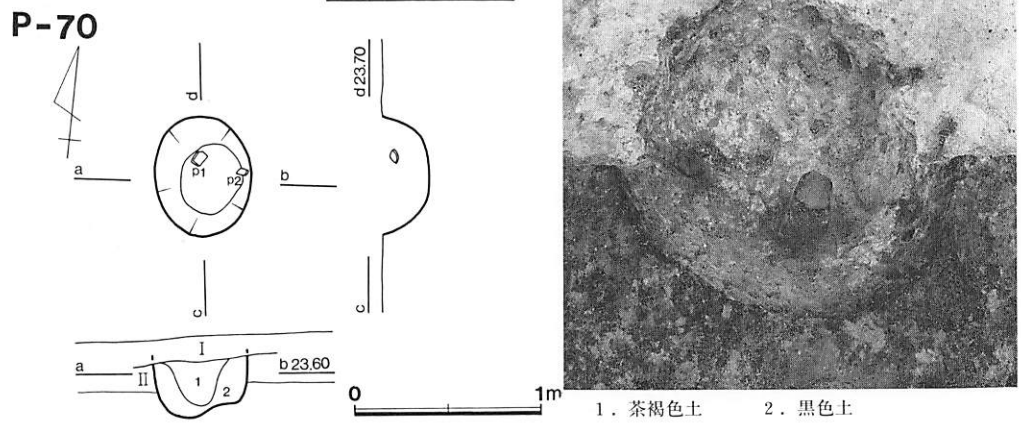
1．黒褐色土
2．明黒褐土
3．黒褐色土(木炭を含む)

P—59・P—65



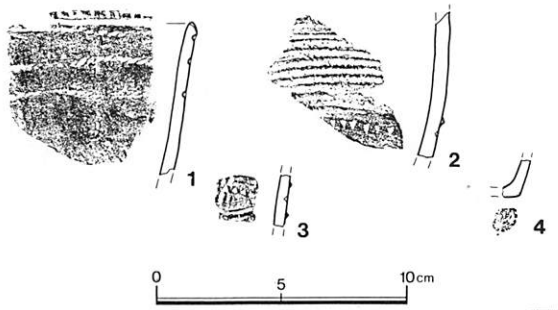


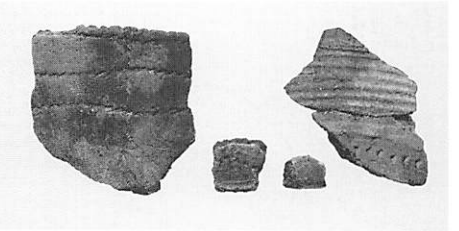
1．黒色土　4．暗褐色土　7．黄褐色土
2．黒褐色土　5．茶褐色土　8．汚れたローム
3．暗茶褐色土　6．暗黄褐色土



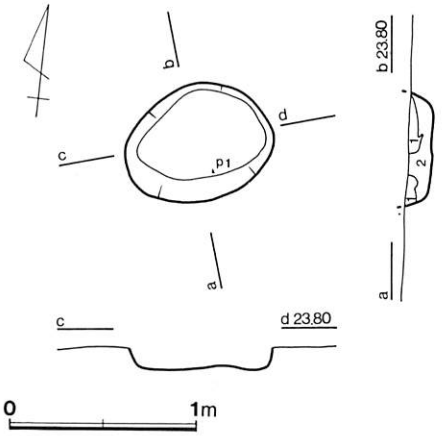
1．茶褐色土　2．黒色土

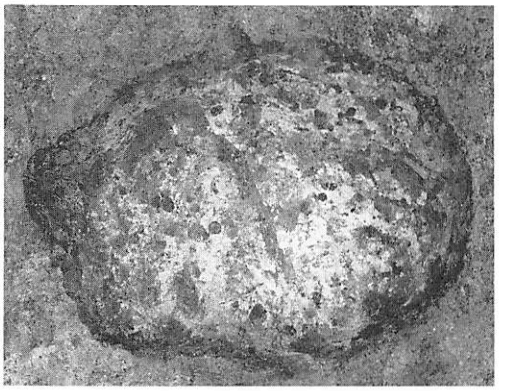
P—65の出土土器・P—77・P—70



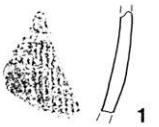


P-46



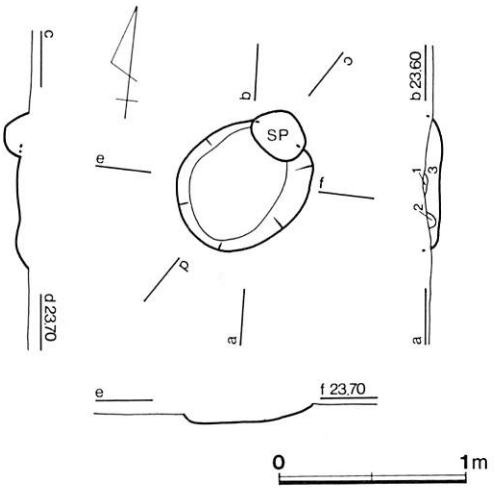


1．黒褐色土
2．黄褐色土



0　5cm

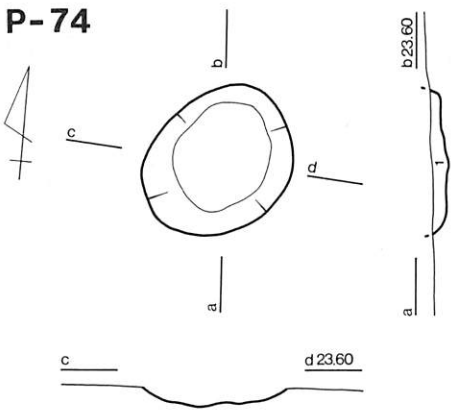
P-87



1．黒褐色土
2．ロームブロック
3．暗茶褐色土

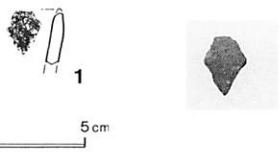
P—70の出土土器・P—46・P—87

P-74

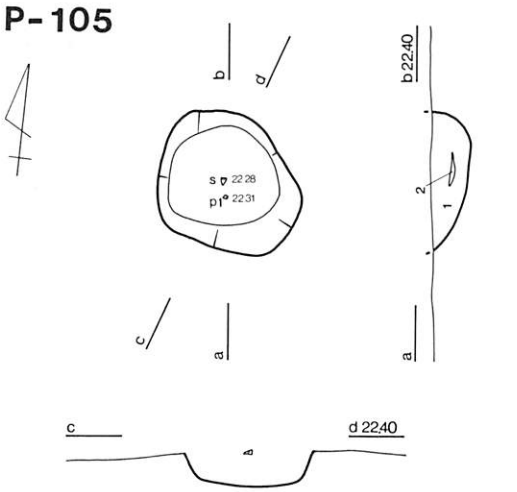


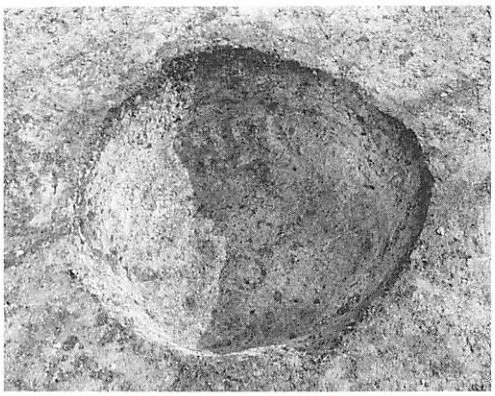
1．黒褐色土

0　1m



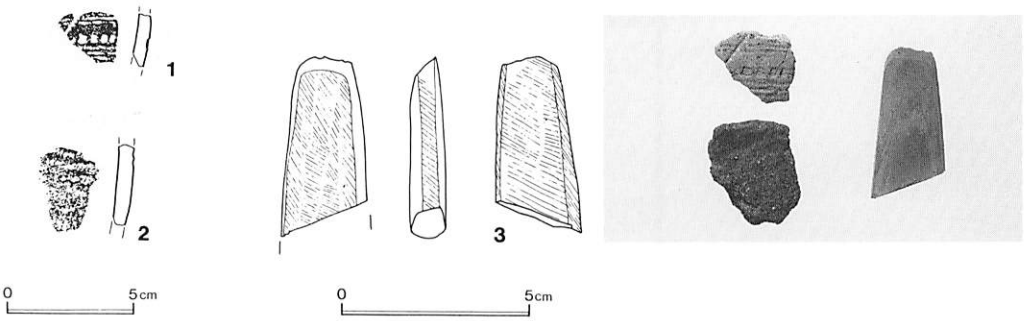
P-105



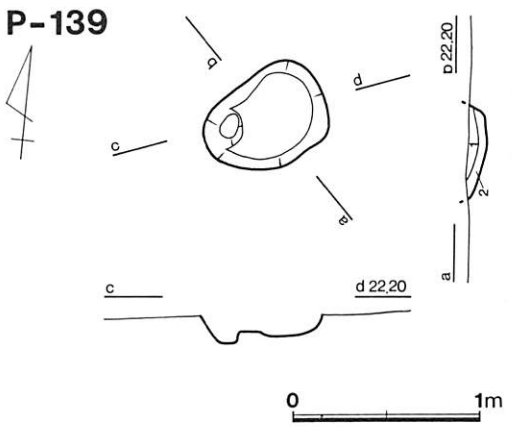


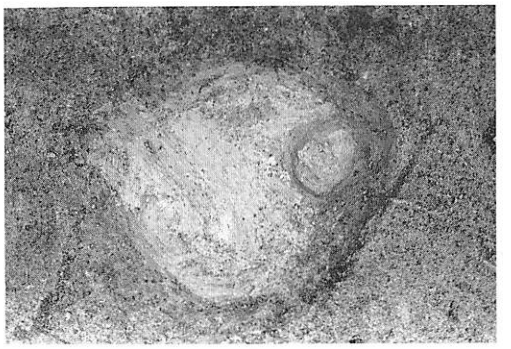
1．黒色土
2．黄色土

0　1m

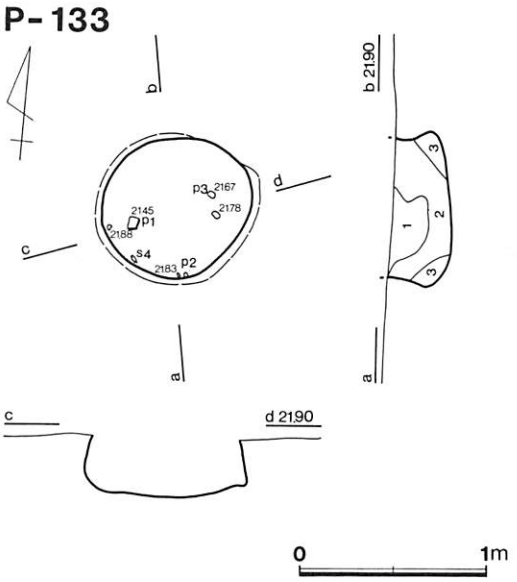


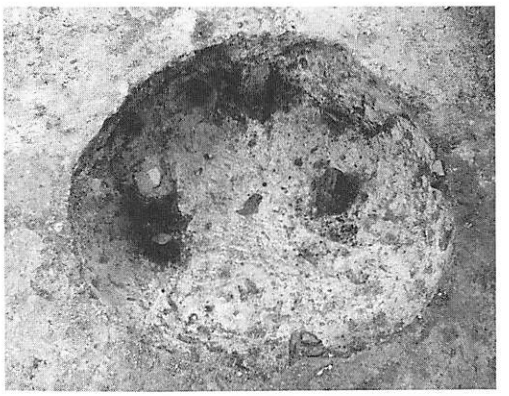
P—74・P—105



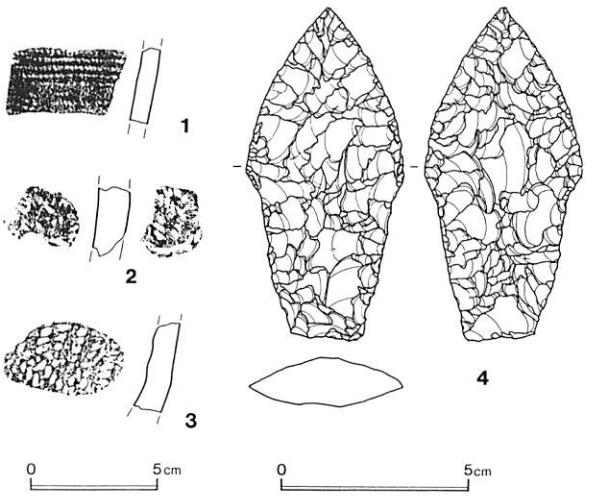


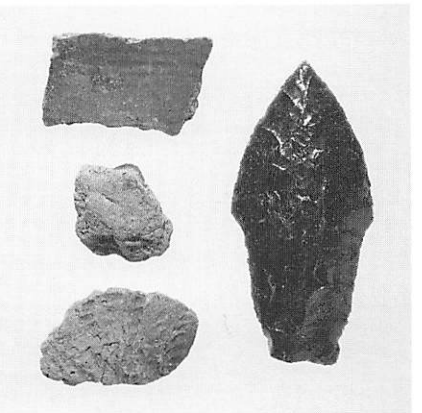
1．黒色土
2．黄褐色土





1．褐色土
2．黒色土
3．暗褐色土





P—139・P—133

5．時期不明の遺構

時期不明としたものには、P－128・180・176・178・177・168・160・110・179・182 がある。これらは全て遺物を検出していない。土層の堆積状態や形態など、時期を推定しうる材料が少ない。また、包含層の遺物出土状況、周囲の遺構からも時期を特定し難いものである。

小ピット・柱穴と考えられるもの（P－128・180・176）も含んでいる。

P－128

調査区中央部の59－83区に位置する。壙底は丸く、壁は垂直に立ち上がる。

P－180

59－81区に位置する。壙底は丸く、壁は急角度に立ち上がる。覆土１層は、若干のローム粒と炭化物を含んでいる。

P－176

59－83区に位置する。壙底は丸く、壁の立ち上がりが不明瞭な擂り鉢状を呈する。

P－178

59－81区に位置する。断面形は丸く、擂り鉢状を呈する。覆土下半に炭化物を含む。

P－177

59－81区に位置し、南西側はP-131に隣接している。壙底は平坦で浅い皿状を呈する。壙底に炭化物が一面にみられた。

P－168

調査区北西部の65－66区に位置する。壙底は凹凸があり、南西の壁際は一段低くなった浅い皿状を呈する。遺物は出土していないが、規模・形状・覆土の状態から続縄文期の土壙の可能性がある。

P－160

調査区南側の59－90区に位置し、南西側のH－２に隣接している。壙底はやや丸味をもち、浅い皿状を呈する。H－２との関係は不明である。

P－110

調査区中央から南側の59－85区に位置する。壙底は平坦で、浅い皿状を呈する。

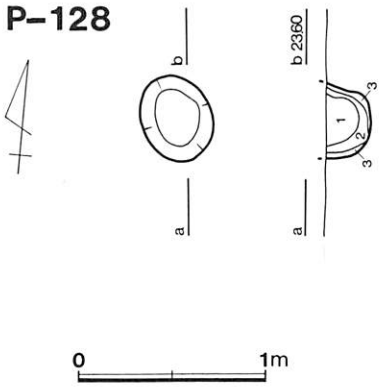
P－179

調査区中央部の58－82区に位置する。壙底は平坦である。壁は壙底との境が丸味を帯び急角度に立ち上がる、皿状を呈する。覆土２層は、径１～２cmのローム粒を多く含む。

P－182

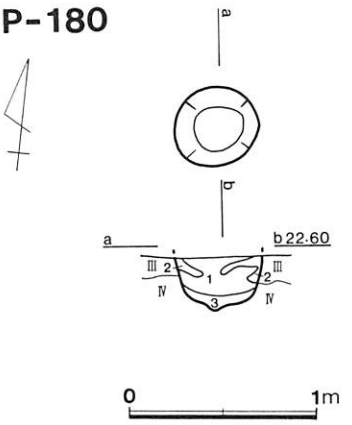
調査区南東部の沢に面した45－84区に位置する。壙底は丸味のあるボール状を呈する。南西側の壁はⅢ層との差異が少なく不明瞭である。

P-128



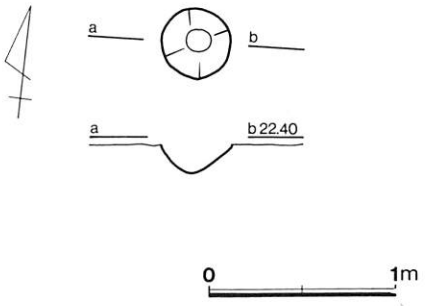
1．暗褐色粘質土
2．褐色粘質土
3．暗黄褐色粘質土

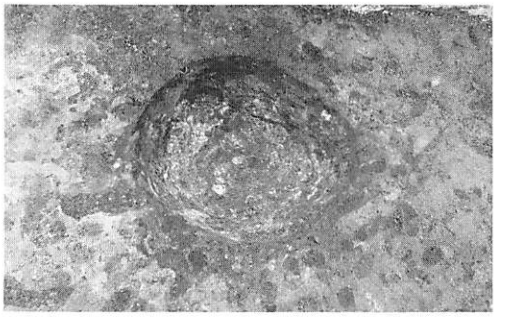
P-180



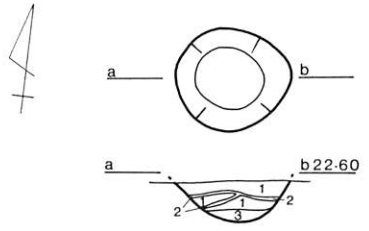
1．暗褐色土
2．褐色粘質土
3．黒色土

P-176





P-178

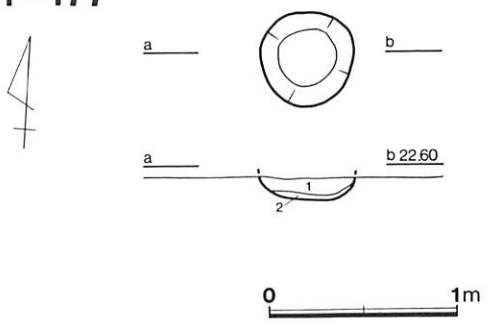


1．暗褐色土
2．黄褐色土
3．暗黒褐色土

0 1m

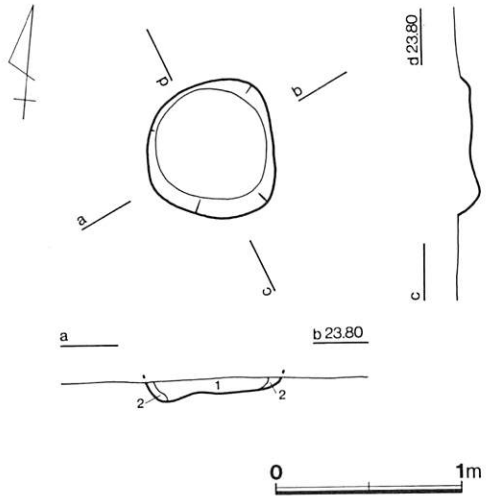
P—128・P—180・P—176・P—178

P-177



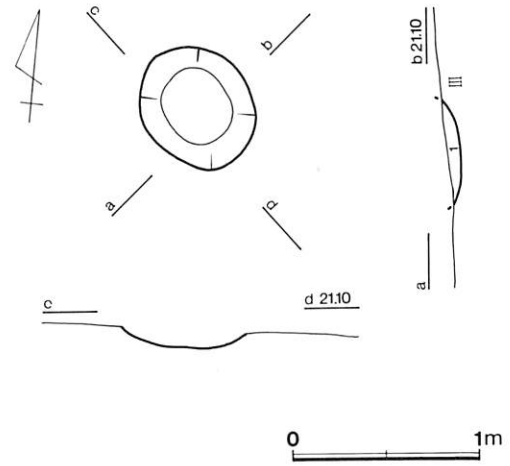
1．黒色土
2．炭化物＞黒色土

P-168



1．黒色土
2．茶褐色土

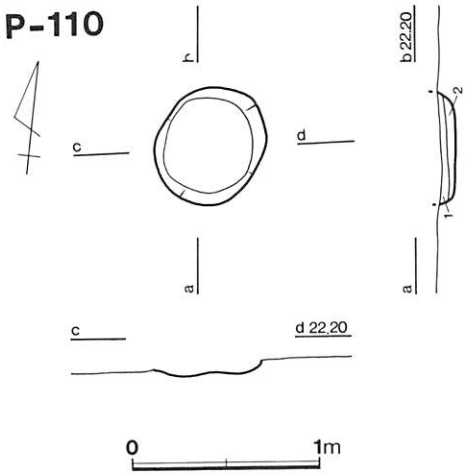
P-160

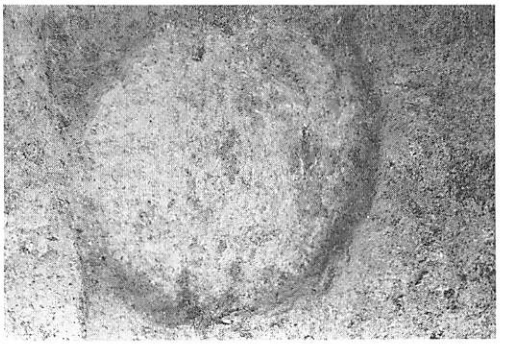


1．黒褐色土

P—177・P—168・P—160

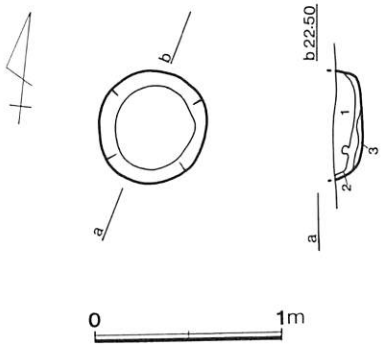
P-110

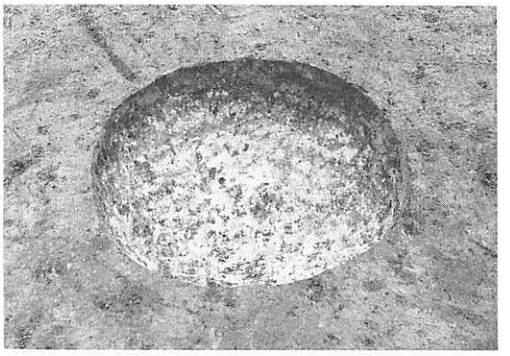




1．黒色土
2．黄褐色土

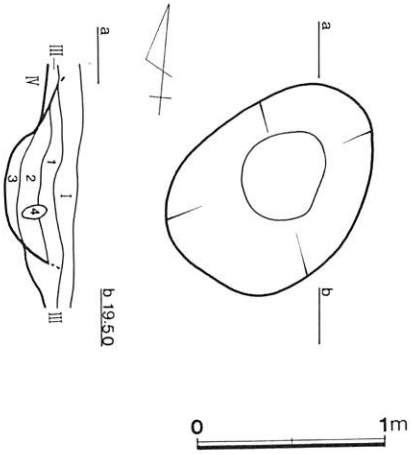
P-179

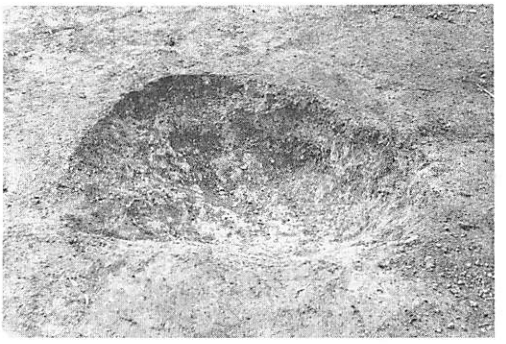




1．黒色土
2．黄褐色土
3．暗褐色土

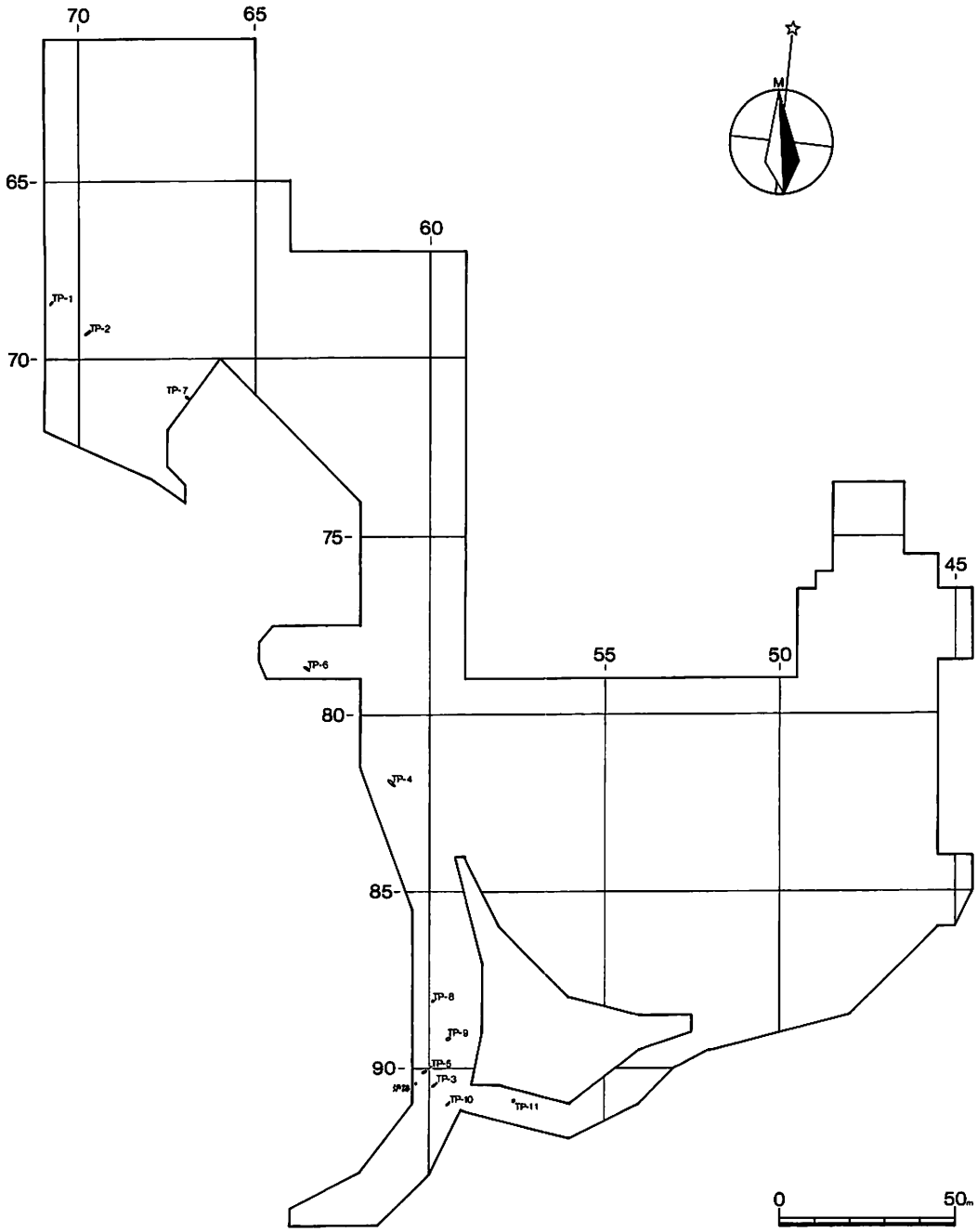
P-182





1．黒色土
2．黒褐色土
3．暗褐色土
4．黄褐色土

P—110・P—179・P—182



Ｔピットおよび炉跡の位置図

6．Ｔピット

Ｔピットは、小判型を呈するもの３基と溝状を呈するもの８基を検出した。小判型を呈するＴＰ－８・９・11は等高線に直交して列を成す。ＴＰ－８とＴＰ－９の距離は約11ｍ、ＴＰ－９とＴＰ－11の距離は約22ｍある。この２つの中間の調査区外に、もう１基存在する可能性が強い。溝状を呈するＴＰ－１・ＴＰ－２とＴＰ－５・ＴＰ－３・ＴＰ－10は等高線に直交して列を成している。ＴＰ－１とＴＰ－２の距離は約13ｍである。ＴＰ－５・ＴＰ－３・ＴＰ－10の各々の距離は約４ｍと６ｍである。ＴＰ－７、ＴＰ－６、ＴＰ－４は各々、長軸方向に列を成している。しかし距離が約80ｍと約40ｍ程、離れている。西側の沢状の大きな湿地に面した崖に沿った、各々、列を成すものの１つと考えられる。

ＴＰ－８

調査区のやや南より59－88区に位置する。北側壁の上部は攪乱を受けていた。縦断面・横断面共に壙口部が広い台形状で、壙底は横断面が若干丸味を帯び、長軸の両端はやや低い。長軸はＮ-64°-Ｅをむく。１は覆土から採集されたⅢ群ｂ－３類土器の胴部片。表裏ともに摩耗が進んで文様は不明である。２は石斧破片。千枚岩を素材に研磨により成形している。重さは62.2g。３は砥石。砂岩を素材に４面を利用している。重さは580g。他に黒曜石剝片13点が出土した。

ＴＰ－９

59－89区に位置する。長軸断面は袋状である。壙口部は長軸方向と南西側が崩落により広がっている。長軸はＮ-48°-Ｅをむく。１～５は覆土出土の土器片で、５以外はかなり摩耗している。１・３は３～５本単位の沈線文様がみられるⅣ群ａ類土器で、胎土に多量の砂礫が含有されている。２も砂礫がちな胎土のⅣ群ａ類の破片だが、文様は観察できない。４は円形刺突文の一部と、貼付文に加えられた小さめの刺突がみられる口頸部片で、単節斜縄文の施された５とともにⅢ群ｂ－３類に属する。６はすり石。安山岩を用いている。重さは385g。７は凹石。素材は安山岩で、重さは147.1g。他に礫２点と黒曜石剝片40点が出土した。

ＴＰ－11

調査区の北側、57-90区に位置している。すぐ南側には、Ｈ-５が、北側には、Ｐ-220.221が位置している。楕円形を呈し、底面は平担で柱穴などはみられなかった。覆土にＨ-３でみられた汚れた焼土が堆積しているのが観察された。１は、口縁がやや肥厚し、口縁直下外側からの刺突が施されている。２には突引文が、３には綾繰文が施文されている。４，５は、底部である。６は、砂岩製の砥石で三面が使われている。また、中央に敲打痕がみられる。

ＴＰ－１

調査区北西部の70―68区に位置する。横断面は壙底部が確認面より狭くなり、壁面の上部が崩落してる。長軸はＮ-30°-Ｅをむく。遺物は検出していない。

ＴＰ－２

69－69区に位置する。壁は垂直で、壙底部の横断面は丸味をもち細くなる。長軸はＮ-43°－Ｅをむく。遺物は検出していない。

ＴＰ－７

台地の縁辺部、66－71区に位置する。南東側は調査区外のため確認していない。壙底部の北西端は広がりオーバーハングする。覆土は非常に堅い。長軸方向に緩く傾斜する。長軸はＮ－45°－Ｅをむく。遺物は検出していない。

ＴＰ－６

台地の縁辺部、63－78区に位置する。壙底部は長軸の両端が広がりオーバーハングする。壁の上部は崩落により広がっている。壙底は北西に緩く傾斜している。長軸はＮ-70°-Ｗをむく。１は覆土から検出された平底の底部片。胎土には砂の含有が多い。Ⅲ群ｂ－３類に属するものか。

ＴＰ－４

61－81・82区に位置する。北西側の上部は攪乱を受けている。確認面に比べ壙底部は細く、北東側の壁の下部は若干膨らみがある。長軸はＮ-46°-Ｗをむく。１は２条の縄線文を押捺し、表裏に同一の原体を回転施文したと思われる縄文のあるⅣ群ａ類の口縁片。２は摩耗のため不明瞭だが、結束第一種のある斜行縄文が施されたⅢ群ｂ－３類の胴部片。３は砥石破片。砂岩を素材にしている。両面を使用している。重さは８g。他に礫10点と片岩剝片が１点出土した。

ＴＰ－５

60－90区に位置する。横断面は上部が崩落により広がり壙底は細く丸味がある。壙底は西南西に緩く傾斜している。長軸はＮ-58°-Ｅをむく。１は摩耗の進んだ土器の小片で、文様は判別できない。Ⅲ群ｂ類か。２は垂飾。橄欖岩を素材にしている。全周に線刻が施されている。穿孔部に縦方向の条痕がみられ、角に削り落とされた痕がある。重さは57.1g。３は石槍の基部破片。黒曜石を素材にしている。重さは2.6g。他に黒曜石剝片８点と片岩剝片１点が出土した。

ＴＰ－３

59－90区に位置する。平面形は中央が細く括れ、壁の上部は崩落により広がっている。壙底の北東側は若干膨らみがある。長軸はＮ-41°-Ｅをむく。１～３は覆土出土のⅢ群ｂ－３類土器の破片と思われるもの。１には表裏に縄文があり、２・３の縄文は無節の原体によるものらしい。いずれも摩耗が進んでおり、文様の十分な観察は困難である。４は使用痕のある黒曜石剝片。重さは２g。５・６は黒曜石の石核。５は焼けている。重さは9.6g。６は原石面を残している。重さは10.3g。

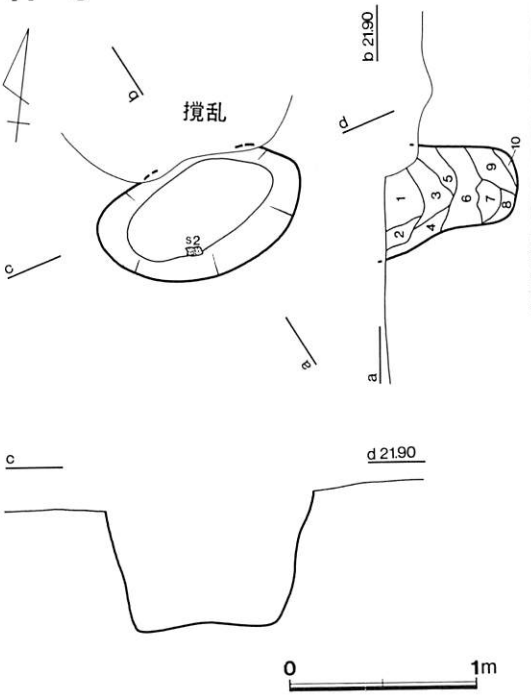
ＴＰ－10

59－90・91区に位置する。北東側はＨ－２を切っている。壙底部は若干膨らみ横断面は丸味がある。長軸はＮ-35°-Ｅをむく。遺物は覆土からⅢ群ｂ－３類土器８点、黒曜石剝片10点、片岩又は泥岩剝片が４点出土した。

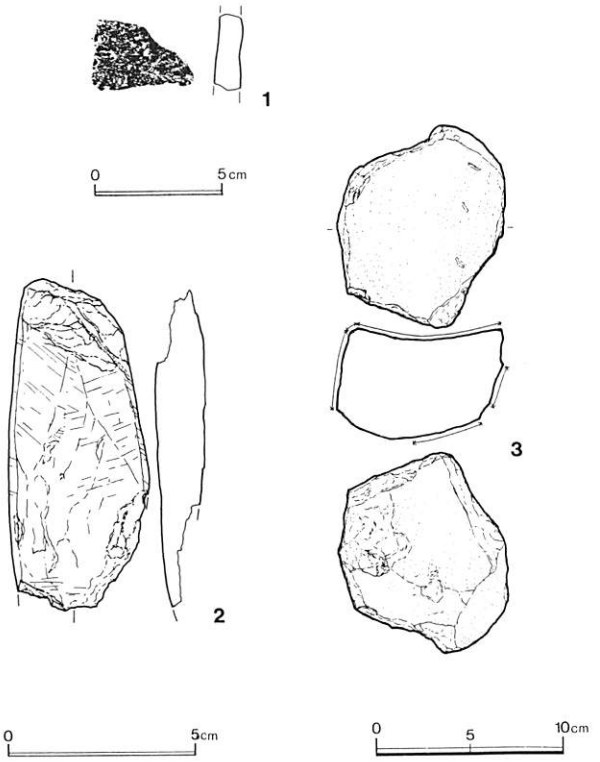
７．炉跡

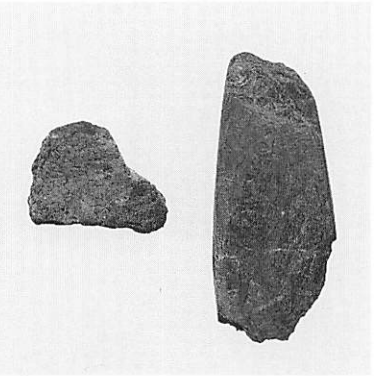
調査区の南側60－90区に位置する。平面形は楕円形を呈し、焼土の厚さは10cmを測る。上部は炭化物が検出できず、耕作により削平されている。東側にある竪穴住居跡に伴う屋外炉と考えられるが、遺物が検出できず時期は特定できない。

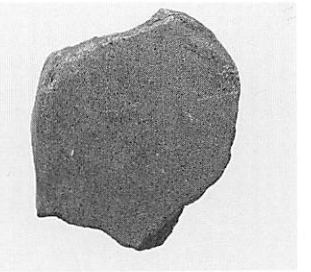
TP-8



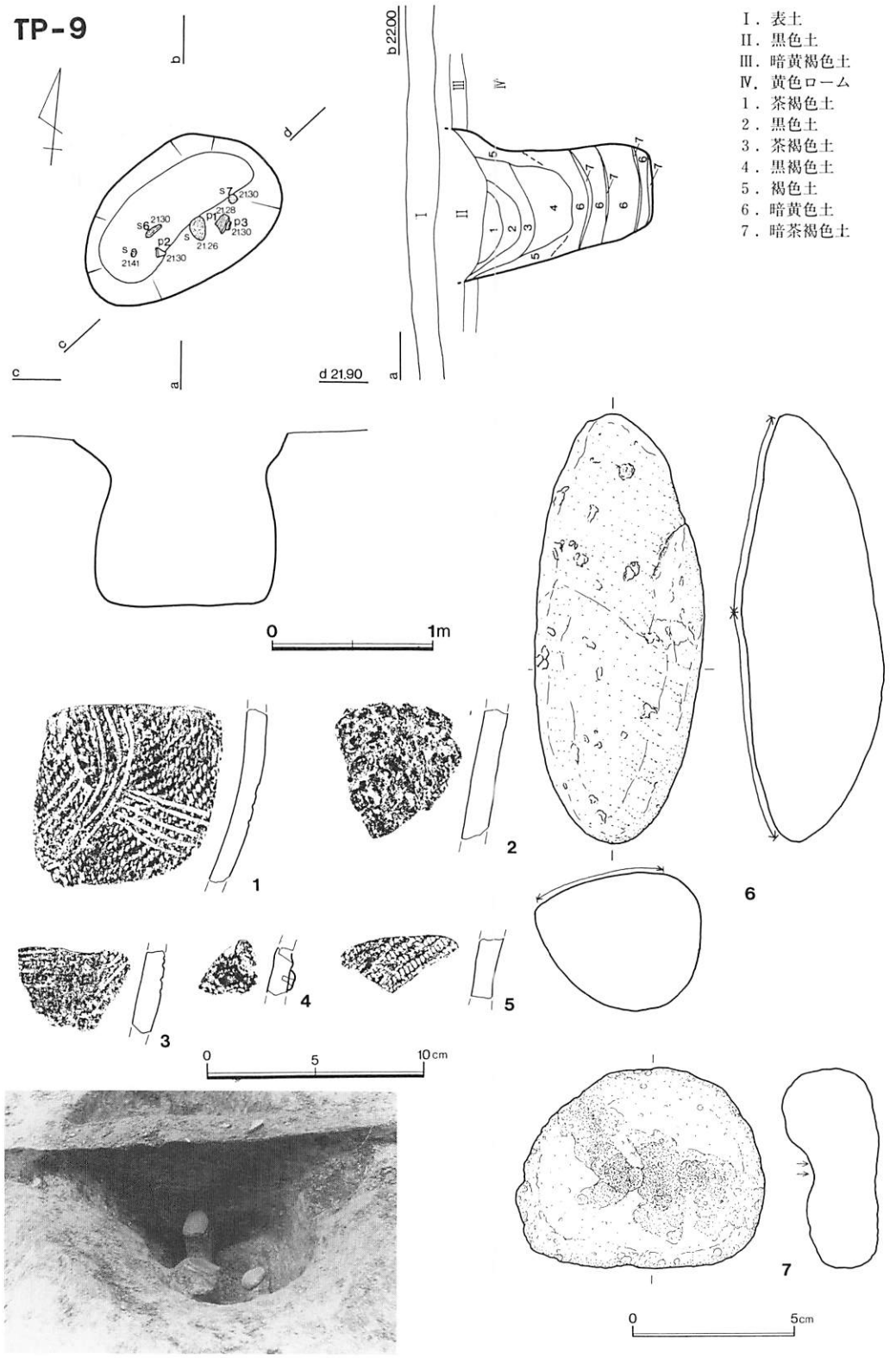
1．褐色土　　6．茶褐色土
2．暗褐色土　　7．黄灰色土
3．黒色土　　8．黄褐色土
4．黄褐色土　　9．黒色土
5．明褐色土　　10．黄褐色土



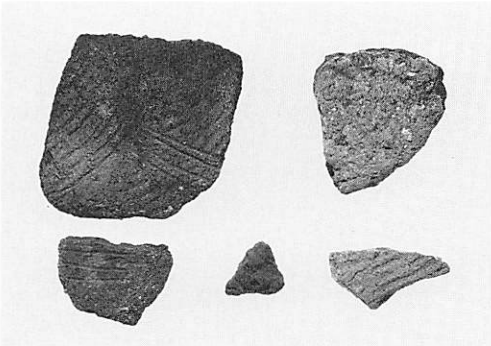


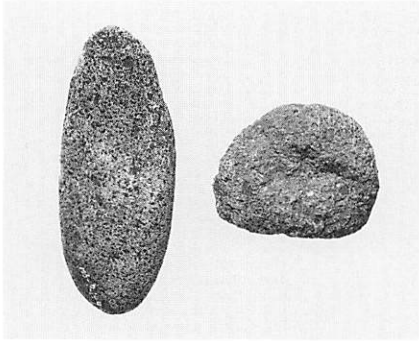


TP—8

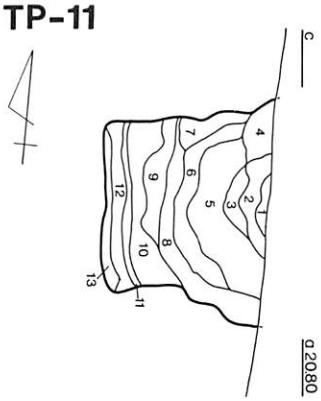

TP-9
Ⅰ．表土
Ⅱ．黒色土
Ⅲ．暗黄褐色土
Ⅳ．黄色ローム
1．茶褐色土
2．黒色土
3．茶褐色土
4．黒褐色土
5．褐色土
6．暗黄色土
7．暗茶褐色土
b 22.00
d 21.90
0 1m
0 5 10cm
0 5cm

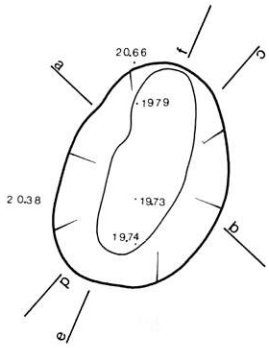
TP—9

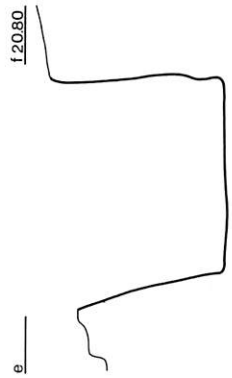


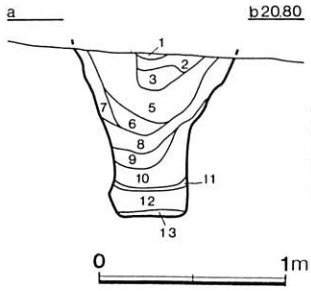


TP-11

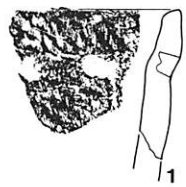


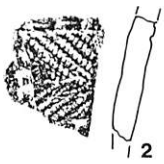


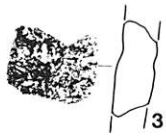


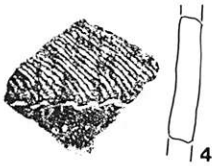


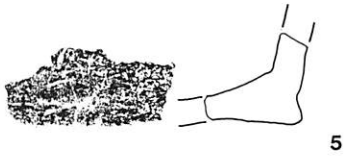
1．黒褐色土（焼土含む）
2．焼土層＋暗赤褐色土
3．焼土層＋赤褐色土
4．里褐色土
5．黒褐色土（ロームを含む）
6．暗褐色土（ロームを含む）
7．黄褐色土（ロームを含む）
8．黄褐色土（ロームをブロック状に含む）
9．暗黄褐色土(ロームをブロック状に含む)
10．黄褐色土
11．黒褐色土
12．黄褐色土
13．黒褐色土（炭化物を含む）

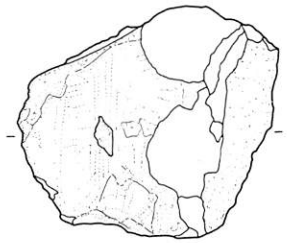


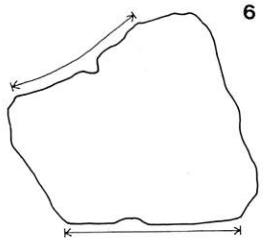




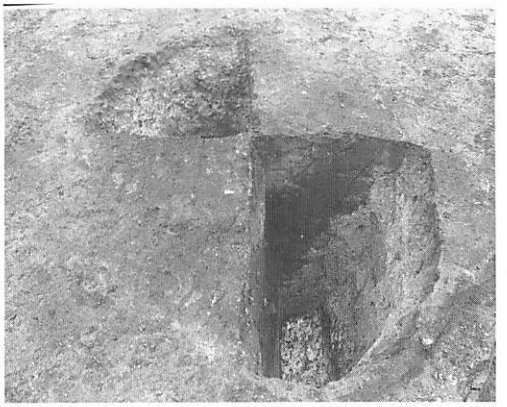


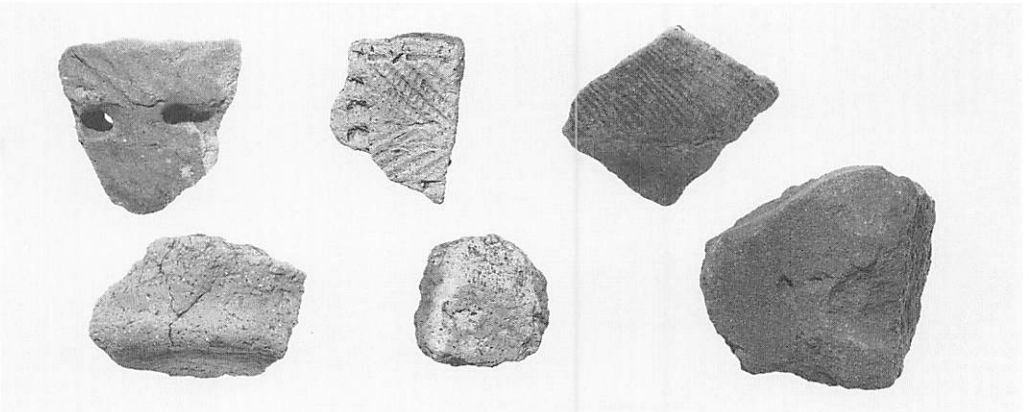






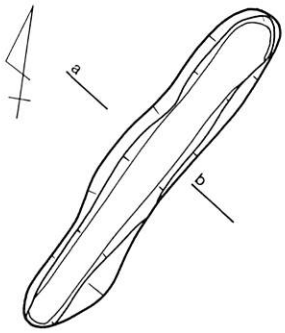
ＴＰ―９の出土遺物・ＴＰ―11

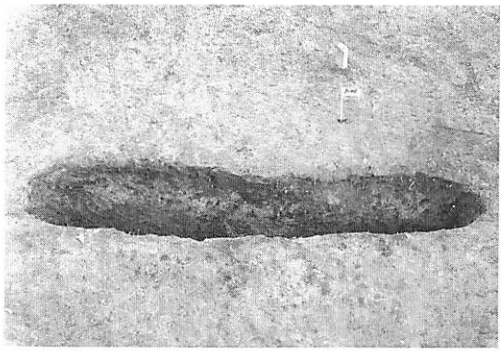


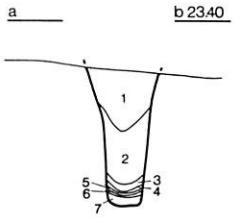


TP—11

TP-1



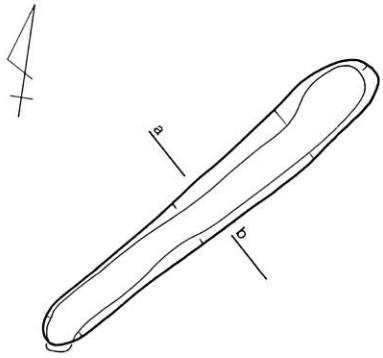


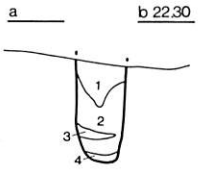


1．黒褐色土
2．黄褐色土
3．黒褐色土
4．黄褐色ローム
5．黒色土
6．黄褐色ローム
7．黒色土

0 1m

TP-2



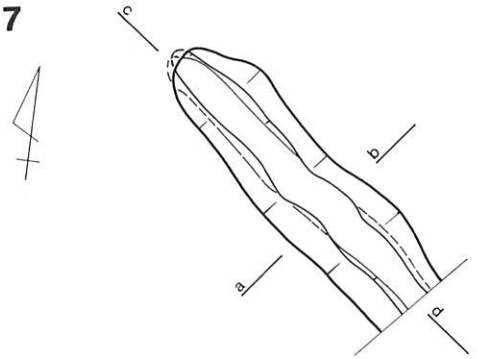


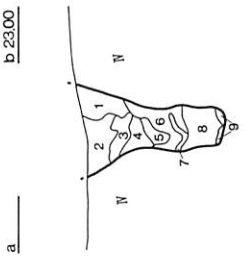
1．黒褐色土（ロームを含む）
2．暗黄褐色土
3．暗茶褐色土
4．黒色土（層上部に粘性有）

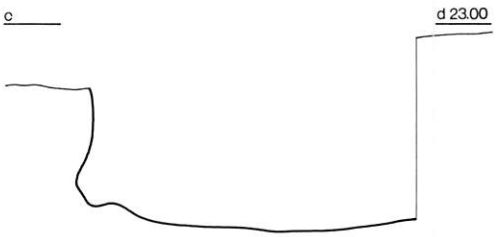
0 1m

TP—1・TP—2

TP-7

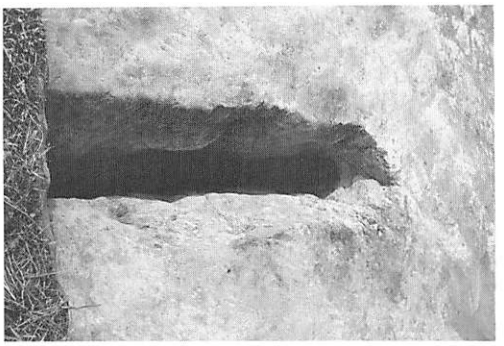


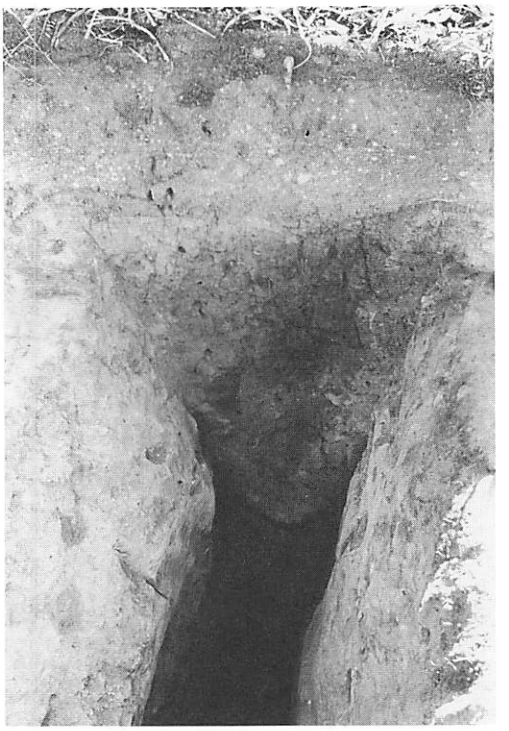




1．明茶褐色土
2．明黒色土
3．淡黒色土
4．明黒褐色土
5．暗黄茶褐色土
6．淡黄色土
7．黒色土
8．淡黄褐色土
9．暗茶褐色土

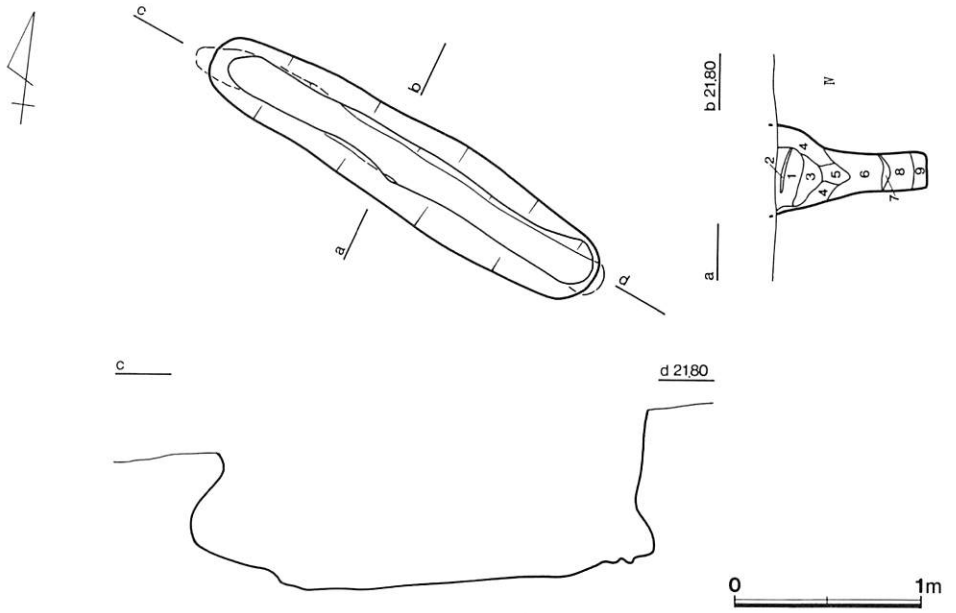
0 1m

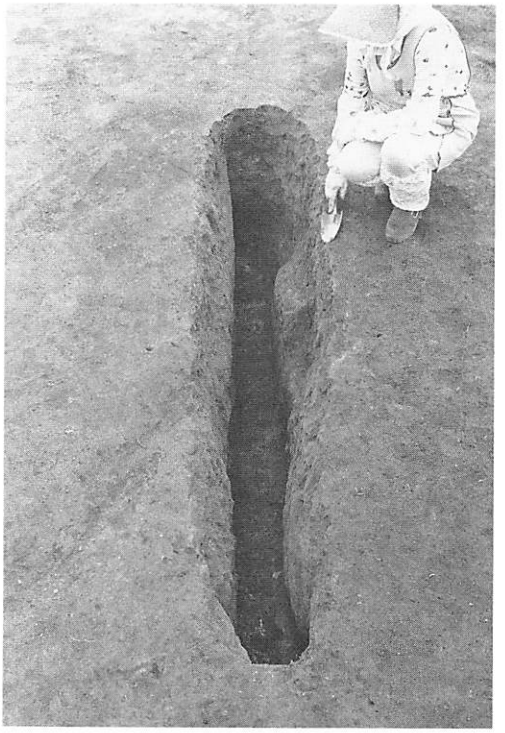




TP—7

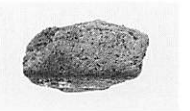
TP-6



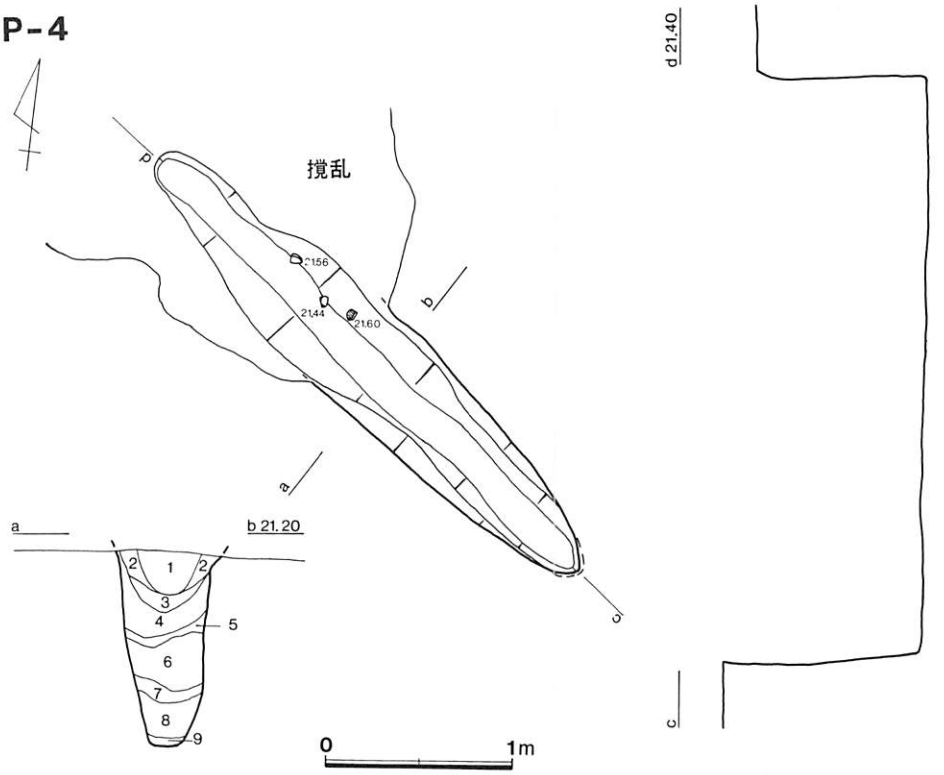


1．暗褐色土
2．黄褐色土
3．淡黒色土
4．褐色土
5．暗黄褐色土
6．黄褐色土
7．黒色土
8．淡黄褐色土
9．黒色土

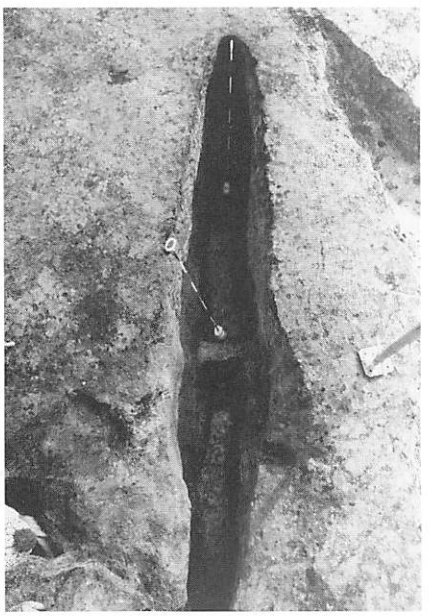
0　5cm

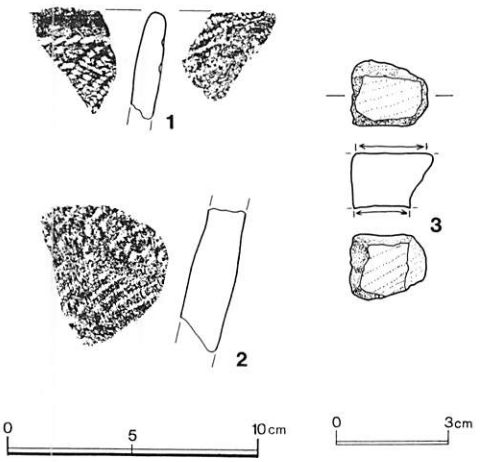


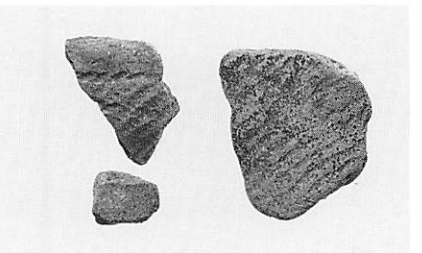
TP-4



1．黒色土
2．黒色土＞黄褐色土
3．黒色土＜黄褐色土
4．黄褐色土
5．暗褐色土
6．暗黄褐色土
7．黒色土
8．黄褐色ローム
9．黒色土

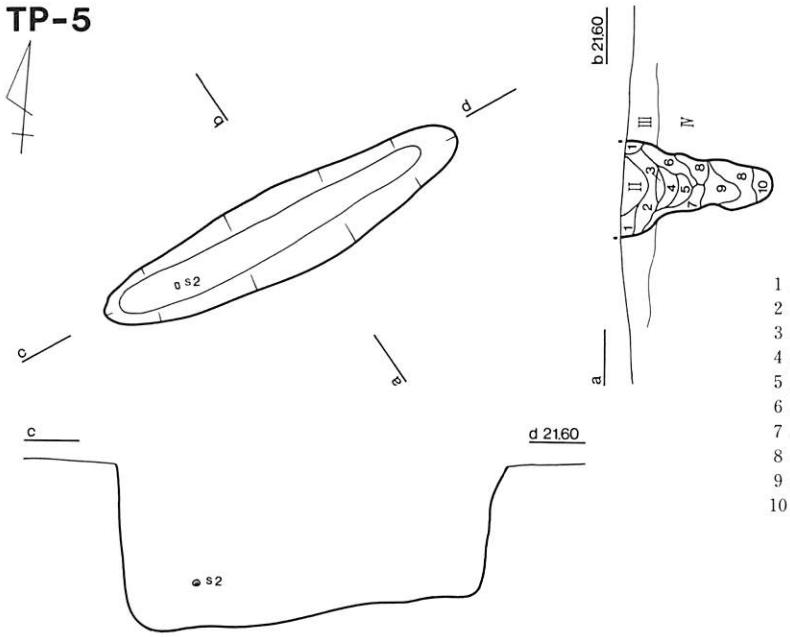






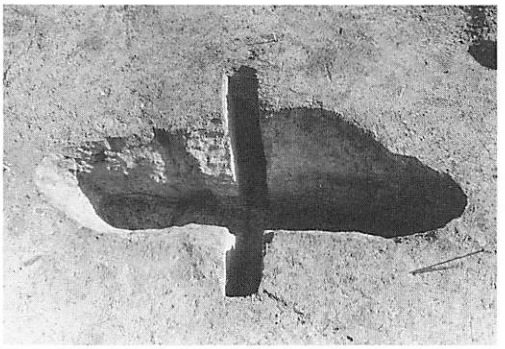
TP—4

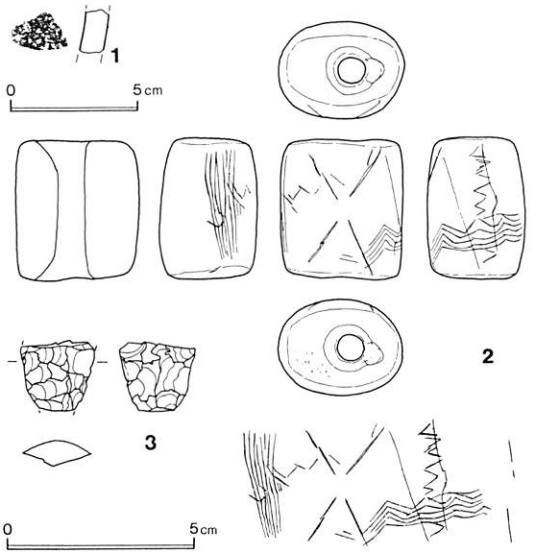
TP-5

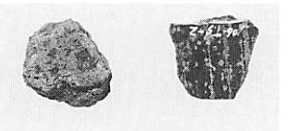


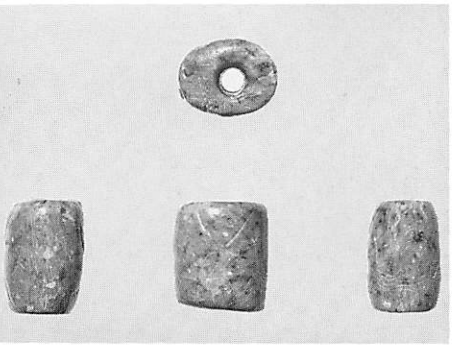
1．褐色土
2．暗茶褐色土
3．赤褐色土(2＋焼土)
4．黒褐色土(しまりがある)
5．茶褐色土
6．暗褐色土
7．暗黄褐色土
8．黄褐色土
9．茶褐色土
10．茶褐色土

0 1m



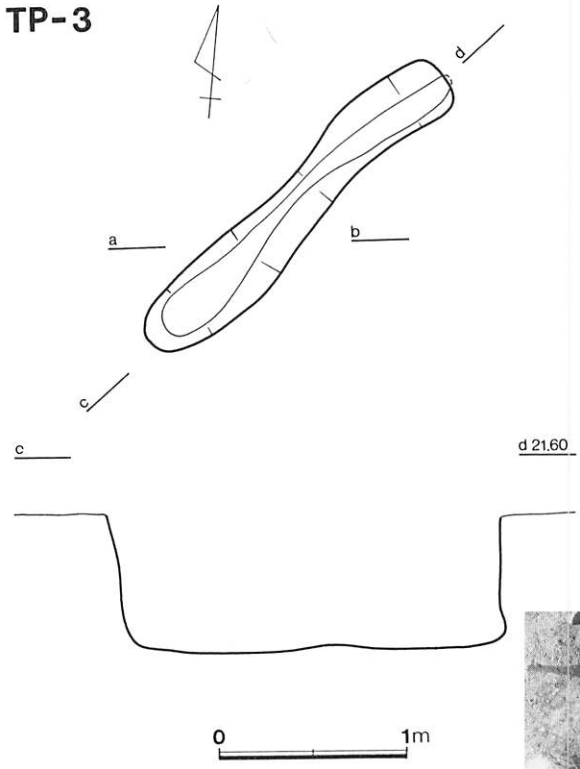


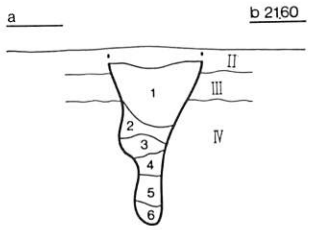




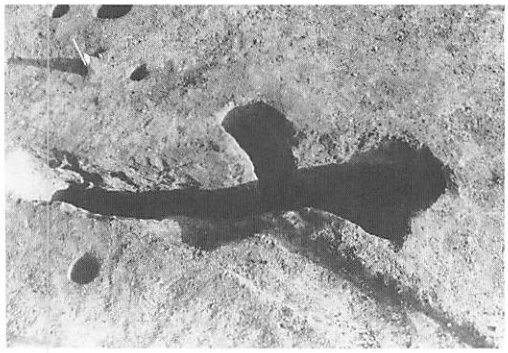
TP—5

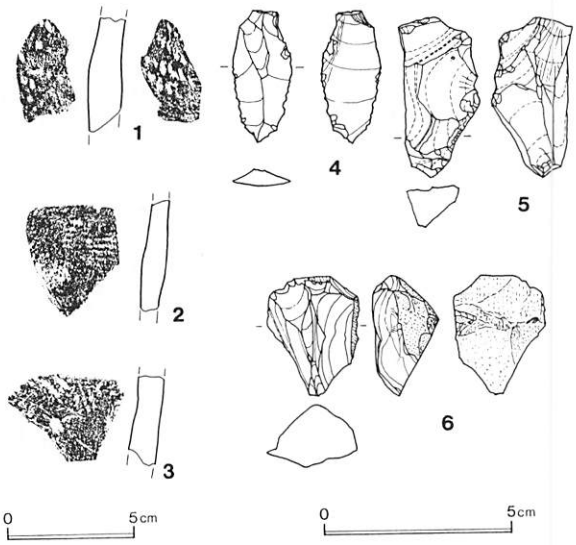
TP-3

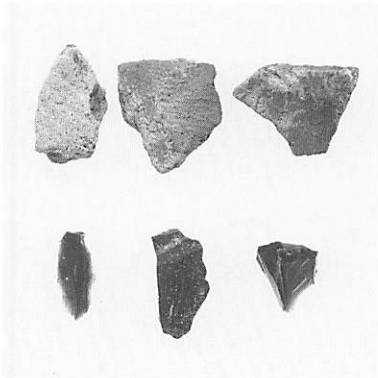




1．暗茶褐色土
2．黄褐色土
3．暗褐色土
4．褐色土
5．黄褐色土
6．黒褐色土

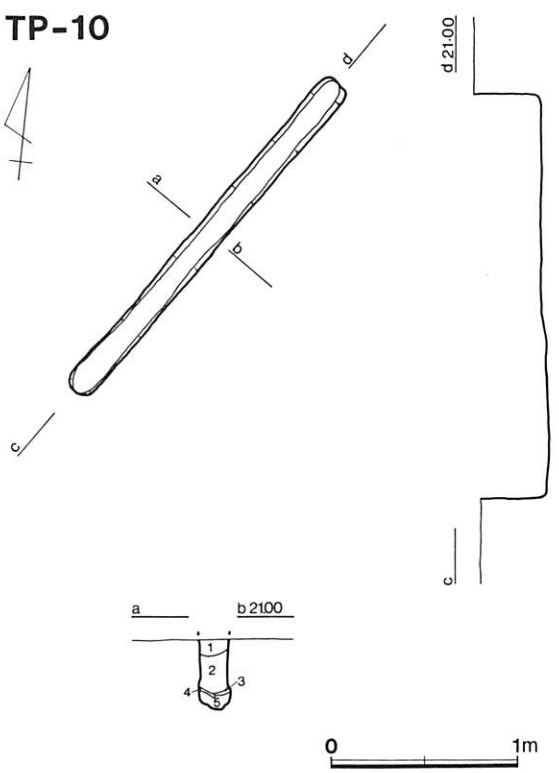






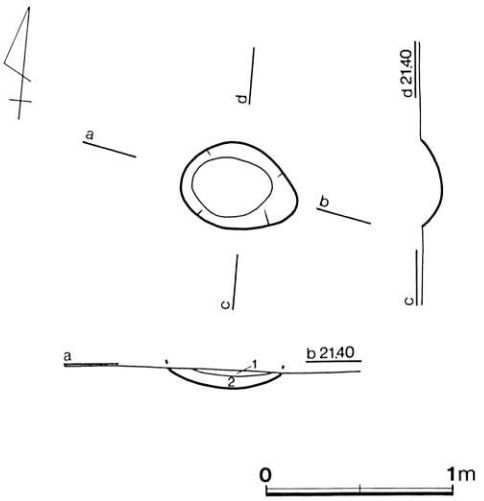
TP—3

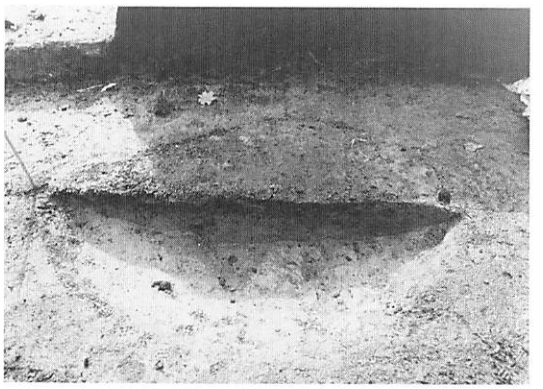
TP-10



1．灰黒色土
2．明黒褐色土
3．黒色土
4．黄褐色土
5．明黒褐色土

炉跡





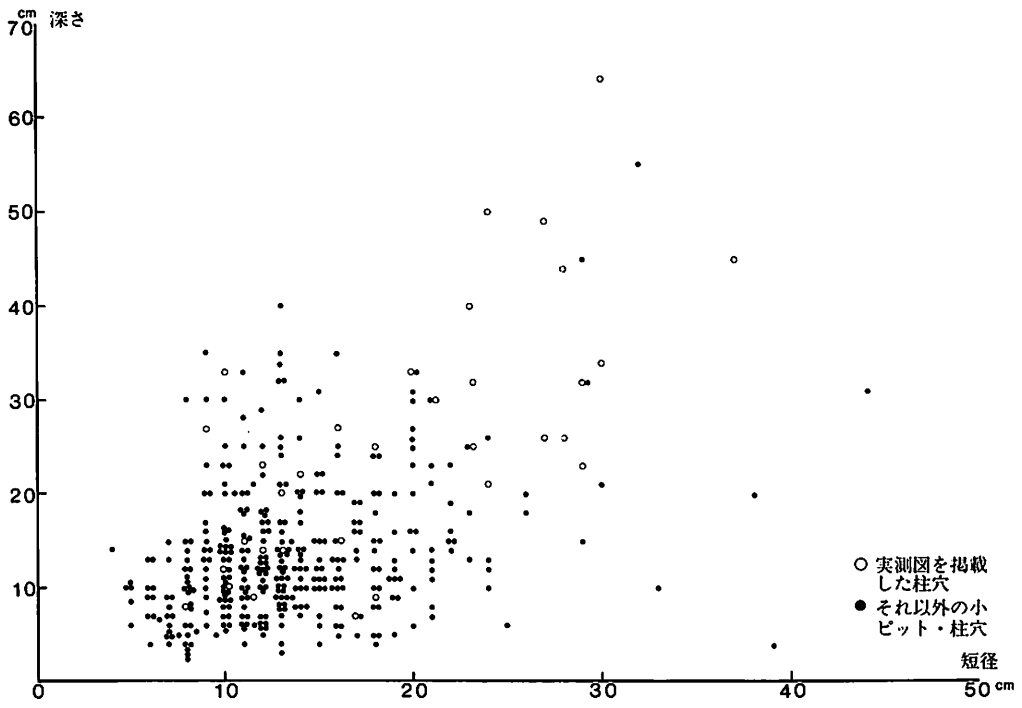
1．明茶褐色土
2．赤褐色土

8．小ピット・柱穴

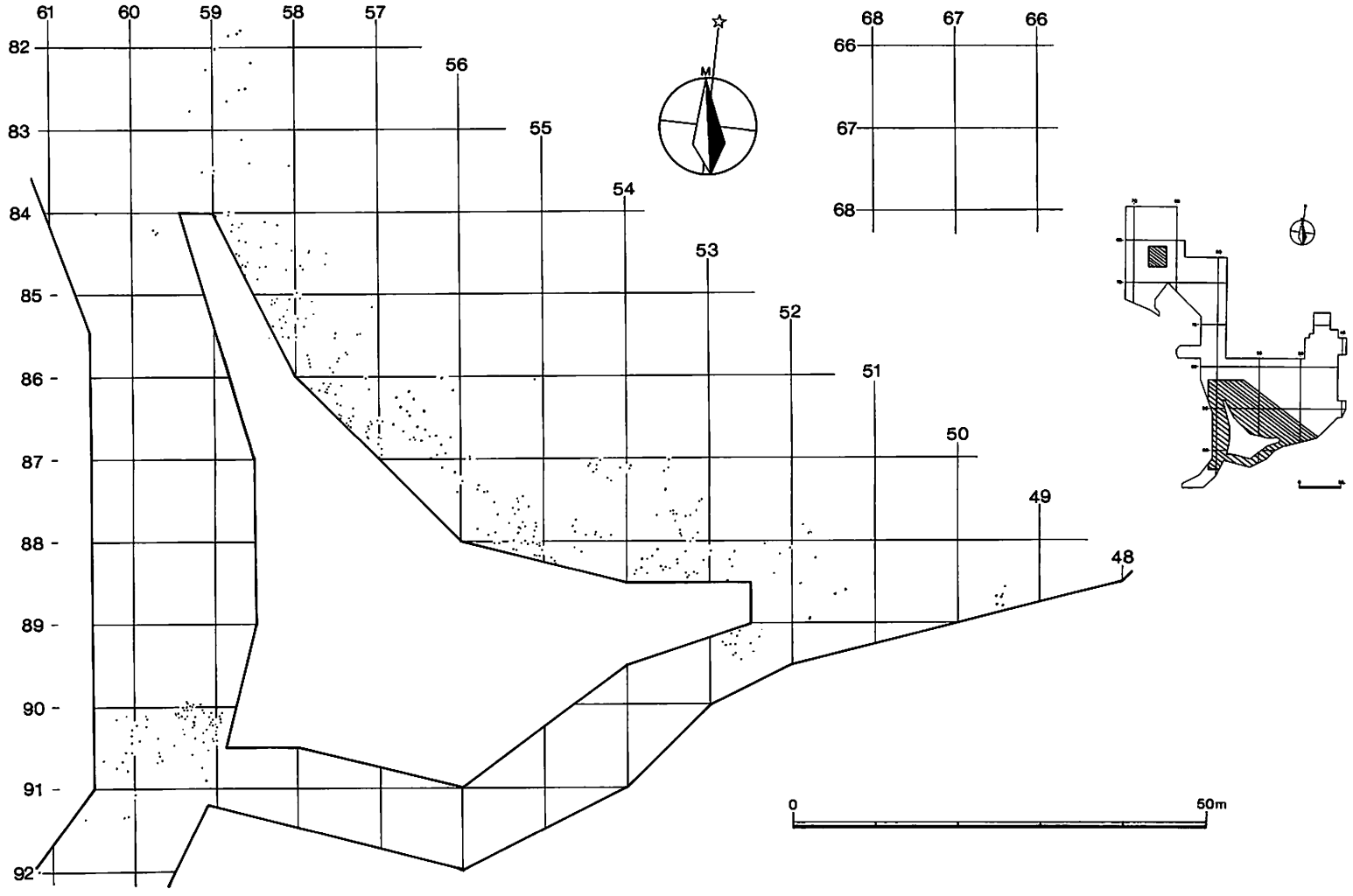
一覧表に概要を示すように、7年間の調査を通じて全部で409個の小ピットや柱穴が検出された。その分布状態は239頁の図のとおりだが、結論的にいうならば、ほぼ他の遺構や遺物の集中分布域と重なりあっているといえる。柱穴には248頁の図にみられるように、何らかの配列を指摘できそうなケースもあるが、それぞれの構築時期や目的、特定の配列の有無などについては、概して明確な判定を下すことが困難であった。

柱穴には杭の打ち込みによるものや、穴を掘って柱を埋けたものの両者がみられ、形態や覆土の堆積状態、遺物や礫の混在する様相などは、必ずしも一様ではない。柱穴の全容を報告することはできないが、249、250頁に本遺跡に見出された柱穴の代表例を図示する。これらの代表例が、浅めの皿状のピットを除けば、さまざまなタイプのものを網羅していることは、小ピットや柱穴の規模を示した下図における、実測図掲載の○印の在り方から、ほぼ了解されよう。柱穴や小ピット出土の遺物は、殆どが覆土に混入したもので、一部を251頁に図示する。

出土遺物の大部分はⅢ群b－3類の土器片である。円形刺突文を有し（1・7・8）、口縁部肥厚帯に押引文のみられる例（8）が多い。地文として結束第一種のある羽状縄文が施されるものが多く（2・5・6・9・12・13・16）、結束第二種をもつもの（15）も少なくない。口縁付近では内面にも縄文がみられる（10）。Ⅲ群b－3類のほか、貼付帯に半截竹管による平行沈線文が加えられたⅢ群b－1類土器（14）なども検出される。全体に摩耗の進んだ破片が多い。



小ピット柱穴の規模


61
60
59
58
57
56
55
54
53
52
51
50
49
48
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
68
67
66
M
0
50m

小ピット・柱穴位置図

小ピット・柱穴一覧表(1)

番号	位置 グリッド	百分割	No.	確認面(cm) 長径×短径		底面(cm) 長径×短径		深さ (cm)	出土遺物
1	49—88	37		20	18	18	14	12	
2	49—88	45		13	13	6	4	9	
3	49—88	46	1	26	24	17	14	10	土器×3
4	49—88	46	2	16	14	10	10	11	
5	49—88	49		20	19	15	10	9	
6	49—88	56		21	19	12	11	5	
7	49—88	59		25	20	20	14	14	
8	51—88	36		30	29	25	23	32	剝片×2
9	51—88	37		37	33	23	22	10	剝片×2
10	51—88	46		28	24	17	21	26	土器×2　剝片×3
11	51—88	72		31	(21)	(20)	(16)	31	
12	52—87	73		11	10	5	3	10	
13	52—87	83		7	6	3	3	9	
14	52—88	00		14	13	9	9	11	
15	52—88	23		13	11	5	4	8	
16	52—88	30		19	17	8	7	13	
17	52—88	71		21	20	8	8	16	
18	52—88	72	1	14	13	8	6	8	
19	52—88	72	2	13	10	10	8	13	
20	52—88	74		10	8	3	3	10	
21	52—88	91		(19)	16	(13)	11	15	
22	52—89	41		15	13	5	4	7	
23	52—89	43		19	15	9	6	31	土器×4
24	52—89	52		11	11	1	1	20	剝片×2
25	52—89	60		22	17	14	12	19	剝片×1
26	52—89	61		20	16	7	7	13	
27	52—89	62		21	17	12	11	16	土器×1
28	52—89	63		20	15	9	8	11	
29	52—89	64		18	15	4	4	22	
30	52—89	71		20	20	17	14	12	
31	52—89	72		22	20	13	11	26	
32	52—89	73		25	22	10	7	16	
33	52—89	82	1	22	21	14	11	21	
34	52—89	82	2	16	13	5	5	15	
35	53—87	19		11	10	4	3	6	
36	53—87	29		12	11	(5)	(5)	18	
37	53—87	38		15	15	(6)	(5)	7	
38	53—87	38・39		13	13	(5)	(4.5)	10	
39	53—87	39		13	13	(6)	(5)	9	
40	53—87	47	1	13	11	5	4	20	
41	53—87	47	2	8	8	3	2	13	
42	53—87	48	1	12	11	4	3	9	
43	53—87	48	2	23	22	11	10	14	
44	53—87	50		12	(12)	(9)	(8)	9	
45	53—87	51	1	12	11	8	7	6	
46	53—87	51	2	13	11	7	6	6	
47	53—87	53		10	9	4	3	14	
48	53—87	66		13	12	5	5	12	
49	53—87	90		13	12	5	4	10	
50	53—87	91		14	10	5	5	12	土器×1
51	53—88	03		21	20	16	14	10	
52	53—88	13	1	25	23	12	11	13	土器×1

小ピット・柱穴一覧表(2)

番号	位置 グリッド	百分割	No.	確認面(cm) 長径×短径		底面(cm) 長径×短径		深さ ((cm)	出土遺物
53	53—88	13	2	18	17	5	4	17	土器×3
54	53—88	20		13	(10)	6	(4)	11	
55	53—88	21		19	(7)	12	(11)	18	土器×3
56	53—88	23		17	15	6	6	22	
57	53—88	24	1	20	16	6	6	24	
58	53—88	24	2	(18)	(16)	(11)	(9)	15	
59	53—88	42	1	(19)	(17)	(6)	(4)	17	土器×1
60	53—88	42	2	(15)	(13)	(5)	(4)	18	
61	53—88	53	1	13	12	6	6	13	
62	53—88	53	2	14	12	5	3	21	
63	53—88	53	3	11	9	5	4	9	
64	53—88	61		25	23	11	9	18	剝片×1
65	53—88	62		16	15	9	9	12	
66	53—88	71		24	21	9	7	14	
67	53—88	72		16	14	10	7	22	土器×1　礫石器×2
68	53—88	73		20	16	7	7	13	土器×2
69	53—88	82		30	24	14	12	13	
70	53—88	83		22	20	8	8	33	土器×3　剝片×3
71	53—88	93		12	(10)	3	2	11	
72	53—88	94		(13)	(13)	(9)	(7)	9	
73	54—86	50		8	7	(3)		4	
74	54—86	54		(18)	13	(3)		9	
75	54—86	62		6	6	(2)		9	
76	54—86	63		(21)	(20)	(17)	(17)	18	
77	54—87	11・01		14	12	4	3	13	
78	54—87	22	1	16	14	(3)		7	
79	54—87	22	2	11	10	(2)		7	
80	54—87	29		20	19	(3)		13	土器×3　剝片×1　礫×2
81	54—87	30	1	20	18	(4)		18	
82	54—87	30	2	19	15	(2)		20	
83	54—87	31		12	11	8	8	10	
84	54—87	38		17	13	(2)		9	
85	54—87	39	1	12	9	(2)		15	
86	54—87	39	2	12	11	(1)		12	
87	54—87	40		13	13	(2)		10	
88	54—87	40・41		13	12	(2)		13	
89	54—87	41		19	18	(4)		12	
90	54—87	42		21	21	7	6	11	
91	54—87	49・59		18	15	(2)		15	剝片×2
92	54—87	62	1	19	14	(2)		10	
93	54—87	62	2	22	19	6	5	16	
94	54—87	67		10	6	(3)		13	
95	54—87	68	1	13	12	10	8	14	土器×2　剝片×1
96	54—87	68	2	18	15	(5)		13	
97	54—87	72		20	19	(2)		20	剝片×1
98	54—87	73		20	18	8	8	12	剝片×2
99	54—87	81		21	18	6	6	20	剝片×1
100	54—87	82		16	15	(3)		15	土器×1
101	54—87	93		15	12	(4)		12	土器×3　剝片×1
102	54—87	94		(9)	8	(8)		3	
103	54—88	51		20	18	(2)		24	土器×1
104	54—88	60		12	11	(1)		15	剝片×1100

小ピット・柱穴一覧表(3)

番号	位置 グリッド	百分割	No.	確認面(cm) 長径×短径		底面(cm) 長径×短径		深さ (cm)	出土遺物
105	54—88	82	1	13	12	5	5	18	
106	54—88	82	2	11	9	(1)		13	
107	54—88	91		11	10	(2)		14	土器×1　剝片×1
108	55—86	10		(16)	13	(5)		8	
109	55—86	99		19	16	(12)		35	
110	55—87	15・25		11	10	(2)		25	
111	55—87	17		17	14	10	8	18	剝片×6
112	55—87	18	1	15	13	(2)		24	
113	55—87	18	2	14	13	(2)		21	
114	55—87	19		12	11	(2)		15	
115	55—87	20		13	12	6	5	12	剝片×1
116	55—87	24		15	13	(3)		16	
117	55—87	27		16	13			34	剝片×9
118	55—87	28	1	11	10	(2)		21	
119	55—87	28	2	11	10	(3)		14	
120	55—87	29		25	23	(2)		40	土器×1
121	55—87	34		11	10	(2)		30	剝片×2
122	55—87	35	1	23	11	(1)		28	
123	55—87	35	2	14	13	4	3	21	
124	55—87	36	1	15	12	(1)		29	
125	55—87	36	2	20	18	6	5	20	
126	55—87	38		13	12	(2)		15	
127	55—87	39	1	13	12	(3)		23	土器×3　石槍×1　剝片×1
128	55—87	39	2	15	13	(5)		40	
129	55—87	43		29	27	(14)	(14)	49	土器×1　剝片×2
130	55—87	47		15	13	(3)		25	剝片×1
131	55—87	51		14	13	(2)		14	
132	55—87	51・61	2	31	28	9	9	74	土器×1　剝片×6
133	55—87	56		14	12	7	8	11	剝片×3
134	55—87	63		24	23	15	15	25	
135	55—87	65		25	24	19	16	50	土器×9　剝片×1
136	55—87	69		11	10	(3)		23	
137	55—87	73・74		29	30	20	20	64	石器×1　剝片×23　礫×1
138	55—87	83	1	13	12	(2)		12	
139	55—87	83	2	13	12	(3)		17	
140	55—87	88		10	8	(3)		14	
141	55—88	00	1	14	13	(5)		28	
142	55—88	00	2	22	21	7	6	30	剝片×2　礫×1
143	55—88	00	3	14	12	(3)		22	
144	55—88	00・10		10	9	(2)		20	剝片×2　礫×4
145	55—88	01	1	14	12	9	7	25	
146	55—88	01	2	7	5	(2)		10	
147	55—88	10		16	12	6	6	12	
148	55—88	11	1	9	7	(12)	(10)	15	
149	55—88	11	2	11	9	(7)	6	14	
150	55—88	20	1	15	13	5	4	35	
151	55—88	20	2	12	11	5	3	33	剝片×1
152	55—88	21		(?)		(?)		37	
153	55—88	30	1	8	8	4	3	11	
154	55—88	30	2	(11)	10	(3.5)	(3)	16	土器×1
155	55—88	50		(14)	13	(6)	5	21	
156	56—84	96	1	7	6	3	3	10	

小ピット・柱穴一覧表(4)

番号	位置 グリッド	百分割	No.	確認面(cm) 長径×短径		底面(cm) 長径×短径		深さ(cm)	出土遺物
157	56—84	96	2	9	8	4	3	5	
158	56—85	49		15	14	4	4	28	土器×5
159	56—86	01・11		33	26	10	10	18	土器×4　剝片×3　礫×2
160	56—86	17		34	22	11	9	15	
161	56—86	19		24	22	11	10	21	土器×3　剝片×4
162	56—86	20		34	30	13	10	34	土器×2　剝片×7　礫×2
163	56—86	28		27	22	9	6	23	剝片×1
164	56—86	37		40	29	12	9	23	
165	56—86	37	2	25	23	8	8	32	土器×2　剝片×20　礫×5
166	56—86	39	1	23	21	13	11	30	土器×8　剝片×5　礫×1
167	56—86	39	2	17	16	9	8	15	
168	56—86	44		68	44	14	13	31	土器×1　剝片×395　礫×2
169	56—86	46		24	23	9	5	25	土器×1
170	56—86	52		30	28	13	10	26	礫×1
171	56—86	57	1	31	27	12	10	26	
172	56—86	57	2	27	18	7	4	25	
173	56—86	61		18	18	9	8	9	
174	56—86	64	1	32	29	10	9	32	
175	56—86	64	2	11	10	4	4	10	
176	56—86	67		14	13	6	5	14	
177	56—86	72		21	16	8	5	12	
178	56—86	73		15	14	8	7	12	
179	56—86	74		21	16	6	3	8	
180	56—86	76・66		29	(24)	8	7	13	
181	56—86	85		22	20	8	7	25	
182	56—86	90		7	7	4	4	8	
183	56—86	97		17	16	6	5	25	剝片×3
184	56—86	98		10	10	6	6	5	
185	56—86	99		19	17	7	7	16	土器×1
186	56—87	01		41	37	15	12	45	土器×1　石器×3　剝片×5
187	56—87	02		9	9	2	2	35	
188	56—87	03		12	10	2	2	16	剝片×1
189	56—87	21		20	18	10	9	15	土器×1　剝片×1
190	57—84	04		16	13	7	7	14	
191	57—84	05	1	12	12	5	4	10	
192	57—84	05	2	10	10	4	4	11	
193	57—84	05・06		10	9	6	5	6	
194	57—84	06		9	8	8	(7.5)	11	
195	57—84	06・07		11	10	3	3	10	
196	57—84	15		16	14	6	5	17	
197	57—84	17		13	13	5	4	10	
198	57—84	28		17	15	7	6	11	
199	57—84	38		8	8	3	3	4	礫×1
200	57—84	58		11	10	3	2	14	
201	57—84	65		10	9	7	6	10	
202	57—84	66		10	9	5	4	20	
203	57—84	79		11	10	6	5	20	土器×1　礫×2
204	57—84	84		12	11	7	6	10	
205	57—84	86・87		15	14	(7)	7	13	
206	57—84	88	1	9	9	4	3	27	
207	57—84	88	2	13	12	6	5	15	
208	57—84	96		14	13	4	4	12	

小ピット・柱穴一覧表(5)

番号	位置 グリッド	百分割	No.	確認面(cm) 長径	短径	底面(cm) 長径	短径	深さ (cm)	出土遺物
209	57—84	99		9	9	4	4	23	
210	57—85	01		20	16	10	9	6	
211	57—85	10		12	10	7	7	22	
212	57—85	24	1	6	6	3	2	4	
213	57—85	24	2	14	13	7	5	17	
214	57—85	37		7	5	3	2	6	
215	57—85	47	1	9	8	4	3	8	土器×1
216	57—85	47	2	20	20	9	9	6	
217	57—85	48・49		11	8	4	3	10	
218	57—85	54		11	9	5	5	8	
219	57—85	55		12	11	5	5	14	
220	57—85	59		9	9	4	3	11	
221	57—85	65		13	13	5	4	3	
222	57—85	66		15	13	5	4	14	
223	57—85	68		12	10	5	4	10	
224	57—85	70		13	12	(11)	10	6	
225	57—85	72		17	16	12	9	20	
226	57—85	83		7	7	4	3	5	
227	57—85	87	1	11	11	5	(4)	18	
228	57—85	87	2	12	10	6	5	8	
229	57—85	88		13	12	7	6	18	
230	57—85	90		6	6	3	3	7	
231	57—85	92		20	18	11	10	10	剝片×3
232	57—85	93		6	5	3	3	10	
233	57—85	95		7	6	2	2	7	
234	57—86	05		9	7	2	2	7	
235	57—86	07		6	5	(2)		9	
236	57—86	08		10	10	2	2	9	
237	57—86	10		15	14	8	8	7	
238	57—86	11		8	7	2	2	7	
239	57—86	15	1	25	22	14	13	15	礫×2
240	57—86	15	2	10	8	7	5	3	
241	57—86	16	1	8	8	(2)		4	
242	57—86	16	2	11	10	8	7	13	
243	57—86	16	3	12	11	4	3	15	土器×1
244	57—86	23・33		5	5	(3)		10	剝片×3
245	57—86	24・34		15	14	11	11	16	剝片×1
246	57—86	35	1	22	20	12	11	31	
247	57—86	35	2	9	8	3	3	4	
248	57—86	35	3	7	7	(2)		7	
249	57—86	36		18	17	11	11	7	土器×3
250	57—86	41		15	14	7	6	20	
251	57—86	43		14	12	7	6	6	
252	57—86	44	1	13	12	6	5	9	土器×1
253	57—86	44	2	8	7	5	4	5	
254	57—86	45		14	13	6	6	11	
255	57—86	53		12	11	7	5	12	
256	57—86	61		13	11	9	8	4	
257	57—86	70		15	13	12	11	20	土器×1
258	57—86	81		49	30	22	20	21	
259	57—87	61		10	9	3	2	12	
260	58—81	68	1	19	16	8	7	11	

小ピット・柱穴一覧表(6)

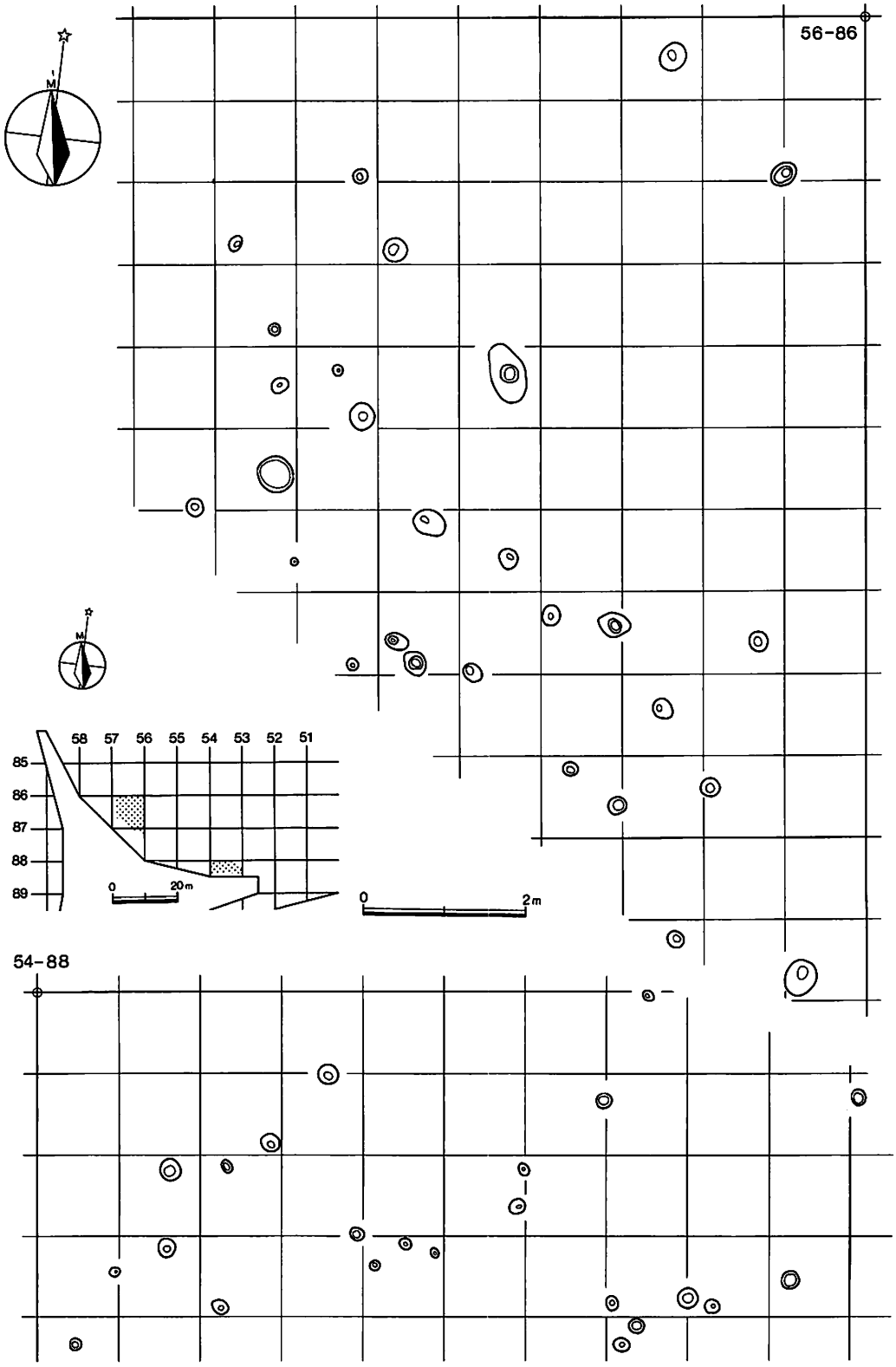
番号	位置 グリッド	百分割	No.	確認面(cm) 長径×短径		底面(cm) 長径×短径		深さ (cm)	出土遺物
261	58—81	68	2	14	14	7	7	14	
262	58—81	78		9	9	6	5	13	
263	58—82	42		17	16	10	9	11	
264	58—82	54		15	14	8	8	9	
265	58—82	58		19	17	10	10	14	
266	58—82	86		14	13	9	7	32	
267	58—82	90		21	19	16	13	11	
268	58—83	53		18	16	11	9	8	
269	58—83	61		20	19	11	10	11	
270	58—84	04		8	8	4	3	5	
271	58—84	06・07		11	10	5	3	11	
272	58—84	09		10	10	8	6	11	
273	58—84	17		19	14			20	
274	58—84	23・24		18	17	8	6	7	石斧×1
275	58—84	29		14	13	(5)	(5)	6	
276	58—84	34		10	10	(8)		6	
277	58—84	36		16	14	6	5	8	
278	58—84	43		10	8	5	4	30	
279	58—84	48	1	19	16	8	8	10	
280	58—84	48	2	12	10	2	2	33	
281	58—84	49		11	10	7	6	15	
282	58—84	54		14	4	5	4	18	
283	58—84	56	1	8	7	3	3	5	
284	58—84	56	2	7	7	(5)	(5)	13	
285	58—84	57		8	7	3	2	9	
286	58—84	61・51		9	8	3	3	12	
287	58—84	61・62		6	6	(1)		10	砥石×1　剝片×1
288	58—84	63		10	9	3	2	16	
289	58—84	66		17	16	(10)	(8.5)	27	土器×1
290	58—84	71		9	8	5	4	6	
291	58—84	90	1	8	8	3	2	15	
292	58—84	90	2	7	6	2	2	13	
293	58—84	90	3	21	19	16	15	9	
294	58—85	01		8	7	4	4	6	
295	58—85	07		20	18	10	9	24	土器×2
296	58—85	09		9	9	2	2	6	
297	58—85	12		17	17	13	12	5	
298	58—85	20	1	12	11	10	8	7	
299	58—85	20	2	15	14	(5)	5	26	
300	58—85	21		15	13	8	7	12	剝片×1
301	58—85	23		11	10	8	6	14	
302	58—85	32・31	1	(25)	(23)	8	8	30	
303	58—90	90	1	18	14			30	
304	58—90	90	2	9	8			8	
305	58—90	91	1	16	15			12	
306	58—90	91	2	9	8			10	
307	58—90	93	1	18	17			17	
308	58—90	93	2	12	11			25	
309	59—82	02		24	22	14	12	19	
310	59—82	07		12	11	6	6	20	土器×1
311	59—82	27		16	15	9	8	15	土器×2
312	59—83	42		10	10	4	4	10	

小ピット・柱穴一覧表(7)

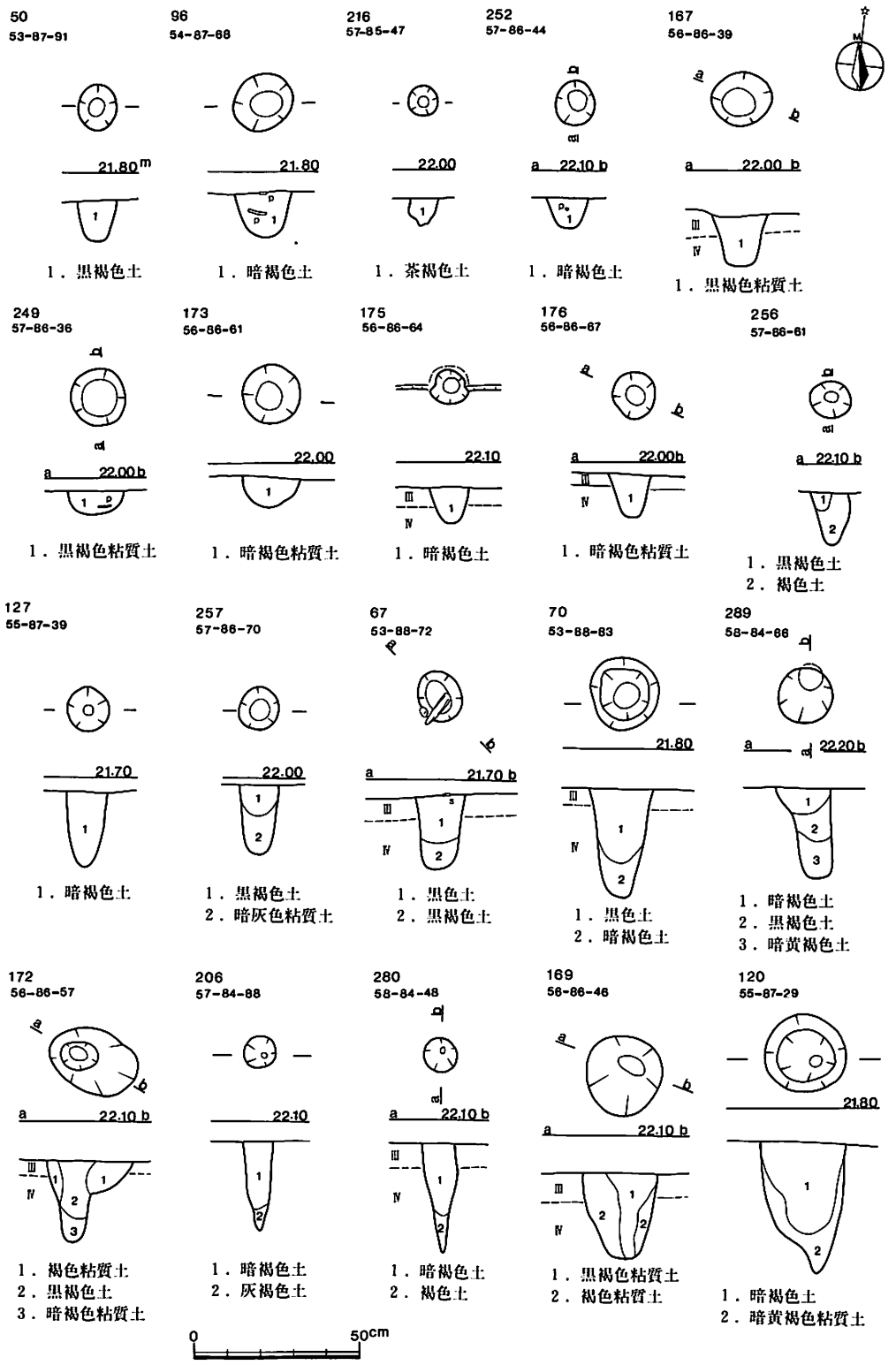
番号	位置 グリッド	百分割	No.	確認面(cm) 長径×短径		底面(cm) 長径×短径		深さ (cm)	出土遺物
313	59—83	94		27	25	18	17	6	
314	59—89	19		22	13			4	
315	59—89	29	1	14	13			13	
316	59—89	29	2	13	11			9	
317	59—89	39	1	16	16			5	
318	59—89	39	2	18	18			4	
319	59—89	39	3	17	15			10	
320	59—89	49		20	16			6	
321	59—89	79		25	20			23	
322	59—89	89		11	10			7	
323	59—90	00		18	14			8	
324	59—90	01	1	12	10			6	
325	59—90	01	2	9	8			10	
326	59—90	01	3	12	11			15	
327	59—90	02	1	14	12			16	
328	59—90	02	2	8	8			6	
329	59—90	02	3	10	9			17	
330	59—90	02	4	22	21			13	
331	59—90	03	1	12	12			10	
332	59—90	03	2	12	10			12	
333	59—90	05・15		20	18			15	
334	59—90	10	1	18	14			12	
335	59—90	10	2	12	11			7	
336	59—90	11		13	12			10	
337	59—90	12		15	14			12	
338	59—90	13		12	10			9	
339	59—90	14		29	21			23	
340	59—90	16	1	12	10			8	
341	59—90	16	2	34	29			15	
342	59—90	17		13	12			17	
343	59—90	20・30		25	16			13	
344	59—90	21	1	18	13			17	
345	59—90	21	2	9	8			12	
346	59—90	22	1	13	12			6	
347	59—90	22	2	12	10			9	
348	59—90	23		16	13			12	
349	59—90	25	1	9	8			8	
350	59—90	25	2	30	20			30	
351	59—90	26		40	11			14	
352	59—90	30	1	18	16			10	
353	59—90	30	2	19	15			6	
354	59—90	30	3	17	14			10	
355	59—90	31	1	22	21			8	
356	59—90	31	2	12	11			6	
357	59—90	31	3	20	18			5	
358	59—90	32		14	13			8	
359	59—90	32・42		14	12			5	
360	59—90	33		16	14			10	
361	59—90	40	1	21	18			8	
362	59—90	40	2	17	15			4	
363	59—90	40	3	18	17			19	
364	59—90	40	4	16	16			10	

小ピット・柱穴一覧表(8)

番号	位置 グリッド	百分割	No.	確認面(cm) 長径×短径		底面(cm) 長径×短径		深さ (cm)	出土遺物
365	59—90	40・41		21	21			12	
366	59—90	41	1	16	15			10	
367	59—90	41	2	17	15			11	
368	59—90	42・52		16	15			20	
369	59—90	64	1	16	15			10	
370	59—90	64	2	16	13			10	
371	59—90	64	3	11	10			16	
372	59—90	65	1	32	26			20	
373	59—90	65	2	11	9			30	
374	59—90	65	3	22	18			14	
375	59—90	70	1	11	10			23	
376	59—90	70	2	12	12			6	
377	59—90	72		13	12			13	
378	59—90	73		14	12			18	
379	59—90	74		15	13			14	
380	59—90	75		10	8			15	
381	59—90	80		15	14			20	
382	59—90	82		14	13			32	
383	59—90	83		13	12			7	
384	59—90	91	1	14	13			11	
385	59—90	91	2	16	14			10	
386	59—90	92		12	12			6	
387	59—90	93	1	26	24			12	
388	59—90	93	2	38	29			45	
389	60—83	04		21	19	7	6	11	
390	60—89	09		22	20			27	
391	60—89	19		21	18			10	
392	60—90	03		16	14			14	
393	60—90	04		16	16			10	
394	60—90	05		44	32			55	
395	60—90	15		24	20			33	
396	60—90	34		18	14			14	
397	60—91	01		(15)	(12)			40	
398	60—91	11		(26)	(25)			63	
399	60—91	22		(15)	(14)			10	
400	60—91	30		(12)	(10)			31	
401	60—91	32		57	38			20	土器×3　剝片×17
402	60—91	43		40	39			4	土器×1
403	60—91	51		(22)	(21)			6	
404	66—67	82		19	18			8	
405	66—67	83		23	18			5	
406	67—66	25・35		20	20			16	
407	67—66	47		8	7			9	
408	67—66	48		22	21			7	
409	67—67	32		12	11			11	

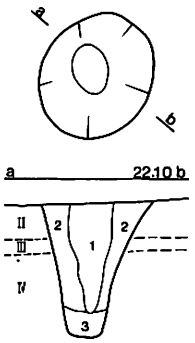


小ピット・柱穴配列図


50
53-87-91
21.80m
1．黒褐色土
96
54-87-68
21.80
1．暗褐色土
216
57-85-47
22.00
1．茶褐色土
252
57-86-44
a 22.10 b
1．暗褐色土
167
56-86-39
a 22.00 b
1．黒褐色粘質土
249
57-86-36
a 22.00 b
1．黒褐色粘質土
173
56-86-61
22.00
1．暗褐色粘質土
175
56-86-64
22.10
1．暗褐色土
176
56-86-67
a 22.00b
1．暗褐色粘質土
256
57-86-61
a 22.10 b
1．黒褐色土
2．褐色土
127
55-87-39
21.70
1．暗褐色土
257
57-86-70
22.00
1．黒褐色土
2．暗灰色粘質土
67
53-88-72
a 21.70 b
1．黒色土
2．黒褐色土
70
53-88-83
21.80
1．黒色土
2．暗褐色土
289
58-84-66
a 22.20b
1．暗褐色土
2．黒褐色土
3．暗黄褐色土
172
56-86-57
a 22.10 b
1．褐色粘質土
2．黒褐色土
3．暗褐色粘質土
206
57-84-88
22.10
1．暗褐色土
2．灰褐色土
280
58-84-48
a 22.10 b
1．暗褐色土
2．褐色土
169
56-86-46
a 22.10 b
1．黒褐色粘質土
2．褐色粘質土
120
55-87-29
21.80
1．暗褐色土
2．暗黄褐色粘質土
0
50cm

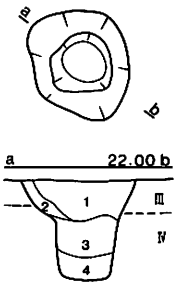
小ピット・柱穴 (1)

162
56-86-20



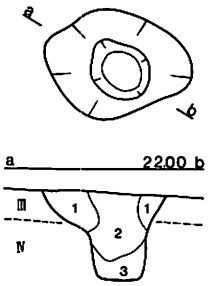
1．黒褐色土
2．黒褐色粘質土
3．暗灰褐色粘質土

171
56-86-57



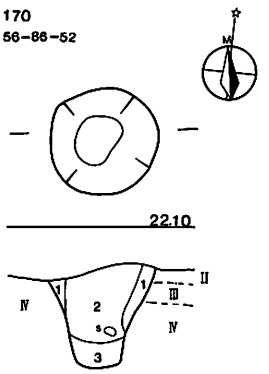
1．暗褐色土
2．黒色土
3．暗褐色粘質土
3．褐色粘質土

164
56-86-37



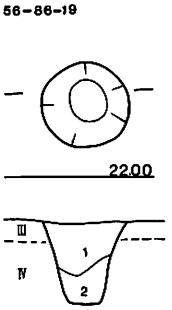
1．暗黄褐色粘質土
2．暗褐色粘質土
3．褐色粘質土

170
56-86-52



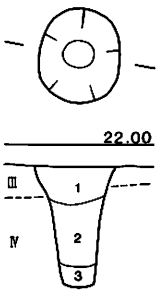
1．暗黄褐色粘質土
2．黒褐色土
3．暗褐色粘質土

161
56-86-19



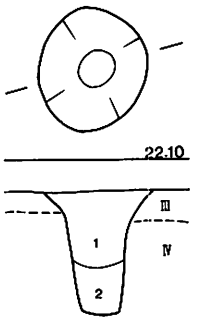
1．黒褐色粘質土
2．褐色粘質土

165
56-86-37



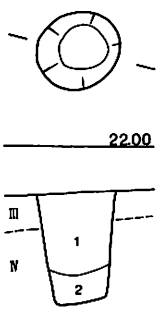
1．暗褐色粘質土
2．褐色粘質土
3．暗灰褐色粘質土

174
56-86-64



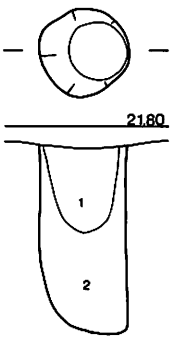
1．黒褐色粘質土
2．暗褐色粘質土

166
56-86-39



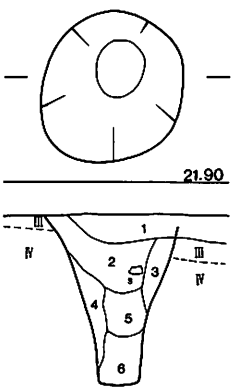
1．黒褐色粘質土
2．暗褐色粘質土

135
55-87-65



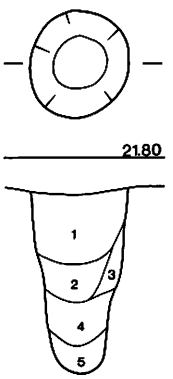
1．黒粘色土
2．暗黄褐色粘質土

186
56-87-01



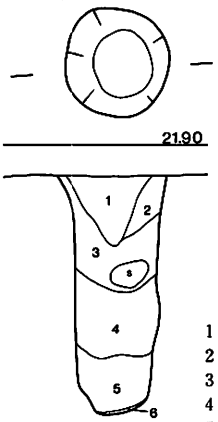
1．黒褐色土（撹乱）
2．黒色土
3．褐色（粘質）土
4．褐色粘質土
5．暗褐色粘質土
6．黒褐色粘質土

129
55-87-43



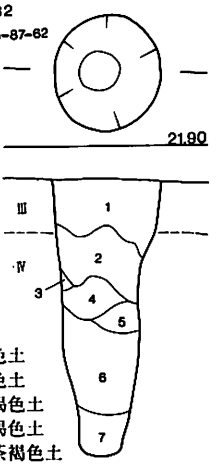
1．暗褐色土
2．黒褐色土
3．黄褐色土
4．暗茶褐色土
5．暗灰茶褐色土

137
55-87-74



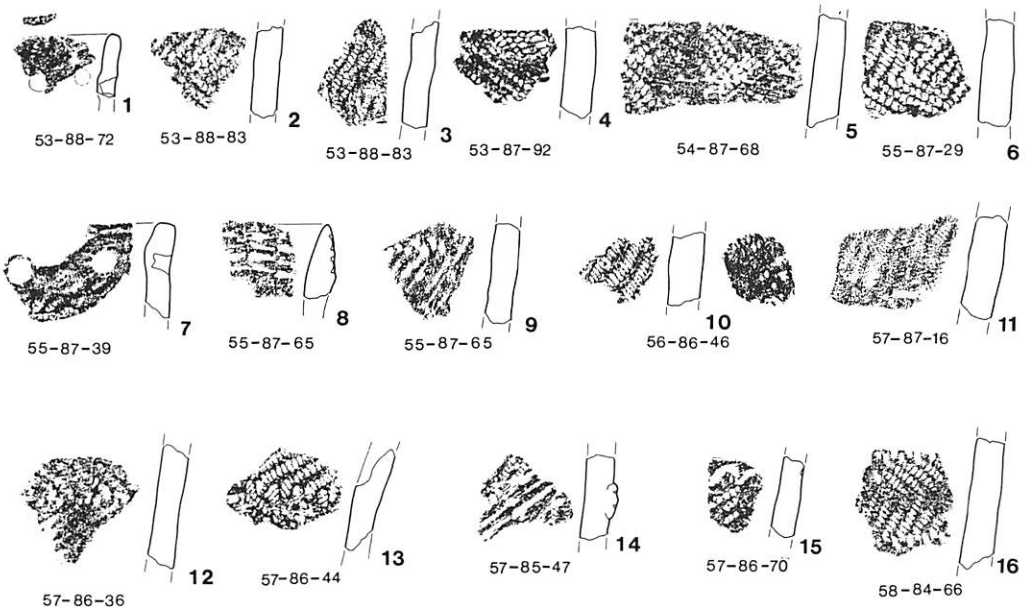
1．暗褐色土
2．褐色土
3．暗茶褐色土
4．茶褐色土
5．暗黄褐色土
6．黒色土

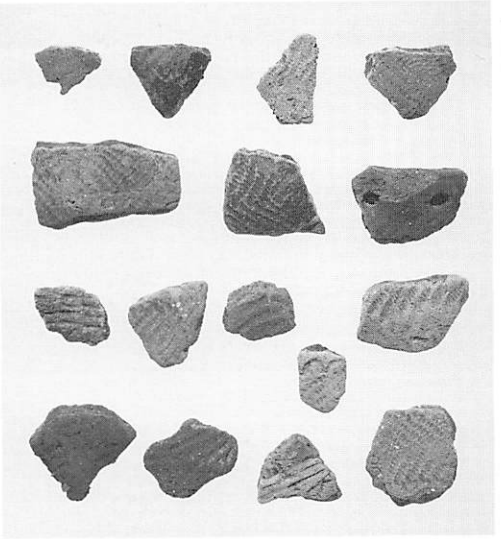
132
55-87-62

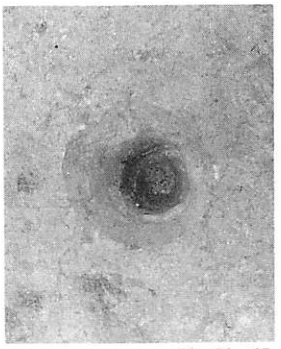


1．暗褐色土
2．黒褐色土
3．黄茶褐色土
4．暗茶褐色土
5．暗灰茶褐色土
6．黒灰褐色土
7．灰褐色土

0　50cm

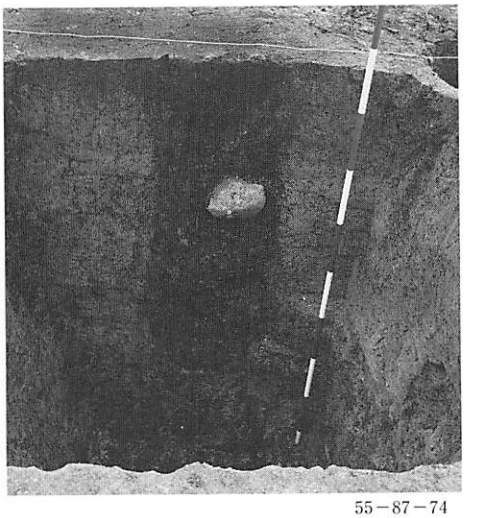






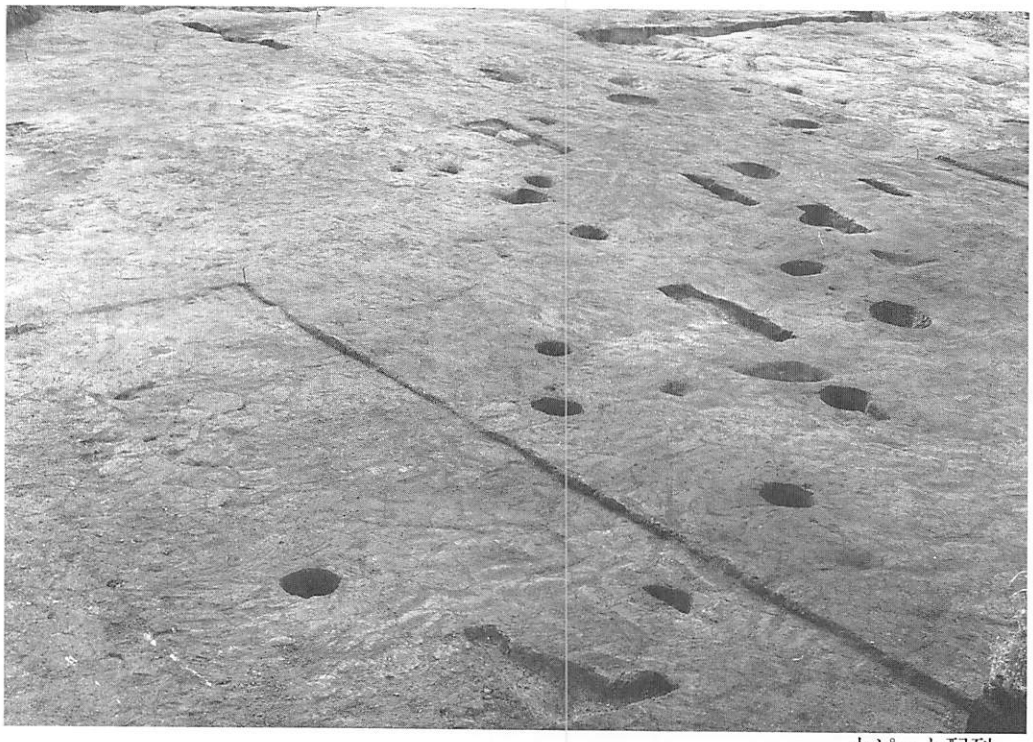
56—86—67

55－87－62

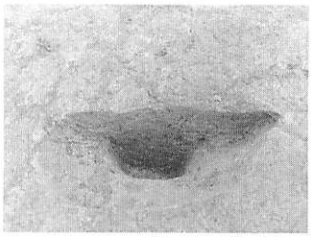


55－87－74

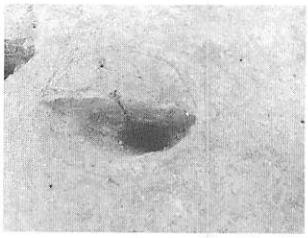
小ピット・柱穴



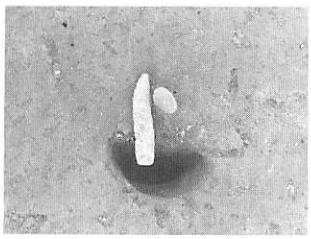
小ピット配列



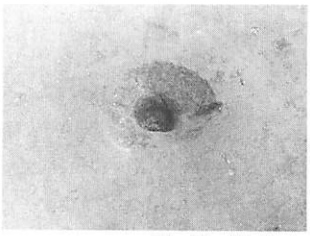
56－86－37　No. 1



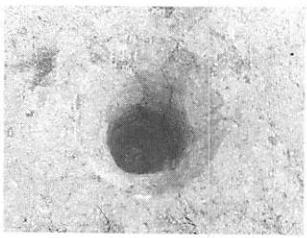
55－86－67



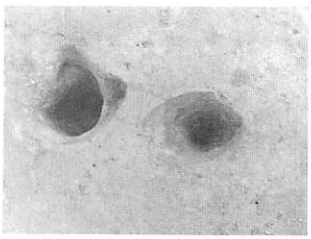
53－88－92　No. 1



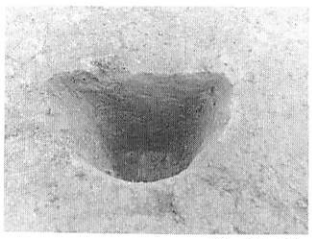
56－86－37　No. 1



56－86－64

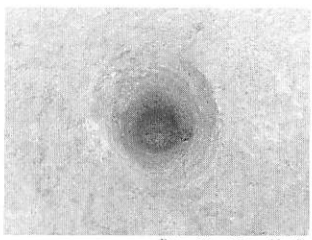


56－86－57　No. 2



56－86－19

56－87－01　No. 1



56－86－37　No. 2

小ピット・柱穴

9．フレイク・チップ集中

黒曜石を素材とするフレイク・チップの集中は47ヵ所がⅡ層中から検出された。総て調査区の南半部に位置し、大半が北西から南東側へ帯状に分布する。

このほか、Ⅰ層中に黒曜石のフレイク・チップが多量に出土した地区が約300㎡検出されている。これらの地区は調査区の中央部から東側に分布し、耕作によりⅡ層が殆ど残存しないところである。Ⅱ層中にあったフレイク・チップ集中が耕作で広がったものと推定される。

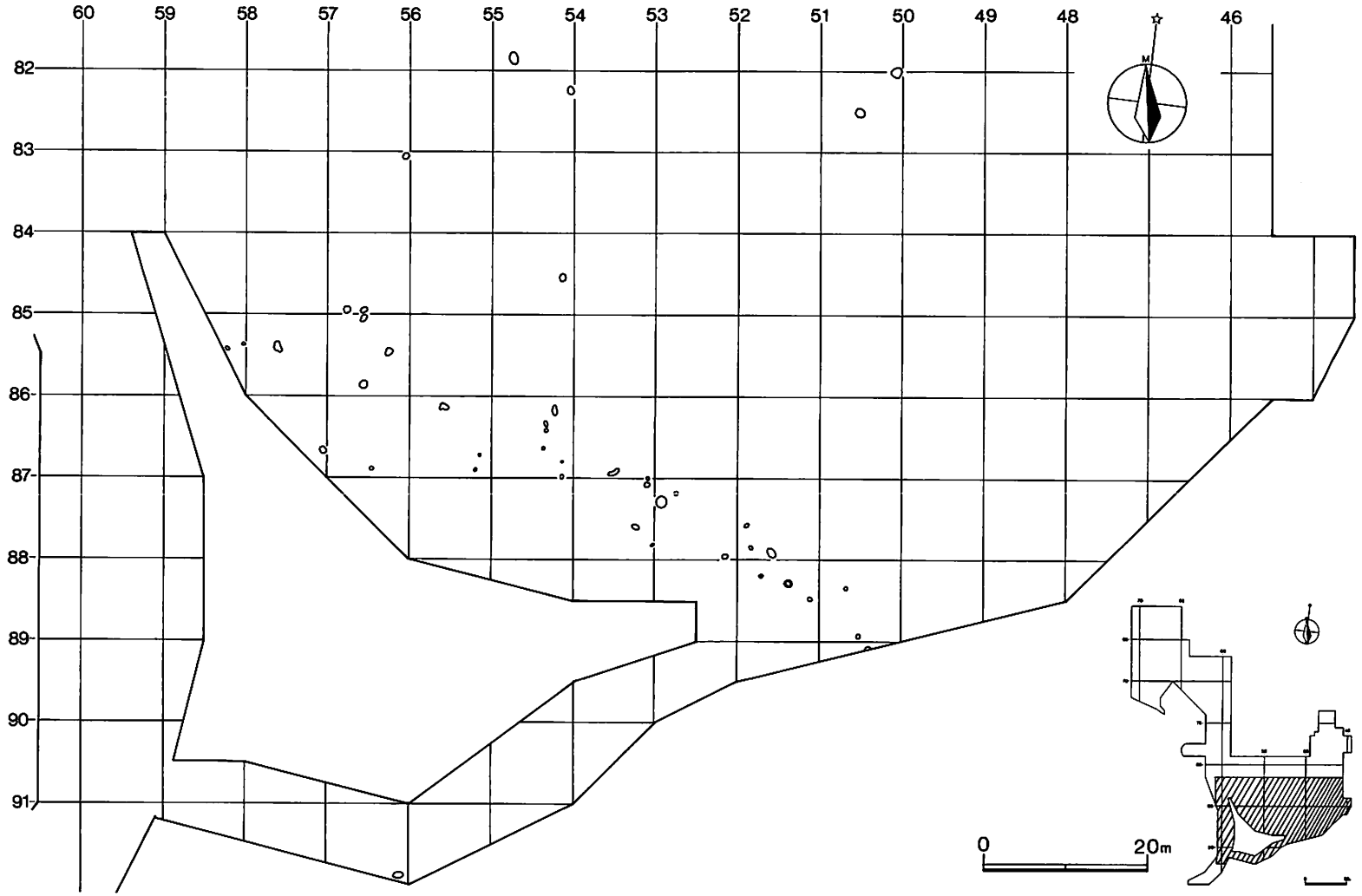
フレイク・チップ集中の平面形は円形から楕円形を呈し、大きさは約0.2～2mとばらつきがある。層厚は凡そ10cm前後であり、断面観察では人為的な掘込みは認められなかった。

一覧表中の遺物の欄が空白の所は、平面的な範囲は押えてあるが手違いにより遺物の集計が出来なかった。集計できたところについて、各々の集中で出土したフレイク・チップは大きさ（平均重量0.1～1.5g）や量（75～15,000点）に差異があり、簡単な分類を試みた。

平均重量が0.2g以下で数量が2,000点以下（一覧表番号3・9～12・14・19・24～26・30・31・40・42・45・47）と以上（一覧表番号5～7・13・15・32・33・39・41・43）、平均重量が0.3g以上で数量が2,000点以下（一覧表番号1・4・18・27・28・44）と以上（一覧表番号16・34・36・37)、平均重量が1.5gあり数量の少ないものの5タイプに分類できる。この中で平均重量が0.3以上で数量の少ないものはその場で石器の制作が行われていたと推定され得る。また、多量に出土したところは一括して廃棄された可能性が考えられる。この中には加工途中のものが含まれている。フレイク・チップ集中の形成された時期は同一面や周囲の出土遺物などから縄文中期後半と考えられる。また、泥岩・片岩などのフレイク・チップがⅠ層から多量に出土しているが、まとまった出土例はなかった。

256頁に図示したもの（一覧表番号7・8）は石器の制作が行われたと推定される51－87区のフレイク・チップ集中である。約3.5m離れて東と西に2ヵ所ある。東側からは約5,000点のフレイク・チップが出土したが大半はチップである。そこから東側の径2mの範囲の同一面に、たたき石や礫が出土している。西側からは83点のフレイク・チップがA・B・C・D40cm四方の枠内に出土している。このなかには、接合資料1と同一母岩のフレイク・チップと3つの別な母岩から剥離したフレイク・チップがある。出土した遺物のうち、図示した2点にふれる。

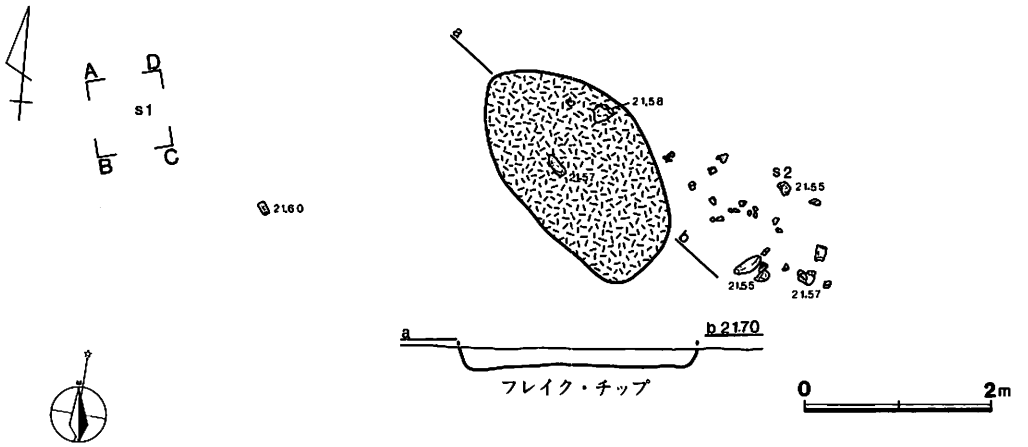
1は亜円礫を用いた同一母岩と思われる約60点のフレイク・チップの内、21点が接合したものである。接合時の大きさは、縦4cm、幅5.4cm、厚さ3.5cm、重さは75.6gを測る。他に図示したものには直接接合しなかったが、3点の縦長剥片が接合している。この3点を含め図の上方を打面に縦長剥片を生産しているようであるが出土していない。次に図の正面左側の縦長剥片4枚を上方から剥離している。右側も同様に5枚取っているが1枚は出土していない。さらに、中央部を取っているがこれも出土していない。その後、打面を右側に転移している。最後にaは礫表皮の残る残核である。2はフレイク・チップ集中の東側約1.2mの同一面で検出された、たたき石である。扁平な砂岩を素材に、大きさは縦10cm、幅10.4cm、厚さ5.1cm、重さ667g を測る。縁辺部に叩き痕がみられ、両面に剥離痕が残っている。

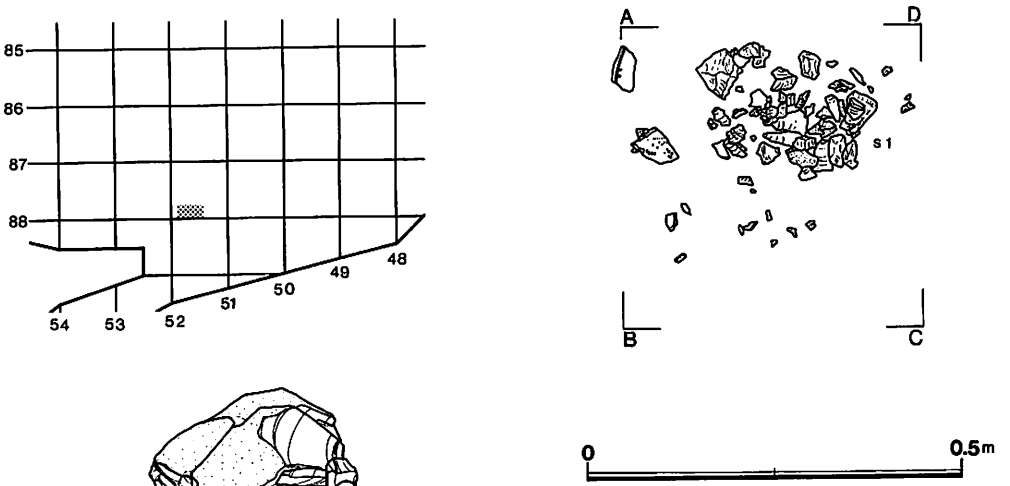


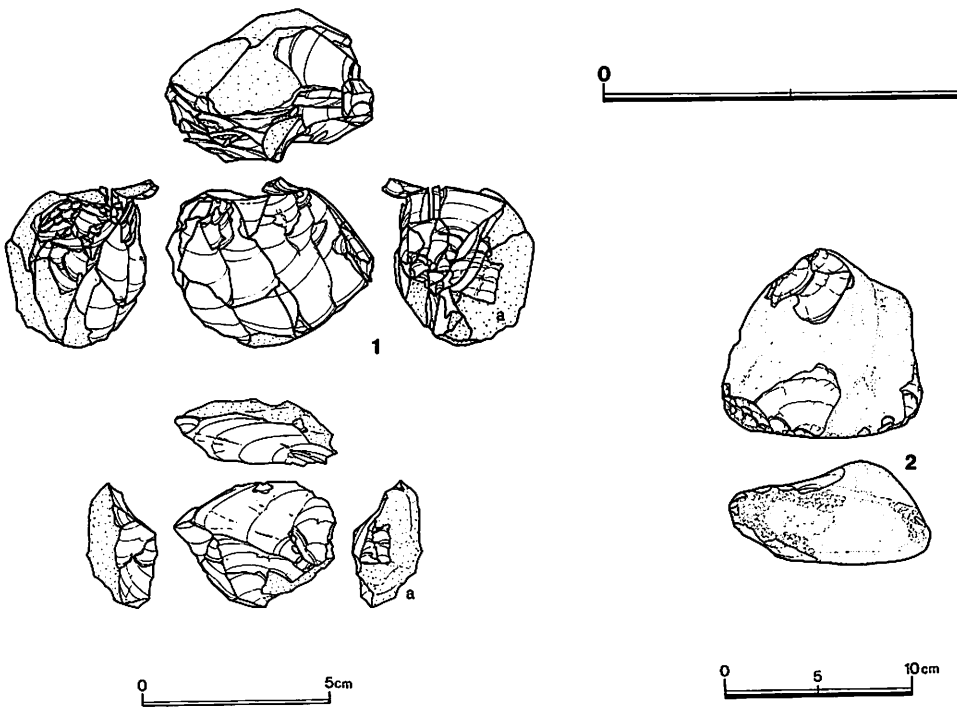
フレイク・チップ集中位置図

フレイク・チップ集中一覧表

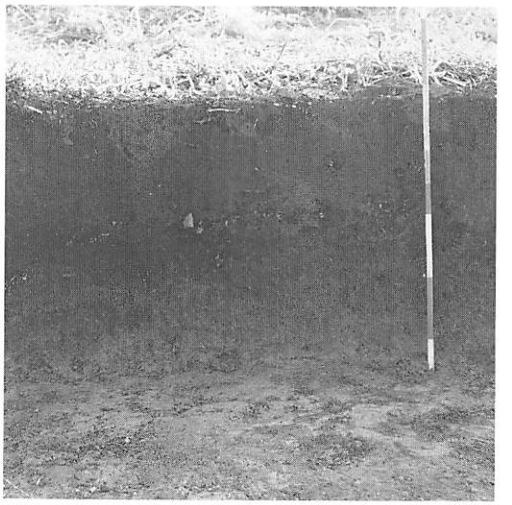
番号	位置	百分割	平面形	長径×短径(cm)		黒曜石 数量	黒曜石 重量(g)	平均重量	その他の遺物
1	50-82	00·01	楕円形	186	82	1376	449.8	0.3	
2	50-82	45·54·55	楕円形	120	80			.	
3	50-88	59	不整形	50	40	1627	125.8	0.1	Mud.·Sch.剝片×10
4	50-88	63	楕円形	55	30	128	62.6	0.5	土器×1 Mud.·Sch.剝片×1
5	50-89	30·40	円形	65	40	3407	612.8	0.2	土器×7 石斧×1 Mud.·Sch.剝片×524 礫×2
6	51-87	58·59·68	楕円形	123	53	14588	1535.2	0.1	土器×62 ポイント·ナイフ×4 石斧×1 Mud.·Sch.剝片×24 敲石×1
7	51-87	85·86	不整形	54	53	3983	241.7	0.1	土器×3 ナイフ·ポイント×1 U·Rフレイク×4 Mud.·Sch.剝片×4
8	51-87	88	円形	115	95	84	124.5	1.5	土器×1 U·Rフレイク×1 Mud.·Sch.剝片×1
9	51-88	04·14	不整形	135	116	801	194.1	0.2	土器×7 Mud.·Sch.剝片×9
10	51-88	25·26	円形	24	21	806	159.4	0.2	ナイフ·ポイント×1 Mud.·Sch.剝片×4
11	51-88	33	不整形	85	80	1057	223.2	0.2	土器×24 U·Rフレイク×4 Mud.·Sch.剝片×6
12	51-88	42·43	楕円形	80	78	1080	247.8	0.2	
13	52-87	19	不整形	85	75	6890	574.1	0.1	土器×16 ナイフ·ポイント×1 Mud.·Sch.剝片×36
14	52-87	71·72	円形	85	72	397	37.2	0.1	土器×8 Mud.·Sch.剝片×2
15	52-87	84·94	円形	120	85	3787	478.7	0.1	土器×18 U·Rフレイク×6 Mud.·Sch.剝片×12
16	53-86	48·49·59	不整形	184	134	2254	1224.1	0.5	
17	53-87	00·01·10·11	卵形	70	60	951	162.0	0.2	
18	53-87	08	円形	50	45	75	45.7	0.6	U·Rフレイク×1 Mud.·Sch.剝片×1
19	53-87	26	不整形	95	45	664	95.2	0.1	U·Rフレイク×1
20	54-81	78·79	楕円形	149	98				
21	54-82	02	楕円形	103	85				
22	54-84	15	円形	85	80				
23	54-86	17·18	不整形	170	25				土器×2
24	54-86	21·22	不整形	76	32	1221	203.8	0.2	土器×4 U·Rフレイク×2 Mud.·Sch.剝片×2
25	54-86	33	不整形	60	18	519	62.8	0.1	土器×1 U·Rフレイク×1 Mud.·Sch.剝片×2
26	54-86	34	円形	18	16	102	19.0	0.2	土器×1 Mud.·Sch.剝片×2
27	54-86	36	円形	15	15	125	75.6	0.6	
28	54-86·87	10·19	不整形	52	50	308	88.9	0.3	ポイント·ナイフ×2 石斧×1 U·R フレイク×1
29	54-87	41	楕円形	48	35				
30	55-91	98	円形	26	20	723	62.5	0.1	土器×5 砥石×1 Mud.·Sch.剝片×93
31	55-86	17	楕円形	30	20	1693	28.3	0.0	土器×1 Mud.·Sch.剝片×7
32	55-86	19·29	楕円形	45	20	5121	760.2	0.1	土器×4 ドリル×1 Mud.·Sch.剝片×389
33	55-86	51·61	不整形	135	80	6481	816.1	0.1	土器×54 U·Rフレイク×9 Mud.·Sch.剝片×114
34	56-84	79	円形	28	26	6002	1979.3	0.3	
35	56-84	59	円形	81	75				
36	56-85	24	円形	43	36	3327	1662.9	0.5	
37	56-85	50	円形	26	23	4786	2663.2	0.6	
38	56-85	59	円形	100	96				
39	56-91	18·19	不整形	95	52	5225	286.7	0.1	土器×19 敲石×1 Mud.·Sch.剝片×110
40	56-91	22·23	不整形	40	30	500	49.4	0.1	土器×3 Mud.·Sch.剝片×12
41	56-83	00	楕円形	120	100	2130	38.5	0.0	
42	56-86	48·49	円形	20	15	234	29.3	0.1	土器×1 Mud.·Sch.剝片×1
43	57-85	53·54·63·64	不整形	135	85	15083	1794.4	0.1	土器×126 石斧×1 U·Rフレイク×10 Mud.·Sch.剝片×305 磨石×1
44	57-86	06·07	楕円形	84	63	810	314.3	0.4	土器×40 U·Rフレイク×4 Mud.·Sch.剝片×12
45	58-84	61·62·71·72·80	不整形	190	220	497	30.7	0.1	土器×13 Mud.·Sch.剝片×3
46	58-85	03	楕円形	30	15				土器×3
47	58-85	23	不整形	70	35	1361	254.7	0.2	土器×17 U·Rフレイク×2 Mud.·Sch.剝片×9

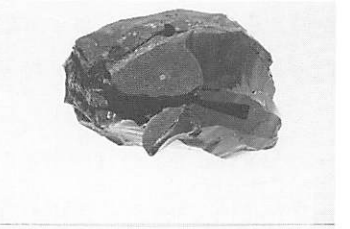

A
D
S1
B
C
21.60
21.58
21.57
S2
21.55
21.55
21.57
a
b 21.70
フレイク・チップ
0
2m

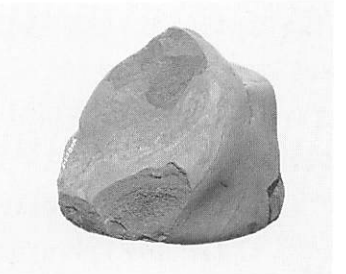

85
86
87
88
54
53
52
51
50
49
48
A
D
S1
B
C
0
0.5m


1
a
2
a
0
5cm
0
5
10cm

51－87区







51－87区

10. 焼土

本遺跡から総面積約786㎡に及ぶ焼土が検出された。焼土は調査区の南半部に多くみられ、平坦面及び傾斜面に分布が認められた。平坦面においては、北西から南東に帯状に数列にわたって分布し、傾斜面では谷地形に沿って流れ込むような分布状態がみられる。層位的には、262頁の断面図に示すように、焼土は黒色土（Ⅱ層）中に存在し、上からやや粒状の黒色土(Ⅱａ層)、濁赤褐色土（Ⅱｂ層上部)、明赤褐色土（Ⅱｂ層下部)、暗灰褐色土（Ⅱｃ層）になる。Ⅱｂ層下部からⅡｃ層は漸移する。焼土中には細かい炭化物を少量含んでいる。遺物は焼土の上部に多く、下部は少なくなる。遺物の大部分が縄文中期後半のものであることから明確な根拠はないが、焼土の形成年代も、ほぼこの時期に求められるものと推定している。

検出された焼土については一覧表の記載を、鉱物組成などからみた土壌学的側面については後章の「明褐色土について」を参照されたい。

焼土中に見出された土器については、266頁に代表的な例を図示し、以下に簡単に説明する。全般にⅢ群ｂ－３類に属する破片が多く、摩耗の進んだものが少なくない。熱を受けて、淡灰色がちに色調が変化したと推定される例も見受けられるが、確証はない。

１～５は、58－84－ｂ区に分布する焼土から得られたもので、１は弁状突起に貼付文が付加されたⅢ群ａ類、２は撚糸文のみられるⅣ群ａ類、３～５はⅢ群ｂ－３類の破片である。

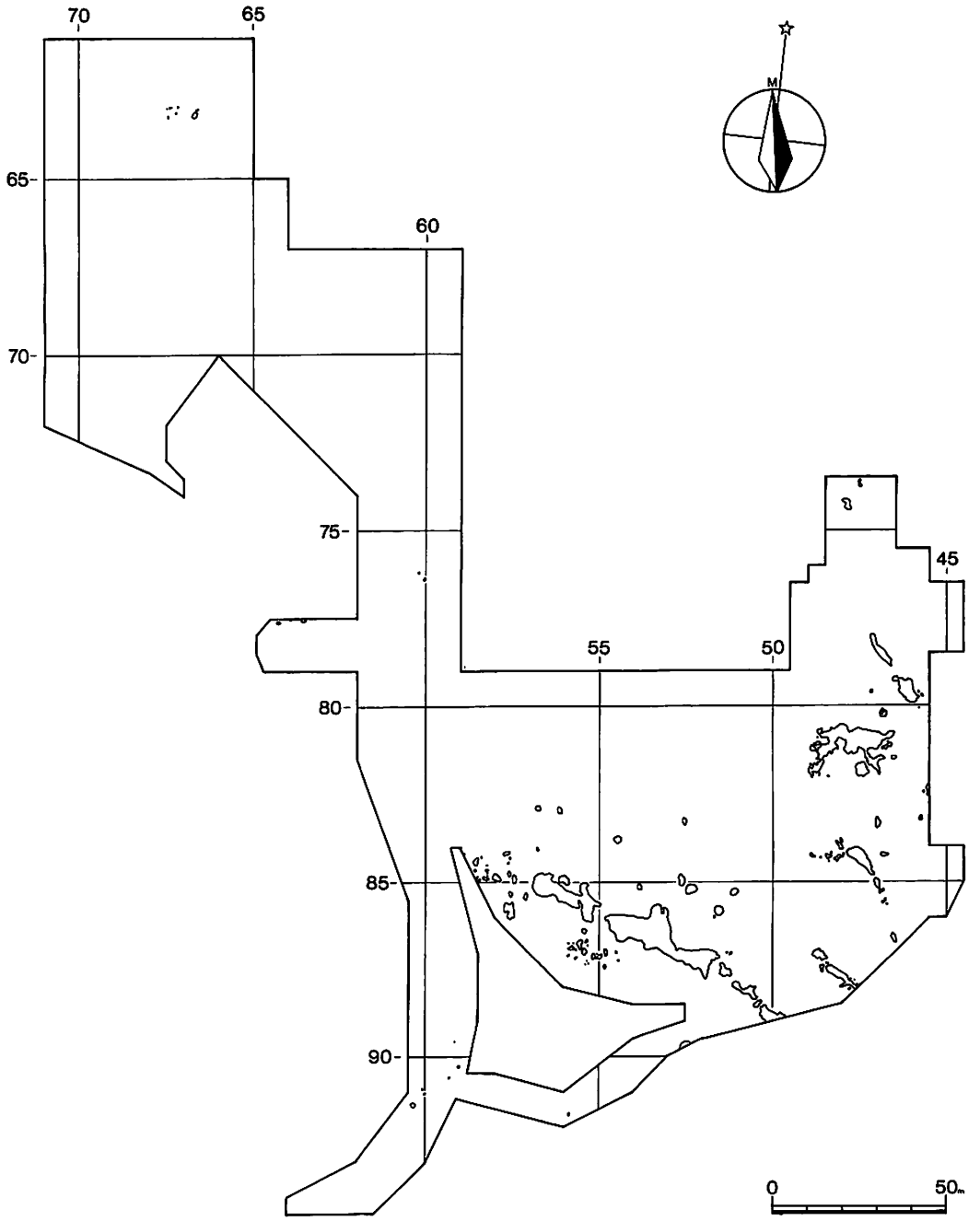
６～８は、57－84－ｂ区の焼土から出土したⅣ群ａ類土器。１には２条の、２には１条の縄線文があり、ともに口唇や裏面にも縄文がみられる。８の地文は結束第一種のある羽状縄文。

９～21は、57－85－ｂ区Ｆ－31出土のもの。９は貼付帯と撚糸圧痕文がみられるⅢ群ａ類。10～21はⅢ群ｂ－３類の破片で、10・11は縄文の施された肥厚帯がある口縁で、12・13には押引文が加えられ、14ではさらに斜位の貼付帯が付加されている。15は肥厚のみられない口縁片。16・17は表裏に縄文が施され、18には綾絡文がある。19は結束第一種のある羽状縄文が縦位に回転押捺されたもの。16・17・19・20・21など、結束第一種羽状縄文を地文とするものが多い。

22・23は55－86－ｃ・ｄ区に分布するＦ－44から検出されたⅢ群ｂ－３類土器。22は小さめの円形刺突文列と押引文をもち、23は円形刺突文と肥厚帯上に長く引いた押引文をもつ口縁片。

24～33は51－53－87区一帯に分布する焼土から採集されたⅢ群ｂ－３類である。24～27は、円形刺突文と押引文を有する口縁片。他は胴部の破片で、29には綾絡文が施され、30には結び目から先がほつれた縄端部の伴走がみられる。31は結束第二種を、32は結束第一種をもつ羽状縄文のあるもの。33の縄文は、結束第二種のある単節羽状縄文原体の結束部以外の撚りがとけた状態の回転押捺痕かと推測される。

34～41は47－84区の斜面に流れ込んだ焼土Ｆ－16から検出された土器である。34～38はⅢ群ｂ－３類に属すると思われる胴部片で、34には結束第一種のある羽状縄文が表裏に施され、35の器面には綾絡文らしいものが残されている。36には単節の、37には無節の斜行縄文が施文されているようだが、摩耗のため不明瞭である。38はやや薄手の吊耳部の破片で、径５㎜程の穴があけられている。39～42はⅥ群土器の破片で、39・40には浅い沈線文様がみられる。41は摩



焼土分布図

耗の進んだ小片。42は底径3.8cmの小さめの揚底片である。続縄文時代の遺物の混在は、焼土が斜面へと二次的に堆積していく時間の幅を考えるうえで、重視されよう。

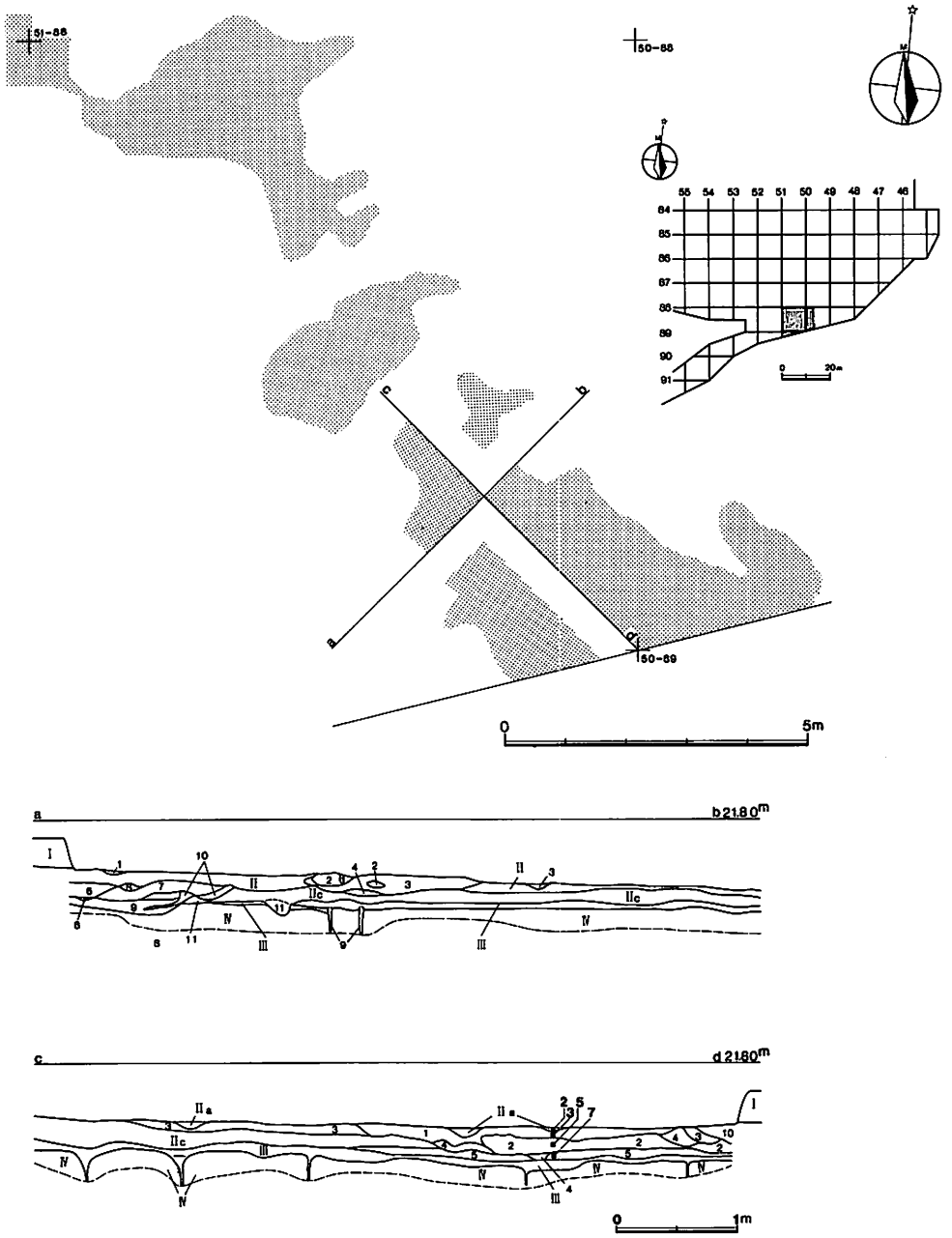
同様に石器は267頁に図示した。石器類で熱を受けたと考えられる変質・変色したものは少ない。図示したものでは6と11が焼けている。1～4はポイントまたはナイフ。黒曜石を素材にしている。1・2は有茎のものである。重さは7.1g、2は6.6g。3は菱型のもの。重さは5.6g。4は狭長なもので、重さは23.6g。5・6はつまみ付ナイフである。5は横型のものである。素材は珪質頁岩で、重さは2.7g。6は縦型のものである。素材はめのうで、重さは10.6g。7～9は石斧。打ち欠きと研磨により製・成形している。8の素材は片岩で、他は泥岩である。重さは7が65.6g、8が28.3g、9が46.5gである。10は砥石の破片。両面を使用し、砂岩を素材にしている。重さは51g。11はくぼみ石。両面と端部にたたき痕がみられる。砂岩を素材にし、重さは184.5g。12は北海道式石冠の破片。玢岩を素材にし、重さは133.8g。13は黒曜石の石核。角礫の原石面が残っている。重さは133.8g。

焼土一覧表(1)

位置	面積 平方m	出土遺物
45-79	8.0	
45-82	3.0	
45-83	1.5	
46-78	11.0	
46-79	25.0	Obs.剝片×1
46-80	12.0	
46-81	13.0	
46-83	2.5	石斧×1 礫×1
46-84	3.0	
46-85	4.0	Obs.剝片×2
46-86	3.0	
47-73	2.0	土器×1
47-74	0.5	土器×2
47-78	6.0	
47-79	1.0	
47-80	29.0	
47-81	55.0	土器×3 Obs.剝片×2
47-82	1.0	
47-83	1.5	
47-84	28.0	土器×10 ナイフ・ポイント×1 Obs.剝片×2 礫×2
47-85	1.0	土器×1
47-87	10.0	土器×41 石斧×2 石皿×1 礫×2
47-88	2.0	スクレイパー×1
48-74	0.5	
48-80	24.0	土器×1 Obs.剝片×5
48-81	36.0	土器×2
48-82	1.0	
48-83	3.0	
48-84	6.0	
48-86	1.5	土器×1

焼土一覧表(2)

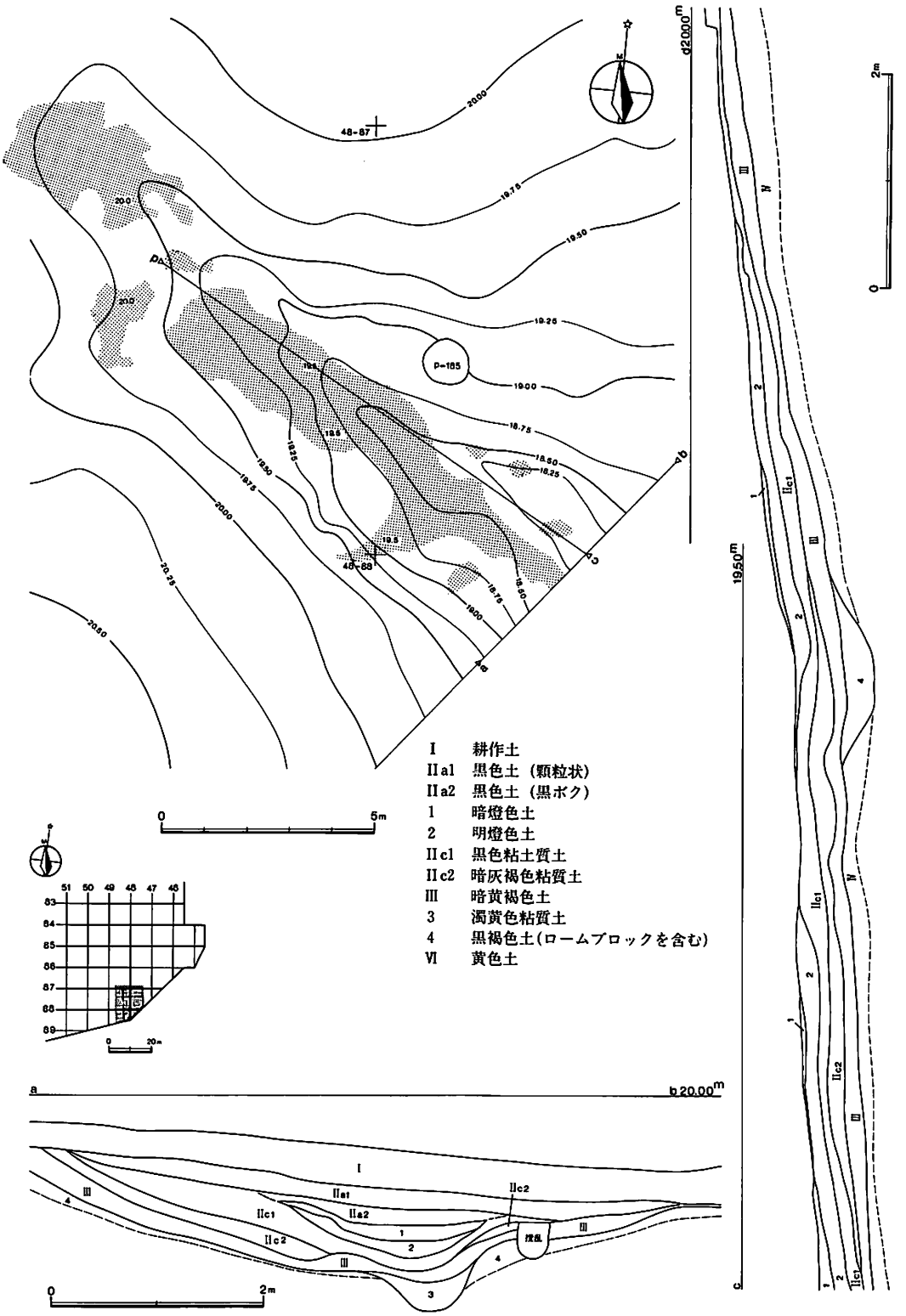
位置	面積 平方m	出土遺物
48-87	16.0	土器×56 石斧×6 石皿×1 U·Rフレイク×1 Obs.剝片×1 磨石×1 礫×8
49-88	4.0	土器×5 Obs.剝片×3 Mud.·Sch.剝片×1
50-81	0.5	
50-82	2.0	
50-87	0.8	土器×4 石斧×1 Obs.剝片×1
50-88	21.0	土器×62 ポイント·ナイフ×1 ドリル×1 スクレイパー×2 敲石×1 Obs.剝片×39 Mud.·Sch.剝片×12 礫×5
50-89	1.0	
51-85	11.0	
51-86	3.0	
51-87	30.0	土器×389 ポイント·ナイフ×1 ドリル×1 スクレイパー×2 石斧×3 凹石×1 砥石×5 U·Rフレイク×6 Obs.剝片×262 Mud.·Sch.剝片×58 礫×17
51-88	3.0	土器×4 Obs.剝片×23
52-83	3.0	
52-84	7.0	
52-85	8.0	
52-86	13.0	
52-87	39.0	土器×713 ポイント·ナイフ×3 ドリル×4 スクレイパー×3 凹石×2 磨石×1 U·Rフレイク×10 石核×1 Obs.剝片2068 Mud.·Sch.剝片×40 礫×1
52-89	8.0	
53-85	16.0	
53-86	88.0	
53-87	1.0	土器×10 石鏃×1 敲石×1 Obs.剝片×52 Mud.·Sch.剝片×5
54-81	1.5	
54-82	0.7	土器×1 U·Rフレイク×1 Mud.·Sch.剝片×2
54-83	3.0	
54-84	0.5	
54-85	4.0	
54-86	43.0	土器×705 石鏃×3 石斧×3 敲石×1 砥石×5 U·Rフレイク×3 石核×1 Obs.剝片×220 Mud.·Sch.剝片×313 礫×1
54-87	4.0	土器×10 石斧×1 U·Rフレイク×2 Obs.剝片×61 Mud.·Sch.剝片×4
55-84	1.5	
55-85	45.0	
55-86	9.0	土器×28 ポイント·ナイフ×1 石斧×1 敲石×1 U·Rフレイク×2 Obs.剝片57 Mud.·Sch.剝片×4 礫×7
55-87	6.0	土器×49 砥石×2 U·Rフレイク×2 Obs.剝片×57 Mud.·Sch.剝片×18 礫×16
55-91	0.7	
56-82	3.0	土器×20 石斧×1 磨石×1 Obs.剝片×4658 Mud.·Sch.剝片×4 礫×10
56-83	0.5	
56-84	14.0	
56-85	40.0	
56-91	0.3	土器×2 Mud.·Sch.剝片×3
57-84	9.0	土器×381 石鏃×1 石斧×1 敲石×1 北海道式石冠×2 砥石×1 U·Rフレイク×2 Obs.剝片×150 Mud.·Sch.剝片×21 礫×62
57-85	13.0	土器×128 石鏃×1 石斧×2 凹石×1 北海道式石冠×1 砥石×1 U·Rフレイク×5 Obs.剝片×109 Mud.·Sch.剝片×31 礫×13
58-84	6.0	土器×148 つまみ付ナイフ×2 石斧×1 北海道式石冠×2 Obs.剝片×44 Mud.·Sch.剝片×12 礫×59
58-90	0.5	土器×4 Obs.剝片×36 Mud.·Sch.剝片×2
59-89	0.4	
59-90	0.9	
60-76	1.0	
60-90	0.2	
60-91	2.0	
63-77	1.0	
66-63	3.0	
67-62	1.0	
67-63	0.8	



II　黒色土
II a　黒色土（やや粒状）
1　暗赤褐色土
2　明赤褐色土
3　濁赤褐色土
4　暗赤褐色土(粒状の赤褐色土を少量含む)
II c　暗灰褐色土
5　灰黒色土
III　濁黄褐色土
IV　黄褐色土
6　暗灰黄色土
7　灰黄色土
8　暗濁黄褐色土
9　濁黄褐色土
10　黒色土（粒状）
11　暗茶色土

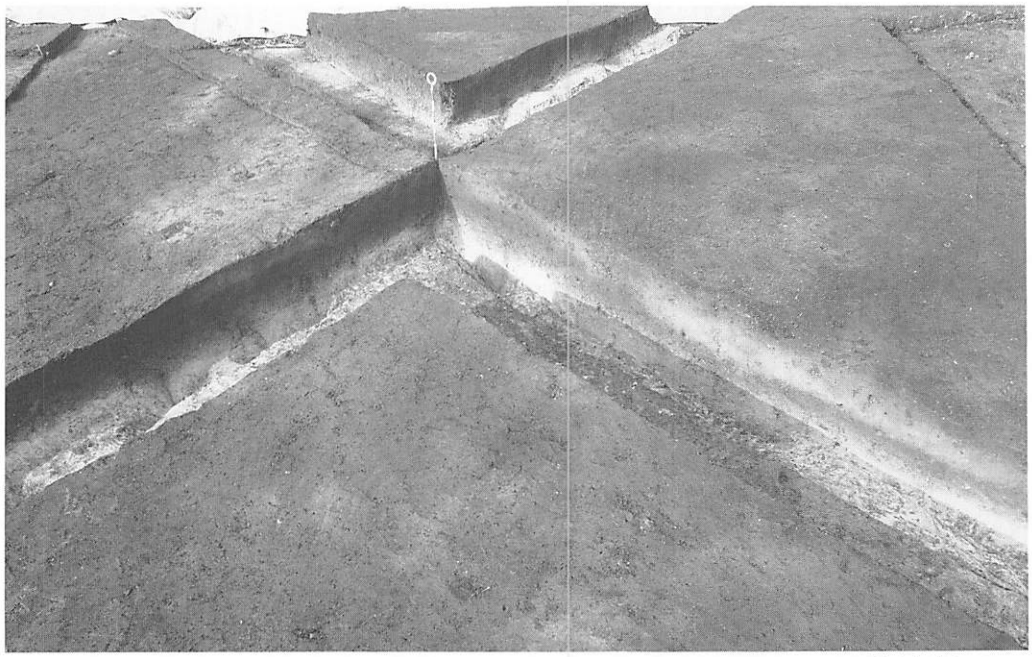
■2・3・5・7：試料採取位置
（「明褐色土について」参照）

平坦部の焼土


I 耕作土
IIa1 黒色土（顆粒状）
IIa2 黒色土（黒ボク）
1 暗燈色土
2 明燈色土
IIc1 黒色粘土質土
IIc2 暗灰褐色粘質土
III 暗黄褐色土
3 濁黄色粘質土
4 黒褐色土(ロームブロックを含む)
VI 黄色土
0 5m
0 2m
a b 20.00m
c 19.50m
d 20.00m
焼土

沢の焼土

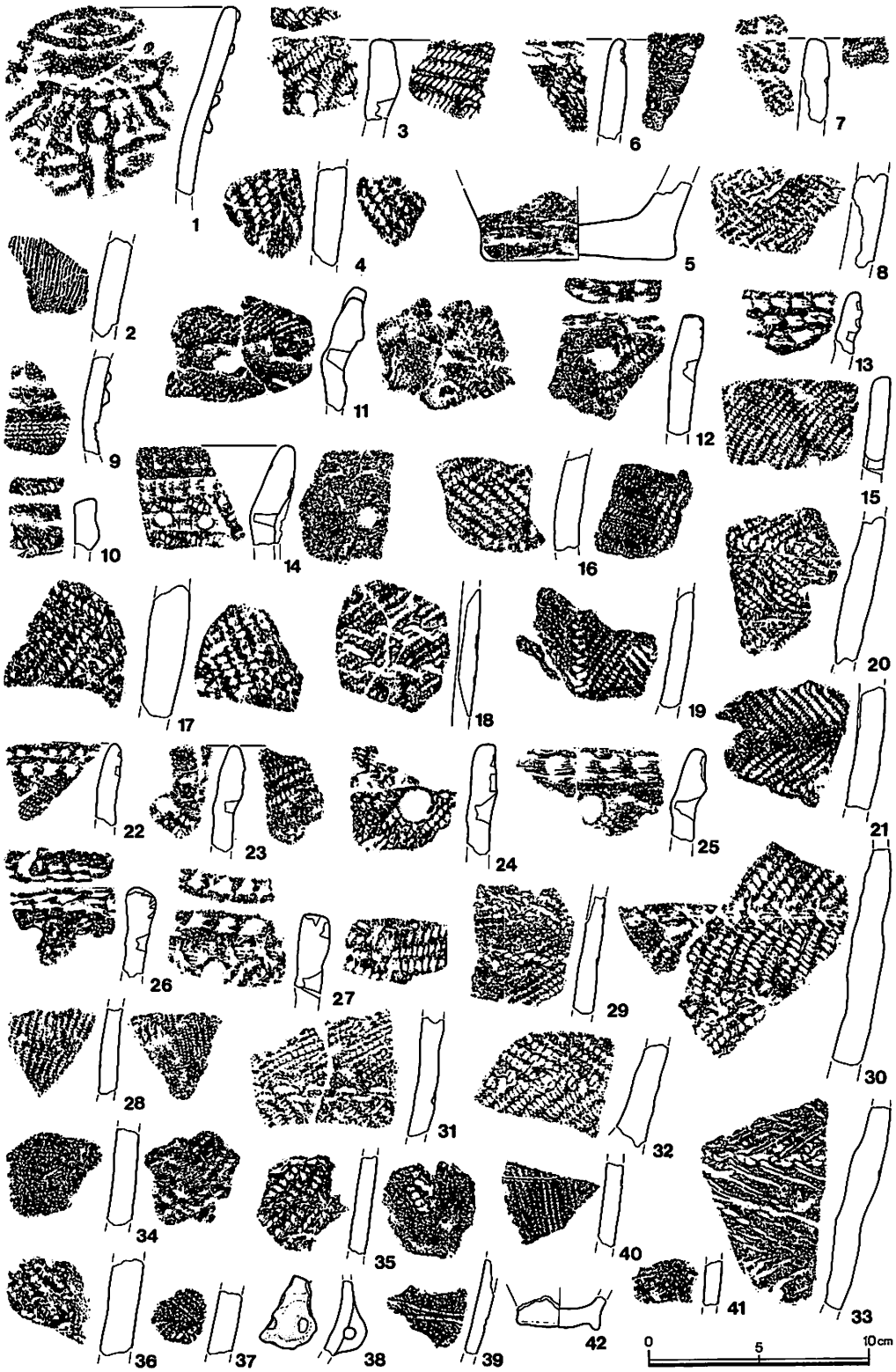
遺物出土状況



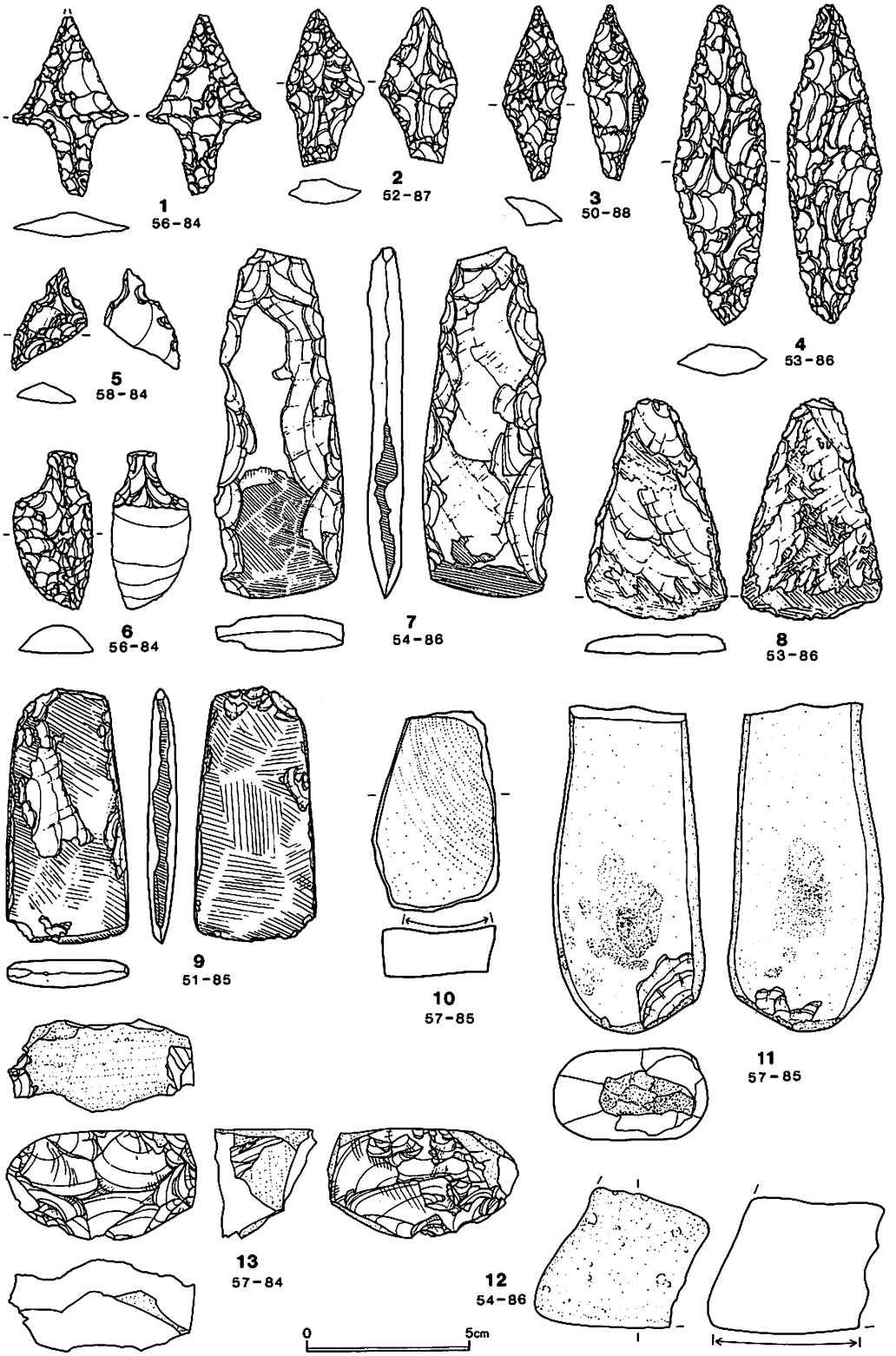
焼土セクション

沢の焼土確認面

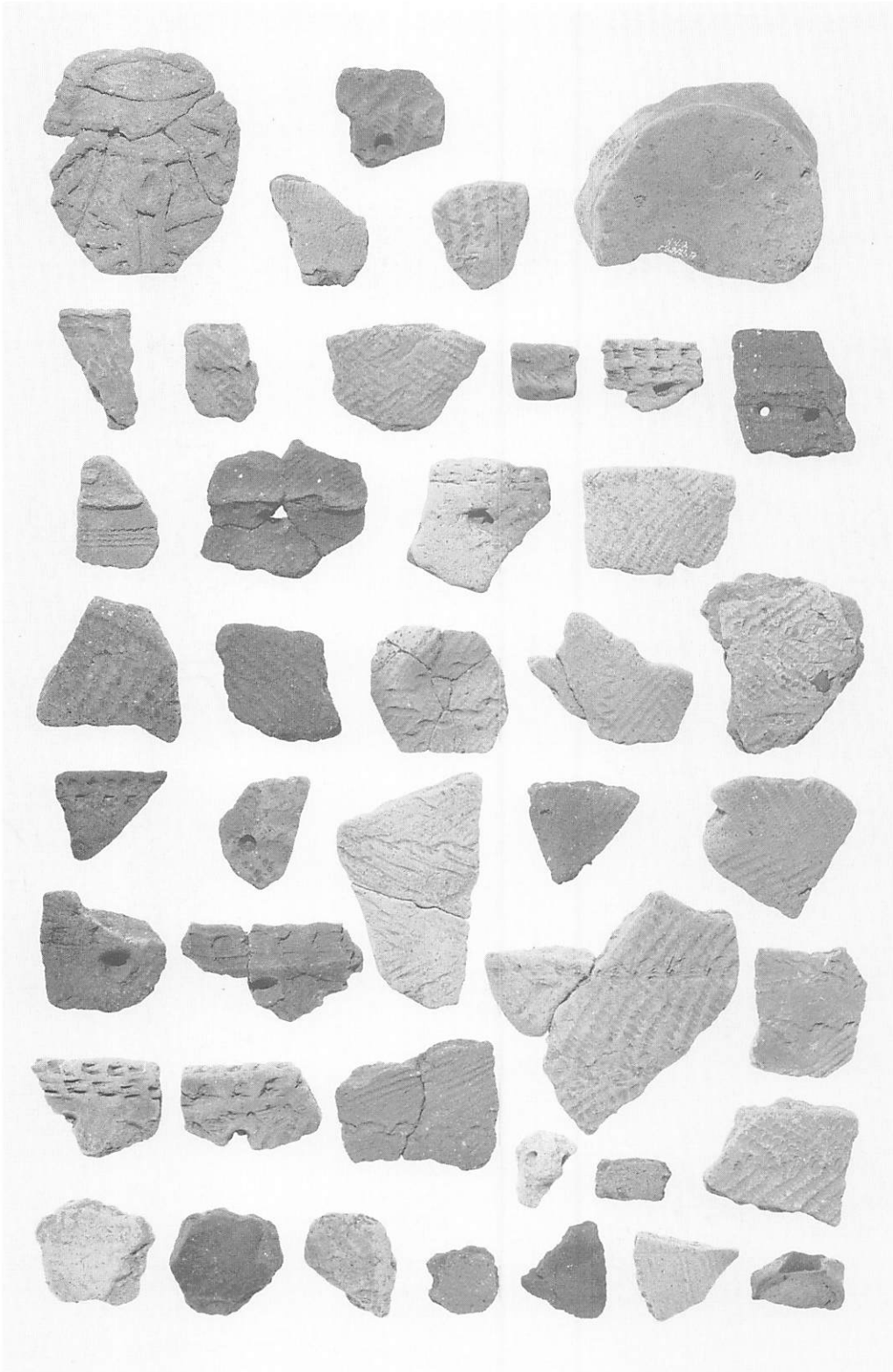
沢の焼土セクション


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
0
5
10cm

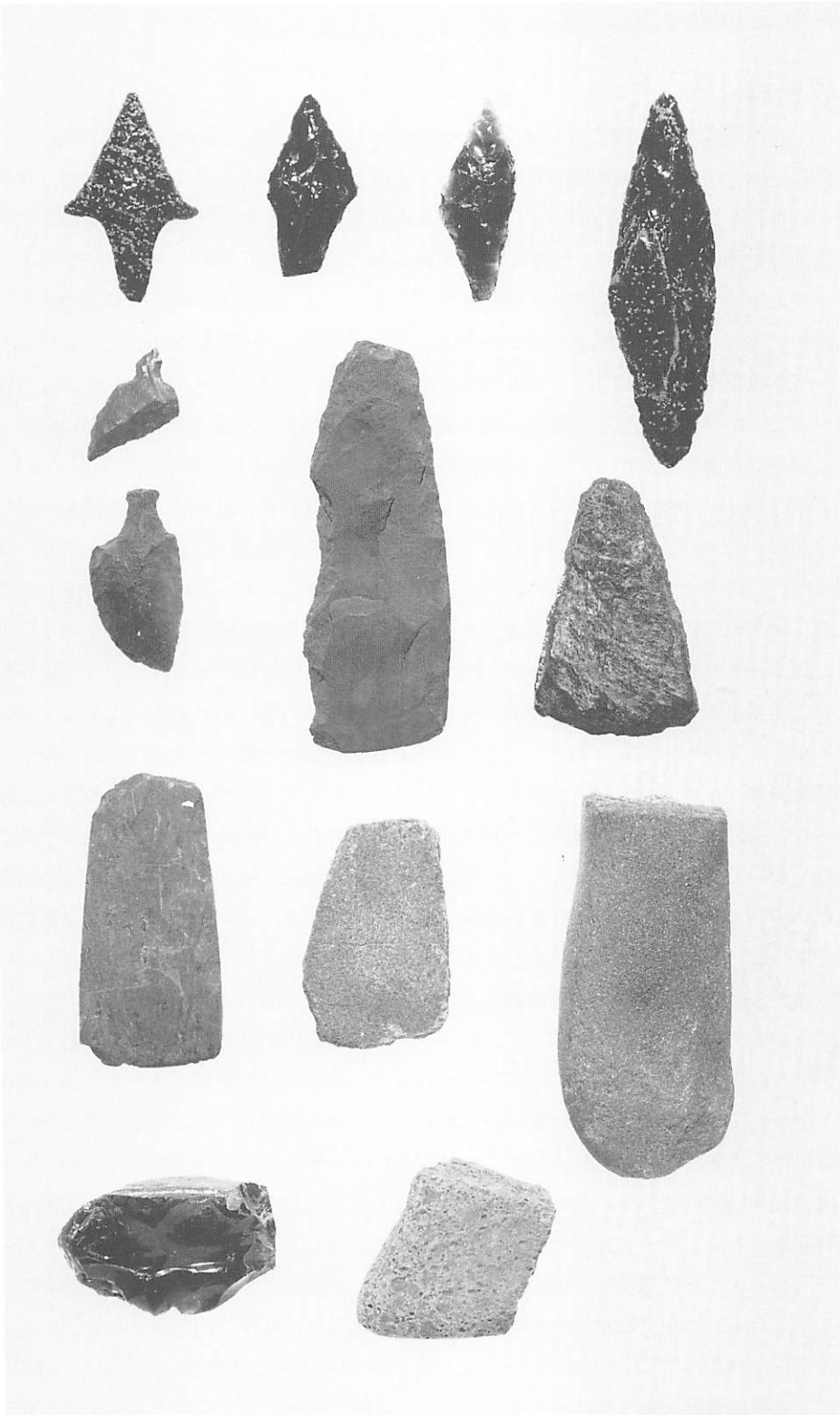
焼土の出土土器


1
56-84
2
52-87
3
50-88
4
53-86
5
58-84
6
56-84
7
54-86
8
53-86
9
51-85
10
57-85
11
57-85
12
54-86
13
57-84
0
5cm

焼土の出土石器



焼土の出土土器



焼土の出土石器

V　発掘区出土の遺物

1．土　器

7年間の調査を合わせて、遺構以外の発掘区からは、100,550点の土器片が検出された。縄文時代早期のⅠ群から続縄文時代のⅥ群まで各時期の土器がみられるが、80%近くは縄文中期後半のⅢ群b類に属するもので、とりわけb－3類北筒式土器が圧倒的多数を占めている。その他Ⅵ群4.5%、Ⅴ群1.4%、Ⅳ群1.1%、Ⅲ群a類0.5%、Ⅰ群1.2%などとなっている。

Ⅰ群a類は1・2の2点のみが確認されている。1は口縁外側に2条の貝殻腹縁文がめぐる口縁片である。1・2の器表には貝殻条痕文がみられる。ともに摩耗が進んでいる。

3～28はⅠ群b－2類コッタロ式に属するもの。H－3、P－141といった遺構に関連する遺物が多く、59～60－89～91区付近に特に濃密な分布が認められる。3・4・10は斜位、縦位などに貼付文が密に並列するもの。5は縄端による斜位の刺突文列が無文帯を区画するもの。6·8·9·11·13·16·17·20·24は、貼付帯に縄による刻みを加えたもの。12・14は貼付帯を丸棒状工具で刻むもの。7・15は貼付文のみられないもの。18・19には絡条体圧痕文が配されている。21～23は細い貼付文が重ねられたもの。25・26は短縄文のある、27・28は縄文の施された底部片。

29は地文の羽状縄文が底面にも施された平底片で、胎土には繊維が含まれている。胎土、焼成、地文などからP-101出土の土器と同一個体と思われ、Ⅱ群b類大麻Ⅴ式に比定されよう。

42～80はⅢ群a類に属するもので、ほぼ円筒上層d式、或は萩ヶ岡1式土器などとの類縁関係の窺える資料が主体を占める。分布のまとまりは発掘区の数ヵ所に分散している。口縁部に貼付帯を伴った突起や断面三角状の肥厚帯をめぐらせたものが多い。貼付帯は地文に重ねて付加され、貼付文には絡条体圧痕文や撚糸文などが施されるが、摩耗が進んで判別できない例が少なくない。口縁部の貼付帯には、42では平篦による刺突文列が、44では縄による刺突の刻まれた2個の丸い貼瘤が、45では平行沈線文が配されている。50の貼付文間には半截竹管による、51や56、63、64では平篦状工具による連続刺突文が加えられている。57や60、72の貼付文や59には撚りの異なる原体を利用した撚糸文がみられる。61・62には竹管状工具による小さめの円形刺突文が、65には縄端を利用したらしい、やや不整な円形の刺突文が施文されている。63·69・70には絡条体圧痕文があり、66・67・75・76などの貼付帯は絡条体圧痕文もしくは撚糸文によって刻まれている。縦位の貼付帯が付された67の口縁部肥厚帯には、撚糸文のほかC字状の絡条体圧痕文が並んでいる。68の肥厚帯や貼付帯には、細く鋭い沈線状の刻みが加えられている。

81～101はⅢ群b－1類、天神山式土器のグループで、やや古く萩ヶ岡2式に比定されるものも一部含まれる。地文に重ねてやや幅広の貼付帯を付し、これに半截竹管の内面を利用した刺突や突引き、平行沈線文などを添加した例が多い。81の貼付帯には爪形状の刺突が加えられている。86・87には平行沈線文のほか、竹管の外面を引いた縦位の短刻線が並列している。90の貼付帯には縄端による刺突列がみられる。95・96・101の縄文は複節の原体によるもの。

102～132はⅢ群b－2類に属する土器。b－2類は柏木川式を主体とし、大安在B式やノダ

ップⅡ式など道南部の土器に類縁が求められるものも若干含まれる。102～105には平篦状工具による連続刺突文が、107・108には口唇上や貼付文を含む一面に、円形刺突文が密に加えられており、128や114にも類似の文様構成がみられる。口唇上の円形刺突文は縄線文をもつ109・110にも認められる。縄線文は113・119にも押捺されており、115～117ではさらに環状の貼付文が付加されている。121は小さな刺突を加えた貼付帯を横環させたもので、122には縦位の平行沈線文がみられる。123・126・127・129・132などには、平篦や半截竹管による押引文が加えられ、124・125・130・131などには、同様の刺突が刻まれた貼付帯がめぐっている。

133～143にはⅢ群ｂ－３類土器のうち、北筒式とは系統を異にするものなどをまとめた。133～136、139～142は煉瓦台式を含む短刻線文土器（大島・瀬川1982）や、その影響下でつくられたもの。137、138、143は大木糸の土器。143では貼付帯がはね上げぎみに付されている。

出土土器の大半はⅢ群ｂ－３類北筒式に属するもので、その数約69,000点。器形や文様などにはさまざまな変化がみられる。以下にその一部をいくつかのグループに分けて紹介するが、あくまでも記載の便宜を求めた結果であり、型式学的な分類を意図するものではない。

144～154は、口縁部に肥厚帯をつくる貼付帯をめぐらせたり、縦位や山形、斜位の貼付帯が付加されたもの。口縁部肥厚帯や貼付帯には、押引文や縄文が施されている。縦位にも貼付帯がある144は、Ｐ－92出土例と同一で、縄線文が重ねて押捺されたもの。149・152の口縁波頂部には垂直の小孔が、147・149・150には肥厚帯下とは別の、小さな円形刺突文がみられる。

155～180、341は、口唇部に密な刻みや深めの押圧が加えられたもの。器形的には、口縁部に肥厚帯のないもの（155・160）、余り顕著ではないもの（176・177）もみられるが、断面三角状に肥厚帯がめぐる例が多い。突起下に貼瘤のあるもの（157）、波頂部などが一段と肥厚するもの（164・165・169）があり、肥厚帯の幅が特に広いもの（159・161～163）もみられる。文様的には、口縁部に連続刺突文や押引文が1～3段みられ、155・159・163・166・170・176・177では、下にもそれらが横位や斜位に加えられている。160・165・176・177では、綾絡文などもみられる。

181～208は、口唇部に押引文が加えられ、口縁部に１～３段の押引文や連続刺突文がめぐるもの。口縁部に肥厚帯のあるものが多いが、193・195・206～208のように肥厚帯のない例もある。181・183・196のように突起下や波頂部などが一段と肥厚するものがあり、183には縦の押引文が、196では垂直の小孔が加えられている。183・189・193には口縁内側にも横位の、184・192では肥厚帯下にも斜位や交差する押引文が施されている。185には小さな円形刺突文の添加があり、190には肥厚帯の下縁部に横の貫通孔を穿った、小さな把手状の装飾がみられる。

209～222は、口唇部に押引文あるいは連続刺突文が刻まれ、口縁外側に押引文の施文がないもの。223・224のように、沈線風に引いた押圧のあるものも含める。209は突起下に貼瘤があり、小さな円形刺突文列などが配されたもの。211の突起下の刻線は新しい傷痕である。

225～247、339・340・342・344・346は、口唇部に文様がなく、口縁外側に押引文がめぐるもの。口縁部に肥厚帯がめぐる例が多いが、340・344など肥厚帯のないものもある。232・237・339などでは、口縁波頂部に貼瘤があったり、一段と肥厚がみられる。228・231～233では肥厚

帯下の円形刺突文列にも押引文が重ねられるほか、234・339では押引文が斜位や横位に、340では全面に施されている。230の突起下や、339の押引文の交点には、さらに円形刺突文が加えられている。225・238・240・244・245・342には綾絡文などがめぐっている。

248～272は、口唇部に縄文が施され、口縁外側に1～3列の押引文、或は沈線文がめぐるもの。248・269～272などを除いて、口縁部には肥厚帯があり、249・250・253・254・266には山形の小突起がある。252・253には沈線文の付加が、258・259には斜位の押引文が、260には押引きと小孔を加えた貼付帯がある。綾絡文や結束第二種の回転押捺を伴うものも、少なくない。

273～295、347は口唇部に縄文が施され、口縁外側に押引文がないもの。273～279など、山形の小突起や波状縁を有するものが多く、やや小型の土器では、口縁部に肥厚帯がみられない。地文は結束第一種、二種をもつ羽状縄文や斜縄文の例が多い。綾絡文の付加もみられる。

296～313、345は、口縁外側に押引文がなく、口唇部にも縄文がないか、不明瞭なもの。口縁部に肥厚帯のない例も少なくない。地文には、結束第二種のある原体によるもののほか、やや特殊な撚糸文のもの（297・307）、無節のもの（311・312）、無文のもの（313）などがある。

314～326は、斜位や縦横の押引文や、押引きや縄文の施された貼付帯をもつ胴部片で、314・317～320、323～325では、交点などに加えられた、小さめの円形刺突文がみられる。327は直前段反撚、329～331は撚紐を軸とする網目状の撚糸文。328・332・333には綾絡文があり、334～336は結束第一種、二種のある原体を縦に回転施文したもの。337・338の底部片には、押引文が加えられている。343、ちょっと戻って30～41もⅢ群b－3類の底部片。30の底面には刻線が、35では葉脈状の圧痕がある。37の底面や内壁部、39・41の底面には縄文がみられる。

349～355はⅣ群a類、横環する貼付帯のある余市式土器で、349には縄線文の付加がある。他の貼付帯には縄文が施されており、351の貼付文間には磨消しが加えられている。

357～424は縄線文や撚糸文をもつⅣ群a類土器。600点余りの出土で、分布図に縄線文系として示したように、調査区の西部中央から南寄りの一帯に多くみられた。深鉢形で、口縁部が内弯ぎみ、平縁の口唇上や口縁部内面にも地文が施文される例が多い。胎土には砂礫のほか、繊維も少なからず含まれている。縄線文は口縁外側に1～3条めぐるが、結束第一種羽状縄文原体の押捺例が稀ではなく、典型的には414などにみられるように、結束部の左右で撚りの方向が異なる場合が多い。結節部の圧痕や縄端の刺突などが加えられた例も認められる。390～392など縄を軸とする附加条あるいは撚糸文的な縄文もみられる。406～413など縦位の縄線文が刻まれた例も少なくない。415の連鎖状の縄線文にも、結束部の圧痕がみられる。416～424は、細い撚紐を密に巻いた撚糸文が口唇部や内面にも施文される土器で、器形や胎土、焼成などは縄線文のものと殆ど変らない。撚糸文は口縁部では横位に、下では縦に施されている。

425～434はⅣ群a類のうち手稲砂山式に比定される土器である。口縁外側をめぐる貼付帯と突起下の押圧の刻まれた貼付帯をもつ425はじめ、平行沈線文をもつもの、縄による刻みがある貼付帯に弧状の沈線文が連結するもの、縦位の沈線文を軸に弧状の沈線文が配されるものなどがある。435～449はⅣ群a類、入江式のグループに含まれるもの。斜格子に沈線を引いたも

の、横位の沈線による区画があり、クランク状の沈線文様が配されるもの、矩形状や長楕円的な沈線文様が重ねられるものなどがある。450～453はⅣ群ｂ類土器で、船泊上層式から手稲式までのもの。450・451の無文帯の磨消しは徹底せず、452・453の器面は滑沢である。

454～495はⅤ群ｃ類、タンネトウＬ式にまとめられる土器である。縄文晩期の遺構が集中した、調査区の西部中央付近に濃密な分布が認められた。454は丸底の皿形土器の破片で、単節ＲＬの施文がある。454・456には短刻線による文様が、壺形の457には貼瘤と平行沈線文がみられる。458・470～472・475は、口唇内面の縄文や縄線文に縦の刻みが加えられるもので、458の器面には縄線文と縦の沈線文がある。494にも縄線文と斜位の沈線文があり、無文帯の下に貼瘤の配された平行沈線文帯がつづいている。459～463・495は横位の沈線文と列点文があるもので、495の口縁には貫通孔を伴う山形突起と、頂部が凹む低めの突起とが交互にみられる。464～469・473・474は口唇内面や外側に、縄による刻みや縄文をもつもので、465には縄端の刺突が、468・469には蛇行沈線文がある。476～480は平行沈線文などがみられる土器で、481は深い刻みと、縄文の施された隆帯をもつ波状口縁片。484～486の縄文は複節の原体によるもの。491～493は屈折する沈線文や縄文のみられる、丸底的な底部片である。

496～637は続縄文期のⅥ群土器、後北Ａ式など古い段階のものは調査区の南東側と、遺構がまとまっていた西南部に多く、後北C_2・Ｄ式などは、墓壙が集中する北西部に分布が濃い。

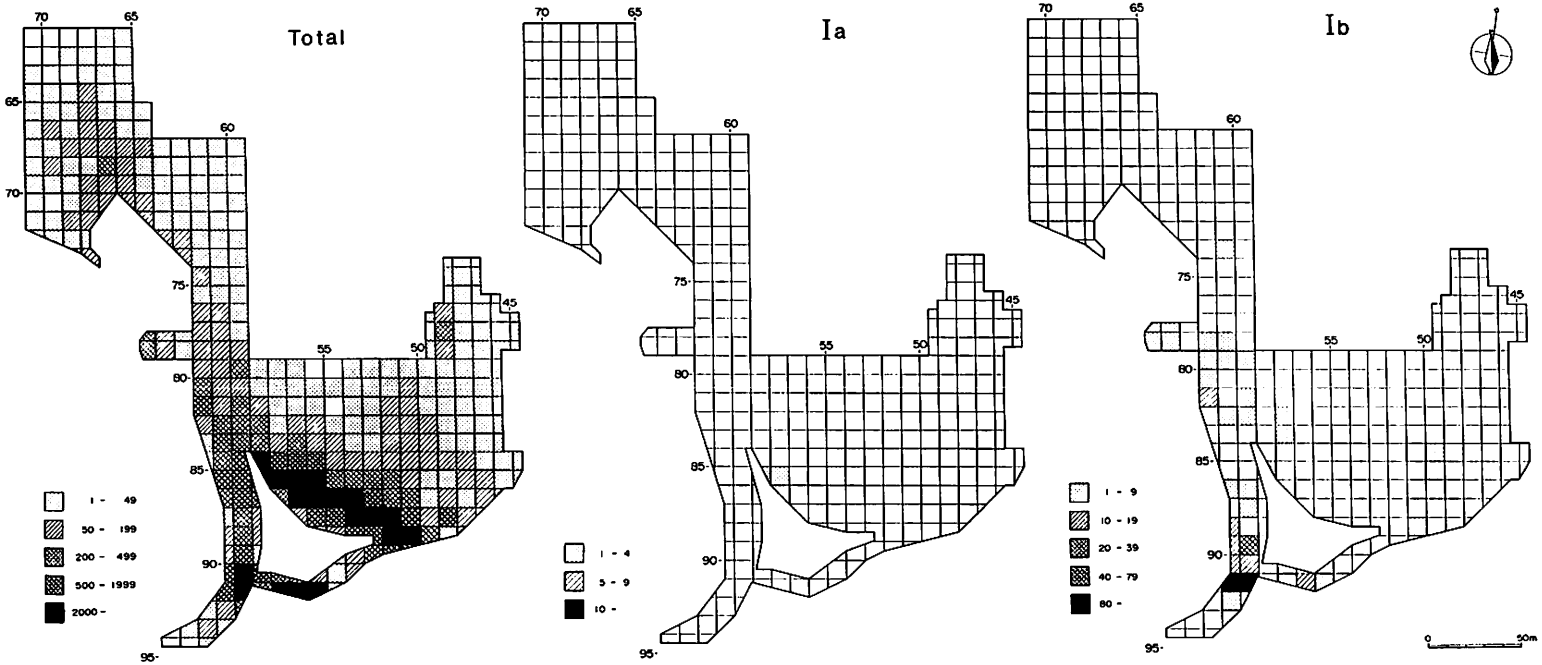
496～505・510は、江別太遺跡のⅢ群土器などに類例が求められる初頭のもの。496・497には縦走する縄文が、498～501には撚糸文があり、502は無文。503・510の口唇には刳るような刻みが加えられており、510には刺突文列が２段みられる。504・505は揚底の底部片。

506～509、511～514は、恵山式に属するもの。506・507など口縁内面の屈曲が鋭く古い要素が窺える。508・509には細めの縄線文が押捺されており、511は薄手の鉢形。底は揚底が多い。

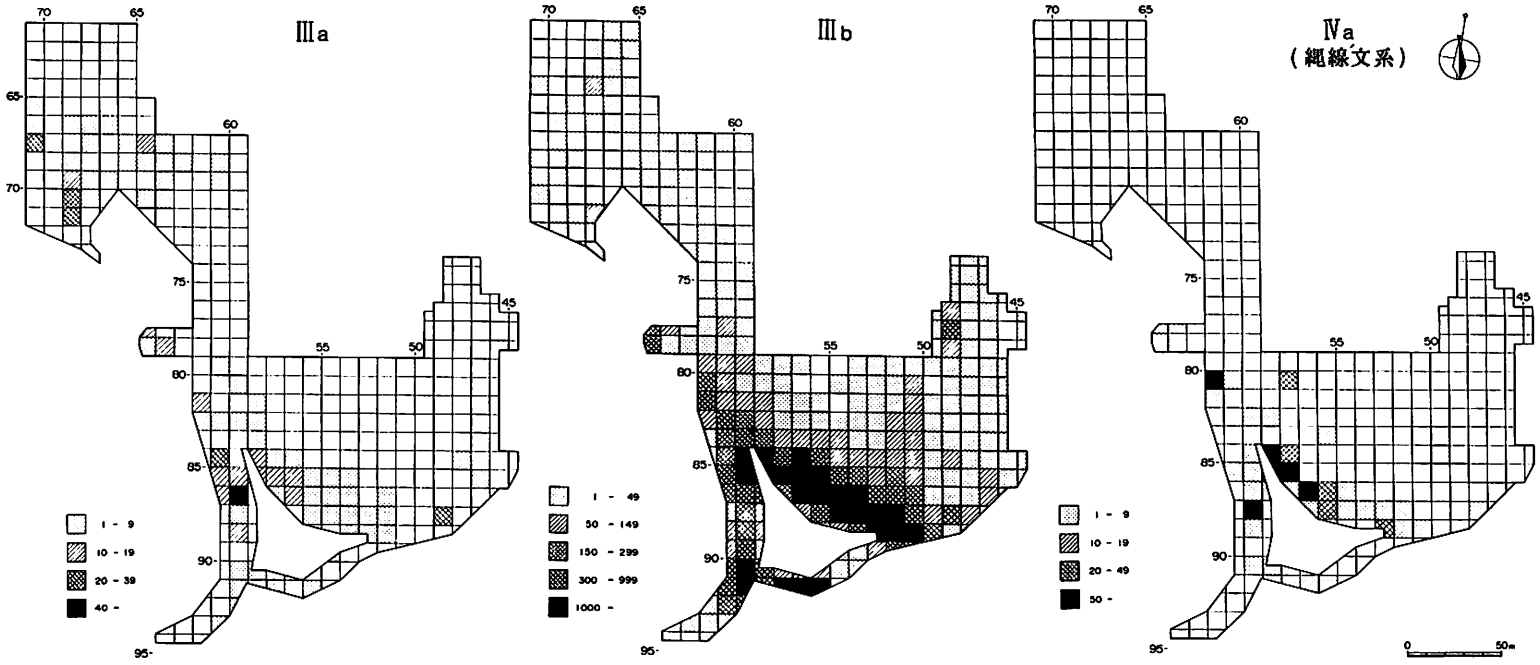
515～576は、ほぼ後北Ａ式のグループに含まれるもの。515～520は横帯縄文を伴う平行沈線文に山形状の沈線などが加えられ、無文地に斜位の短刻線が配されるもの。521～525は、横走縄文に重ねて沈線文、刺突文列を施すもの。526～535、537にも平行沈線文や短刻線文のほか、刺突文列がみられる。536・538は短刻線の両端に刺突文が加えられるもの。539には小波状の沈線文が、540には屈折する連続刺突文がみられる。542～558、563は、平行沈線文や短刻線文、刺突文列などが重ねられた土器で、縦位や横位、斜位などの刻みのある貼付帯が付加される例が多い。552・553には赤色塗彩の痕跡が残されている。559～562は太めの沈線が重ねられたもの。564～567は細かく密な刺突文列に縁どられた、菱形状の低い隆帯がみられる。571～576は底部片で、いずれも揚底。574・575の底面は、周縁が二重になっている。

577～581は弥生式系の、薄手の撚糸文土器の破片で、Ｐ－169にも類似が見出されている。

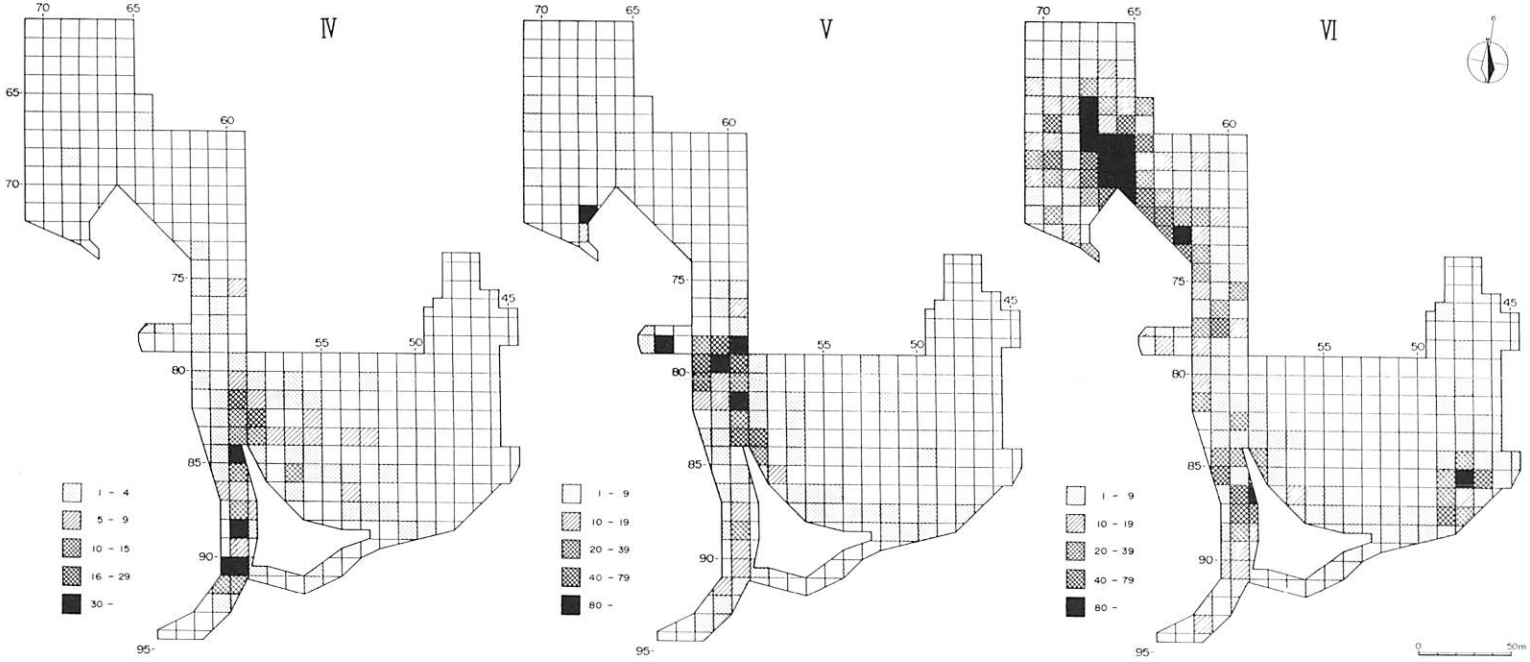
582～637は後北C_2・Ｄ式土器。刻みが密に加えられた口唇部や口縁外側の貼付帯の下には、582などのように横位、縦位、弧状の帯縄文が施されるが、585などのように微隆起線文や三角列点文を伴う破片がやや多い。592など微隆起線文を、617など三角列点文を欠く個体や部位も少なくない。583は注口部の一部。全般に薄手で、635～637など底部も例外ではない。


Total
Ia
Ib
1 - 49
50 - 199
200 - 499
500 - 1999
2000 -
1 - 4
5 - 9
10 -
1 - 9
10 - 19
20 - 39
40 - 79
80 -
0
50m

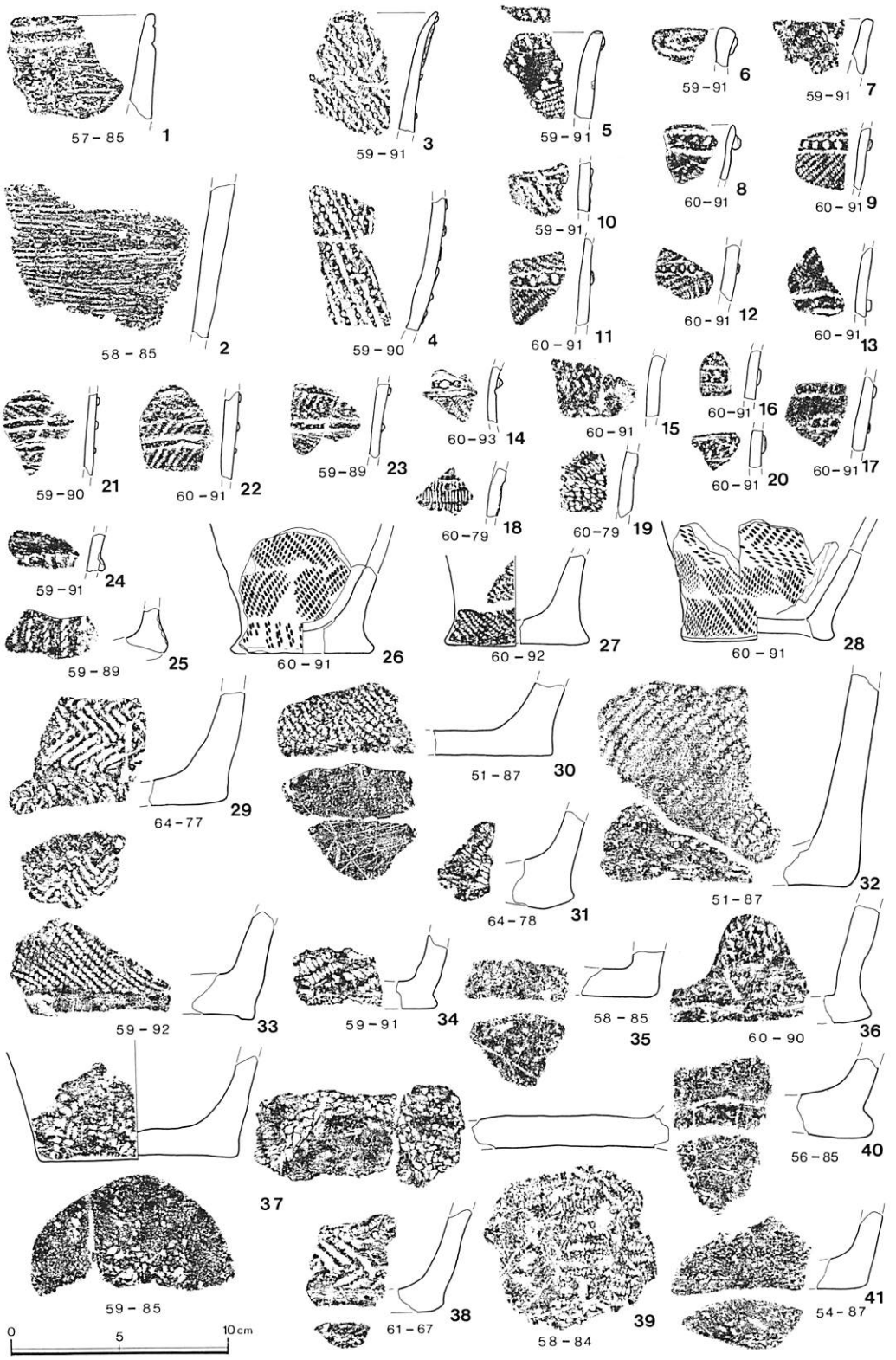
土器時期別分布図 (1)


Ⅲa
Ⅲb
Ⅳa
（縄線文系）
1 - 9
10 - 19
20 - 39
40 -
1 - 49
50 - 149
150 - 299
300 - 999
1000 -
1 - 9
10 - 19
20 - 49
50 -
0
50m

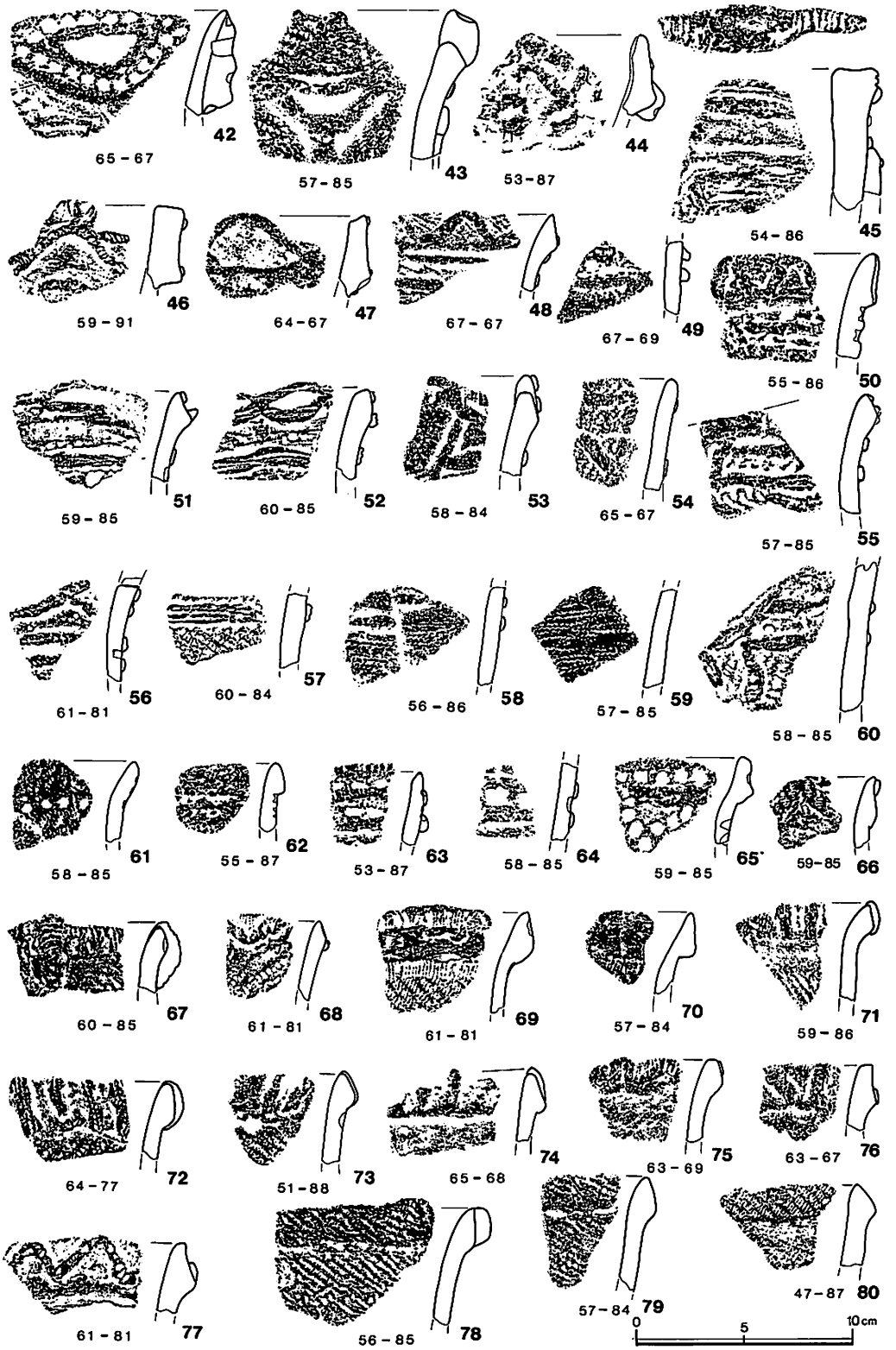
土器時期別分布図 (2)


Ⅳ
Ⅴ
Ⅵ
70
65
60
55
50
45
75
80
85
90
95
1 - 4
5 - 9
10 - 15
16 - 29
30 -
1 - 9
10 - 19
20 - 39
40 - 79
80 -
0
50m

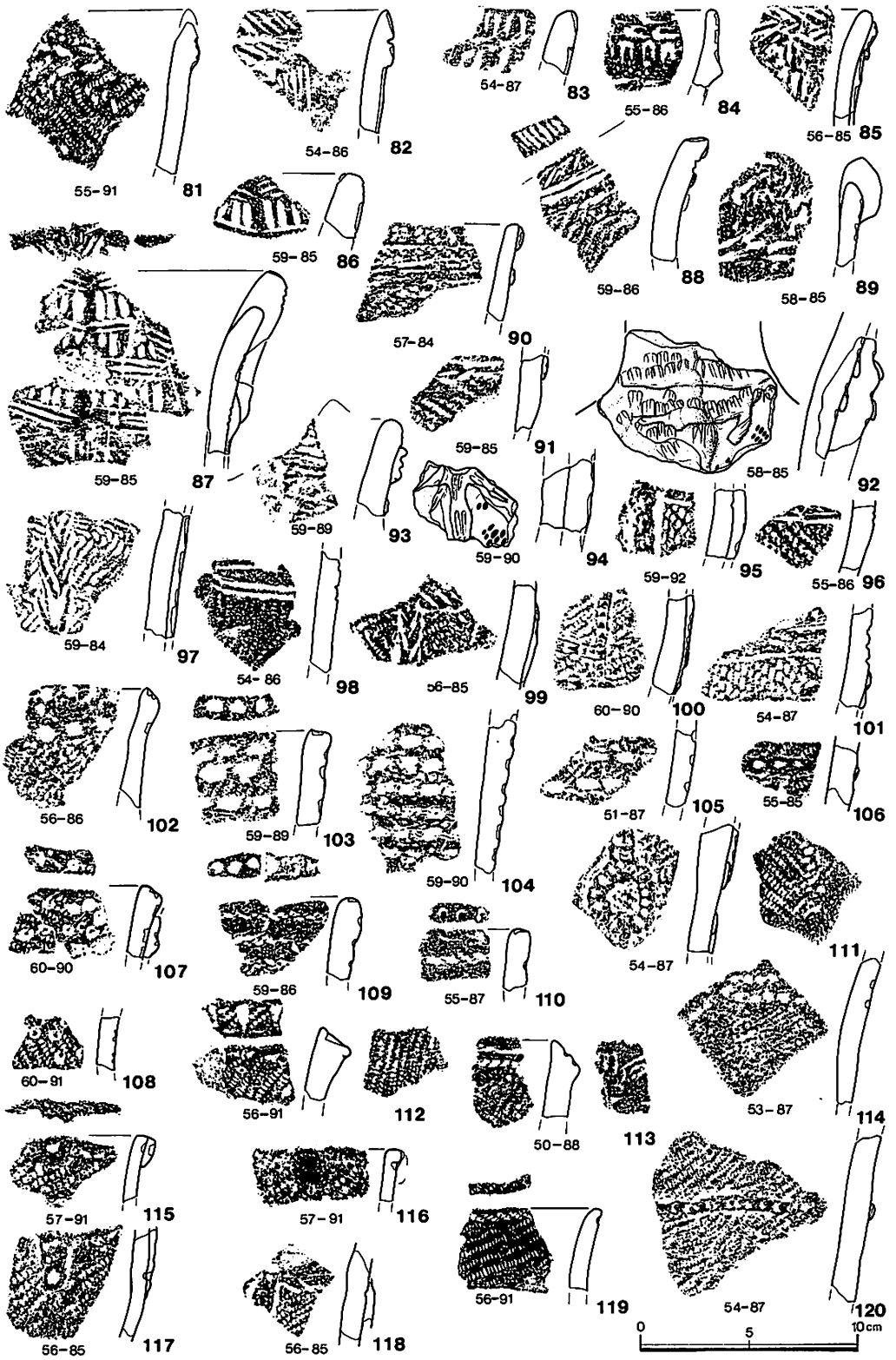
土器時器別分布図 (3)


57－85 1
59－91 3
59－91 5
59－91 6
59－91 7
58－85 2
59－90 4
59－91 10
60－91 8
60－91 9
60－91 11
60－91 12
60－91 13
59－90 21
60－91 22
59－89 23
60－93 14
60－91 15
60－91 16
60－91 17
60－91 20
60－79 18
60－79 19
59－91 24
59－89 25
60－91 26
60－92 27
60－91 28
64－77 29
51－87 30
64－78 31
51－87 32
59－92 33
59－91 34
58－85 35
60－90 36
37
56－85 40
59－85
61－67 38
58－84 39
54－87 41
0 5 10cm

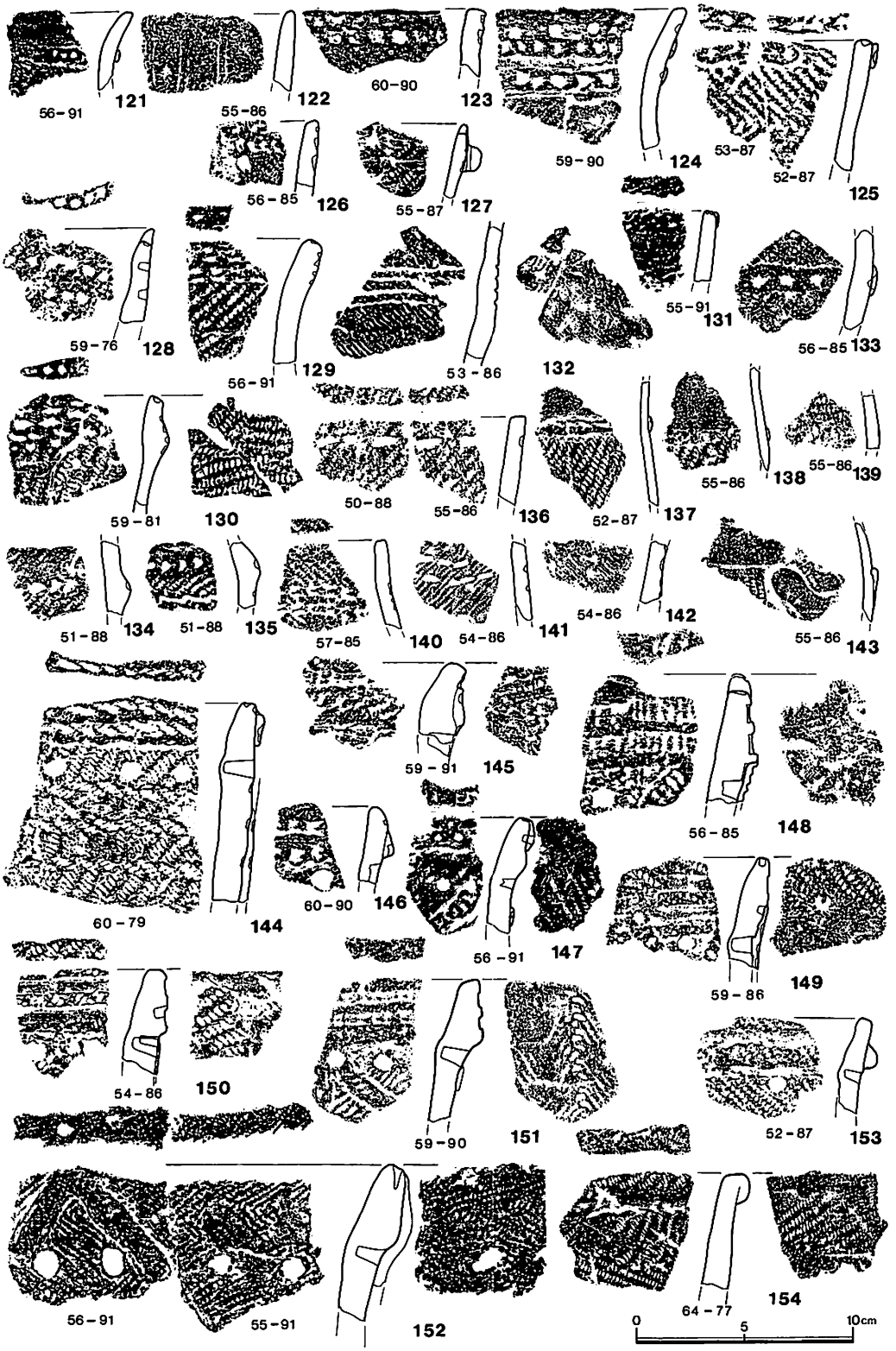
土 器 (1)


42
65 - 67
43
57 - 85
44
53 - 87
45
54 - 86
46
59 - 91
47
64 - 67
48
67 - 67
49
67 - 69
50
55 - 86
51
59 - 85
52
60 - 85
53
58 - 84
54
65 - 67
55
57 - 85
56
61 - 81
57
60 - 84
58
56 - 86
59
57 - 85
60
58 - 85
61
58 - 85
62
55 - 87
63
53 - 87
64
58 - 85
65
59 - 85
66
59-85
67
60 - 85
68
61 - 81
69
61 - 81
70
57 - 84
71
59 - 86
72
64 - 77
73
51 - 88
74
65 - 68
75
63 - 69
76
63 - 67
77
61 - 81
78
56 - 85
79
57 - 84
80
47 - 87
0
5
10cm

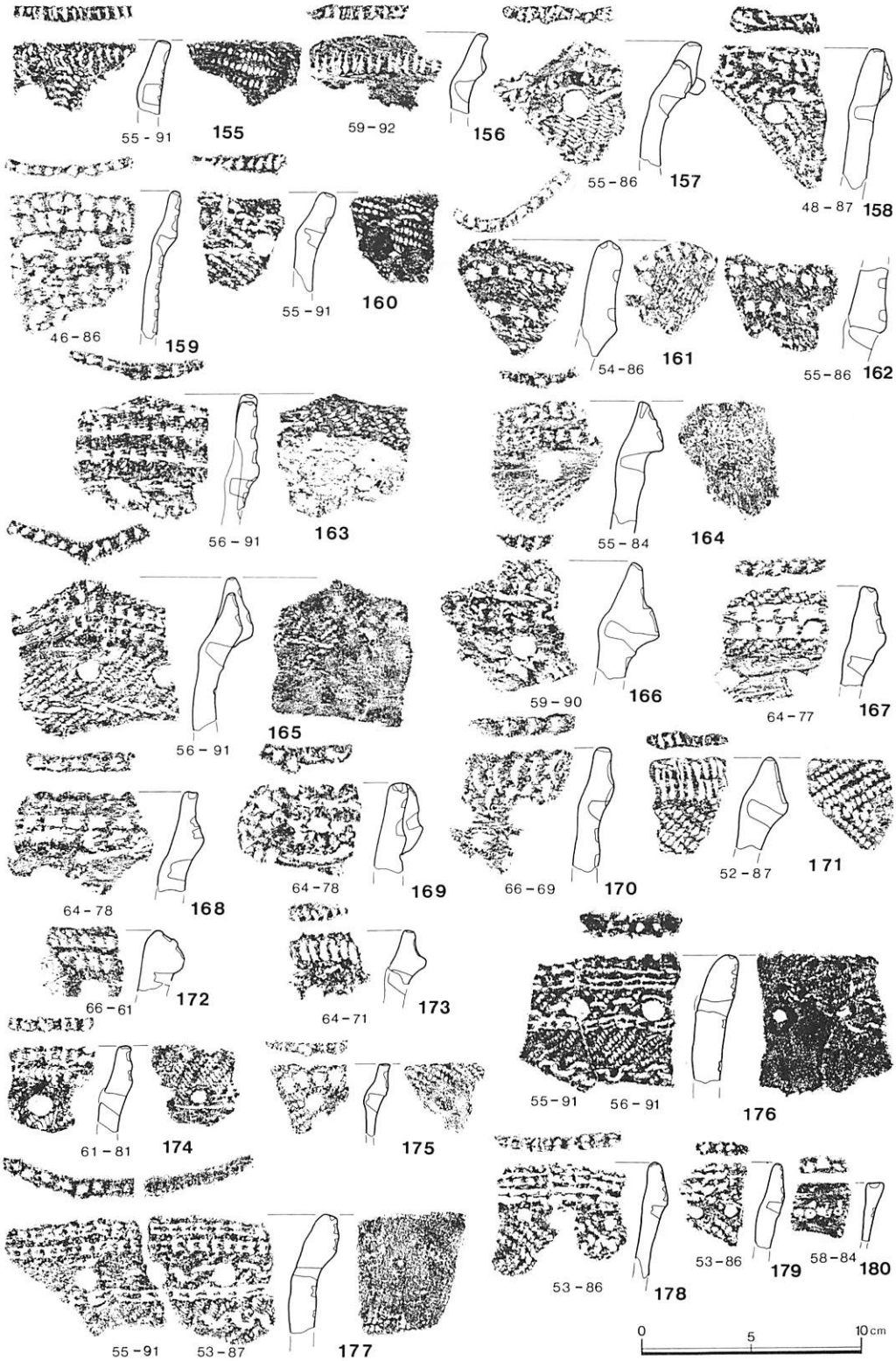
土 器 (2)


55-91
81
54-86
82
54-87
83
55-86
84
56-85
85
59-85
86
59-86
88
58-85
89
57-84
90
59-85
91
59-85
87
58-85
92
59-89
93
59-90
94
59-92
95
55-86
96
59-84
97
54-86
98
56-85
99
60-90
100
54-87
101
56-86
102
59-89
103
51-87
105
55-85
106
59-90
104
60-90
107
59-86
109
55-87
110
54-87
111
60-91
108
56-91
112
50-88
113
53-87
114
57-91
115
57-91
116
56-91
119
54-87
120
56-85
117
56-85
118
0
5
10cm

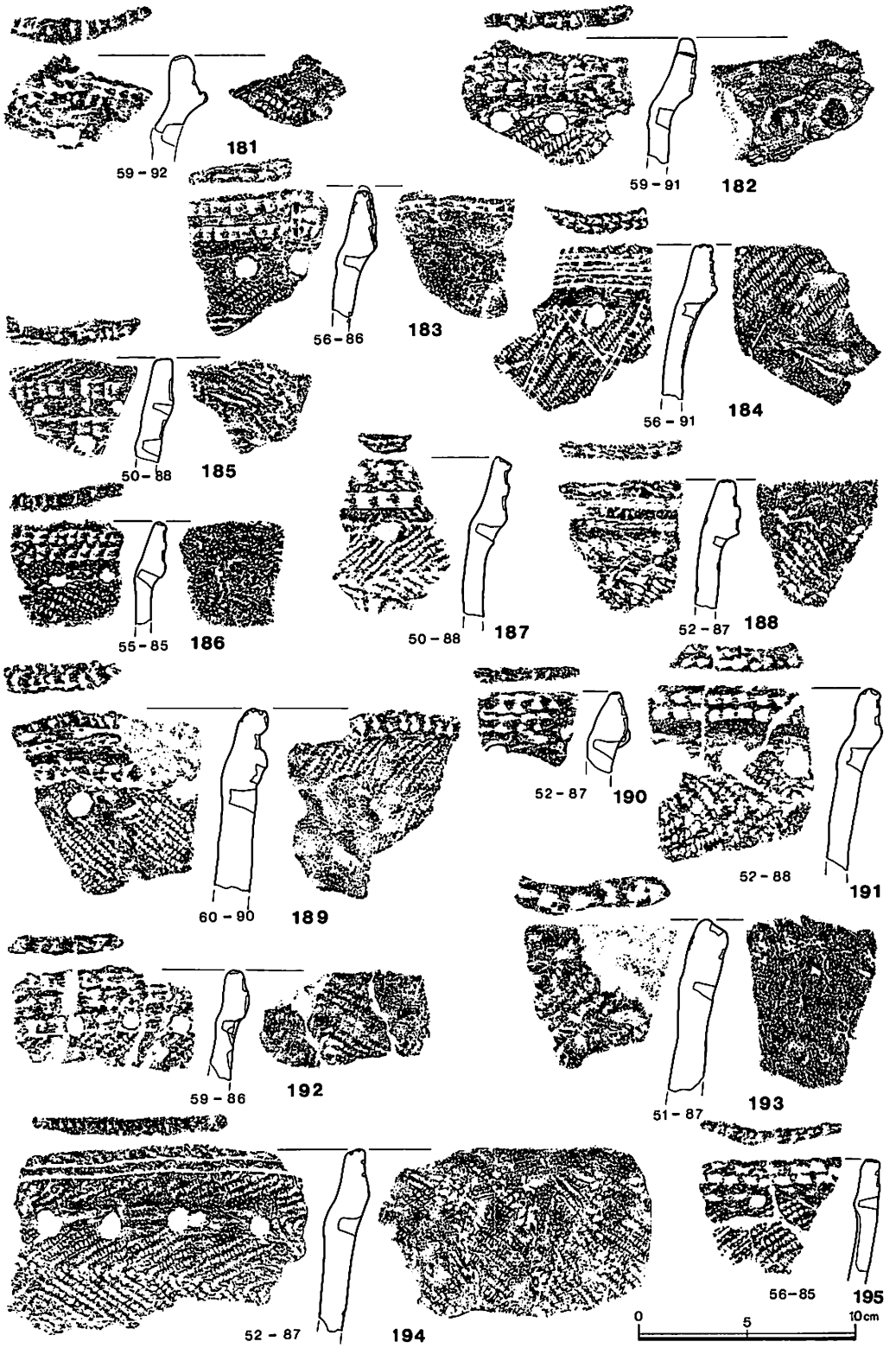
土 器 (3)


56-91
121
55-86
122
60-90
123
59-90
124
53-87
52-87
125
56-85
126
55-87
127
59-76
128
56-91
129
53-86
132
55-91
131
56-85
133
59-81
130
50-88
55-86
136
52-87
137
55-86
138
55-86
139
51-88
134
51-88
135
57-85
140
54-86
141
54-86
142
55-86
143
59-91
145
56-85
148
60-79
144
60-90
146
56-91
147
59-86
149
54-86
150
59-90
151
52-87
153
56-91
55-91
152
64-77
154
0
5
10cm

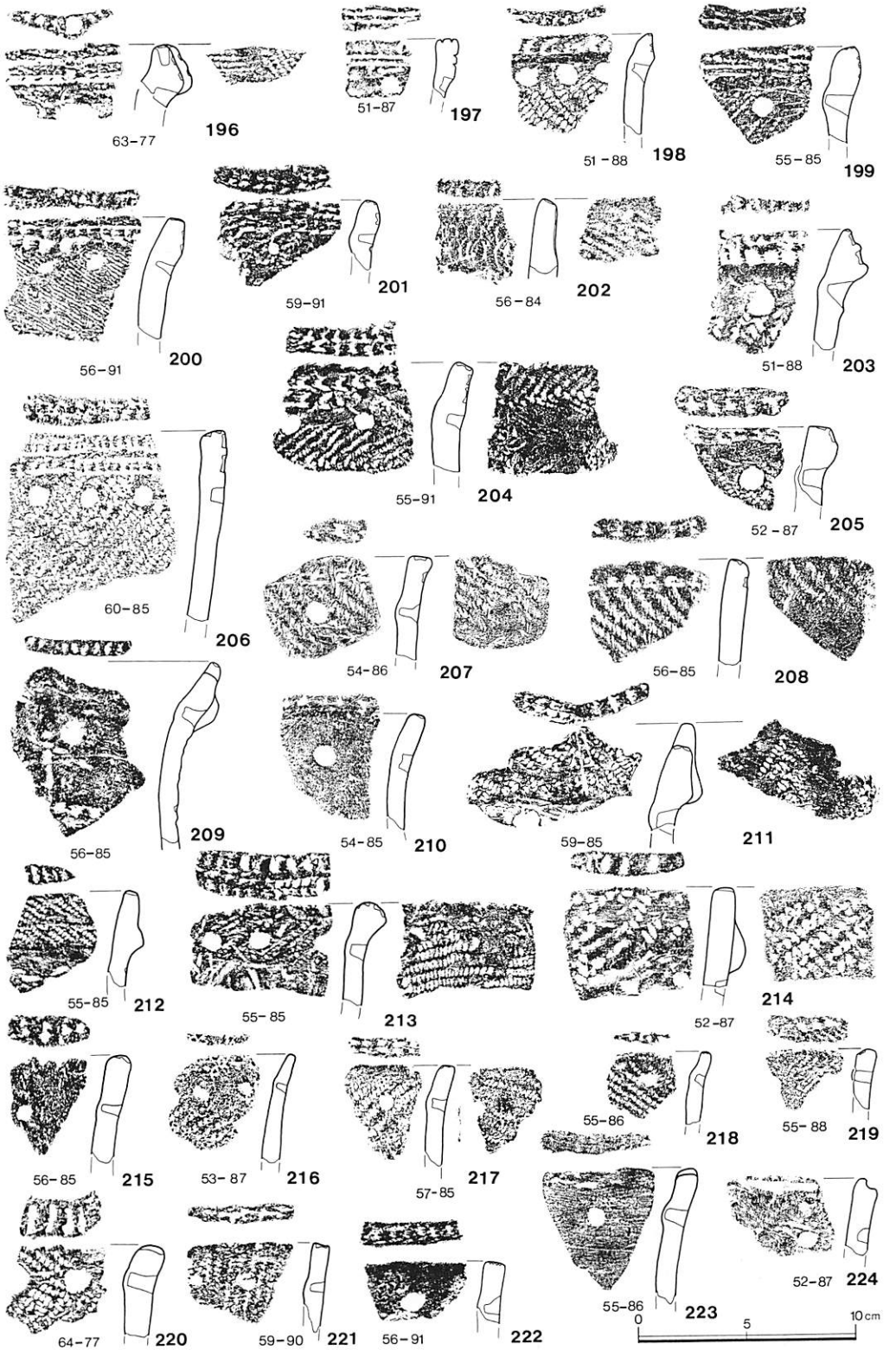
土 器 (4)


55 - 91
155
59 - 92
156
55 - 86
157
48 - 87
158
46 - 86
159
55 - 91
160
54 - 86
161
55 - 86
162
56 - 91
163
55 - 84
164
56 - 91
165
59 - 90
166
64 - 77
167
64 - 78
168
64 - 78
169
66 - 69
170
52 - 87
171
66 - 61
172
64 - 71
173
55 - 91
56 - 91
176
61 - 81
174
175
53 - 86
178
53 - 86
179
58 - 84
180
55 - 91
53 - 87
177
0
5
10cm

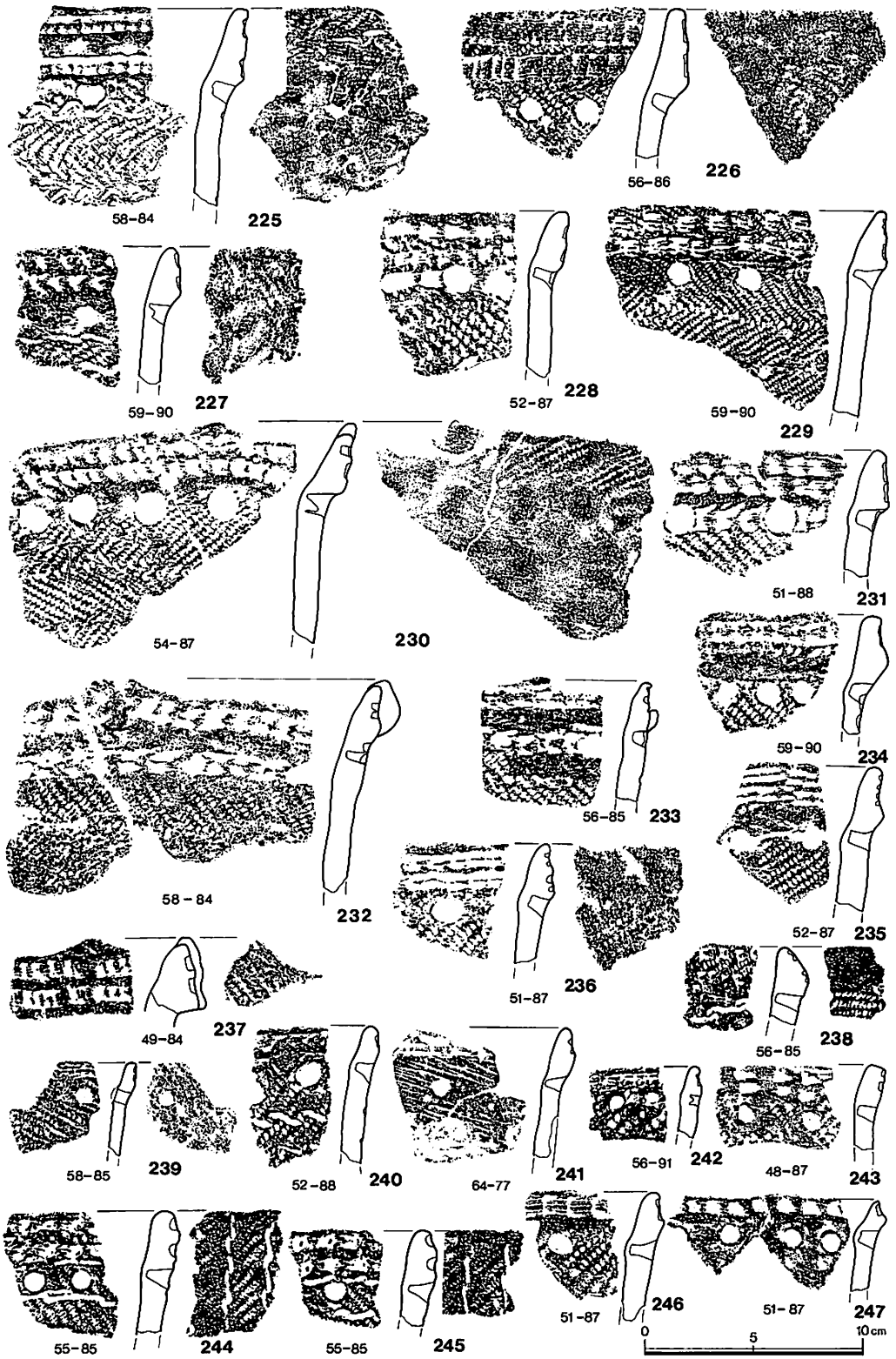
土 器 (5)


181
59 - 92
59 - 91
182
56 - 86
183
56 - 91
184
50 - 88
185
55 - 85
186
50 - 88
187
52 - 87
188
52 - 87
190
52 - 88
191
60 - 90
189
59 - 86
192
51 - 87
193
52 - 87
194
56 - 85
195
0
5
10cm

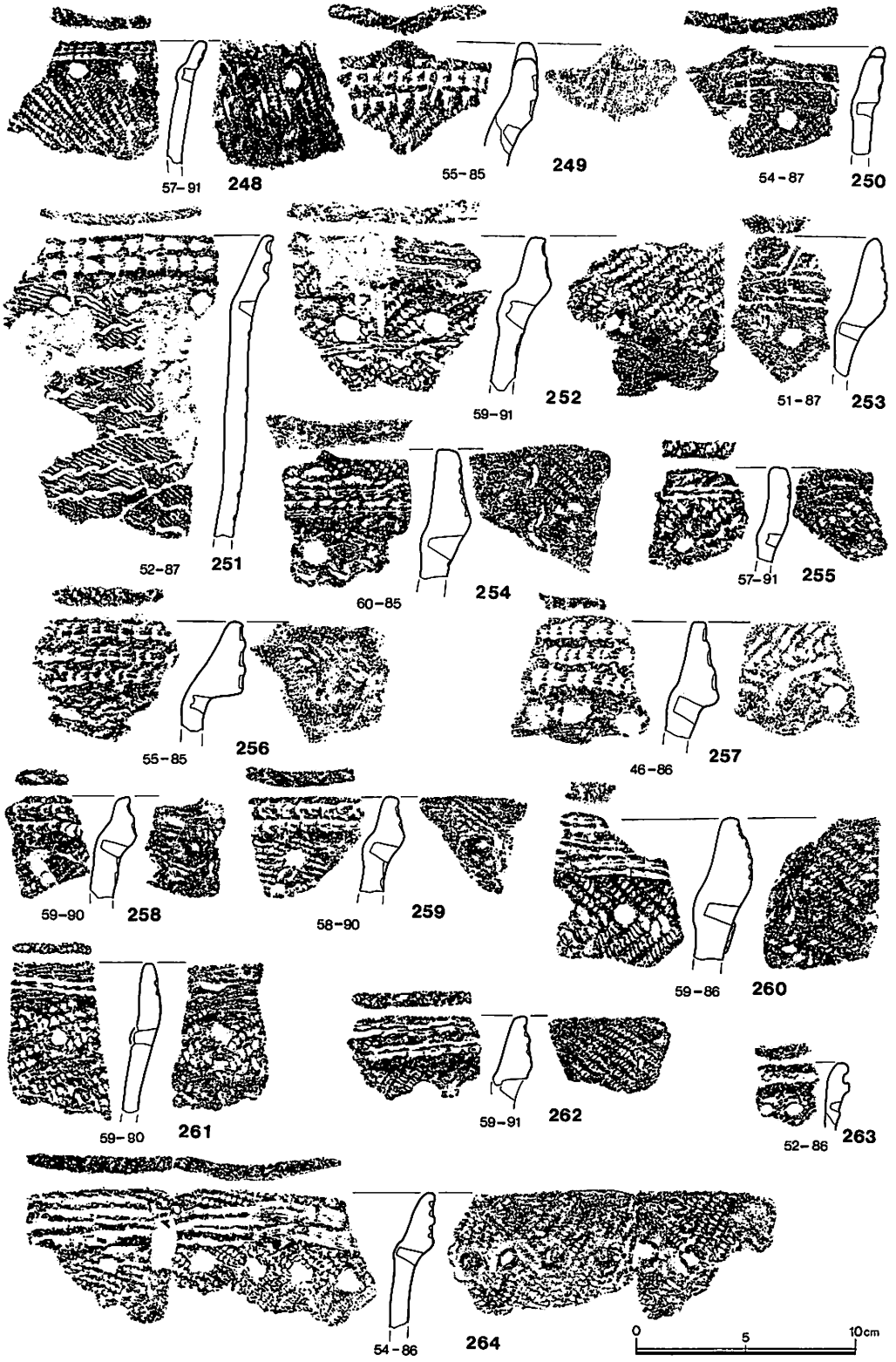
土 器 (6)


63-77
196
51-87
197
51-88
198
55-85
199
56-91
200
59-91
201
56-84
202
51-88
203
55-91
204
52-87
205
60-85
206
54-86
207
56-85
208
56-85
209
54-85
210
59-85
211
55-85
212
55-85
213
52-87
214
56-85
215
53-87
216
57-85
217
55-86
218
55-88
219
64-77
220
59-90
221
56-91
222
55-86
223
52-87
224
0
5
10cm

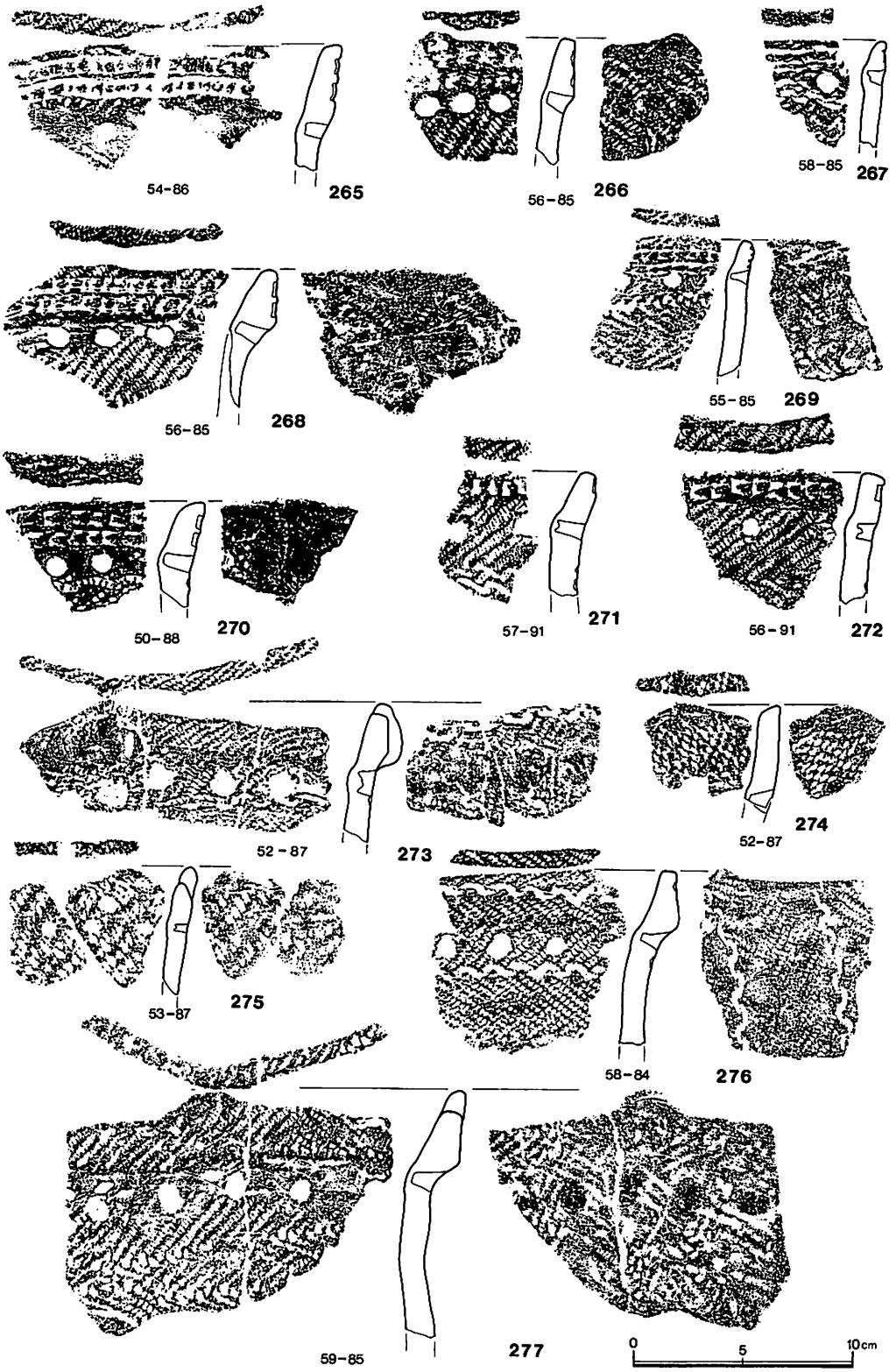
土　器（7）


58-84
225
56-86
226
59-90
227
52-87
228
59-90
229
54-87
230
51-88
231
59-90
234
56-85
233
58-84
232
52-87
235
51-87
236
49-84
237
56-85
238
58-85
239
52-88
240
64-77
241
56-91
242
48-87
243
55-85
244
55-85
245
51-87
246
51-87
247
0
5
10cm

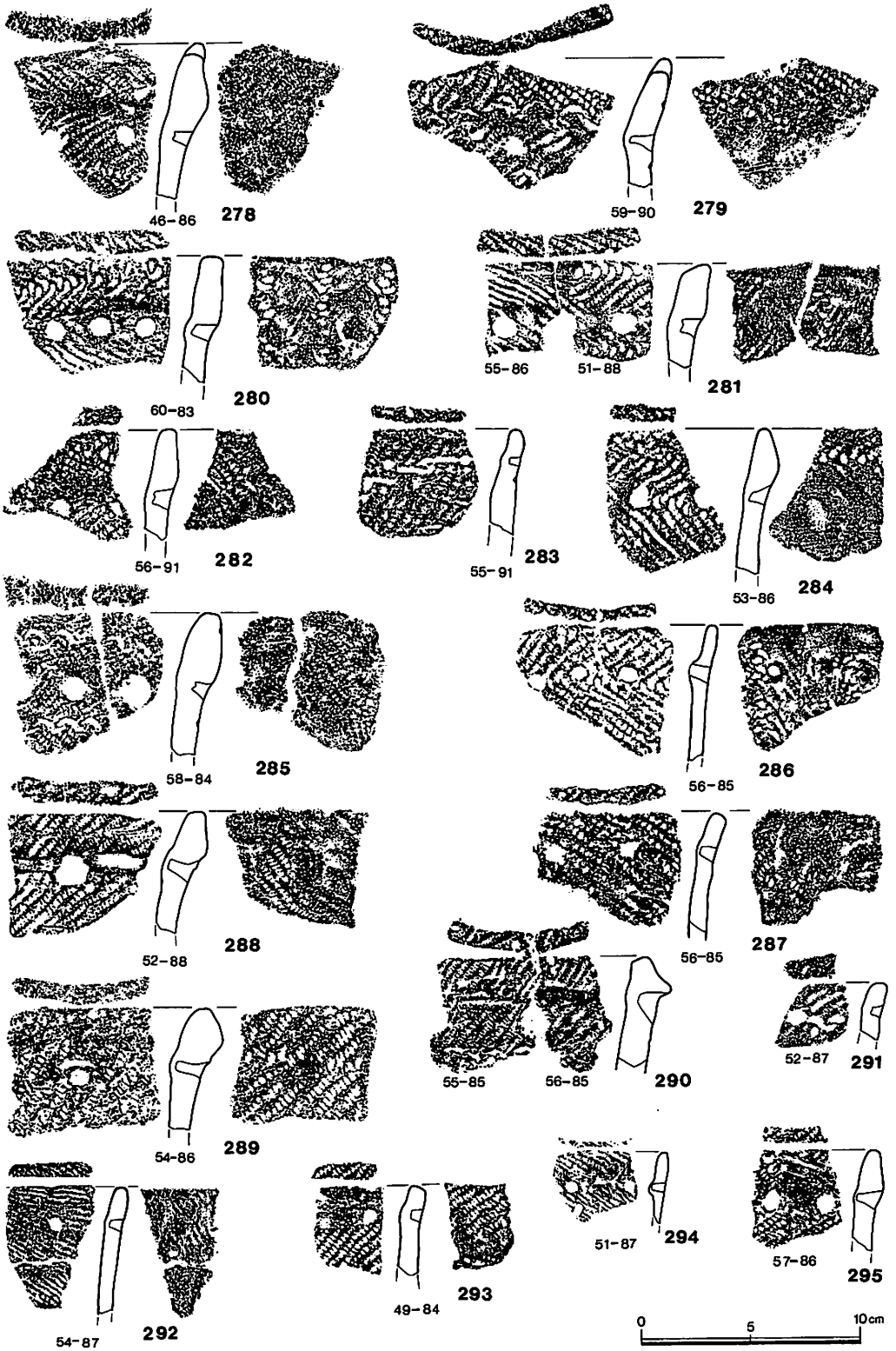
土 器 (8)


57-91
248
55-85
249
54-87
250
52-87
251
59-91
252
51-87
253
60-85
254
57-91
255
55-85
256
46-86
257
59-90
258
58-90
259
59-86
260
59-80
261
59-91
262
52-86
263
54-86
264
0
5
10cm

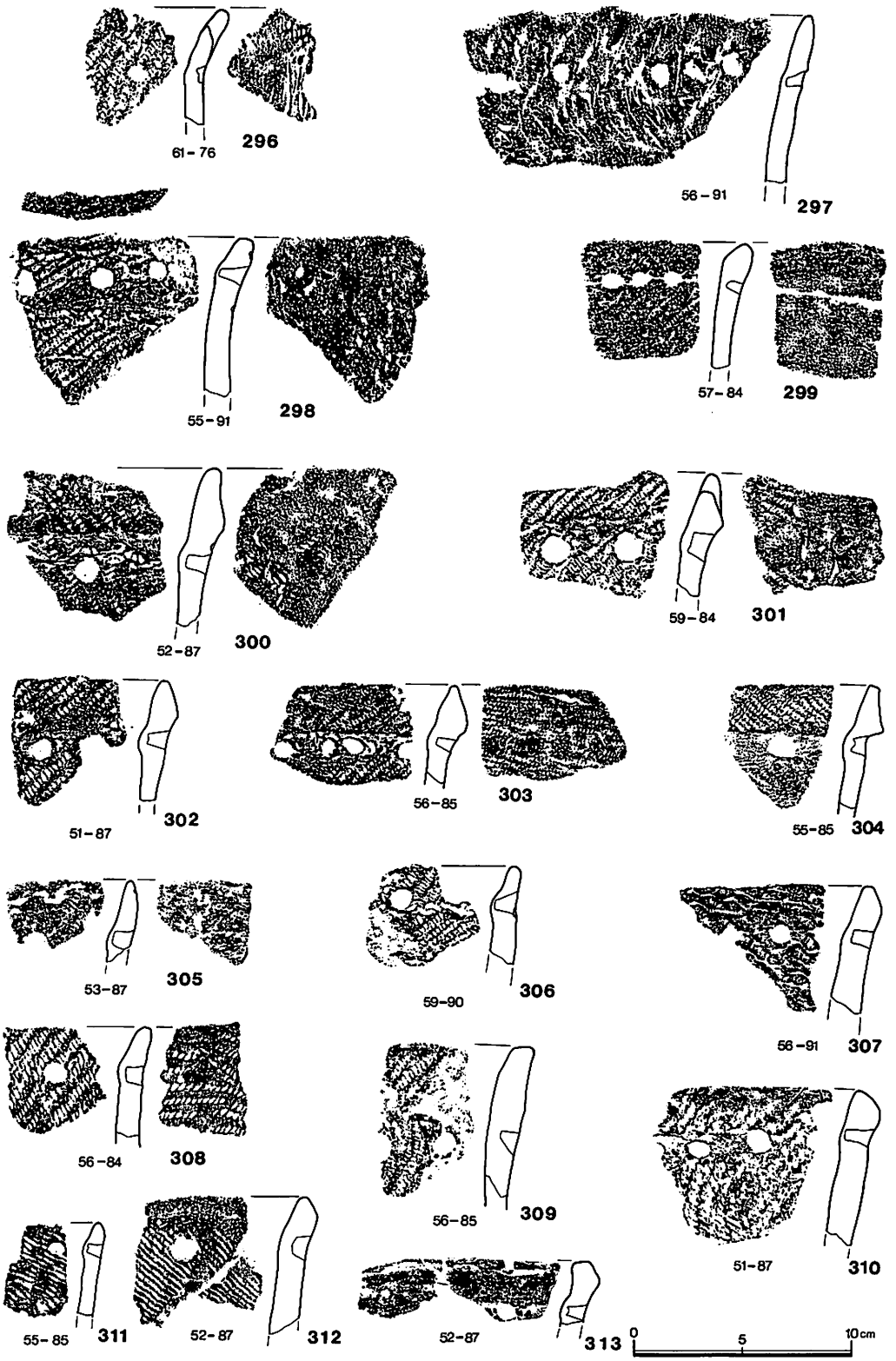
土 器 (9)


54-86
265
56-85
266
58-85
267
56-85
268
55-85
269
50-88
270
57-91
271
56-91
272
52-87
273
52-87
274
53-87
275
58-84
276
59-85
277
0
5
10cm

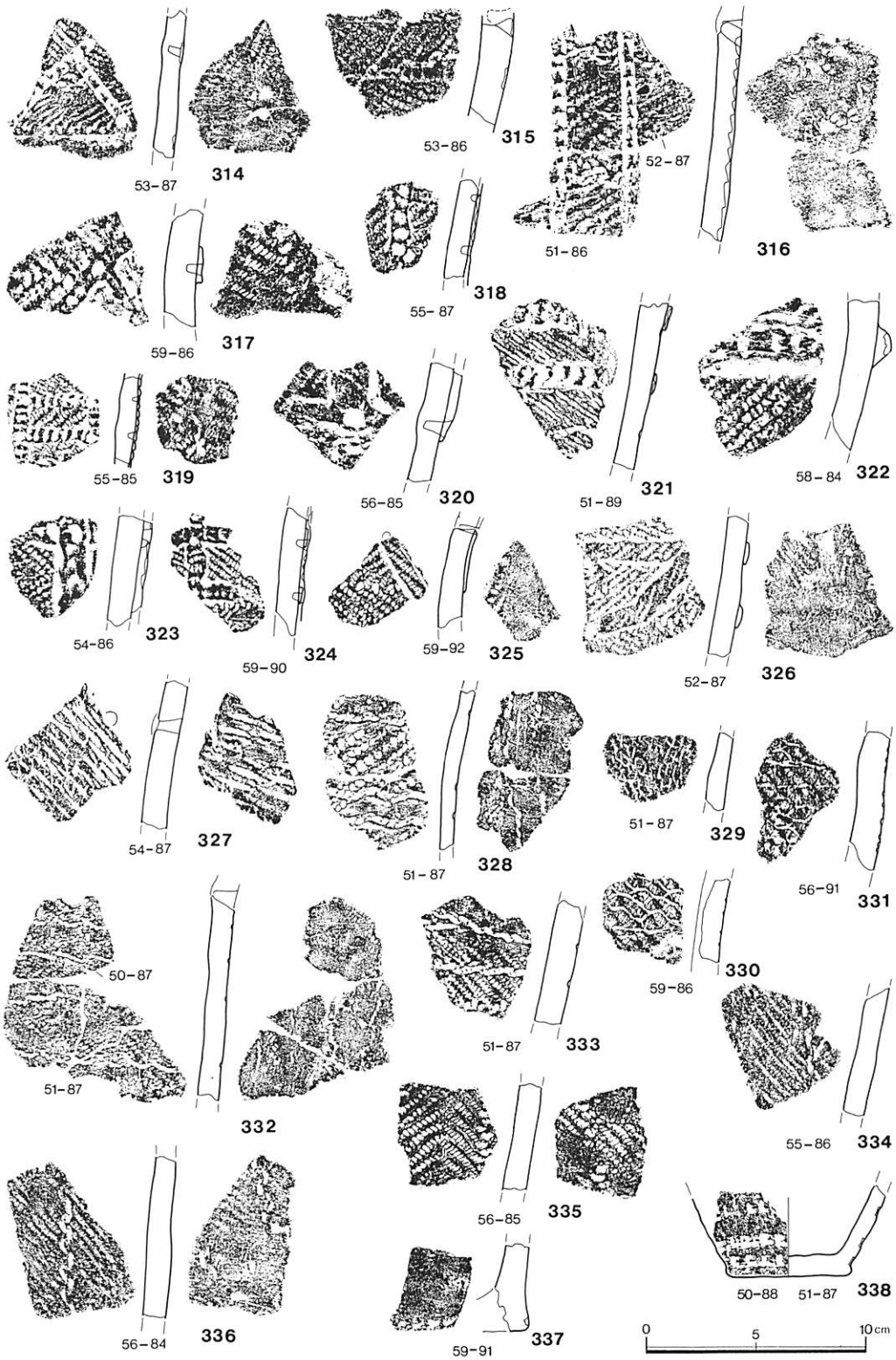
土 器 (10)


46-86
278
59-90
279
60-83
280
55-86
51-88
281
56-91
282
55-91
283
53-86
284
58-84
285
56-85
286
52-88
288
56-85
287
54-86
289
55-85
56-85
290
52-87
291
54-87
292
49-84
293
51-87
294
57-86
295
0
5
10cm

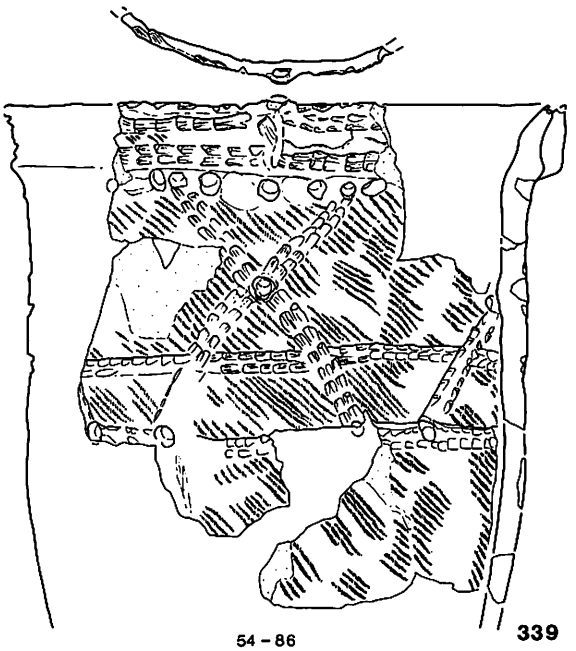
土 器 (11)


61-76
296
56-91
297
55-91
298
57-84
299
52-87
300
59-84
301
51-87
302
56-85
303
55-85
304
53-87
305
59-90
306
56-91
307
56-84
308
56-85
309
51-87
310
55-85
311
52-87
312
52-87
313
0
5
10cm

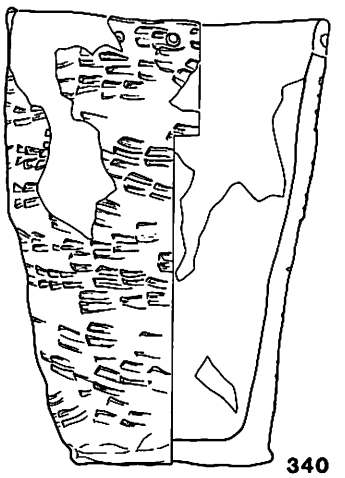
土 器 (12)


53-87
314
53-86
315
52-87
51-86
316
59-86
317
55-87
318
55-85
319
56-85
320
51-89
321
58-84
322
54-86
323
59-90
324
59-92
325
52-87
326
54-87
327
51-87
328
51-87
329
56-91
331
50-87
51-87
332
51-87
333
59-86
330
55-86
334
56-85
335
56-84
336
59-91
337
50-88
51-87
338
0
5
10cm

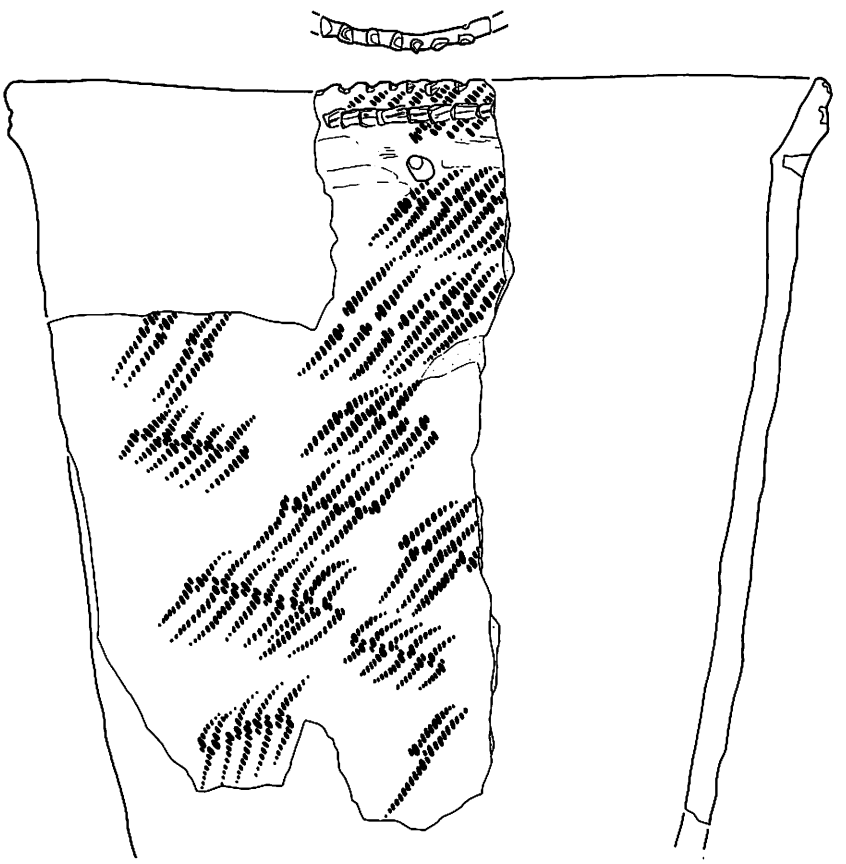
土 器 (13)



54－86　339



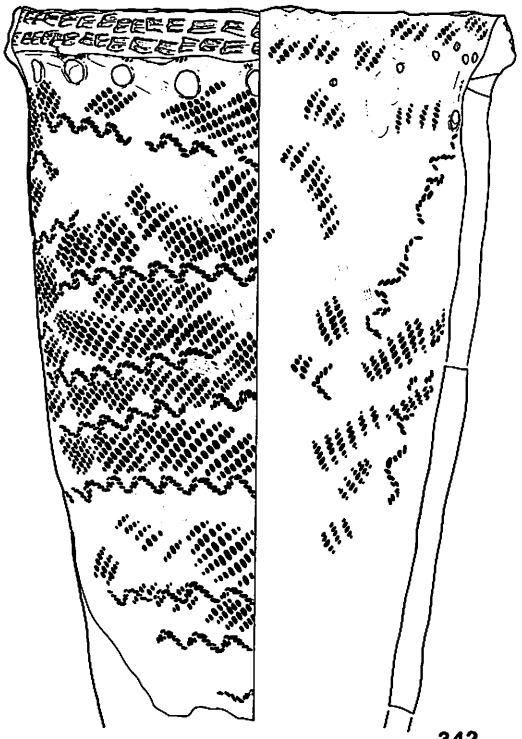
56－84　340



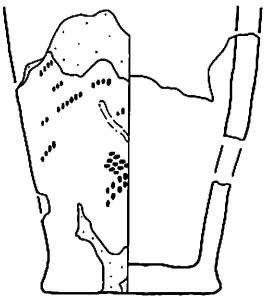
64－78　341

0　5　10cm

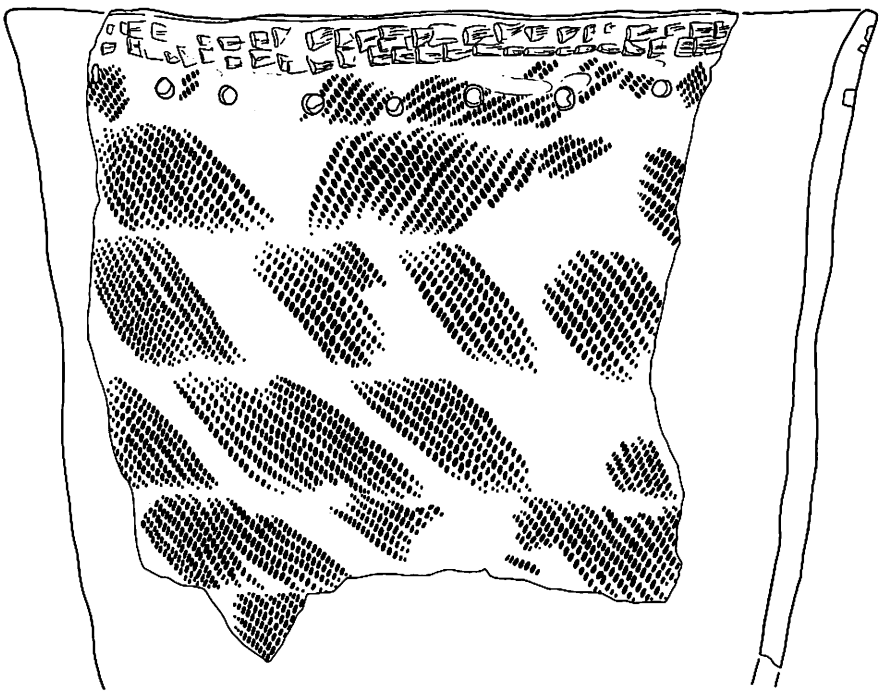
土　器 (14)



60－90　342



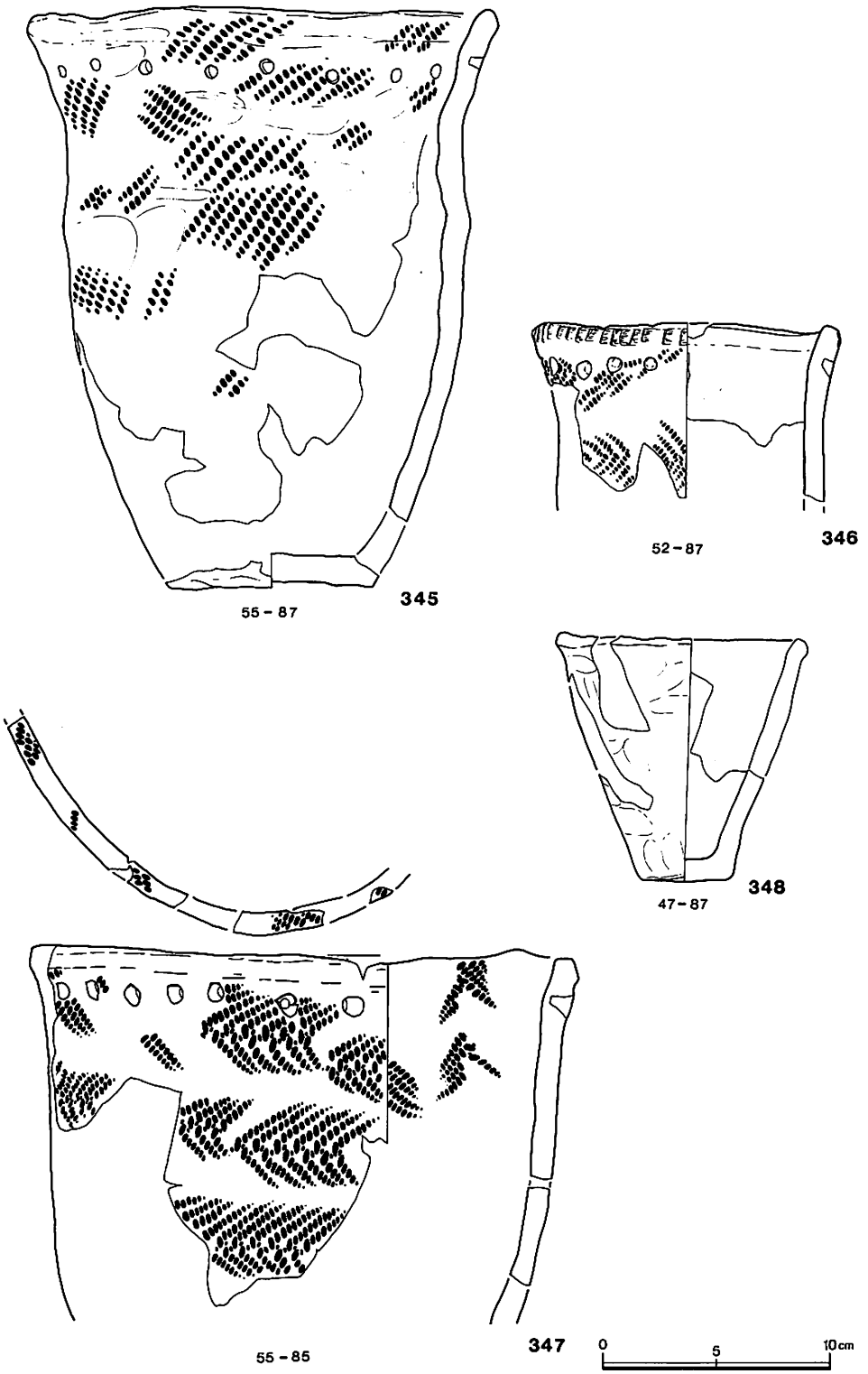
64－78　343



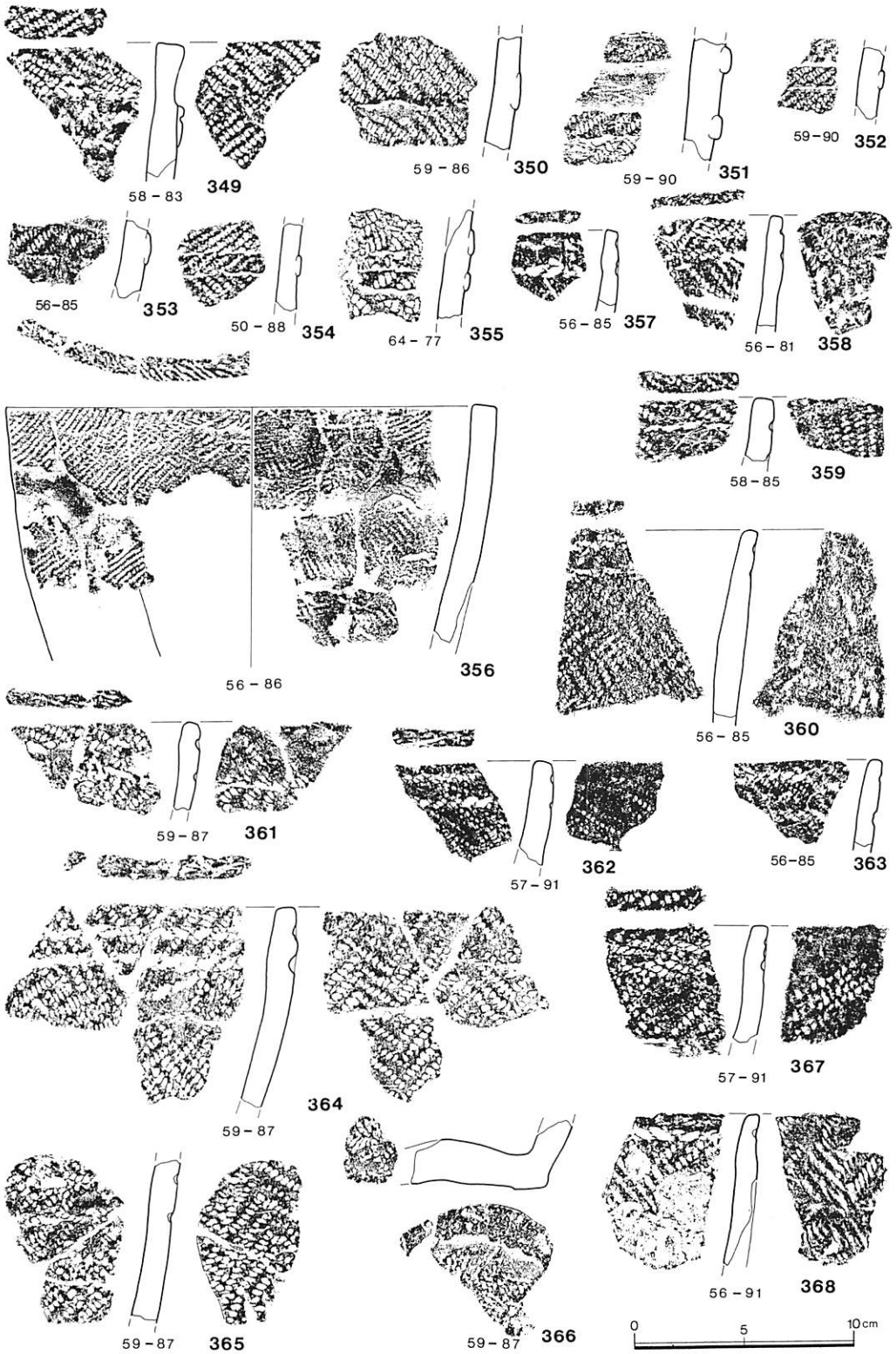
60－90　344

0　5　10cm

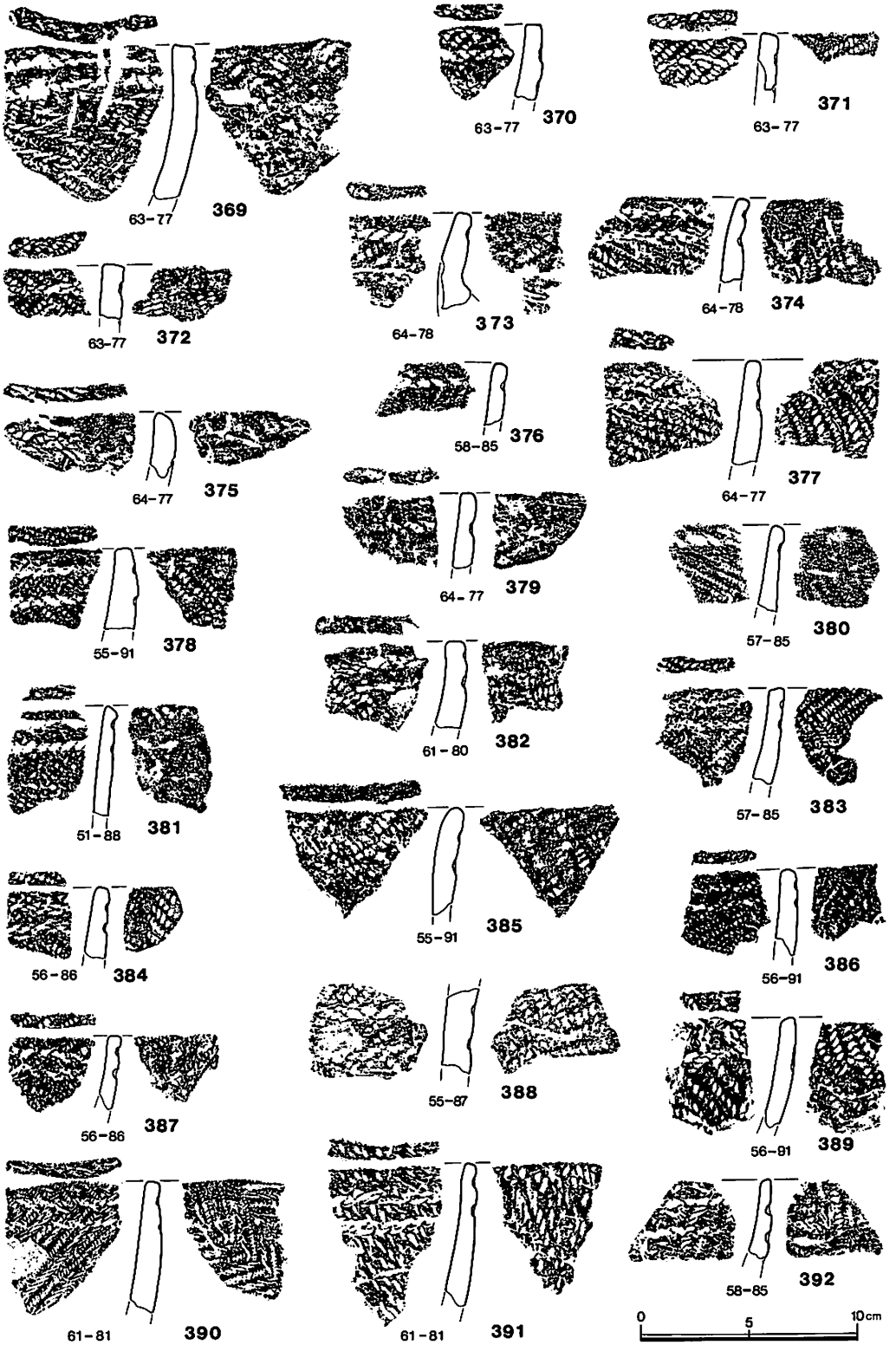
土　器 (15)



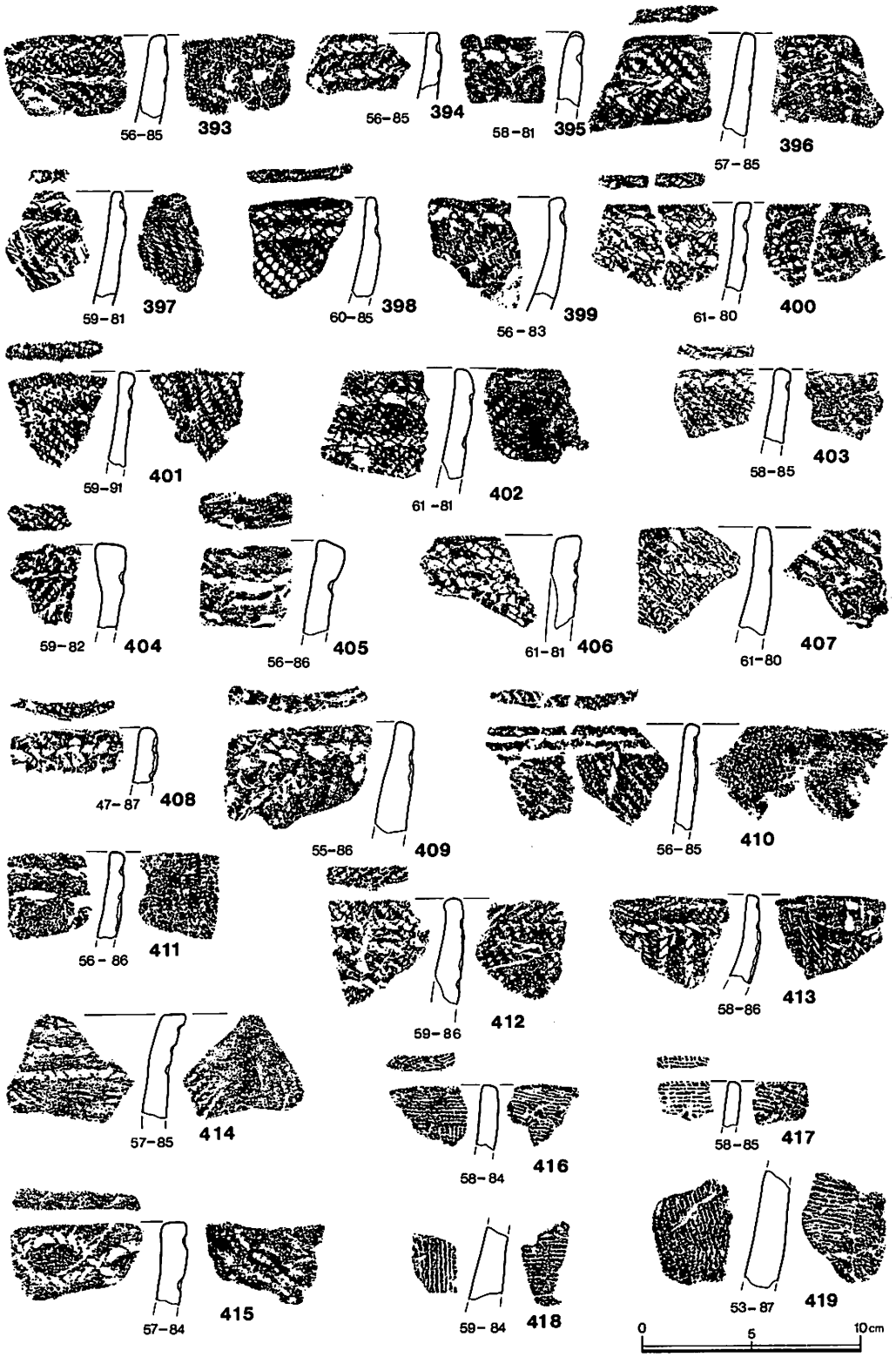
土 器 (16)


58－83
349
59－86
350
59－90
351
59－90
352
56－85
353
50－88
354
64－77
355
56－85
357
56－81
358
58－85
359
56－86
356
56－85
360
59－87
361
57－91
362
56－85
363
59－87
364
57－91
367
59－87
365
59－87
366
56－91
368
0
5
10cm

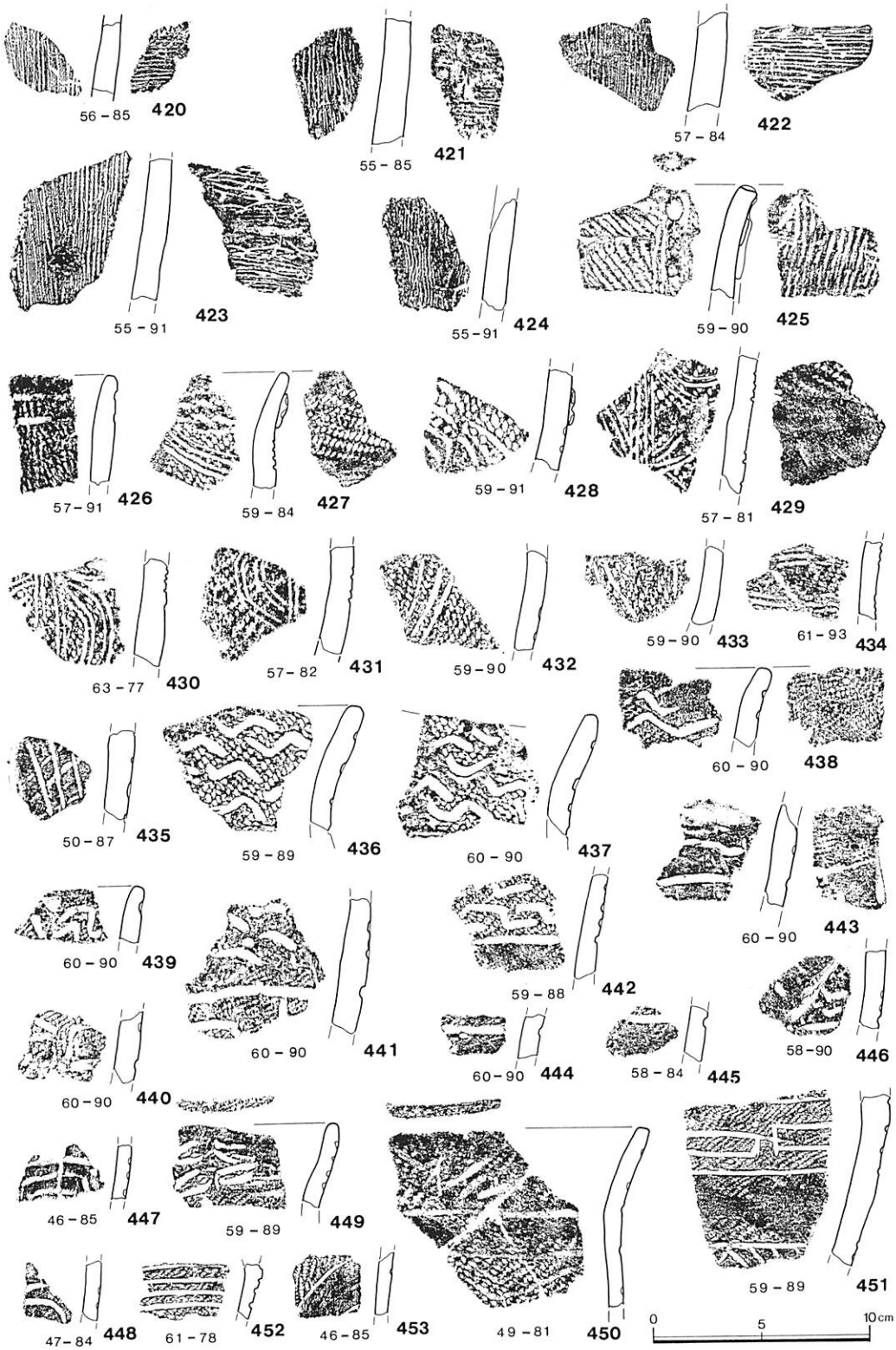
土　器 (17)


369
63-77
370
63-77
371
63-77
372
63-77
373
64-78
374
64-78
375
64-77
376
58-85
377
64-77
378
55-91
379
64-77
380
57-85
381
51-88
382
61-80
383
57-85
384
56-86
385
55-91
386
56-91
387
56-86
388
55-87
389
56-91
390
61-81
391
61-81
392
58-85
0
5
10cm

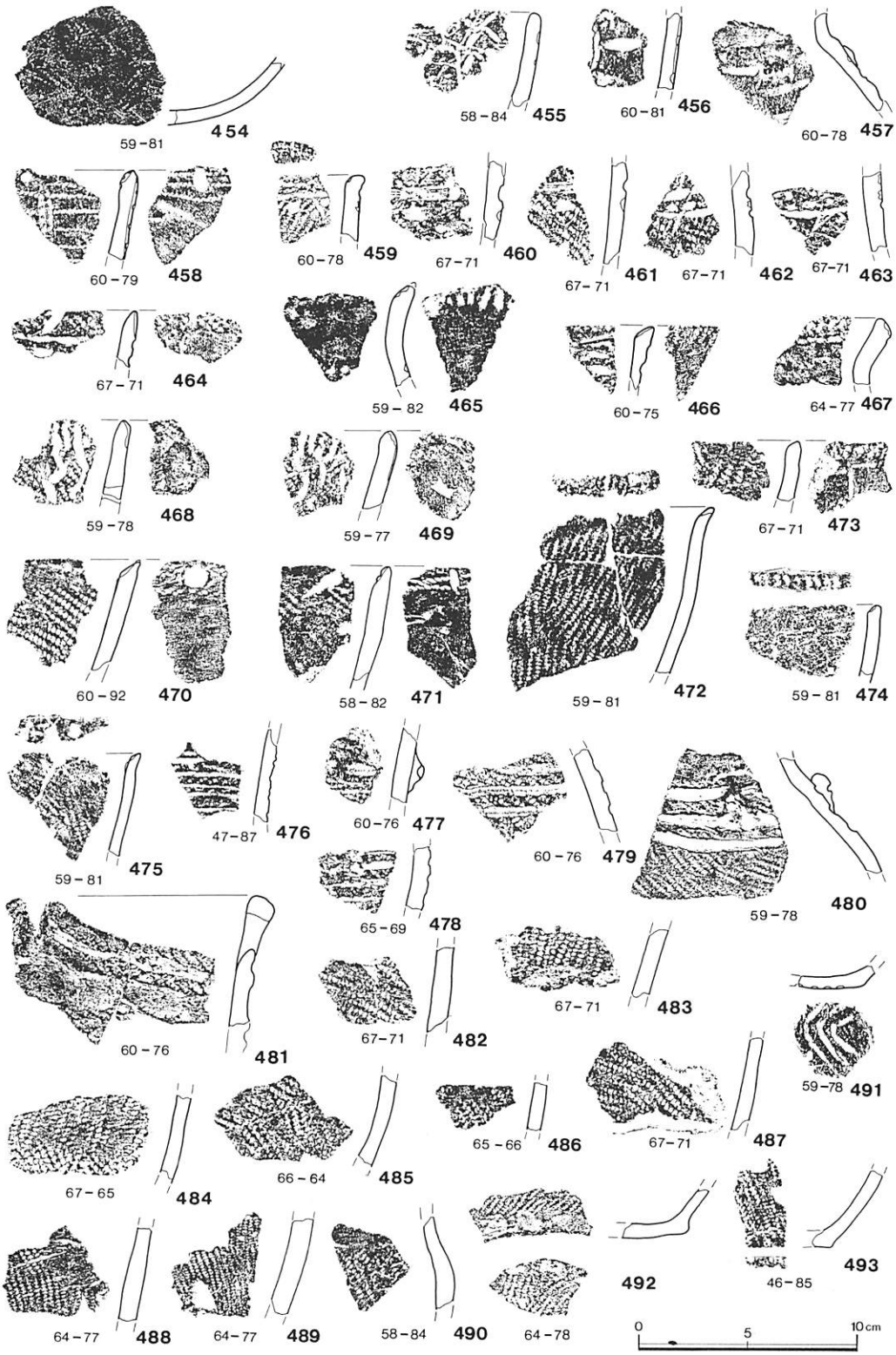
土 器 (18)


56-85
393
56-85
394
58-81
395
57-85
396
59-81
397
60-85
398
56-83
399
61-80
400
59-91
401
61-81
402
58-85
403
59-82
404
56-86
405
61-81
406
61-80
407
47-87
408
55-86
409
56-85
410
56-86
411
59-86
412
58-86
413
57-85
414
58-84
416
58-85
417
57-84
415
59-84
418
53-87
419
0
5
10cm

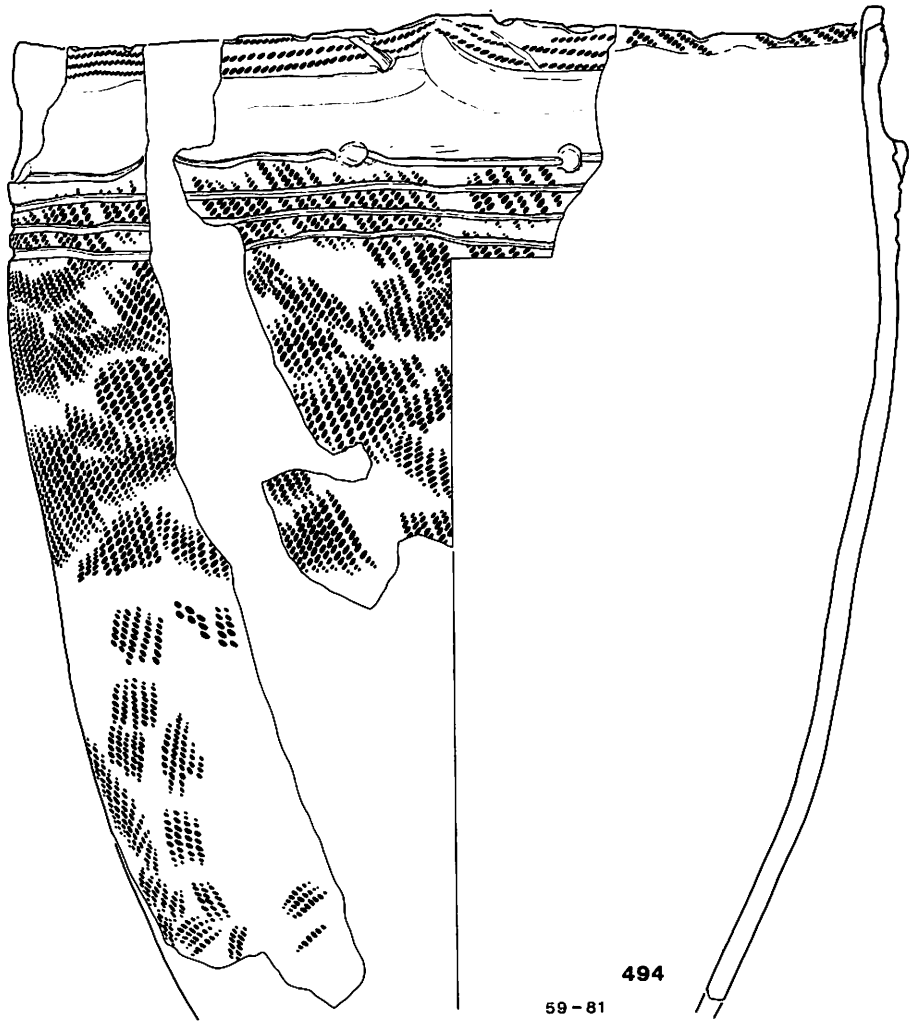
土 器 (19)


56－85 420
55－85 421
57－84 422
55－91 423
55－91 424
59－90 425
57－91 426
59－84 427
59－91 428
57－81 429
63－77 430
57－82 431
59－90 432
59－90 433
61－93 434
50－87 435
59－89 436
60－90 437
60－90 438
60－90 439
60－90 441
59－88 442
60－90 443
60－90 440
60－90 444
58－84 445
58－90 446
46－85 447
59－89 449
59－89 451
47－84 448
61－78 452
46－85 453
49－81 450
0
5
10cm

土　器 (20)

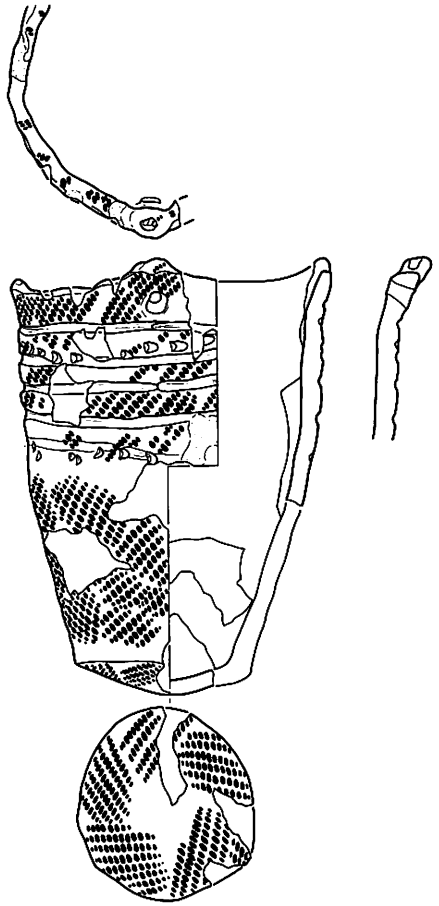

454
59-81
455
58-84
456
60-81
457
60-78
458
60-79
459
60-78
460
67-71
461
67-71
462
67-71
463
67-71
464
67-71
465
59-82
466
60-75
467
64-77
468
59-78
469
59-77
470
60-92
471
58-82
472
59-81
473
67-71
474
59-81
475
59-81
476
47-87
477
60-76
478
65-69
479
60-76
480
59-78
481
60-76
482
67-71
483
67-71
484
67-65
485
66-64
486
65-66
487
67-71
488
64-77
489
64-77
490
58-84
491
59-78
492
64-78
493
46-85
0
5
10cm

土 器 (21)



494

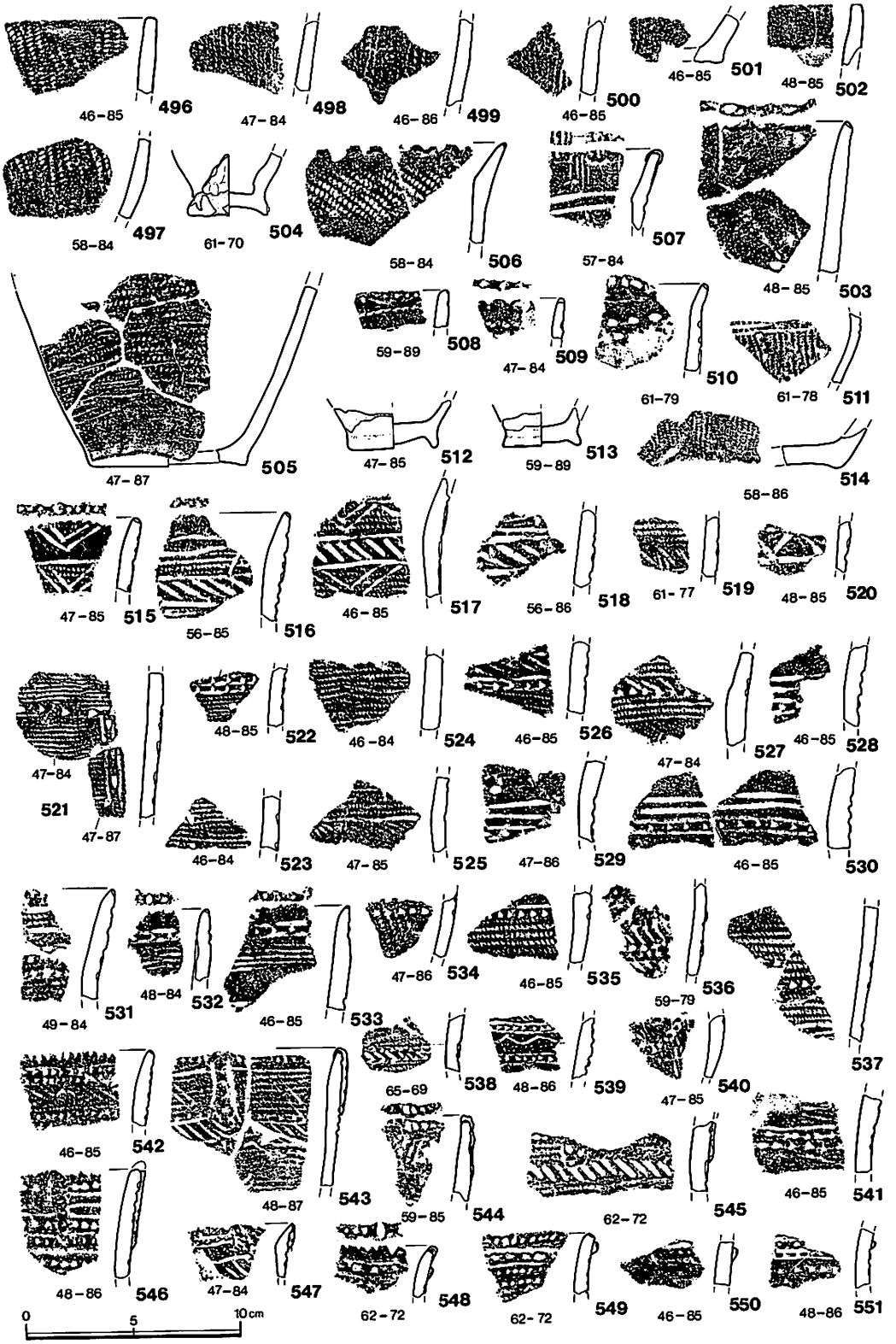
59－81



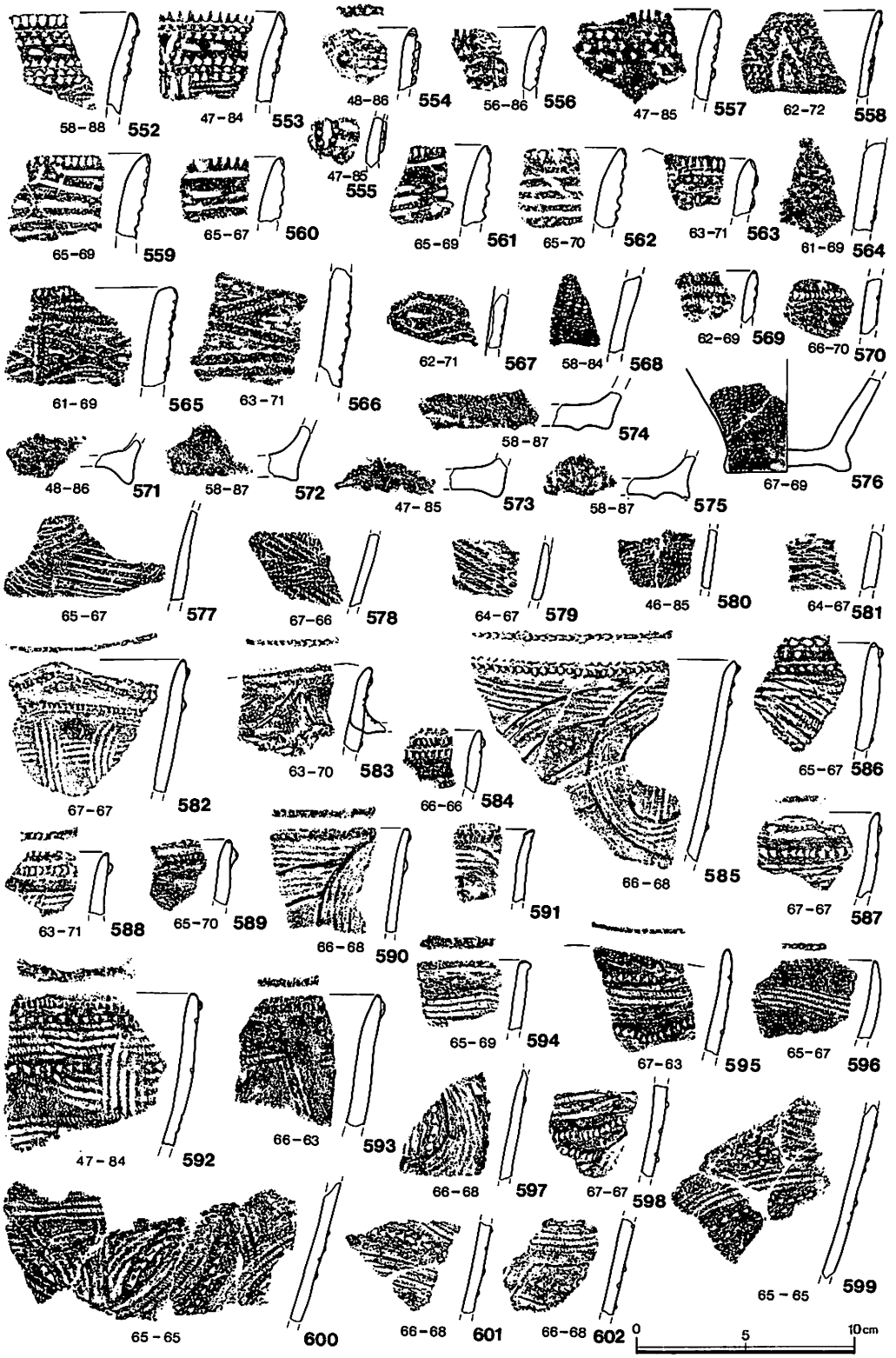
63－78　495

0　5　10cm

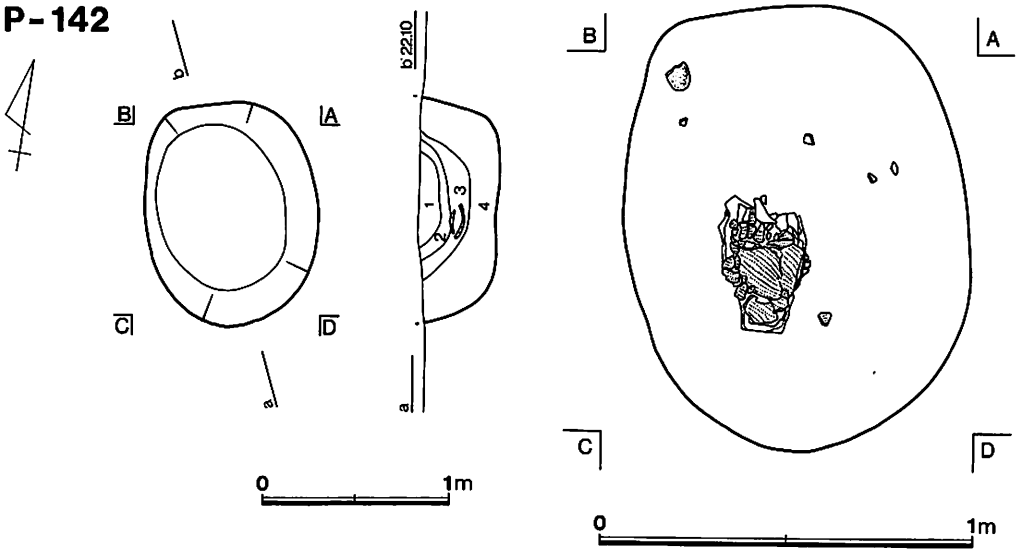
土器 (22)


46-85 496
47-84 498
46-86 499
46-85 500
46-85 501
48-85 502
58-84 497
61-70 504
58-84 506
57-84 507
48-85 503
59-89 508
47-84 509
61-79 510
61-78 511
47-87 505
47-85 512
59-89 513
58-86 514
47-85 515
56-85 516
46-85 517
56-86 518
61-77 519
48-85 520
47-84 521
47-87
48-85 522
46-84 523
46-84 524
47-85 525
46-85 526
47-86 529
47-84 527
46-85 528
46-85 530
49-84 531
48-84 532
46-85 533
47-86 534
46-85 535
59-79 536
537
65-69 538
48-86 539
47-85 540
46-85 542
48-87 543
59-85 544
62-72 545
46-85 541
48-86 546
47-84 547
62-72 548
62-72 549
46-85 550
48-86 551
0 5 10cm

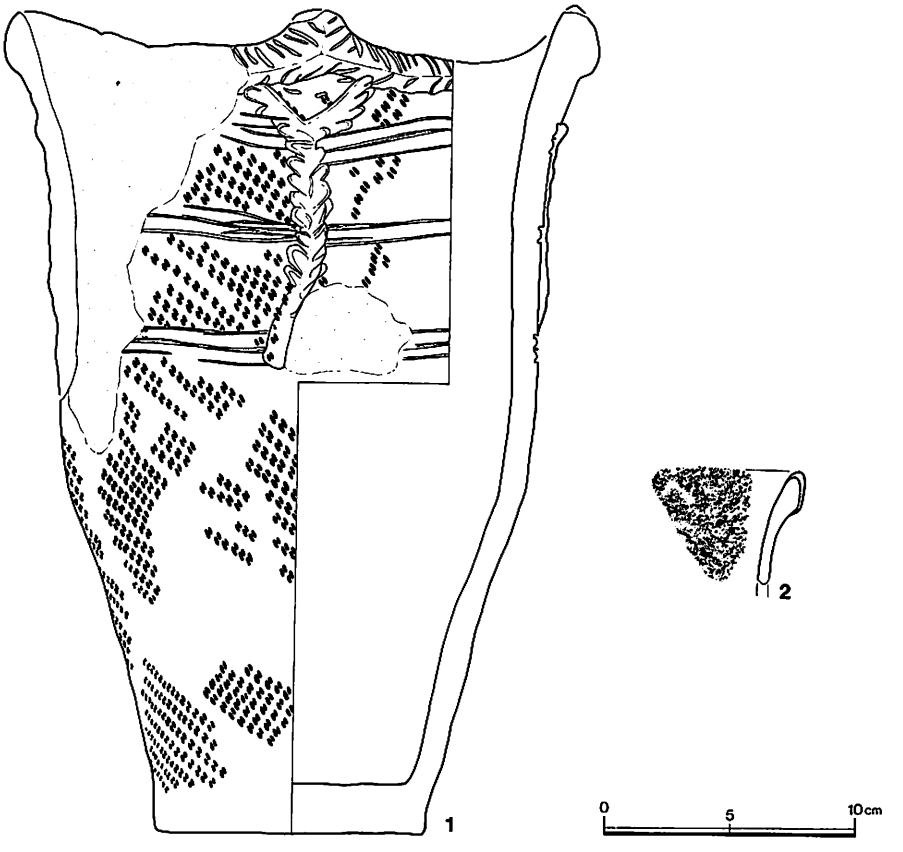
土 器 (23)


58-88 552
47-84 553
48-86 554
56-86 556
47-85 557
62-72 558
47-85 555
65-69 559
65-67 560
65-69 561
65-70 562
63-71 563
61-69 564
61-69 565
63-71 566
62-71 567
58-84 568
62-69 569
66-70 570
58-87 574
48-86 571
58-87 572
47-85 573
58-87 575
67-69 576
65-67 577
67-66 578
64-67 579
46-85 580
64-67 581
67-67 582
63-70 583
66-66 584
66-68 585
65-67 586
67-67 587
63-71 588
65-70 589
66-68 590
591
65-69 594
67-63 595
65-67 596
47-84 592
66-63 593
66-68 597
67-67 598
65-65 599
65-65 600
66-68 601
66-68 602
0 5 10cm

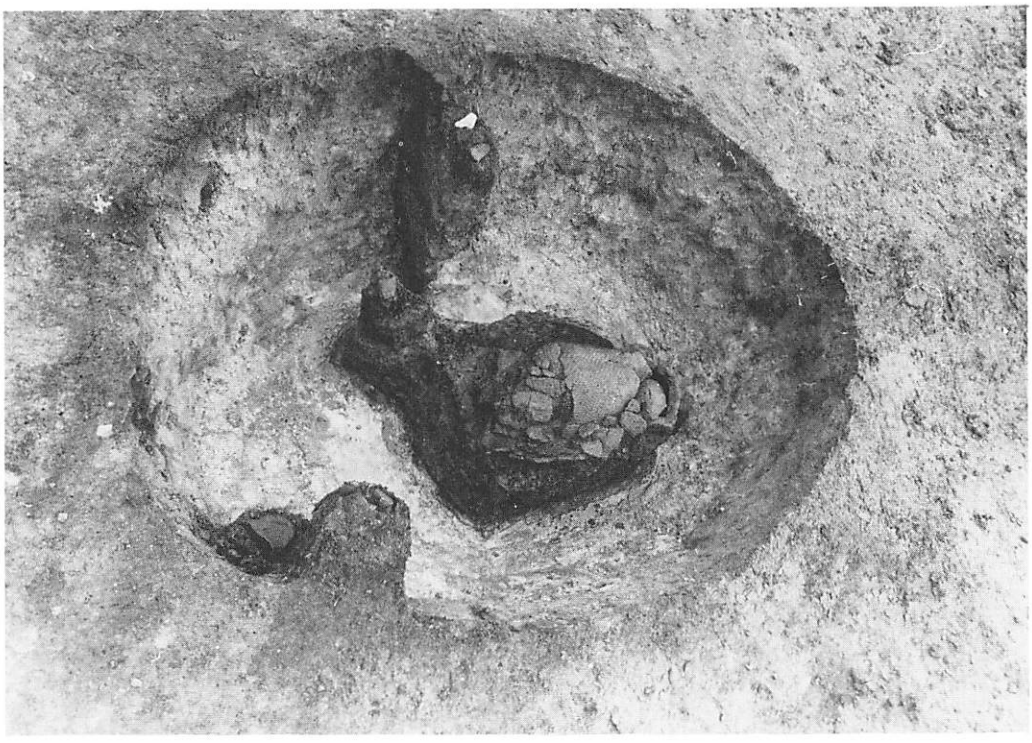
P-142

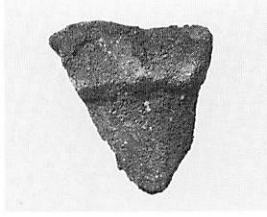


1．黒色土（ローム粒を含む）
2．黒色土（1層より塊に黒色を呈する炭化物を含む）
3．黄褐色土（ロームブロックと黒色土の混合土）
4．黄灰色土（白色の粘土とロームの混合土）



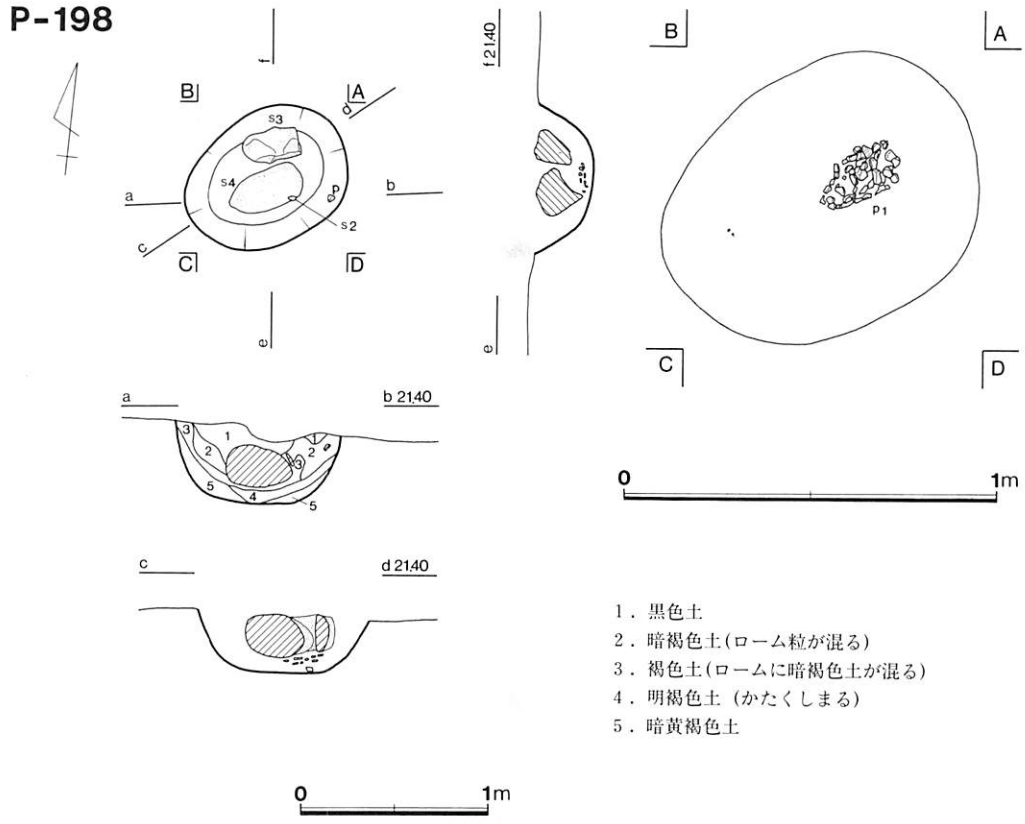
P—142

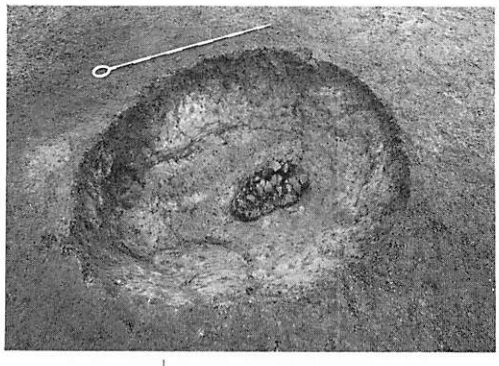


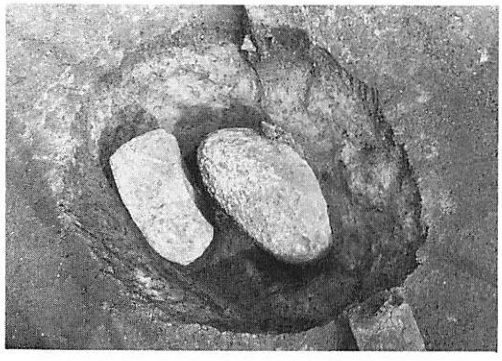


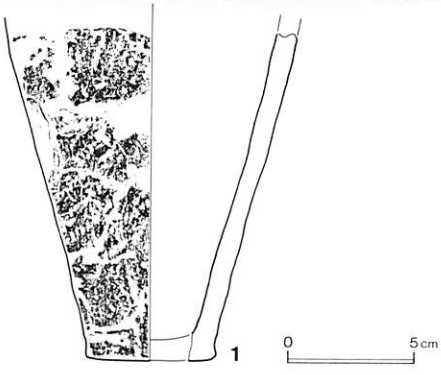
P—142

P-198

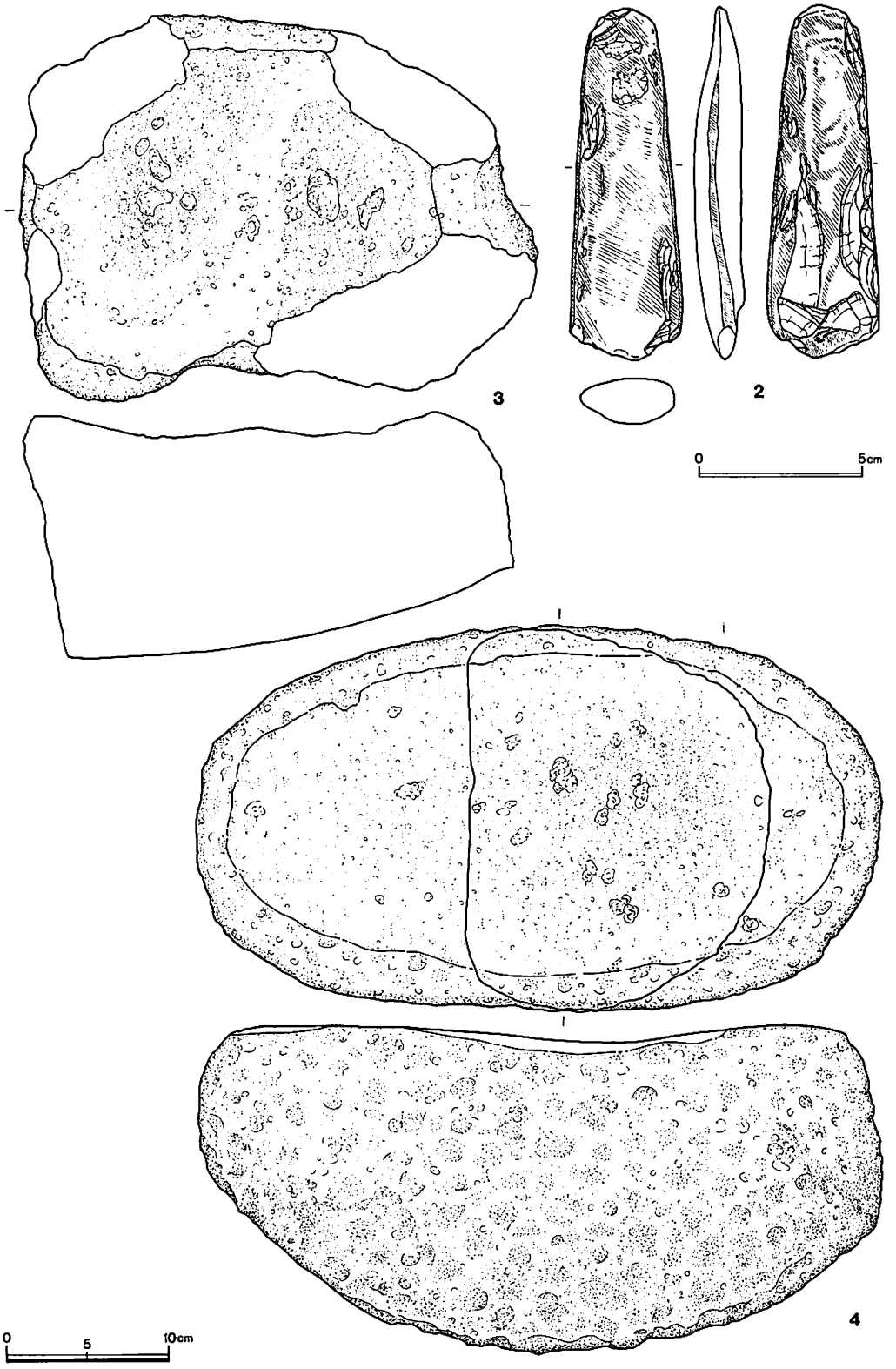

B
A
C
D
s3
s4
s2
a
b
c
e
f
f 21.40
p1
0
1m
b 21.40
d 21.40
1．黒色土
2．暗褐色土(ローム粒が混る)
3．褐色土(ロームに暗褐色土が混る)
4．明褐色土（かたくしまる）
5．暗黄褐色土



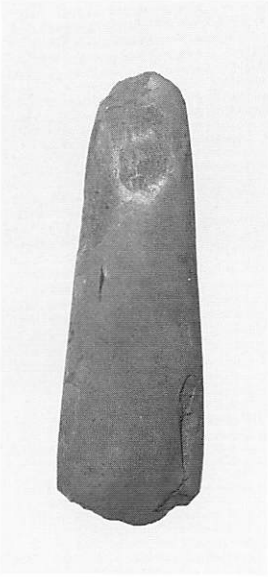


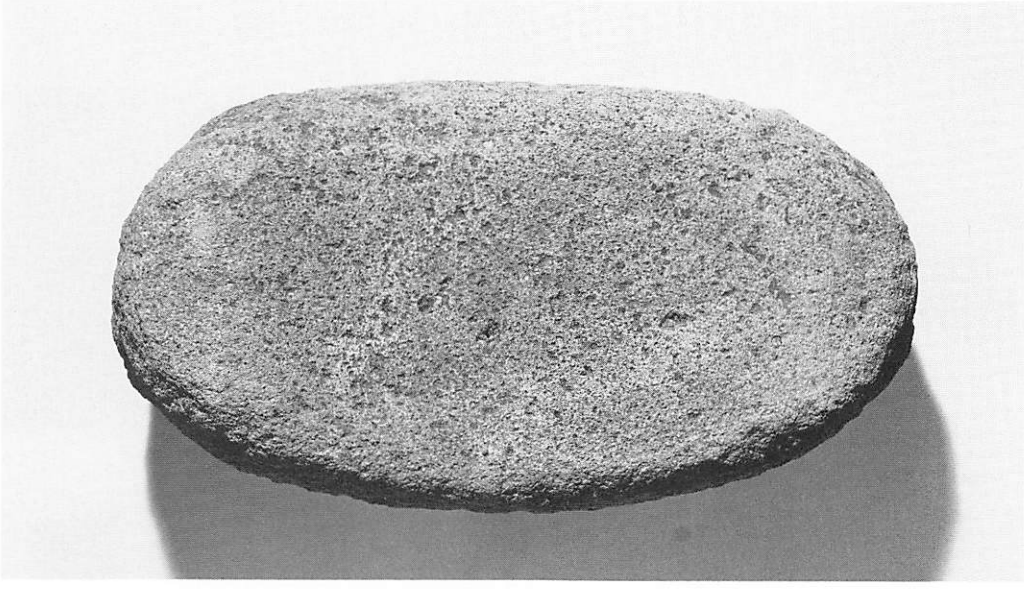

1
0
5cm

P—198



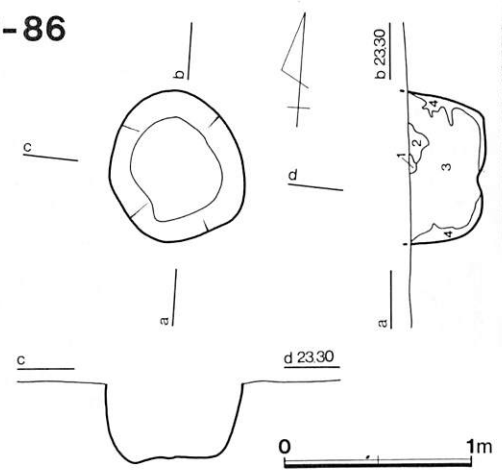
P—198の出土遺物

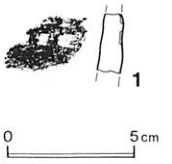




P—198の出土遺物

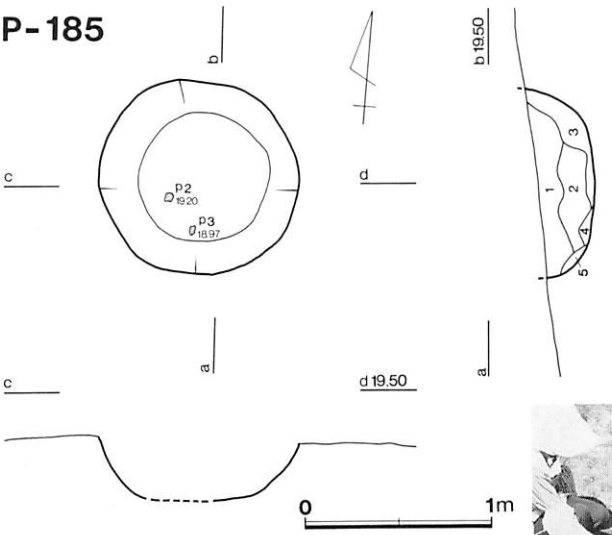
P-86



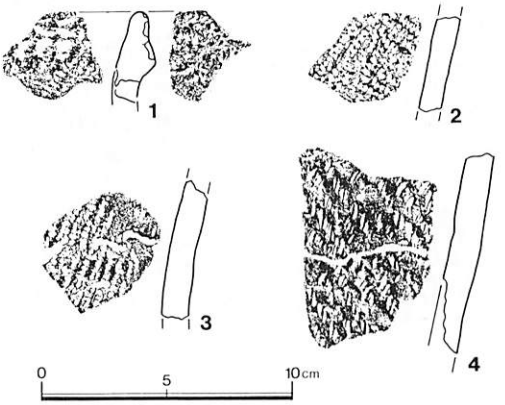


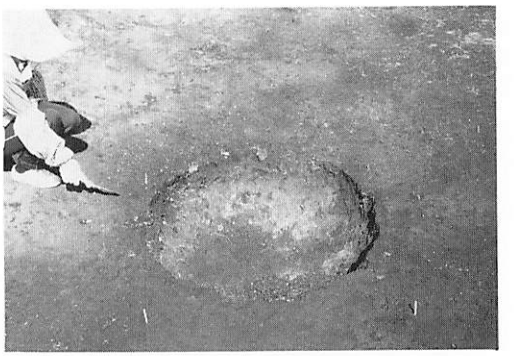
1．黒色土　　3．暗褐色土
2．明褐色土　　4．暗黄色土

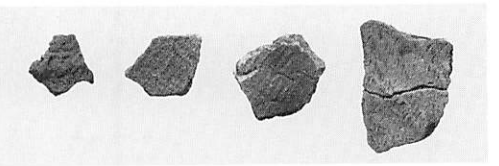
P-185



1．黒色土
2．濁黒色土
3．暗黒褐色土
4．暗褐色土
5．黒色土＋黄褐色土

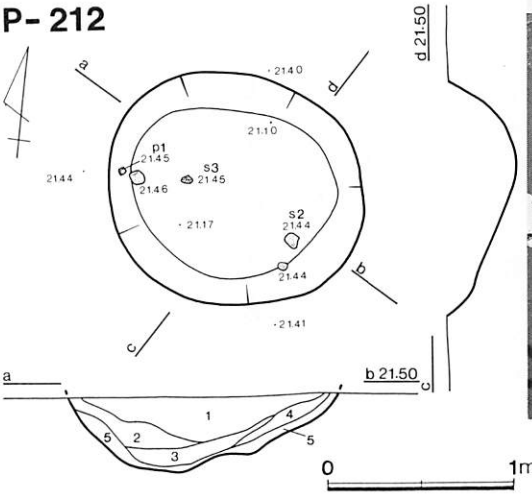


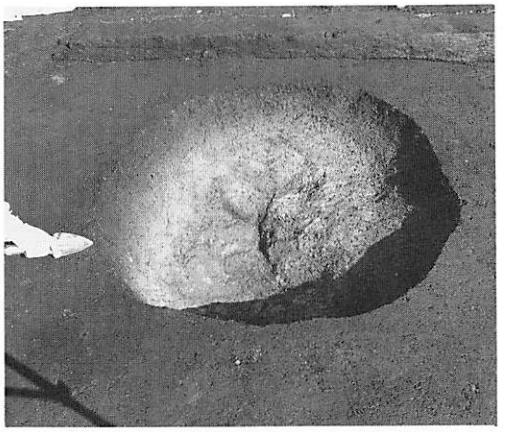




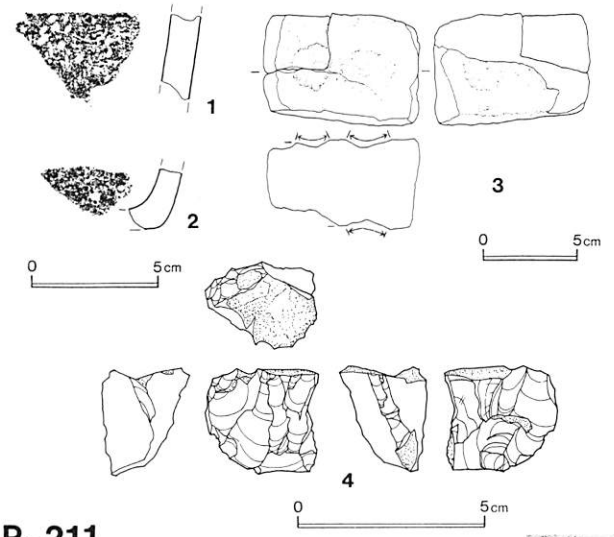
P—86・P—185

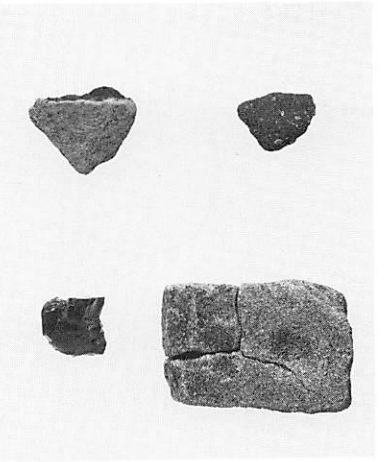
P-212



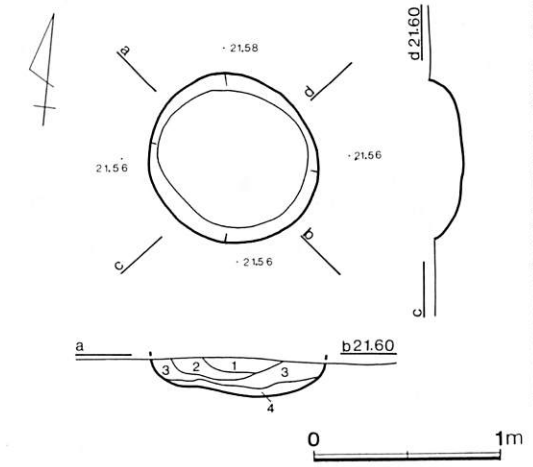


1．黒色土　　4．暗茶褐色土
2．暗褐色土　　5．暗黄褐色土
3．真黒色土



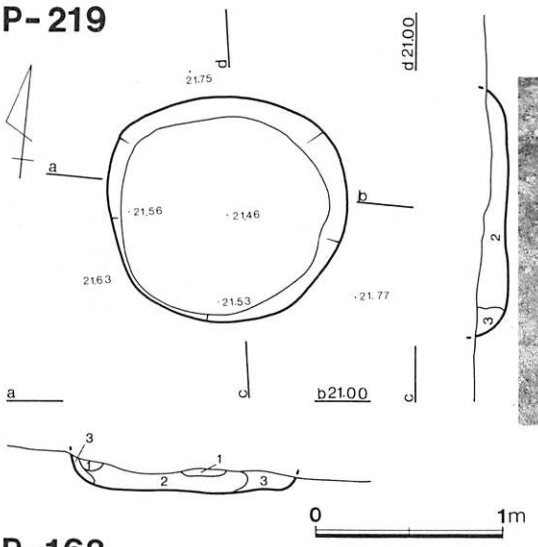


P-211

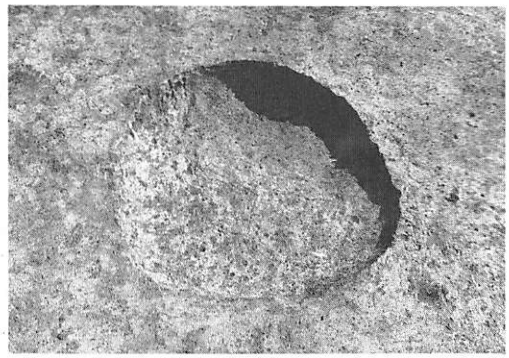


1．黒色土　　3．暗褐色土
2．黒褐色土　　4．暗黄褐色土

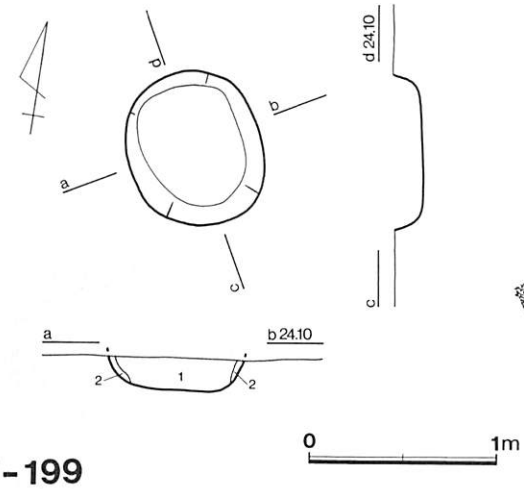
P-219



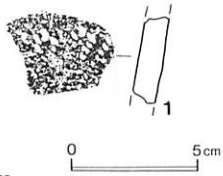
1．暗褐色土　2．褐色土　3．暗黄褐色土



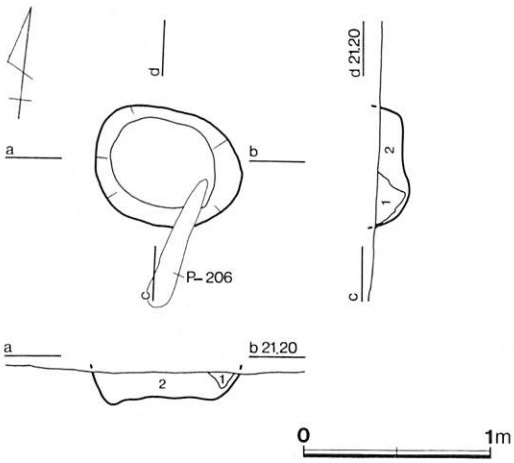
P-163

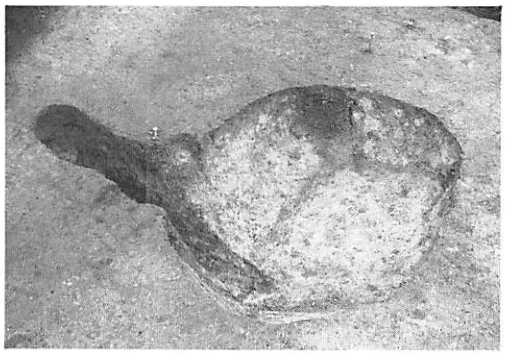


1．黒色土
(少量のパミス・炭化物含む)
2．黄褐色土
(黒色土・ローム粒混入)



P-199

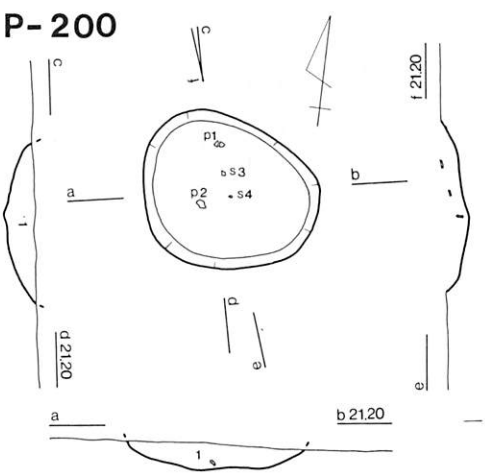


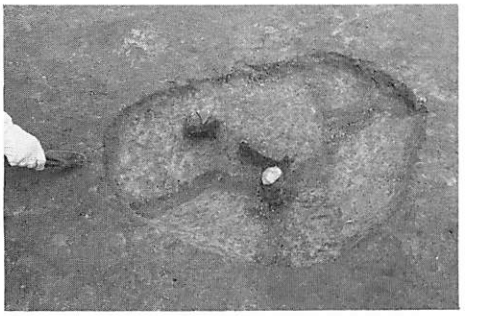


1．暗褐色土
(少量の細かいローム粒が混る)
2．褐色土
(暗褐色土とロームの混合、粒状ロームを含む)

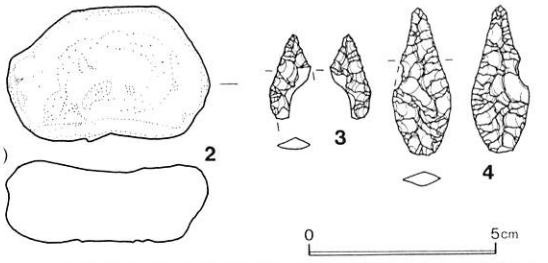
P—219・P—163・P—199

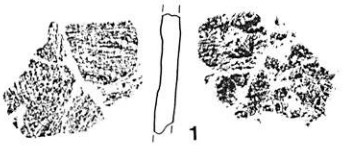
P-200



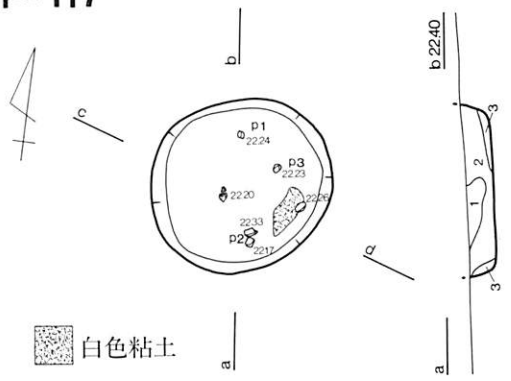


1．暗褐色土（少量のローム粒が混る）

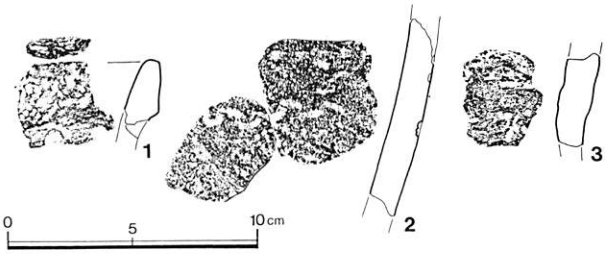


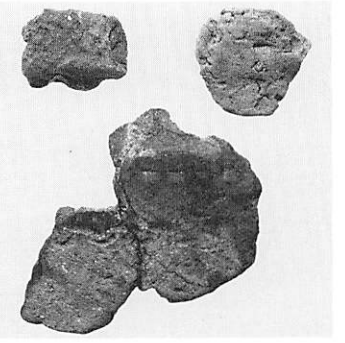


P-117

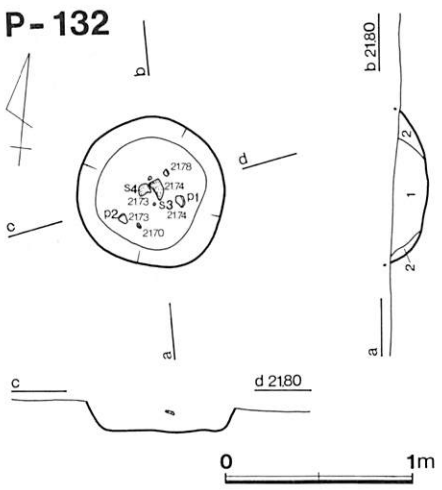


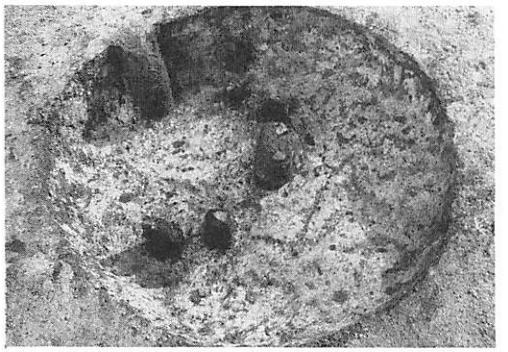
1．黒色土　　3．黄褐色土
2．黒褐色土



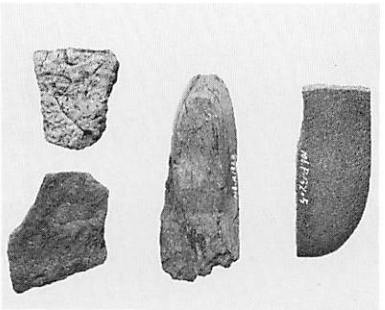


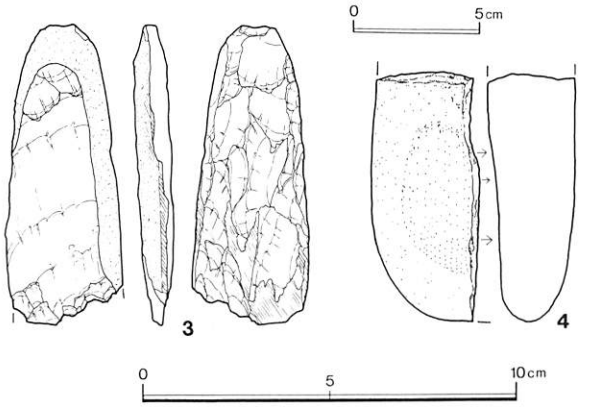
P-132



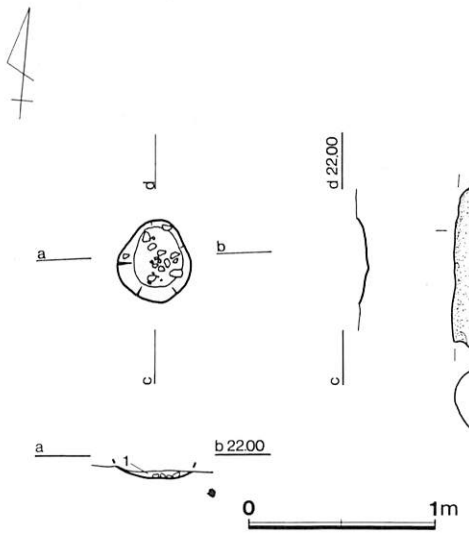


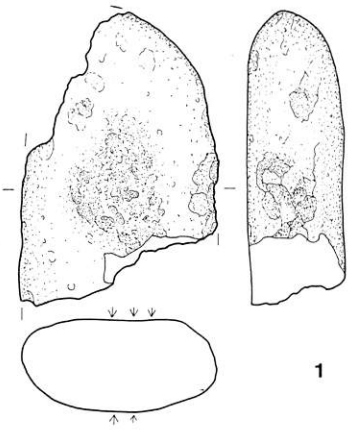
1．黒色土（少量の褐色土を含む）
2．褐色土

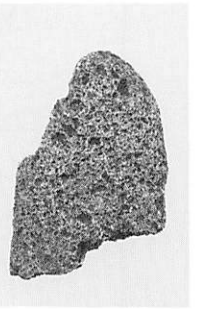




P-188





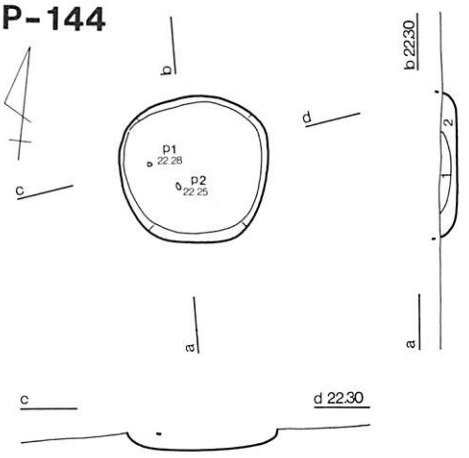


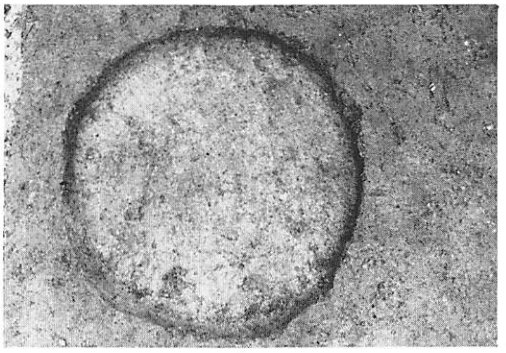
1．褐色土（木炭粒を含む）

0 5cm

P—132・P—188

P-144

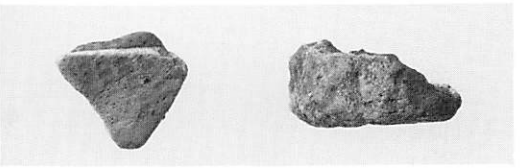




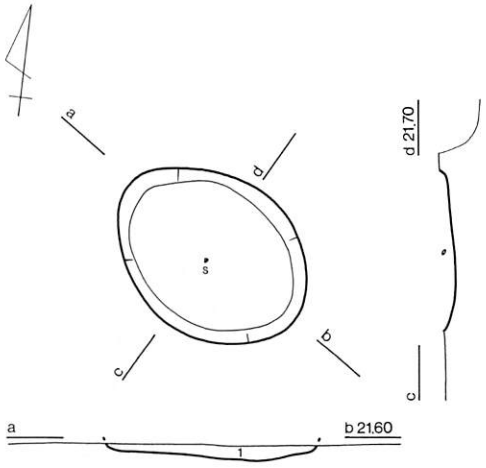
1．黒色土
2．茶褐色土
（ロームブロック
黒色土の混合土）

0　1m

0　5　10cm

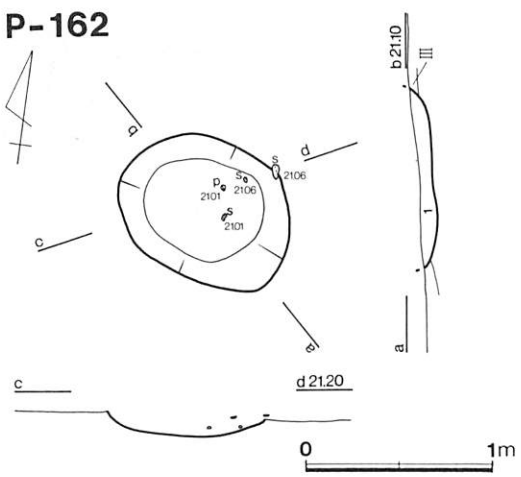


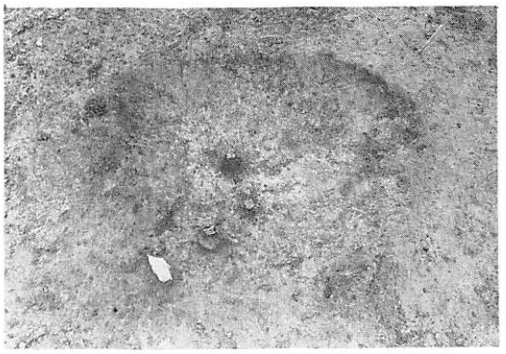
P-148



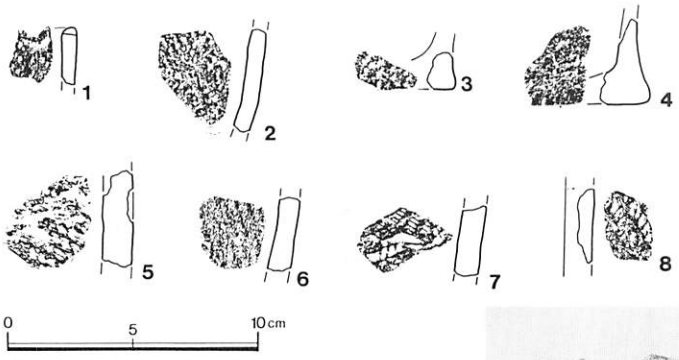
1．暗茶褐色土

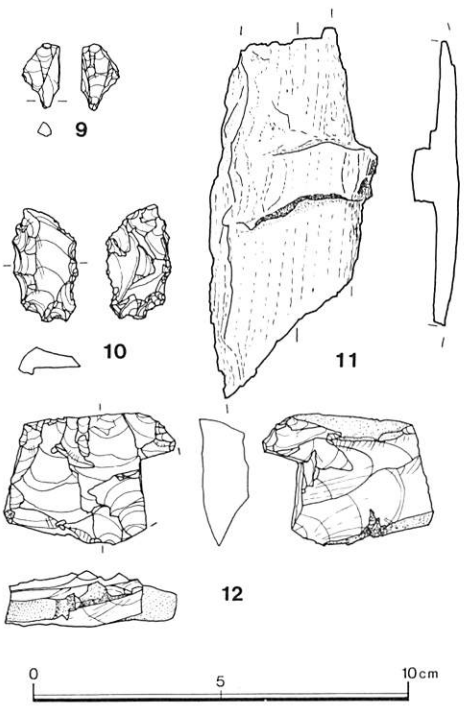
0　1m

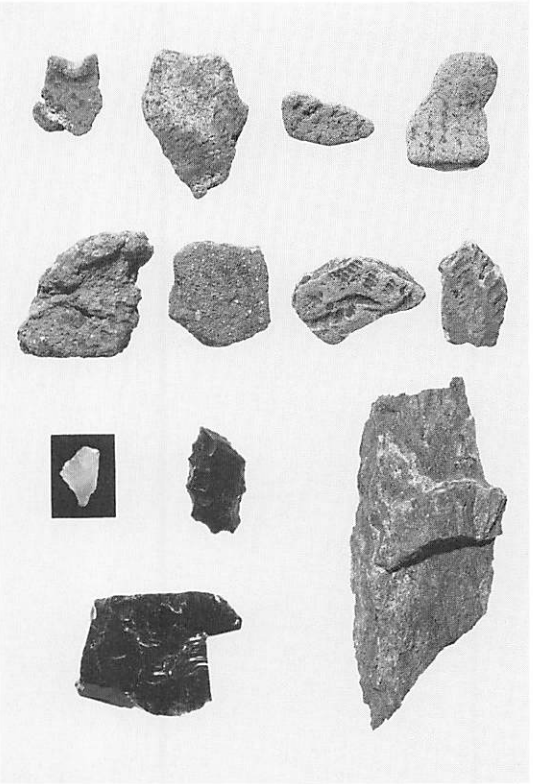

P-162
b 21.10
III
a
d
c
2106
2101
2106
2101
c
d 21.20
0
1m



1．黒褐色土

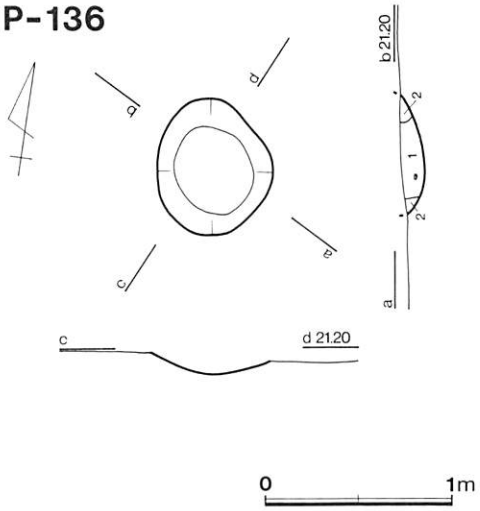

1
2
3
4
5
6
7
8
0
5
10cm


9
10
11
12
0
5
10cm

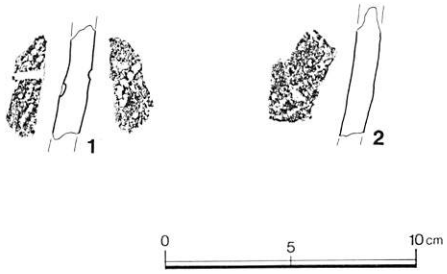


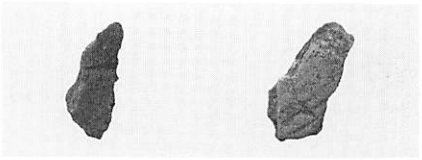
P—162

P-136



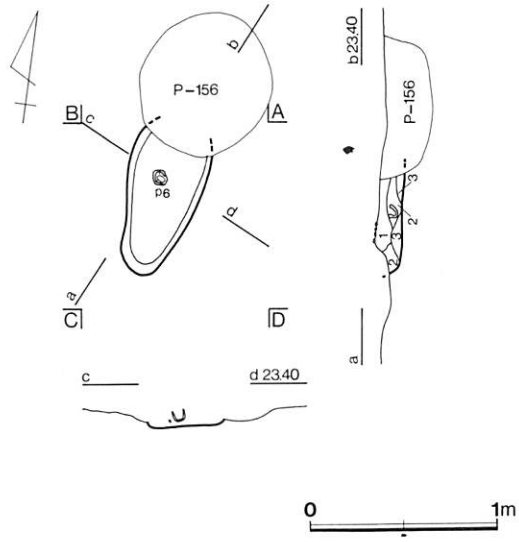
1．褐色土(ローム粒、ロームブロックが小量混入、
　　木炭が少量混入)
2．暗黄褐色土

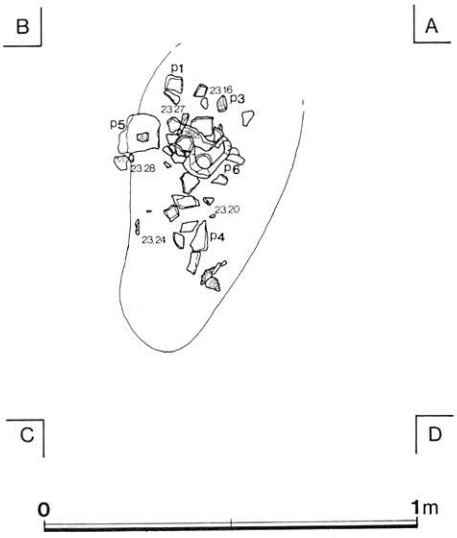


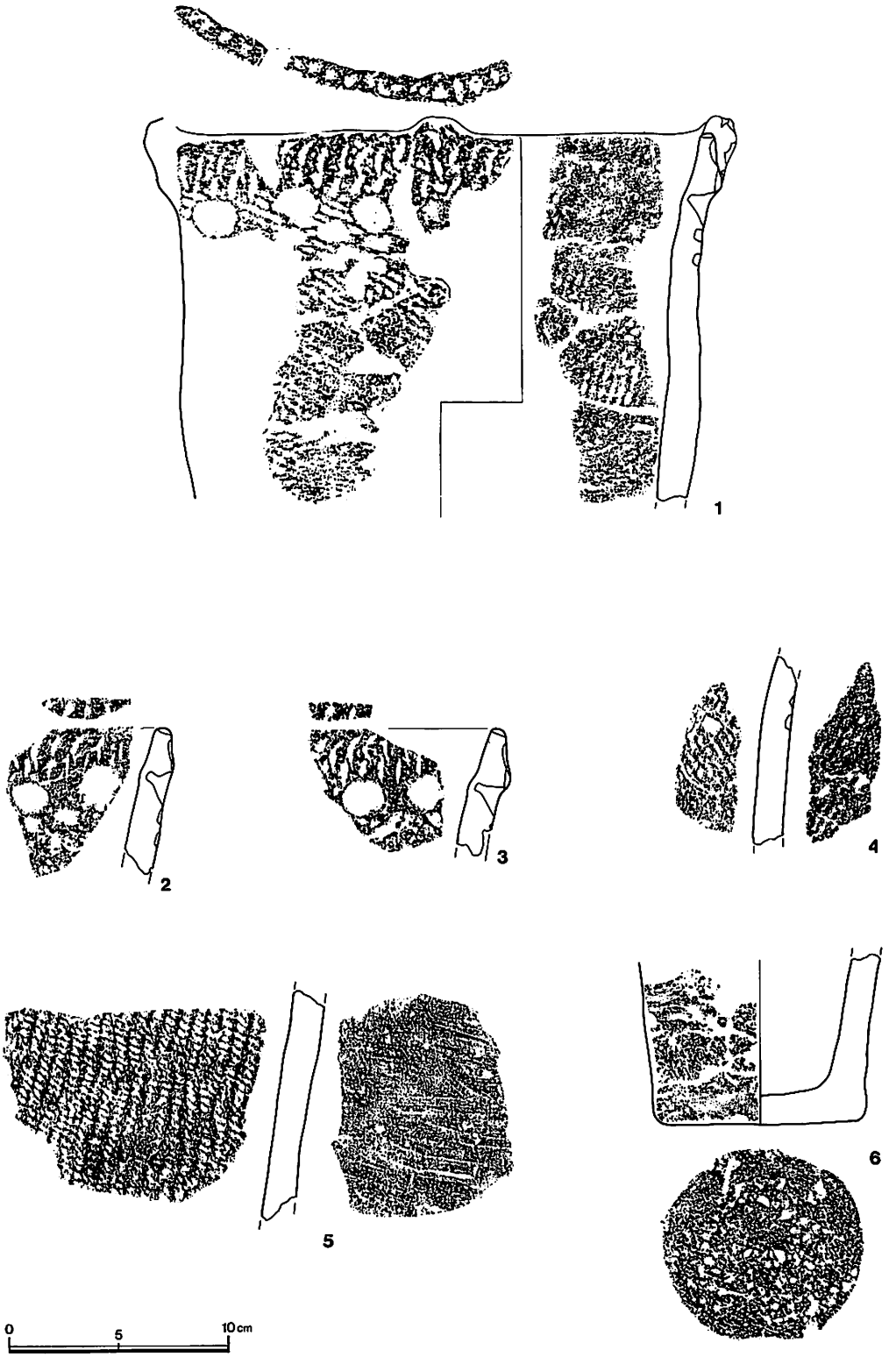


1．黒色土
2．暗褐色土
3．暗褐色土（ロームを含む）

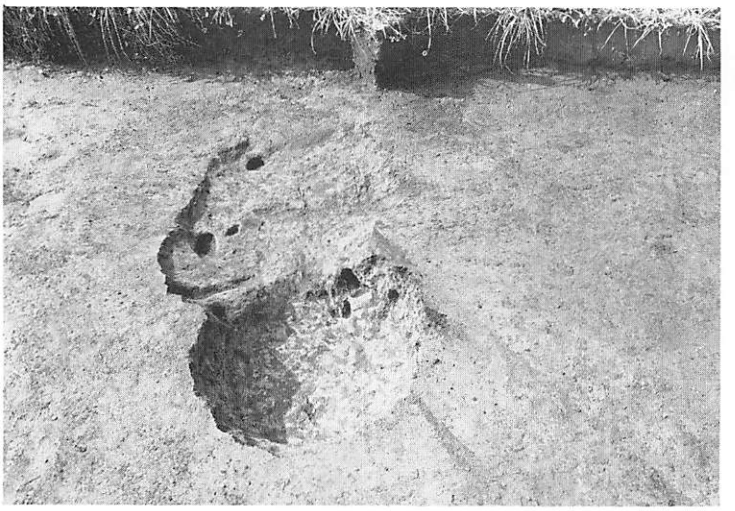
P-84

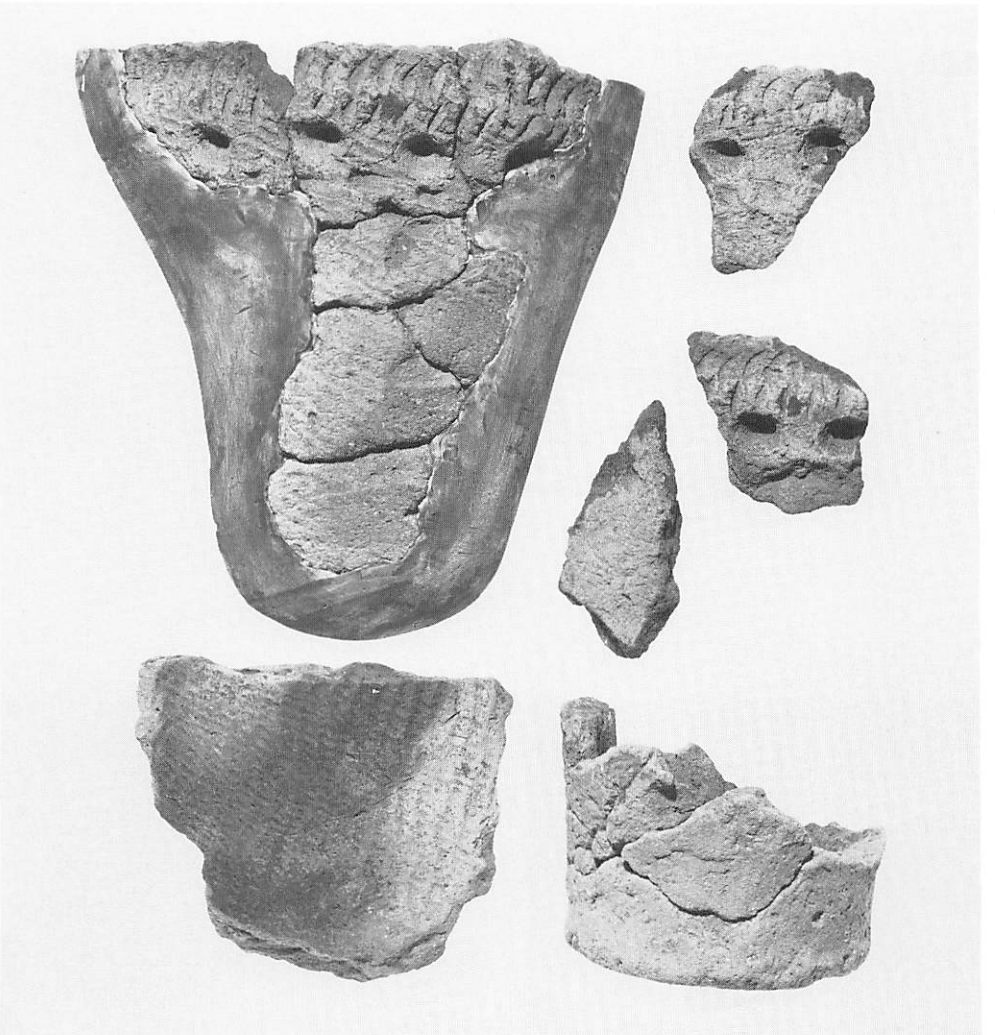




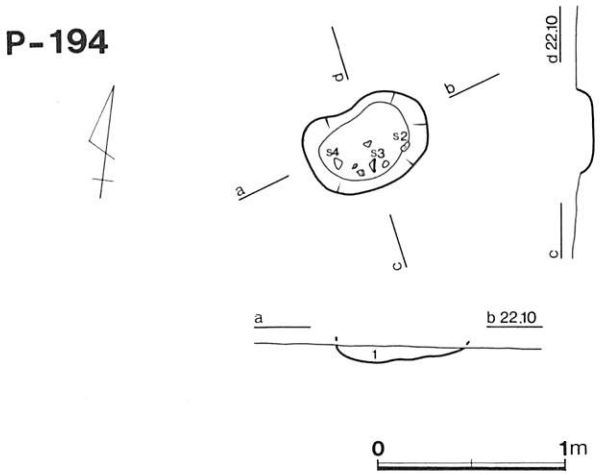


P—84の出土土器

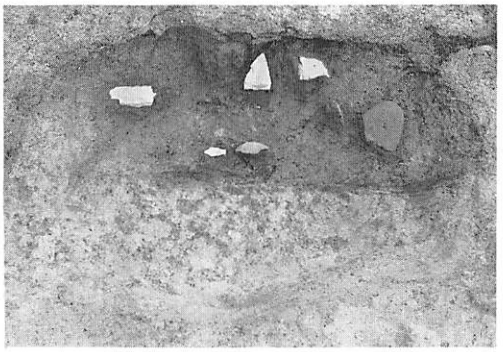




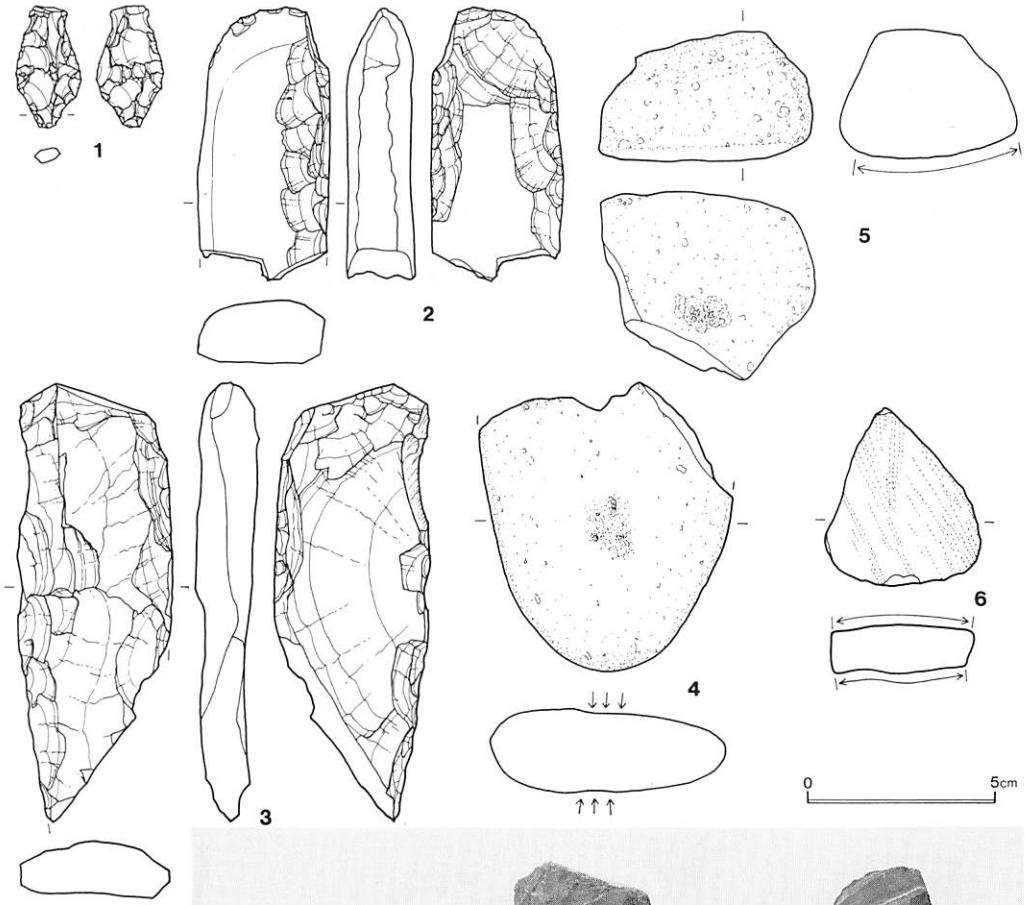
P—84の出土土器

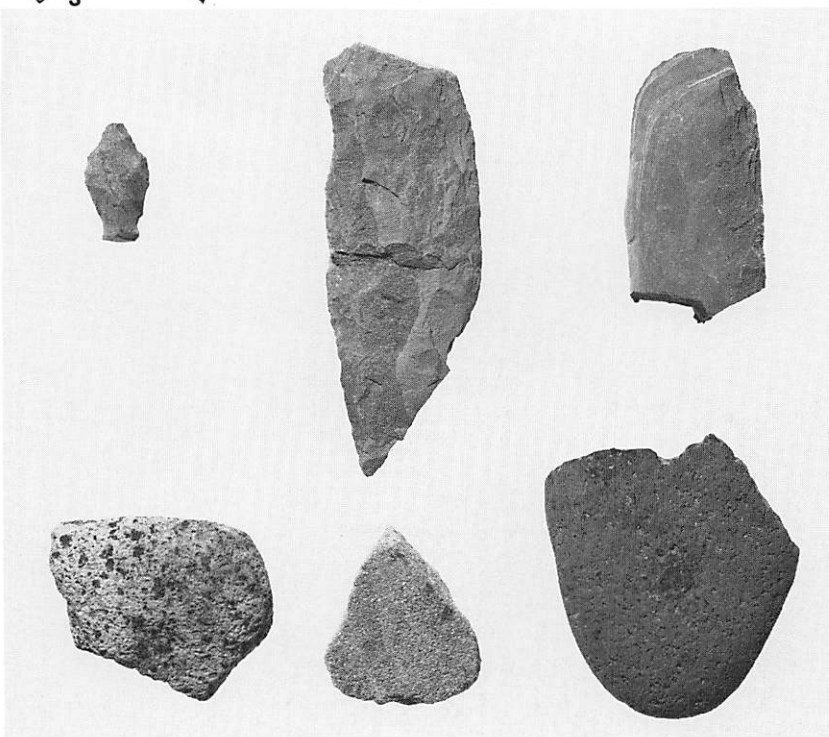


1．暗褐色土
（木炭を含む）

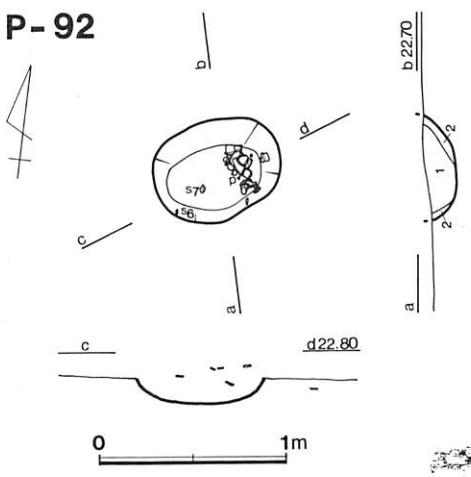


P—84の遺物出土状況・P—194

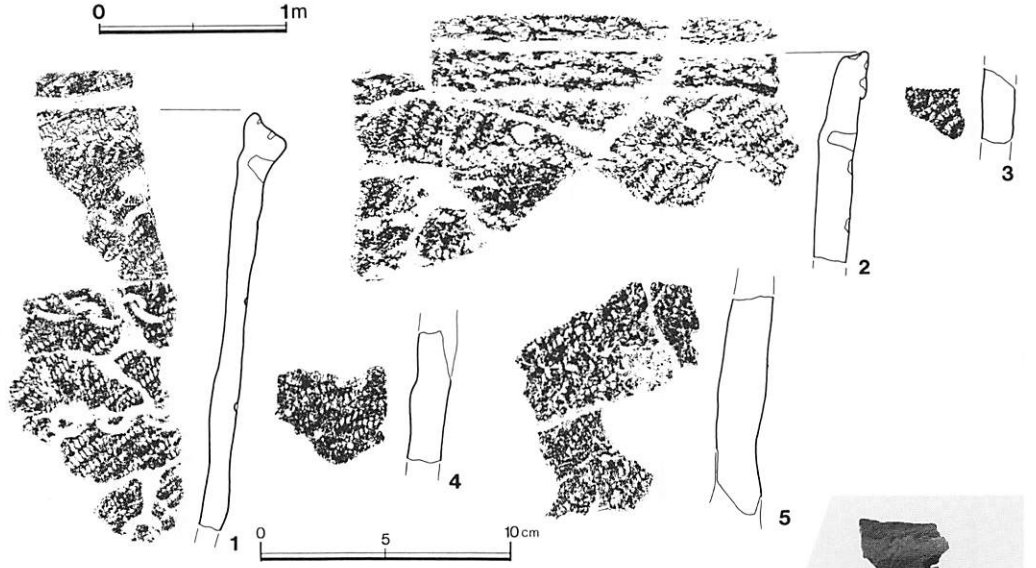


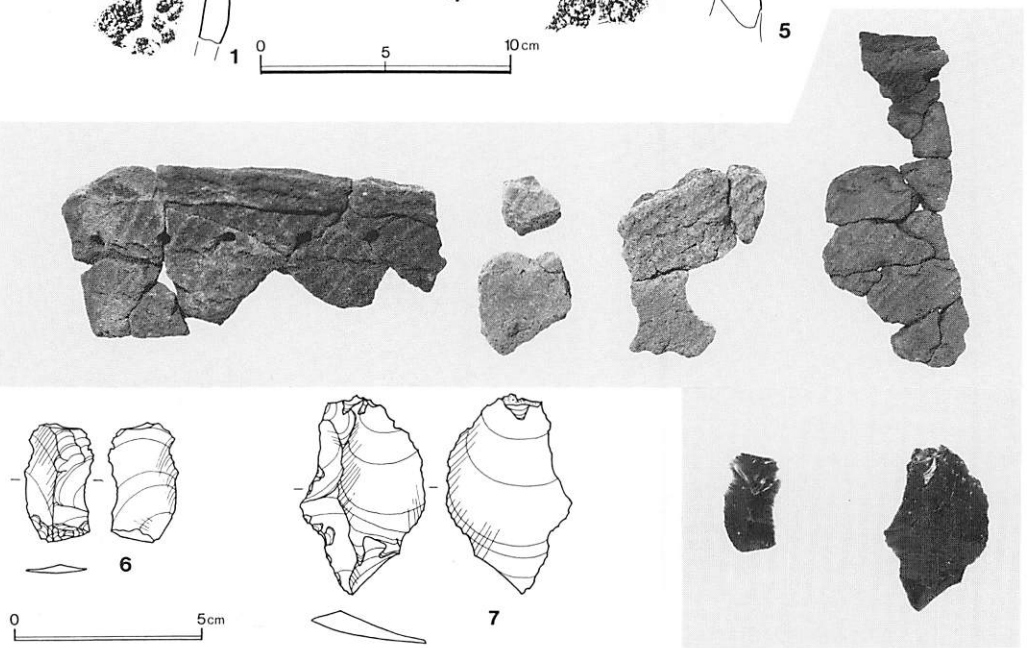


P—194の出土石器



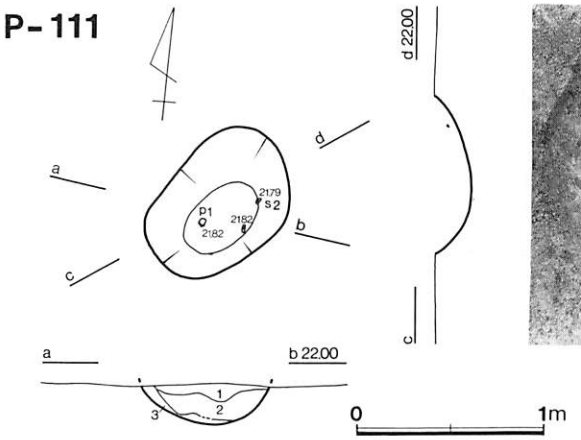
1．黒褐色土
2．黄褐色土＋黒褐色土

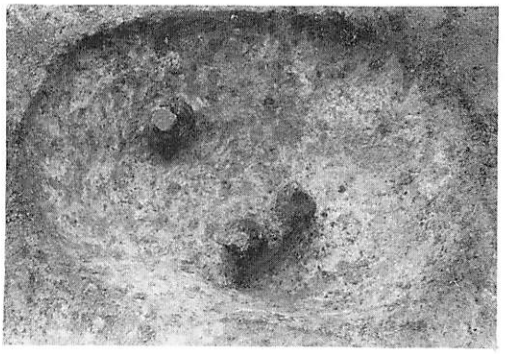




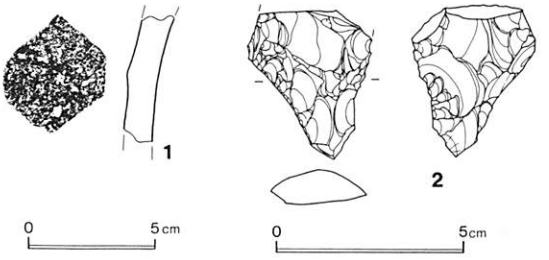
P—92

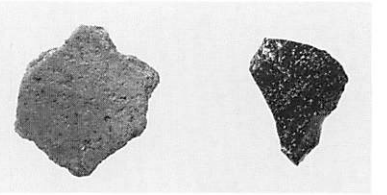
P-111



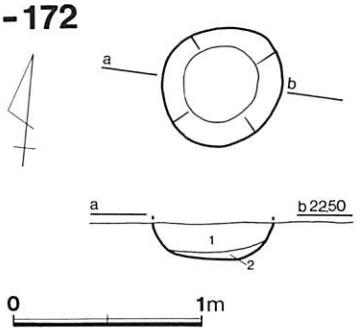


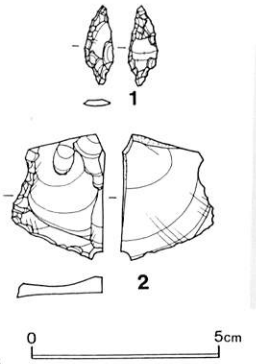
1．黒色土
2．赤褐色土（焼土）
3．黒色土（砂粒を含む）

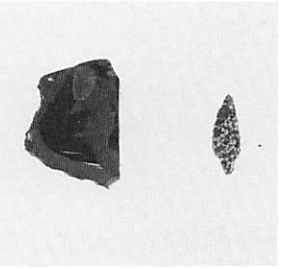




P-172

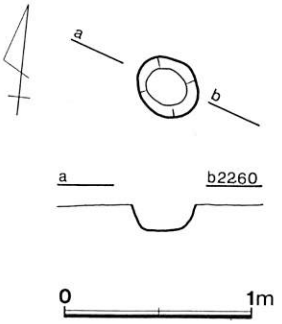


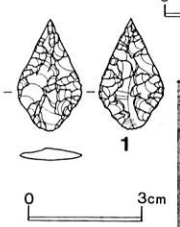


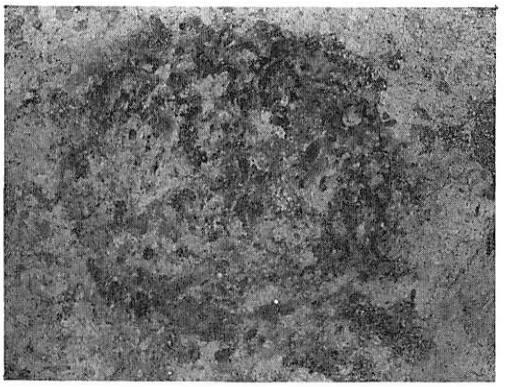


1．黒色土
2．暗褐色土

P-173

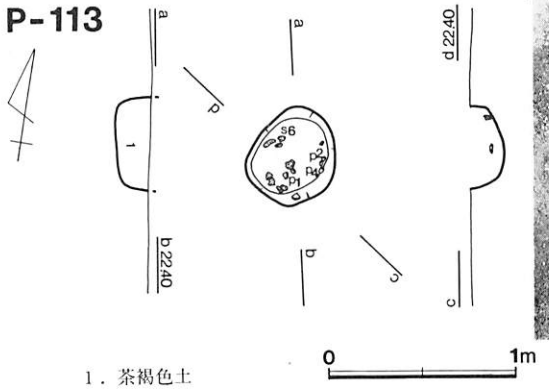




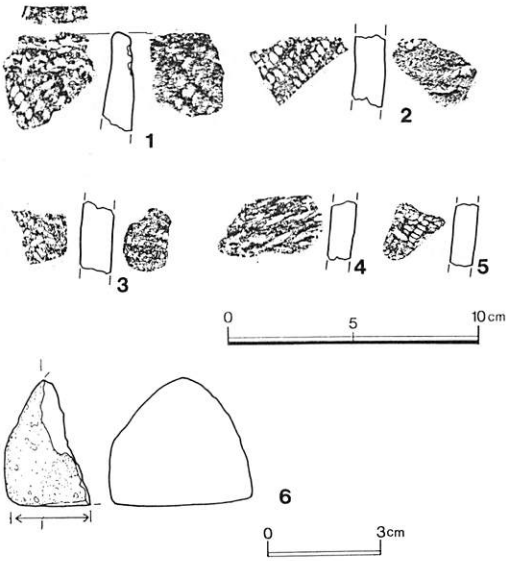


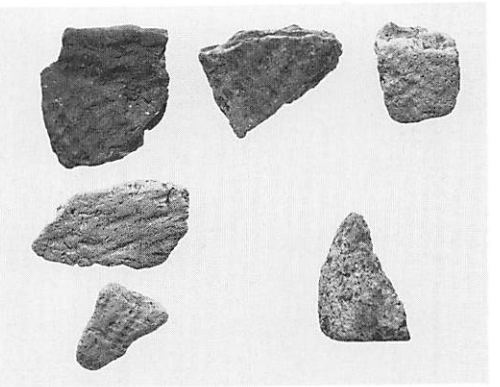
P—111・P—172・P—173

P-113

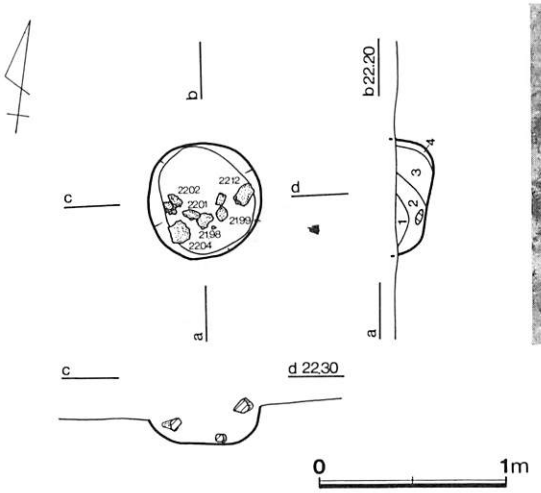


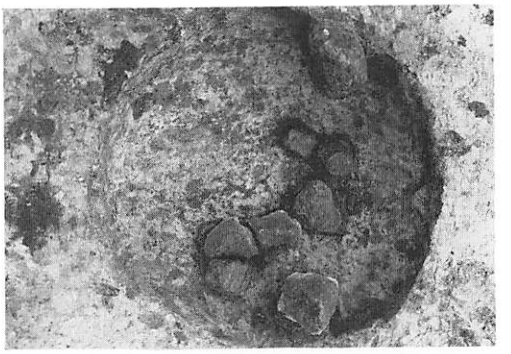
1．茶褐色土





P-109

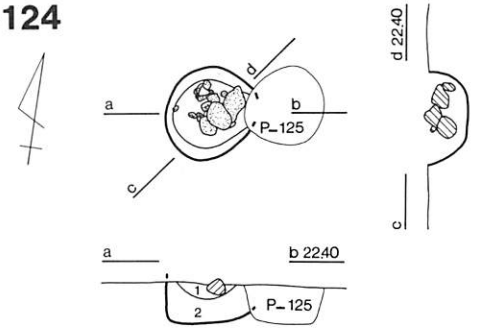




1．褐色土
2．黒色土
3．茶褐色土
4．黒色土

P—113・P—109

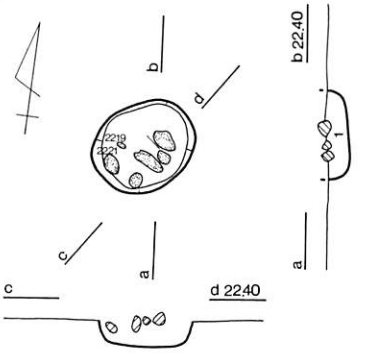
P-124



0 1m

1．茶褐色土
2．黒色土

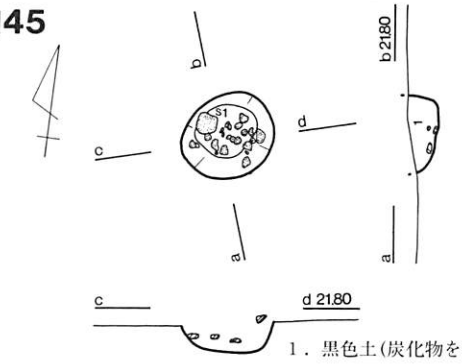
P-127



1．黒色土

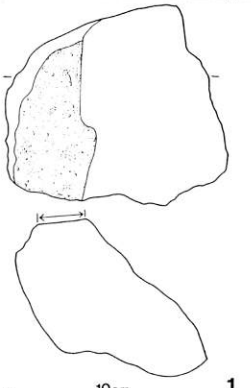
0 1m

P-145



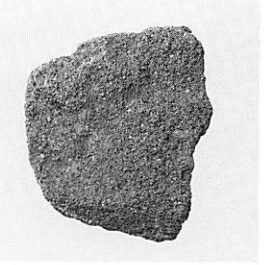
1．黒色土(炭化物を含む)

0 1m



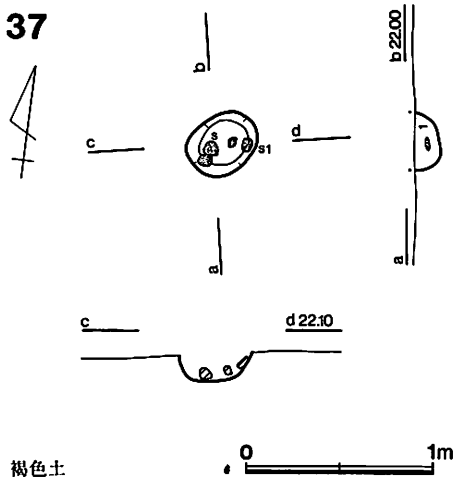
0 5 10cm

1

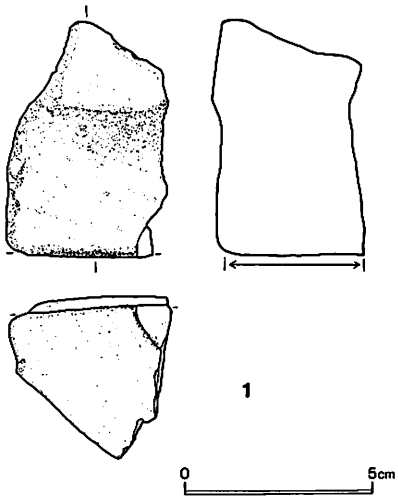


P—124・P—127・P—145

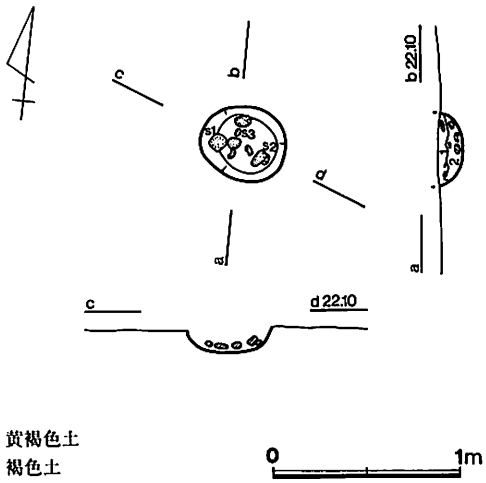
P-137



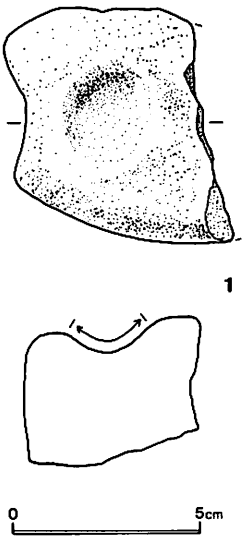
1．褐色土

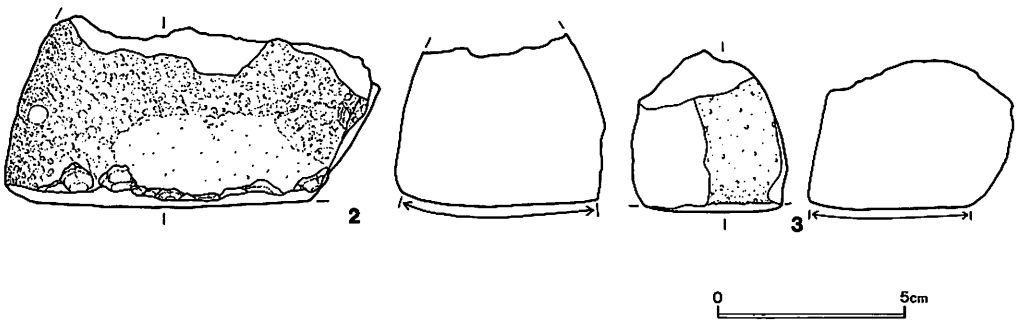


P-140

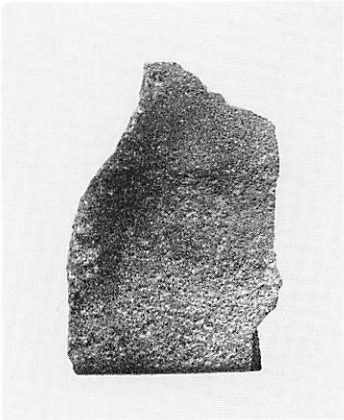


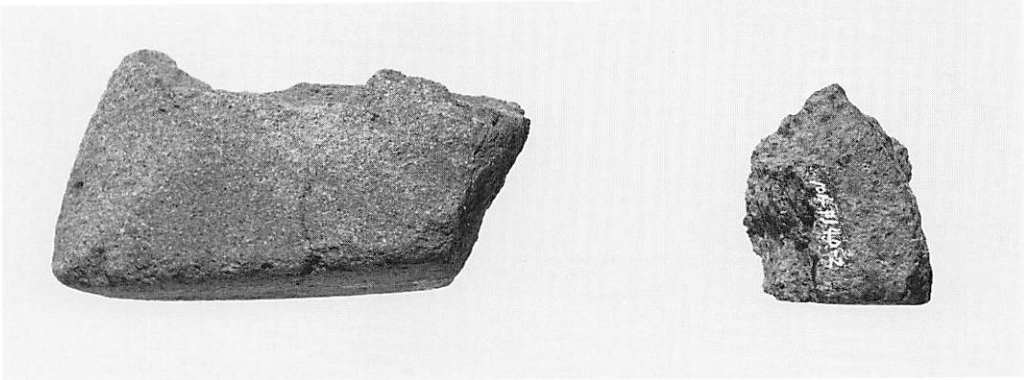
1．黄褐色土
2．褐色土





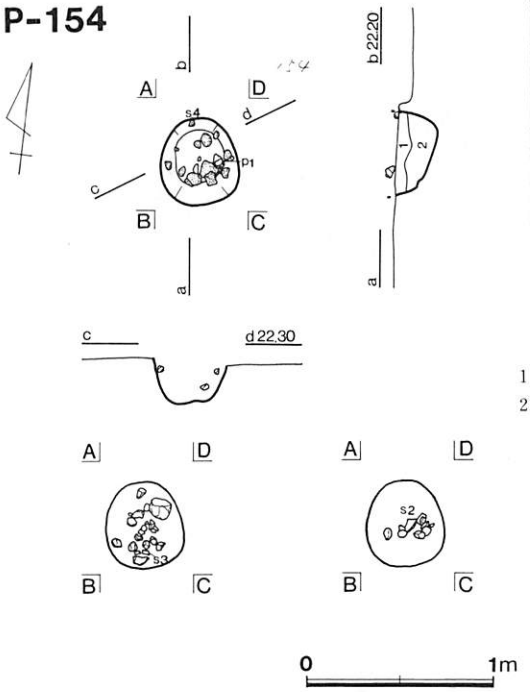
P—137・P—140



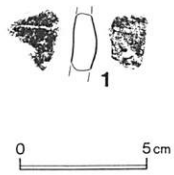


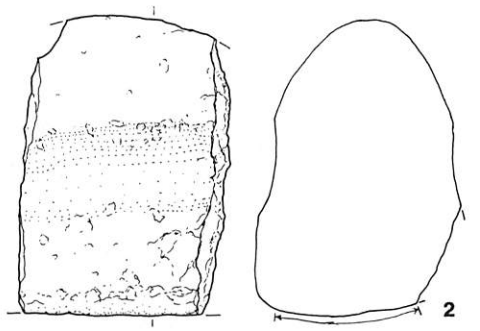
P—137・P—140

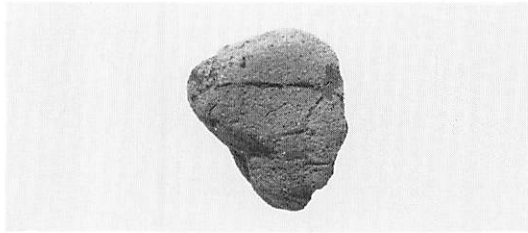
P-154

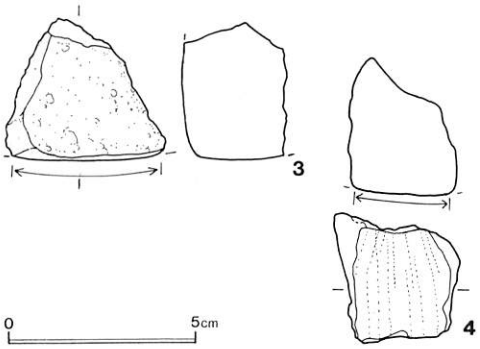


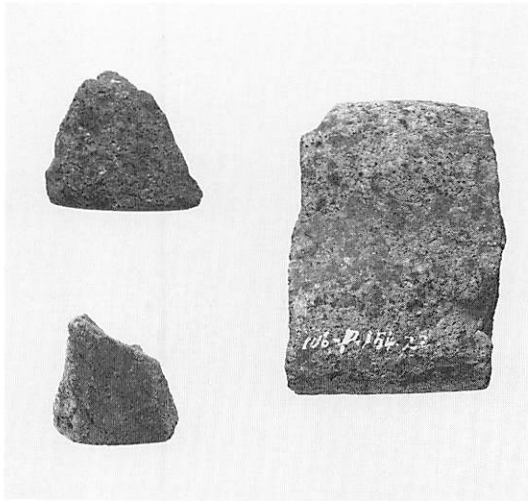
1．黒色土
2．茶褐色土(砂を含む、底面付近には炭化物が散在する)





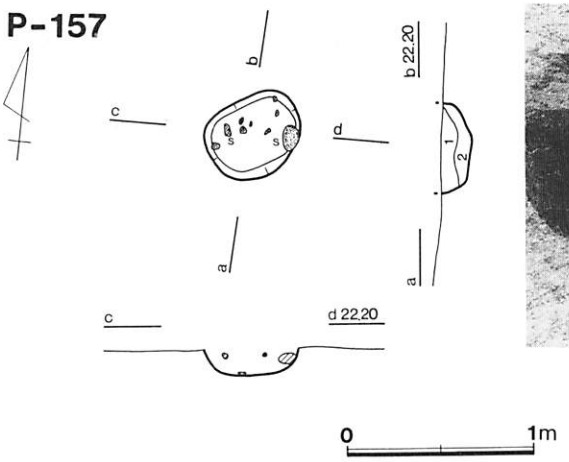


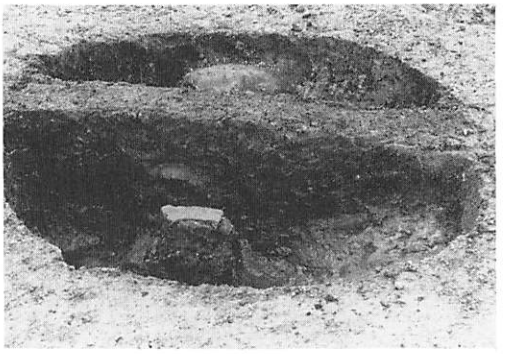




P—154

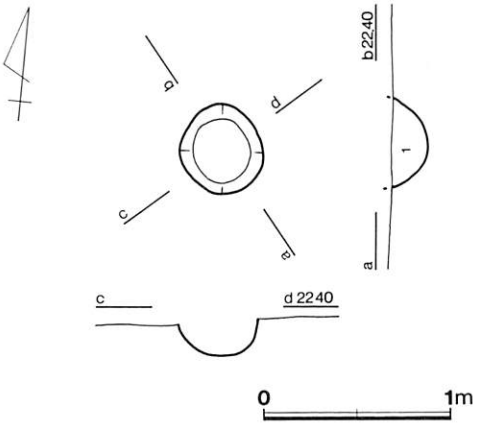
P-157

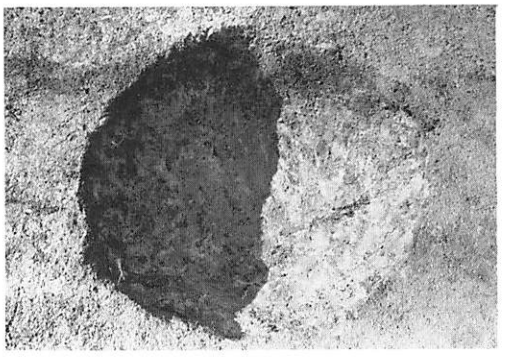




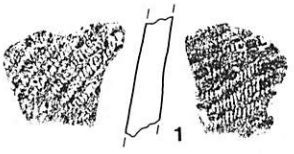
1．茶褐色土（ローム粒を含む）
2．黒色土

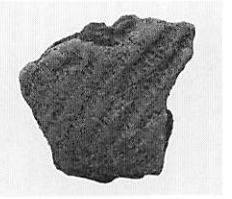
P-159





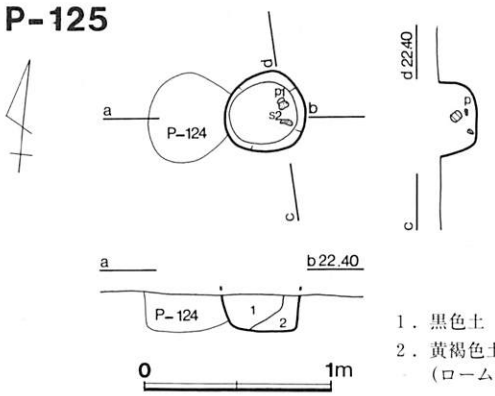
1．黒色土(下位に黄褐色ローム混る)

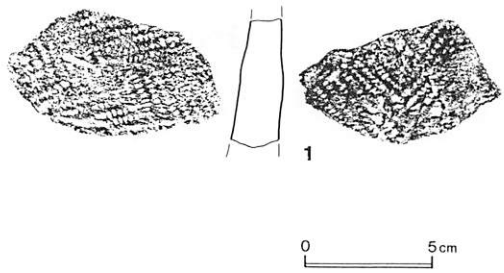




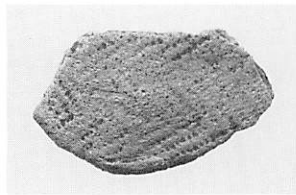
P—157・P—159

P-125

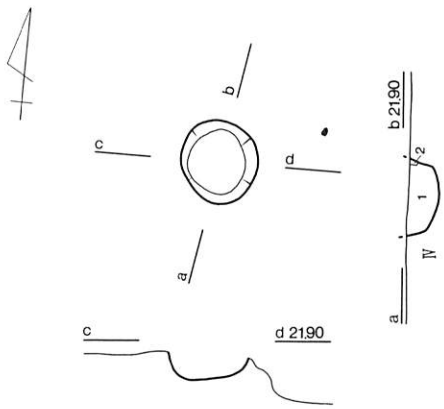




1．黒色土（粒状）
2．黄褐色土
（ローム・ブロックを含む）

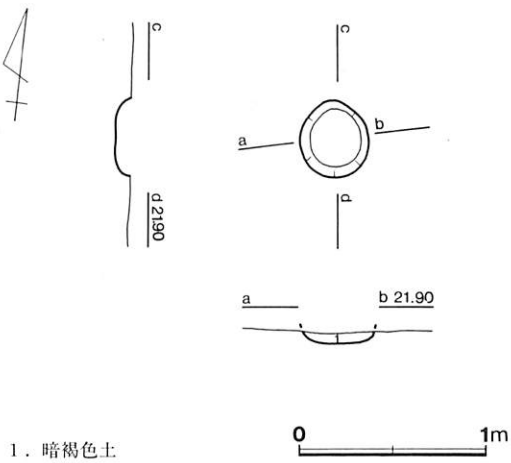


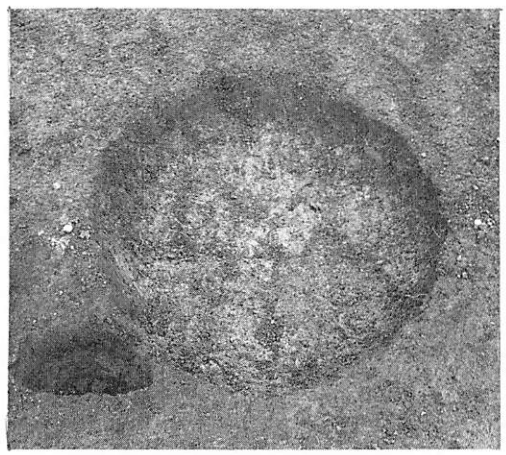
P-192



1．暗褐色土
2．暗茶褐色土

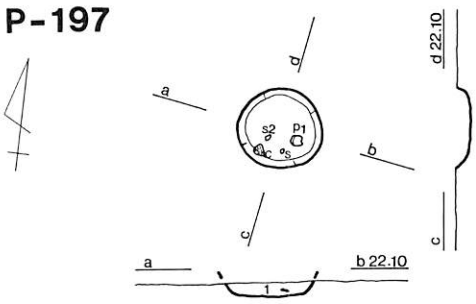
P-196

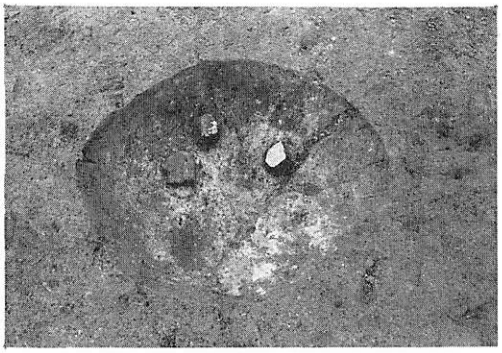




1．暗褐色土

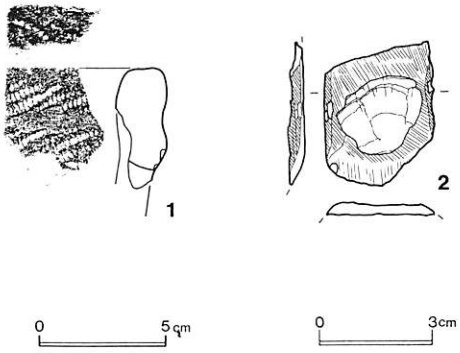
P-197

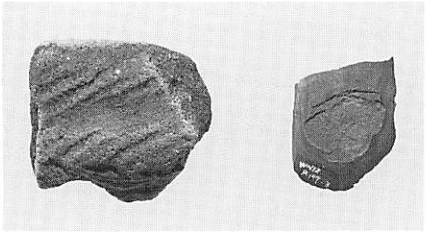




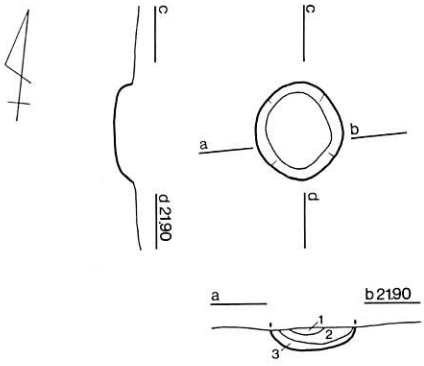
1．黒褐色土(ロームブロック少量混在)

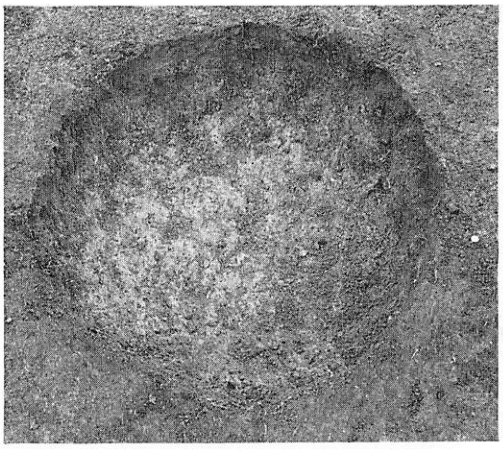
0　1m





P-195





1．暗茶褐色土
2．黒褐色土
3．明茶褐色土

0　1m

P—197・P—195

P－206

調査区の南東側、50－88区に位置する。小型の溝状ピットで、長軸は北を向いている。北側はP-199を切っている。遺物は検出していない。

P－204

P-206の西側に約1m離れた位置に長軸が平行して検出された。1は確認面で検出された有茎の石鏃である。黒曜石を素材にしている。重さは2.1g。

P－205

東側に1.5mと3mの距離にP-204、P-206が位置する。長軸方向は東北東を向いている。

P－207

調査区中央部の南東54－86区に位置する。長軸は北東を向く。遺物は検出していない。

P－209

P-207の北北東約6mに位置する。形態は小型のやや広がった溝状で長軸は北北東に向く。覆土上部に焼土が堆積しているなど、P-208とほぼ同時に掘られたものと推定される。

P－208

P-209の西側に約2m離れた位置に、平行して検出された。1は覆土上部から得られたⅢ群b－3類土器の胴部破片。結束第一種のある羽状縄文地に付加された、押引きの刻まれたX字状の貼付文が剝落したと判断される痕跡がみられる。他に礫1点、黒曜石剝片5点が出土した。

P－201

54－87区に位置する。長軸は北西を向き、北西端の壁はP-202に切られている。1・2は覆土から得られた、Ⅲ群b－3類土器の胴部片である。ともに摩耗が進んで、文様などは不明瞭だが、単節の斜行縄文が施されたものである。他に礫1点、黒曜石剝片8点が出土した。

P－202

長軸は東北東を向き、東側はP-201を切っている。遺物は検出していない。

P－203

P-201の南南東約0.5mの位置に検出された。長軸は西北西に向く。遺物は覆土1から検出した。1は覆土から採集された、Ⅲ群b－3類土器の破片である。摩耗が進んで、縄文が消失寸前だが、地文は羽状縄文と思われる。裏面には黒色炭化物が厚く付着している。他に黒曜石剝片1点が出土した。覆土の堆積状態などからP-201と同時期のものと推定される。

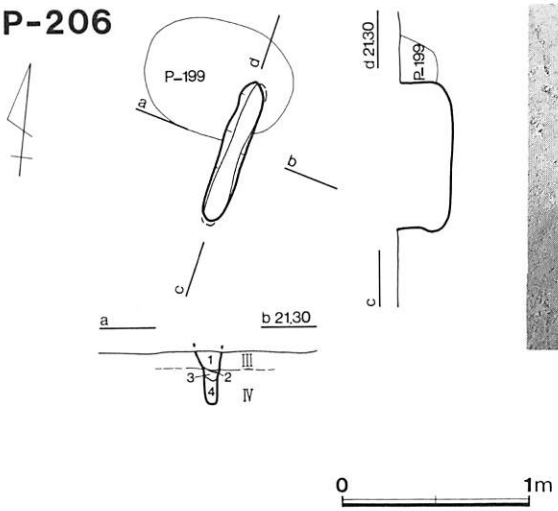
P－210

55－87区で検出された。長軸は北東を向く。遺物は検出していない。

P－213

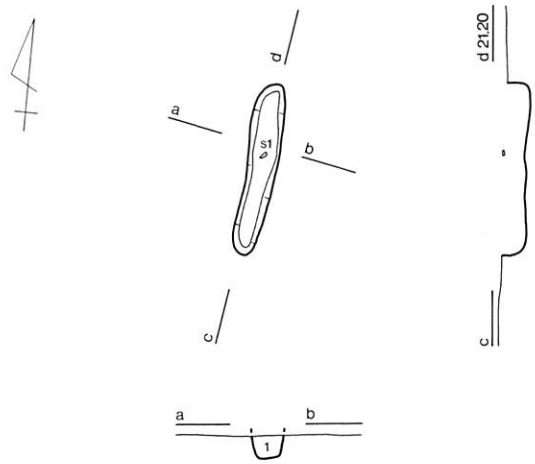
51－88区で検出された。長軸は西北西を向く。1・2は覆土出土のⅢ群b－3類土器で、ともにかなり摩耗している。1は綾絡文と平篦による押引文がある肥厚帯片。2の地文は不明。土層観察、遺物の出土状態などから、他の溝状ピットと違い埋め戻されている。中央北側覆土1と3の間に黒曜石剝片208点がまとまって出土した。これらの剝片は廃棄されたと考えられる。

P-206



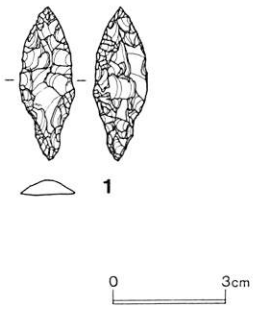
1．黒褐色土
2．暗褐色土
3．黒色土
4．濁暗褐色土
（ローム細粒を少量含む黒色土）

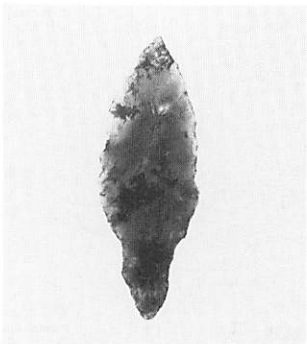
P-204



1．黒色土（ローム粒を含む）

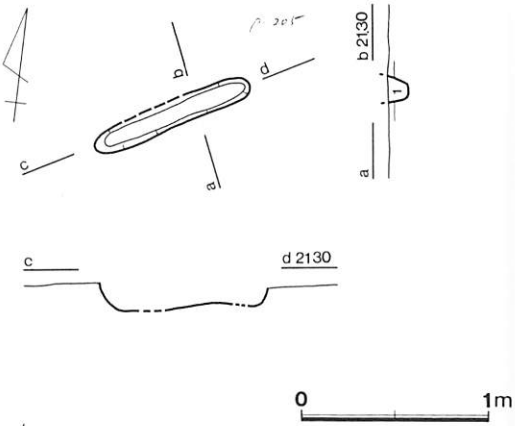
0　1m





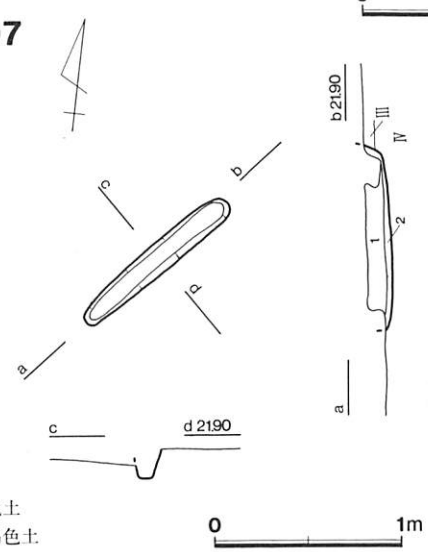
P—206・P—204

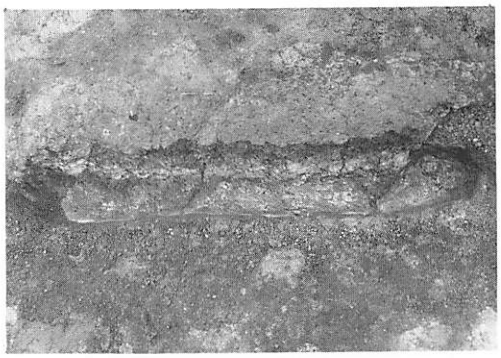
P-205



1．黒色土

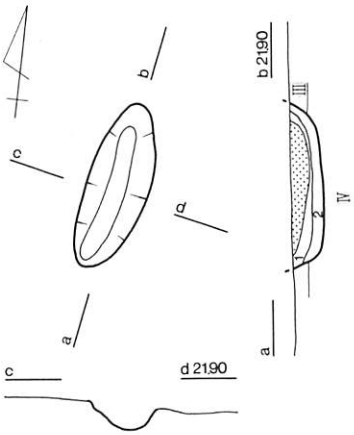
P-207





1．茶褐色土
2．黄茶褐色土

P-209



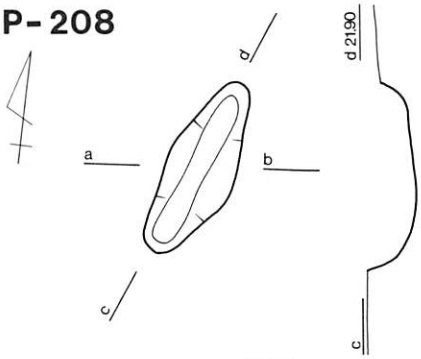
焼土

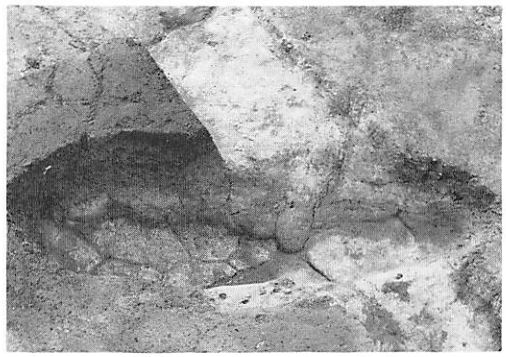
1．黒褐色土
2．暗茶褐色土(ローム粒混る)

0　1m

P—205・P—207・P—209

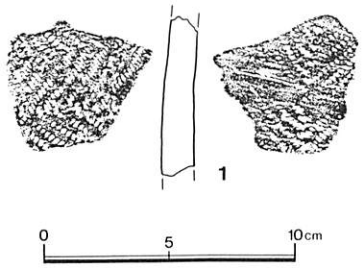
P-208

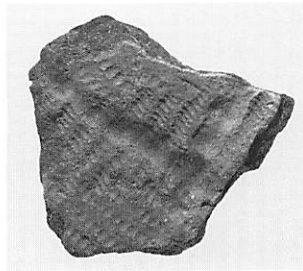




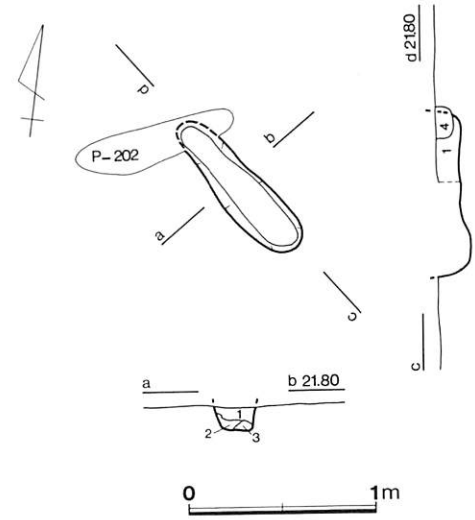
焼土

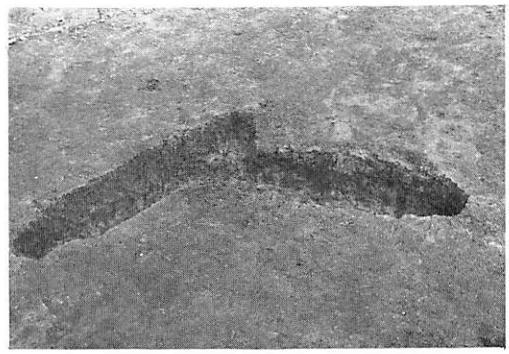
II．黒褐色土
III．褐色土



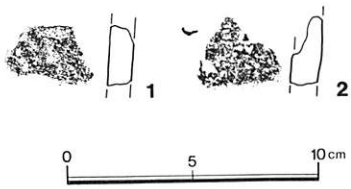


P-201



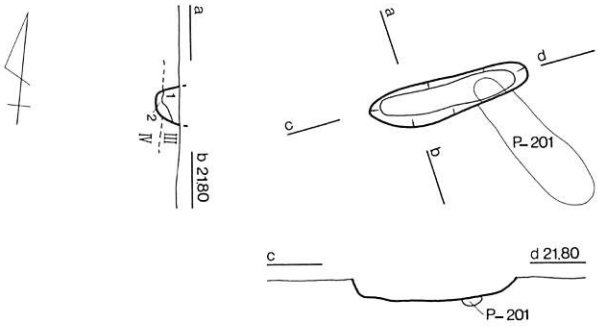


1．暗黄褐色土
（ロームブロックが混る）
2．暗褐色土
（ロームが混る）
3．濁暗褐色土
4．黒褐色土



P—208・P—201

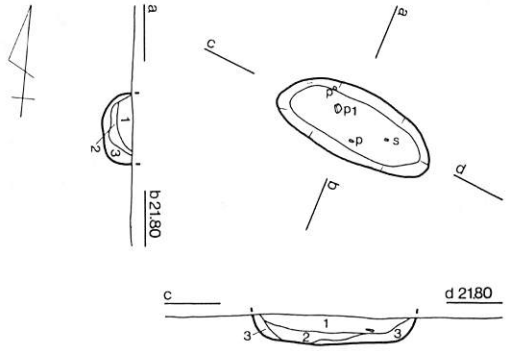
P-202

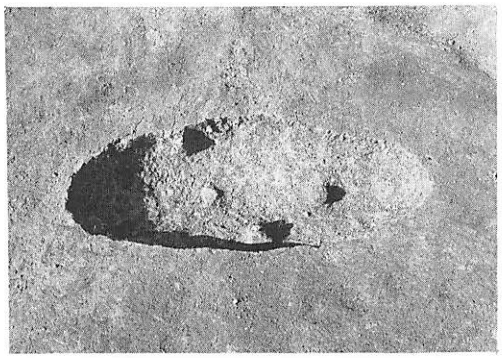


1．黒褐色土
2．暗褐色土
（少量のローム粒を含む）

0　1m

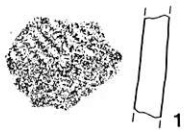
P-203

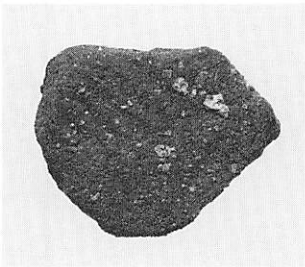




1．黒褐色土
2．暗褐色土
3．暗黄褐色土

0　1m

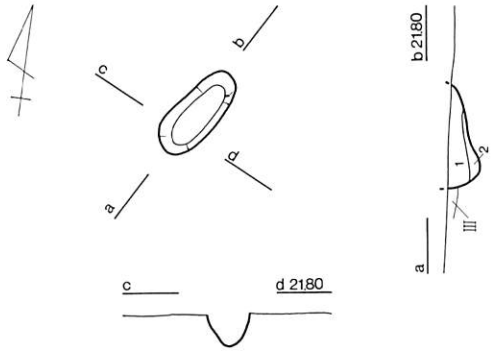




0　5cm

P—202・P—203

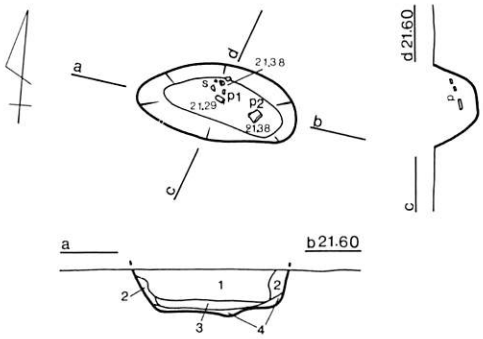
P-210



1．茶褐色土
2．暗黄褐色土

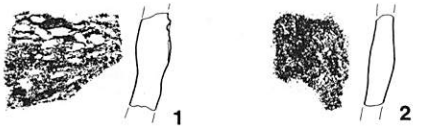
0　1m

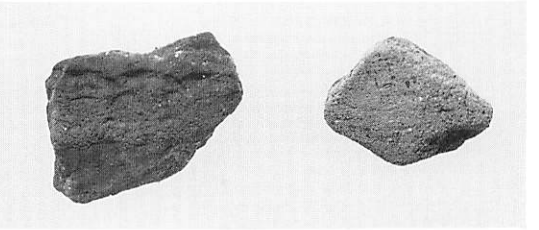
P-213



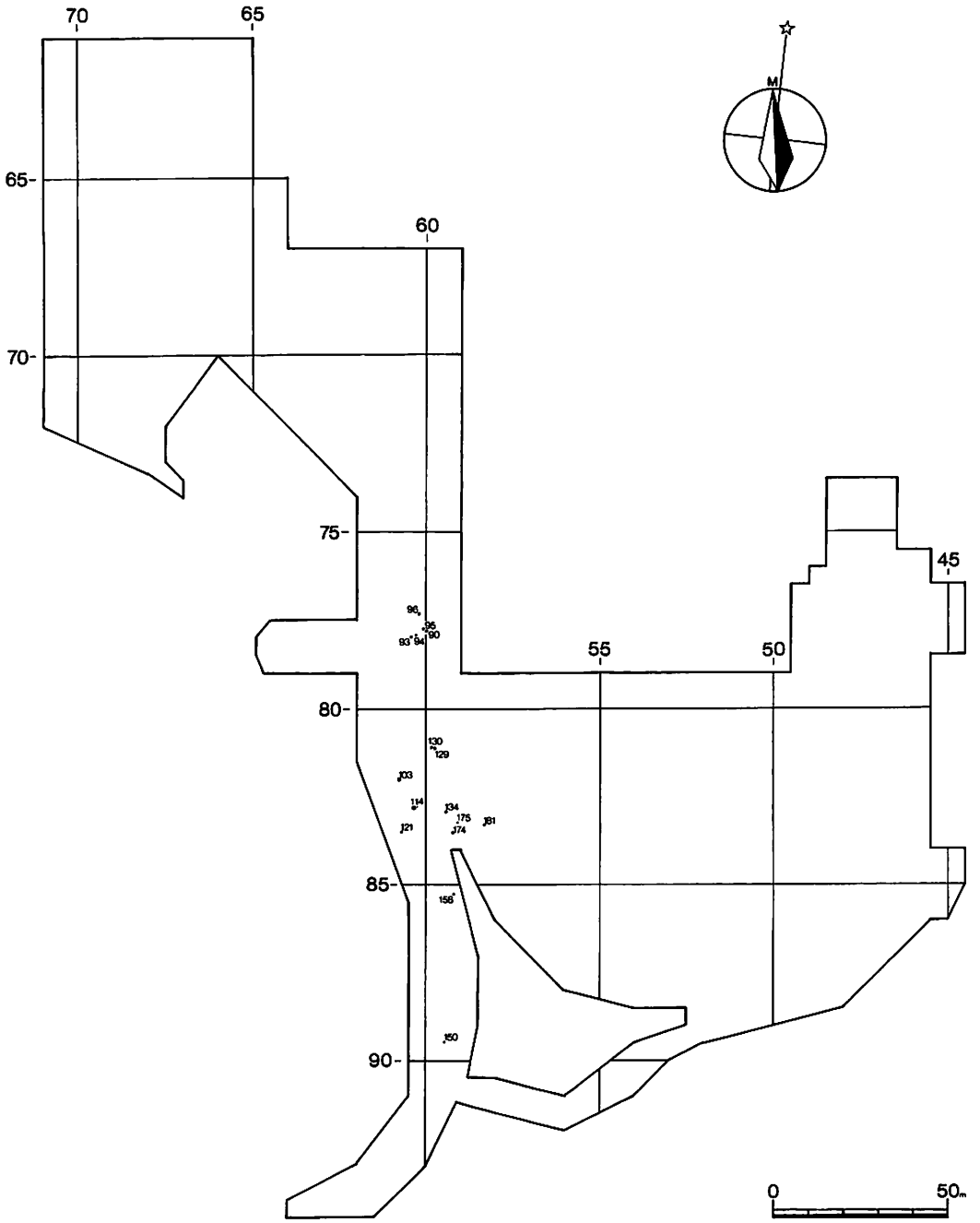
1．黒色土
2．暗褐色土
3．暗褐色土(黄褐色土粒を含む)
4．暗黄褐色土

0　1m





0　5　10cm



縄文晩期の遺構位置図

3．縄文晩期の遺構

縄文晩期の遺構には多量の礫などが入った土壙と土器片などの入った土壙がある。前者には割れた石皿の入った土壙（P-181）、石皿と礫の入った土壙（P-134･158）と、割れた礫の入った土壙（P-121・150）がある。後者にはP－94・95・175のように土器片が検出された土壙などがある。

P－181

調査区の中央部、58－83区に位置する。壙底から覆土にかけて3～5個体の石皿を54個に砕いて入れている。全て安山岩を用いている。図示したものは、それらのうち使用痕・加工痕のみられるものである。1は表裏に縄文の施された胴部片。やや厚手で焼成は堅緻、黄灰褐色を呈する。Ⅳ群a類であろう。石皿の重さは、2－1,000g、3－640g、4－87.8g、5－110.4g、6－112.6g、7－190.7g、8－665g、9－641g、10－352.6g、11－1,947g、12－293g、13－123.4g、14－268.7g、15－180.9g、16－298.1g、17－1,582g、18－489.8g、19－670g、20－268.6g、21－83.7g、22－190g、23－710g、24－816g、25－503g、26－1,207g。

P－134

59－82区に位置し、西北西に約11m離れてP-181がある。壙底から覆土にかけて割れた石皿と礫を40点検出した。1～4は石皿。全て安山岩を用いている。各々の重さは1－2.9kg、2－2.4kg、3－1.65kg、4－1.25kg。

P－158

59－85区に位置する。壙底から覆土にかけて石皿と礫を27点検出した。1は石皿。安山岩を用いている。重さは6,490g。他の礫はすべて円礫である。

P－121

P-134の西南西に約13m離れた60－83区で検出された。壙底から上部に礫を57点検出した。

P－150

調査区南側の59－89区に位置する。壙底から覆土にかけて割れた礫を32点検出した。

P－96

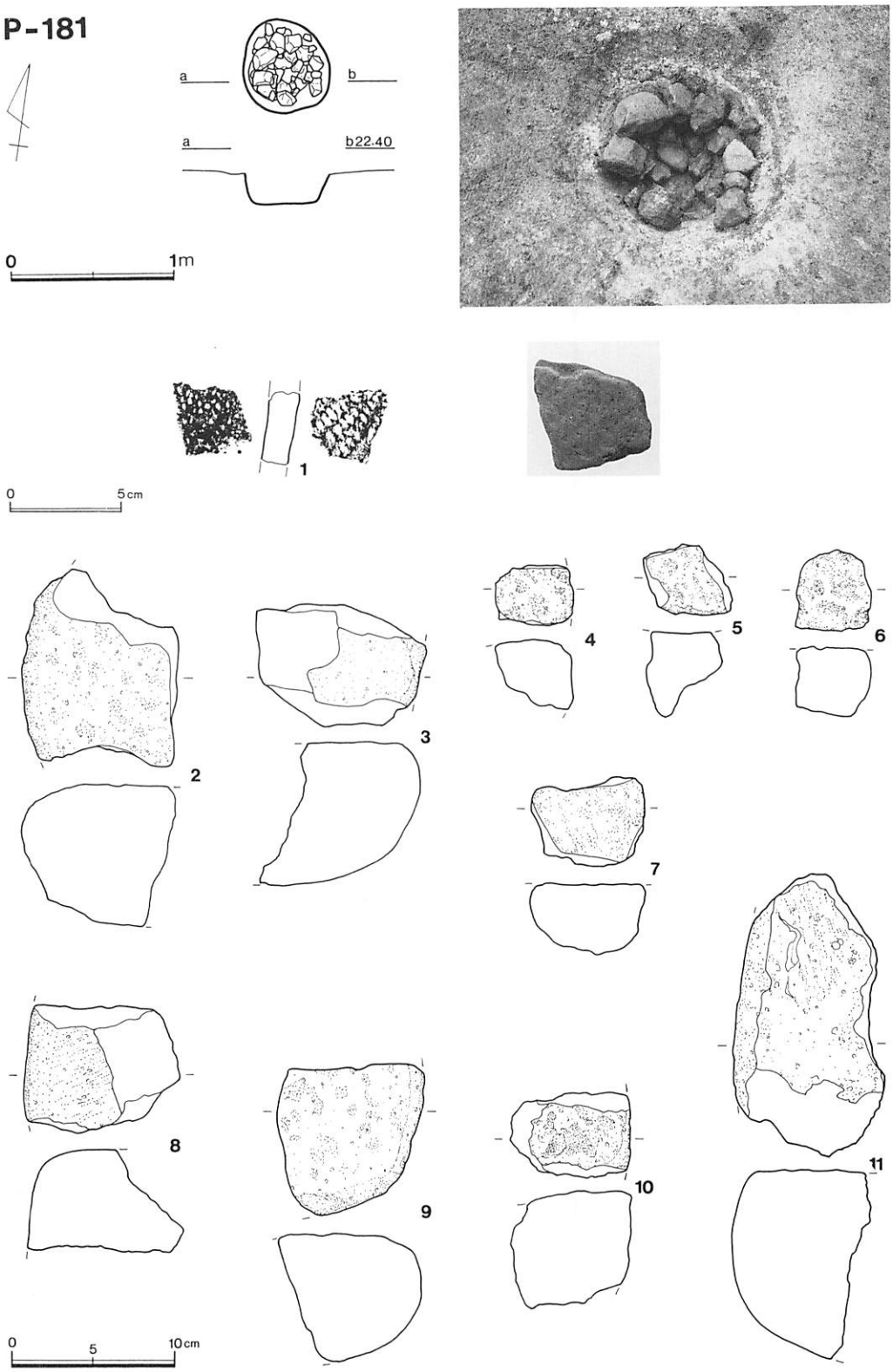
調査区中央の60－77区で検出された。覆土出土の1は土器片だが、表裏が剝落している。

P－95

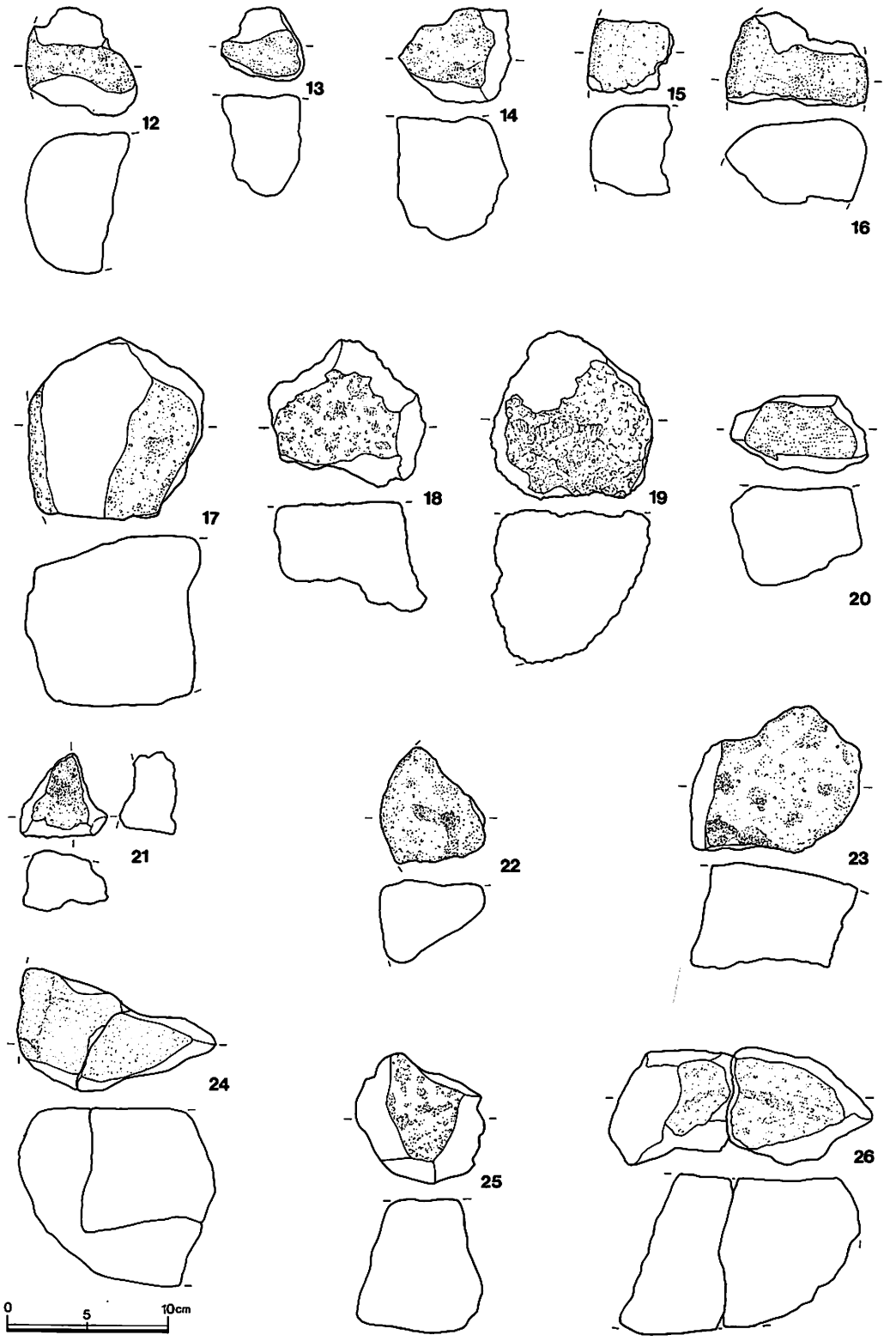
P－96の北北東約4mに位置する。壙底から土器を検出した。いずれもⅤ群c類。1は山形の突起部が1ヵ所現存する浅鉢形土器で、突起下に楕円の窓が穿れており、口唇の内側には縄文が、外側には縄による刻みが加えられている。底はやや丸く不安定。2は沈線が描かれた薄手の口縁片。3・4は壺形土器の破片で、口唇の内外に縄による刻みがあり、半截竹管状工具を利用した平行沈線文と連続刺突文がみられる。5・6は別個の胴部片で、7はやや丸底的。

P－94

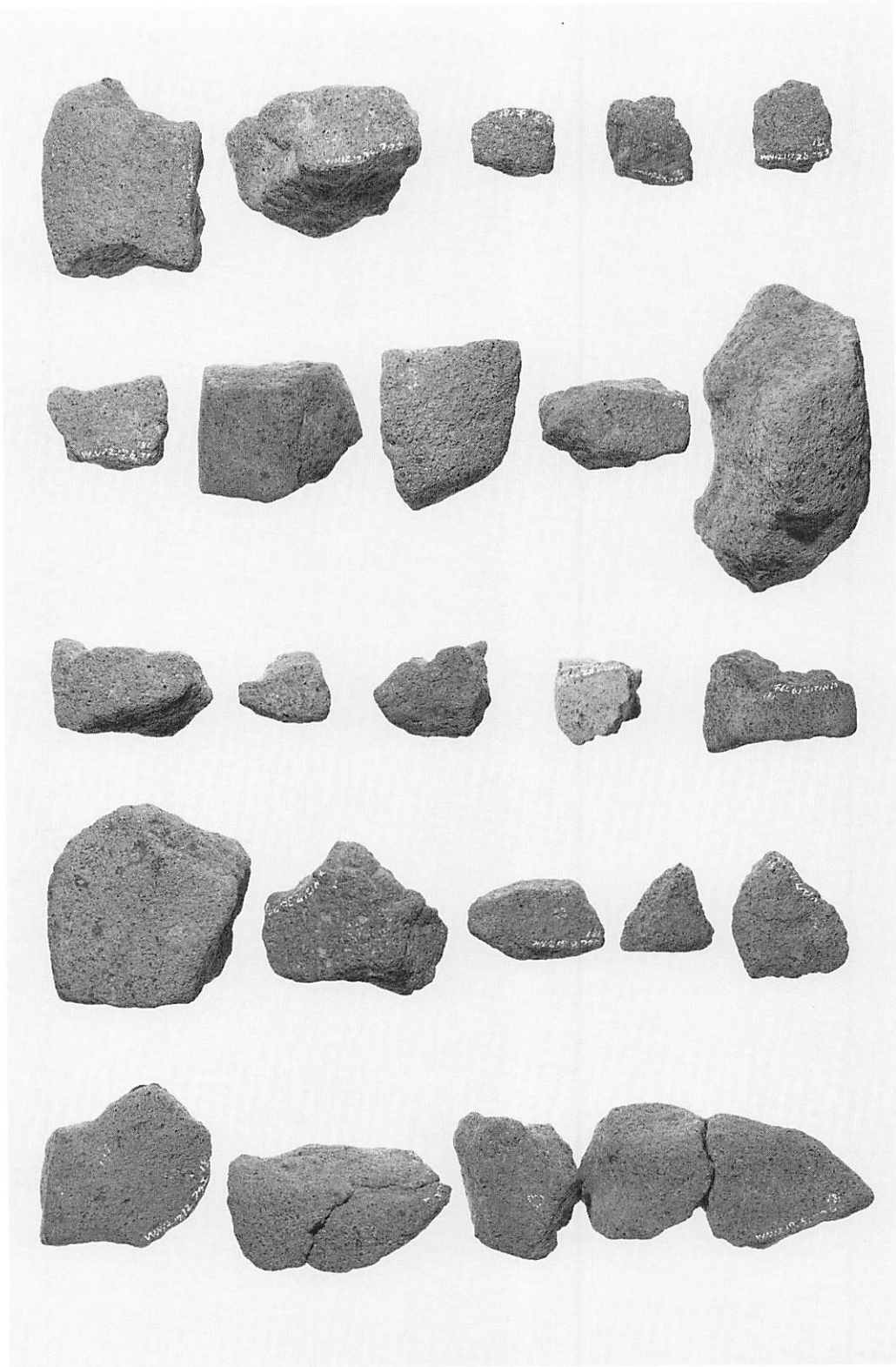
P－95から南西に約2m離れて検出された。壙底に近い覆土から土器を検出した。1は直状に開く深鉢形土器の口縁片で、4本の平行沈線文がめぐるほか、切出し状につくられた口唇内



P—181

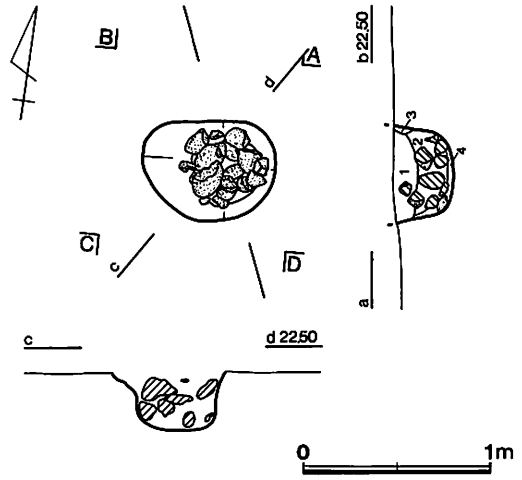


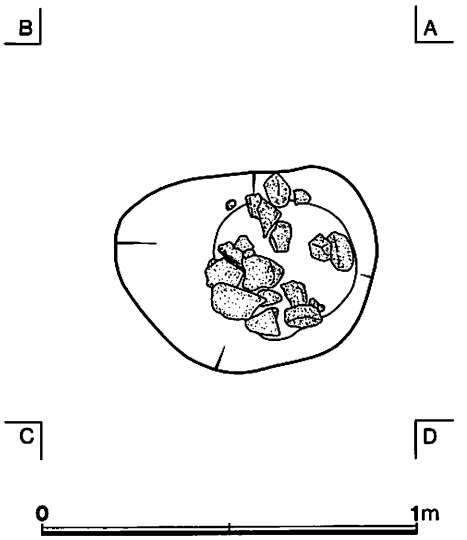
P—181の出土石器



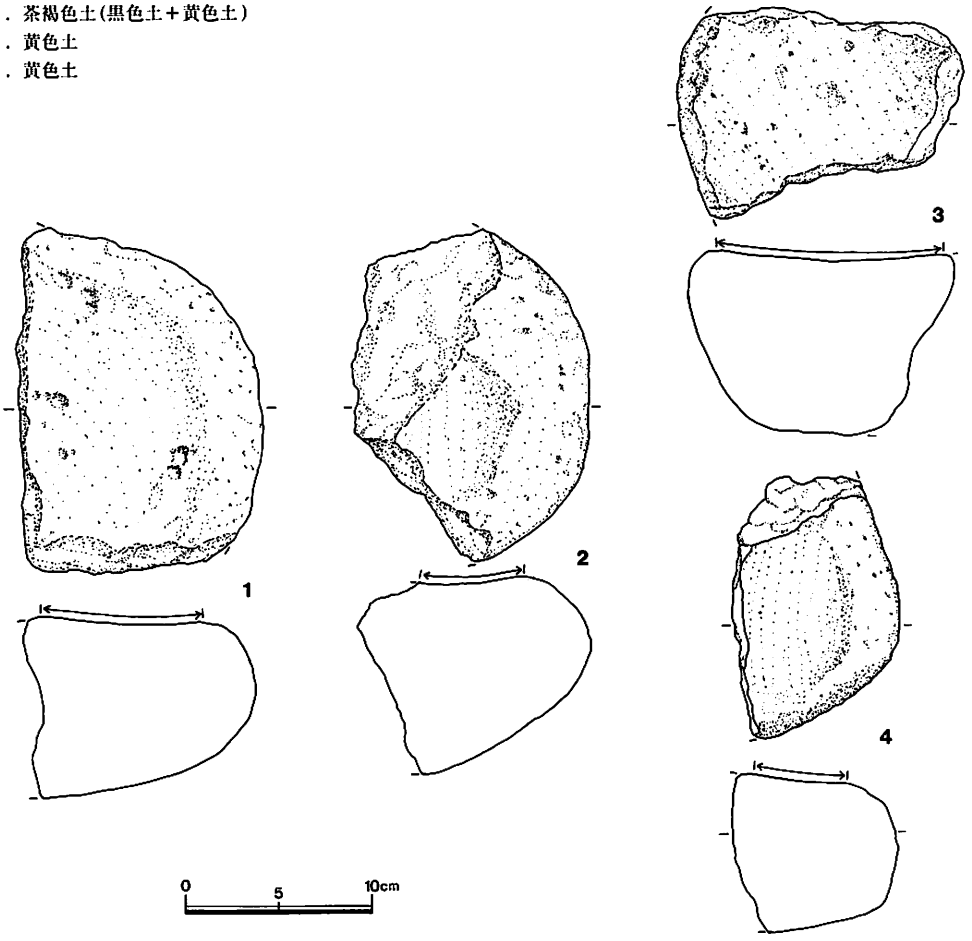
P—181の出土石器

P-134

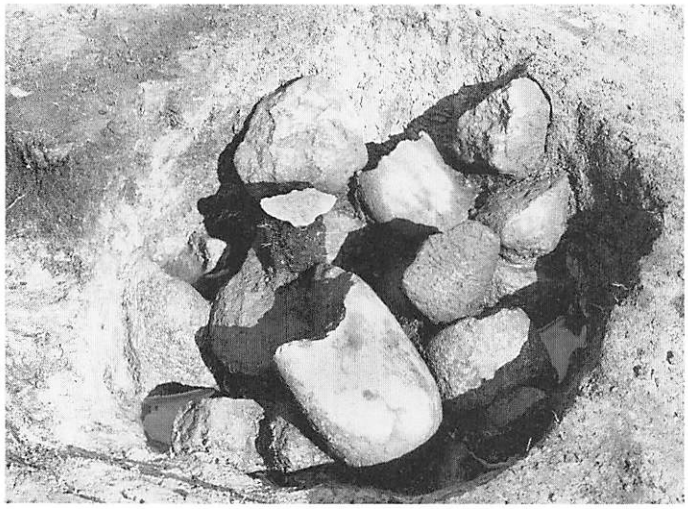


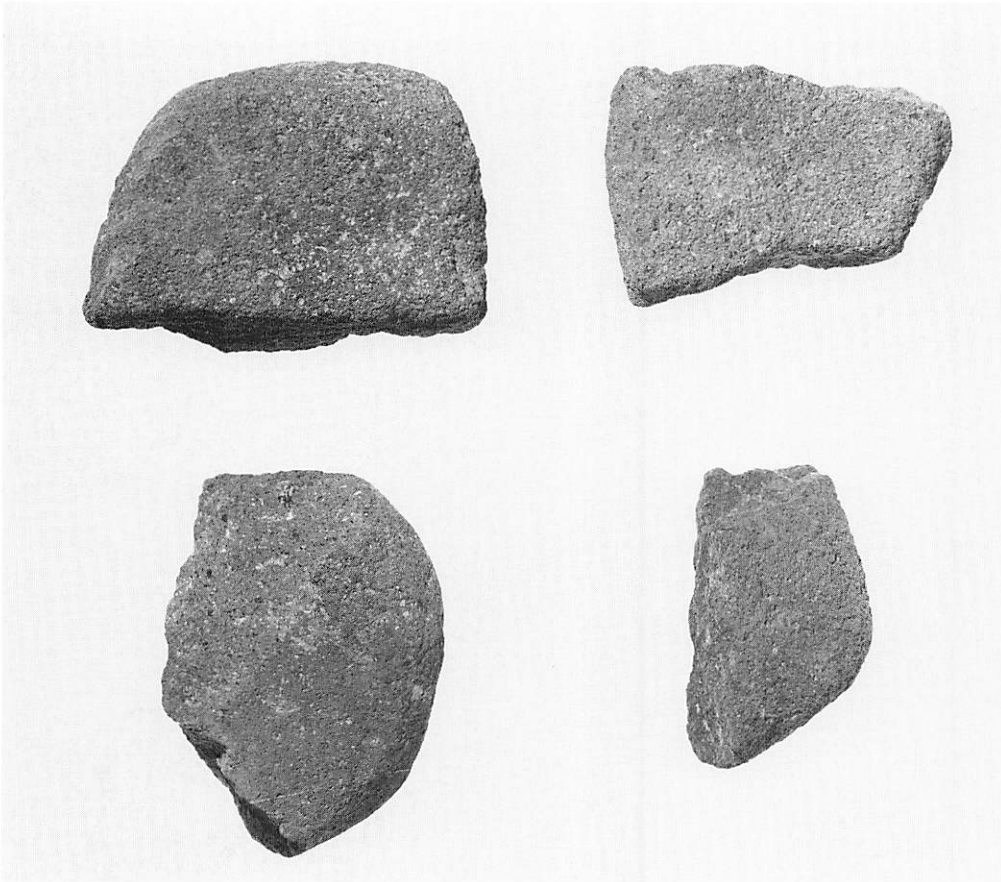


1．黒褐色土(炭化粒を含む)
2．茶褐色土(黒色土＋黄色土)
3．黄色土
4．黄色土



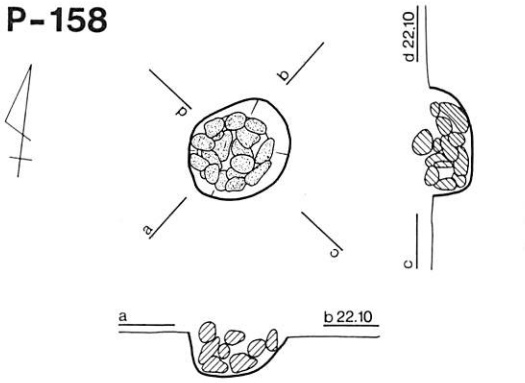
P—134

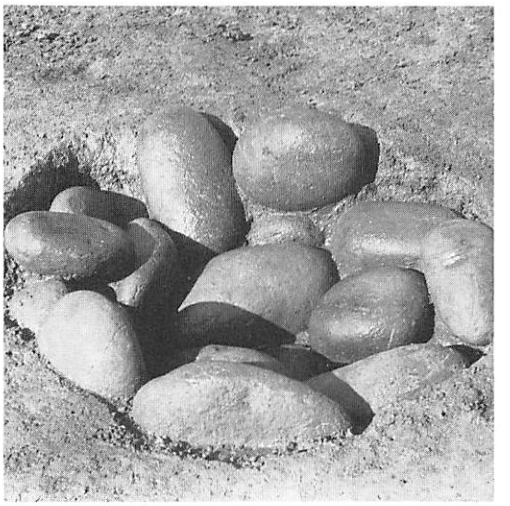


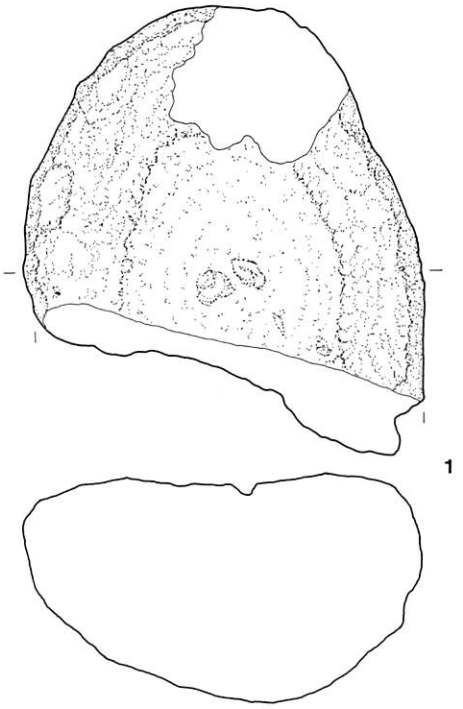


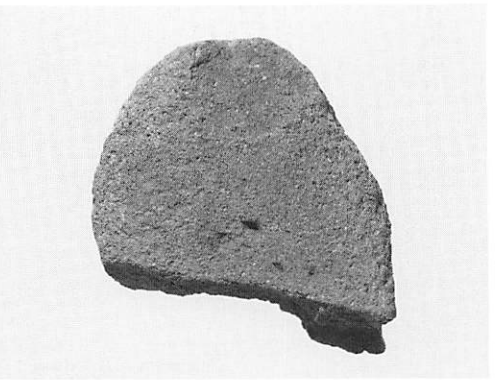
P—134

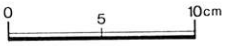
P-158





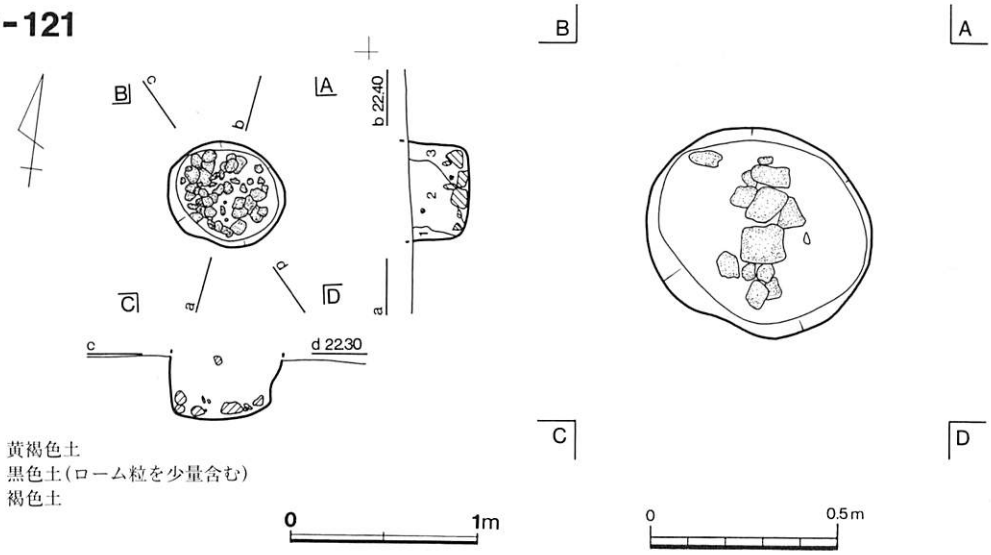






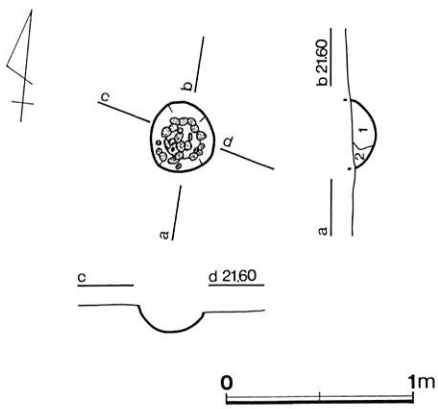
P—158

P-121



1．黄褐色土
2．黒色土(ローム粒を少量含む)
3．褐色土

P-150



1．暗茶褐色土
2．褐色土

P—121・P—150

側には縄文が、外側には丸棒状工具による刻みが施されている。2はやや厚手の口頸部の破片で、横位の沈線文と刺突文列がみられる。ともにⅤ群c類。他に壙底から礫を2点検出した。

P－93

P－94の西南西側約1mの距離に位置する。遺物は検出していない。

P－90

P－95の南側に約8m離れた60－78区に位置する。壙底は丸味をもつ。1～5は壙底付近から検出された同一個体のⅤ群c類土器。頂部に押圧の加えられた幅広の突起があり、平行沈線文と連続刺突文がめぐる口縁下には、連続刺突文に区画された指頭幅の無文帯がみられる。

P－129

調査区の中央59－81区に位置する。覆土1に炭化物とロームブロックが認められた。1・2は壙底近くに見出されたⅤ群c類土器。1は浅鉢形で、口唇内側に刻みが加えられたもの。2は別個体の胴部片。3は覆土上部出土の摩耗したⅢ群b－3類土器。4は石斧。素材は泥岩を用い、打ち欠きと研磨による成・整形がみられる。刃部の欠けた綾線は摩耗しており使い込まれたものであろう。裏面は剝落している。重さは42.5g。他に礫と黒曜石剝片各1点が出土した。

P－130

P-129の10cm西側に隣接する。覆土上部から2点のⅤ群c類土器が検出された。1は口唇内側に5段の撚紐圧痕文、刺突文そして縦位の沈線を刻む口縁片。2は単節斜縄文のある破片。

P－103

調査区中央の60－82区に位置する。1は覆土から得られたⅤ群c類土器の口縁片で、切出し状につくられた口唇内側に撚紐圧痕が縦に並ぶもの。他に礫1点、黒曜石剝片2点が出土した。

P－114

P-103の北東約8mに位置する。覆土からⅤ群c類土器の破片が検出されている。1は内面に撚紐圧痕文、刺突文、刻線をもつ口縁片。2～3は口頸部の破片で、沈線による文様が描かれている。3は薄手。5・6はやや摩耗の進んだ胴部片。他に黒曜石剝片4点が出土した。

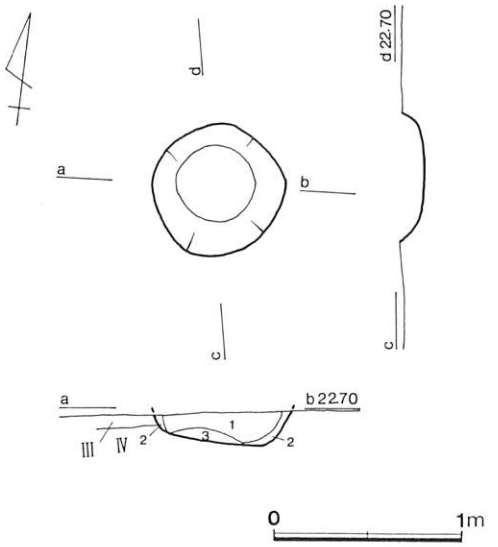
P－175

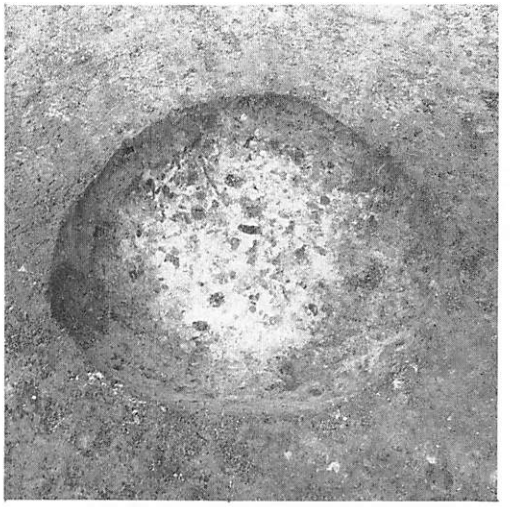
調査区の中央部59－83区で検出された。土器片が、確認面から壙底にかけて斜めに検出された。1はⅤ群c類の口縁片。渦巻状の撚糸圧痕文を付した突起があり、突起下には押圧の刻まれた縦の貼付帯が連結、貼付帯や幅広の無文帯に沿って竹管を利用した刺突文列が加えられている。2・3はⅣ群の、4はⅢ群b類の破片であろう。他に覆土から黒曜石剝片3点が出土した。

P－174

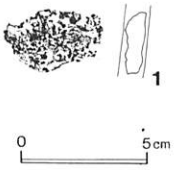
P-175の南南西に約2.5m離れて検出した。壙底には一面に炭化物がみられた。覆土から土器片23点と黒曜石剝片6点、片岩剝片1点が出土し、壙底からはめのう原石1点が出土した。1～6はⅤ群c類の破片。1・2は幅広の沈線によって器面に鎧戸状の効果がみられる口縁片で、口唇内側にも縄文があり、口縁上部と文様帯の下端とに、平篦による刻みが加えられている。6は薄手の底部片でかなり摩耗している。7～8はⅢ群b－3類の摩耗した小破片。

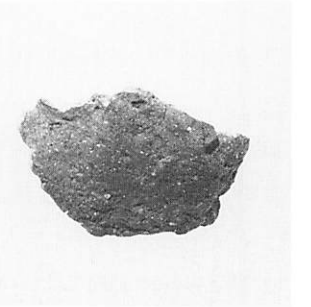
P-96



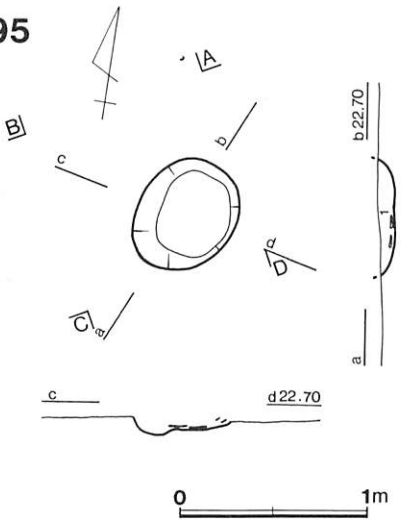


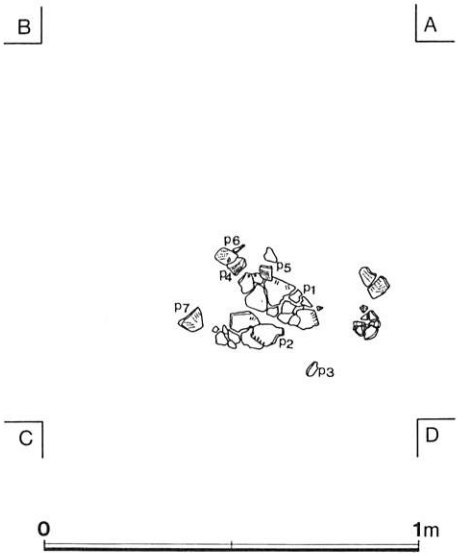
1．黒色土
（ロームブロック少量混じる
木炭混入）
2．黄褐色土
（ロームブロック、ローム粒が
多く混入上部に木炭多し）
3．茶褐色土





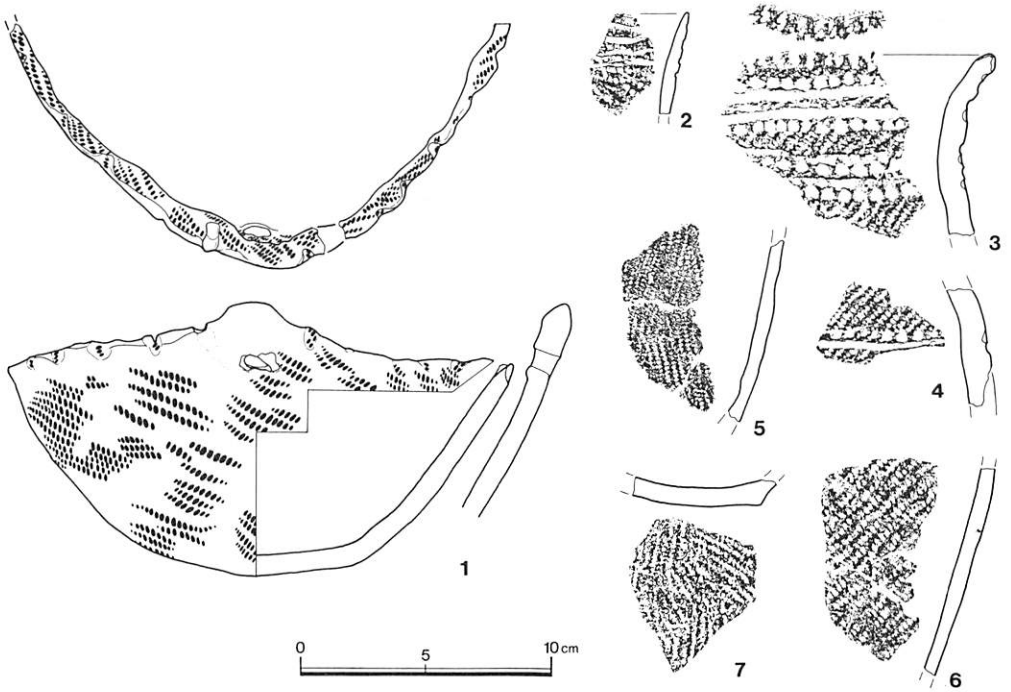
P-95

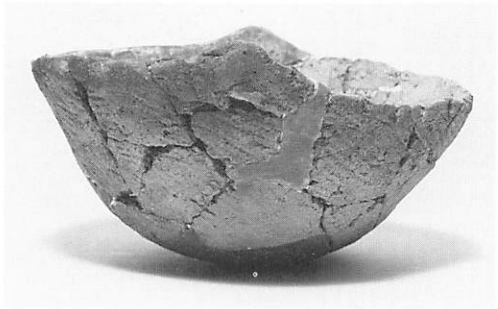


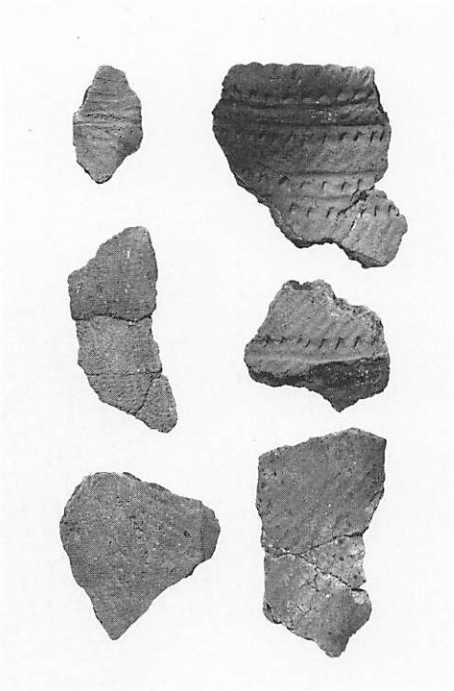


1．黒色土（多少黄色味帯びる、下部は
ロームブロック、ローム粒混じる）

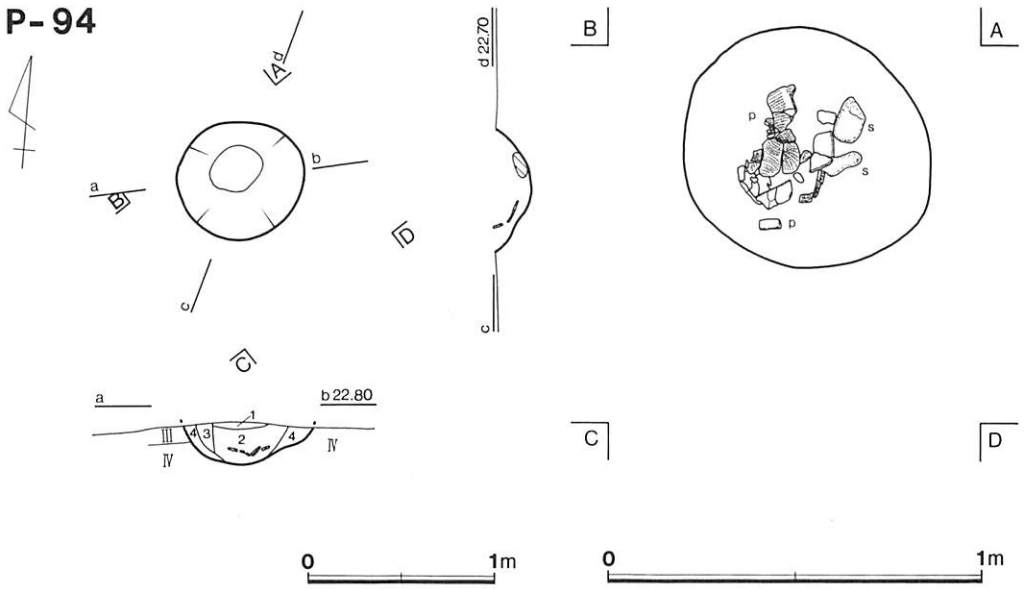
P—96・P—95





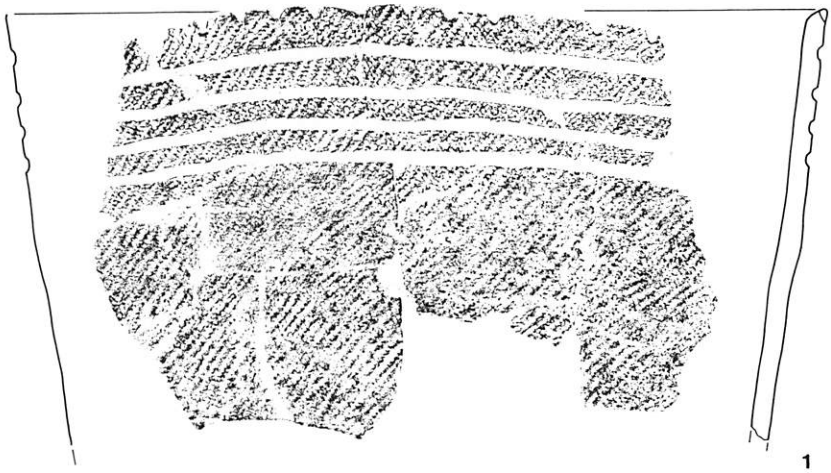


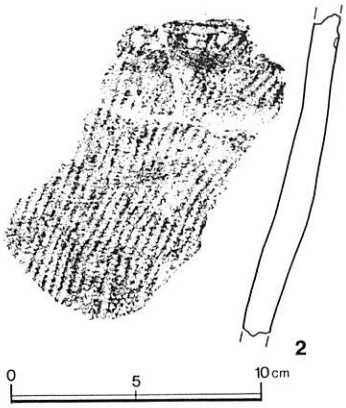
P—95

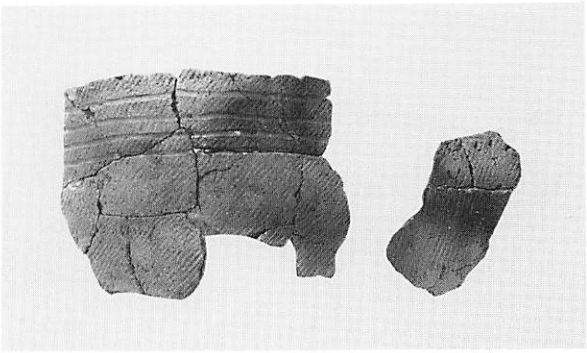


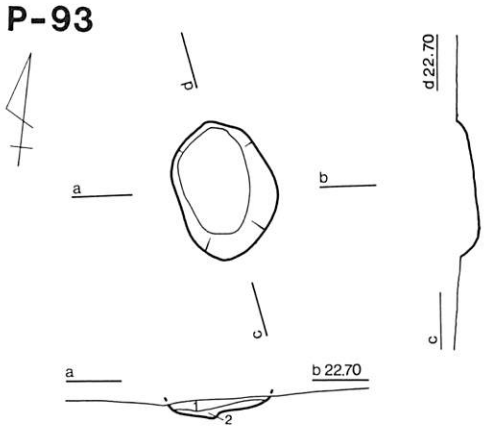
1．黒褐色土(パラパラしている)
2．黒褐色土(1層より明るい)
3．暗褐色土 (2層＋ロームブロック 下部にロームブロックを多く含む)
4．黄褐色土(ロームブロック多く含む)

P—94



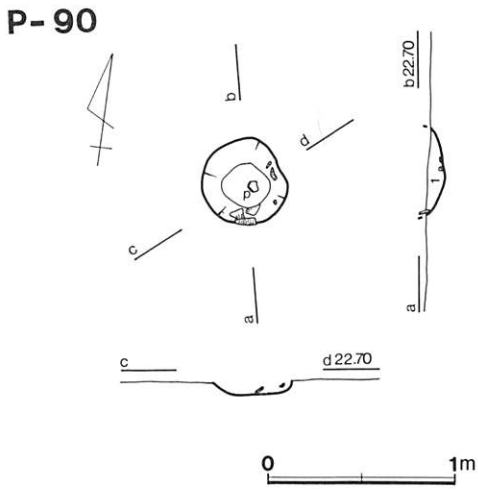




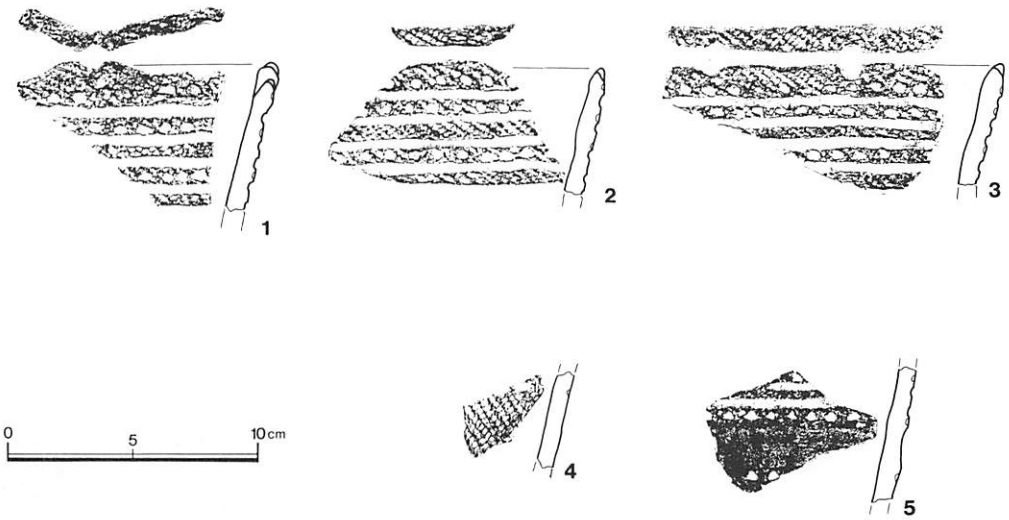


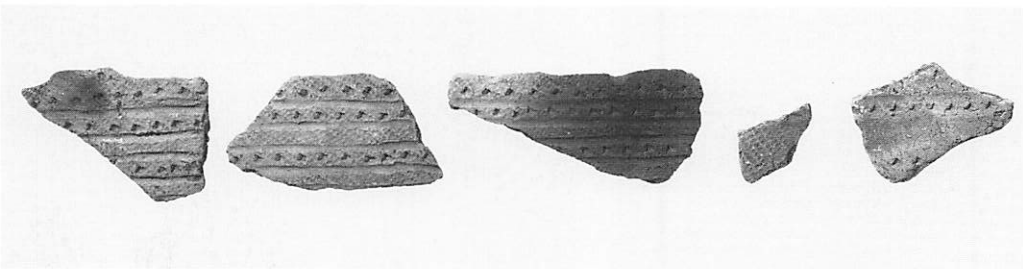
1．黒褐色土(ローム粒少量混じる)
2．黄褐色土(上部にオレンジ色の粒子を含む)

P—94の出土土器・P—93

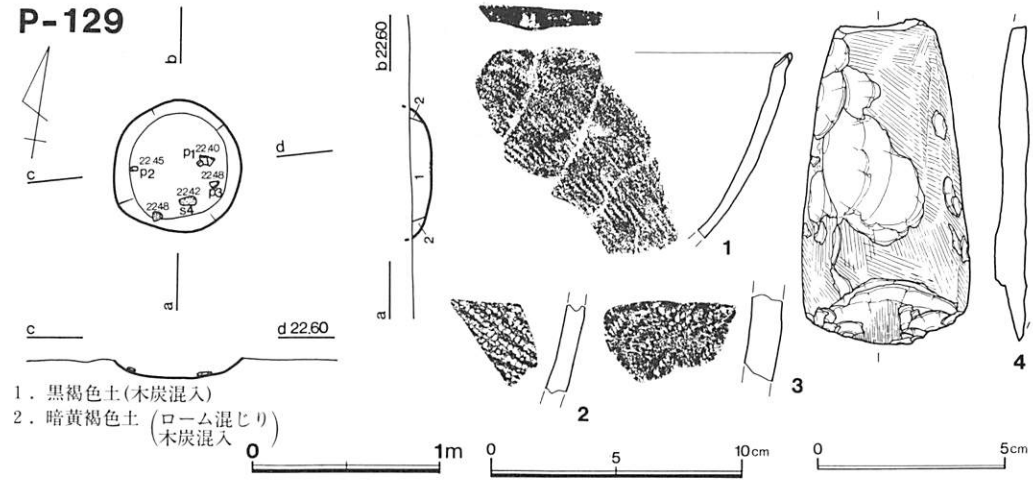


1．黒褐色土

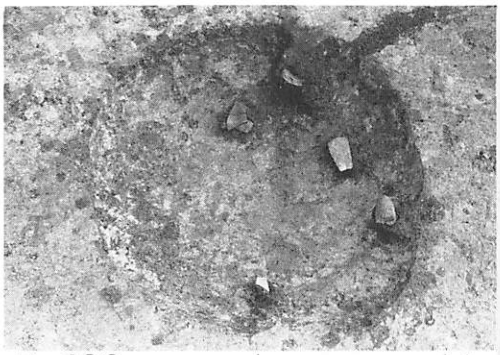


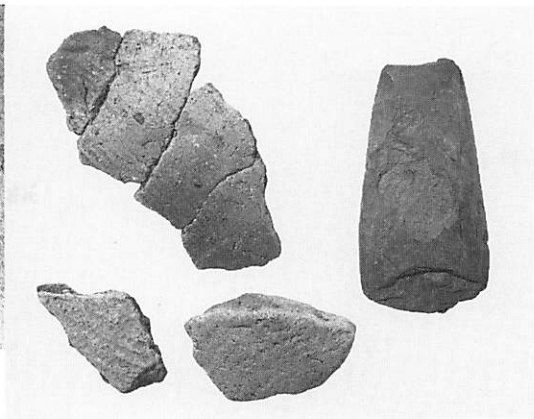


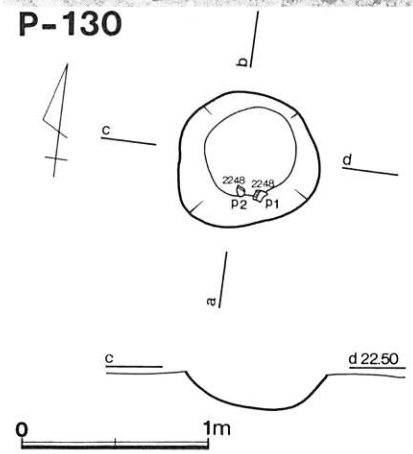
P—90

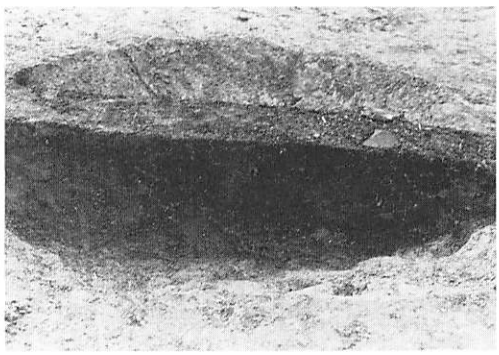


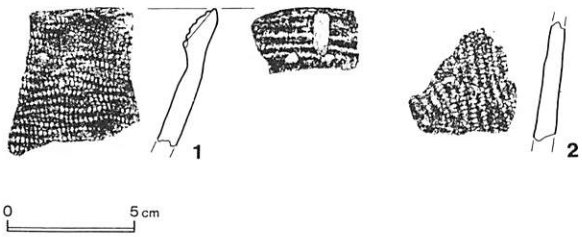
1．黒褐色土(木炭混入)
2．暗黄褐色土 (ローム混じり 木炭混入)



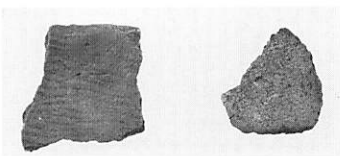






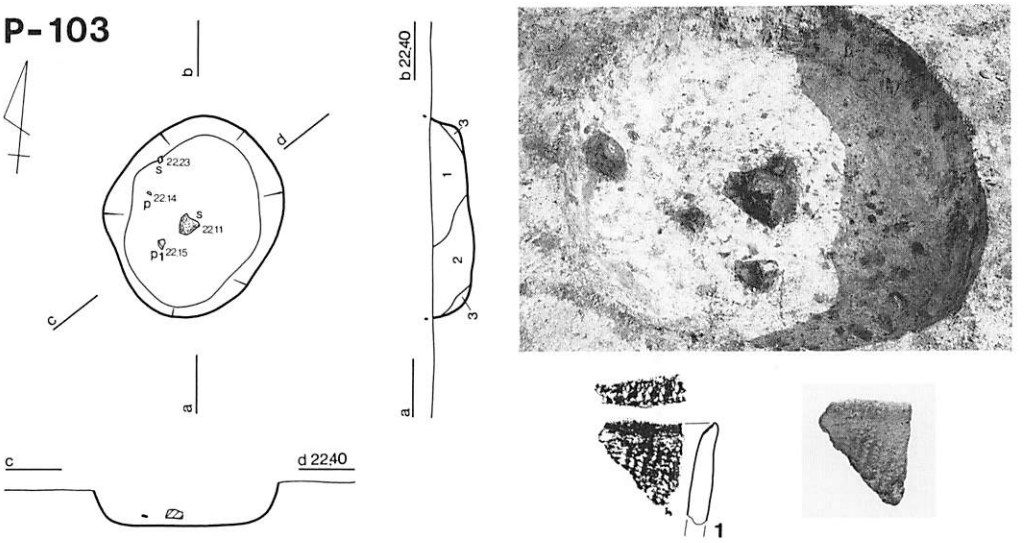


1．暗褐色土
2．黒色土(粒状)
3．暗褐色土>黄褐色土
4．黄褐色土



P—129・P—130

P-103

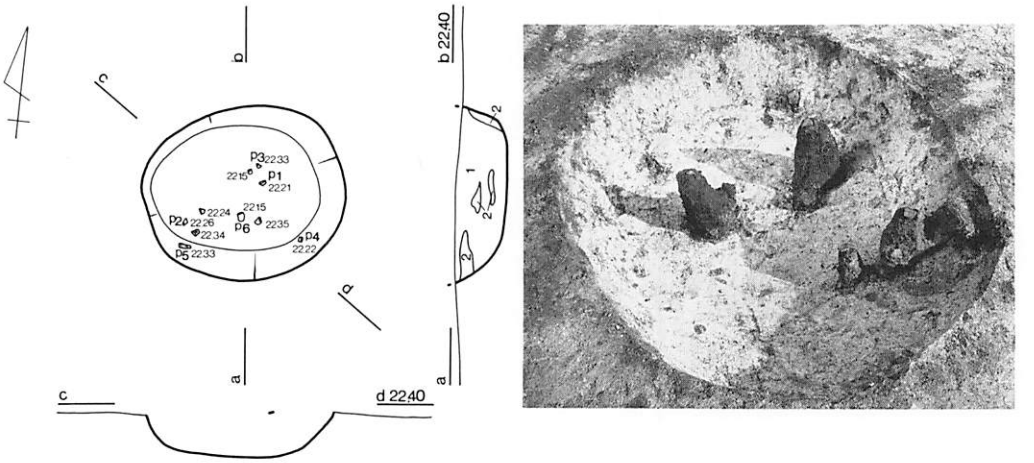


0 1m

1．黒色土
2．黒色土(少量の砂混入)
3．黄褐色土(ロームブロックを含む)

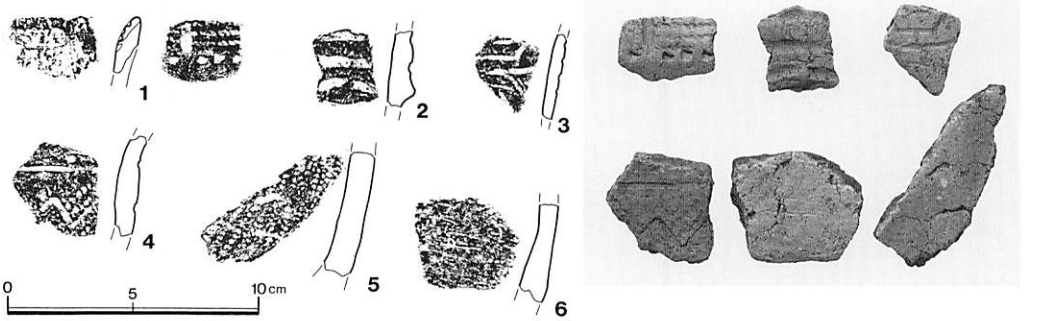
0 5cm

P-114

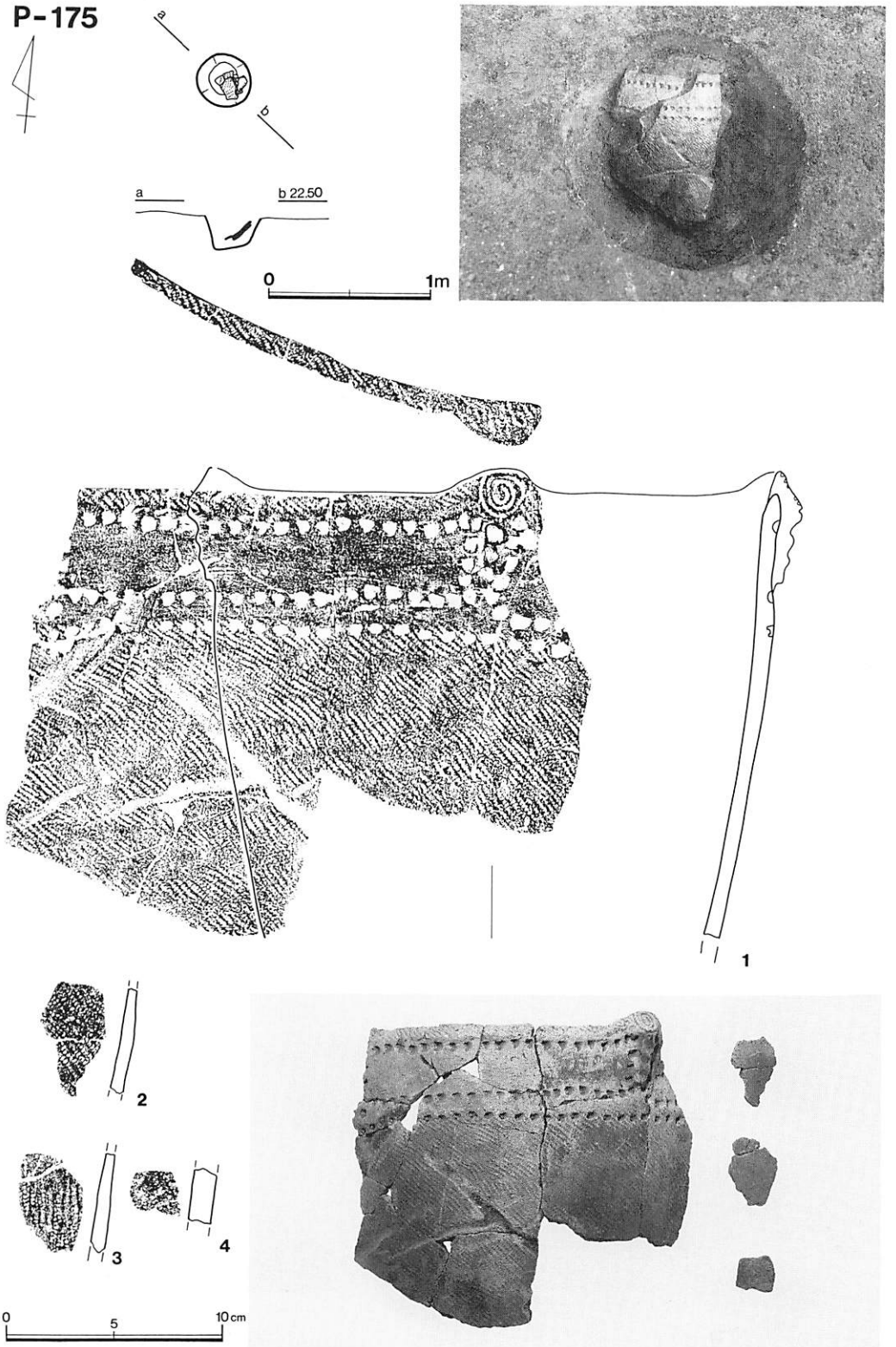


1．黒色土(粒子が細い)
2．黄色土(しま状に入る)

0 1m

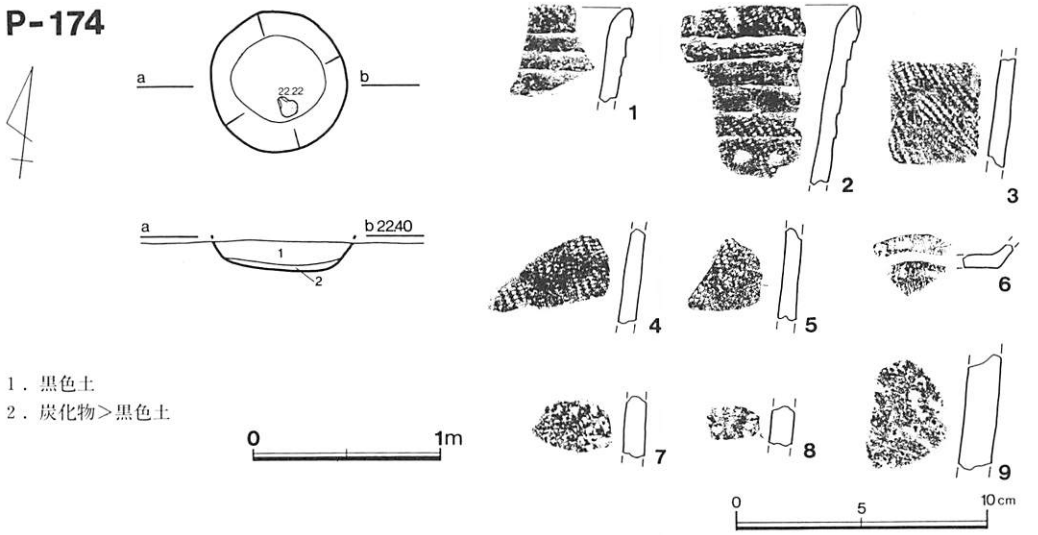


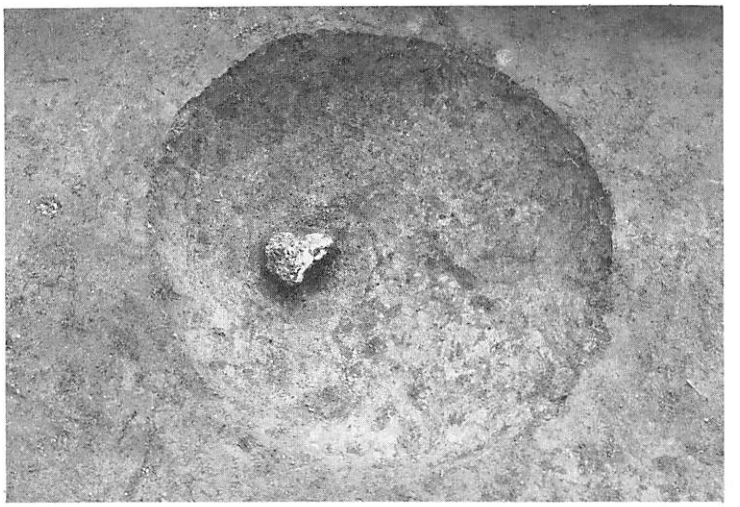
P—103・P—114



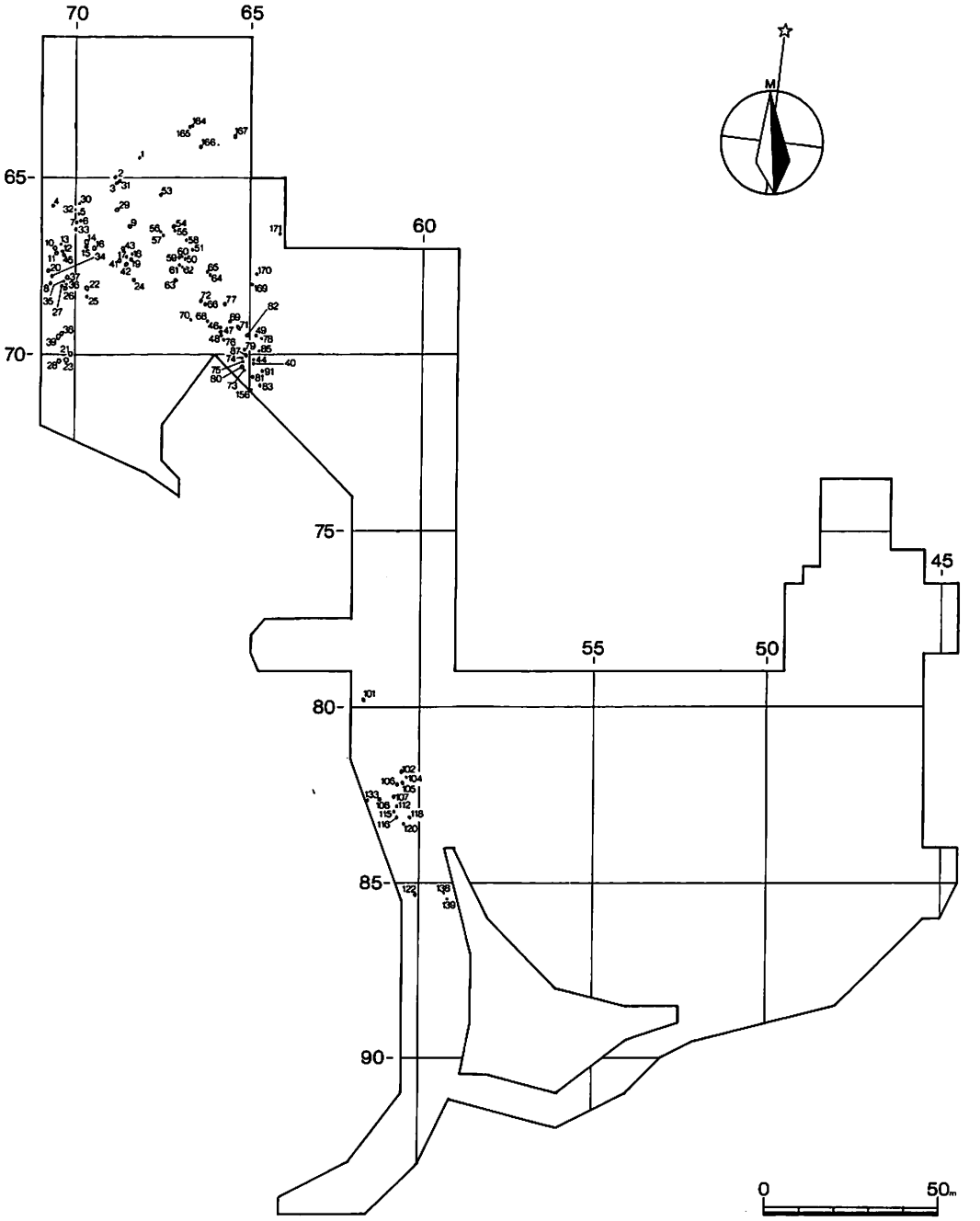
P—175

P-174





P—174



続縄文期の遺構位置図

4．続縄文期の遺構

続縄文期の遺構は土壙が108基検出された。これらの土壙は調査区北西部の土壙群と中央部西側に散在する土壙とが認められる。両者とも沢を見下ろす台地の縁辺部に位置している。

土壙の位置する平坦面は耕作により削平が行われていた。そのため、土壙の検出はⅠ層下のⅢ層中またはⅣ層の上面に至ってなされたものがおおい。大半の土壙の上部が削られており、なかには、僅かに壙底部のみを検出した例も多々ある。

これらの平面形は円形のものが大半を占め、楕円形を呈するものは1割程度である。深さは前述のとおり確認面からのものである。平面形の直径は0.7～1ｍのものが多い。

遺構内から出土した遺物は、礫を割り入れたものや大きな礫または台石など（P-166･56･60･61･169）を入れた例が多い。特に、壙底部に礫の多く伴出したもの（P-26･22･23･32･29･11･12･20･37･39･63･66･48･19）は配石を意図したものと考えられる。壙底に粘土のあるもの（P－26・50・81・22)。土器の小破片が数点から十数点入った例は多いが、復元できたもの（P－28・29・15・48・49・75）は少ない。また、覆土に焼土が堆積していたもの（P－53・60・101）もある。

以下、遺構一覧表の順に報告する。

P－26

調査区北西部の70－68区で検出した。壙底の西半部壁際2ヵ所から粘土が出土した。1～3は覆土中に見出されたⅥ群土器の破片で、微隆起線文に縁どられた帯縄文と、三角列点文とがみられるもの。4も覆土から採集された胴部片で、Ⅲ群b－3類に属するもの。5はたたき石。安山岩を用い、側辺と端部に敲打痕がみられる。重さは190.1g。他に円礫8点が出土した。

P－50

調査区の北西側66-67区に位置する。壙底から粘土が出土した。他に遺物は検出していない。

P－81

64－70区に位置する。壙底から粘土と礫3点が出土した。

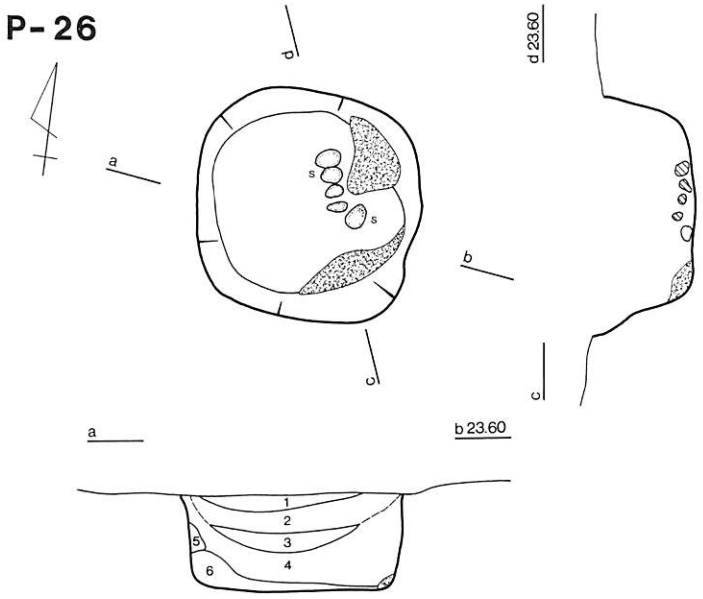
P－22

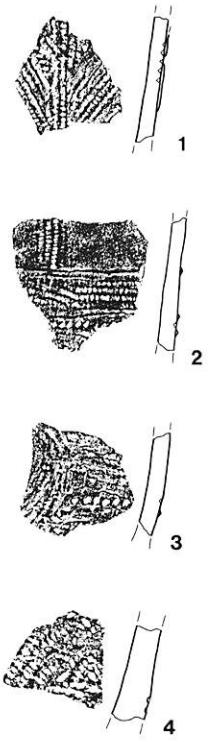
69－68に位置する。北側の壙底隅から粘土を検出した。1は覆土出土のⅥ群土器で、四角な口唇上にも縄文が施された口縁片。器面には、単節ＲＬ原体を斜位押捺した帯状の縄文が、横位に2段重ねられている。薄手で焼成は堅緻。2はスクレイパー。珪質頁岩を素材にしている。片面加工の欠損した、つまみ付ナイフの可能性がある。重さは4.8g。3は使用痕・加工痕のある黒曜石剝片。重さは1g。他に礫6点、黒曜石剝片5点、泥岩剝片2点が出土した。

P－21

調査区西端の70-69･70区に位置した緩斜面に位置する。P-21･23･28と弧状に並んで出土した。1～3は覆土から得られたⅠ群b－2類土器の破片。1は口唇に棒状工具による押圧が刻まれた口縁片で、2は胴部片。3は底面へ移行する屈曲部に短縄文が加えられたもの。以上のほか図はないが、Ⅵ群土器の小片が11点出土している。他に礫と黒曜石剝片各1点が出土した。

P-26



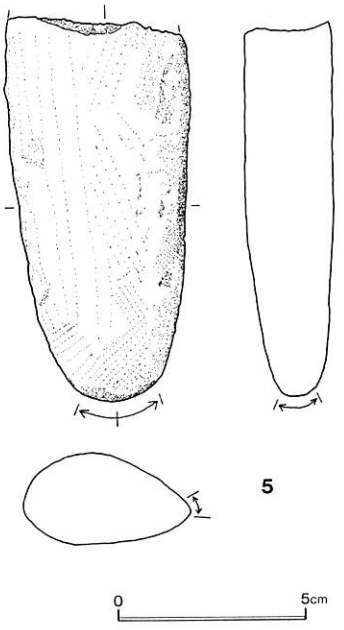


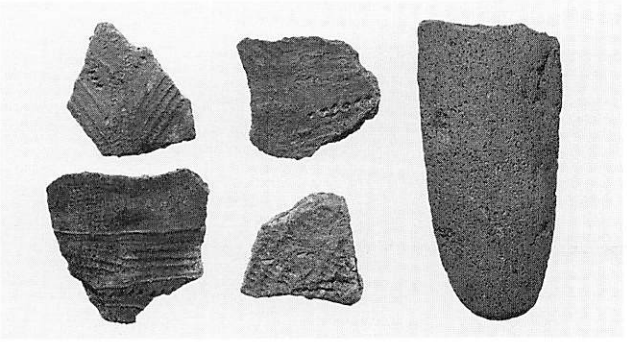
青灰褐色粘土

0 1m

1．黒褐色土　　4．暗黄褐色土
2．茶褐色土　　5．黄褐色ローム
3．黒色土　　6．茶褐色土

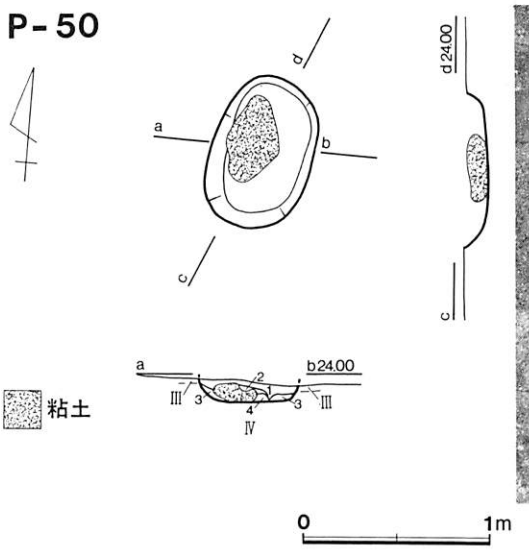
0 5 10cm

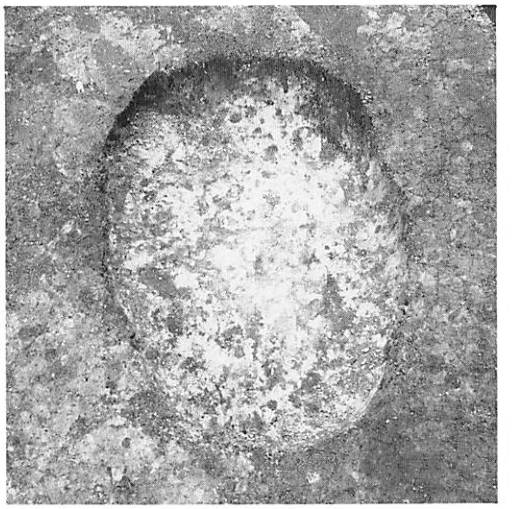




P—26

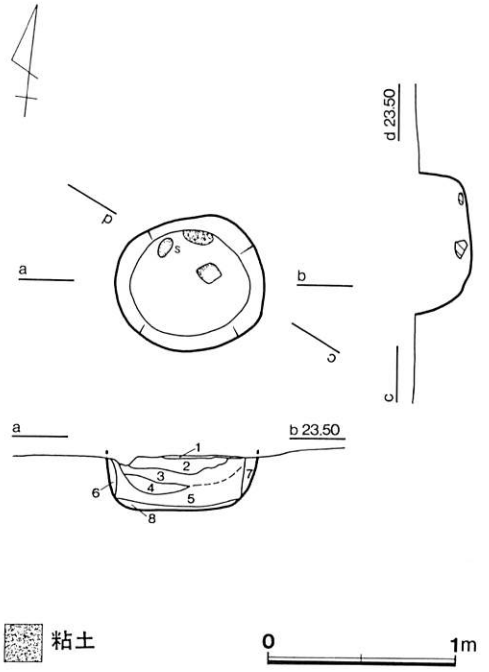
P-50



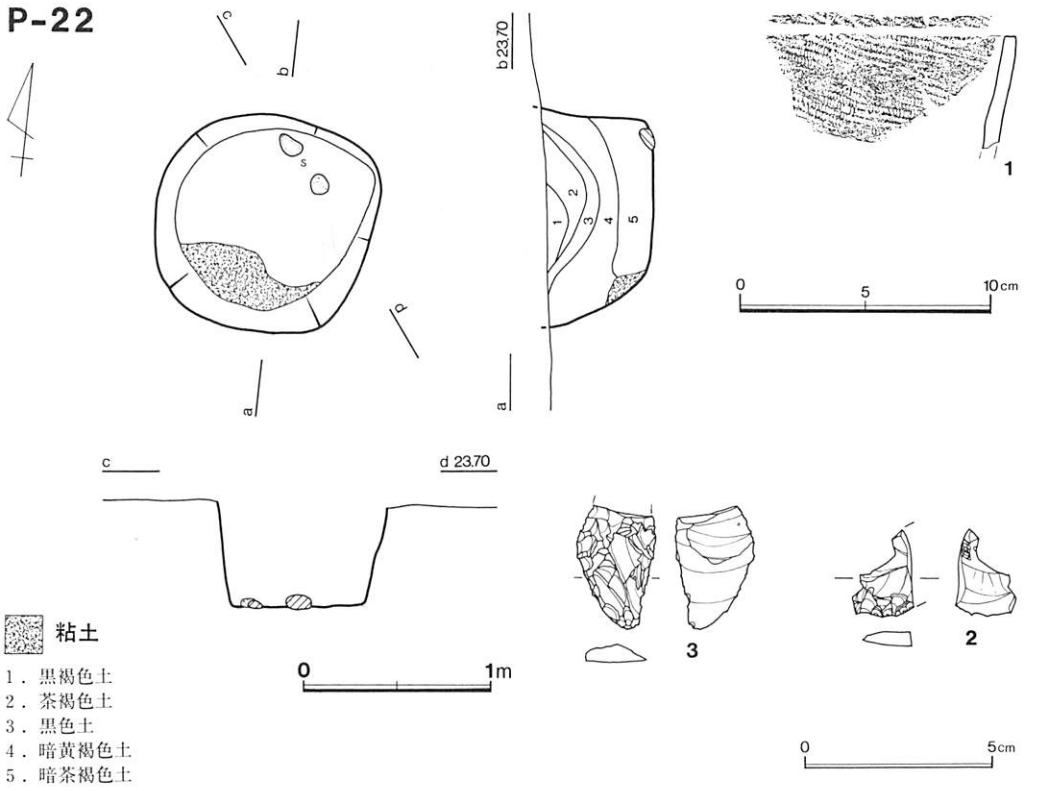


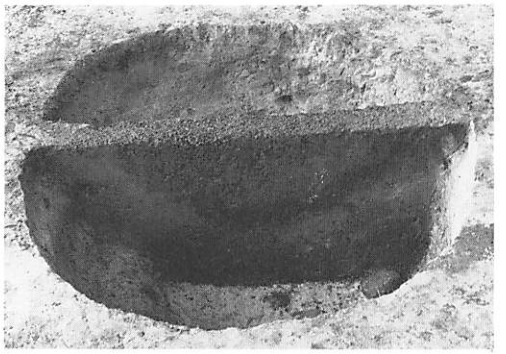
1．黒褐色土
2．暗茶褐色土
3．黒褐色土（ローム粒を含む）
4．暗灰色土

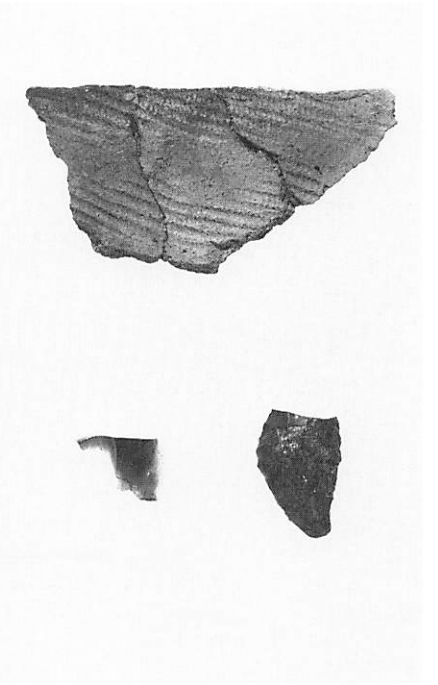
P-81



1．暗褐色土
2．黒色土（きめが荒い）
3．明黒色土（やや粘性がある）
4．黒色土（3層より粘性がある）
5．黒色土（粘性がある）
6．暗黄褐色土（まだら状に黒色土を含む）
7．暗黄褐色土（3層黒色土が混り粘性がある）
8．黄褐色土（黒色土を少し含む）

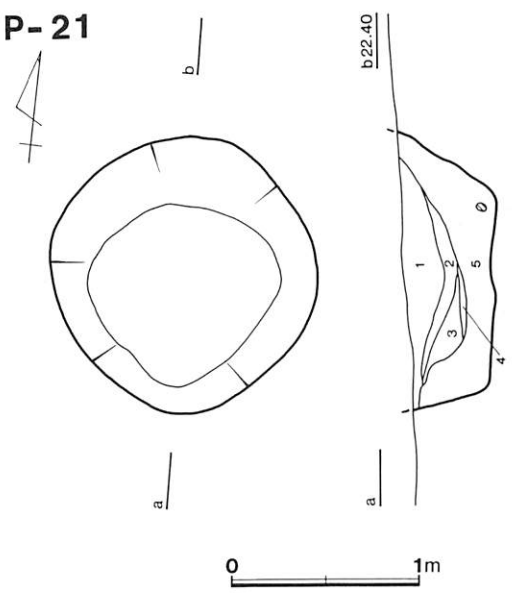

P-22
b 23.70
c
d 23.70
0
1m
0
5
10cm
0
5cm
1
2
3
粘土
1．黒褐色土
2．茶褐色土
3．黒色土
4．暗黄褐色土
5．暗茶褐色土

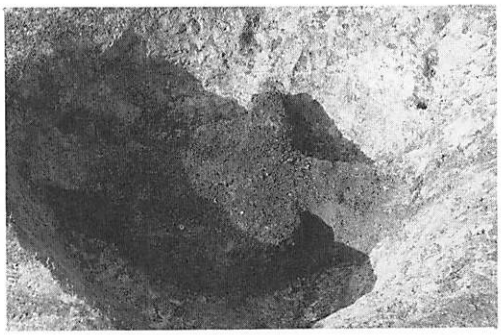


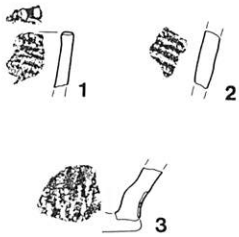


P—22

P-21



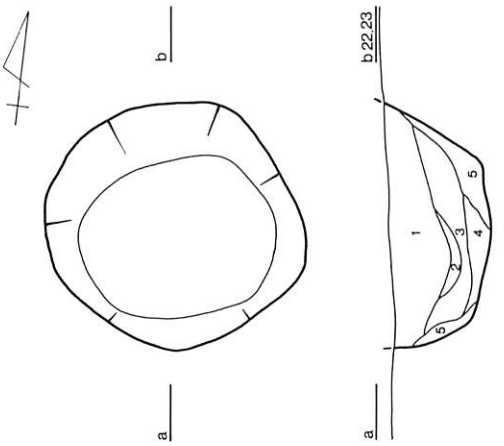


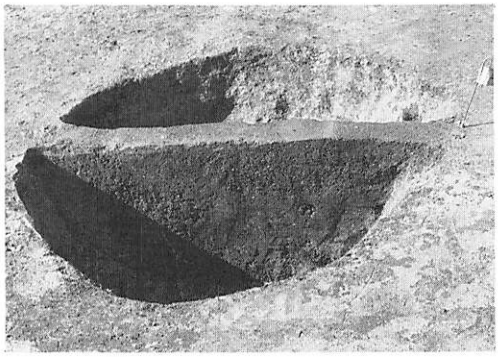


1．茶褐色土　　4．黒色土（骨片を含む）
2．黒褐色土　　5．黄褐色ローム
3．暗茶褐色土

0　5　10cm

P-23

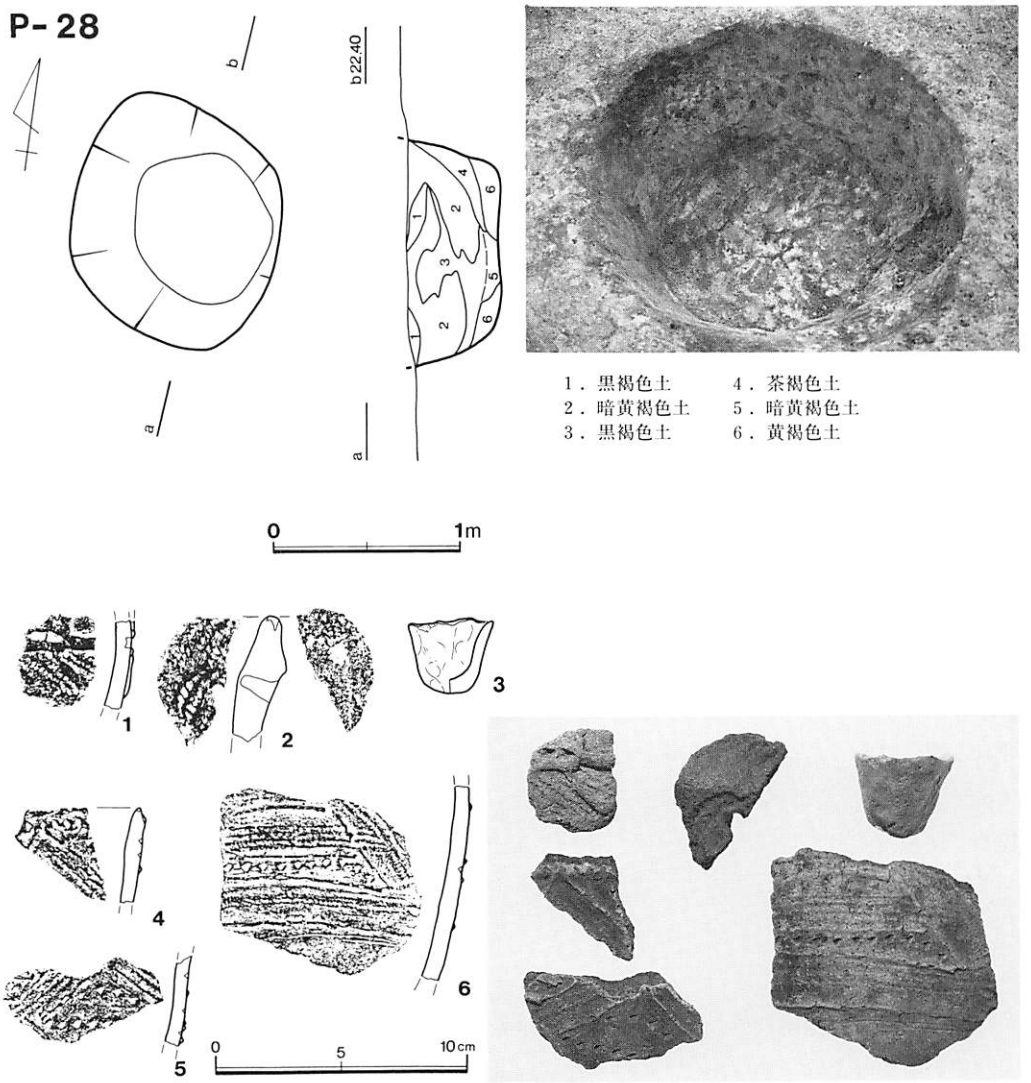




1．暗茶褐色土　　4．暗黄褐色土
2．黒色土　　5．黄褐色ローム
3．茶褐色土

0　5cm

P—21・P—23



P—28

P－23

P－21の南側50cmに隣接する。1は覆土から採集された土器片で、損耗のため文様などは判然としない。胎土、焼成からⅠ群b－2類と考える。他に礫21点と黒曜石剥片7点が出土した。

P－28

P－21の南西側2.5mに位置する。1は結束第一種羽状縄文に貼付文と刺突文列とが付加されたⅢ群a類土器。2はⅢ群b－3類の口縁片で、口唇に刻まれた押引きが1つ残っている。3は口唇の細い無文のミニチュア。4～6は口唇直下に貼付帯がめぐり、微隆起線を伴う帯縄文や三角列点文が特徴的なⅥ群土器。他に礫4点と黒曜石剥片6点、片岩剥片1点が出土した。

P－166

調査区の南側66－64区に位置する。壙底はやや凹凸のある皿状。南西側の壙底直上から台石が出土した。1は台石。安山岩の角の取れた礫を素材に、両面を使用している。重さは5.84kg。

P－2

調査区南側の68－65区で検出した。南西側にP－3・31がある。壙底の北と南はやや窪んでいる。壙底直上の西側から円礫1点が出土した。

P－32

70-65区に位置する。南北にP-5･6･7･30･33がジグザグに並ぶ。1・2は覆土出土のⅥ群土器で、1は口唇直下に刻みのある貼付帯を横環させた口縁片。ともに微隆起線文に縁どられた帯縄文と三角列点文がある。3はⅢ群b－3類の破片。他に礫7点と泥岩剝片2点が出土した。

P－29

68-65区で検出した。北側に約8.5mの距離をおいてP-2がある。壙底部から礫とともに30点を超えるⅥ群土器の破片が見出された。1は口唇直下に刻みのある貼付帯がめぐる口縁片で、微隆起線文はみられない。2は摩耗の進んだ胴部片で、三角列点文や帯縄文などが看取される。3は大きく接合した2つの破片から、最大径を24cm程と推定した、丸くふくらむ胴部片。微隆起線文に縁どられた帯縄文が縦、横、弧状に配されている。列点文はみられない。3はラウンドスクレイパー。素材は黒曜石。重さは6.4g。他に礫8点と黒曜石剝片2点が出土した。

P－30

P－32から北北東側に約1.5m離れた、69－65区に位置する。壙底は平坦である。礫が壙底面の北側に1点と南側に2点出土した。

P－5

69-66区に位置する。北側約2mにP-30、北西約1mにP-32がある。覆土上部に炭化物が検出された。覆土中から3点のⅥ群土器の破片が採集された。1は平縁の口縁片で、口唇と貼付帯とに刻みがあり、横帯縄文が施されている。2は波状の口縁片で、口縁下に刻みのある貼付帯がめぐるもの。損耗のため口唇の刻みは不明。3には横帯縄文がある。他に礫3点が出土した。

P－33

69・70－66区に位置し、北側約4.5mにP－32、同じく約1mにP－7がある。壙底はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。壙底の南壁に斜めにもたれかかる状態で、礫1点が出土した。

P－10

調査区西端の70－67区に位置する。南側にP－11が隣接する。壙底面に4点の礫が検出された。1・2に示す土器片は、覆土中に見出されたⅥ群土器。1は細く尖る口唇部と口縁直下をめぐる貼付帯とに、密に刻みが加えられた口縁片で、横帯縄文が施されている。2はクロスする帯縄文がみられる胴部片。ともに黄灰褐色を呈し、内面は滑らかに調整されている。3は石斧の刃部破片。片岩を素材にしている。重さは2.8g。他に黒曜石剥片1点が出土した。

P－11

P－10の南側に隣接する。壙底部北側に2個、南寄りに5個の礫がまとまっていた。1・2は覆土から得られたⅥ群土器の破片である。1は内弯ぎみにつくられた口縁片で、細く尖る口唇部には密に小さな刻みが加えられている。器面は無文で、貫通孔の半分程が現存している。孔は外から内へ突いたもので、内面にはリング状の器壁の高まりがある。2には交差する帯縄文がみられる。3は使用痕のある黒曜石剥片。重さは7.2g。

P－12

P－11の東側約50cmに位置する。礫をはじめ、遺物は壙底からやや浮いた状態で検出されている。1・2は黄赤褐色がちの色調を呈するⅢ群b－3類土器の胴部片。胎土に砂の含有が多く、繊維も含まれている。やや摩耗が進んでおり、器面には、単節の斜行縄文が施されている。2は器壁が丸くふくらむⅣ群土器の胴部片で、縦位、斜位そして弧状の帯縄文から成る文様が展開されている。内面には炭化物の付着がみられる。他に礫10点、黒曜石剥片1点が出土した。

P－14

調査区西側の69－66区に位置する。南側にP－15が隣接する。壙底部に2個の礫が見出されている。土器は覆土中に含まれていたもので、1は黄灰褐色を呈する、Ⅴ群c類の口頸部片。地文は単節の斜行縄文で、内面に縄線文が1条残されている。2～4はⅥ群土器の胴部片で、2には横位の帯縄文がみられ、その縁には微隆起線状の盛りあがりが認められる。3の器面は黒色で艶がある。3・4には帯縄文による文様が施されているが、微隆起線文はみられない。5は使用痕のある黒曜石剥片。重さは1.6g。他に黒曜石剥片と珪岩剥片各1点が出土した。

P－15

69-66・67区に位置し、P－14に隣接する。壙底面に礫が3点見出され、壙底から10cm程浮いて、1に示すⅥ群土器の大片が検出された。器形は胴上部がふくらみ、口縁部がほぼ直立する深鉢形で、推定口径25.8cm、推定胴径26.2cm。口縁は平縁で口唇は細く、口縁直下をめぐる貼付帯と同様、密な刻みが加えられている。器面上半には三角列点文と横帯縄文を5段重ねて施文し、下半には帯縄文を縦走させている。他に黒曜石剥片4点、片岩剥片2点が出土した。

P－16

P－15から東に約1.5m離れて位置する。壙底はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。礫４点を壙底から検出した。１は使用痕のある黒曜石剝片。重さは1.4g。

P－20

70－67区に位置する。検出した遺構の中で調査区の最も西側にある。壙底はやや丸味をもつ。南東側を除く壙底部に、26個の礫がまとまって遺存していた。意図的な配石と考えられる。覆土からは若干の遺物が検出されている。１はⅥ群土器の胴部破片で、黄灰褐色を呈する器面には、単節ＲＬの縄文原体を回転押捺した、横と縦の帯縄文が重ねられている。２は石のみ。刃部を欠損している。３は小型の石斧。共に片岩を素材にしている。打ち欠きと研磨による成・整形。２の重さは2.8g。３は31.6g。他に黒曜石剝片と片岩剝片各１点が出土した。

P－34

P－10の南東約１ｍに位置する。壙底部の北側にまとまって、礫が５点検出されている。また、覆土には少量の遺物が点在していた。１～３は、摩耗の進んだ土器の小片で、１は２段の貼付文がめぐる口縁片。１・２はⅥ群、３はⅢ群ｂ－３類。他に黒曜石剝片１点が出土した。

P－37

P－34の東側約3.5mに位置する。壙底からやや上で礫10点を検出した。１・２はともに損耗が著しく、十分観察できないが、１は口縁直下に貼付文をめぐらせ、その下に連続刺突文を刻むⅥ群の、２は押引きと円形刺突文のあるⅢ群ｂ－３類の口縁片。３はポイントまたはナイフの破片と考えられる。黒曜石を素材にしている。重さは1g。４・５は使用痕・加工痕のある黒曜石剝片。４の重さは3.1g。５は1.7g。他に黒曜石剝片２点が出土した。

P－27

70－68区に位置し、P－34から南東約３ｍにある。壙底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。壙底からやや浮いた位置に石斧の破片と礫４点を検出した。１は石斧破片。千枚岩を素材に、打ち欠きと研磨により成・整形している。重さは39.8g。

P－８

70－68区に位置し、北側約１ｍにP－34、東側約2.5mにP－27がある。断面形は丸く、ボール状を呈する。壙底の北側から礫１点と覆土から礫３点を検出した。１は覆土から採集されたⅥ群土器。波状口縁で口縁直下に添えられた貼付帯と、口唇部とに密に刻みが加えられ、器面には縦横の帯縄文がみられる。

P－38

調査区西側の70-69区に位置し、P-39と隣接して検出した。壙底のやや上で礫２点が出土した。

P－39

P－38の南西側に隣接して検出した。壙底近くに15個の礫が遺存していた。恐らく意図的な配石の一種と思われる。覆土からは少量の遺物が見出されている。１はⅥ群土器の小さな破片で、連結するほどに近接して刻まれた、三角形の刺突文列がみられる。色調は淡黄褐色を呈する。２は両面に加工痕のある黒曜石剝片。重さは2.6g。他に黒曜石剝片３点が出土した。

P－56

67－66区に位置する。南東約50cmにP－57が隣接する。壙底はやや丸味があり、壁は緩やかに立ち上がる。１は石皿。壙底から、コンケイブした使用面を上に検出した。安山岩の河床礫を用いている。重さは10.75kg。

P－63

67－67区で検出した。確認面に比べ、壙底部は東西方向で若干広く、壁はややオーバーハングする。壙底部の全面に21個の礫が配石されていた。１～４は覆土出土の土器片で、１は貼付帯と口唇に刻みをもつ口縁片。微隆起線文と現存２個の三角列点文がある。２は口唇の平坦な無文土器で、かなり摩耗している。３には帯縄文があり、４は小さな平底の底部片。１・３・４は同一個体の可能性があるⅥ群土器。

P－66

66－68区に位置する。北西約50cmにP－72、東約１ｍにP－67がある。壙底部の東側に偏在して、５個の礫が配置されていた。覆土からは６点のⅥ群土器の破片が見出されているが、摩耗が進んで図示に耐えない小片が多い。１は灰黄褐色を呈する薄手の胴部片で、現存部に文様はみられない。２も薄手の胴部片で、赤茶褐色を呈し、裏面には黒色炭化物が付着している。

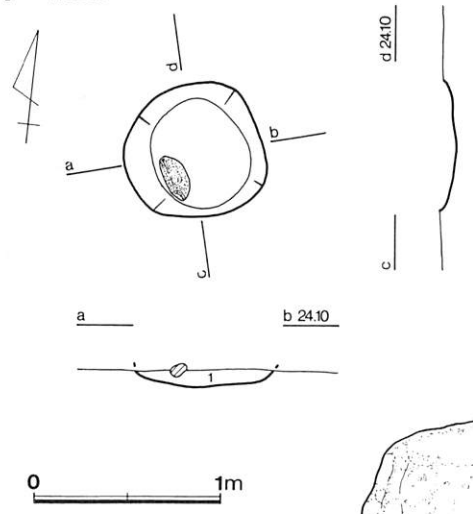
P－48

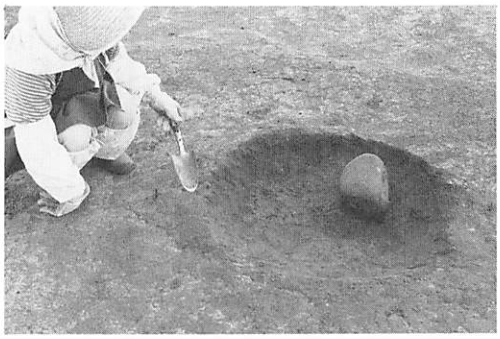
65－69区に位置する。直径約５ｍの円を描くようにP－46･47･69･71･76がある。壙底部に38個の礫が集積されており、主に南東壁付近の覆土３層から、接合可能な土器片が17点検出された。１は接合、復元されたⅥ群の鉢形土器で、全周の30％強が現存する。平底の底部から体下半部が大きくひらいて胴半部が丸味を帯び、口縁部がほぼ直立する器形を呈する。口唇と貼付帯に密な刻みがあり、円を描く帯縄文を中心に、縦、横、斜めの帯縄文が加飾されている。

P－49

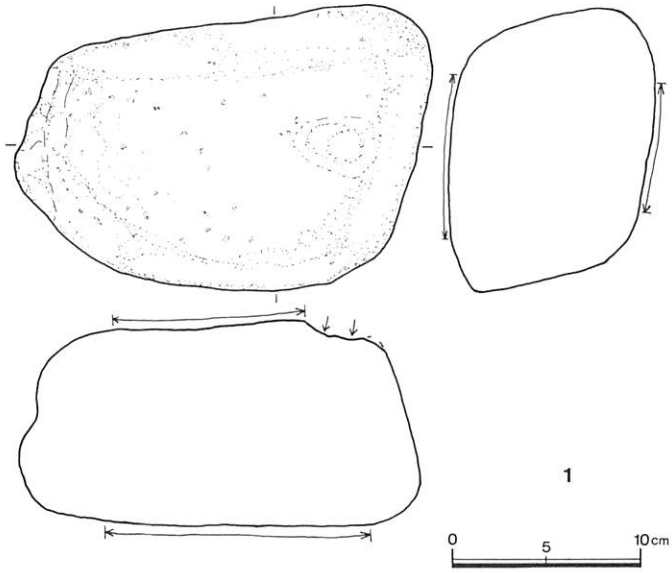
P-48の東側に約9m離れて検出した。南南東約1mにP-78、西側約1.5mにP-82がある。１は壙底近くの覆土４層を主体に一括遺存していた土器片を接合、復元したものである。口縁部がほぼ直立するⅥ群の鉢形土器で、底は欠失している。平縁の口唇部、および貼付帯には密な刻みが加えられており、器面には横帯縄文が５段に重ねられている。貼付帯の直下には現存２ヵ所に、２個１対の補修孔が穿れている。内面には黒色炭化物が付着。他に礫３点が出土した。

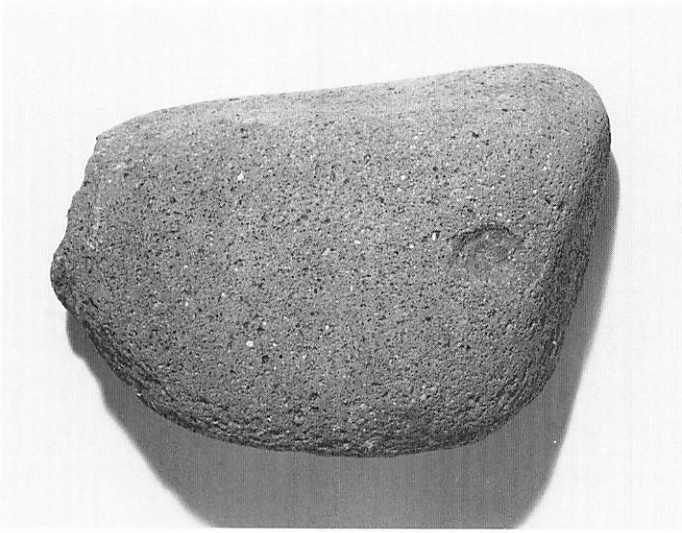
P-166





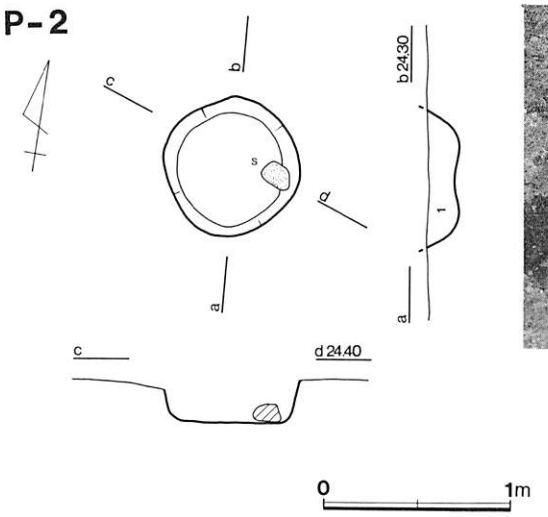
1．黒褐色土
（ローム粒、少量の炭化物含む）





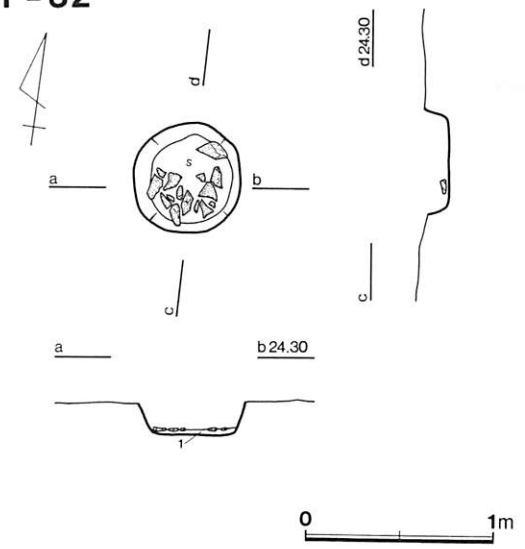
P—166

P-2

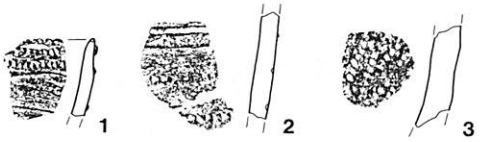


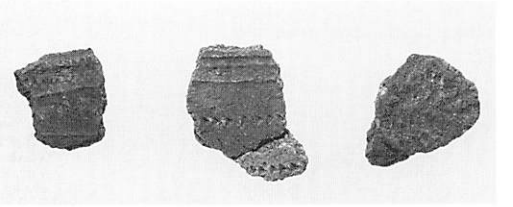
1．黒褐色土
（ローム粒、ロームブロックを含む）

P-32



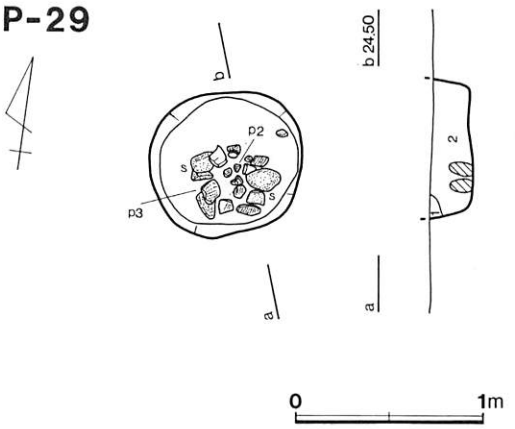
1．黄褐色土

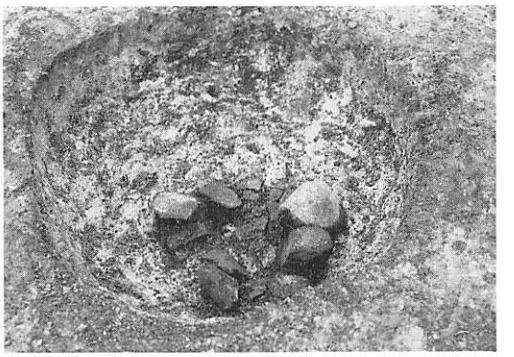




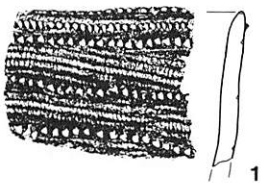
0　5　10cm

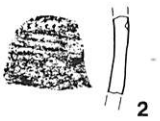
P—2・P—32

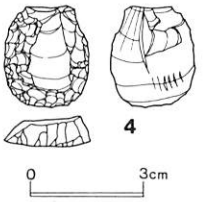


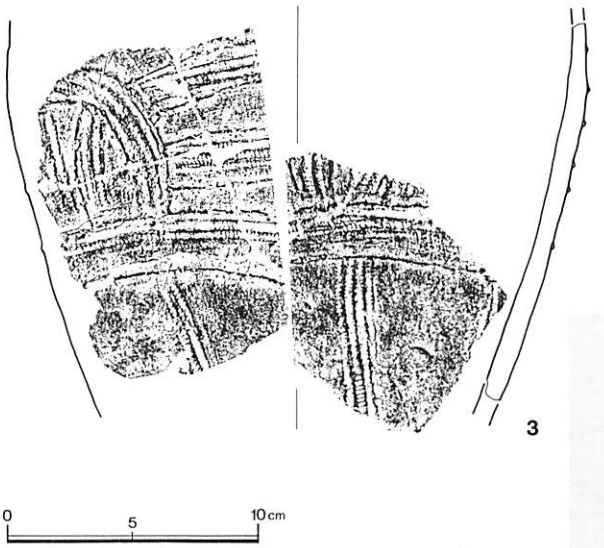


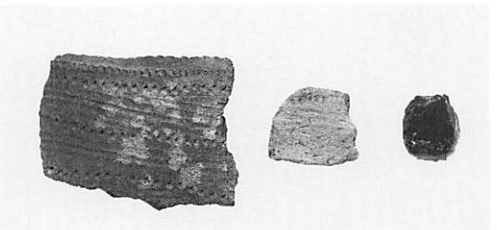
1．黄褐色土（ローム粒）
2．黒褐色土





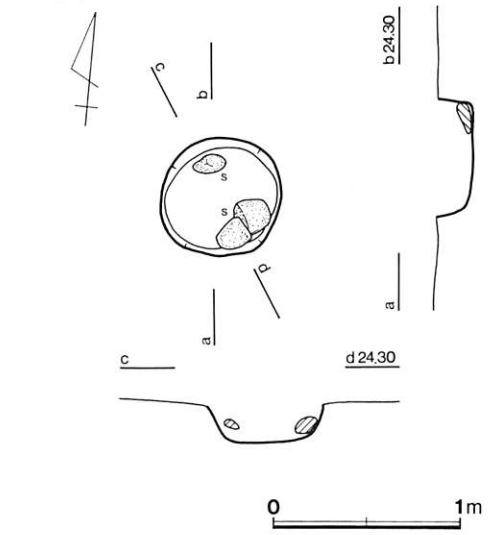


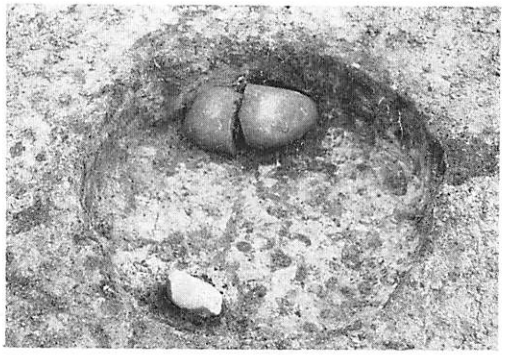




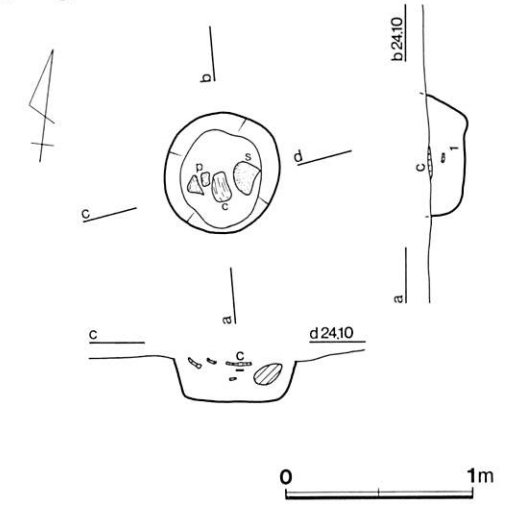
P—29

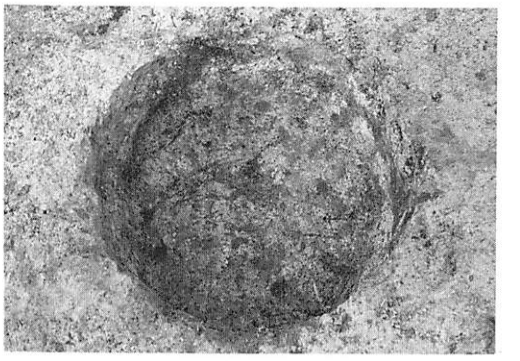
P-30



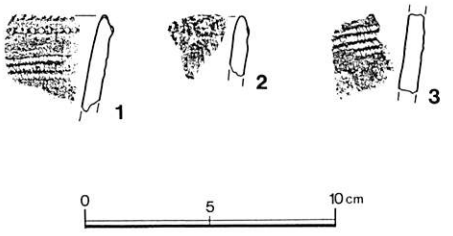


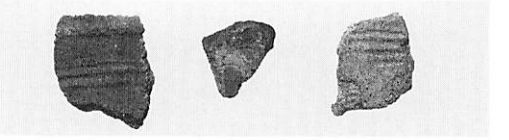
P-5



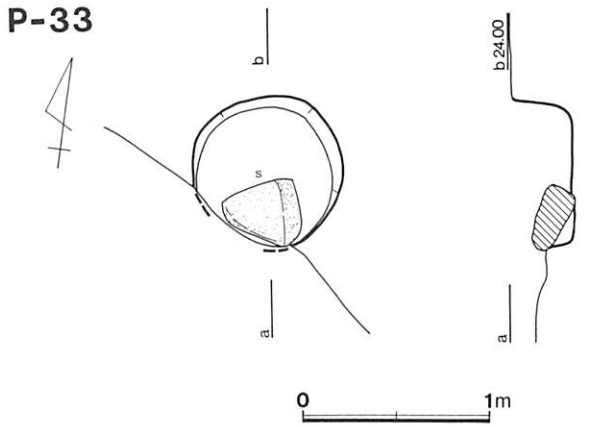


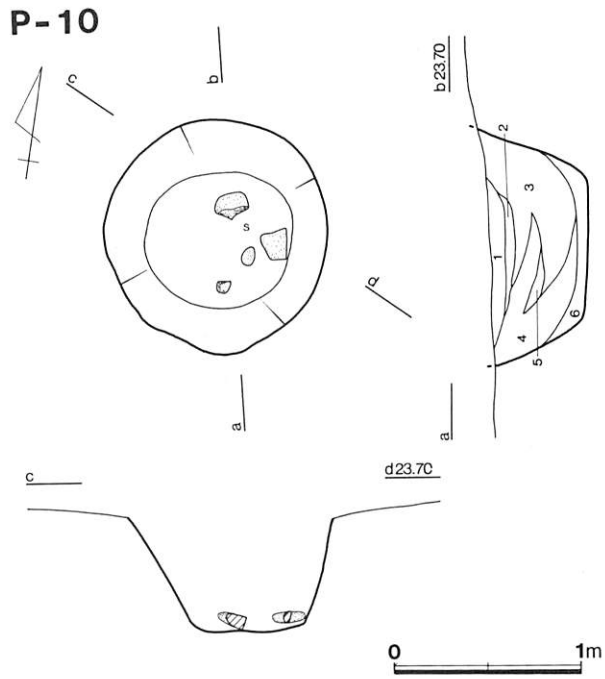
1．黒褐色土(ロームブロックを含む)



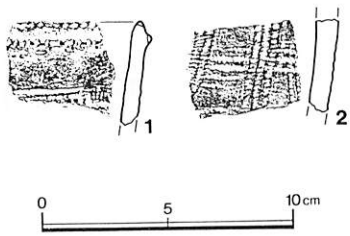


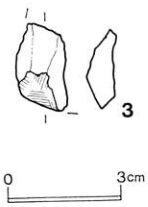
P—30・P—5

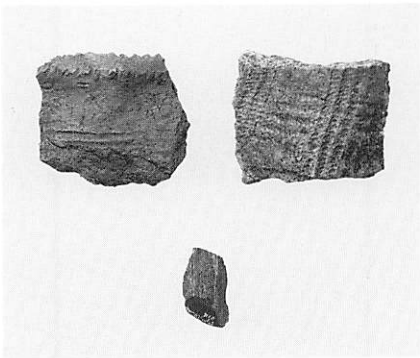




1．灰褐色土
2．黒色土
3．黒褐色土
4．暗黄褐色土
5．黒褐色土（黒味強し）
6．黄褐色土（ロームブロックを含む）

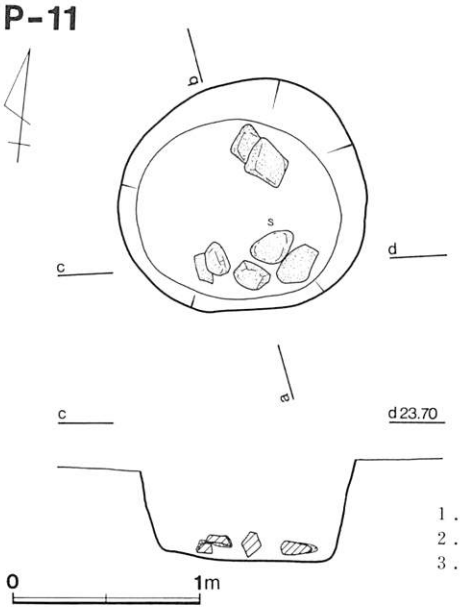


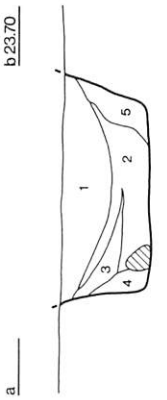


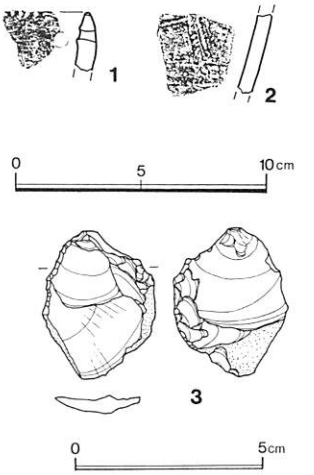


P—33・P—10

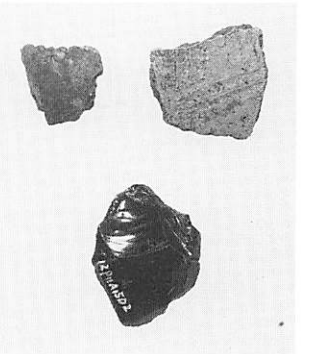
P-11



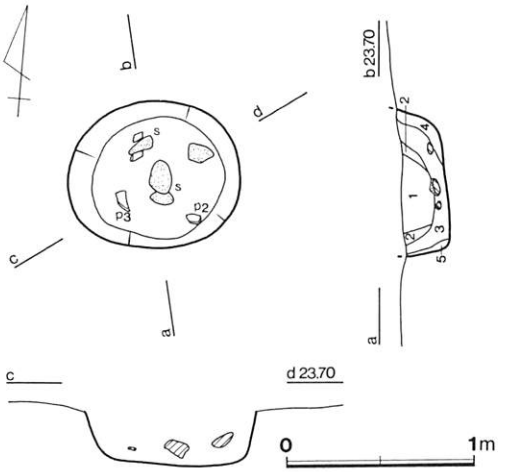




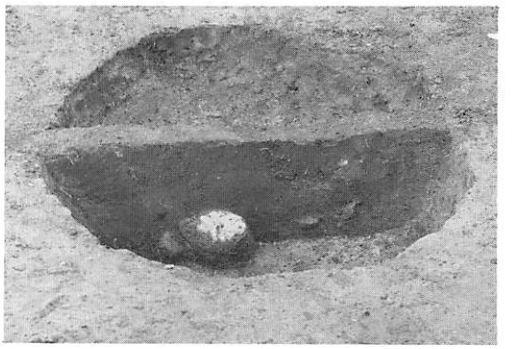
1．黒褐色土(粒子粗い)
2．茶褐色土(砂質)
3．黒褐色土
4．黄褐色土
5．茶褐色土(黄色味強い)



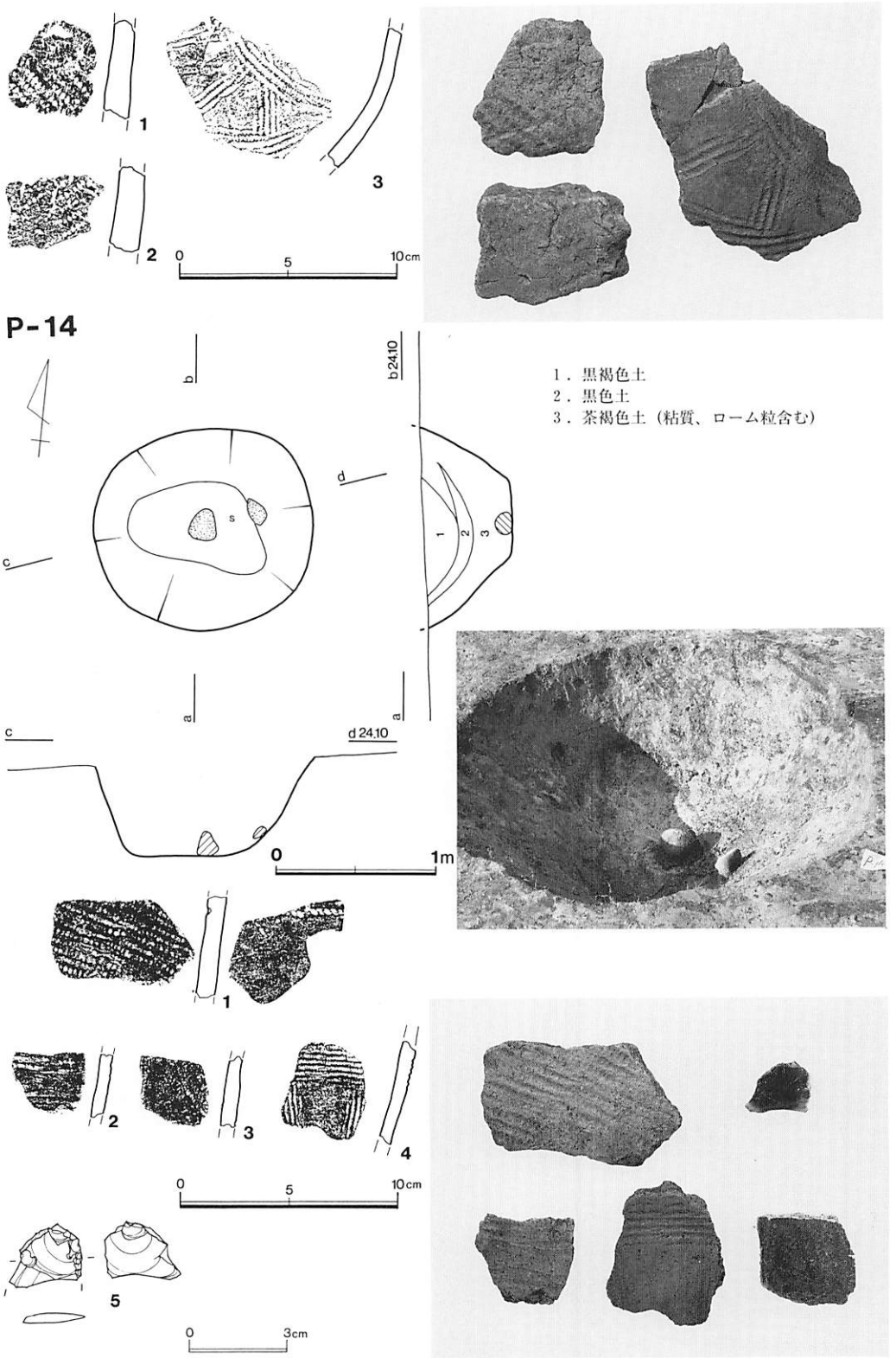
P-12



1．暗黄褐色土
2．黄褐土 (黄色味強く ロームブロック含む)
3．黒褐色土
4．明黄褐色土
5．黄褐色土

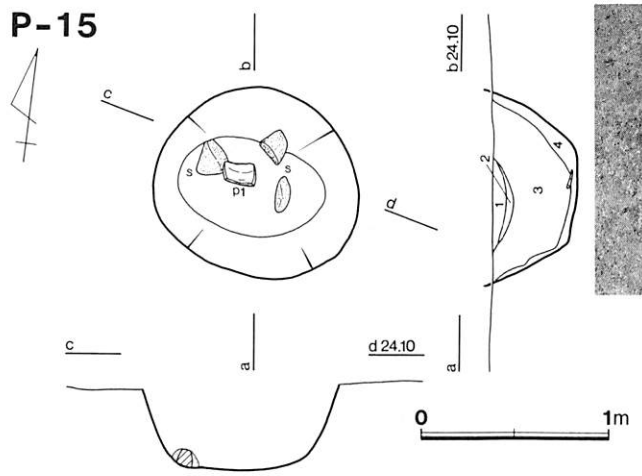


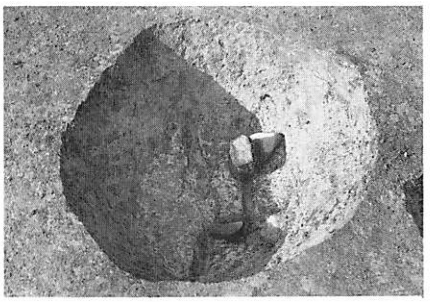
P—11・P—12



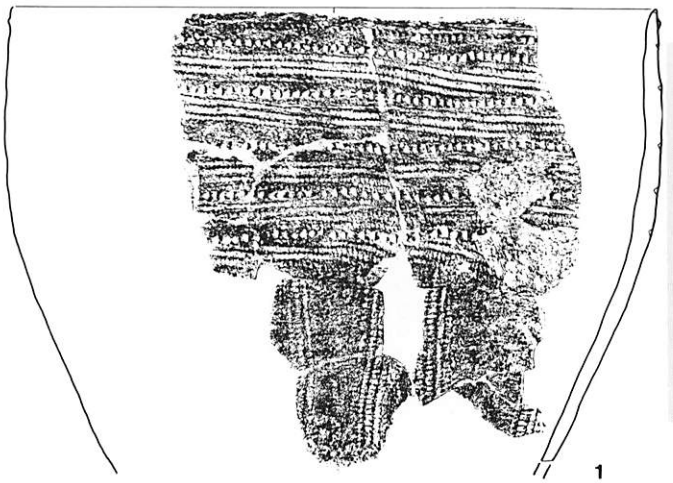
P—12の出土土器・P—14

P-15

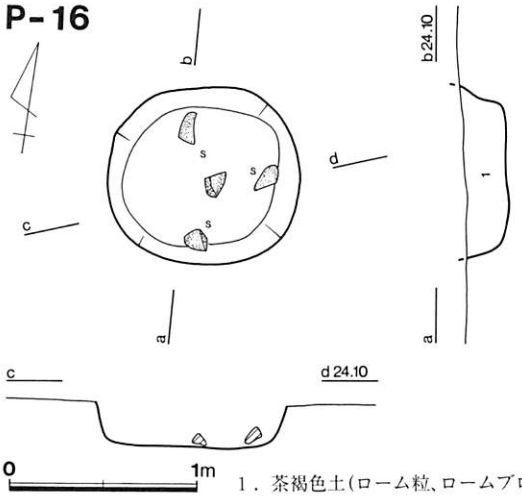


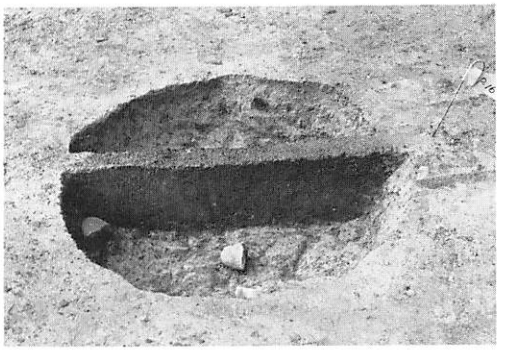


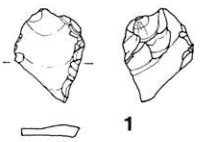
1．黒褐色土
2．黒色土
3．茶褐色土（ローム粒を含む）
4．暗黄褐色土

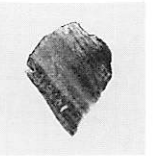


P-16







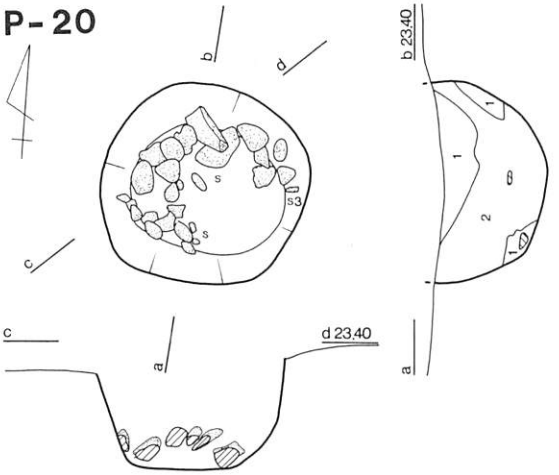


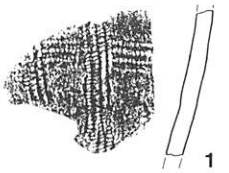
1．茶褐色土(ローム粒、ロームブロックが混る)

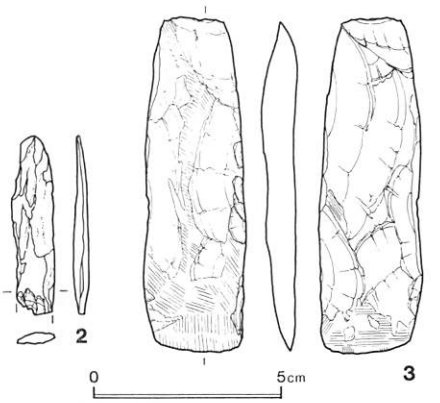
0　3cm

P—15・P—16

P-20

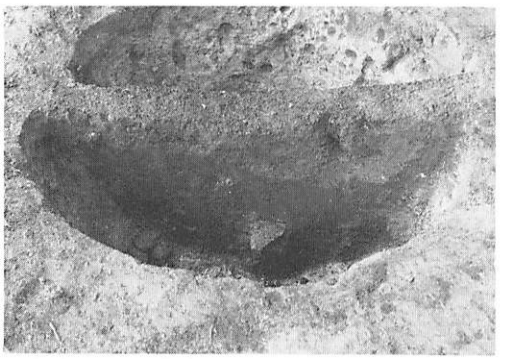


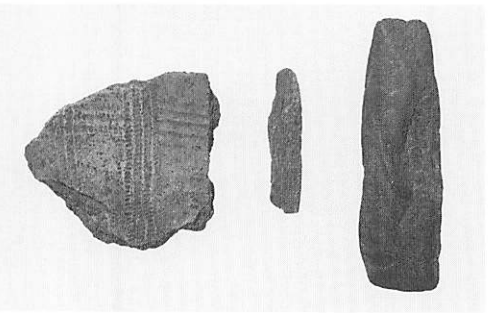




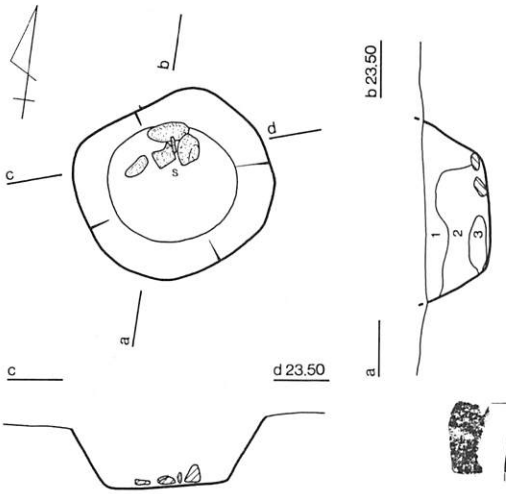
1．黄褐色土
2．茶褐色土(ローム・ブロック混り)

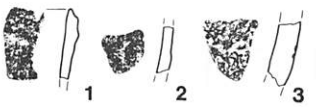
0 1m

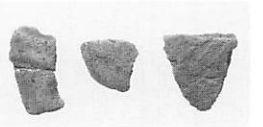




P-34







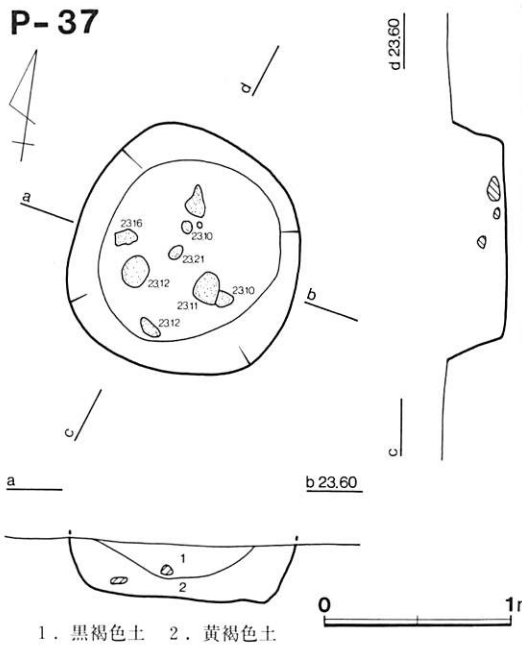
1．黄褐色ローム
2．黒褐色土
3．黄褐色ローム

0 1m

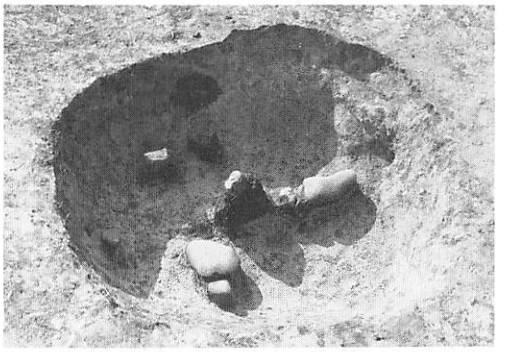
0 5cm

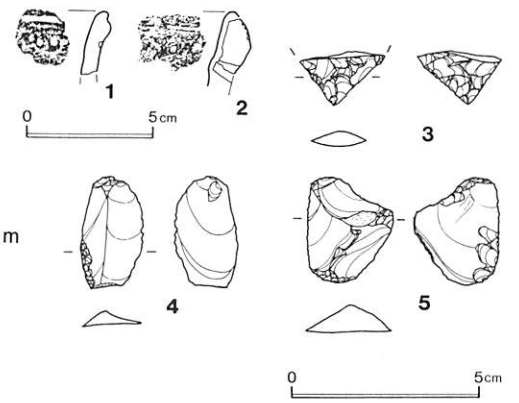
P—20・P—34

P-37

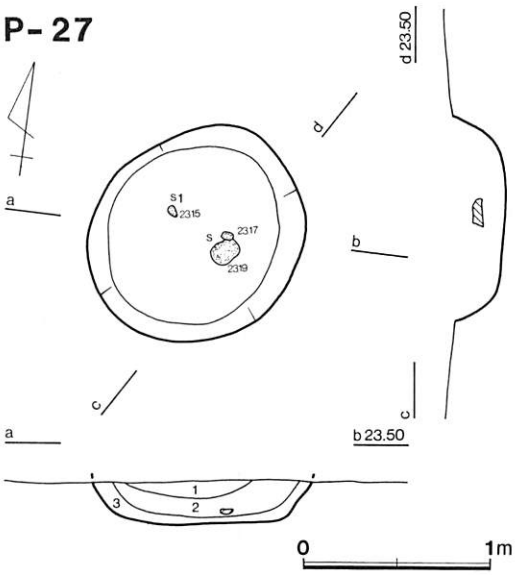


1．黒褐色土　2．黄褐色土

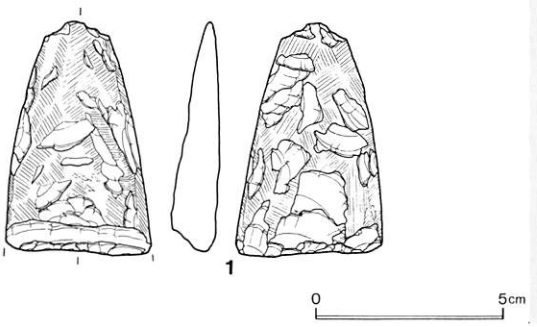


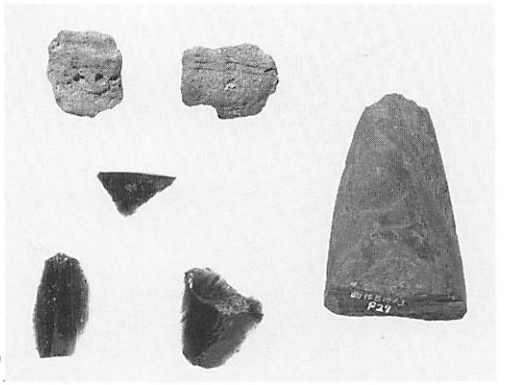


P-27



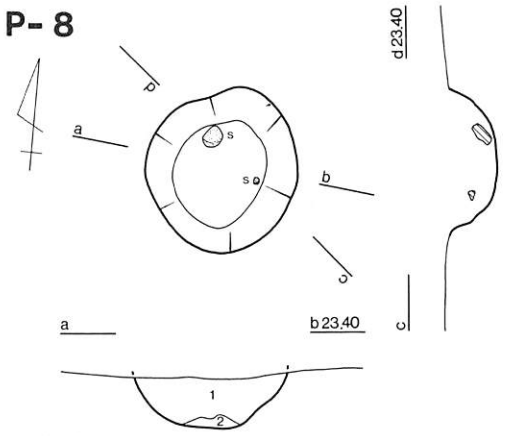
1．茶褐色土　2．黒色土　3．黄褐色土

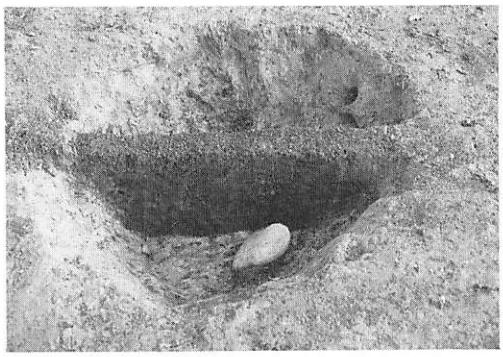




P—37・P27

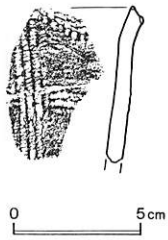
P-8

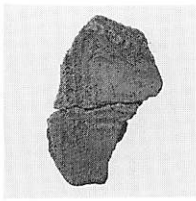




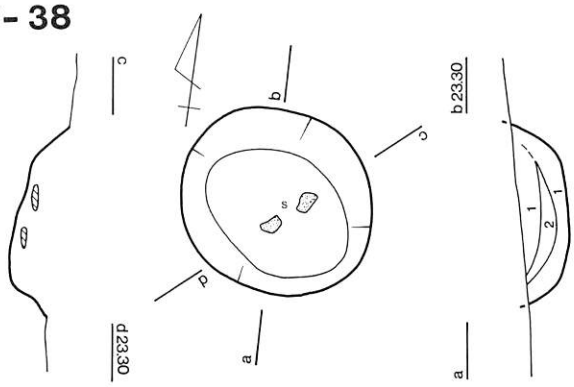
1．茶褐色土(ローム・ブロックまじり)
2．黄褐色土

0　1m



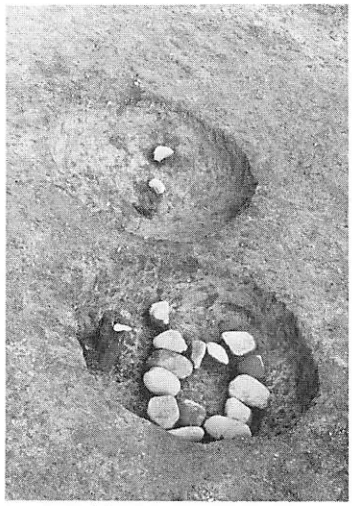


P-38

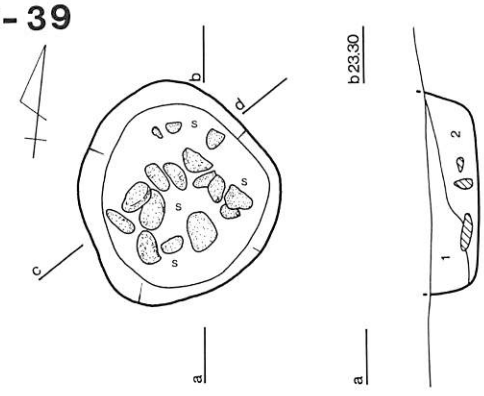


1．暗黄褐色土
2．黒色土

0　1m

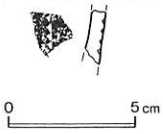


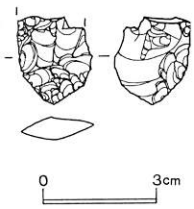
P-39

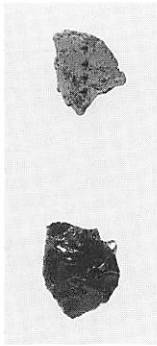


1．黄褐色土
2．茶褐色土(ローム粒まじり)

0　1m

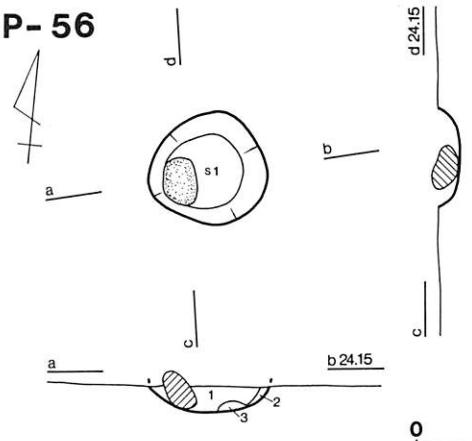






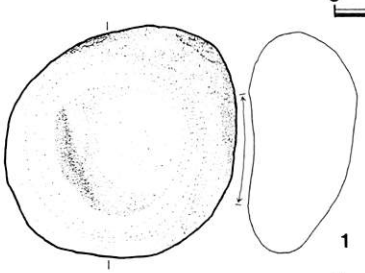
P—8・P—38・P—39

P-56

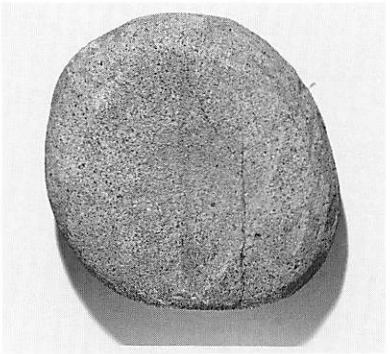


1．黒褐色土　3．黄褐色土
2．暗黄褐色土

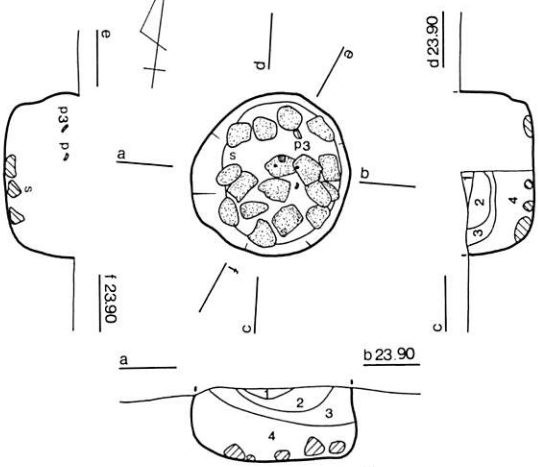
0　1m

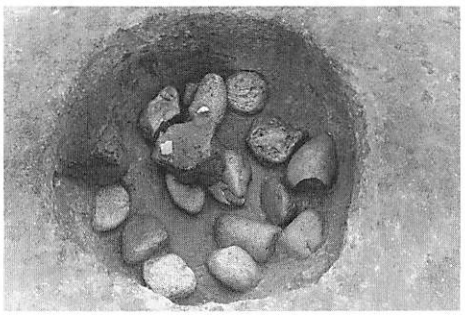


0　5　10cm



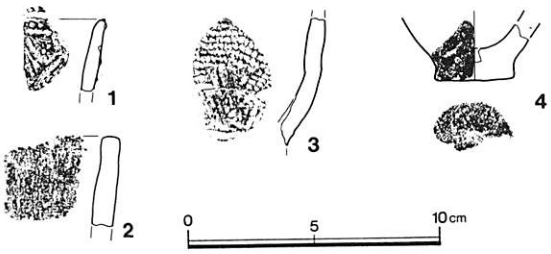
P-63

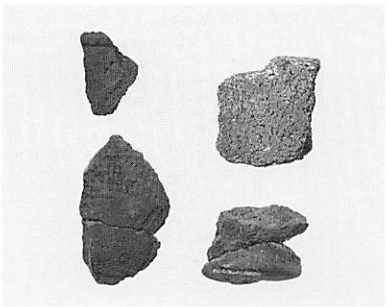




1．黒褐色土　3．黒色土
2．黄褐色土　4．褐色土

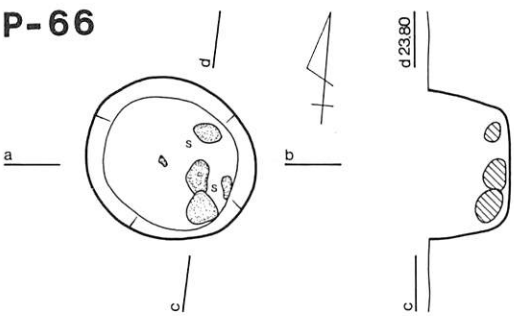
0　1m

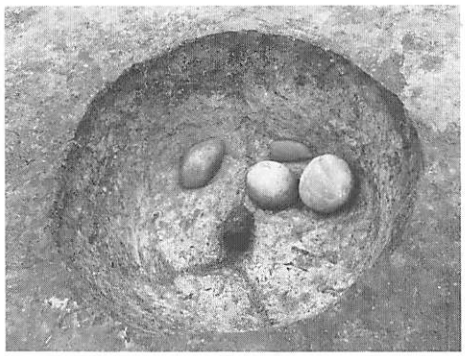


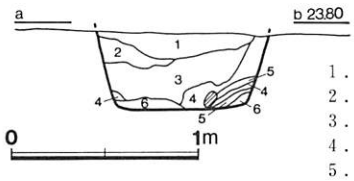


P—56・P—63

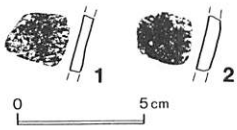
P-66



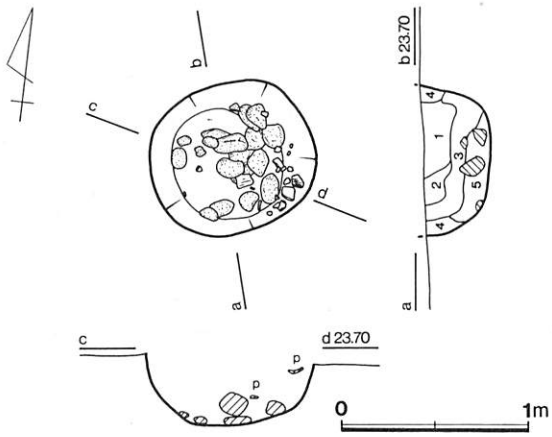




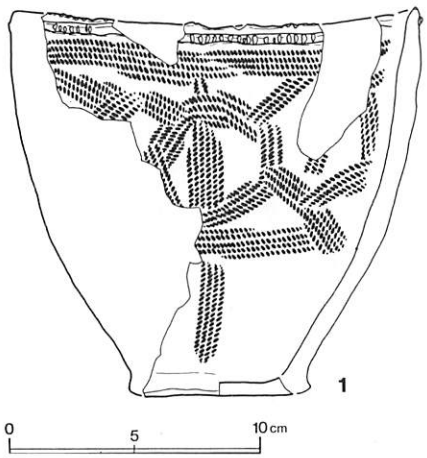
1．里色土
2．暗褐色土
3．茶褐色土
4．黄褐色土
5．黒色土
6．褐色土



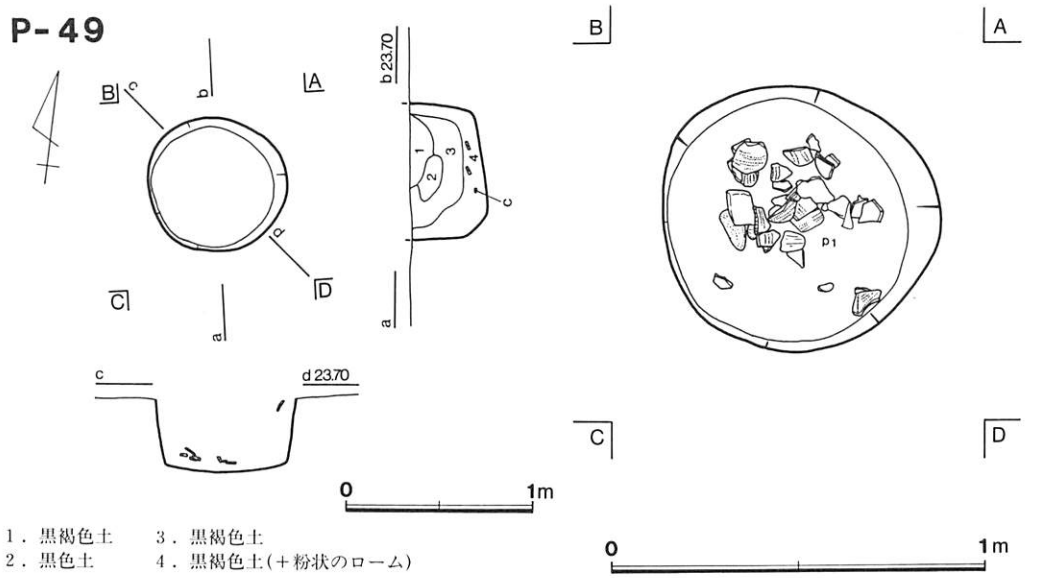
P-48



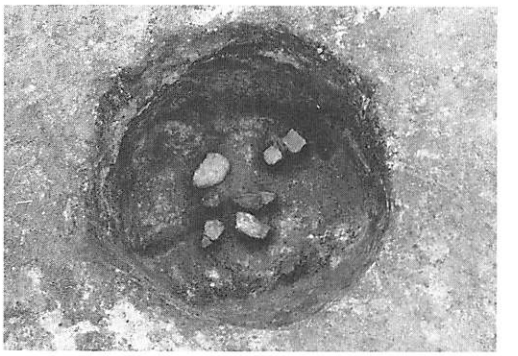
1．黒褐色土
2．黒褐色土(粒状)
3．黒色土
4．黒褐色土(ロームブロックを含む)
5．褐色土

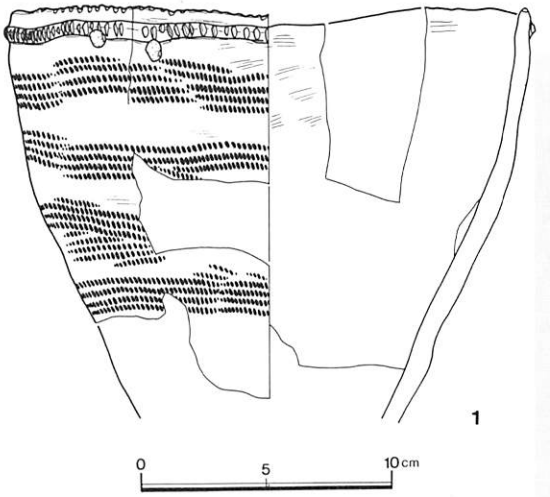


P—66・P—48



1．黒褐色土　　3．黒褐色土
2．黒色土　　4．黒褐色土(＋粉状のローム)





P—49

P－167

調査区北側の65－63区に位置する。北側の一部を暗渠により削られている。壙底はやや凹凸のある皿状。覆土下層からⅥ群の土器片が出土した。1・2は同一個体のⅥ群土器の胴部片。ともに黄赤褐色を呈し、器面は丁寧に調整されている。単節ＲＬ原体による横帯縄文をめぐらせた胴半部から、間隔を置いて帯縄文を縦行させる胴下半部までの破片である。

P－164

調査区北側の66－63区に位置する。検出した遺構のなかでは北端部にある。P-165と隣接して検出した。壙底直上から土器片がまとまって出土した。1は平坦な口唇の外側に微隆起線状の張り出しをめぐらせ、ここと口唇内側とに刻みを加えた口縁片で、三角列点文に縁どられた帯縄文が斜位に交差している。2～6は同一の口縁から胴上部にかけての破片で、いずれも摩耗しているが、帯縄文による横位、縦位の施文がみられ、5には補修孔がある。

P－165

P-164の西側約20cmに隣接している。覆土に炭化物を多く含む。覆土からⅥ群の土器片6点が出土した。P-164・165は、ほぼ同時に構築されたと推定される。

P－1

調査区北側の68-64区に位置する。南西約8mにP-2・3・31がある。1は覆土中に見出されたⅥ群土器の胴部片。表裏にタール状の黒色炭化物が付着している。薄手で、胎土に砂の含有多く、焼成は堅緻。地文などの文様は、現存部には見受けられない。他に礫3点が出土した。

P－31

68－65区に位置する。南西側にP－3が隣接し、北西約1mにP－2を検出した。壙底にやや凹凸がある。壁は緩やかに立ち上がり、浅い皿状を呈する。1はa面に原石面の残る使用痕・加工痕のある黒曜石剝片。重さは3.7g。

P－3

P－31の南西側に隣接して検出した。壙底は平坦で浅い皿状を呈する。礫1点が出土した。

P－9

69－65区に位置し、P－29から南東側に約5m離れている。壙底は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。1・2は覆土から検出されたⅥ群土器。1は微隆起線文を伴う帯縄文と三角列点文が弧状に配された破片。2は平底の底部片で、微隆起線の施文はやや粗い。他に礫2点が出土した。

P－6

69－66区に位置し、西南西側約50cmにP－7がある。礫1点が出土した。

P－7

P－6の西南西約50cmの位置に検出した。南側約1mにP－33がある。遺物は検出していない。

P－13

調査区西端の70-66区に位置する。南西にP-10・南にP-12が各々約1.2m離れて出土した。1・2は覆土から得られた土器片で、1はⅢ群b－3類の胴部片。結束第二種のある原体による

縄文が施されている。2は比較的薄手で、Ⅵ群土器の小さな破片。表裏にやや粗く調整痕が残るが、文様はみられない。他に礫3点と黒曜石剥片、片岩剥片各2点が出土した。

P－45

P－13の南側約2mの70-67区に位置する。壙底は中央がやや深い。遺物は検出していない。

P－43

調査区北西部の68－69区に位置する。P－17･18･41･42が南側にあり、各々が1～1.5mの間隔を保っている。壙底は丸味をもち、壁は急角度に立ち上がる。1～3は覆土から検出された土器片。1は微隆起線文と帯縄文、三角列点文のみられるⅥ群土器。2・3はⅢ群b－3類に属する破片で、円形刺突文の一部が残る2の裏面は剥落している。3はやや厚手の胴部片。

P－17

P－43の南東約1.5mに位置する。壙底はほぼ平坦で鍋底状を呈する。礫1点が出土した。

P－18

P－43の東南東約2mに位置する。壙底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。礫1点が出土した。

P－19

P－43の南東約2.5mに位置する。壙底は平坦で、壁は垂直に近い急角度で立ち上がる。鍋底状を呈する。壙底部に22点の礫が配石されていた。1は覆土出土のⅥ群土器の体下部の破片で、底面への移行部がわずかに残存している。器面には縦走する帯縄文がみられる。

P－41

68－67区に位置し、北約2.5mにP－43がある。壙底はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。1～4は覆土から検出されたⅥ群土器。1は口唇上と貼付帯に密に刻みが加えられた口縁片で、2段重ねの三角列点文と帯縄文が配されている。2・3は同一個体の、丸くふくらみのある胴部片。微隆起線文を伴う帯縄文と、密に連なる列点文がみられる。4は平底の底部片で、器面には光沢がある。縦走する帯縄文が施されているほか、内面にはほぼ横位に加えられた調整痕が残されている。1・4の内面には黒色炭化物が付着している。他に礫1点が出土した。

P－42

北約1mにP－17・北東約1mにP－19・北西約1.5mにP- -41がある。壙底は平坦で、北側の壁は緩やかだが他は急角度に立ち上がる。礫3点が壙底から出土した。

P－24

68－67区に位置し、北側にP－42などがある。壙底は平坦で、壁は垂直な鍋底状を呈する。1は壙底から出土したポイントまたはナイフ。黒曜石を素材にしている。重さは4.7g。

P－25

調査区北西部の69－68区に位置する。北側約1.3mにP－22がある。壙底はほぼ平坦で、壁は北西側がやや緩やかであるが急角度に立ち上がる。1は覆土から得られたⅥ群土器の破片。薄手で、黄灰褐色を呈し、焼成堅緻。胎土には砂が多く含まれ、器面調整は比較的丁寧になされている。器表には間隔を置いて縦走する帯縄文が施されている。

P－36

調査区北西側の70－68区に位置する。北・西・南側に0.5～1m離れてP－37・35・27・26がある。壙底はほぼ平坦で鍋底状を呈する。覆土から1に示すⅥ群の口縁片が検出されている。横位に2段めぐる貼付帯と口唇部には、密な刻みがみられる。他に黒曜石剝片1点が出土した。

P－54

67－66区に位置する。南側以外の壁に段がみられる。礫1点が覆土の下位から出土した。1は覆土から採集されたⅥ群土器の破片。摩耗が著しいが、微隆起線文と列点文がみられる。

P－55

P－54の南側に隣接して検出した。壙底はやや丸味のある皿状を呈する。1は壙底近くに見出されたⅥ群土器。推定口径7.3cm。やや不整な沈線文様があり、その下に爪痕が残されている。

P－57

67－66区に位置し、東側にP－54・55がある。壙底は平坦で浅い皿状。遺物は検出していない。

P－58

調査区北西部の66-66区に位置する。壙底は平坦で浅い皿状を呈する。覆土から10数点の土器片が検出されている。1・2はⅣ群c類に属する同一個体の破片。口縁上部が内弯し、口唇部に刻みがある。細く鋭い沈線文が、2～3本単位で横位および弧状に重ねられている。3は口縁直下に縄線文が1条めぐるもので、複節の原体による縄文は、外切ぎみの口唇部にも施されている。内面はほぼ滑沢に調整されている。Ⅲ群b－2類であろうか。4～6はⅥ群土器の破片。4には2本の貼付帯が付されており、6は平底の小片。他にめのう剝片1点が出土した。

P－53

調査区北西部の67－65区に位置する。壙底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。浅い皿状を呈する。土壙中央の覆土1～3で焼土を検出した。遺物は検出していない。

P－60

66-67区に位置する。南東にP-50・南西にP-59が隣接する。南側約1.5mにP-61がある。土壙中央の覆土1・2に焼土を検出した。この焼土内に土器片13点が出土した。覆土3から出土した石皿はP-61出土の石皿と接合した。1～3はいずれもⅥ群土器に属するものである。1にはクロスする直状、弧状の帯縄文がみられる。2はやや摩耗の進んだ破片だが、横帯縄文とそれを縁どる微隆起線文とがみられる。3は推定底径8.4cmの平底の底部片。横帯縄文と間隔をおいて縦走する帯縄文とが施されている。4は石皿。P－61出土の石皿と接合した。安山岩を用いている。接合時、約½が現存する。重さは1.1kg。接合時2.5kgを計る。この石皿はP－61と同時期に割り入れられたと推定され、両者の構築時期も同時と考えられる。

P－101

調査区中央部の61－79区に位置する。北と西側は壁の立ち上がりが緩やかで壙底との境は不明瞭である。覆土の下位に焼土を検出した。1・2は覆土2層に見出されたⅡ群b類土器で、口縁直下を横環する貼付帯には、縄線文が加えられている。地文は結束第一種のある、独特の羽

状縄文。他にⅥ群の土器片16点、黒曜石剝片３点が出土したが図示に耐えないため割愛した。

Ｐ－51

調査区北西部の66－67区に位置する。壙底は平坦で浅い皿状を呈する。１～４は覆土出土のⅥ群土器。１・２は同一個体で、口縁が波状を呈し、胴部が丸くふくらむ器形のもの。口唇および口縁直下をめぐる２段の貼付帯には密な刻みがあり、微隆起線文に区画された、帯縄文や三角列点文による文様が、胴半部の長楕円に連結するように展開されている。３・４はやや摩耗が進んだ胴下半部の破片で、帯縄文の縦走がみられるもの。他に礫１点が出土した。

Ｐ－61

66･67-67区に位置する。北側半分が暗渠により削られているが平面形は円形と推定される。１・２は覆土から採集された、Ⅵ群土器片である。ともに摩耗がかなり進んでいるが、縦行する帯縄文が辛うじて観察でき、胴部下半の破片であることが窺える。内面には黒色炭化物が付着している。３は壙底から出土した石皿。Ｐ－60出土石皿と接合した。安山岩を用いている。重さは1.4㎏。接合時2.5㎏を計る。石皿の残り半分は暗渠により取り去られた可能性がある。

Ｐ－62

66-67区に位置し、北西側にＰ-61が隣接する。１～３は覆土から検出された土器片である。１はⅢ群ｂ－３類の口頸部の内面側の剝落片である。摩耗が著しいが、結束第二種をもつ縄文原体を縦位に回転押捺させた痕跡が認められる。２･３はⅥ群土器。２には縦・横の帯縄文の交差がみられる。３は平底、薄手の底部片である。４はスクレイパー。黒曜石を素材にしている。ａ面の上部と左側に原石面を残し、ｂ面の左側辺に刃部を作り出している。重さは5.2ｇ。

Ｐ－170

64-67･68区に位置する。Ｐ-169を南西側約1.1ｍに検出した。南西側の掘込みはⅡ層中に留まっていたため、壁面は確認できなかった。遺物は検出していない。

Ｐ－169

64-67･68区に位置し、北東約1.1ｍにＰ-170がある。壙底直上から台石２点、北側の台石上に土器片が重なって出土した。１・２はともにⅥ群に属する弥生式系の土器片で、明るい黄灰褐色を呈し、薄手で焼成堅緻、胎土には砂礫の含有が多く、繊維も少なからず含まれている。１は現存下方に沈線状の痕跡がみられるが、摩耗のため文様が殆ど判別できない破片である。２は１段Ｒの原体を利用した撚糸文を、繰り返し重ねた胴部片である。３・４は台石。共に安山岩の河床礫を用いている。３は上面を使用している。重さは6.5㎏。４は両面を使用している。下側部に有機物の変質したと思われる茶褐色物質が付着している。重さは7.1㎏。

Ｐ－64

調査区北西部の66－67区に位置する。１～４は覆土２層中に包含されていた土器片で、１～３がⅥ群、４はⅢ群ｂ－３類に属するものである。１～３はいずれもやや摩耗の進んだ破片であるが、３には斜行する帯縄文の一部が残されている。４も摩耗した破片で、文様はわからない。胎土には砂礫のほか、繊維も含まれている。

P－171

64－66区に位置する。壙底は中央部が高くなる。中央部の覆土から腐蝕の進んだ骨片が検出された。遺物は検出していない。

P－68

66－69区に位置する。壙底はやや丸味を帯びている。覆土から土器片1点が出土した。

P－72

調査区北西部の66－68区に位置する。南東約70cmにP－66がある。壙底は平坦で壁との境は丸味のある鍋底状を呈する。覆土から30点以上のⅥ群土器の破片が検出されているが、損耗の進んだ小片が多い。1は口唇部が細く尖る口縁片で、口唇には刻みが加えられていたようだが、摩耗のため明瞭ではない。2は微隆起線文に区画された帯縄文、および現存2段の三角列点文がみられるもの。3は弧状の微隆起線文が残るもの。4～7は文様の看取できない胴部片。8は推定底径7.8cm程の平底片。1・4・6～8は同一個体らしい。他に礫2点が出土した。

P－69

65－69区で検出した。壙底は平坦で鍋底状を呈する。覆土1から土器片3点が出土している。1～3は同一個体と思われるⅥ群土器。1は口縁片で、丸くゆるやかな波状縁の一部。口唇部と貼付帯には刻みが加えられ、その下に微隆起線文と帯縄文から成る文様がみられる。2・3には、さらに三角列点文が施されている。1・2の器面には黒色炭化物が付着している。

P－47

65－69区に位置し、P－46・48に南北を挟まれている。壙底に若干凹凸がみられる。1・2は覆土から検出された土器片で、1は口唇部と肥厚帯上に押引文が加えられ、内面にも縄文のあるⅢ群b－3類の口縁。2は微隆起線文と帯縄文がみられるⅥ群土器。他に礫2点が出土した。

P－76

P－46・47・48と並んだ弧の南端に位置する。礫が壙底から1点、覆土から3点出土した。

P－82

65－69区に位置する。壙底と壁の境はやや丸味がある。壙底から土器片と礫が各1点出土した。土器は1に示すⅥ群土器の胴部片で、横帯縄文があり、内面には黒色炭化物が付着している。

P－78

64－69区に位置する。西側約1mにP－49がある。壙底は南側が深い。遺物は検出していない。

P－85

64－69区で検出した。壙底は平坦で浅い皿状を呈する。壙底から礫1点、覆土から土器片1点が出土した。1はⅥ群土器の破片で、微隆起線文と帯縄文、そして三角列点文がみられる。

P－79

65－69区に位置する。南側にP－40・44・73・74・75・80・87が分布する。壙底は平坦で、壁の立ち上がりは丸味のある浅い皿状を呈する。1・2は覆土出土のⅥ群土器の小片である。1は縦走する縄文の施文後にも器面調整を加えたと思われる胴部片。内面には黒色炭化物が付着し

ている。2は底面へと移行する付近の破片である。他に礫2点、片岩剝片1点が出土した。

P－44

64－70区に位置し、南側約50cmにP－40がある。壙底は南東側が若干深く、傾斜している。1・2は覆土上部から検出されたⅥ群土器の胴部片。1には直状の、2には弧状の帯縄文が施されている。ともに内面には厚く黒色炭化物が付着している。3は黒曜石石核。約⅓に原石面が残り、円礫を用いたことがわかる。重さは35.8g。

P－40

P－44の南に位置する。中央部は東西方向に暗渠が掘られており欠失している。北側の壙底で礫1点を検出した。覆土からⅥ群の土器6点が出土した。そのうち2点を1・2に図示した。ともに黄茶褐色を呈する器面に、帯縄文が施された胴部片で、裏面には黒色炭化物の付着がみられる。

P－75

65－70区に位置する。東側約2.5mにP－40·44があり、南北をP－74・80に挟まれている。壙底はほぼ平坦で壁の立ち上がりは不明瞭な浅い皿状を呈する。北側の覆土1層下部から、1に図示したⅥ群土器の下半部が検出された。底径4.4cmの平底を有するもので、微隆起線文に区画された円形、水平のモチーフに、帯縄文と三角列点文が添えられている。

P－80

P－74の南約1mに位置し、南東にP－73が隣接する。壙底は東側がやや深く、傾斜している。覆土3に炭化物を検出した。北東側の壁は撹乱を受けている。1・2は覆土から得られた、Ⅲ群b－3類土器の破片。1には結束第一種のある羽状縄文が施されている。2は損耗の著しい小片。3～5は覆土出土のⅥ群土器。3は断面三角状の貼付文が口唇直下をめぐる口縁片で、貼付文と口唇部には密な刻みが加えられている。器面には帯縄文の一部が残されている。4は推定底径10cm程の底部片で、平底だが、周縁部以外は接地しない。薄手で、丁寧な器面調整が施されている。5は底径7.6cmの平底片で、内面には黒色炭化物が付着している。底面には細かな圧痕様の痕跡が一面にみられるが、損耗のため十分観察できない。

P－73

65－70区に位置し、北西にP－80が隣接する。壙底は平坦で、壁の立ち上がりは北東側で緩やかだが、他は急角度である。覆土2に焼土粒及びブロックを含む。1～3は覆土出土のⅥ群土器の胴部片。1は2・3に比してやや厚手で、縦走する縄文が施されたもの。2はかなり摩耗しているが、薄手で帯縄文がみられるもの。3も薄手で、弧状ぎみに施文された帯縄文がある破片。他に片岩剝片1点が出土した。

P－91

調査区北西部の64－70区に位置する。壙底はやや丸味を帯び、壁との境は不明瞭な浅い皿状を呈する。1は覆土から検出されたⅥ群土器の胴部片。横位および縦位の帯縄文が施されている。2は使用痕のある黒曜石剝片。下部に原石面が残っている。重さは1.9g。

P－83

P－91の南側約３ｍに位置する。壙底は平坦で浅い皿状を呈する。遺物は検出していない。

P－156

64－70区に位置する。南側は縄文時代中期のP－84を切っている。壙底は若干丸味を帯びるが鍋底上を呈する。１・２は覆土から検出されたⅢ群ｂ類土器の胴部片。１は赤褐色がちの色調を呈し、器面に結束第一種のある羽状縄文が施されている。２は損耗のため文様が不明なもので、裏面には黒色炭化物が付着している。３は覆土出土のⅥ群土器片。全体に摩耗が進んでいるが、微隆起線文に縁どられた帯縄文と三角列点文とが残されている。他に礫１点が出土した。

P－102

調査区中央部の60－81区に位置する。南側にP-104・105・106などがある。壙底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる鍋底状を呈する。１は覆土出土のⅥ群土器の口縁片。外切ぎみの口唇外側に刻みが並び、その下に爪形状の刺突文列がある。他に覆土から黒曜石剝片１点が出土した。

P－104

P-102の南東約1.5ｍに位置する。壙底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。１～３は覆土から検出されたⅥ群土器の破片である。１は山形にめぐる沈線文と並列する斜位の短刻線がみられるもの。２には半截竹管状工具による爪形状の連続刺突文と横帯縄文が施されている。３は縦走する帯縄文が施されたもの。４は砥石破片。砂岩を素材にし、重さは6.4g。

P－106

60－82区に位置し、北側に約３ｍ離れてP－102がある。東北東約１ｍにはP－105がある。壙底は平坦で、壁は北東側を除き垂直に立ち上がる。覆土から黒曜石剝片１点が出土。

P－107

P－106から約2.5ｍ南側の60－82区で検出した。壙底は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。遺物は全て覆土から検出した。１は覆土中に見出されたⅥ群土器の胴部片。表裏ともに摩耗が進んでいるが、器面には縦走する帯縄文が残されている。２は黒曜石石核。重さは8.5g。他に礫１点、黒曜石剝片15点、片岩剝片１点が出土した。

P－108

61－82区に位置し、P－107・108・133が東から西に約３ｍの距離をおいて並ぶ。壙底は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。１～５は覆土出土の土器片。１は胎土にやや多量の繊維を含む口縁片で、口唇部はほぼ丸い。２は表裏に縄文が施されたもの。３は波状縁の一部で、横位の沈線文がめぐり、不明瞭だが内面にも縄文が施された痕跡がある。４は口唇部の丸い小片で、胎土や調整が３に似たもの。５は縦走する縄文がみられる胴部片。１・２はⅢ群ｂ類に、３・４はⅥ群ａ類に、５はⅥ群に属するものである。他に礫４点が出土した。

P－112

P－112・115・116・120が弧状に並ぶ北端の60－82区に位置する。壙底は平坦で、壁との境は丸味がある。１～４は覆土出土のⅥ群土器で、５・６はⅢ群ｂ－３類の破片。１は口縁外側

に刻みが加えられたもので、現存部では他の文様はみられない。2は表裏ともに摩耗の進んだ胴部片である。3は縦走する帯縄文がみられるもので、裏には黒色炭化物が付着している。4は底面へと移行する直前の胴下部片で、縦走する帯縄文が重ねて施文されている。5は結束第二種のある原体による縄文がみられるもの。6は器面が摩耗して縄文が不明瞭だが、結束第一種の結束部の圧痕が残されている。他に礫と黒曜石剝片、泥岩剝片、片岩剝片各2点が出土した。

P－115

P-112の北北東側約1mで検出した。壙底は北東側が深く若干傾斜する。遺物は全て覆土から検出した。1には不整な刺突や沈線状のものがみられるが、文様か否か判然としない。2は凹石。安山岩を用いている。重さは76.2g。他に礫と黒曜石剝片、片岩剝片各1点が出土した。

P－116

60－83区に位置し、南約2mにP－112がある。壙底は平坦で、壁は南北が急角度であるが東西は緩やかに立ち上がる。1～5は覆土から検出された土器片。1はやや厚手で胎土に繊維を含有し、器面には細い原体による撚糸文が施されたもの。裏には不整な撚紐の圧痕が残されている。2は胎土に砂礫の含有が多い土器片で、単節の斜行縄文を施文後、さらに器面調整を加えている。1・2はⅣ群a類。3～5は帯縄文の縦走がみられるⅥ群土器の破片で、3・4の裏面には、黒色炭化物が一面に付着している。他に黒曜石剝片2点、泥岩剝片1点が出土した。

P－120

60－83区に位置し、北西約2mにP－116がある。壙底は平坦である。遺物は全て覆土から検出した。1はⅥ群土器の破片で、半截竹管状の工具を利用した横位の沈線文、斜位の短刻線、横位の列点文のほか、隆起線文や横帯縄文が重ねて施文されている。2・3はⅢ群b－3類に属する胴部片で、ともに摩耗しているが、単節の斜行縄文がみられる。4は石斧破片。安山岩を用い、打ち欠きにより成形している。重さは76.6g。他に礫と片岩剝片各1点が出土した。

P－118

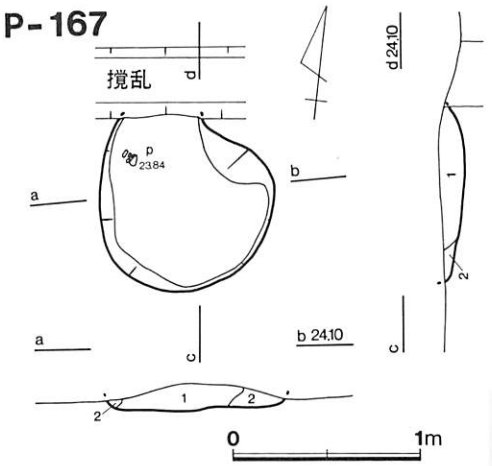
60－83区に位置する。壙底は中央がやや高く、壁の西側は緩やかで他は垂直に立ち上がる。1は刻みのある貼付帯と不整な山形にめぐる沈線文、および連続刺突文のみられる口縁片。2・4は帯縄文のほか、爪形状の刺突文列や沈線文があるもので、4の円形の穴は夾雑物の焼失痕か。以上はⅥ群で、3はⅢ群b類の摩耗した胴部片。他に礫2点と黒曜石剝片4点が出土した。

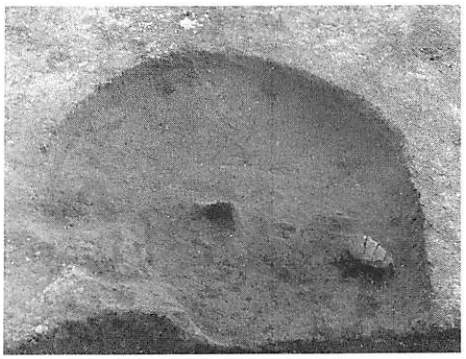
P－122

60－85区に位置する。壙底は東側が深いがボール状を呈する。遺物は全て覆土から検出した。1～5はⅢ群b－3類のものと思われる破片で、いずれもかなり摩耗している。1・3には結束第一種のある羽状縄文が、2・4には無節、単節の斜行縄文が残されている。5は平底の底部片で、胎土には砂礫のほか繊維も含まれている。他に礫3点と黒曜石剝片6点が出土した。

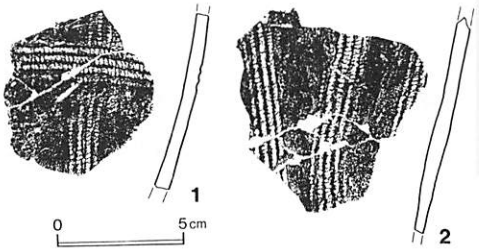
P－138

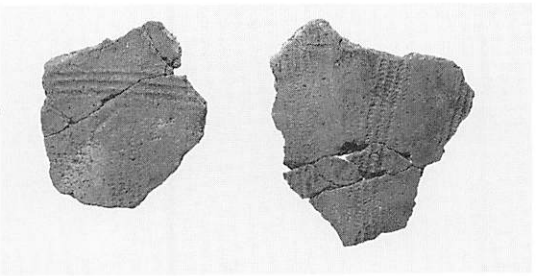
59－85区に位置する。壙底は丸味がありボール状を呈する。覆土から礫1点が出土した。

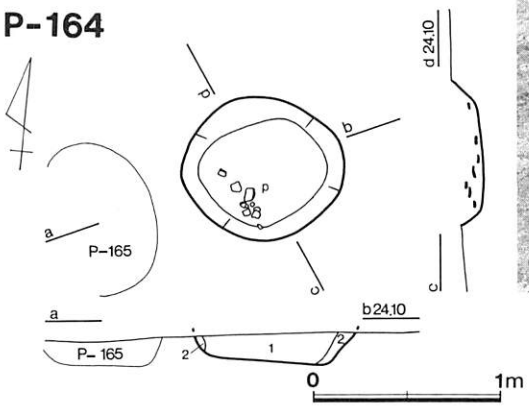




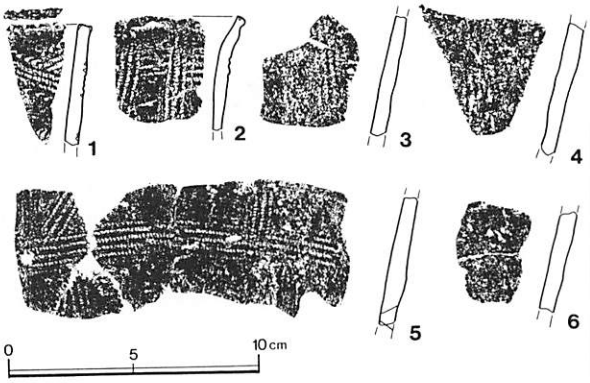
1．黒色土　2．暗茶褐色土

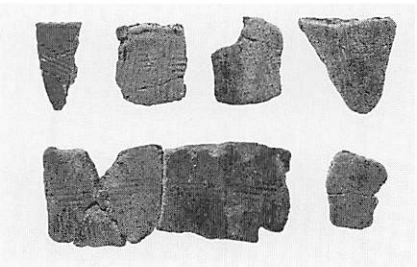






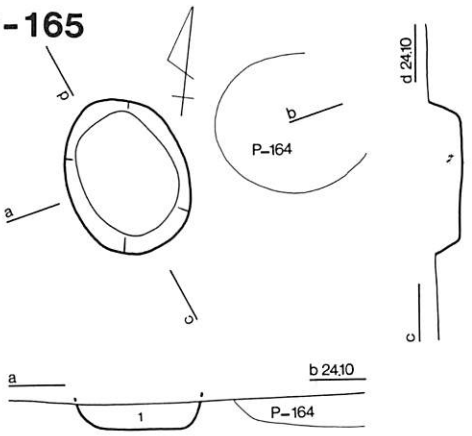
1．黒色土
2．暗褐色土

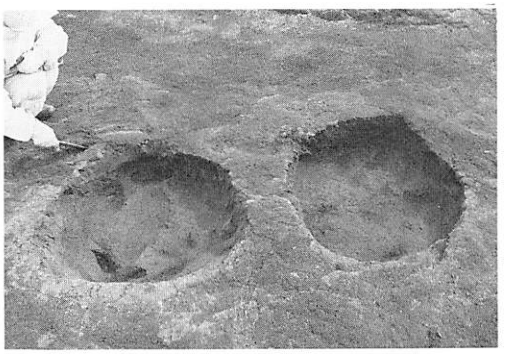




P—167・P—164

P-165

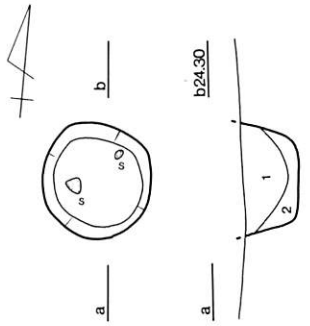




1．黒色土

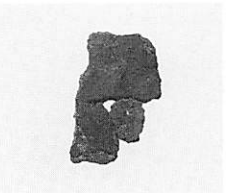
0　1m

P-1



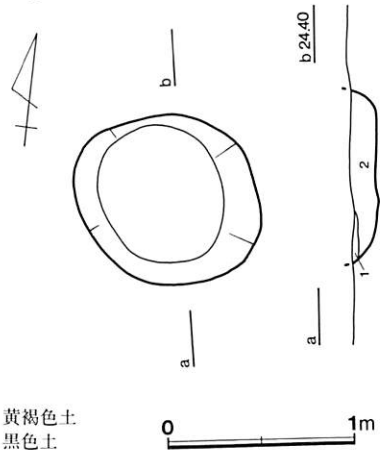
1．黒色土
2．黒褐色土

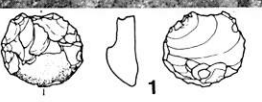
0　1m



0　5cm

P-31





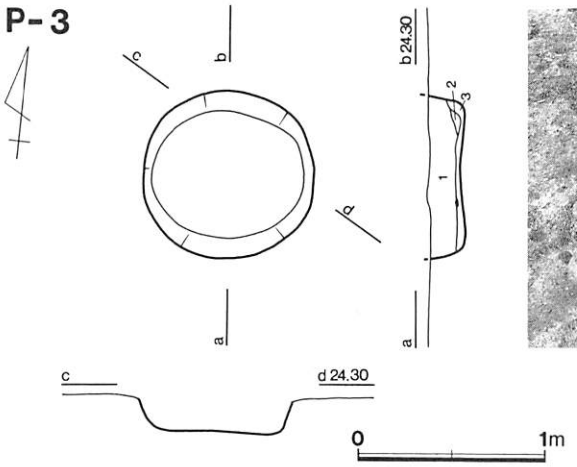
1．黄褐色土
2．黒色土

0　1m

0　3cm

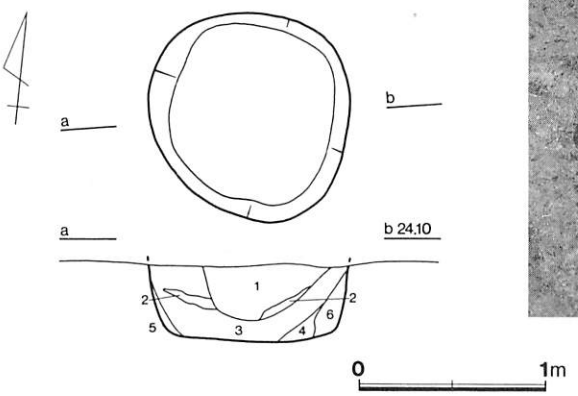
P—165・P—1・P—31

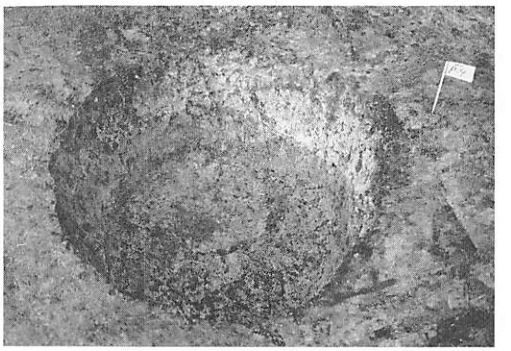
P-3



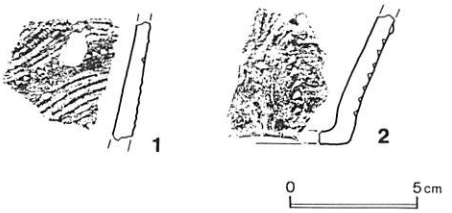
1．黒褐色土
2．黄色ロームブロック
3．黄褐色土

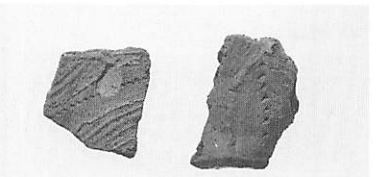
P-9



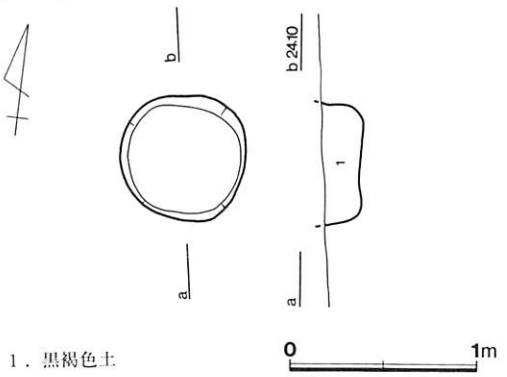


1．黒色土(ポロポロ)
2．黒色土
3．暗黒褐色土
4．黒褐色土
5．明灰褐色土
6．黄褐色土





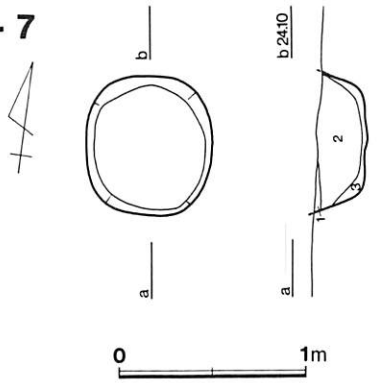
P-6



1．黒褐色土

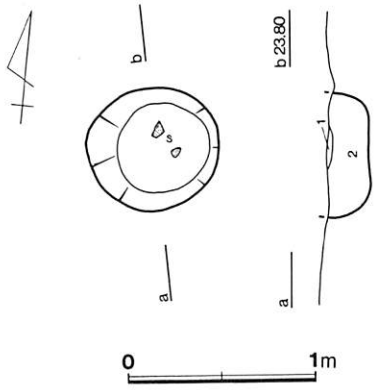
P—3・P—9・P—6

P-7

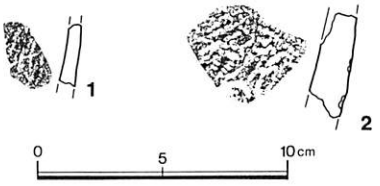


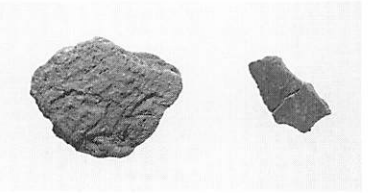
1．黒色土　　3．褐色土
2．黒褐色土

P-13

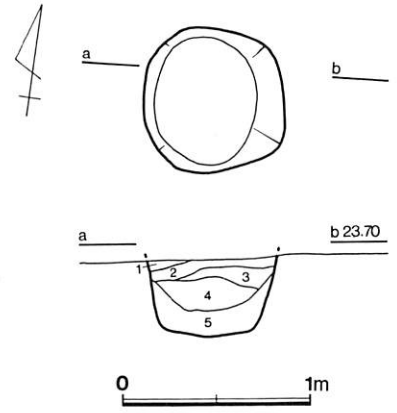


1．黒褐色土
2．黒色土



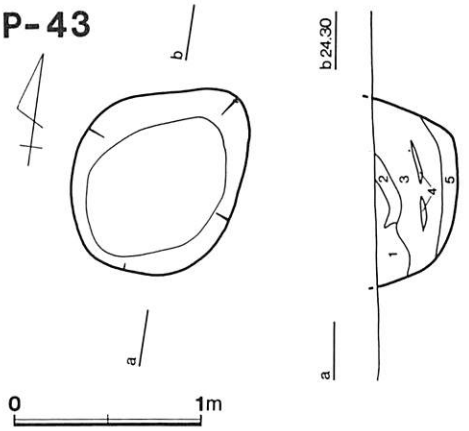


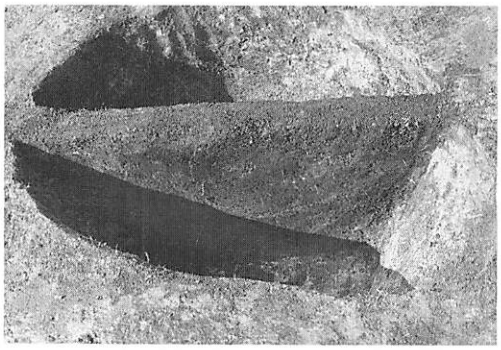
P-45



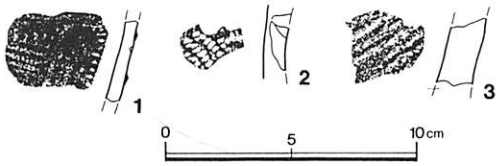
1．黄褐色土　　4．黒褐色土
2．黒褐色土　　5．黄褐色土
3．暗褐色土

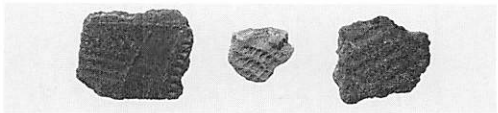
P-43



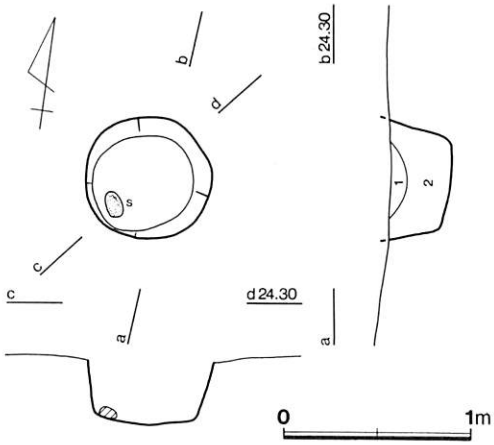


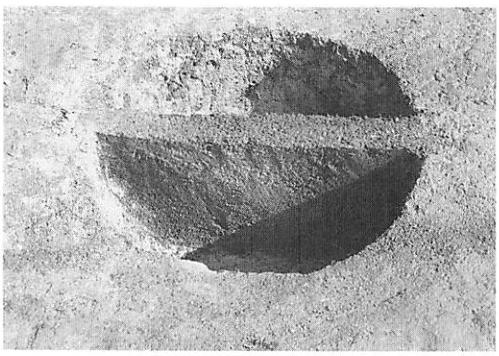
1．黄褐色土　4．黄褐色土
2．黒褐色土　5．黄褐色土
3．茶褐色土





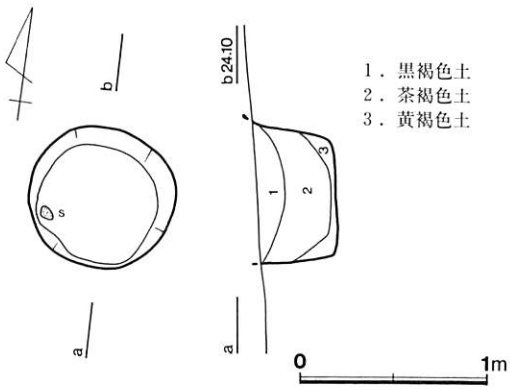
P-17



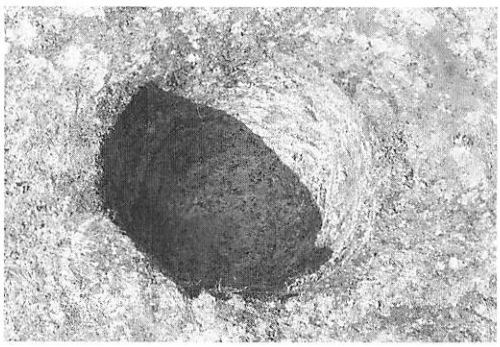


1．黒褐色土
2．褐色土

P-18

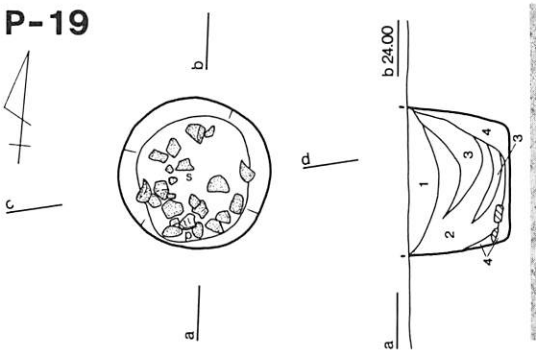


1．黒褐色土
2．茶褐色土
3．黄褐色土

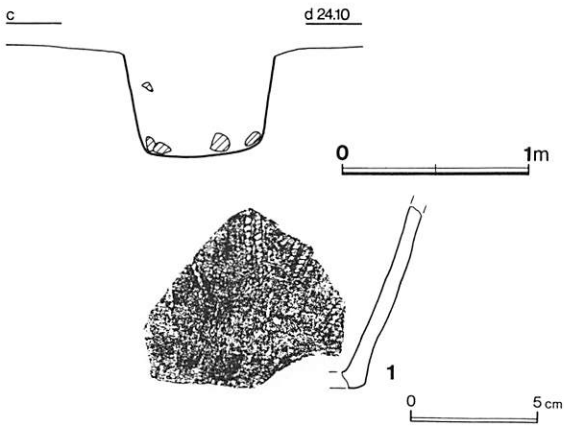


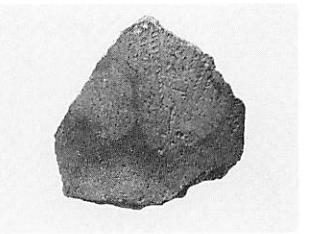
P—43・P—17・P—18

P-19

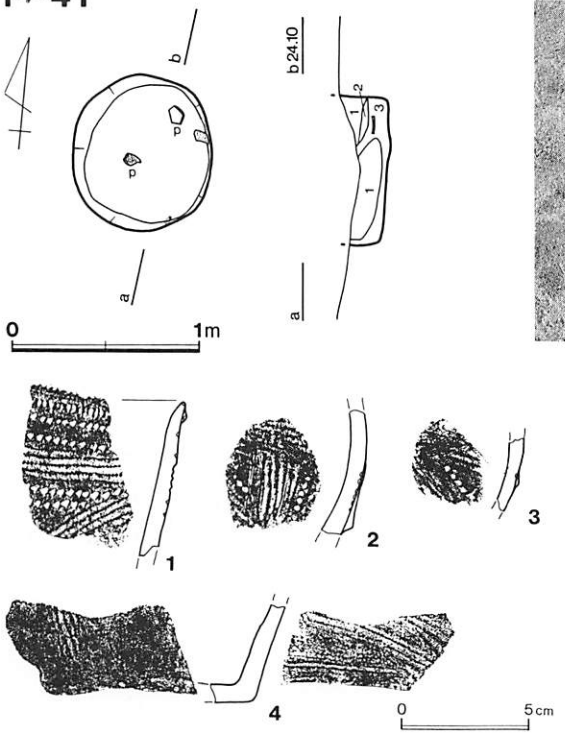


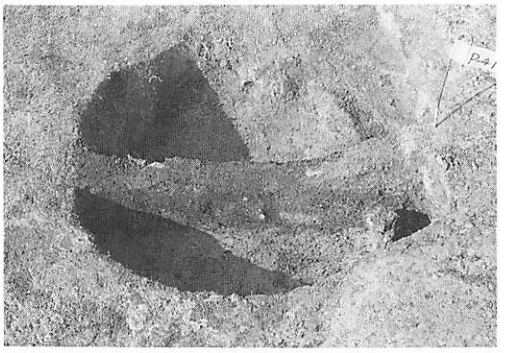
1．黒褐色土　3．黒褐色土
2．茶褐色土　4．黄褐色土



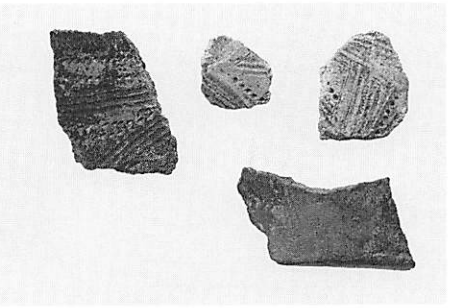


P-41



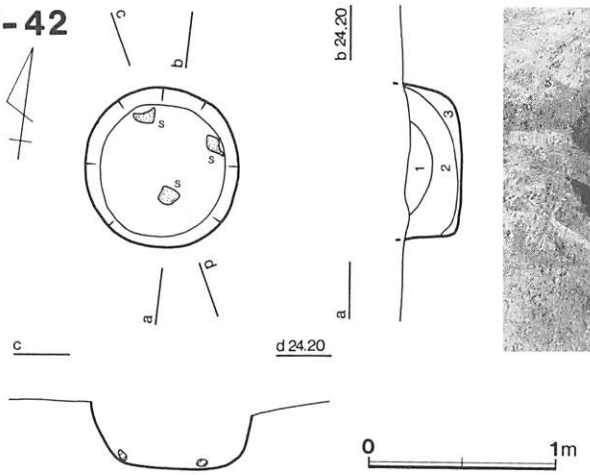


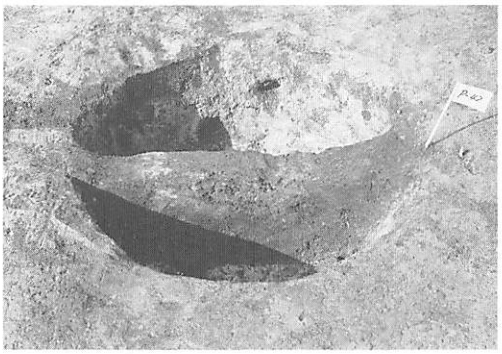
1．黒褐色土
2．茶褐色土
3．黄褐色土



P—19・P—41

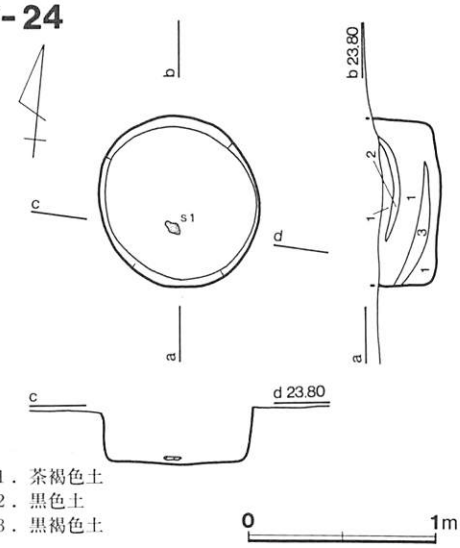
P-42

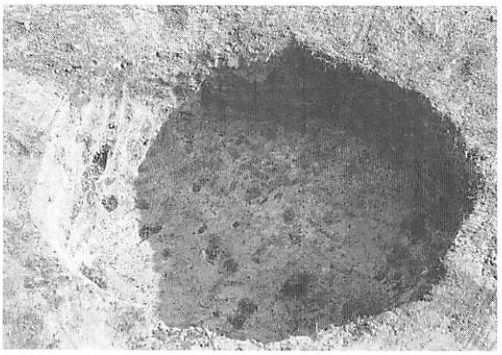




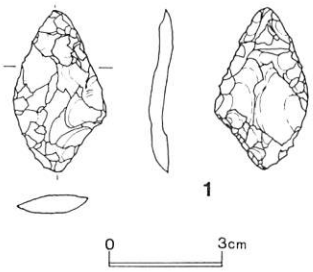
1．黄褐色ローム
2．黒褐色土
3．暗黄褐色土

P-24

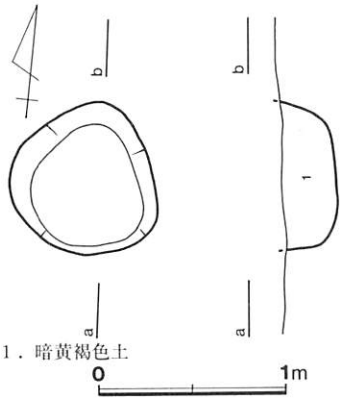




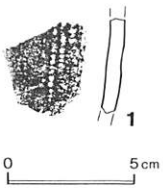
1．茶褐色土
2．黒色土
3．黒褐色土

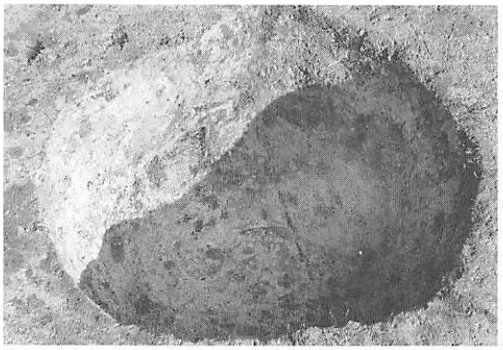


P-25



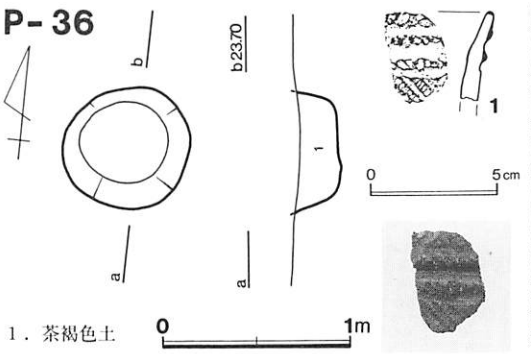
1．暗黄褐色土

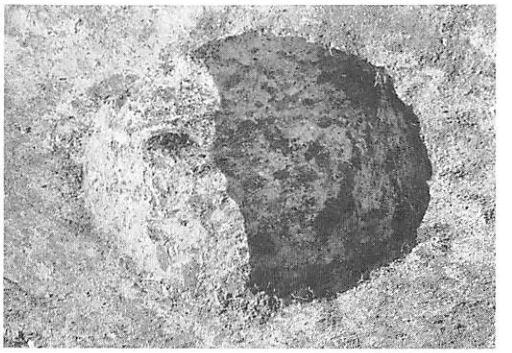




P—42・P—24・P—25

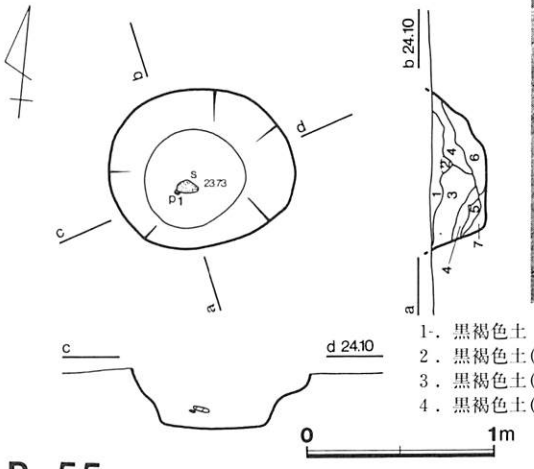
P-36

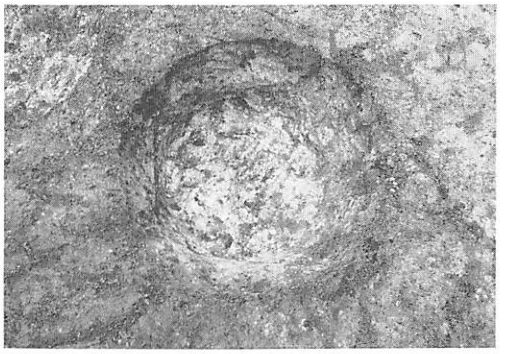




1．茶褐色土

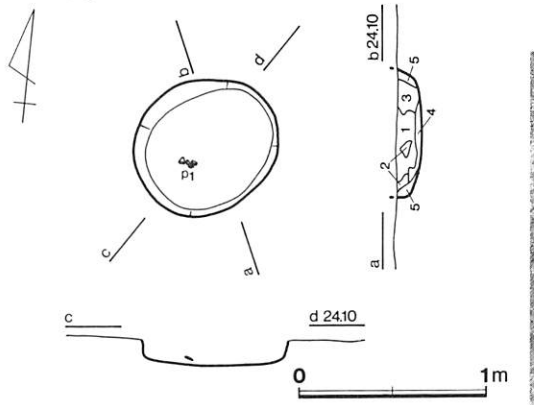
P-54

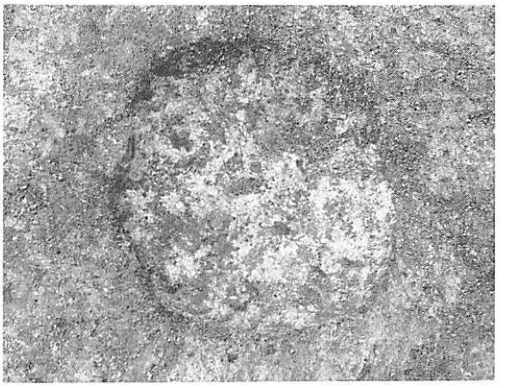


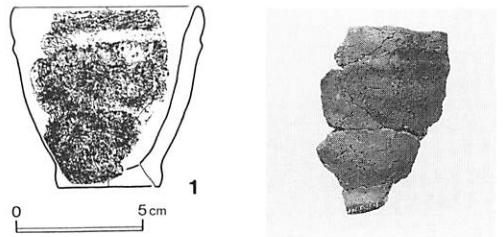


1-．黒褐色土
2．黒褐色土(粒状)
3．黒褐色土(粒状ローム混入)
4．黒褐色土(ロームブロック混入)
5．黒褐色土
6．黄褐色土
7．黄褐色土(黒褐色土が混る)

P-55



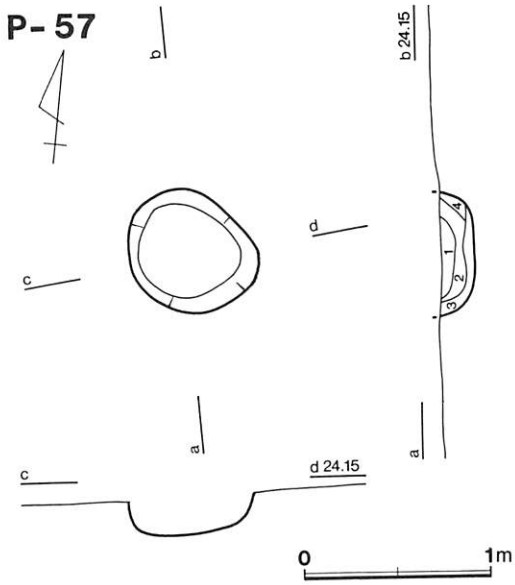




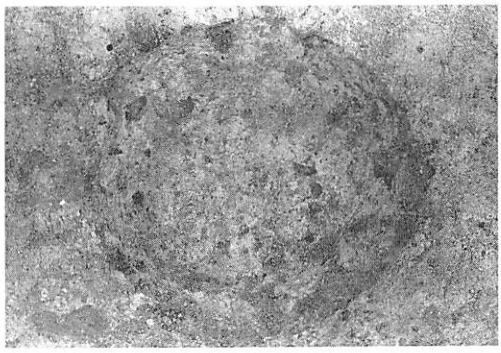
1．黒褐色土
2．黄褐色土
3．黒褐色土
4．黄褐色土（1を含む）
5．黄褐色土

P—36・P—54・P—55

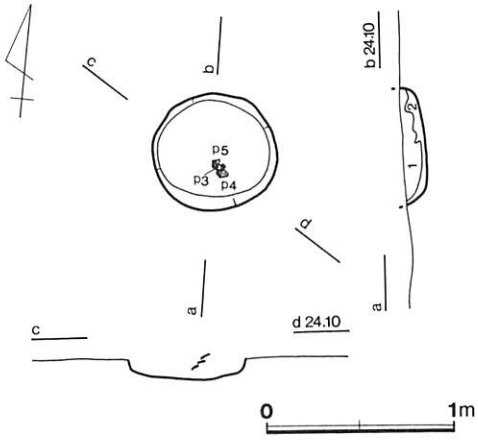
P-57

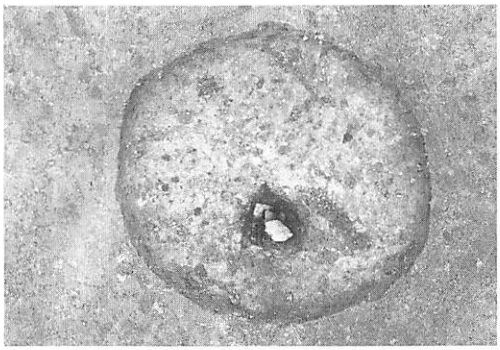


1．褐色土
2．黒褐色土
3．黒褐色土（黄褐色土混入）
4．黒褐色土（ロームブロック混入）

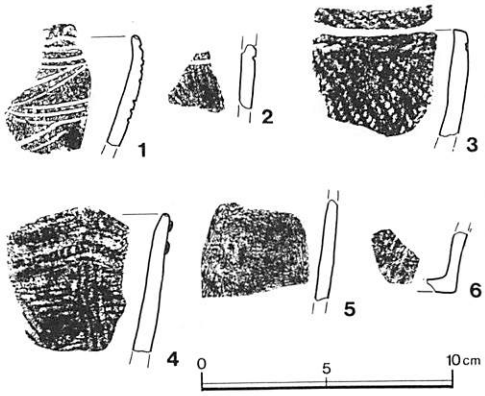


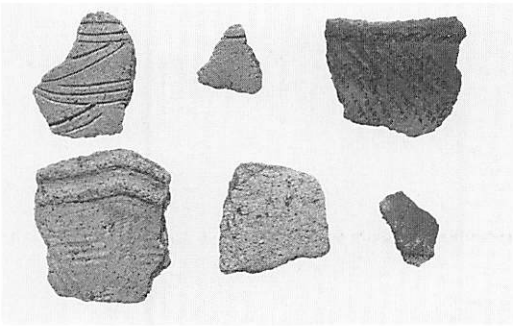
P-58





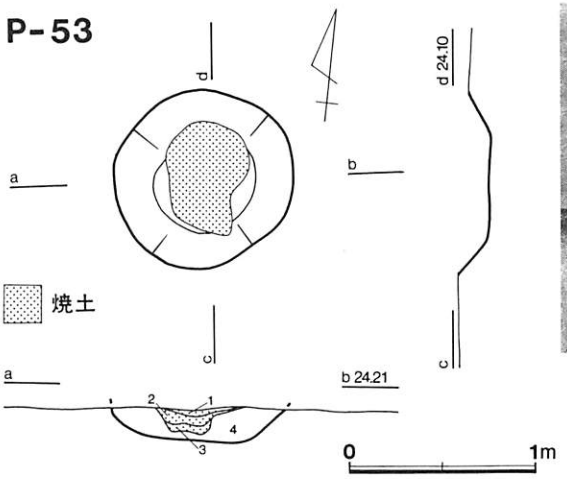
1．黒色土
2．黒色土（黄色土ロームを含む）





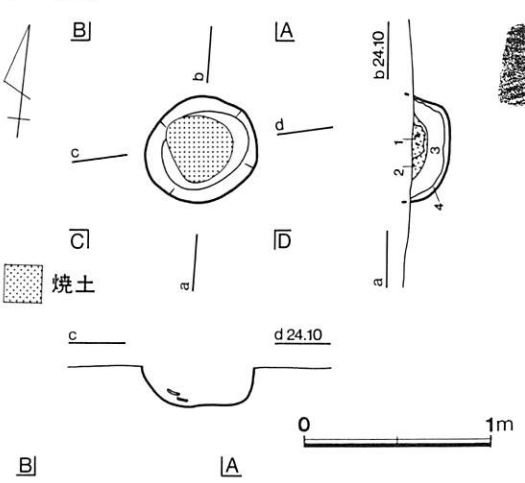
P—57・P—58

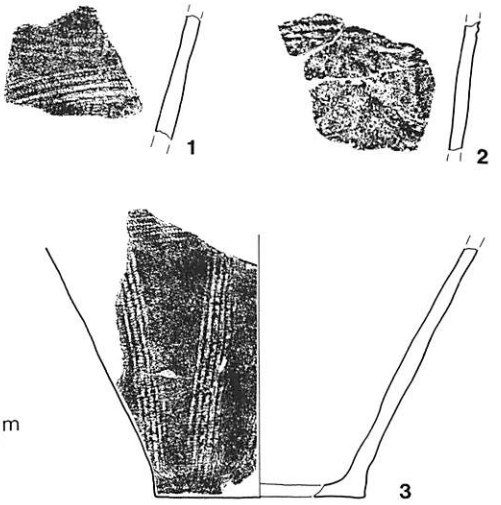
P-53

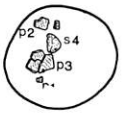


1．赤褐色土
2．暗赤褐色土
（焼土＞黒色土）
3．暗赤褐色土
（焼土＜黒色土）
4．黒色土

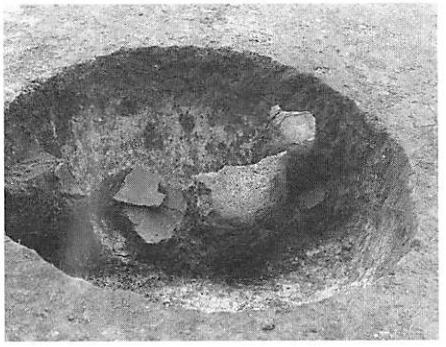
P-60

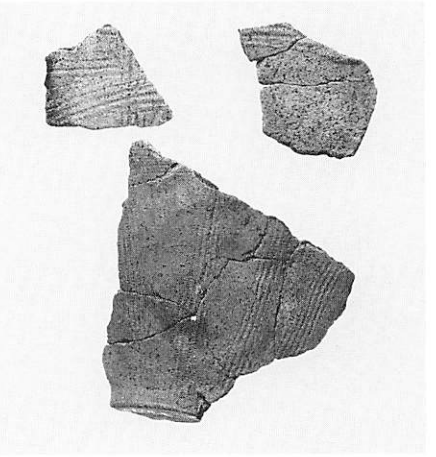




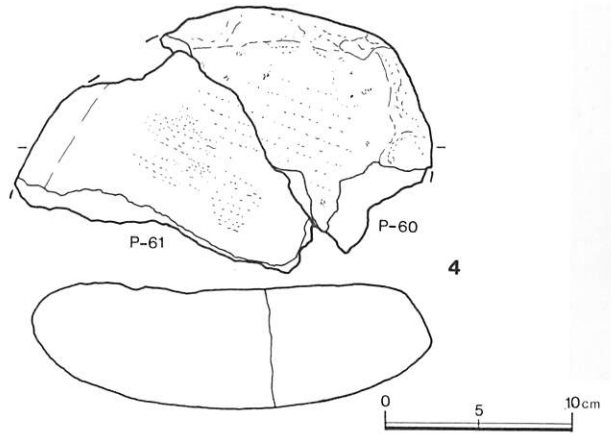


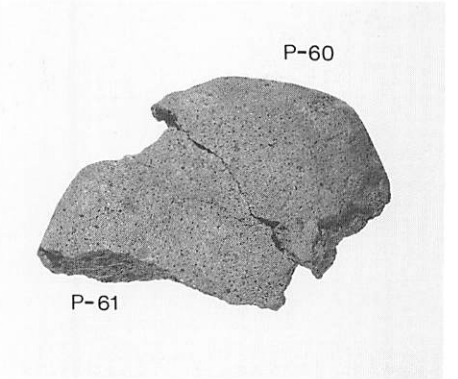
1．赤褐色土
2．暗赤褐色土
（焼土＞黒褐色土）
3．黒褐色土
4．黒褐色土（ロームブロック混入）

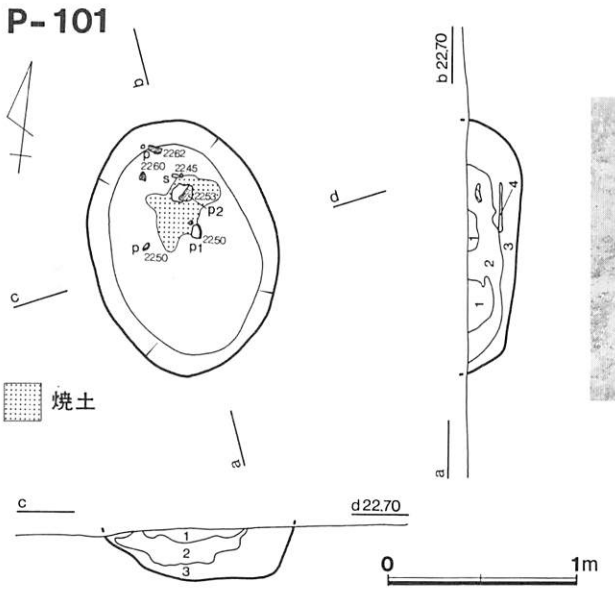


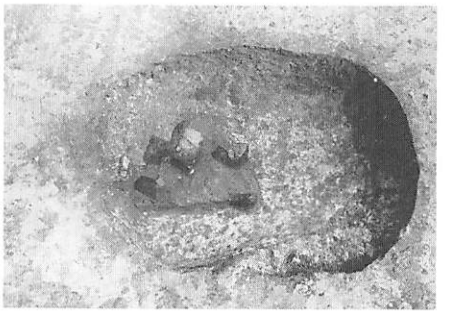


P—53・P—60

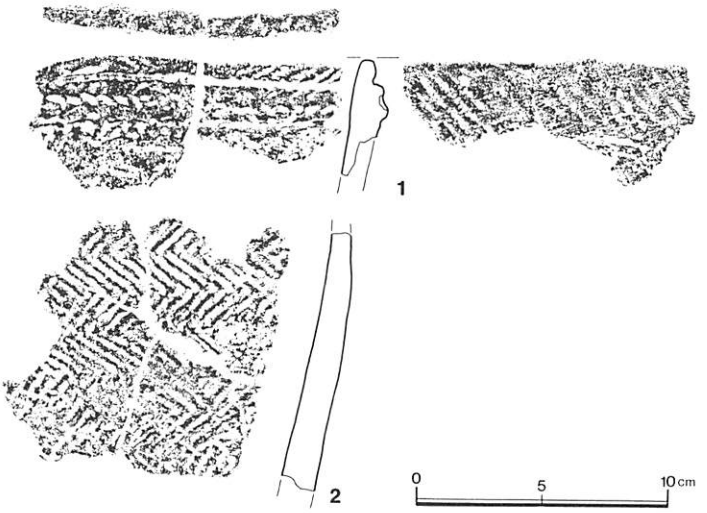






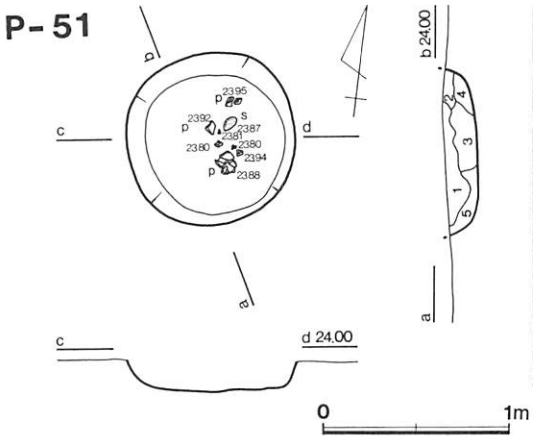


1．暗褐色土＞黄褐色土
2．黒褐色土
3．暗茶褐色土＜黄褐色土
4．赤褐色土（焼土）

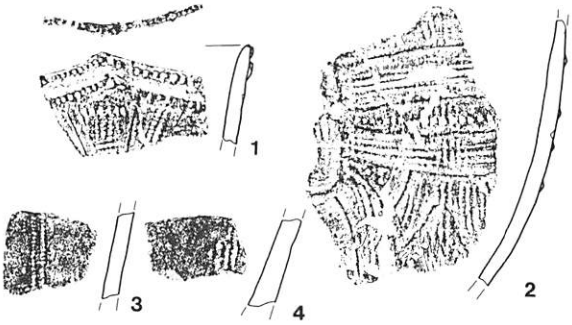


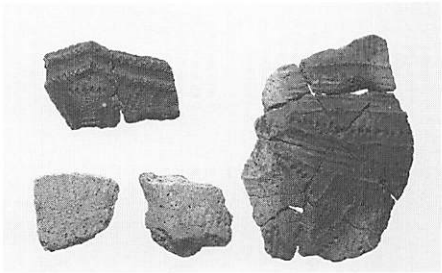
P—60の出土石器・P—101

P-51



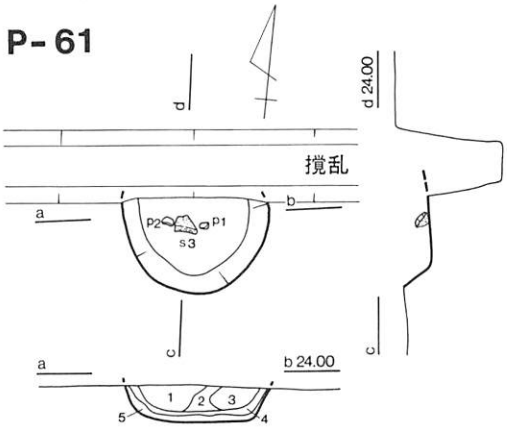
1．黒色土　　4．灰褐色土(＋ロームブロック)
2．暗茶褐色土　　5．灰褐色土
3．黒褐色土

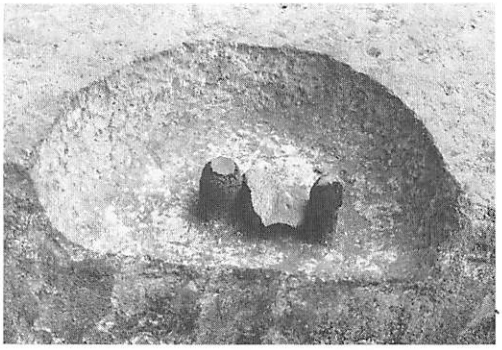


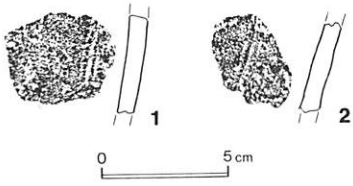


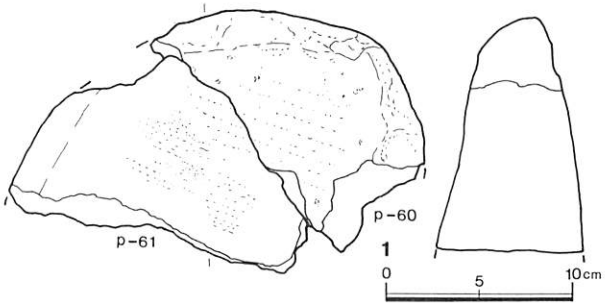
1．黒色土　　4．黒褐色土
2．黒暗褐色土　　5．黄褐色土
3．黒色土

P-61

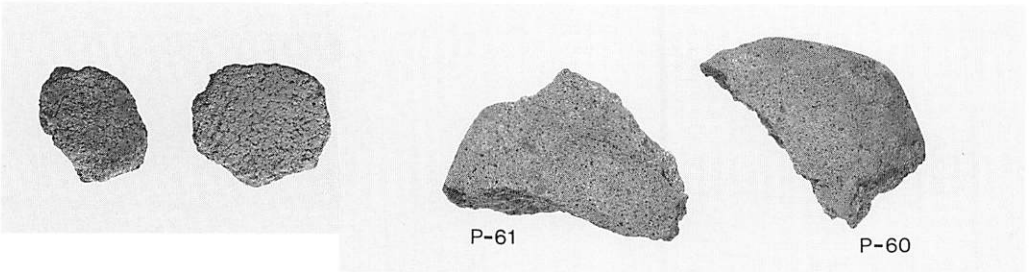




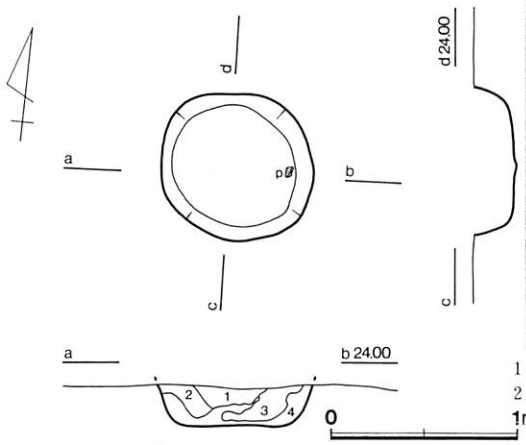


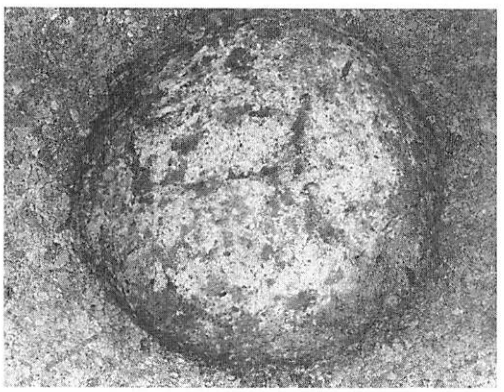


P—51・P—61

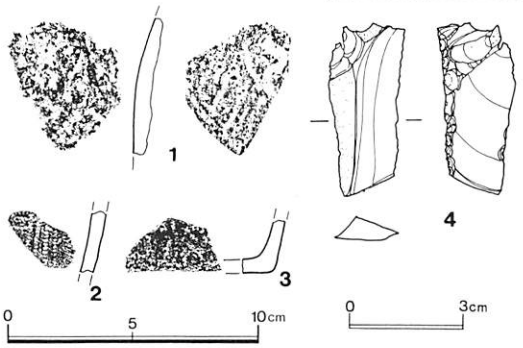


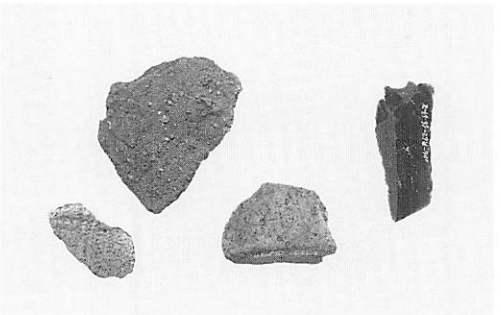
P-62



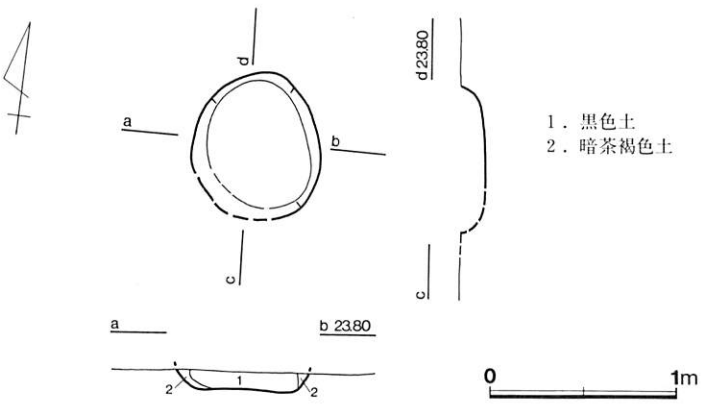


1．黒色土
2．黒褐色土(木炭混入)
3．黒褐色土(大きな木炭混入)
4．黒褐色土(黄褐色ローム混入)

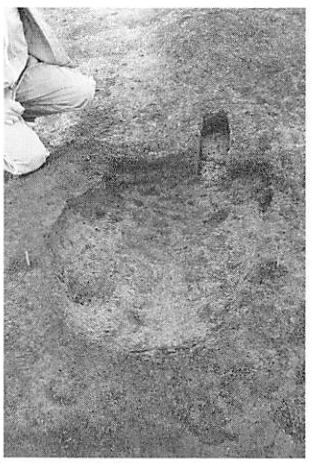




P-170

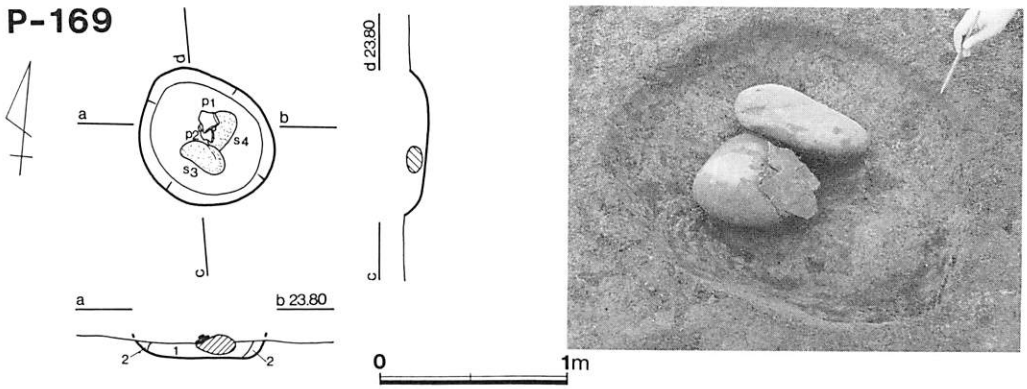


1．黒色土
2．暗茶褐色土

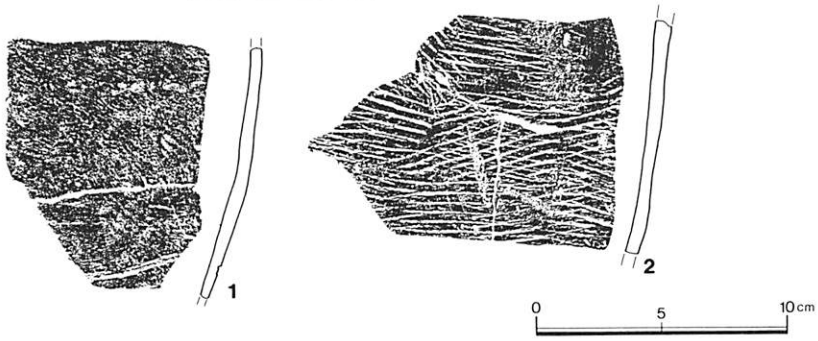


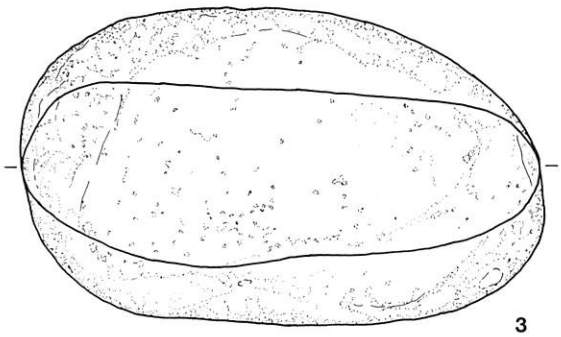
P—61の出土遺物・P—62・P—170

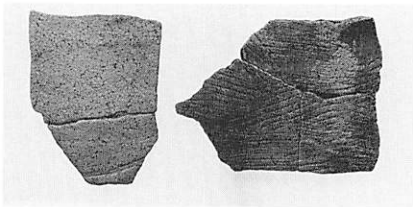
P-169

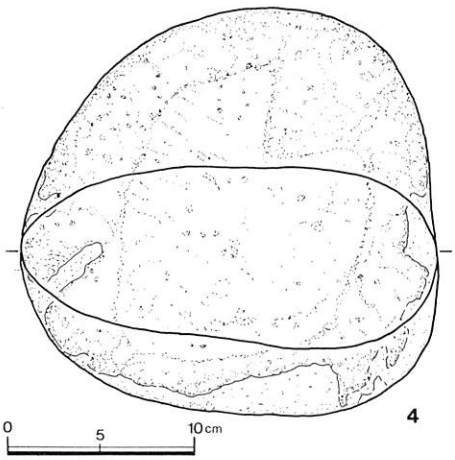


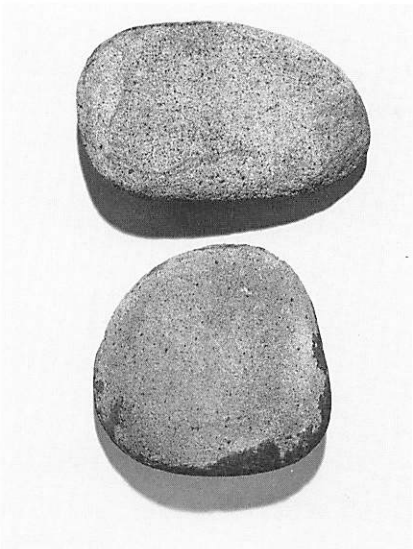
1．黒色土
2．暗茶褐色土





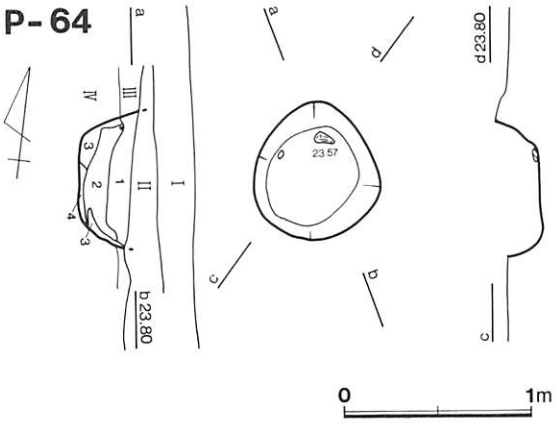


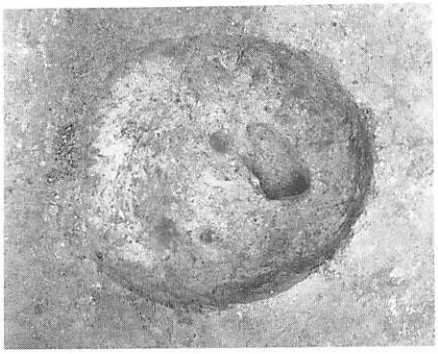




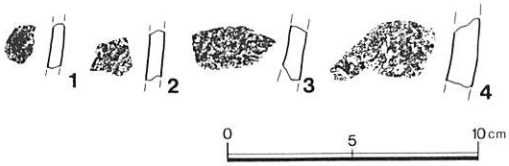
P—169

P-64

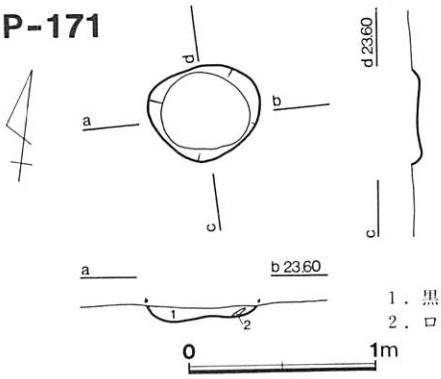




1．暗黒褐色土　3．明黒褐色土
2．黒色土　4．暗灰黒褐色土

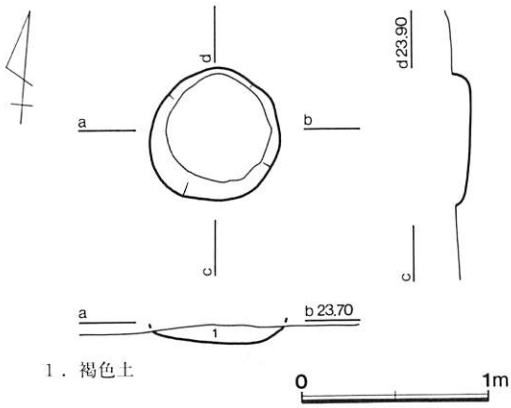


P-171

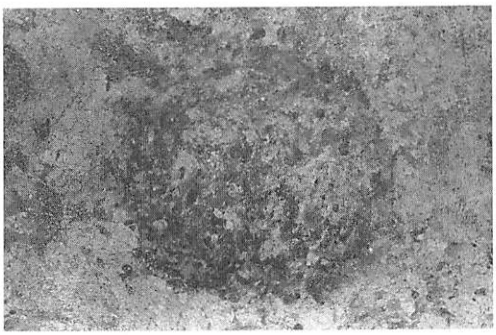


1．黒色土
2．ロームブロック

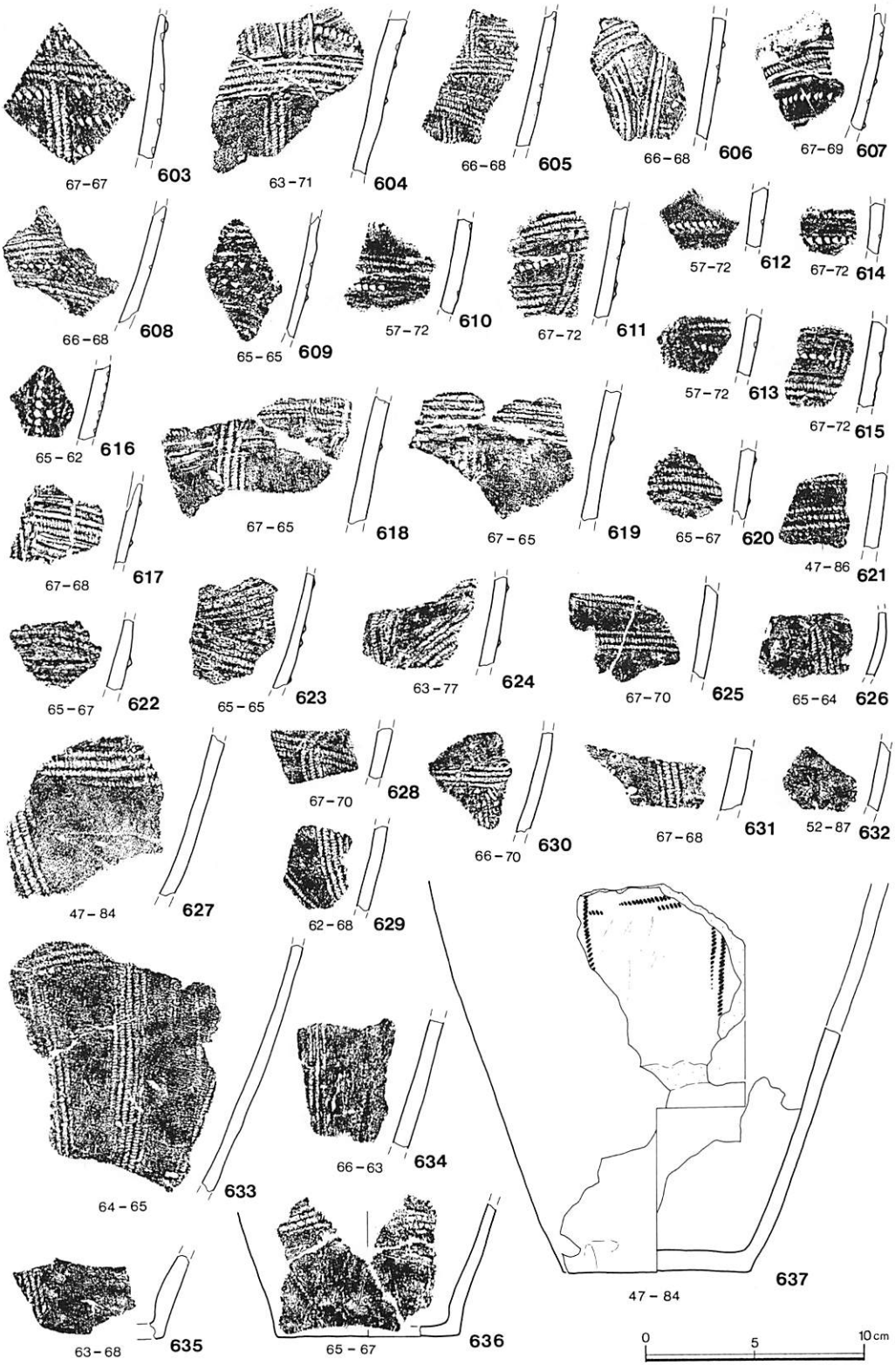
P-68



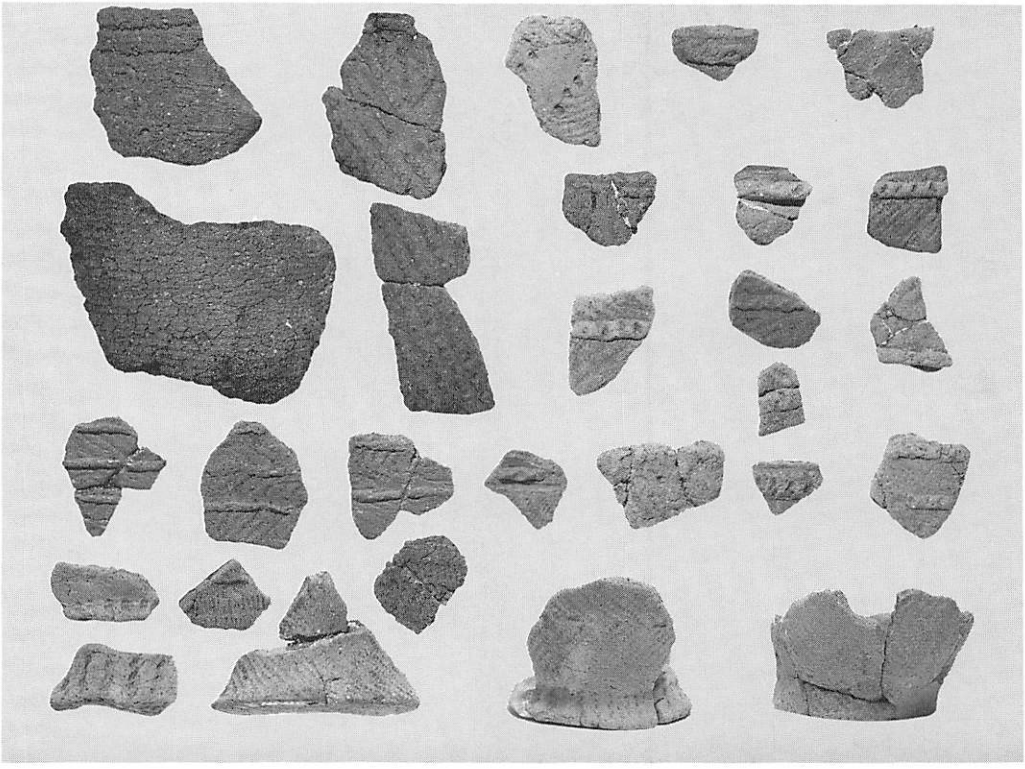
1．褐色土

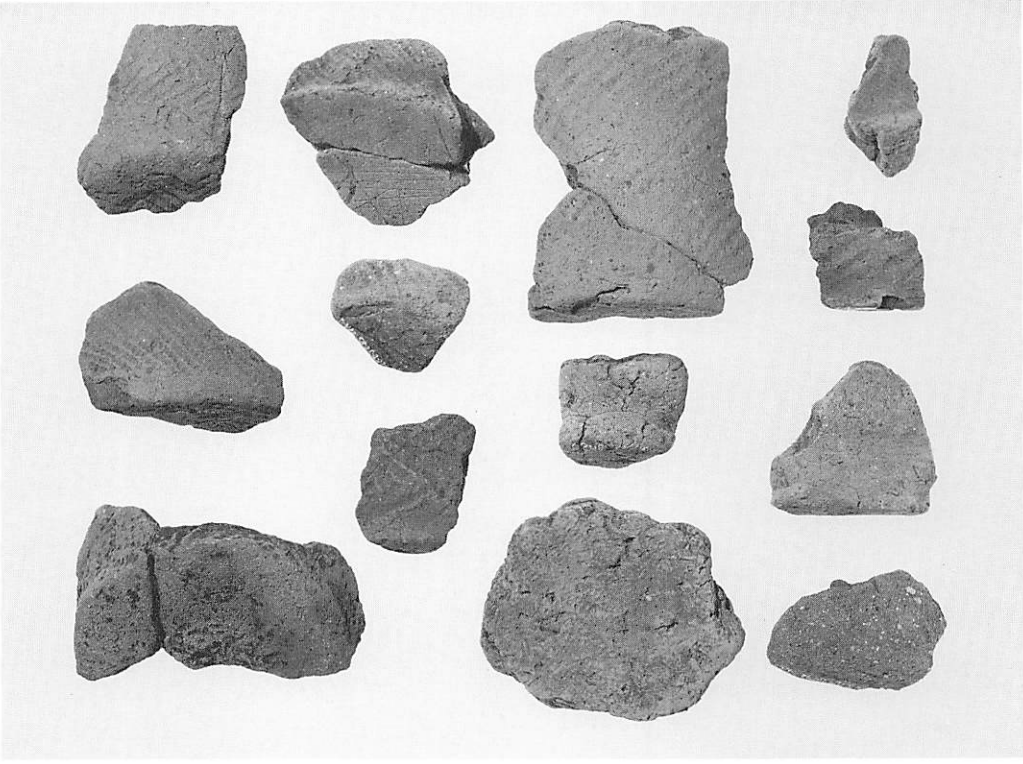


P—64・P—171・P—68

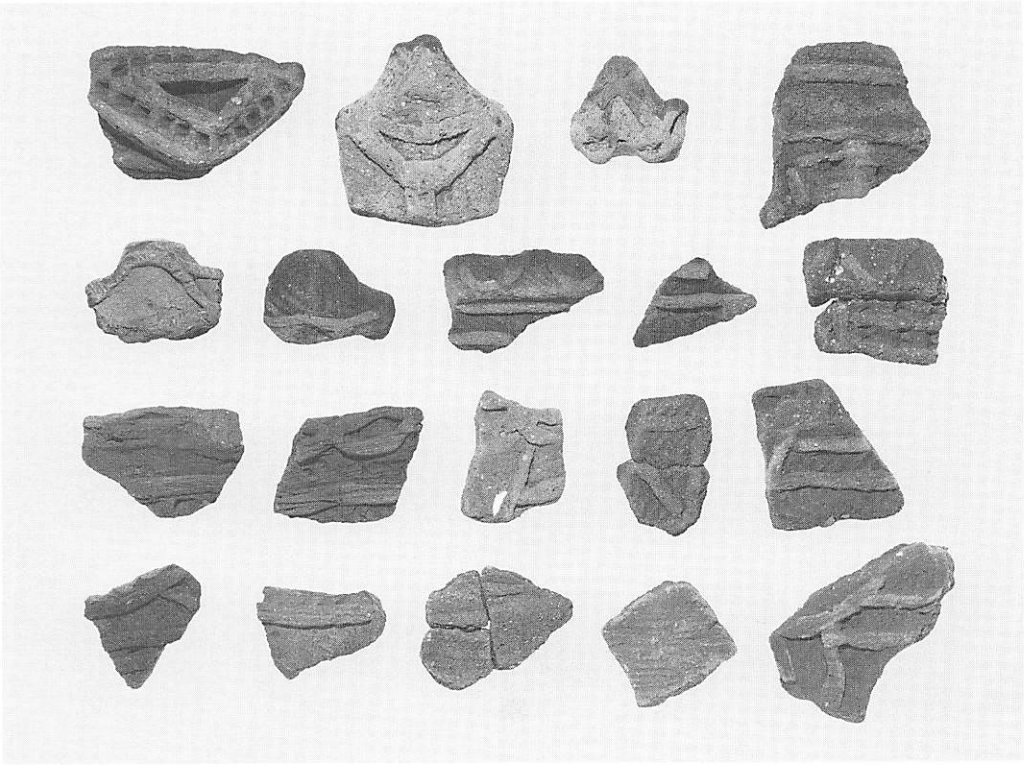

67-67 603
63-71 604
66-68 605
66-68 606
67-69 607
66-68 608
65-65 609
57-72 610
67-72 611
57-72 612
67-72 614
57-72 613
67-72 615
65-62 616
67-65 618
67-65 619
65-67 620
47-86 621
67-68 617
65-67 622
65-65 623
63-77 624
67-70 625
65-64 626
67-70 628
66-70 630
67-68 631
52-87 632
47-84 627
62-68 629
64-65 633
66-63 634
63-68 635
65-67 636
47-84 637
0 5 10cm

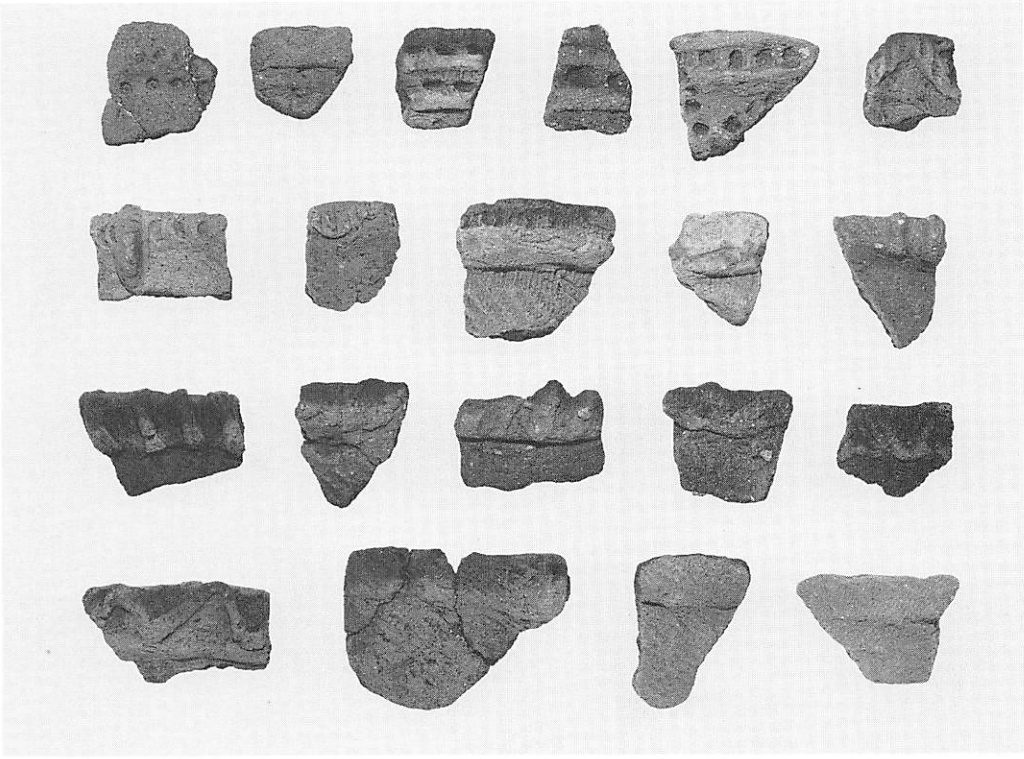
土 器 (25)



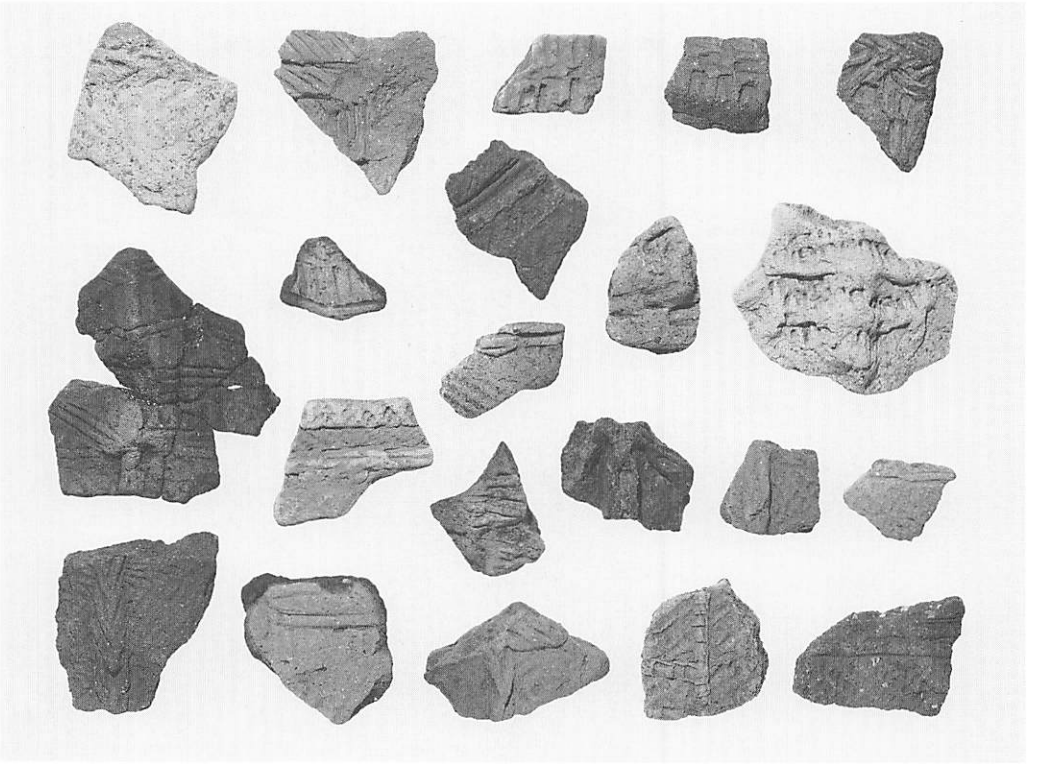


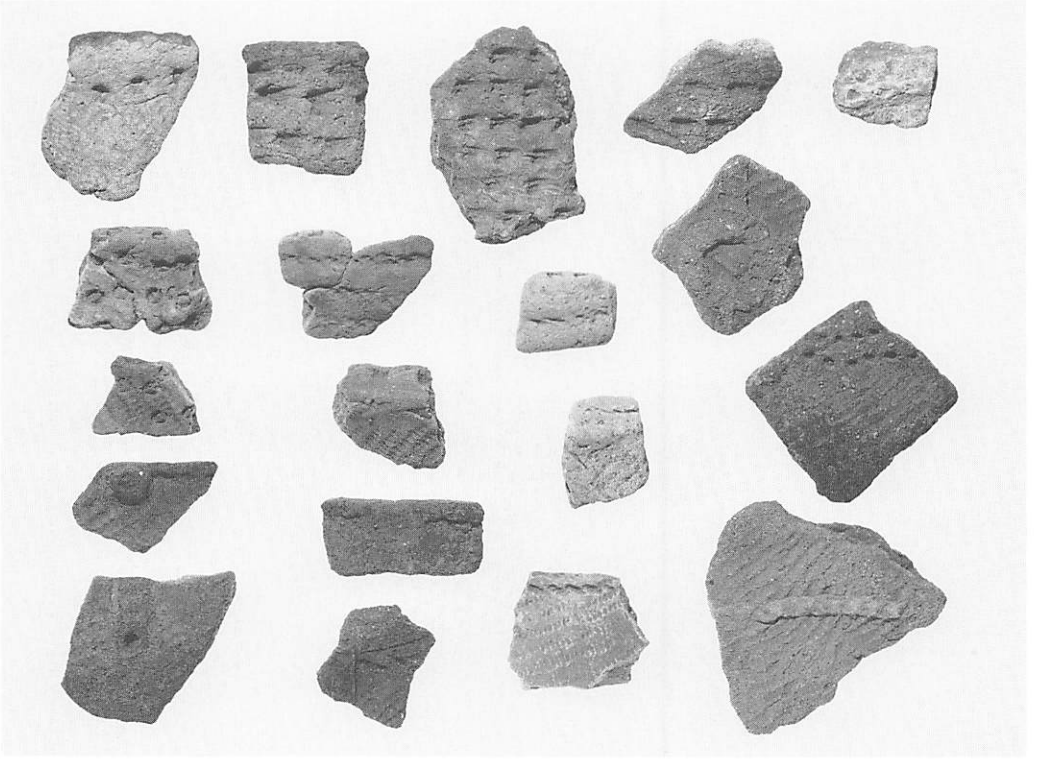
土　器（1）



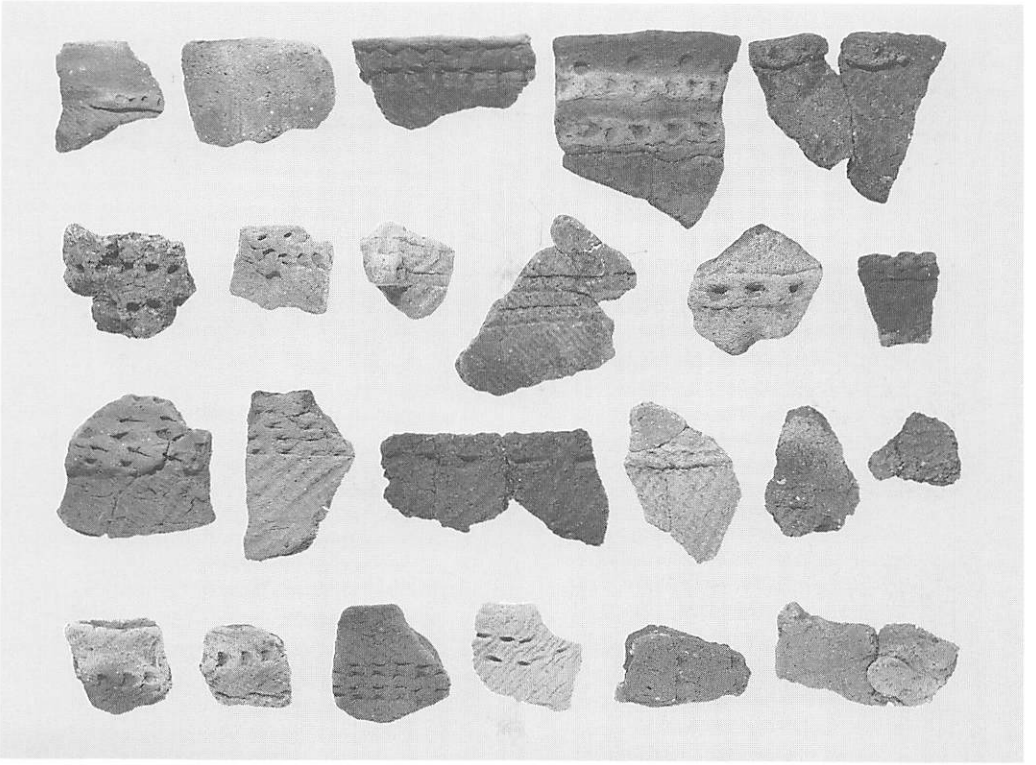


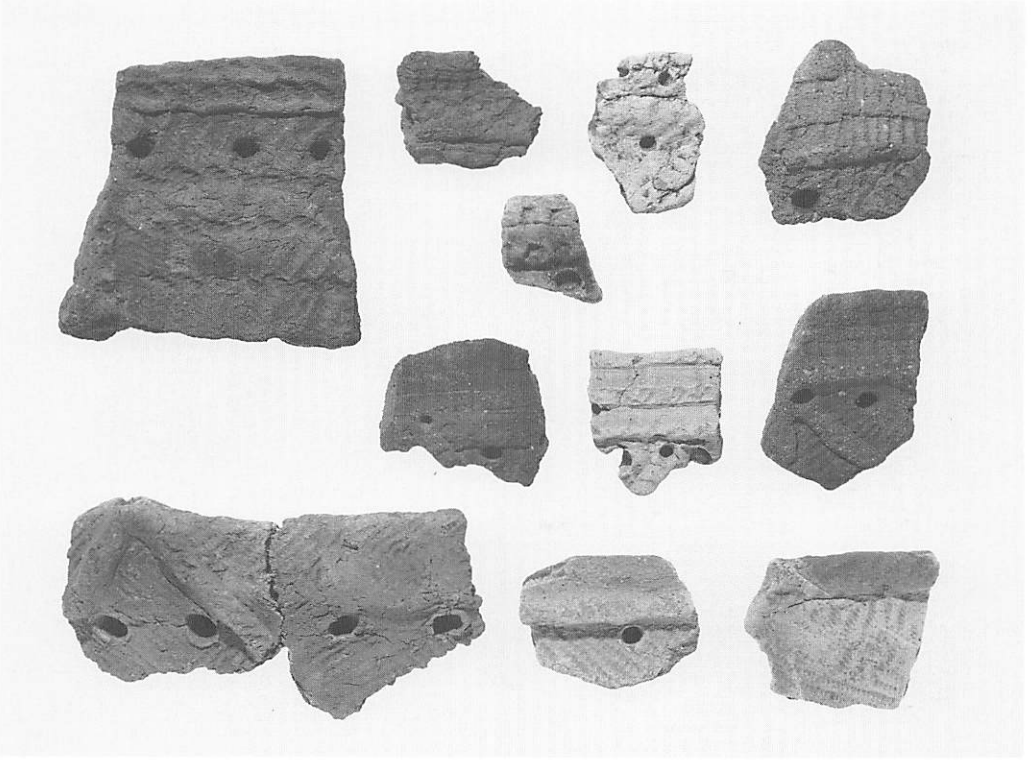
土　器　(2)



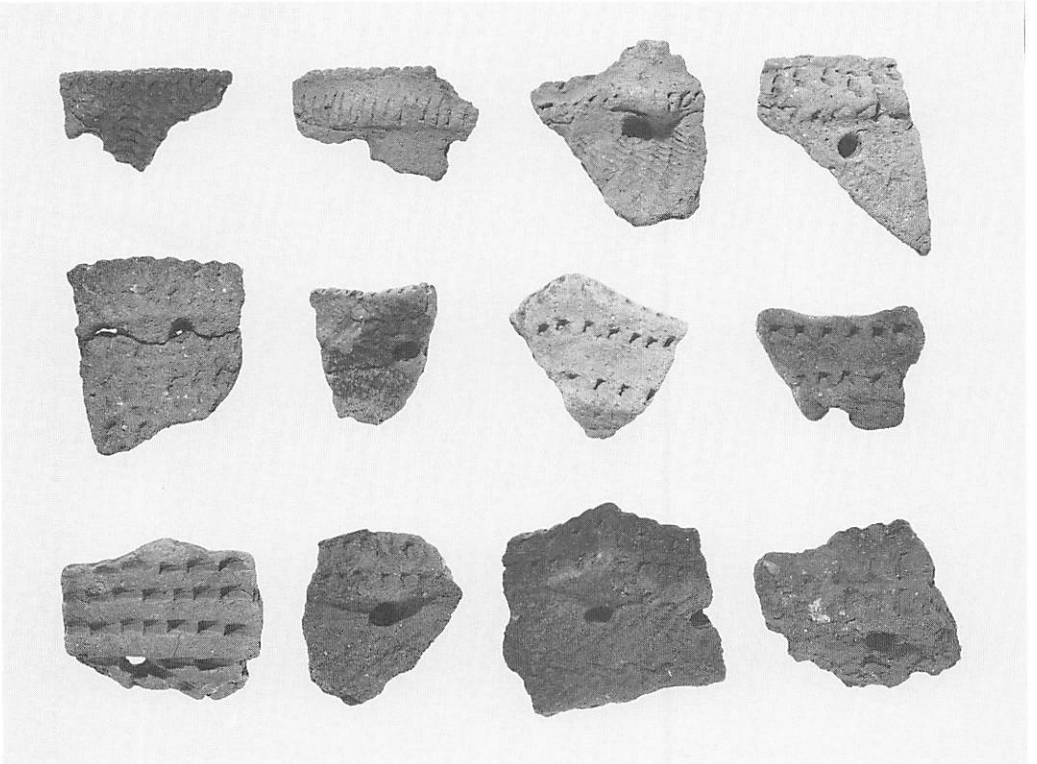


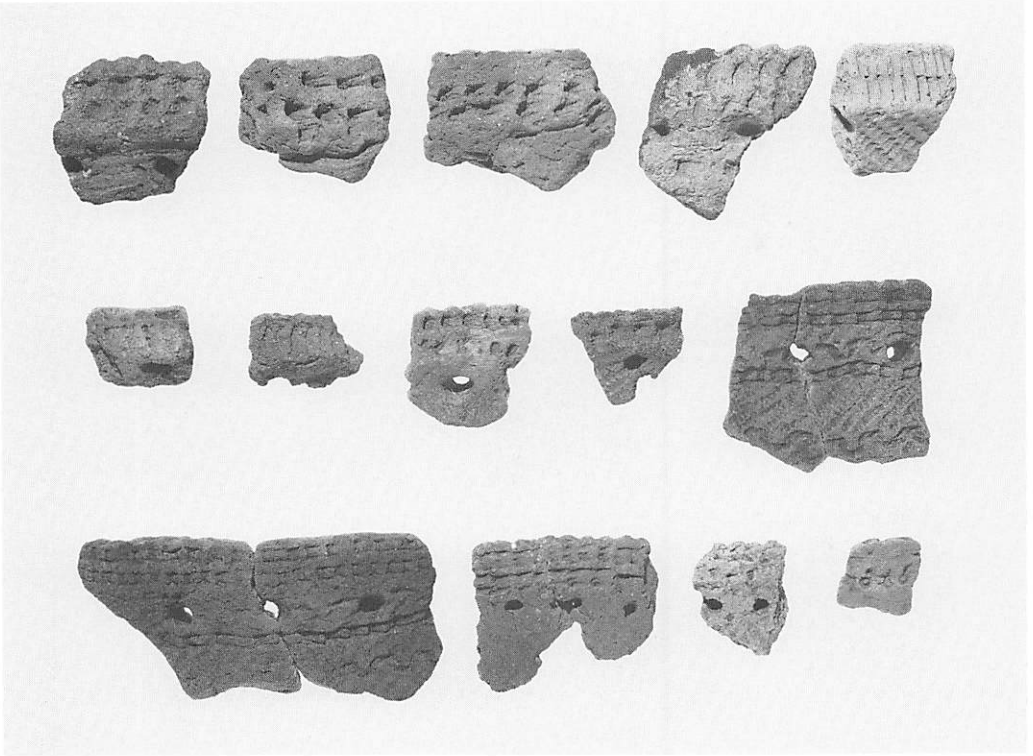
土　器 (3)



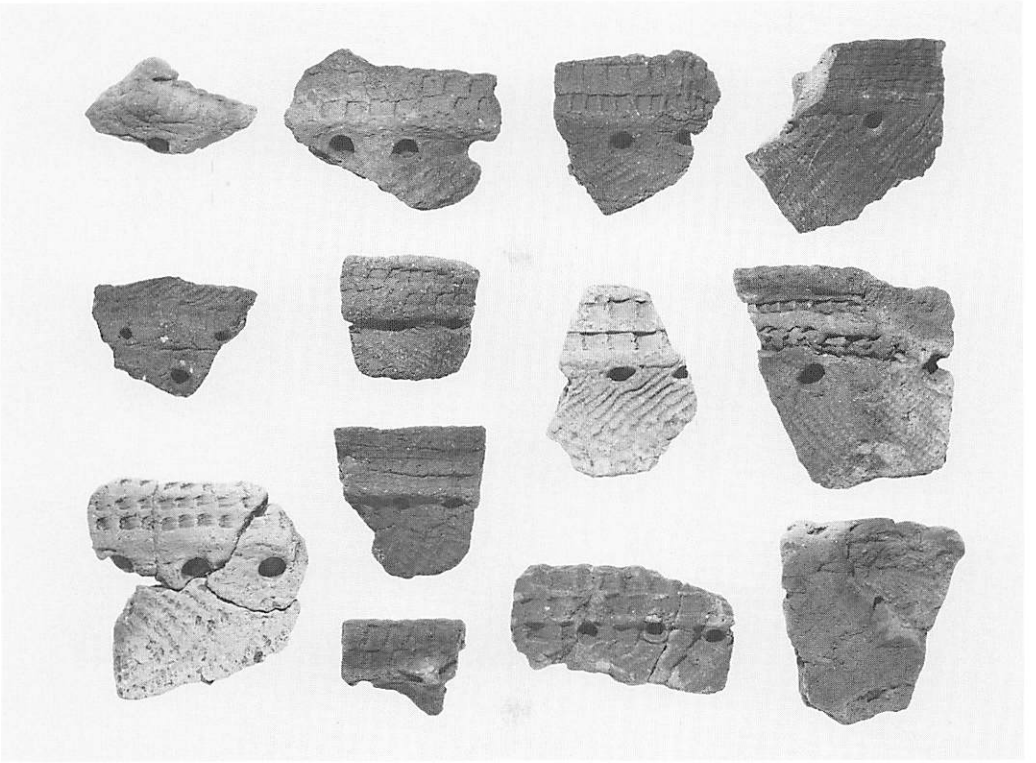


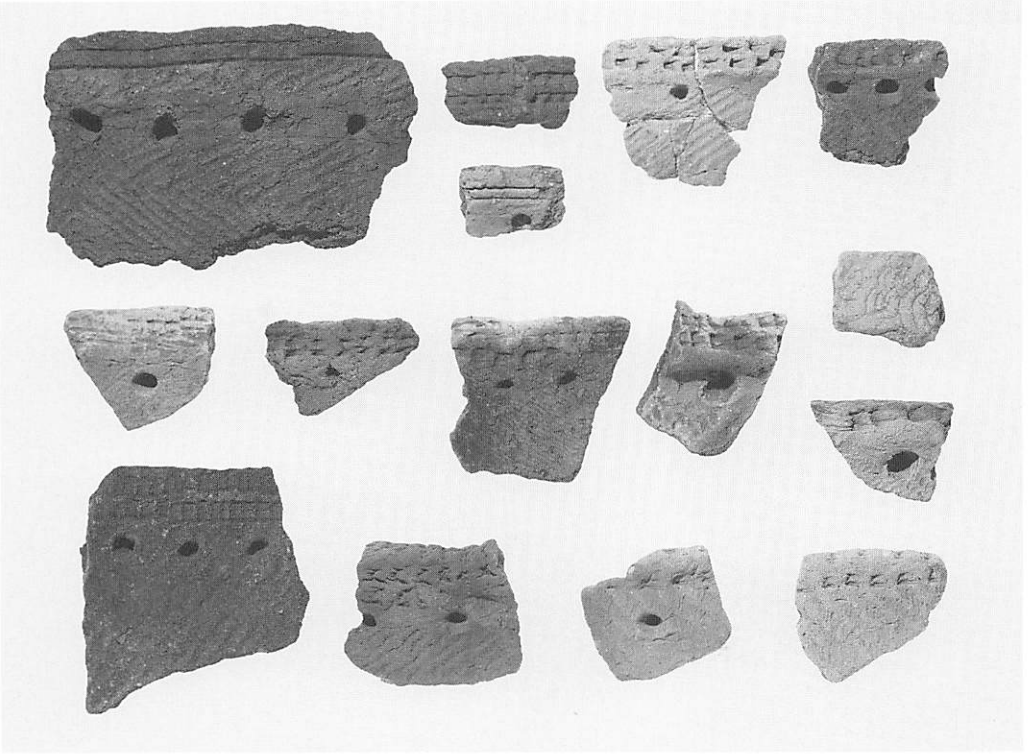
土　器（4）



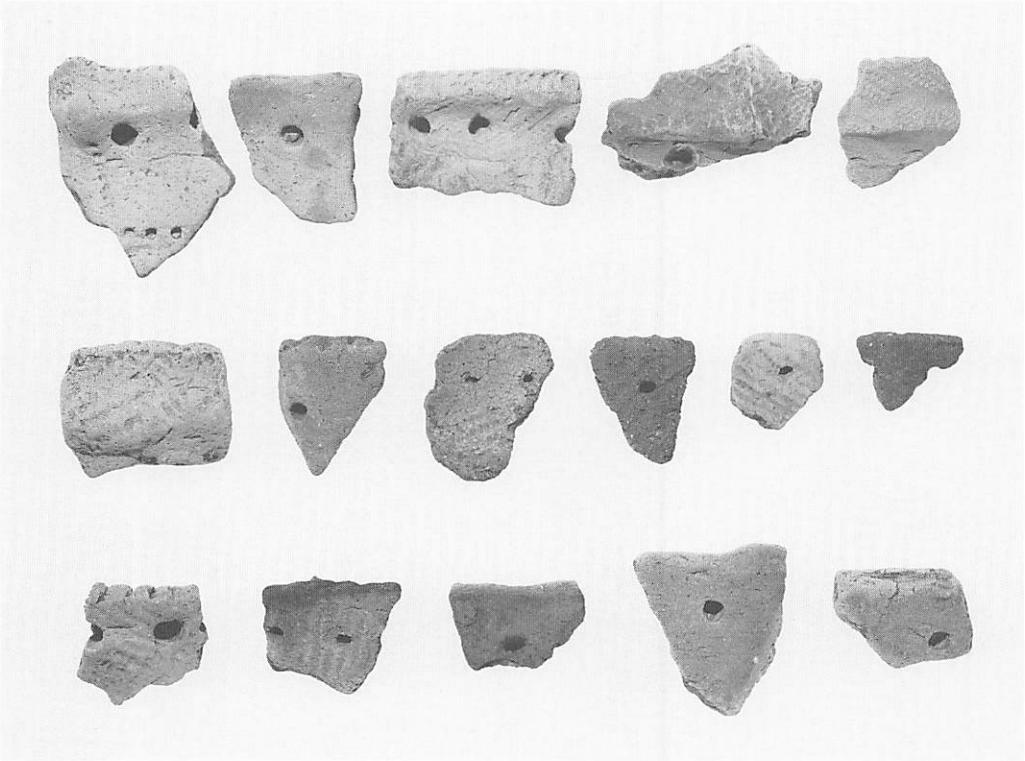


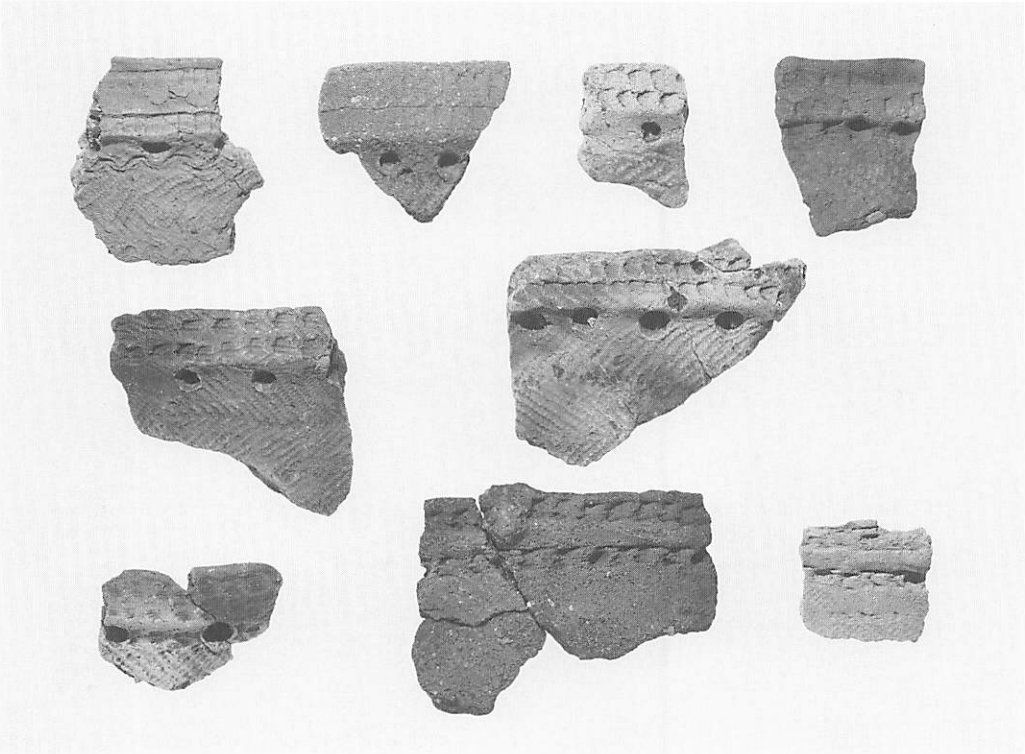
土　器　(5)



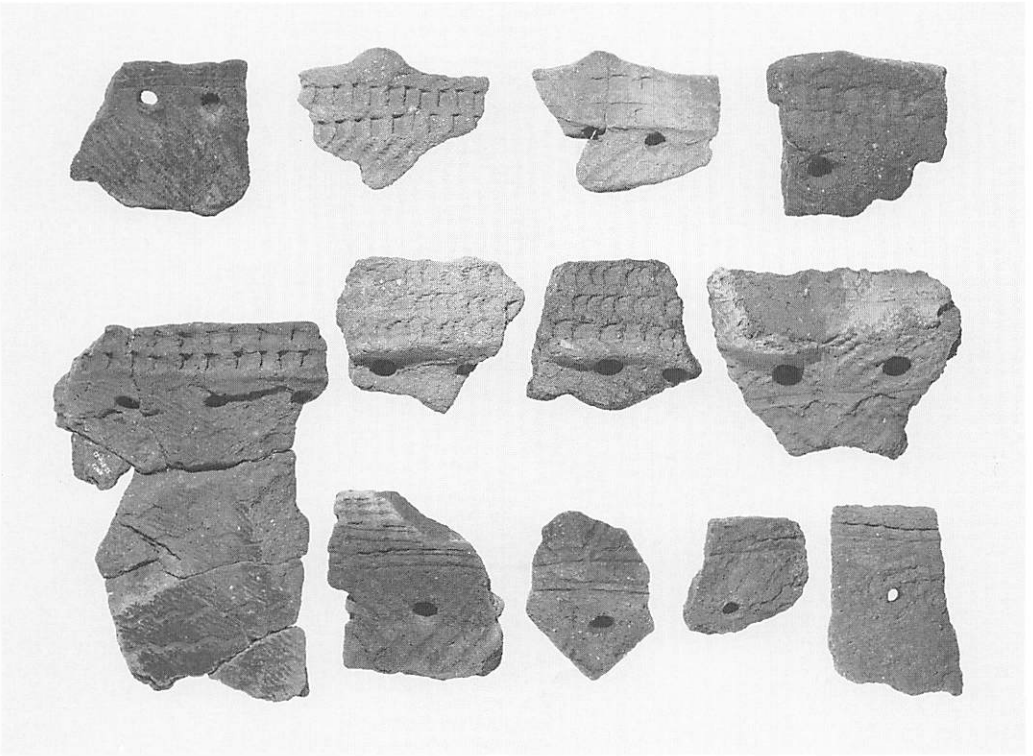


土　器（6）

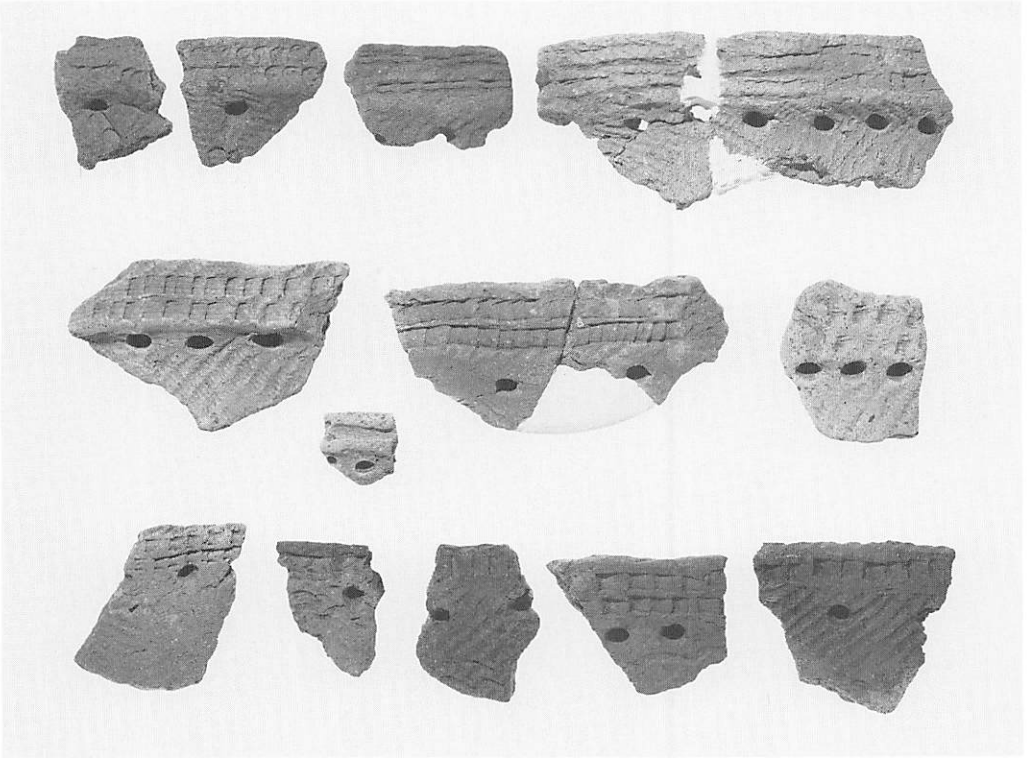


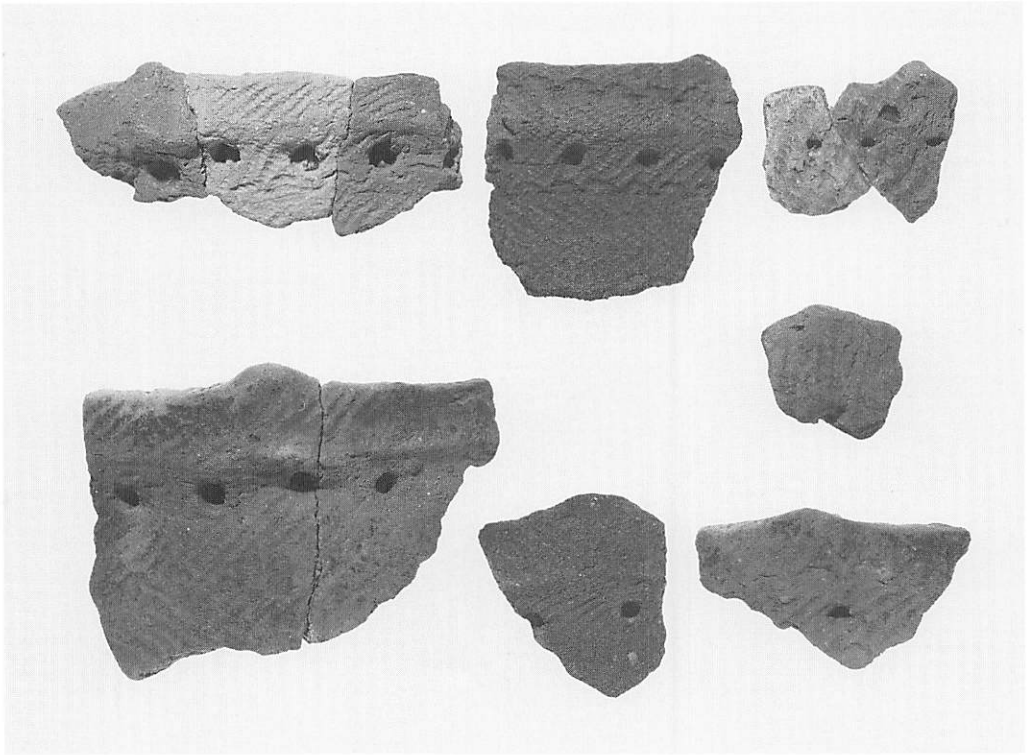


土　器 (7)

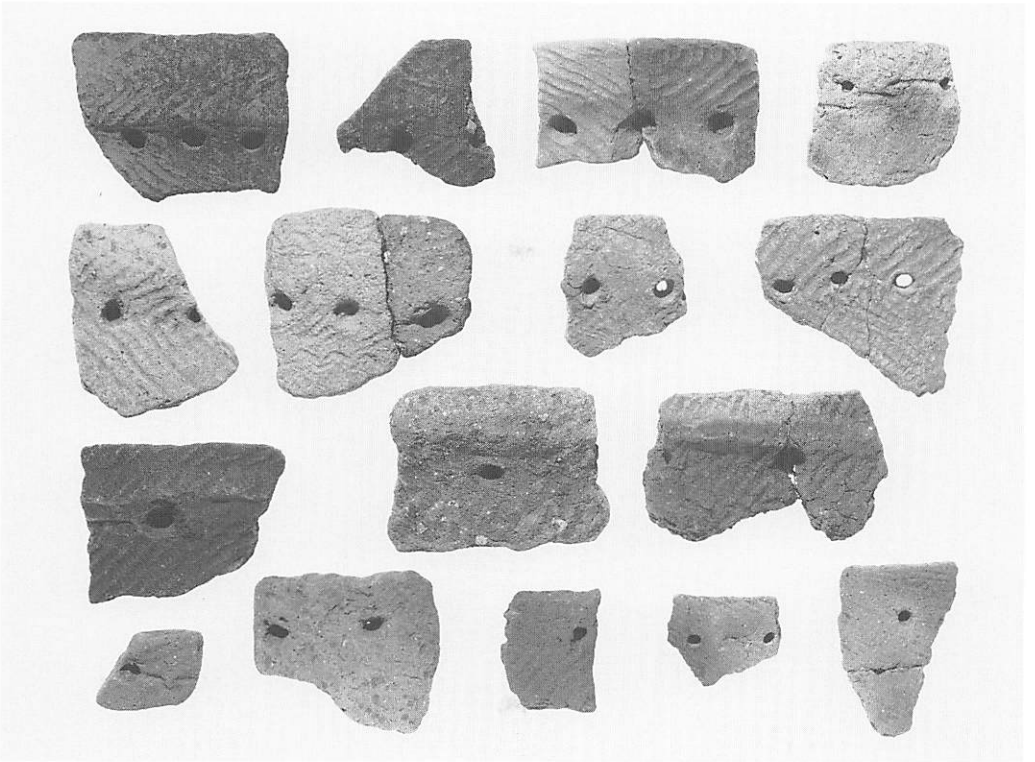


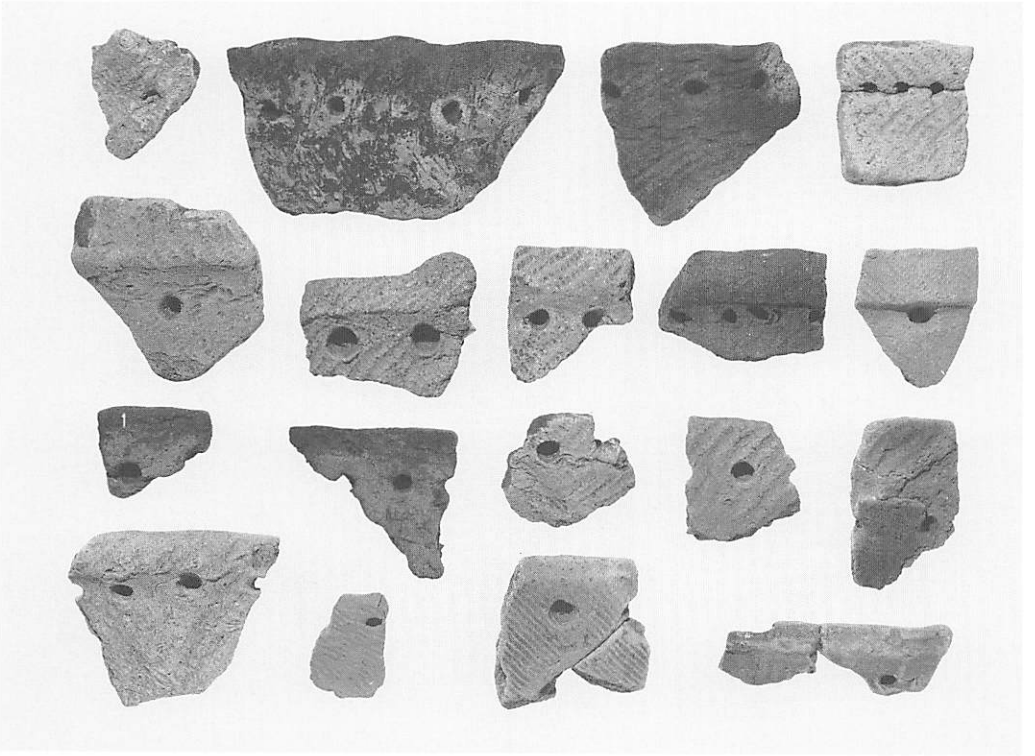
土　器（8）



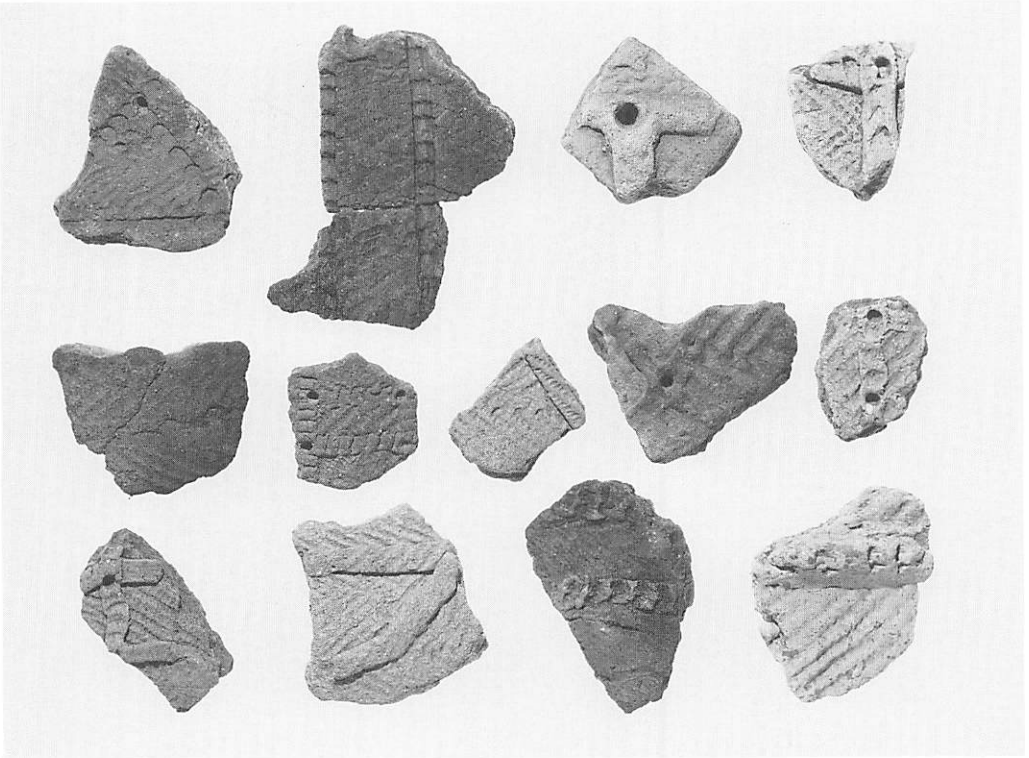


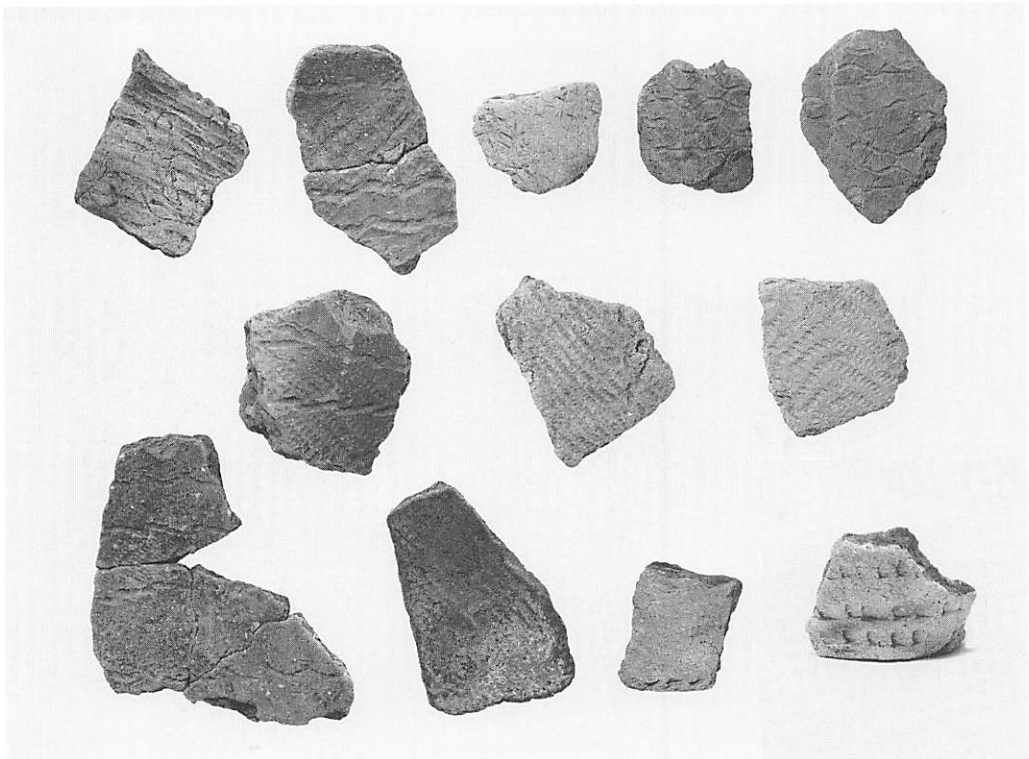
土　器　(9)



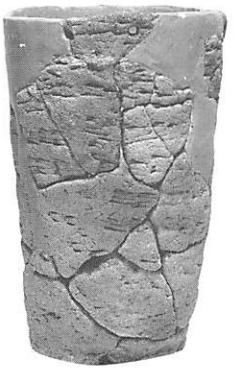


土　器 (10)

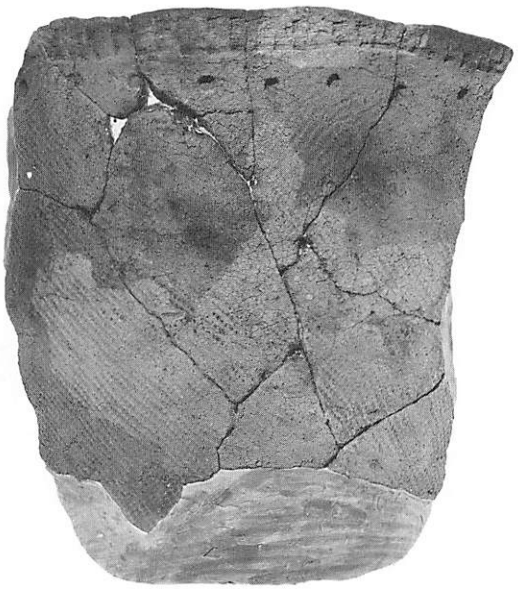




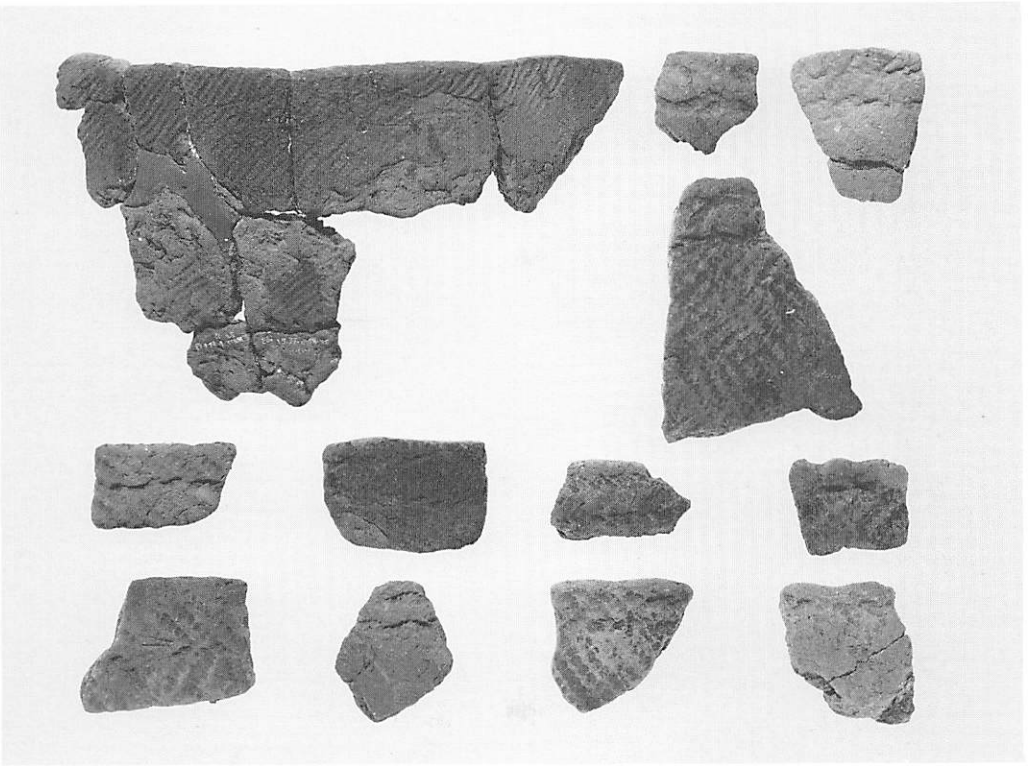
土　器 (11)

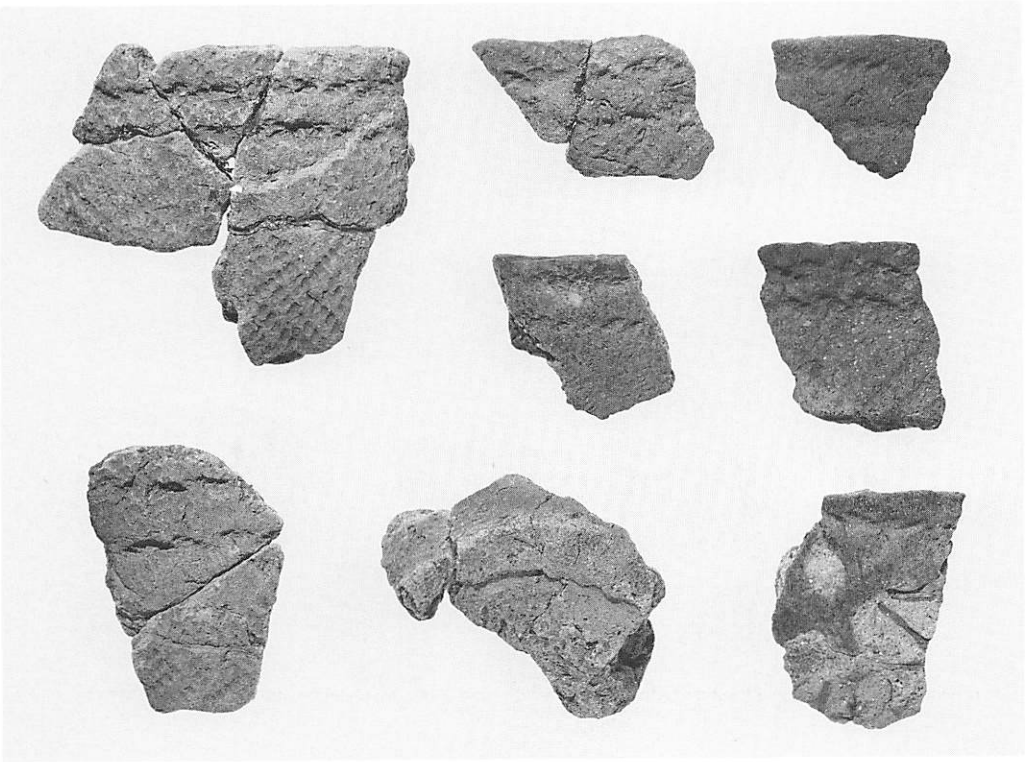


土　器 (12)

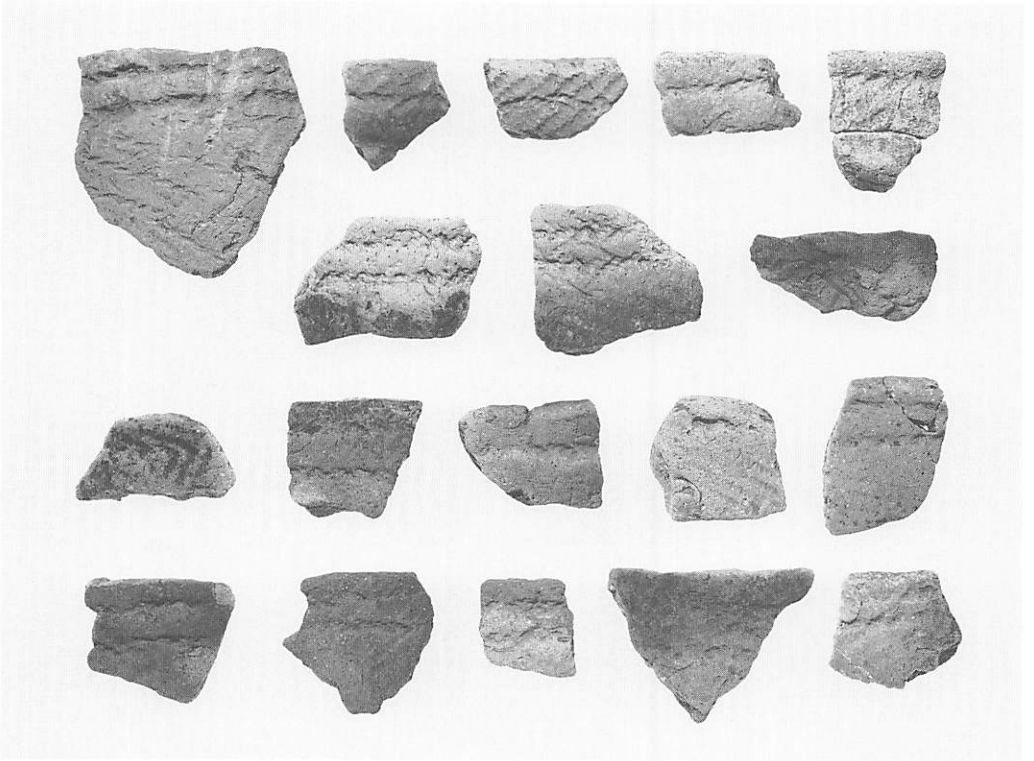


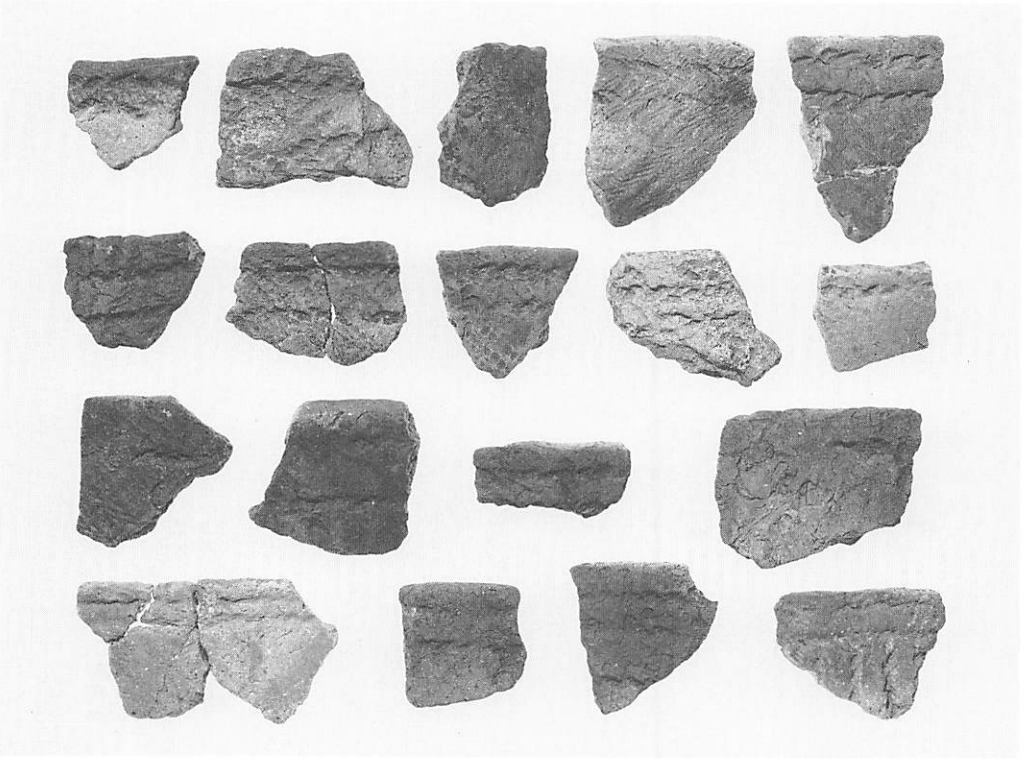
土　器 (13)



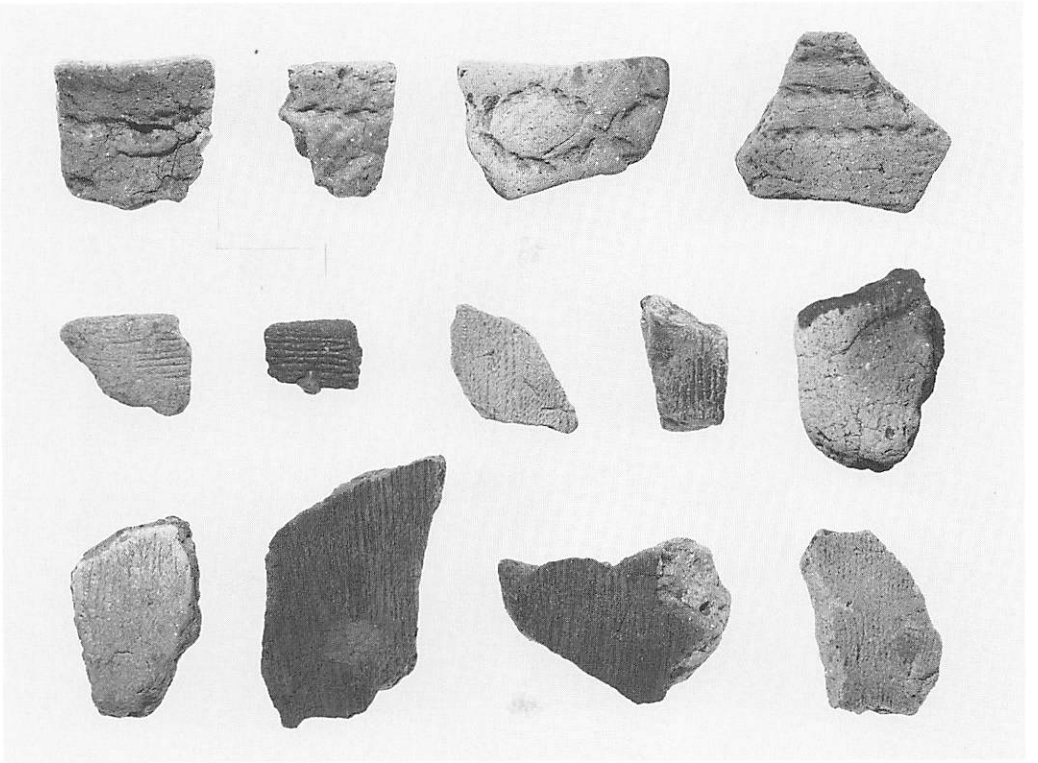


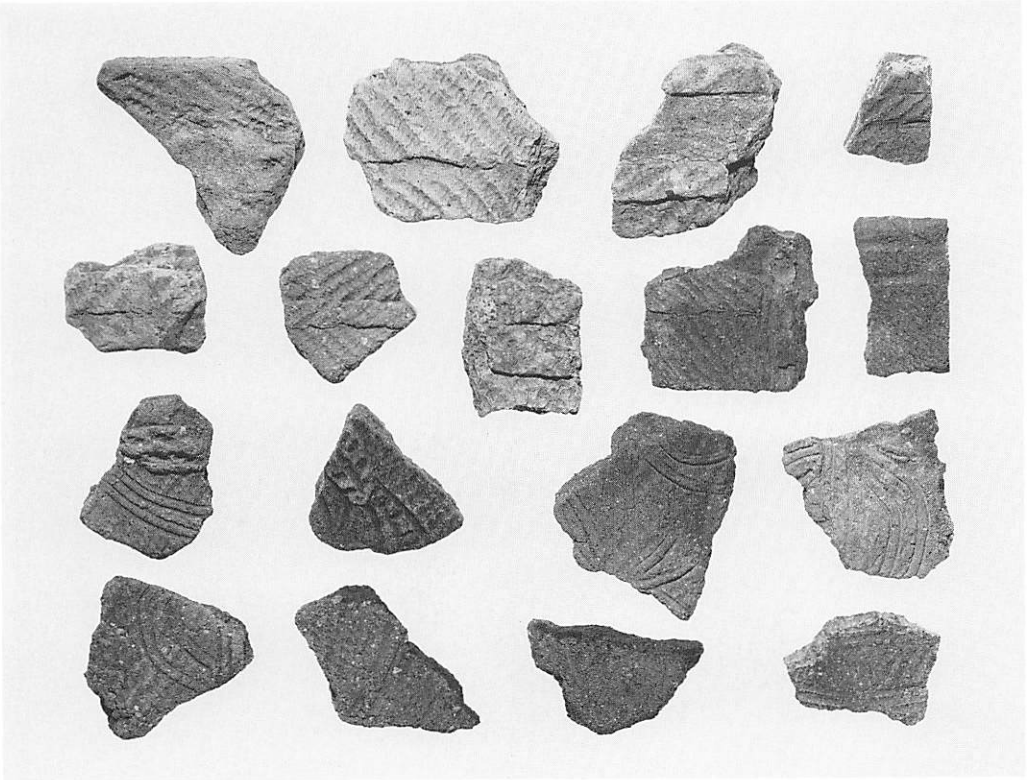
土　器 (14)



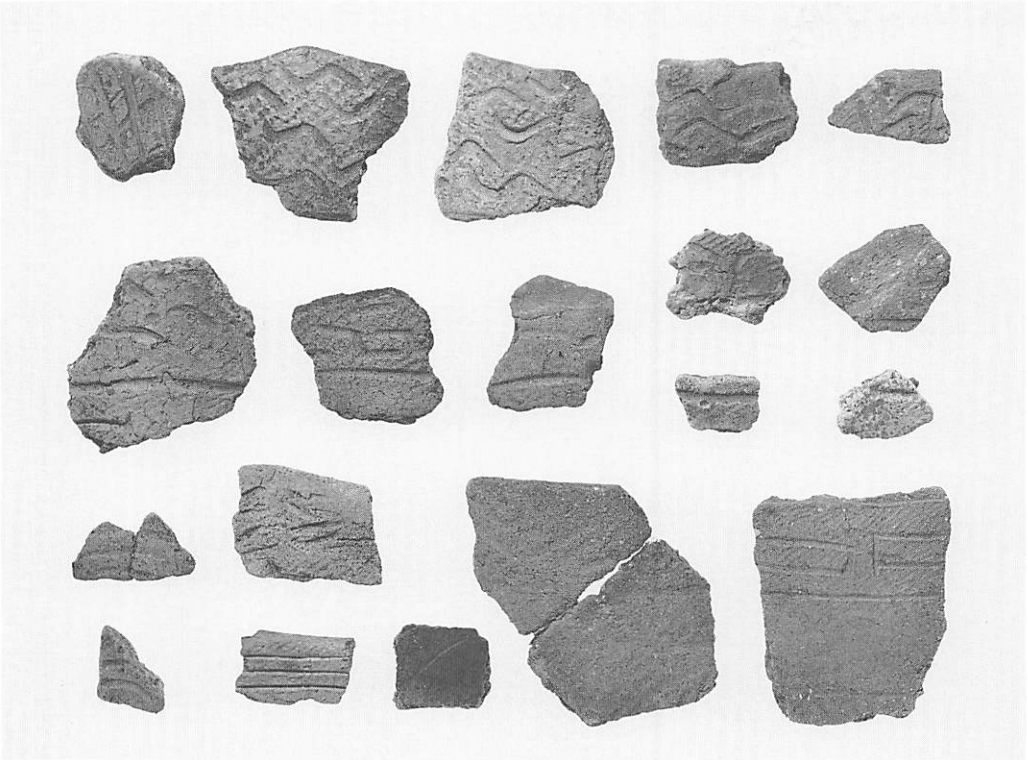


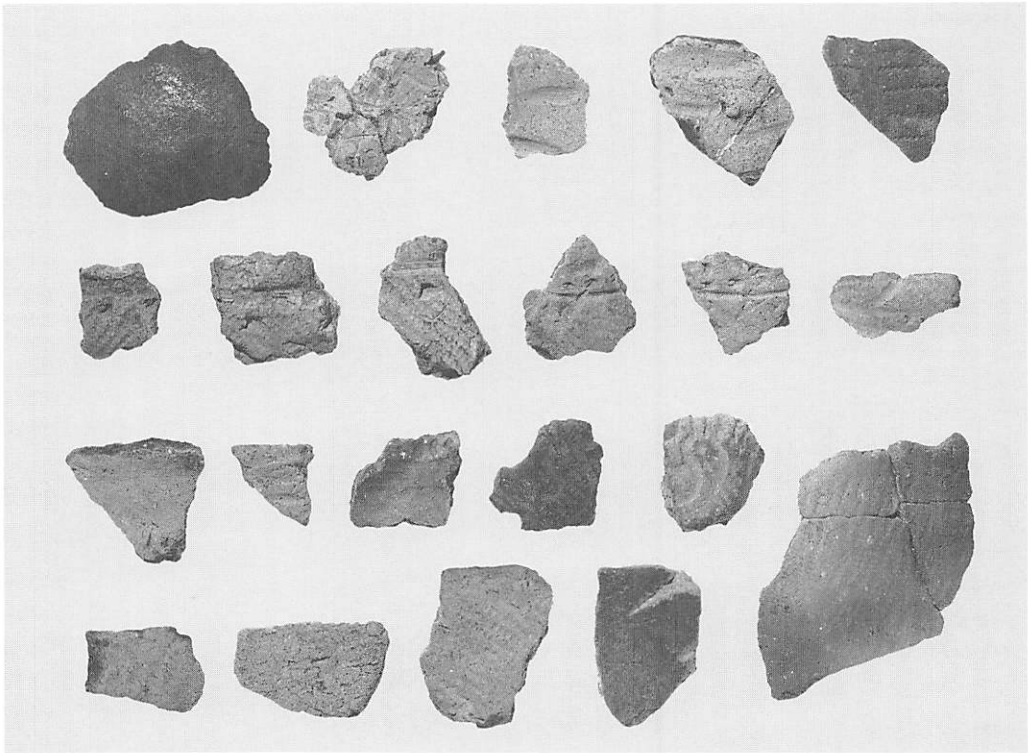
土　器 (15)



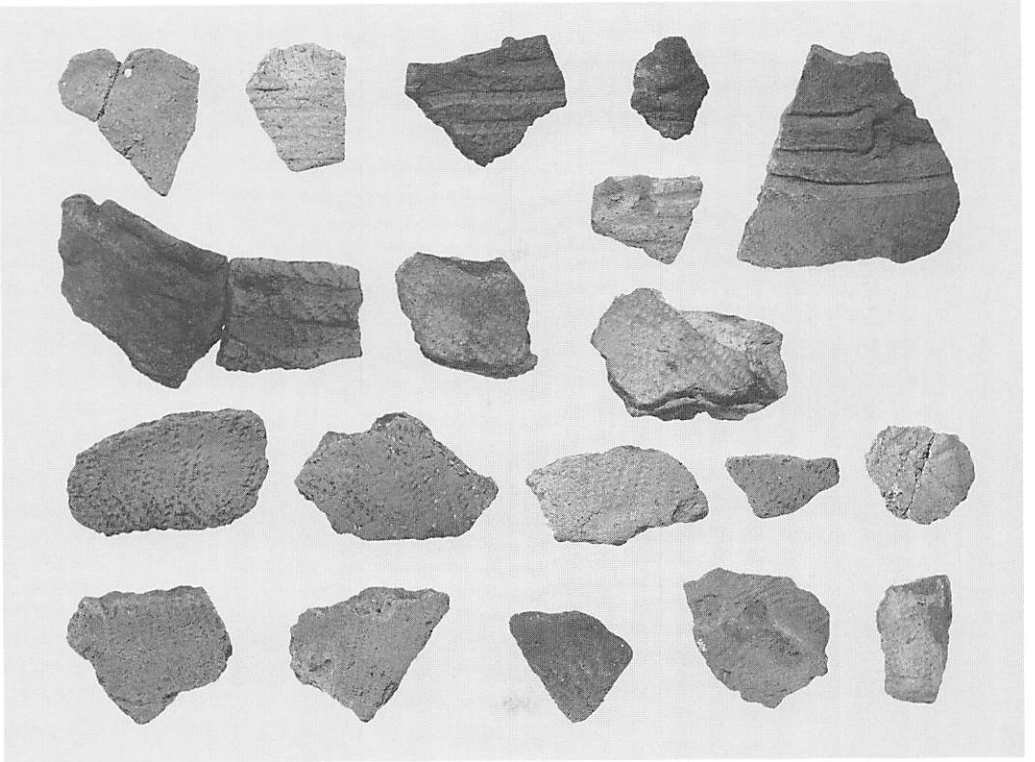


土　器 (16)

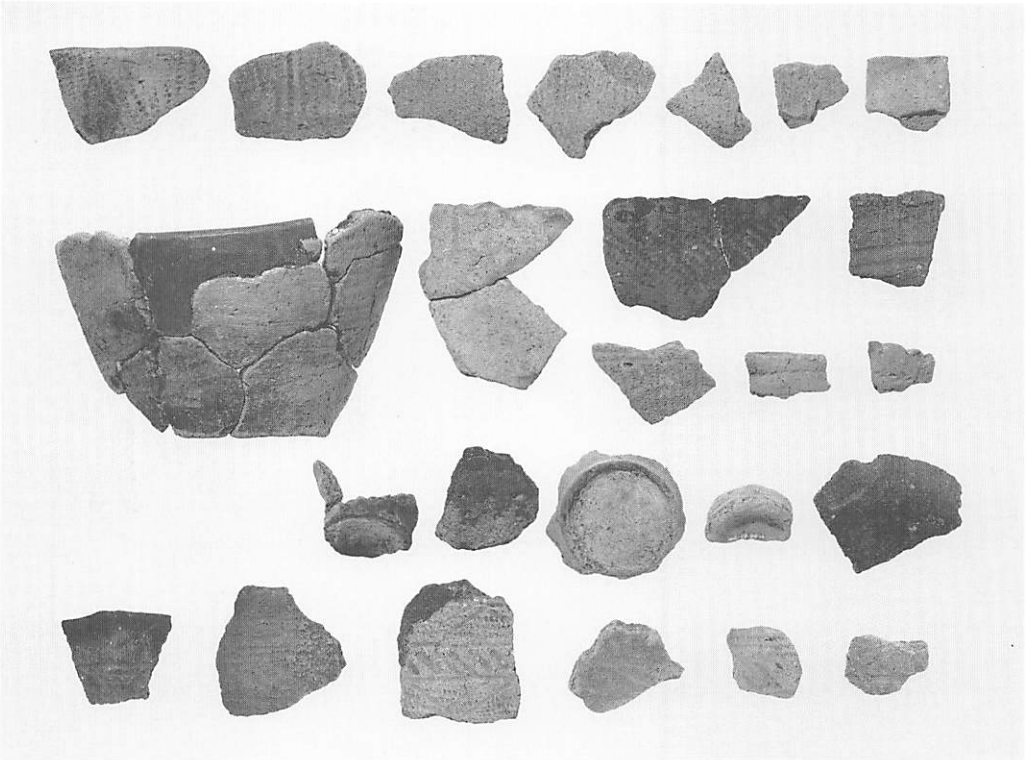


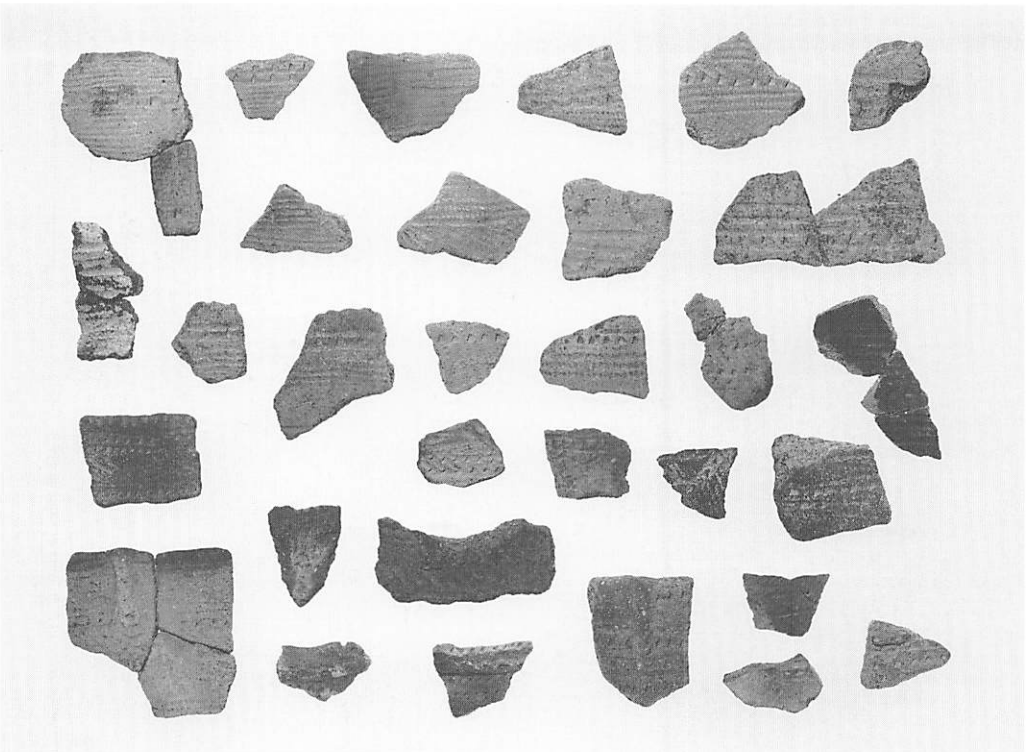


土　器　(17)

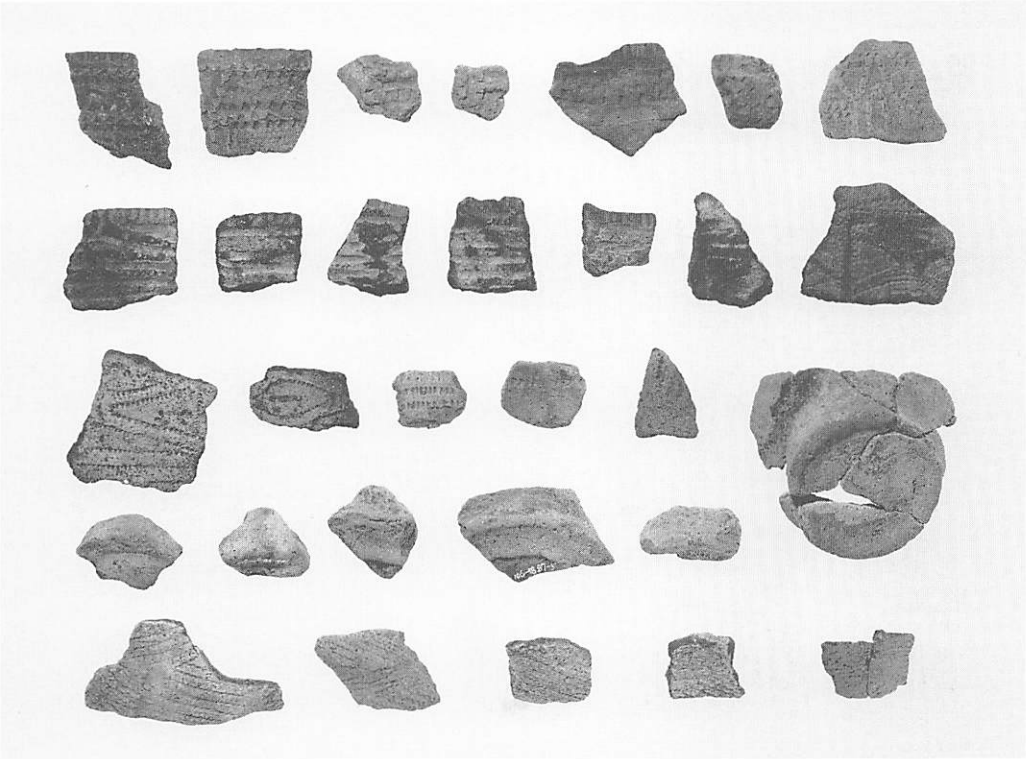


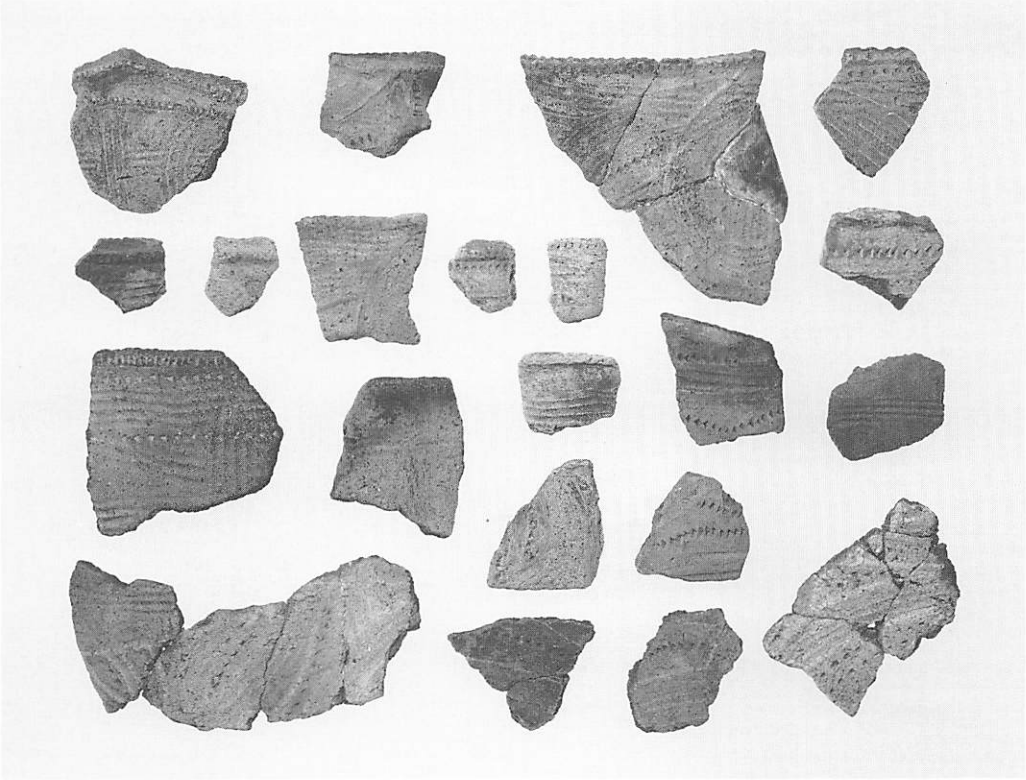
土　器 (18)



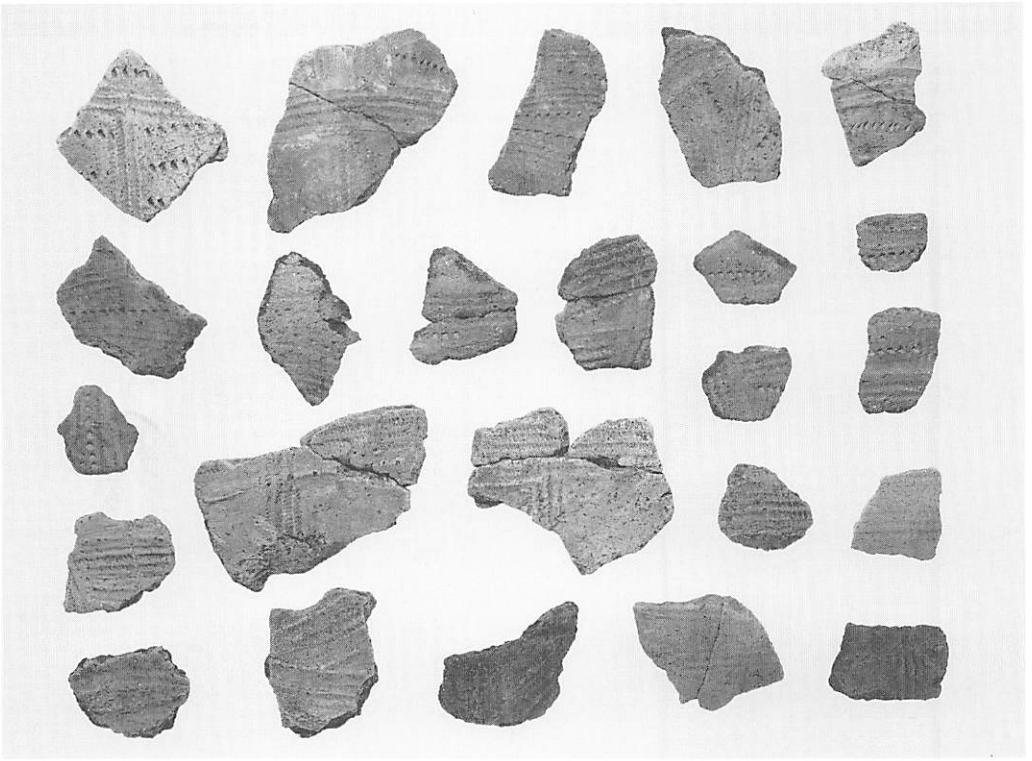


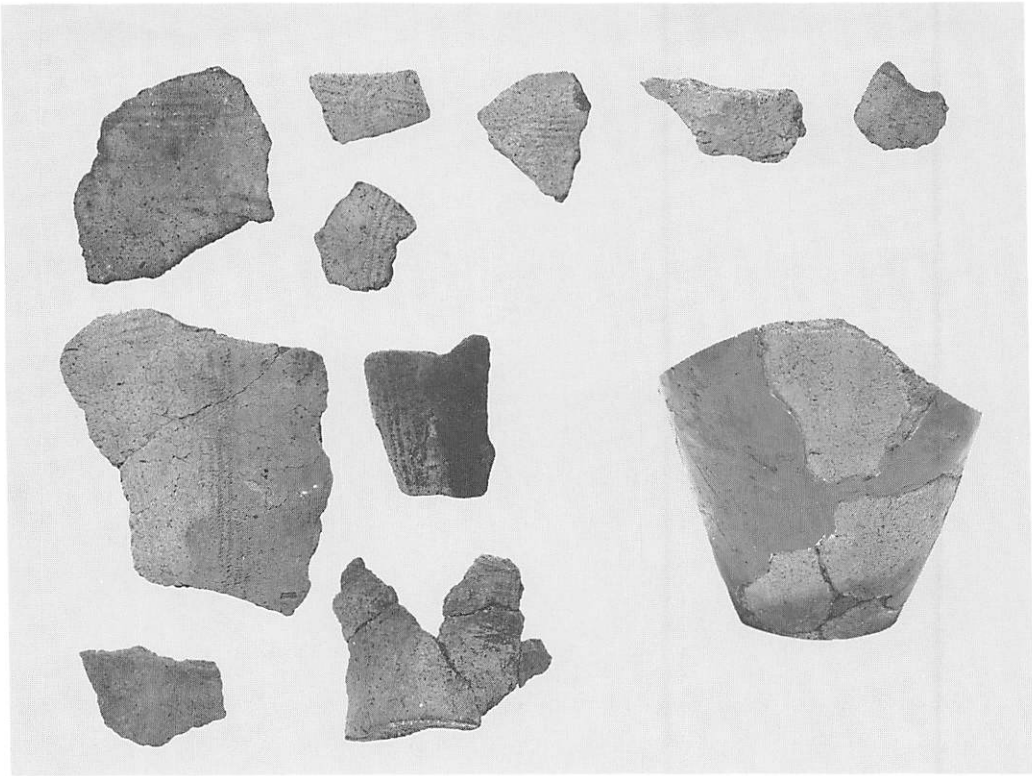
土　器 (19)





土　器 ⑳





土　器 (21)

2．石器

石器の出土総点数は10,336点である。全般的に調査区の南半に多く出土する傾向を示す。各々の石器については各器種ごとの項目で述べる。また図示したものは完形品及び破損程度の少ないものの中から器種の中で占める比率に留意して掲載した。Uフレイク、Rフレイク、ピエス・エスキーユなどは図示していない。

石鏃

石鏃は717点出土した。調査区中央部の南西側で多く出土している。石鏃は無茎のもの（1～164）と有茎のもの（165～273）がある。無茎石鏃のなかで三角形を呈するもの（1～50）は平基（1～21・33～38）と凹基（22～32・39～50）に分けられる。小型のものには一次剥離面を残すものが多くみられる。また、小型・平基の石鏃は東西62～68・南北66～70ラインに多く分布している。菱形（51～77）、木葉形（78～117）、多角形・基部が短く丸味のあるもの（118～153）、狭長なもの（154～164）がある。有茎石鏃には、刃部が茎部に比べ⅔以下の短いもの(165～233）と、刃部が茎部に比べ⅔以上の狭長なもの（234～273）がある。その他、有茎石槍の茎部を再利用したもの（274）、中央または茎部の両側辺にノッチがあるもの（275・278・276）、茎の幅が広く長いもの（277）、尖頭部が狭長であるが破損により全形の判らないもの（279）がある。

ポイントまたはナイフ

931点出土している。調査区中央部の南西側と南側で特に多く、北西側ではやや多く分布している。北東部では少ない。有茎のもの（280～381・449）と、茎の作りが明瞭にみられないもの（383～448）に分けられる。前者は茎の末端部が平らなもの（280～316）と尖頭状のもの（317～382）がある。後者は菱形のもの（383～396）、狭長なもの（397～418）、木葉形や多角形のもの（419～448）がある。292は熱を受けた後、尖頭部に調整を加えている。425・438は接合した例である。317・372・435・443・446は側辺に樋状剥離がみられる。

ドリル

ドリルは325点出土した。調査区の南西側は特に集中している。大半が頁岩・めのう・チャートなどの厚みのある剥片を利用して端部に錐部を作り出した小型のドリルである。つまみ部に調整がみられるもの（450～456）。剥片の一端に錐部を作り出したもの（457～510）。棒状の剥片を利用し錐部を作り出したもの（511～528）。棒状の剥片の両面に調整のみられるもの（529～535）。剥片の両端に錐部を作り出したもの（536～539）。

つまみ付ナイフ

つまみ付ナイフは150点出土している。調査区の中央から南西側に多く出土している。縦型のもの（540～569）と横型（572）または中間型（570・571・573～575）のものがある。前者のもので、縦長剥片を利用したものには、片面全体に調整を加えたもの（540～557・559）と周辺部に調整を加えたもの（560～562・564～569）がある。569は欠損している。558・563は横長の剥

片を素材にしている。558のb面右側刃部には、打面を残している。570・571は片面全体に調整を加えている。572は横長の剝片を素材にした横型石匙。573は刃部尖端のバルブを折り取ったと考えられる。574はバルブにつまみを作った縦型石匙。575は刃部をラウンド・スクレイパー状に加工している。

スクレイパー類

スクレイパー類は849点出土し、調査区のほぼ全域に分布しているが、南西側に多く出土する傾向を示している。576～679は半両面または両面加工の篦状石器、580～595はラウンドスクレイパー、590は半両面加工である。596・598～604はエンドスクレイパー。597は原石から折り取った素材に刃部の加工を施しただけのものである。605～607は片面加工の篦状石器。片面の周辺部に加工し、直刃や内・外湾する刃部を作り出したもので、608～612・617～624・632～636は縦長剝片を利用したもの、625・626・628～631は横長剝片を利用したもの。637～654は両面または半面加工のもの。654は接合した例である。上半は割れ口や側辺に再加工を施している。655～657は刺突状の刃部を特つもの。658は鋸歯縁石器。659はサイドスクレイパー。

石斧

石斧は破片を含め1,010点出土した。調査区のほぼ全域から出土しているが、中央部と南側に特に多く出土している。660～667はのみ形を呈するもの。668～685は細身で小型のもの。686～694は片刃のもの。695～709・719は中型のもの。710～718・722は大型で厚みのあるもの。大半は打ち欠きと研磨による成・整形が成されているが、660・663・696は全面磨製のもの。663は擦り切り痕がみられる。715～718・722はペッキングによる成形がみられる。720・721・723・724は石斧の未製品。打ち欠きによる成形がおこなわれている。

たたき石

たたき石は201点出土した。調査区中央から南側に多く分布する。たたき石には棒状礫の一端または両端を使用したもの（725～731）、扁平礫の側辺及び端部を使用したもの（732～734）、円礫を使用したもの（735～738）などが出土した。

くぼみ石

くぼみ石は55点出土した。調査区の南側で出土している。扁平礫の両面（739～741・743～745）、または片面（742・746）に溝状や半球状の使用痕がみられるものと大型の円礫のやや平坦な面にくぼみがみられるもの（747）がある。

すり石

448点検出されている。調査区の中央部から南側に分布する。748は礫の一辺に、749・750は側面にすり痕がみられる。751～771はいわゆる北海道式石冠と称されているものである。これらは、68-70区の1点を除き調査区の南半部でのみ検出されている。762は上部が欠損した後、ペッキングにより再加工されている。760・765・768・769は接合した例である。771は端部の上から擦り面にかけて縦に細長く割れた破片である。このように割れた破片が他に十数点出土している。

石錐

石錐は10点（772～781）出土した。各々はなれて検出されている。扁平礫を用いて長軸の両端を打ち欠いている。781は一端が欠損している。

石鋸

10点出土しており調査区の中央部から南側に分布している。782は片岩を素材に、両側縁を研磨している。取り敢えず石鋸に分類したが用途は不明である。783・785・786・788～791は一側縁を使用したもの。784・787は両側縁を使用したものである。石鋸の数に対して、擦り切り手法を用いた石斧や、擦り切り残片などの出土は極めて少ない。

砥石

砥石は破片も含め924点出土している。調査区の中央部から南側に多く分布している。また、北東側と北西側に散布している。792～796は砥面に溝がみられるもの。797～799・804・810は1～3面の砥面がみられ角柱状のもの。800～803・814は3面に、808・809・811は両面に、815は4面に砥面がみられ扁平なもの。805～807・816～818は角柱状に4面を使用している。812・813は同一面に2方向から角度を変えて使用したもの。819は砥面に半球状のくぼみがあり、くぼみ石の機能もはたしている。820は角柱状の一端にたたき痕がみられ、たたき石としても使用している。

石核

石核は269点出土した。調査区の南側に多く分布し、中央西側と北西側でも出土している。この他、原石は154点出土し、南半部と西側で検出されている。821は棒状原石を用いたものだが、石器となるような剝片を取った痕はない。825は2面から、823・824・826～830は1面の原石面を打面に周囲に剝片剝離面がみられる。828・829は円錐形を呈する。831～844は方向性のみられない剝離の進んだ残核である。832はⅠ層からの出土であるが、黒曜石のフレイク・チップが集中して出土した地区でフレイク・チップと一括して検出された。このように、フレイク・チップ集中または集中区に石核の分布域はかたまっている。

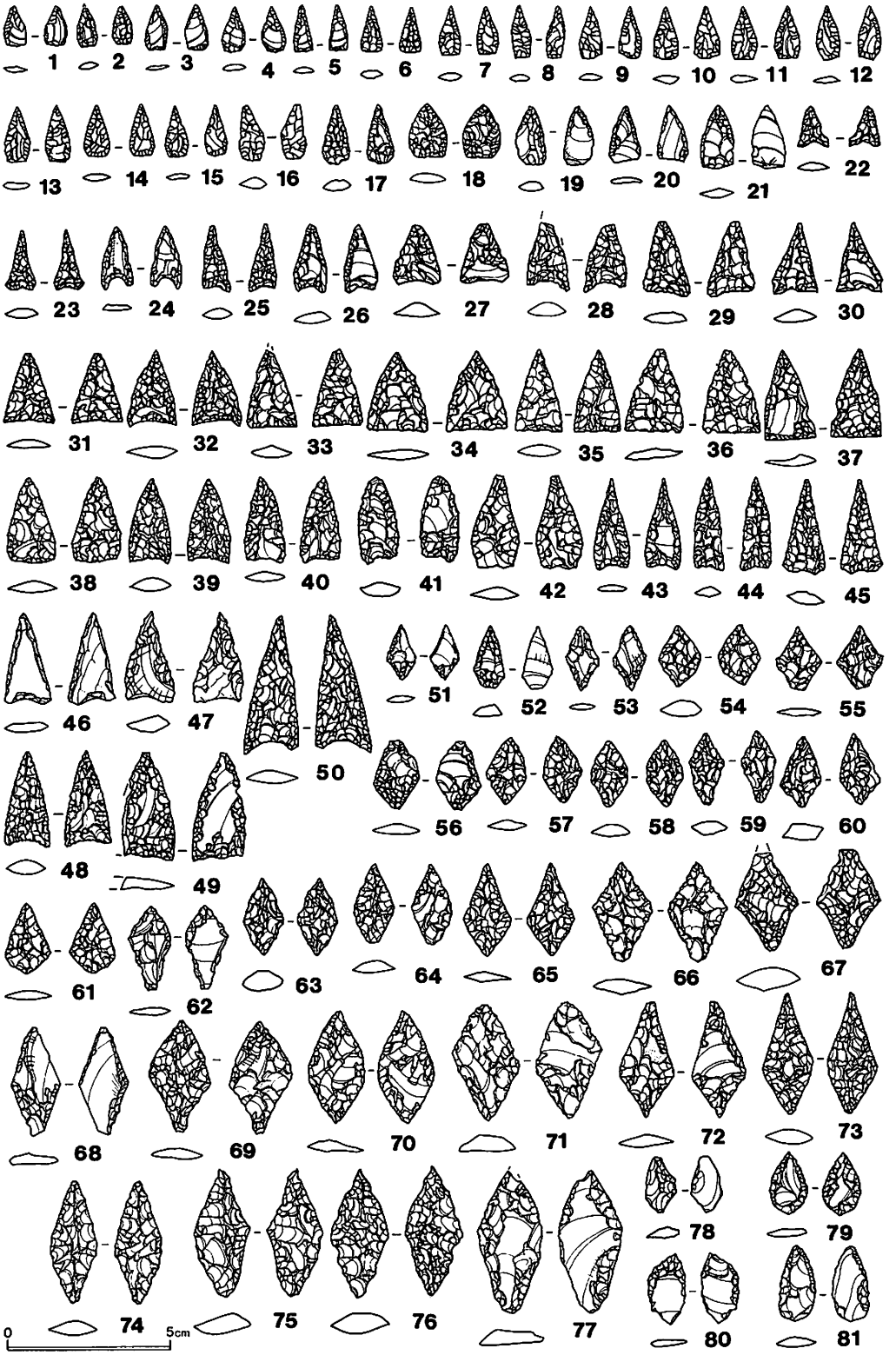
石皿

石皿は43点検出したが、すべて破損している。調査区の中央部と南側でやや多く出土した。845・846は両面を使用し、各々片面は深くコンケイブしている。847・848は片面を使用したもの。846・847は接合している。

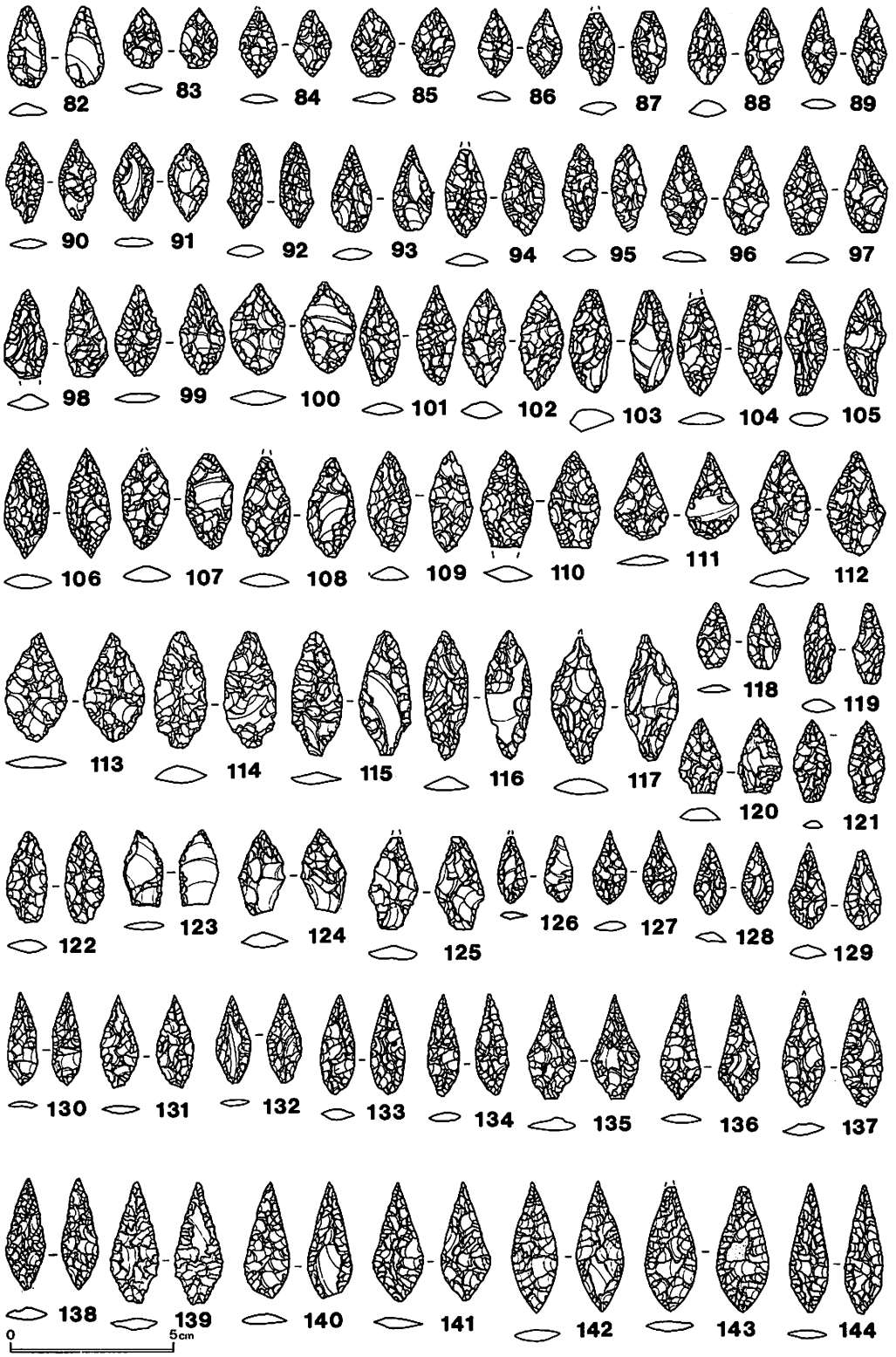
その他、図示していないものではUフレイク・Rフレイクが4,223点、ピエス・エスキーユが5点出土している。前者は調査区のほぼ全域から出土しているが、特に南半部に多く分布する。

また、黒曜石・頁岩・めのうなどのフレイク・チップは約295,000点、泥岩・片岩などのフレイク・チップは約23,000点、焼けた礫などは約4,500点出土した。

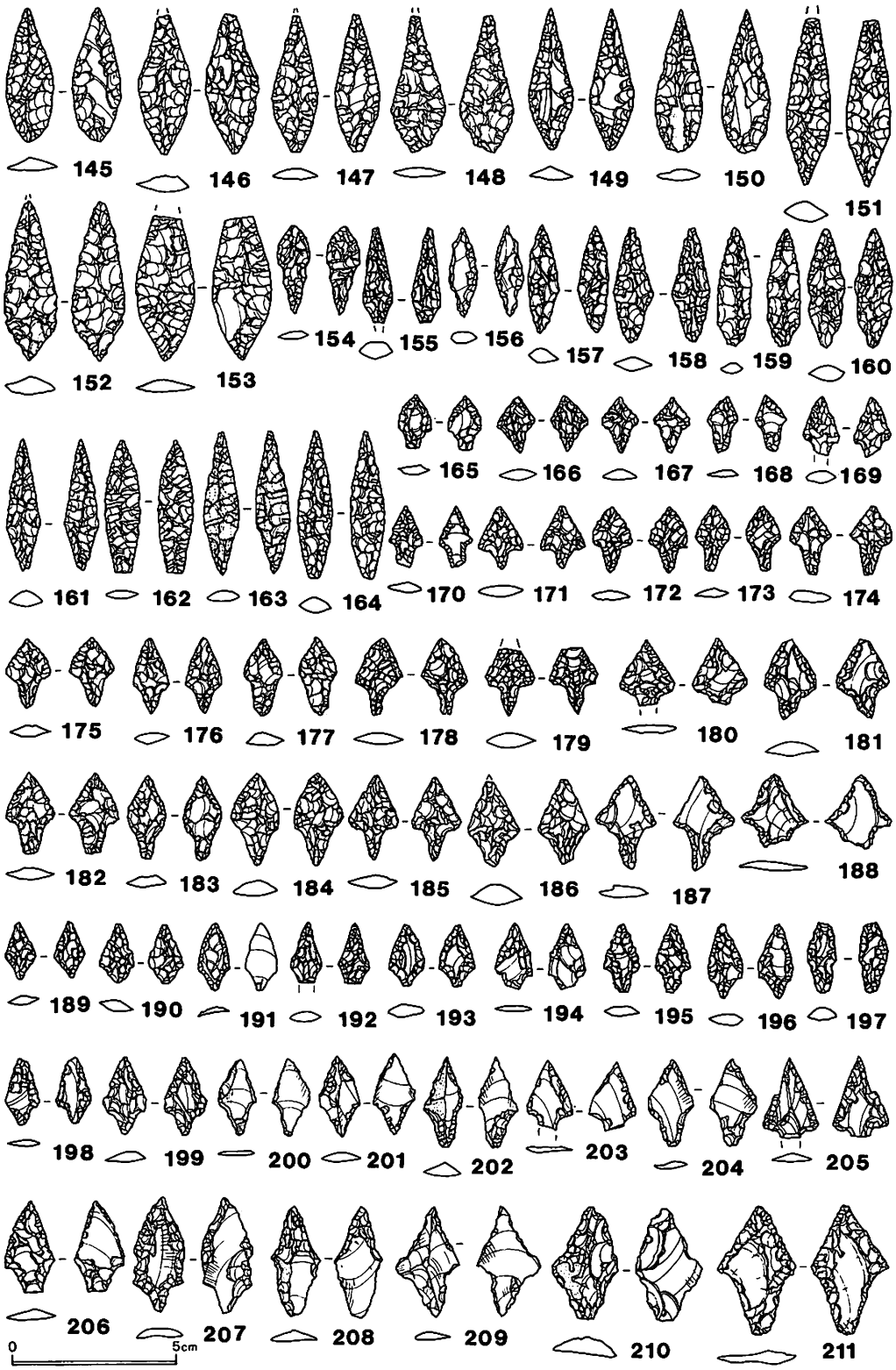
石器が調査区の南半部に多く分布する理由として2つの事が考えられる。1つは、台地の先端部に近く土層の層厚があり耕作が及んでいないこと。もう一つは、竪穴住居跡やフレイク・チップ集中など居住域・作業域になっていたと推定されることなどによる。


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
0
5cm

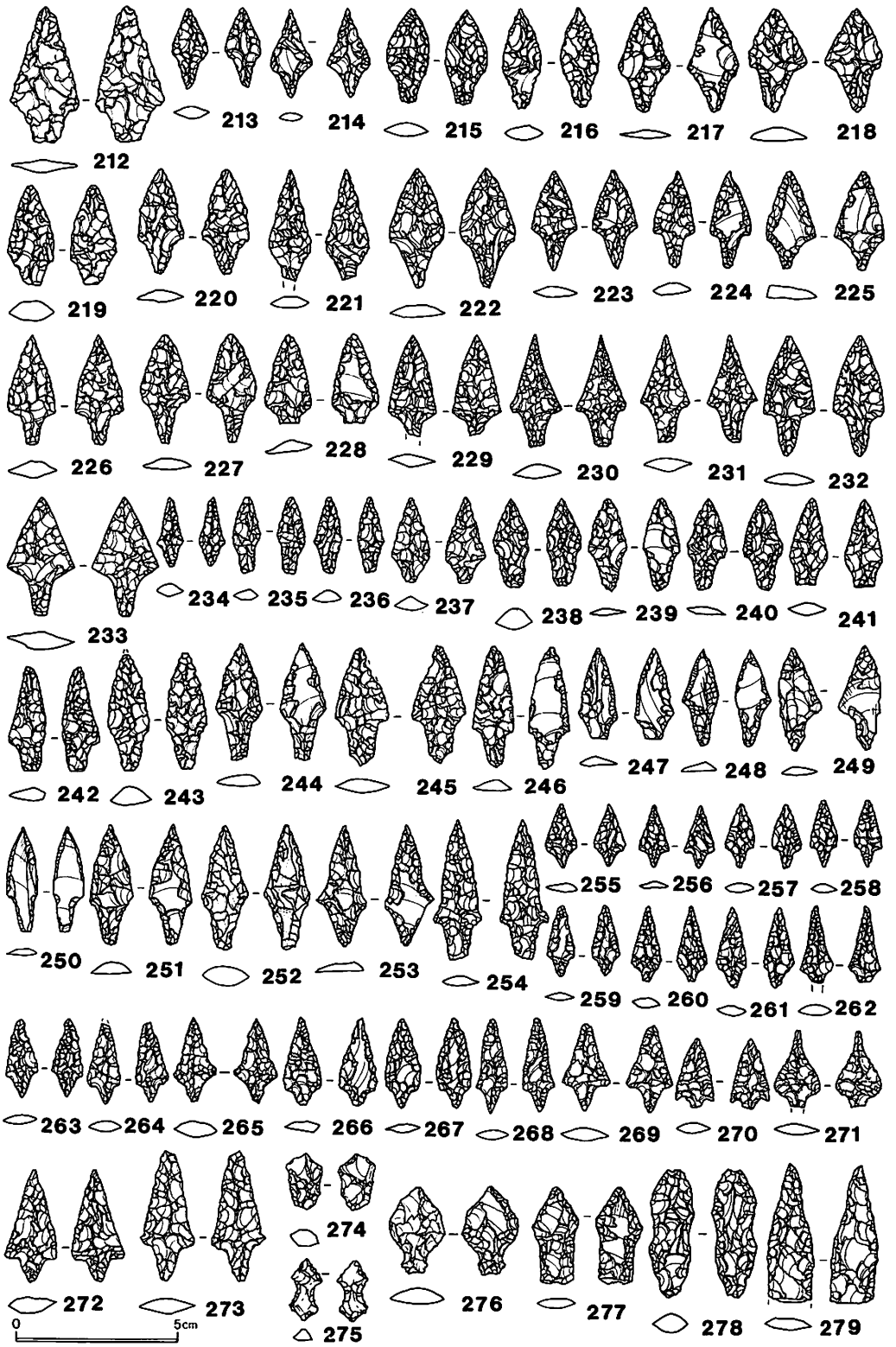
石 器 (1)


82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
0
5cm

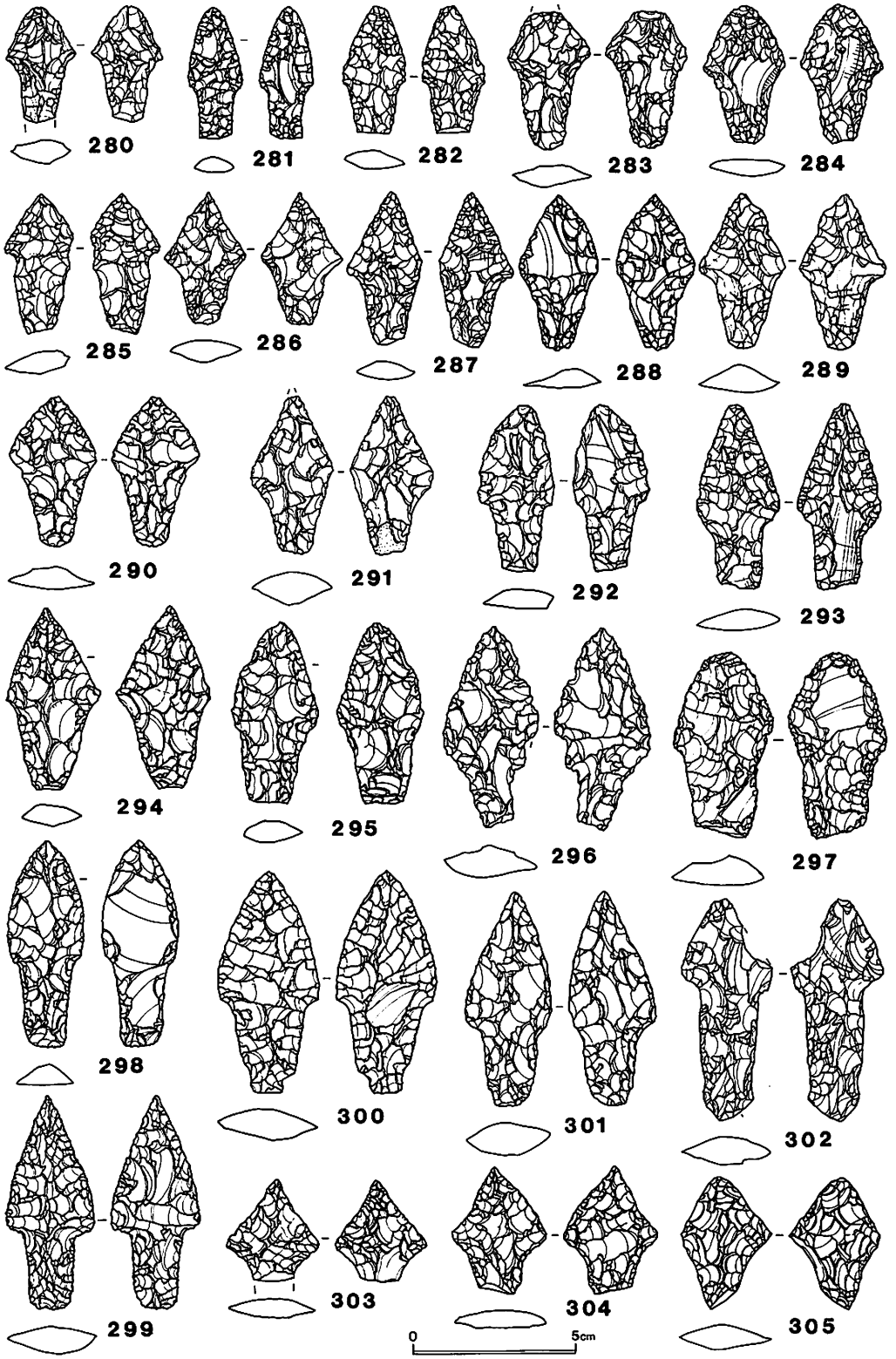
石 器 (2)


145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
0
5cm

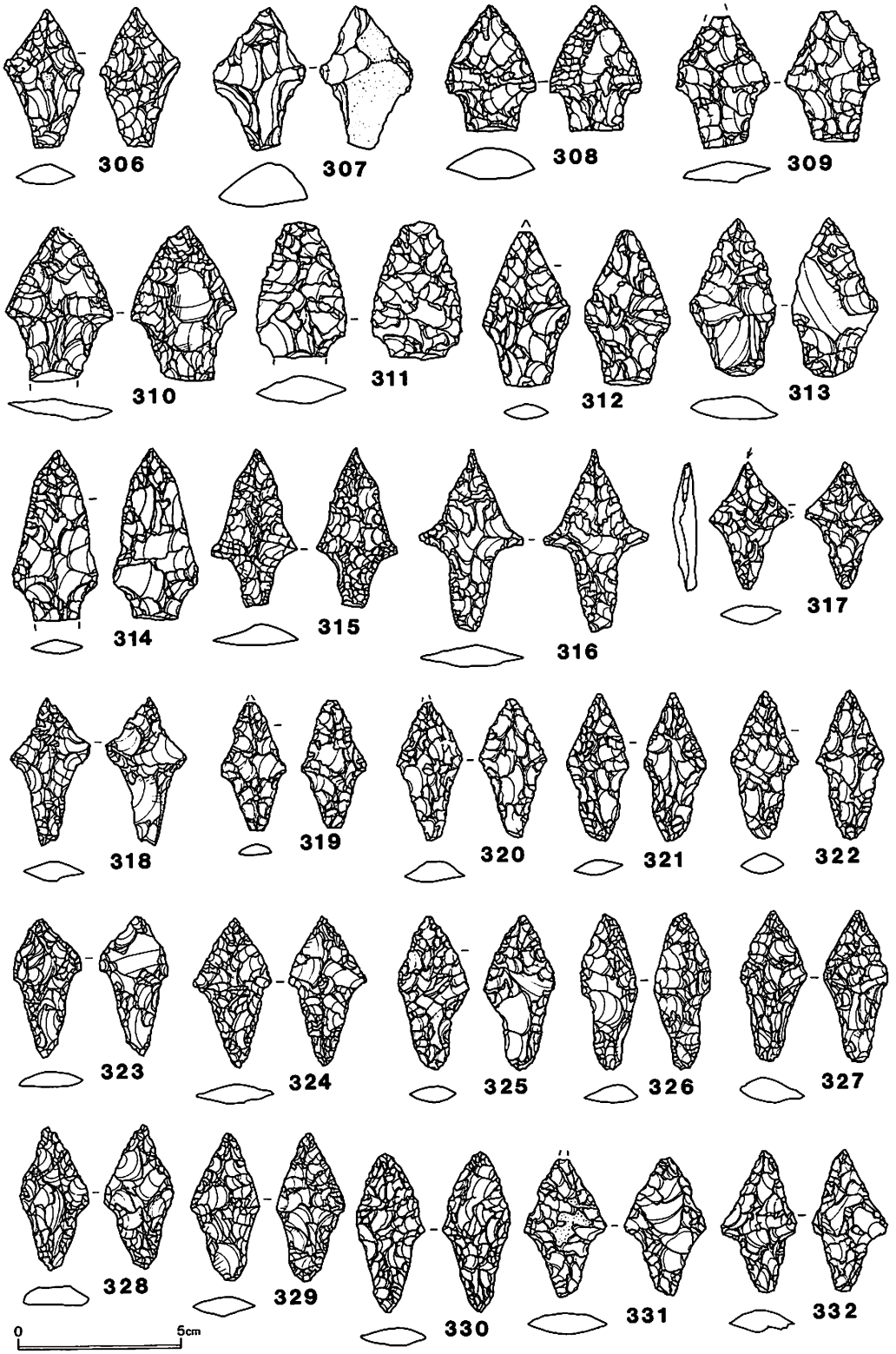
石 器 (3)


212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
0
5cm

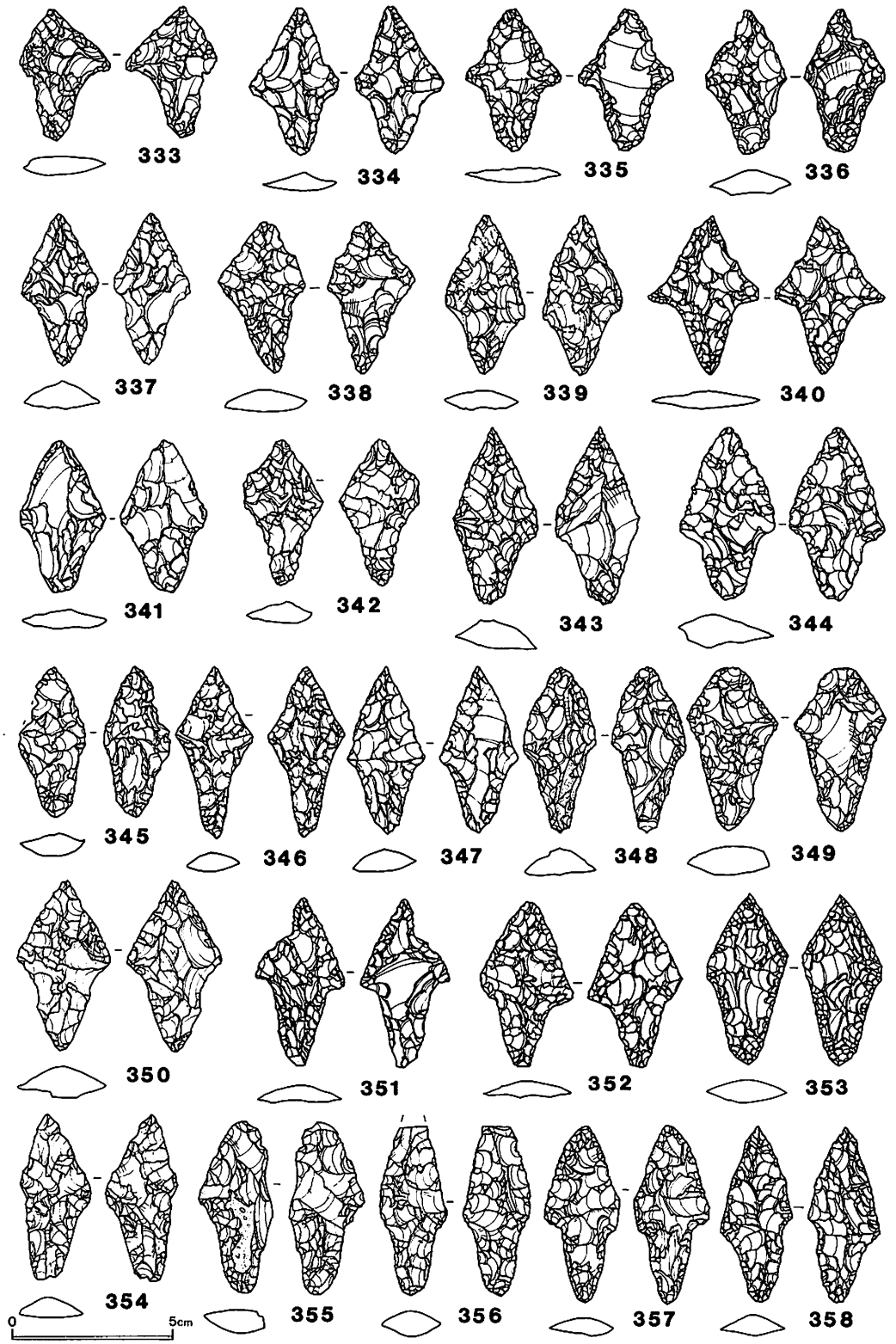
石 器 (4)


280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
0
5cm

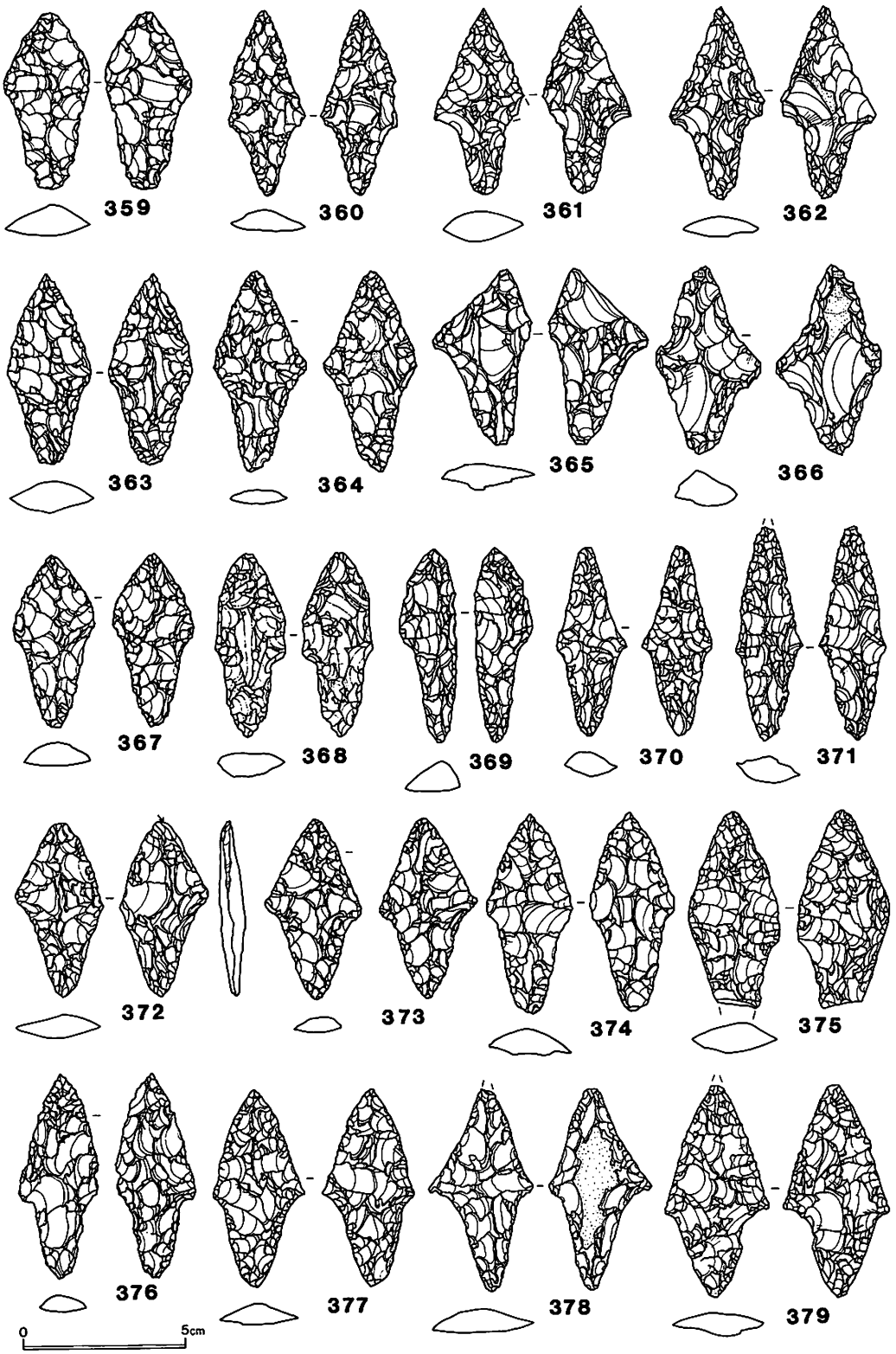
石 器 (5)


306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
0
5cm

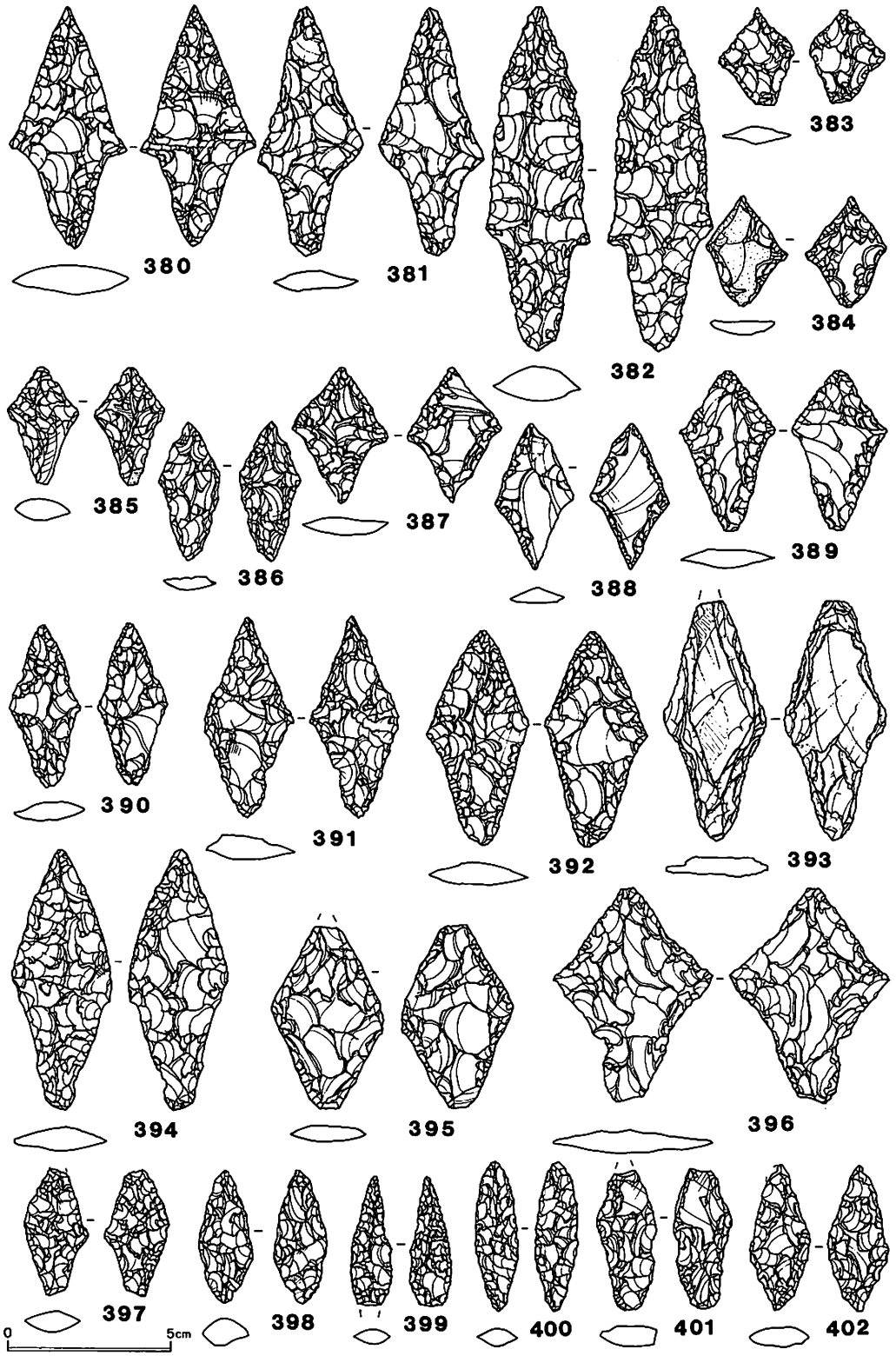
石 器 (6)


333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
0
5cm

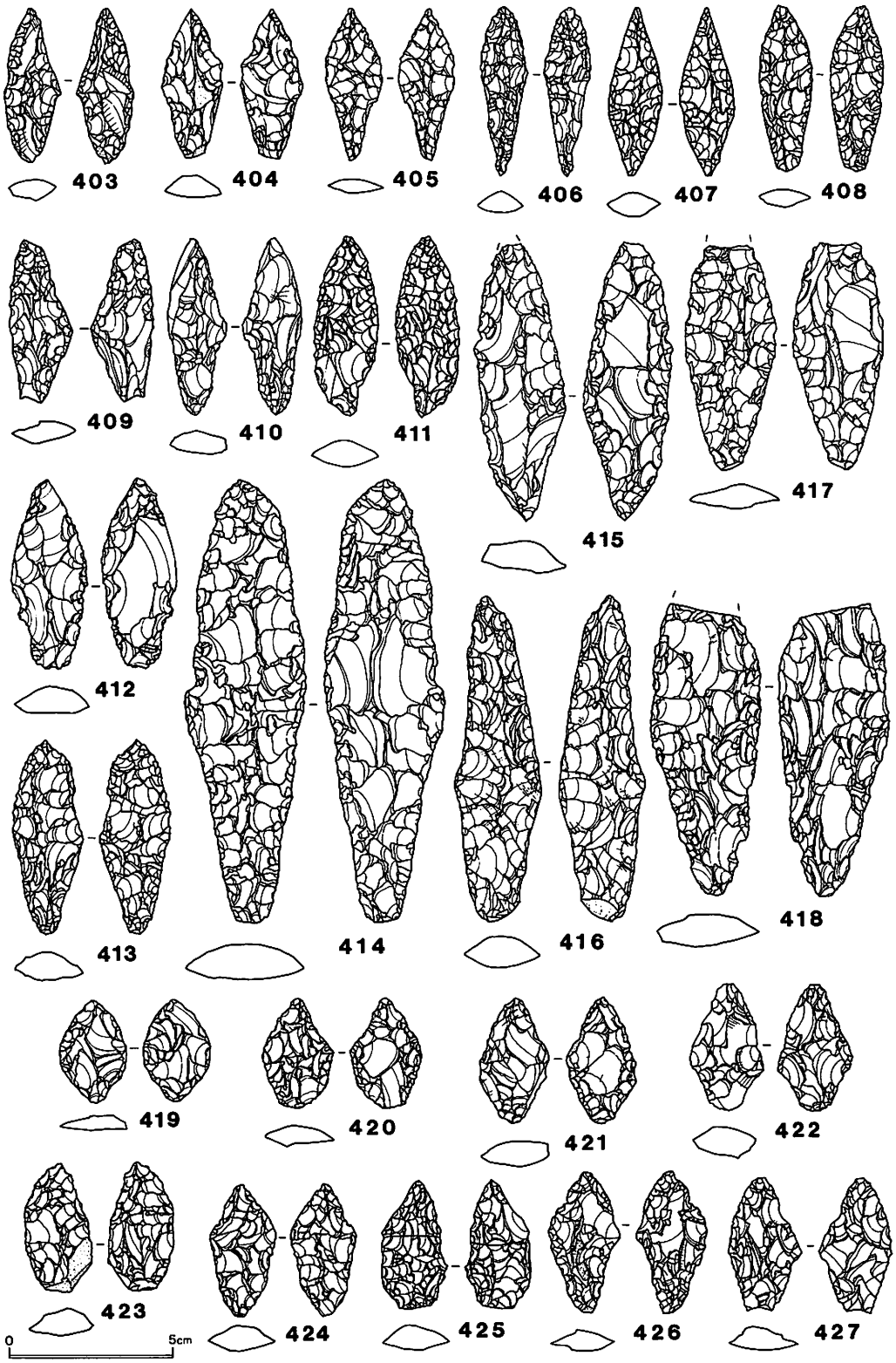
石 器 (7)


359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
0
5cm

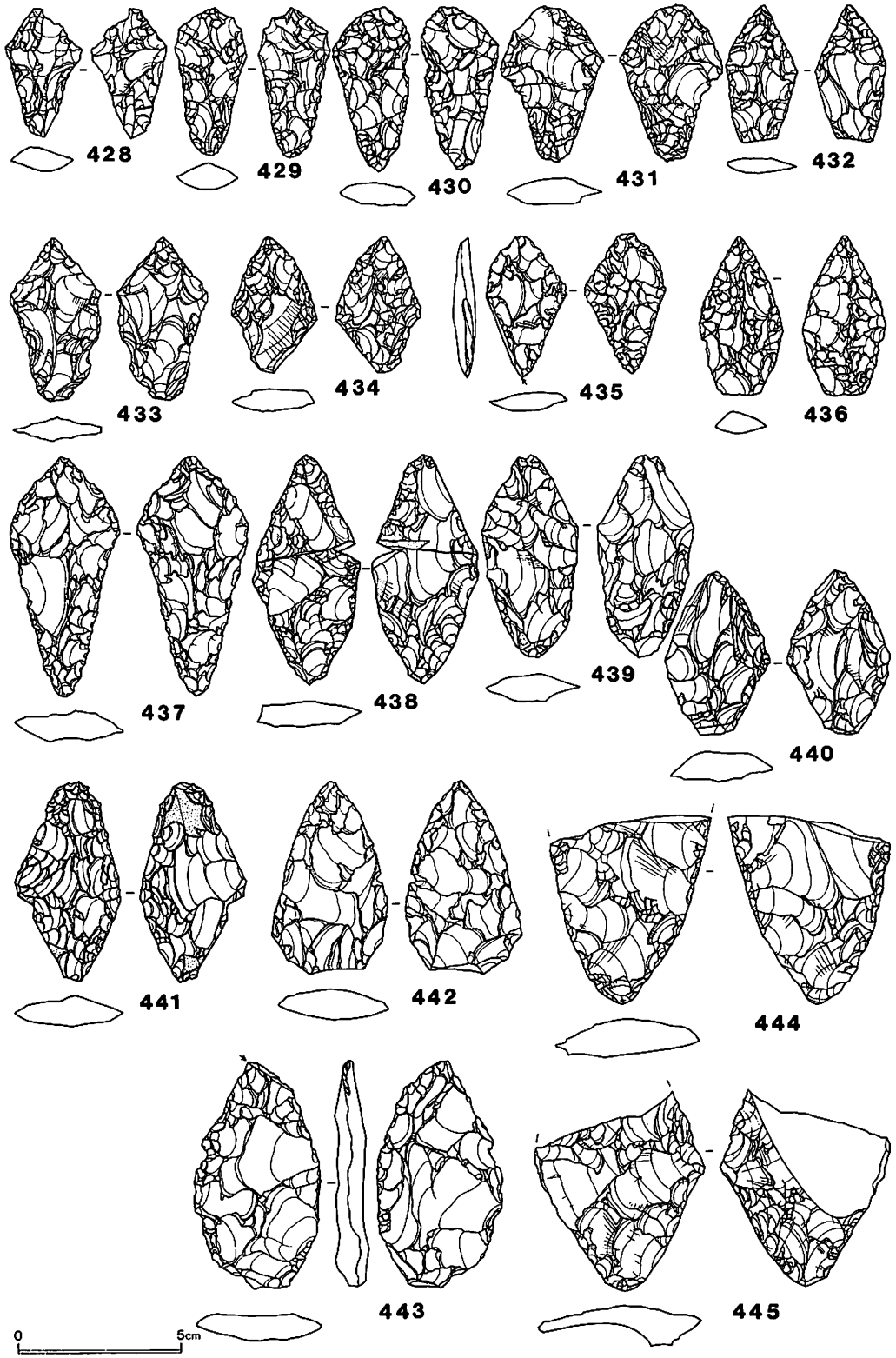
石 器 (8)


380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
0
5cm

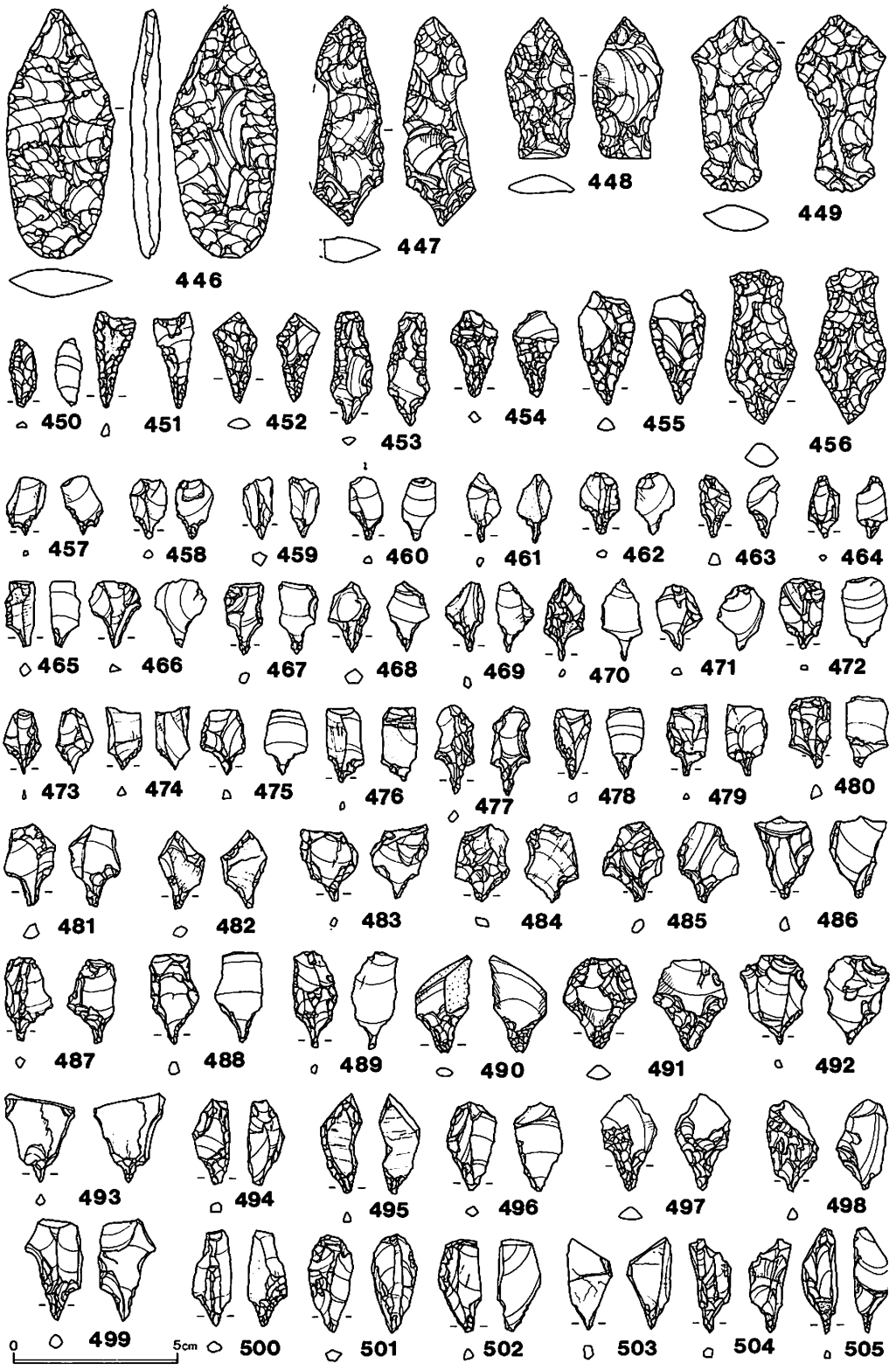
石 器 (9)


403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
0
5cm

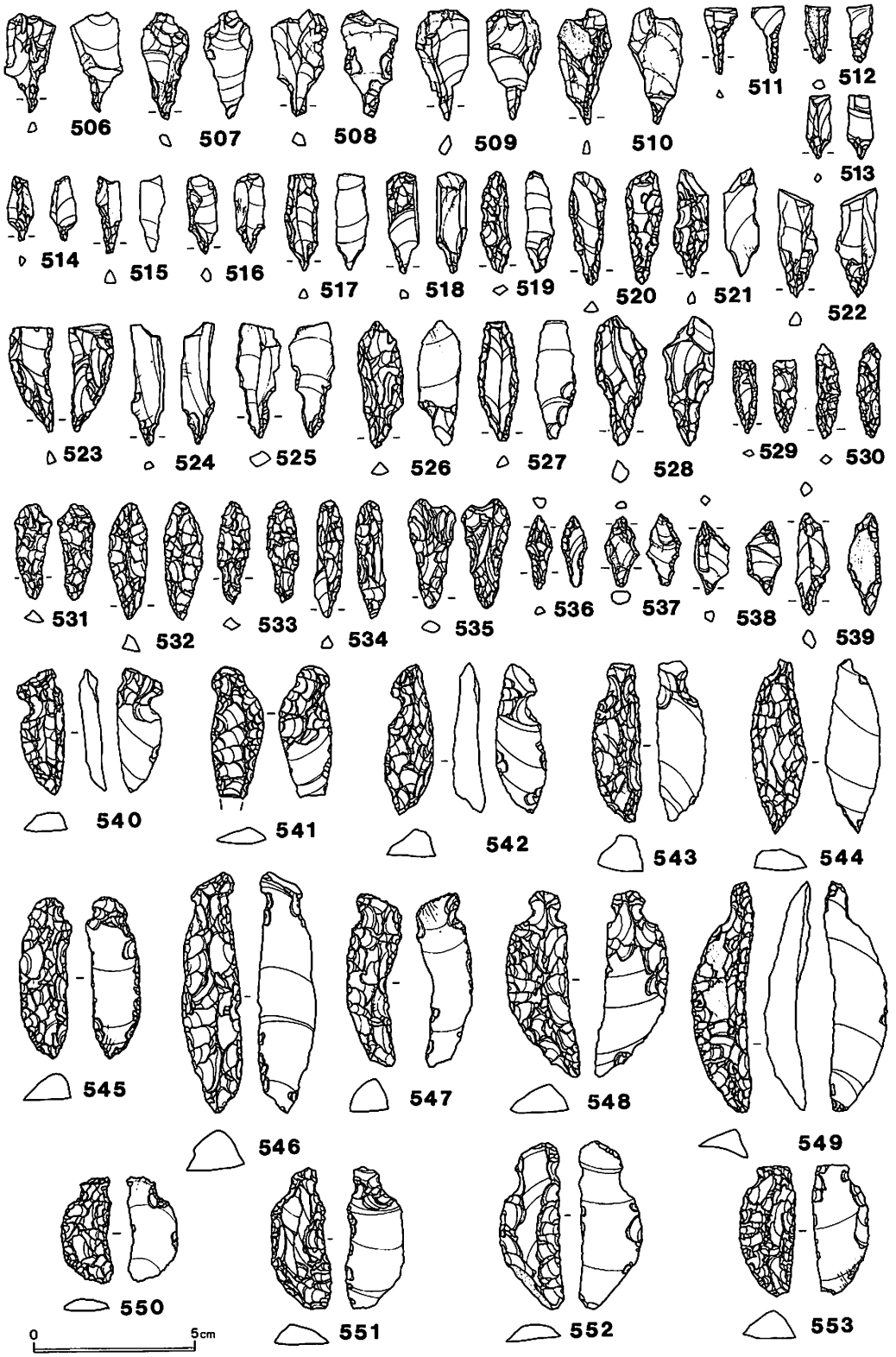
石 器 (10)


428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
0
5cm

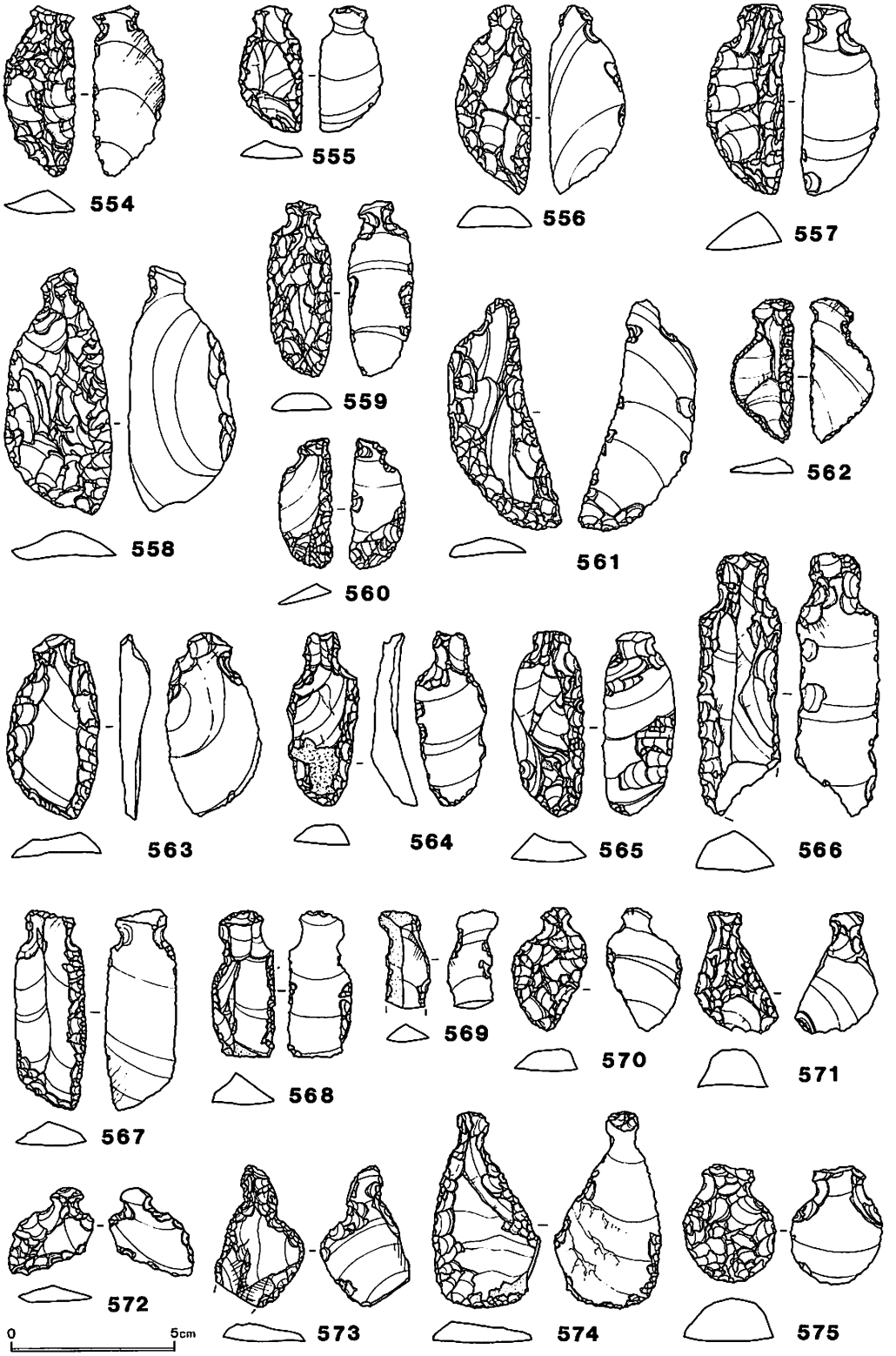
石 器 (11)


446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
0
5cm

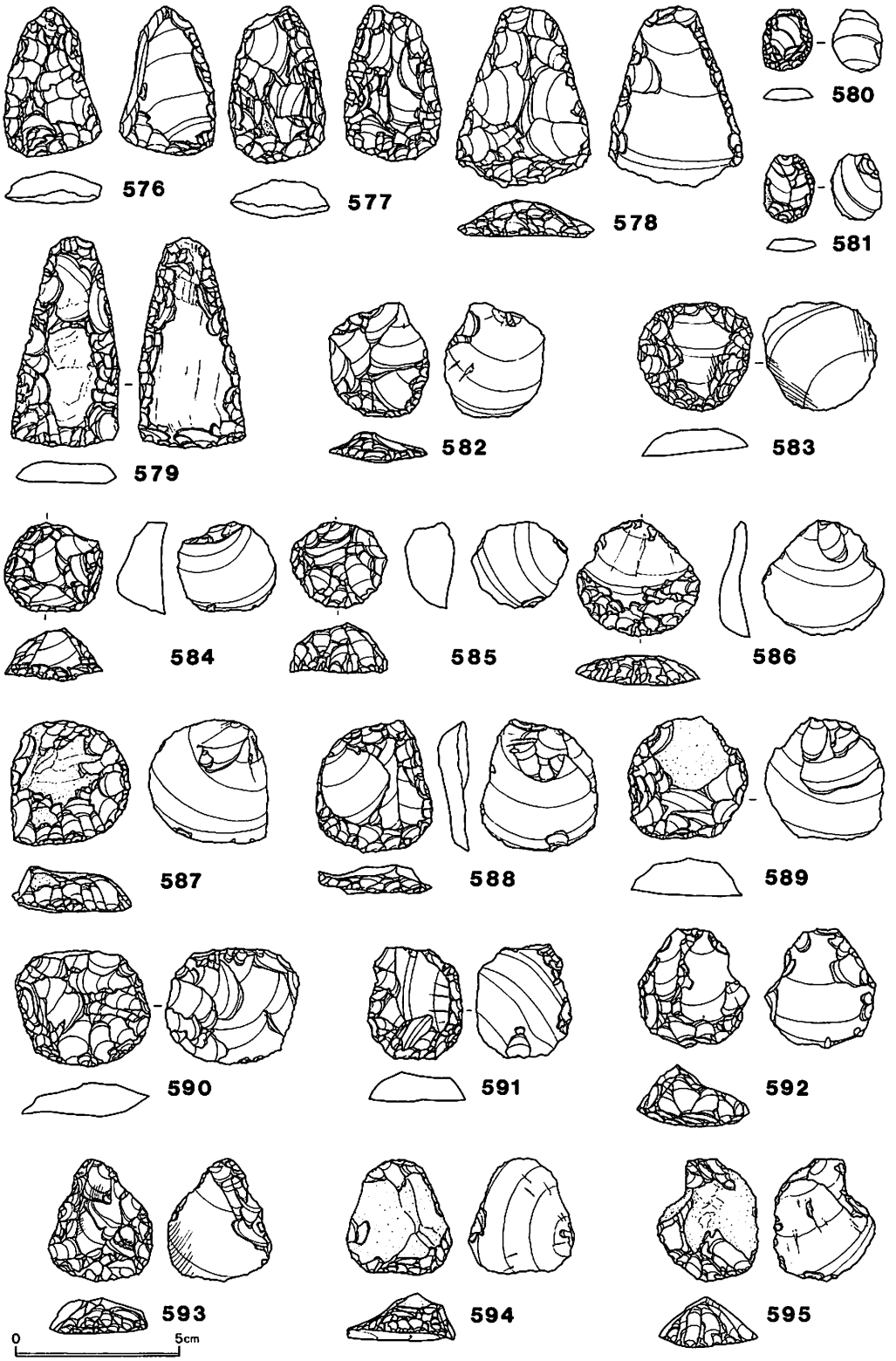
石 器 (12)


506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
0
5cm

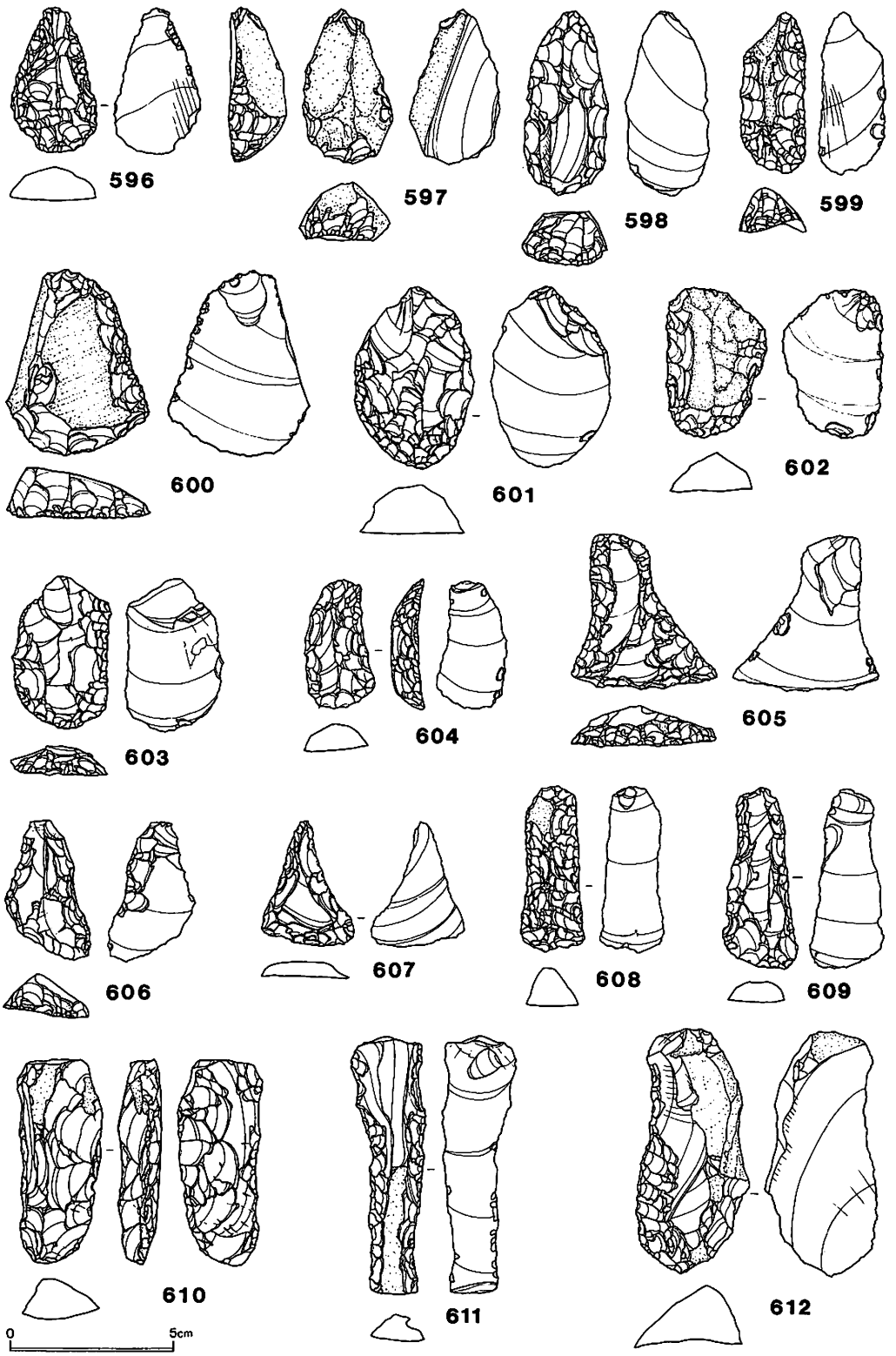
石 器 (13)


554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
0
5cm

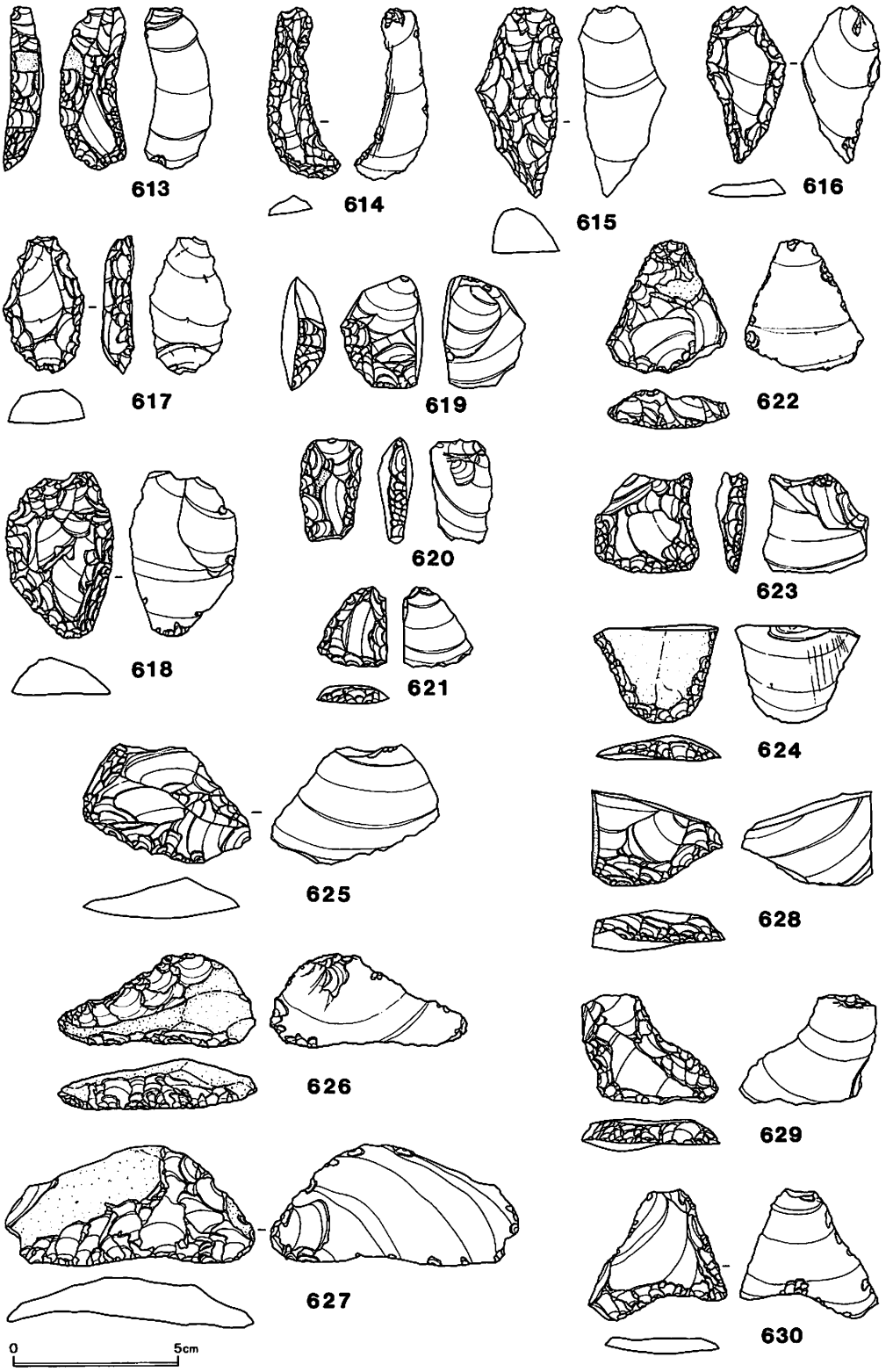
石 器 (14)


576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
0
5cm

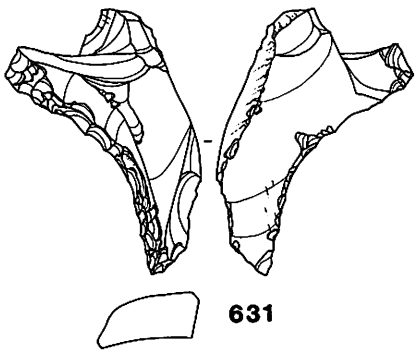
石 器 (15)

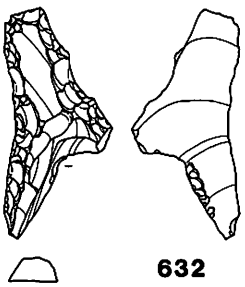

596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
0
5cm

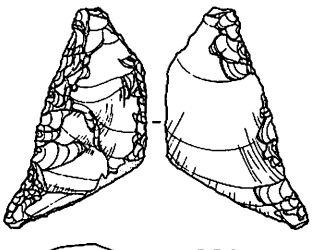
石 器 (16)

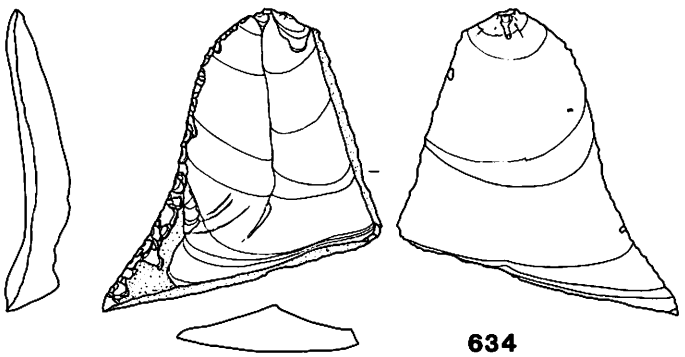

613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
0
5cm

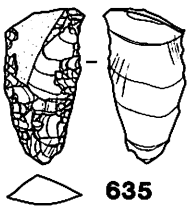
石 器 (17)

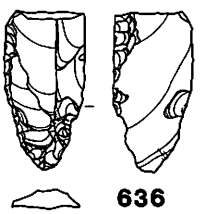


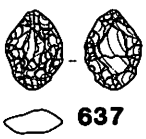


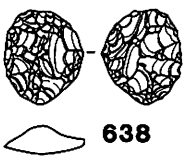


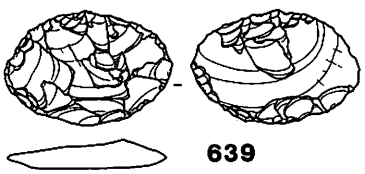


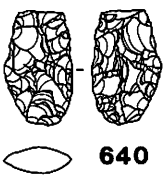


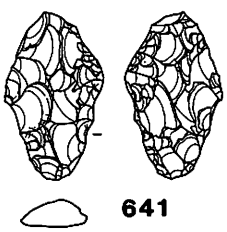


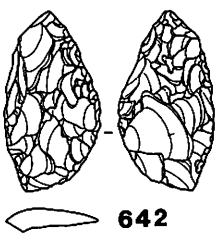


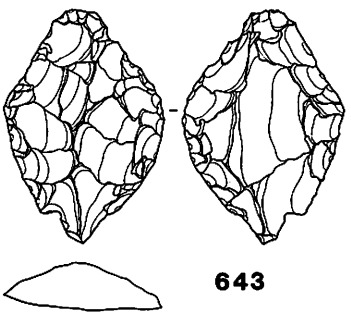






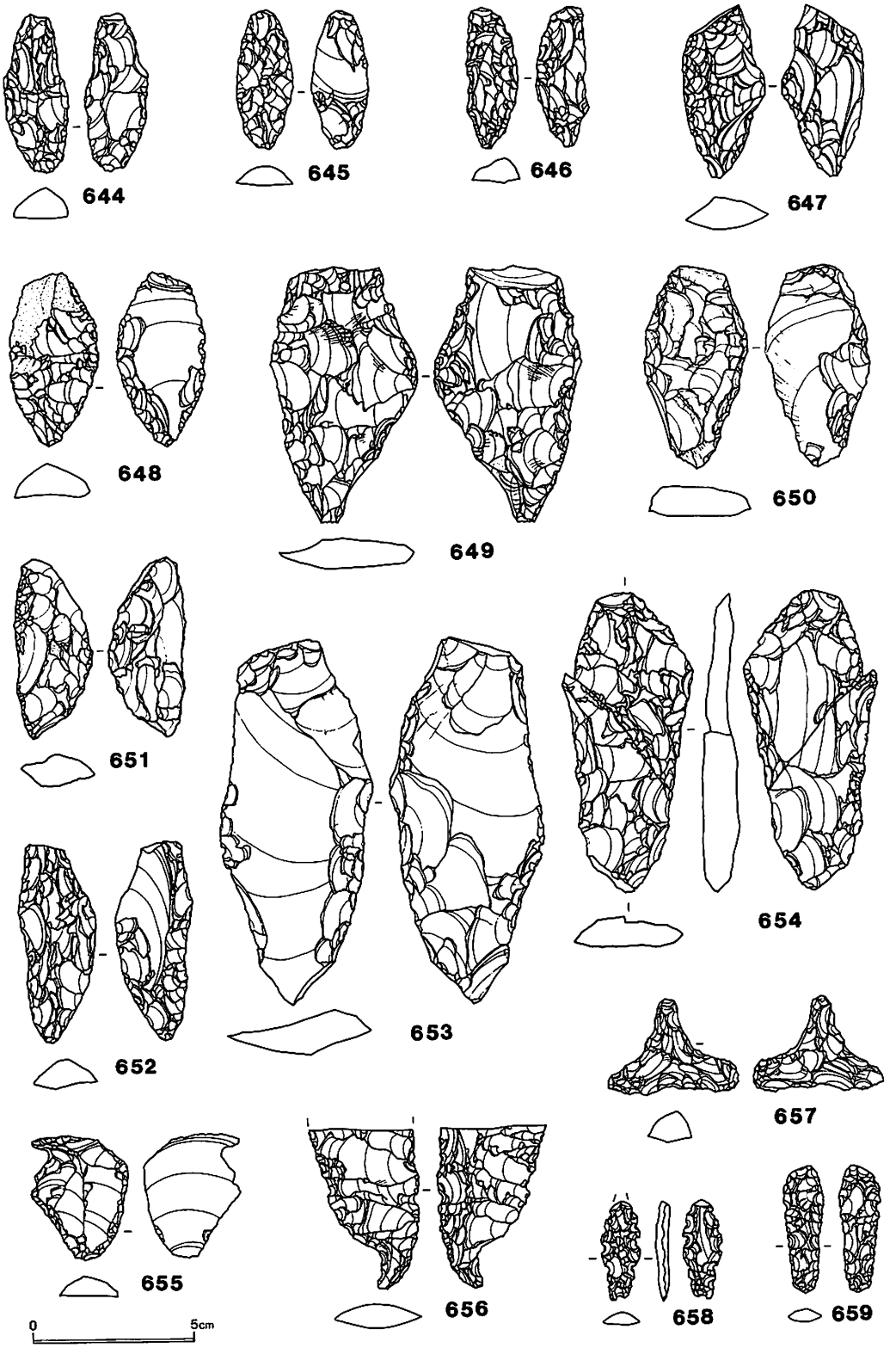




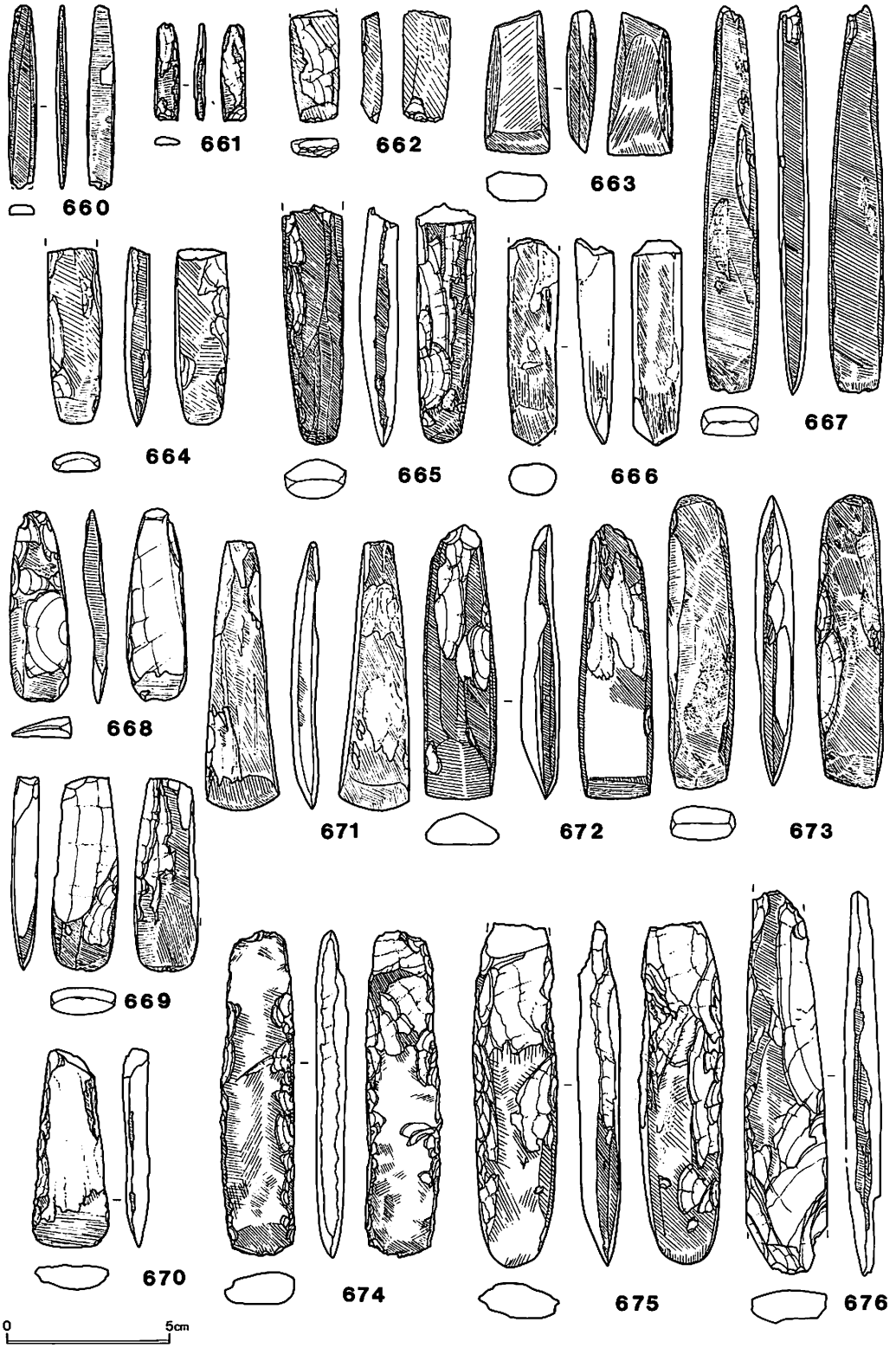


0 5cm

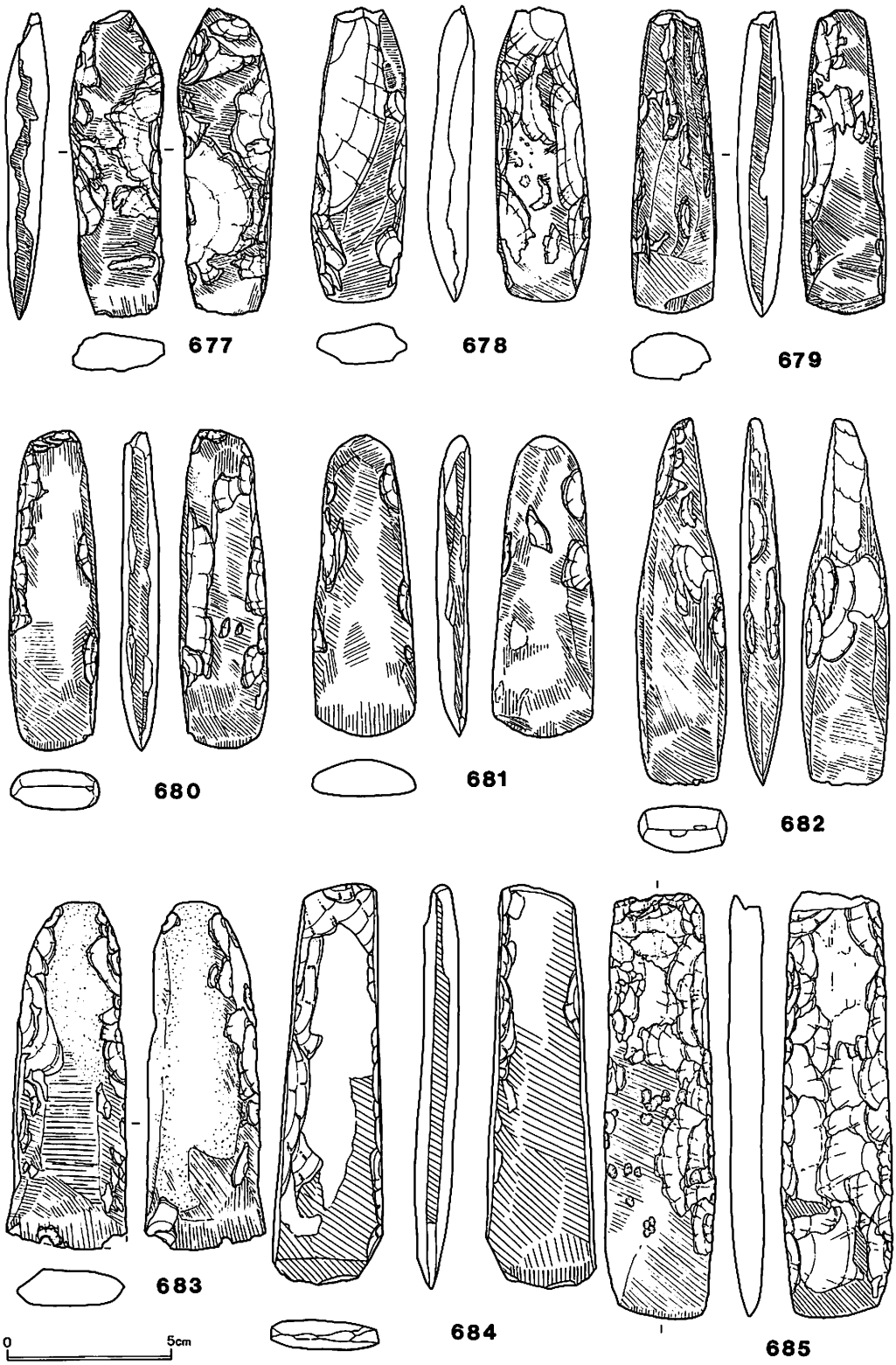
石 器 (18)


644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
0
5cm

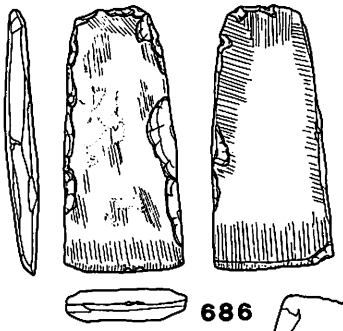
石 器 (19)


660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
0
5cm

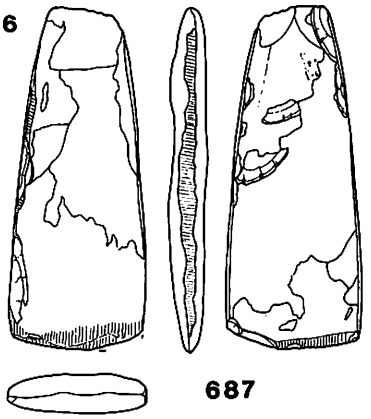
石 器 (20)



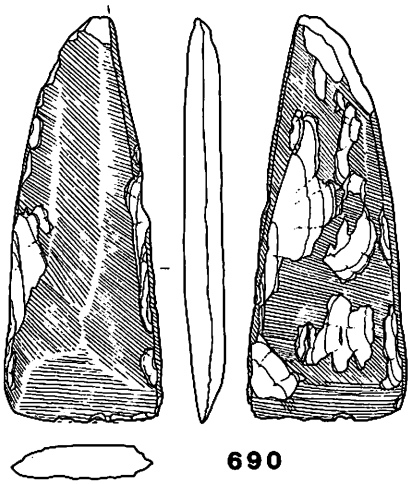
石 器 (21)



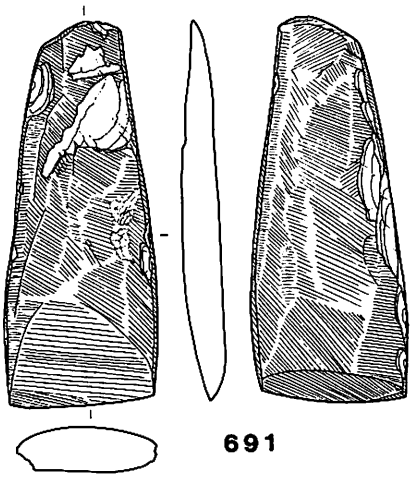
686



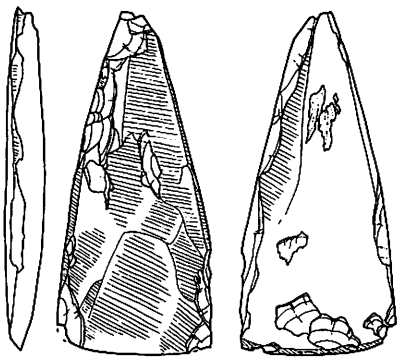
687



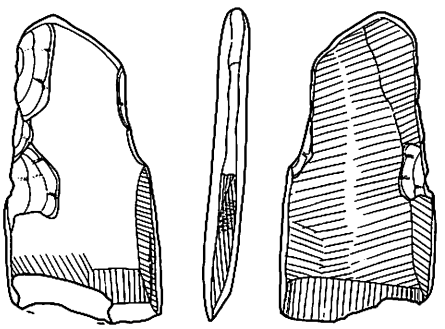
690



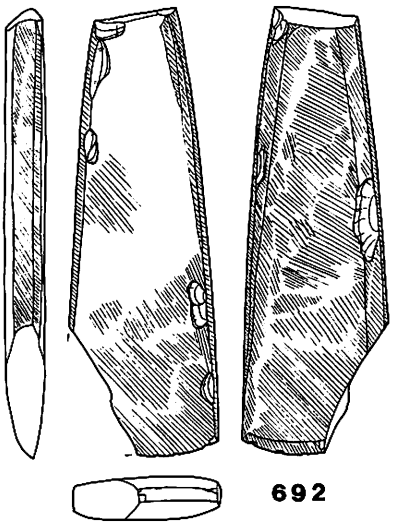
691



688

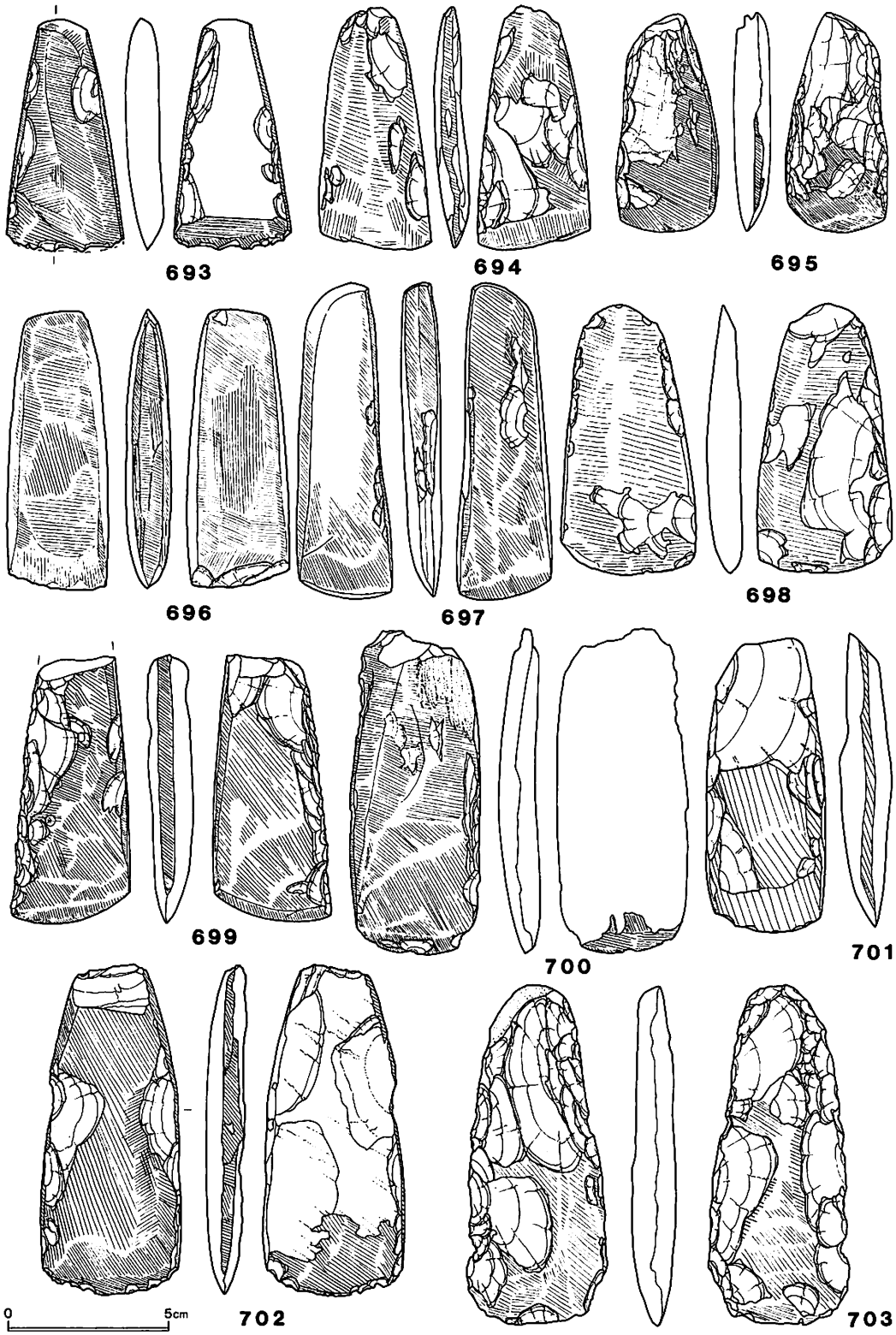


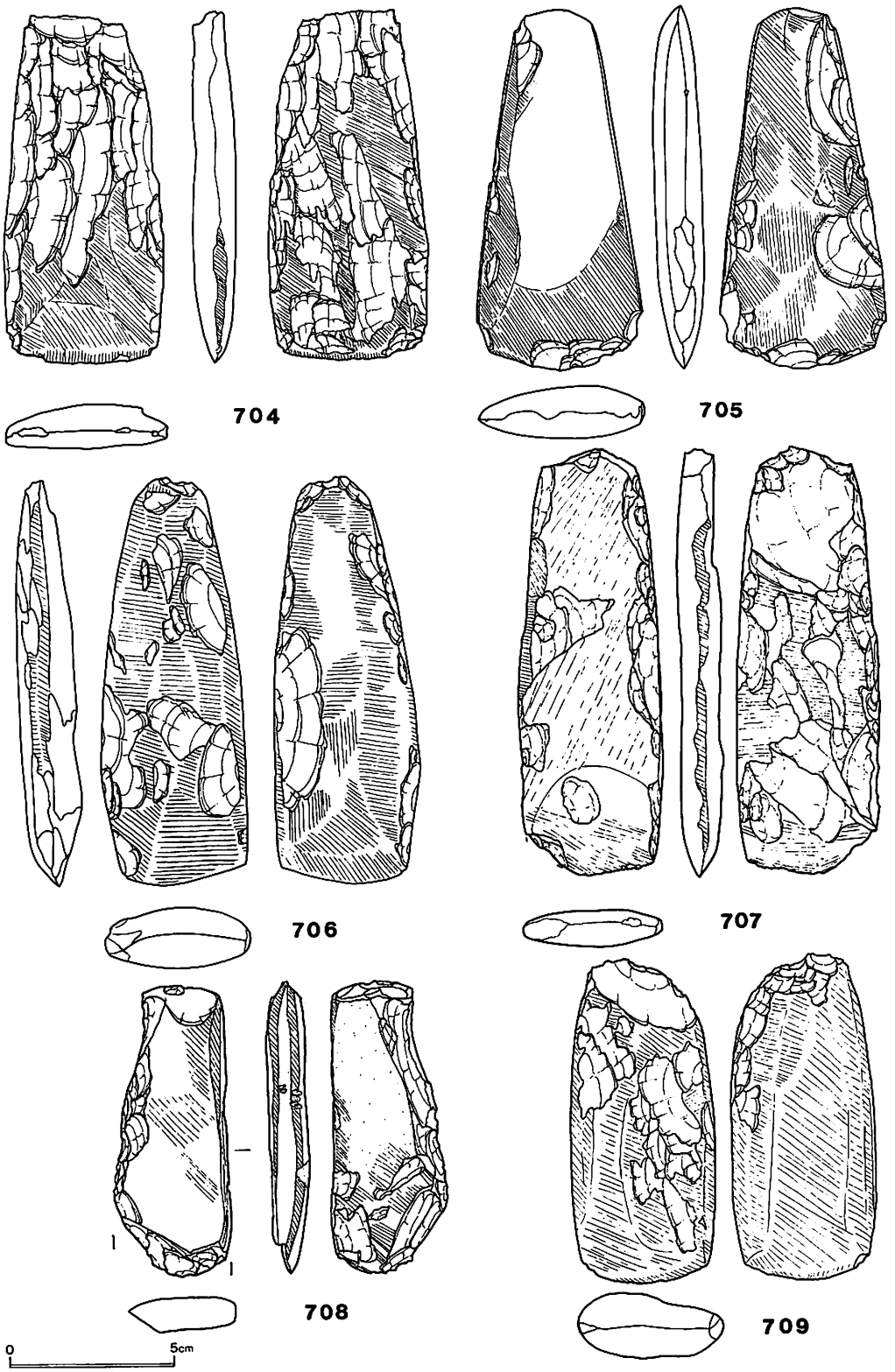
689



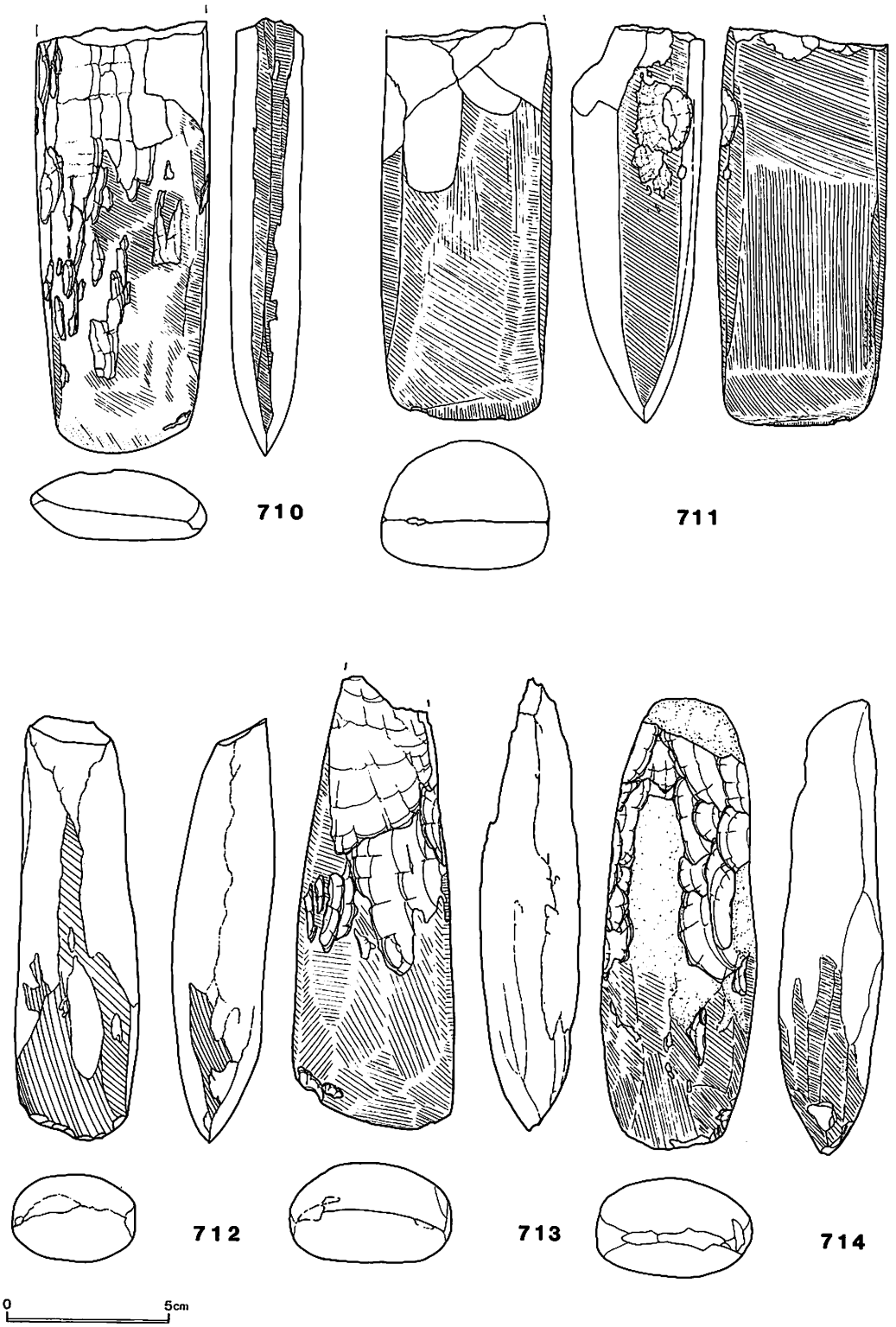
692

0 5cm

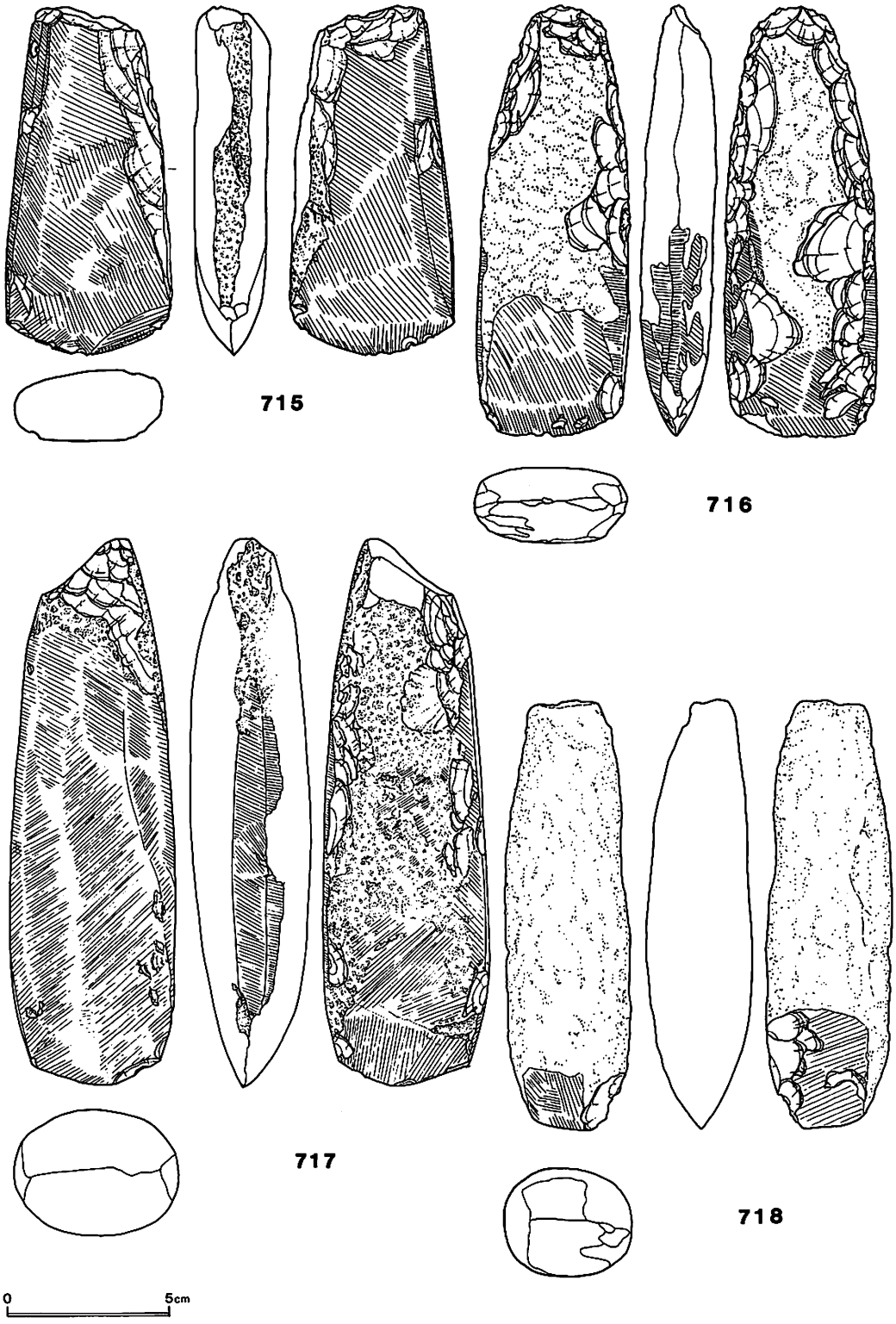

693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
0
5cm



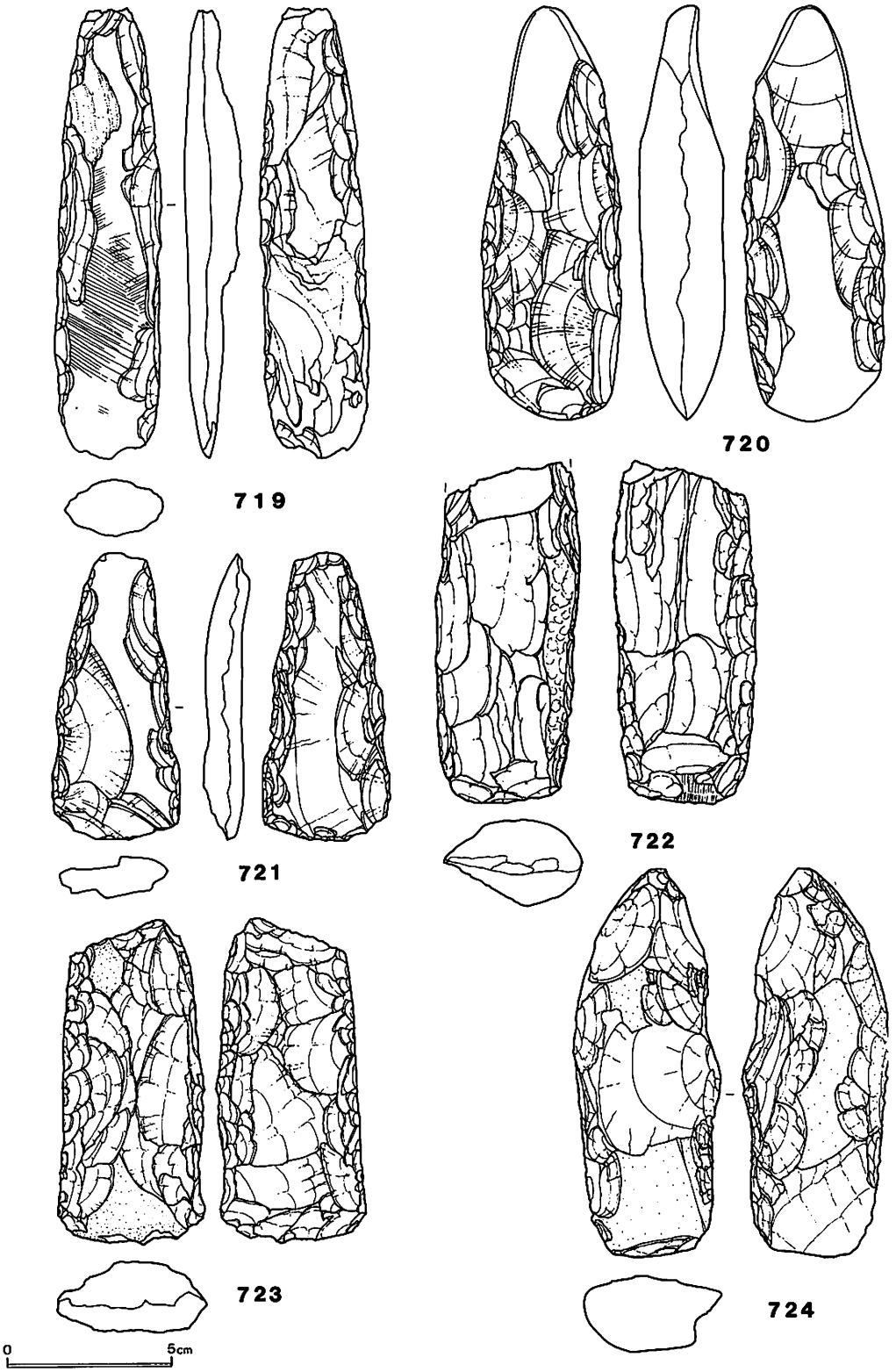
石 器 (24)



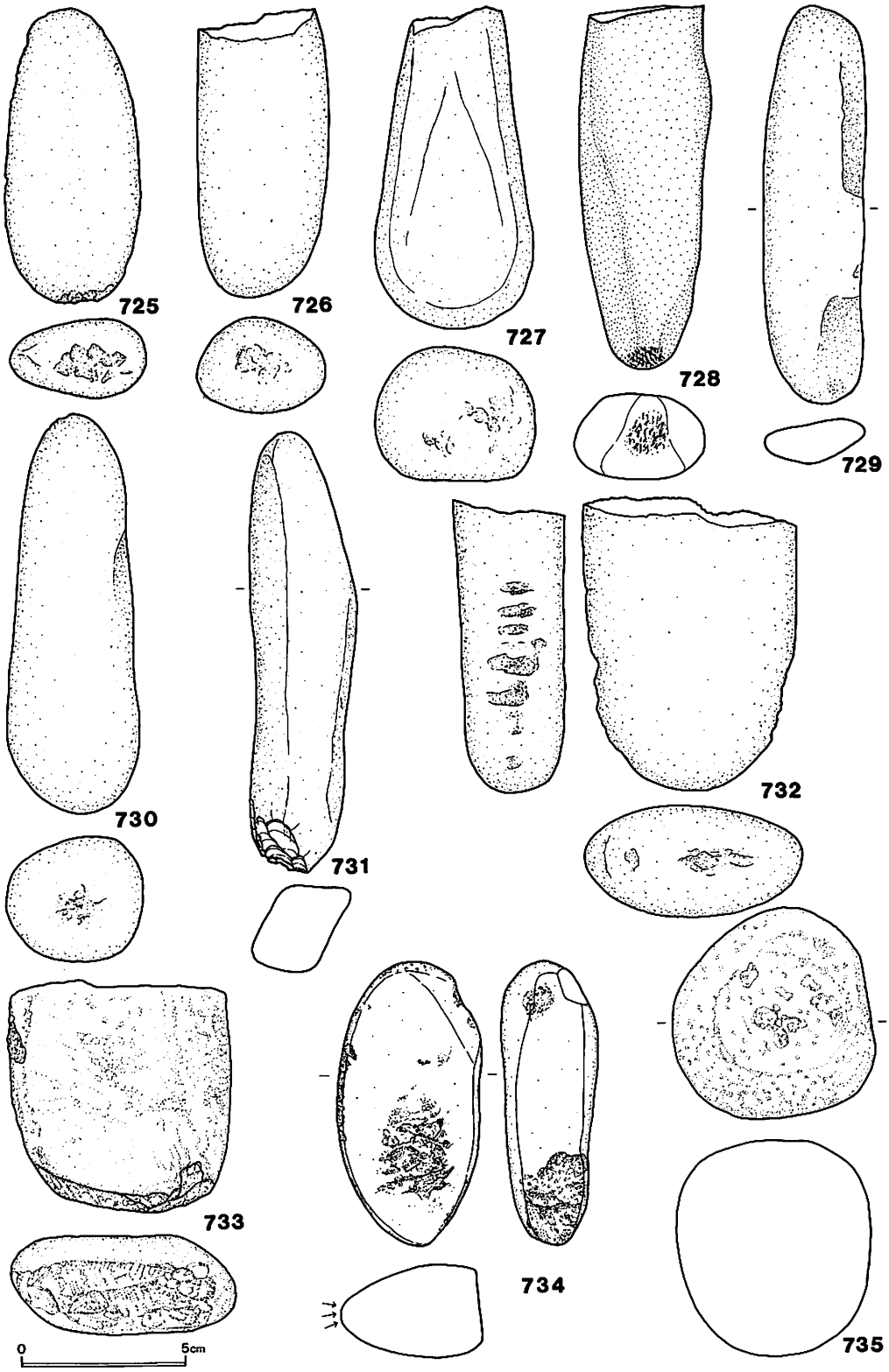
石 器 (25)



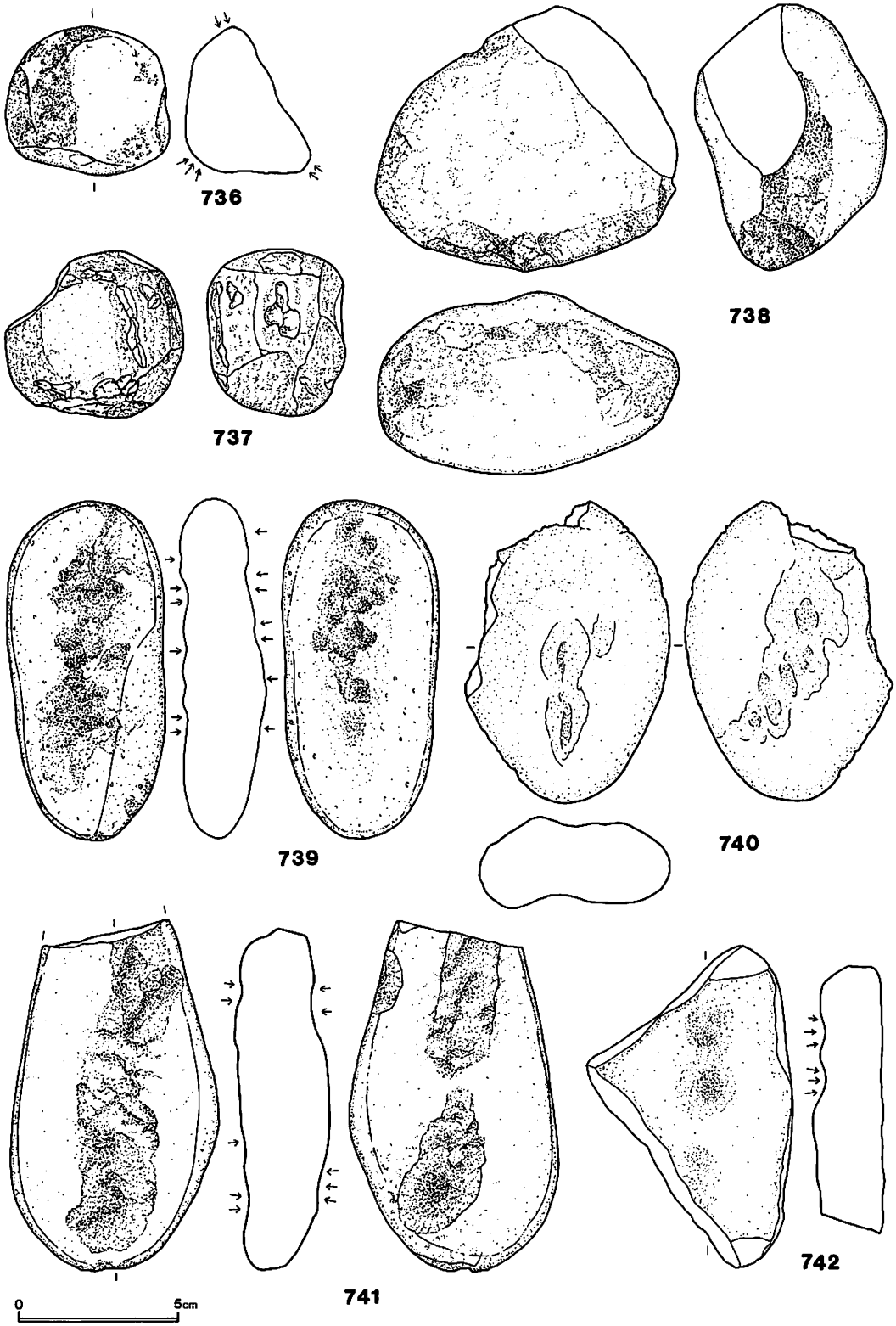
石 器 (26)



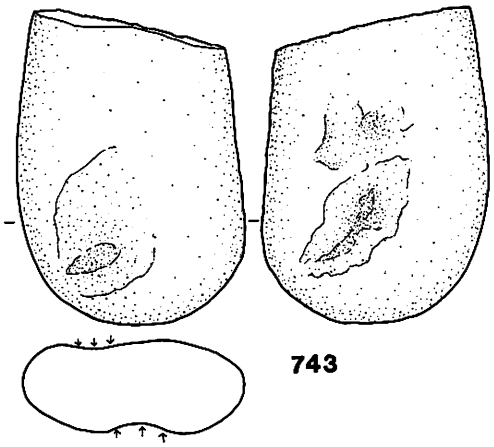
石 器 (27)



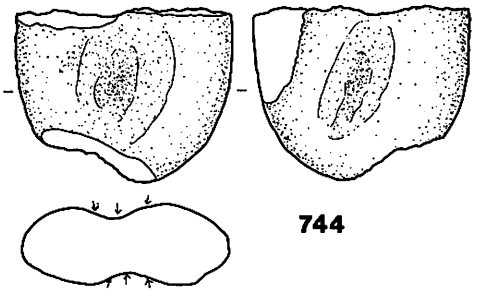
石 器 (28)



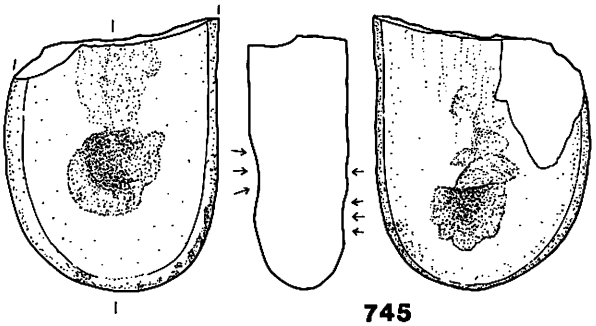
石 器 (29)



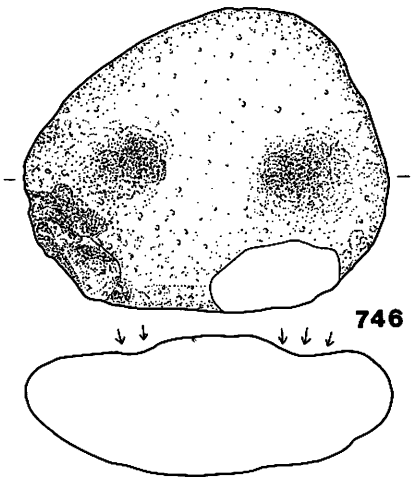
743



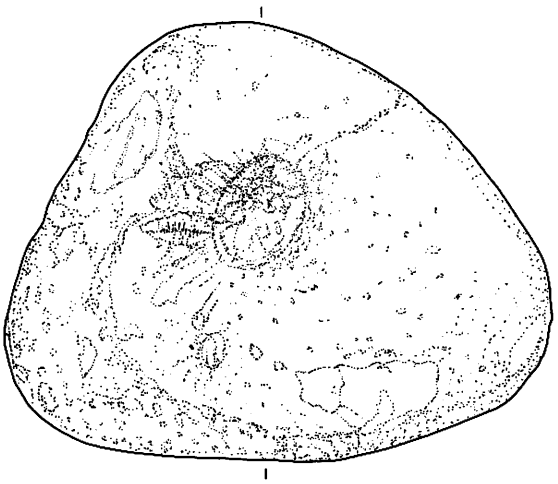
744

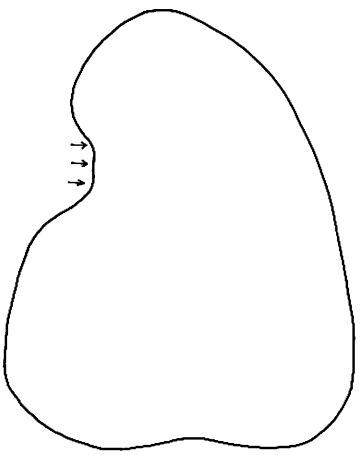


745



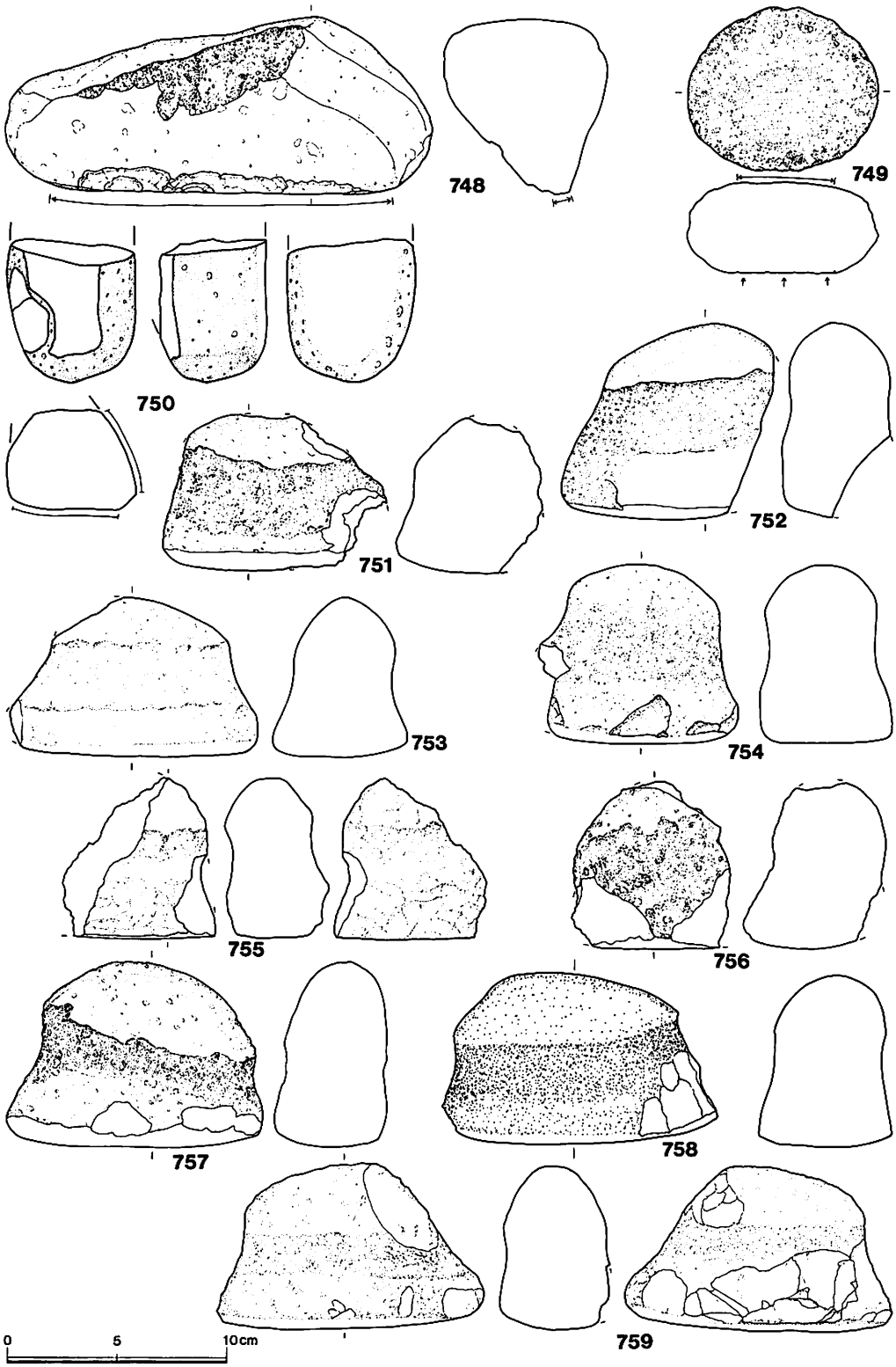
746

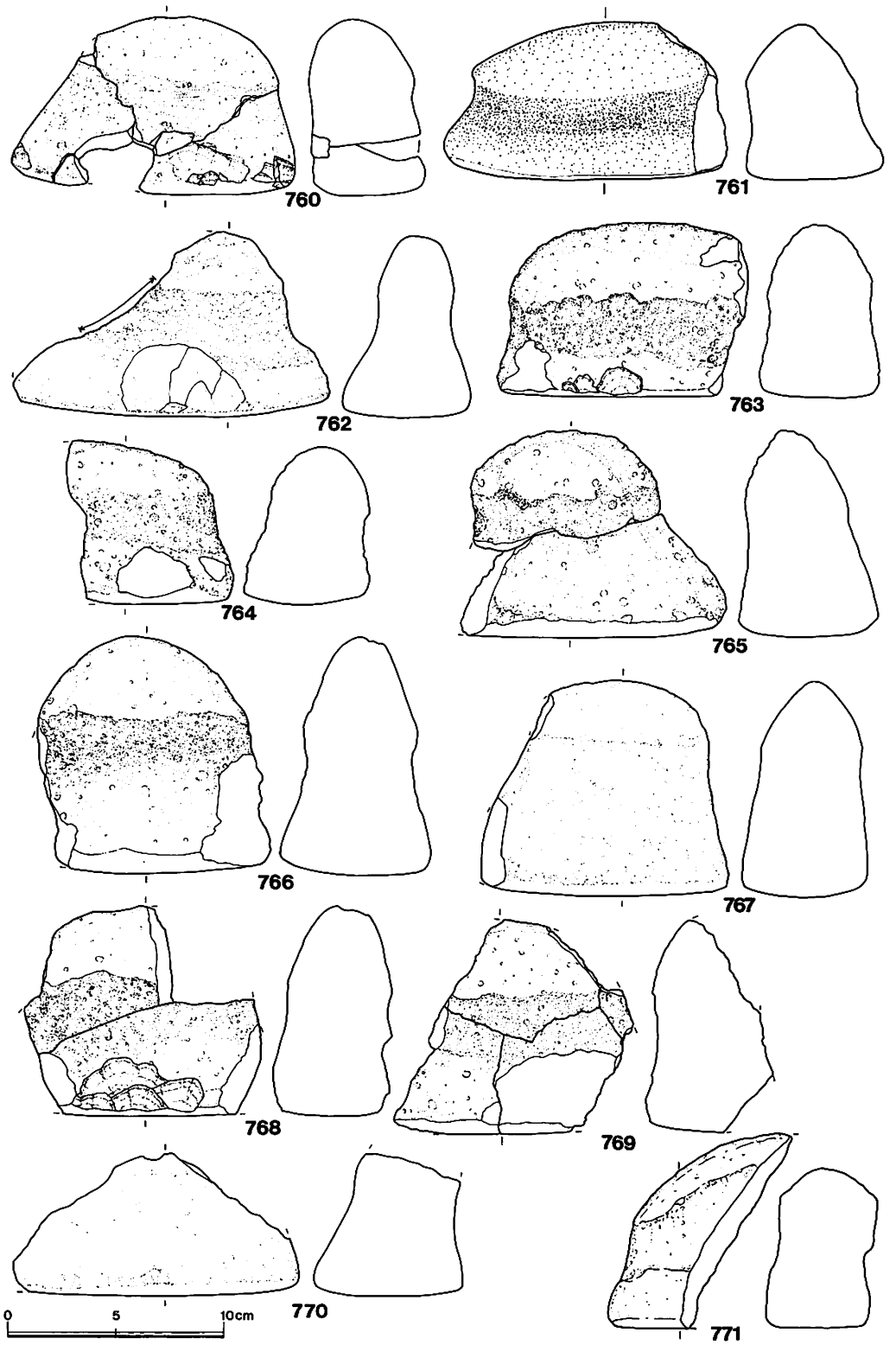




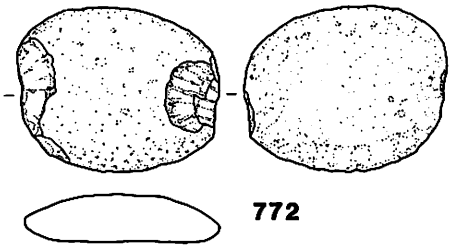
747

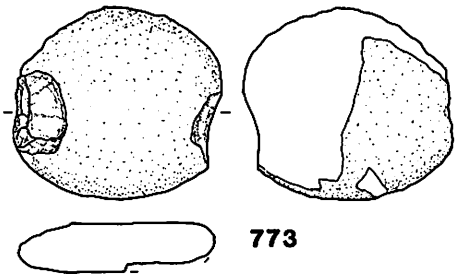
0 5cm

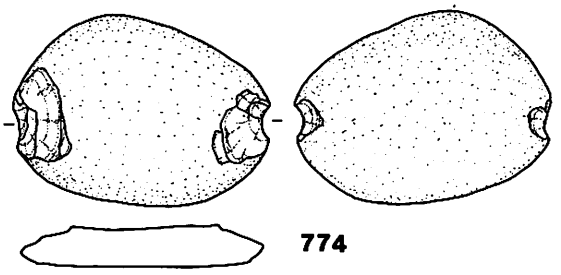

748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
0
5
10cm

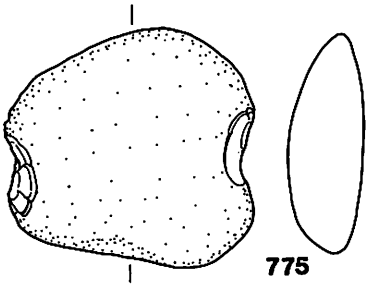


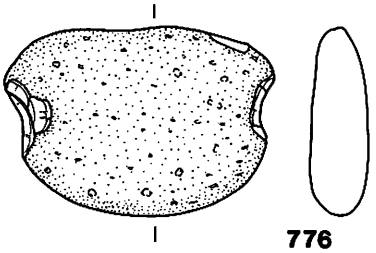
石 器 (32)

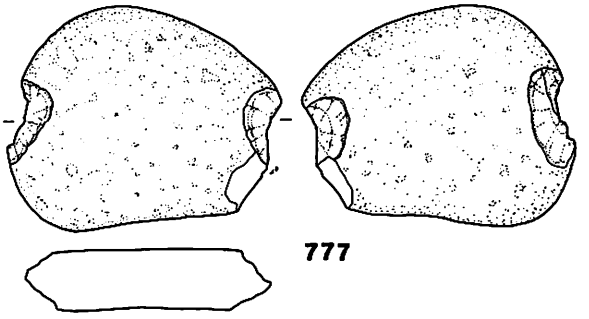


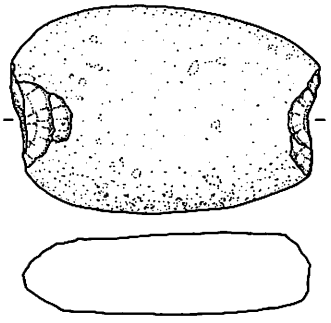


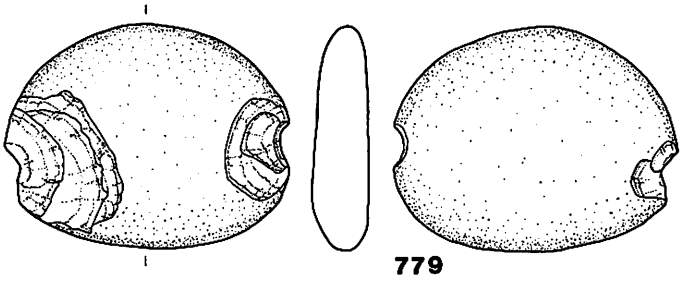


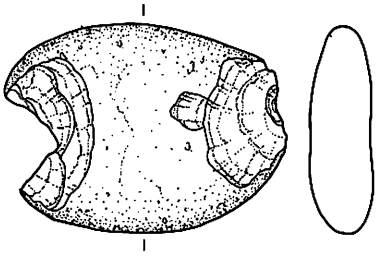


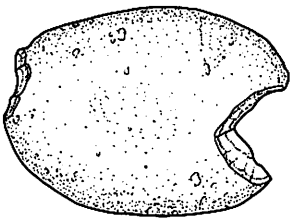


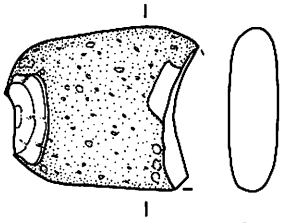




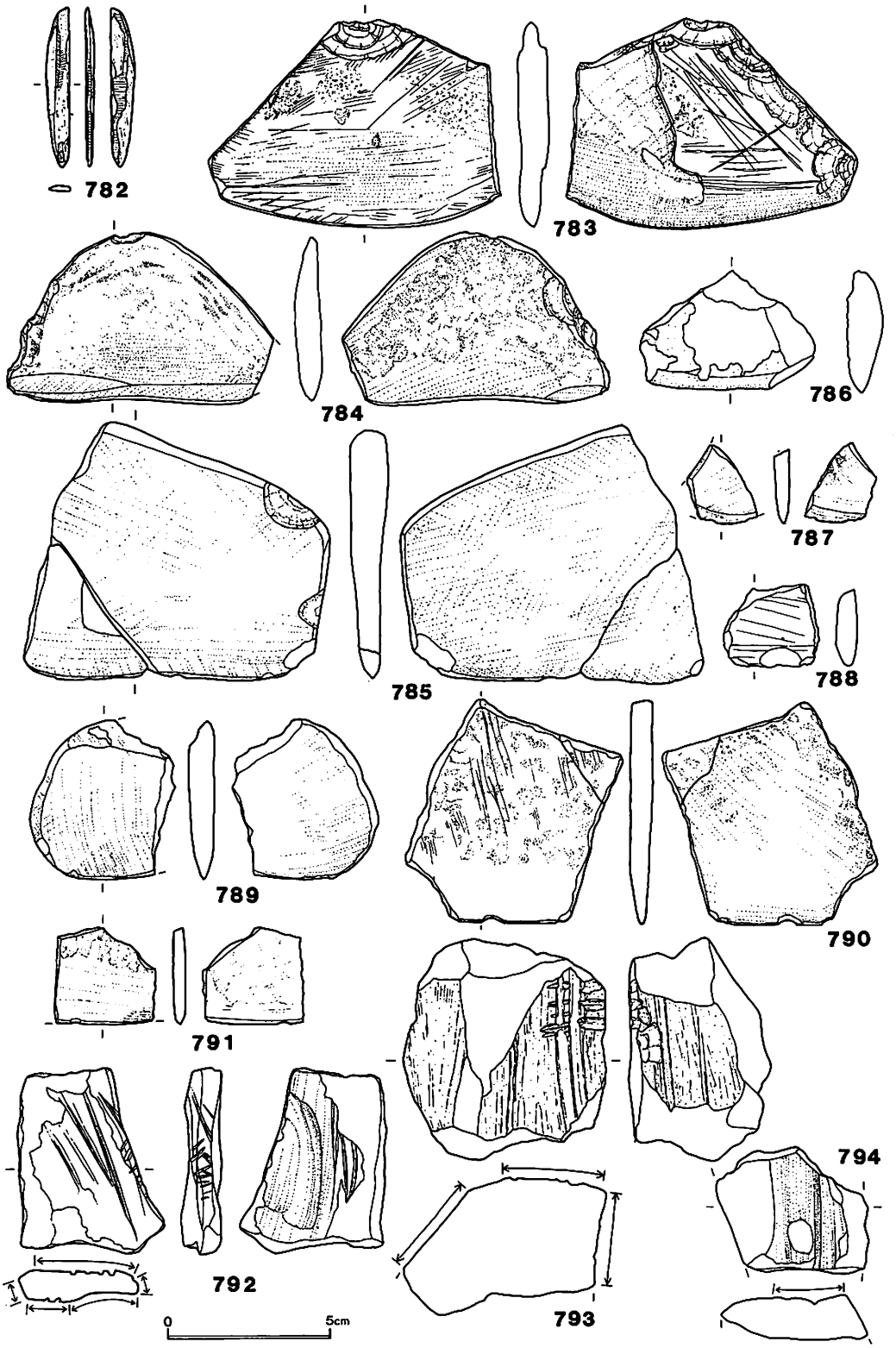




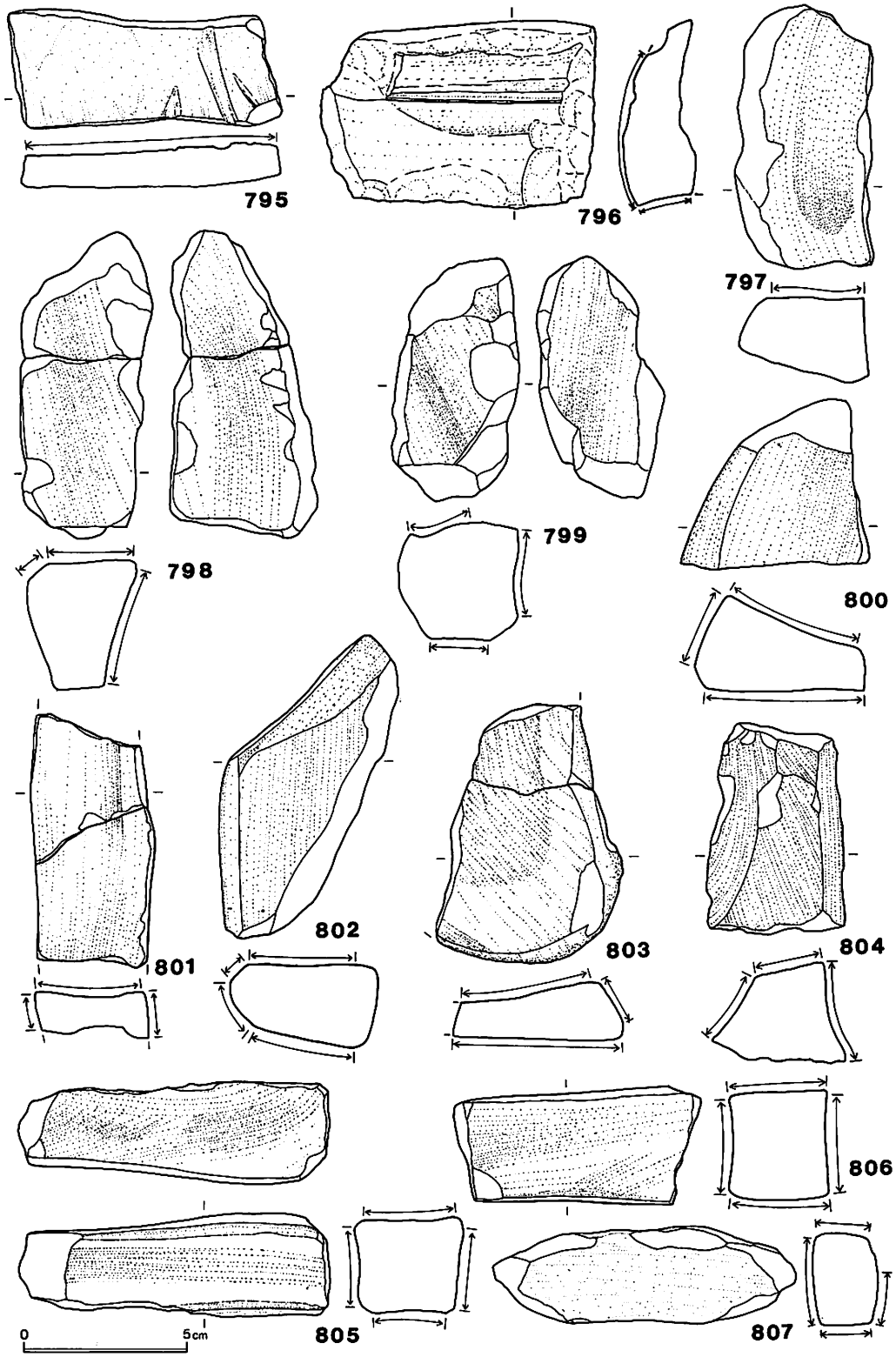




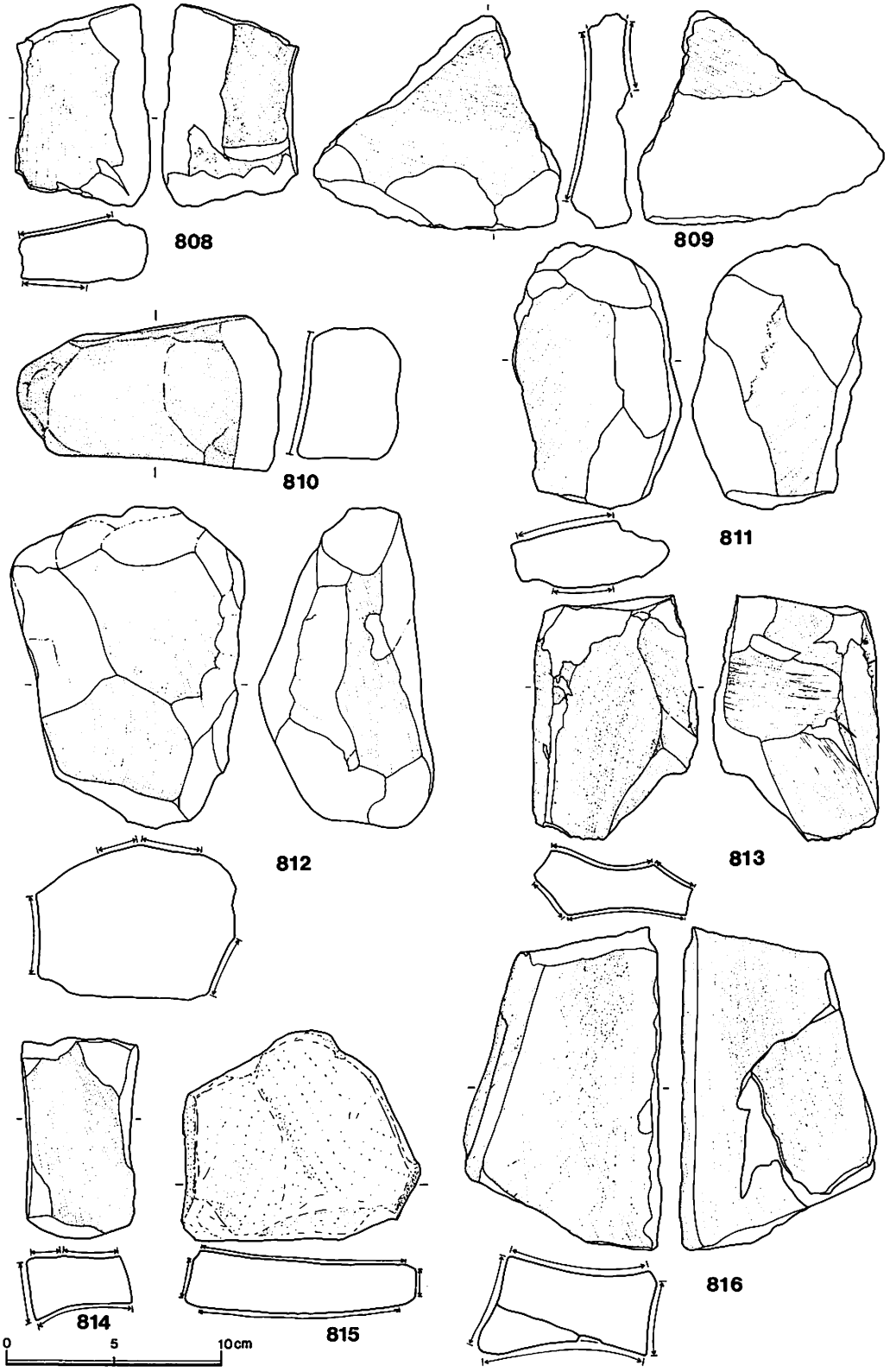
0 5cm



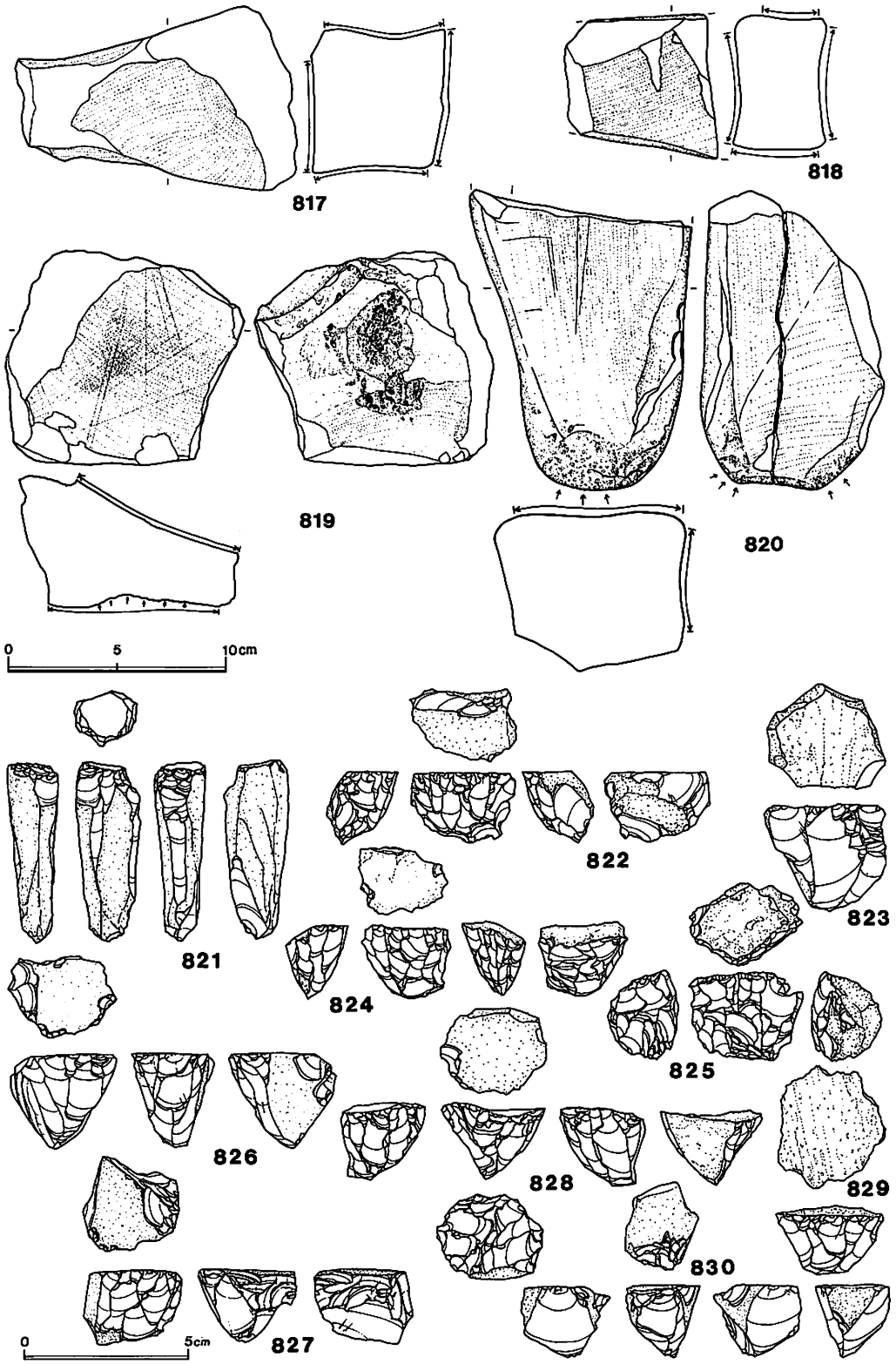
石 器 (34)



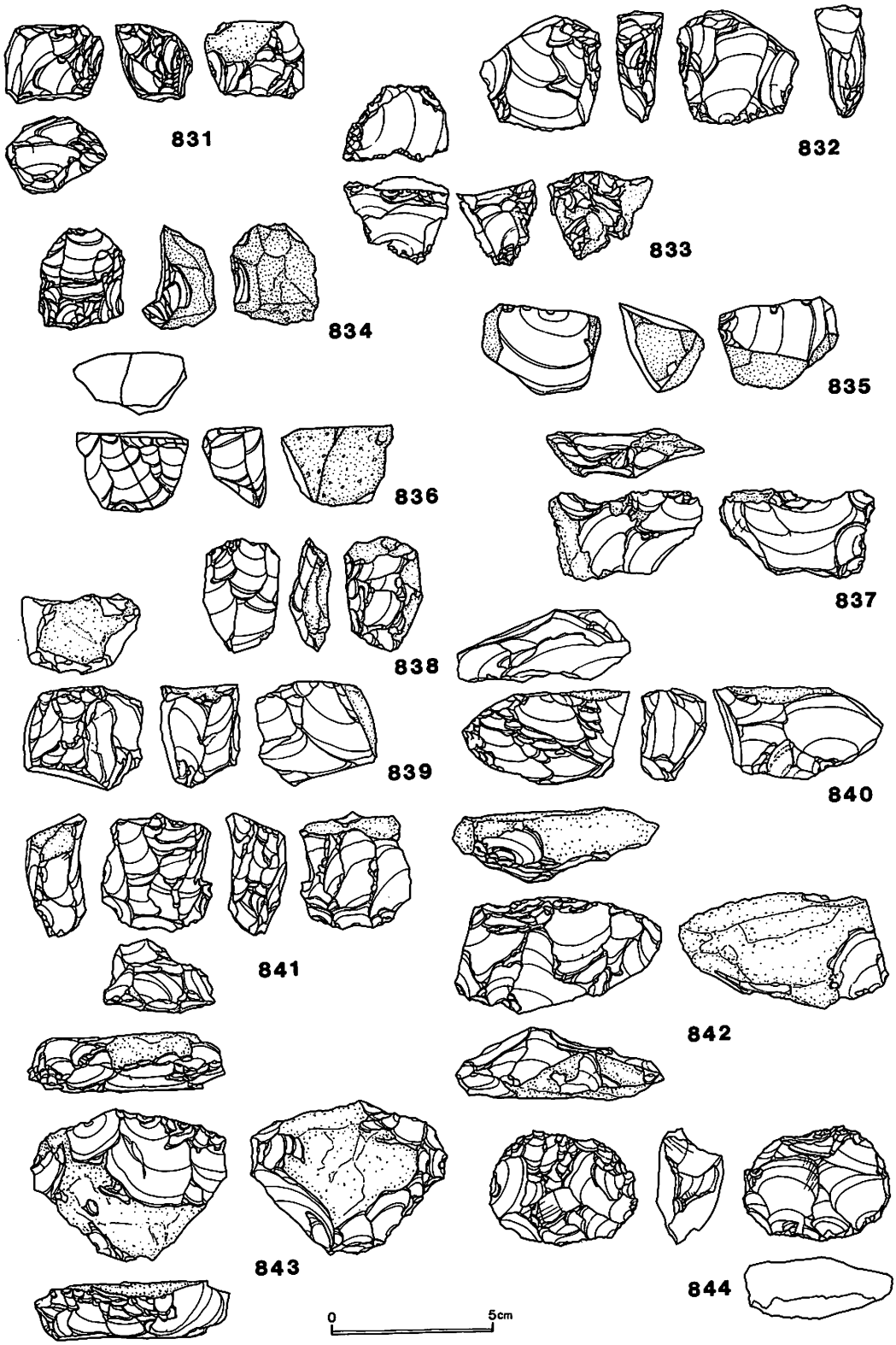
石 器 (35)



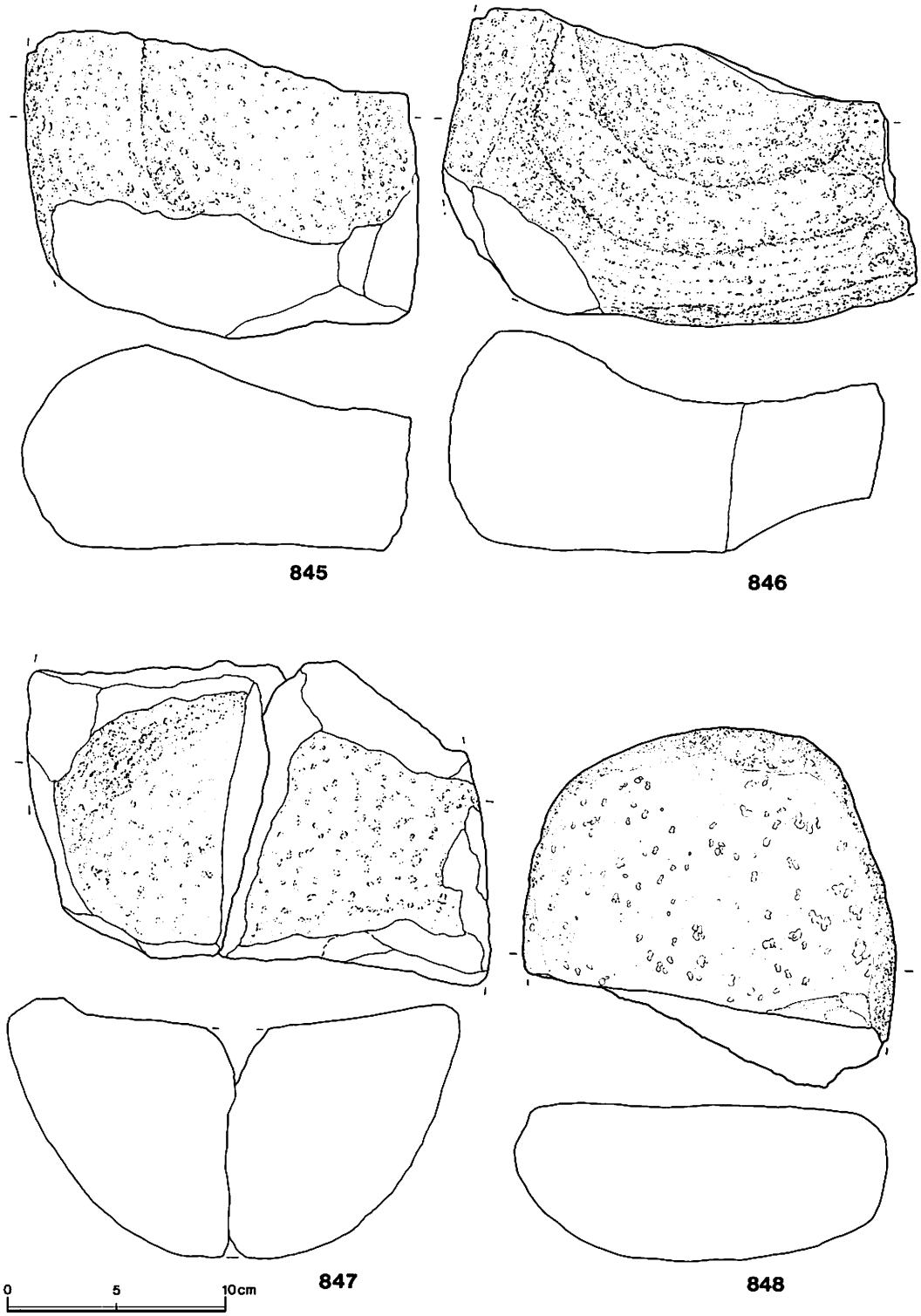
石 器 (36)

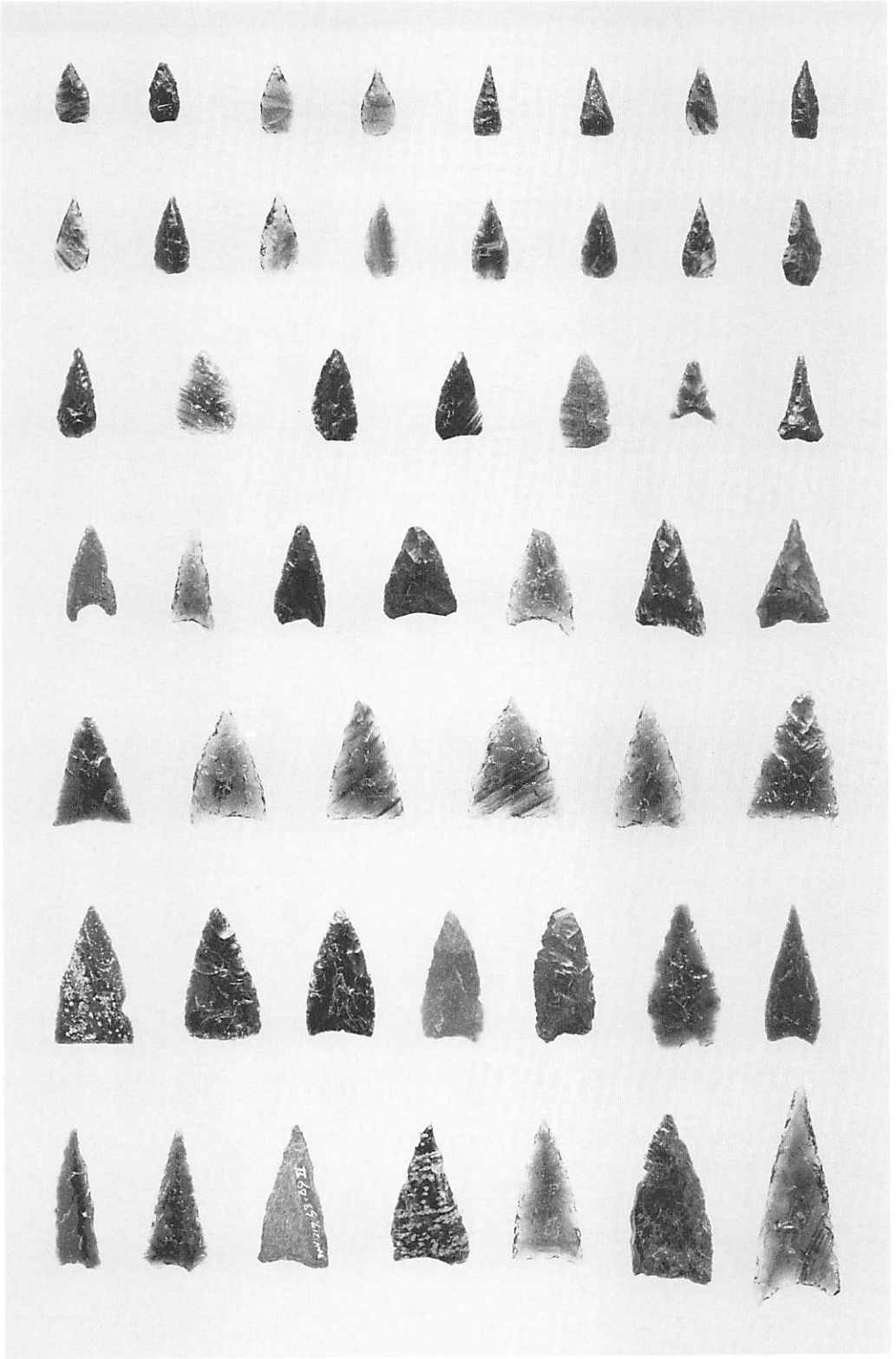

817
818
819
820
0
5
10cm
821
822
823
824
825
826
827
828
829
830
0
5cm

石 器 (37)

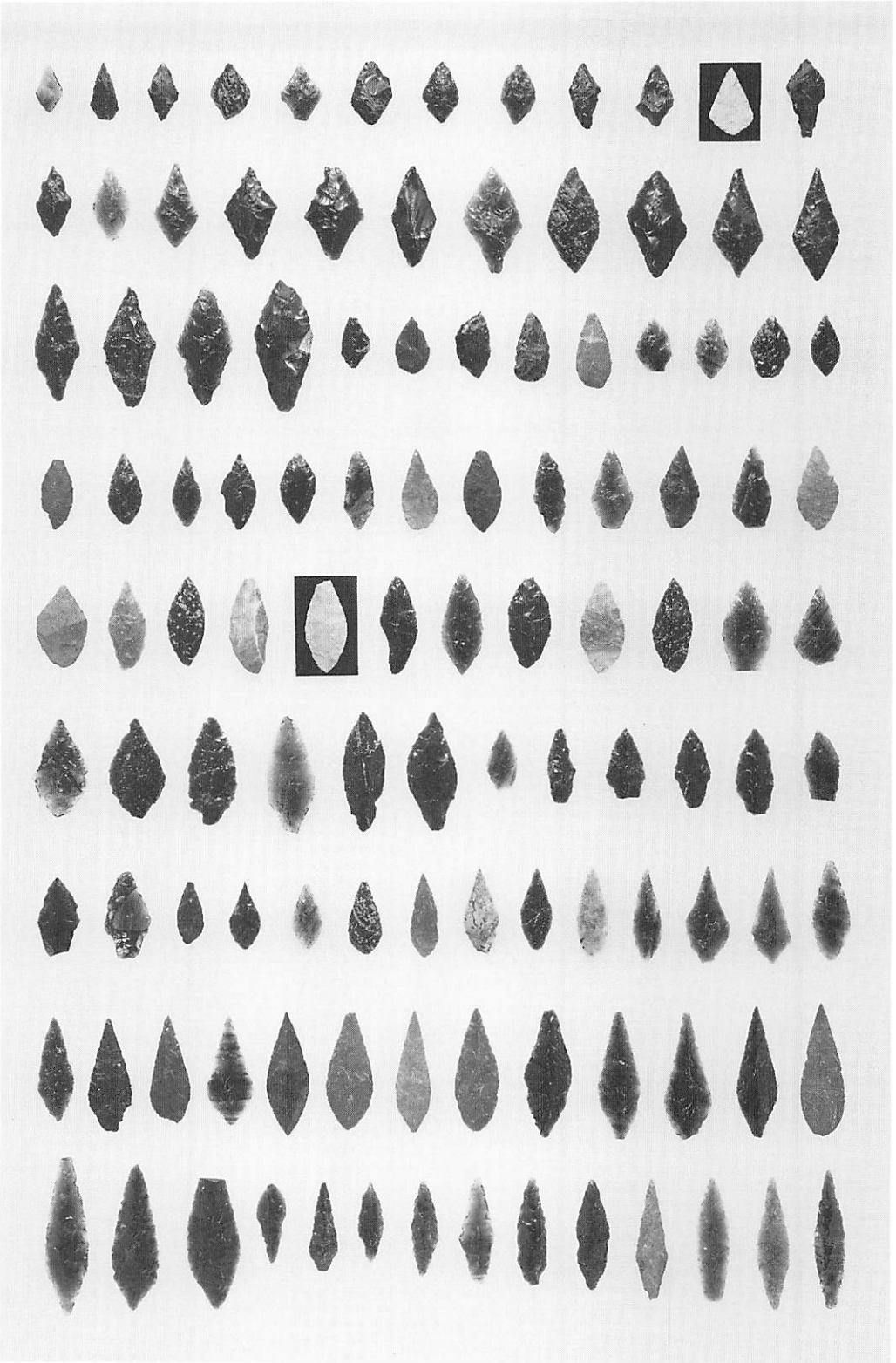


石 器 (38)

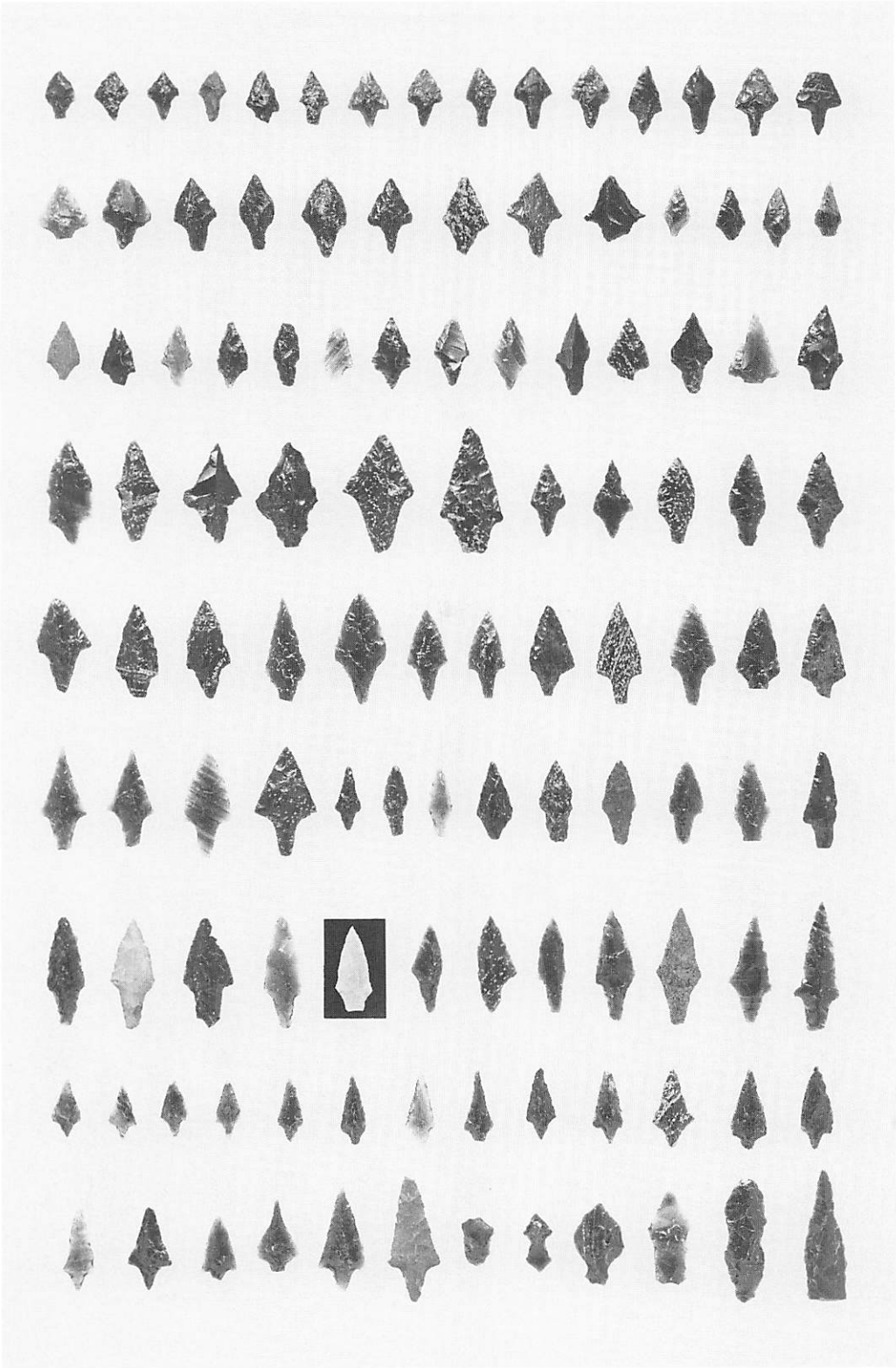

845
846
847
848
0
5
10cm



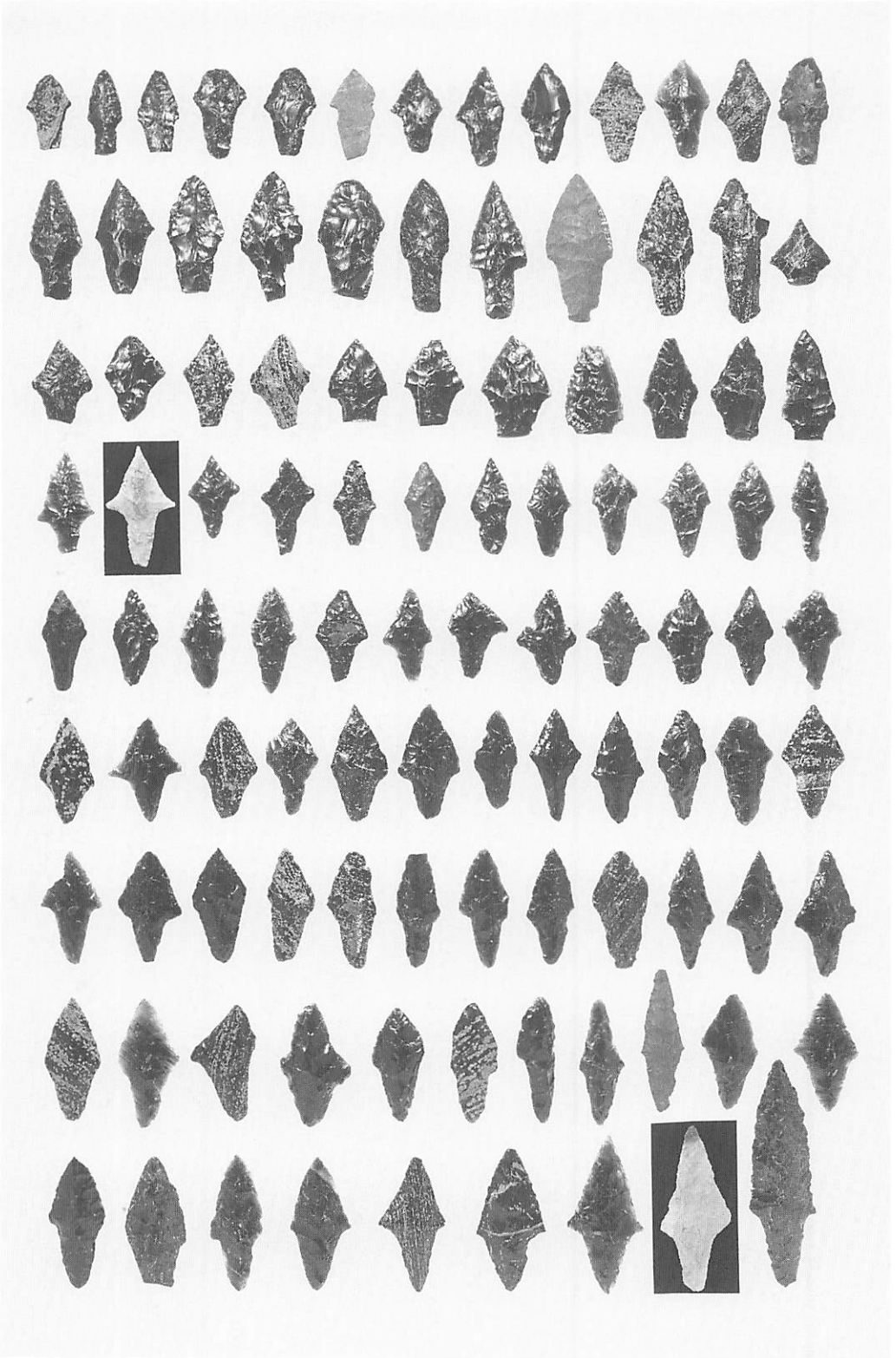
石　器（1）



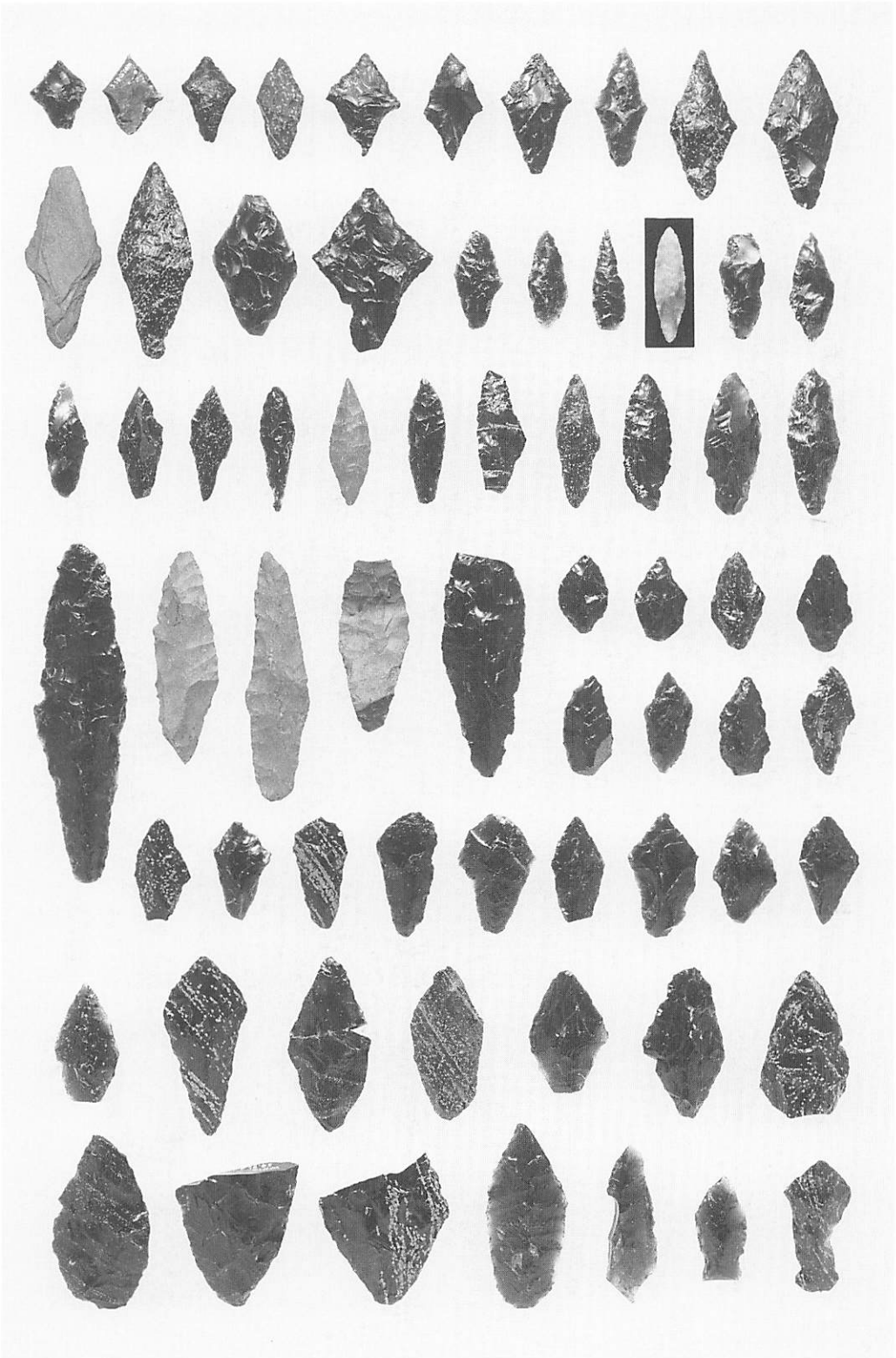
石　器 (2)



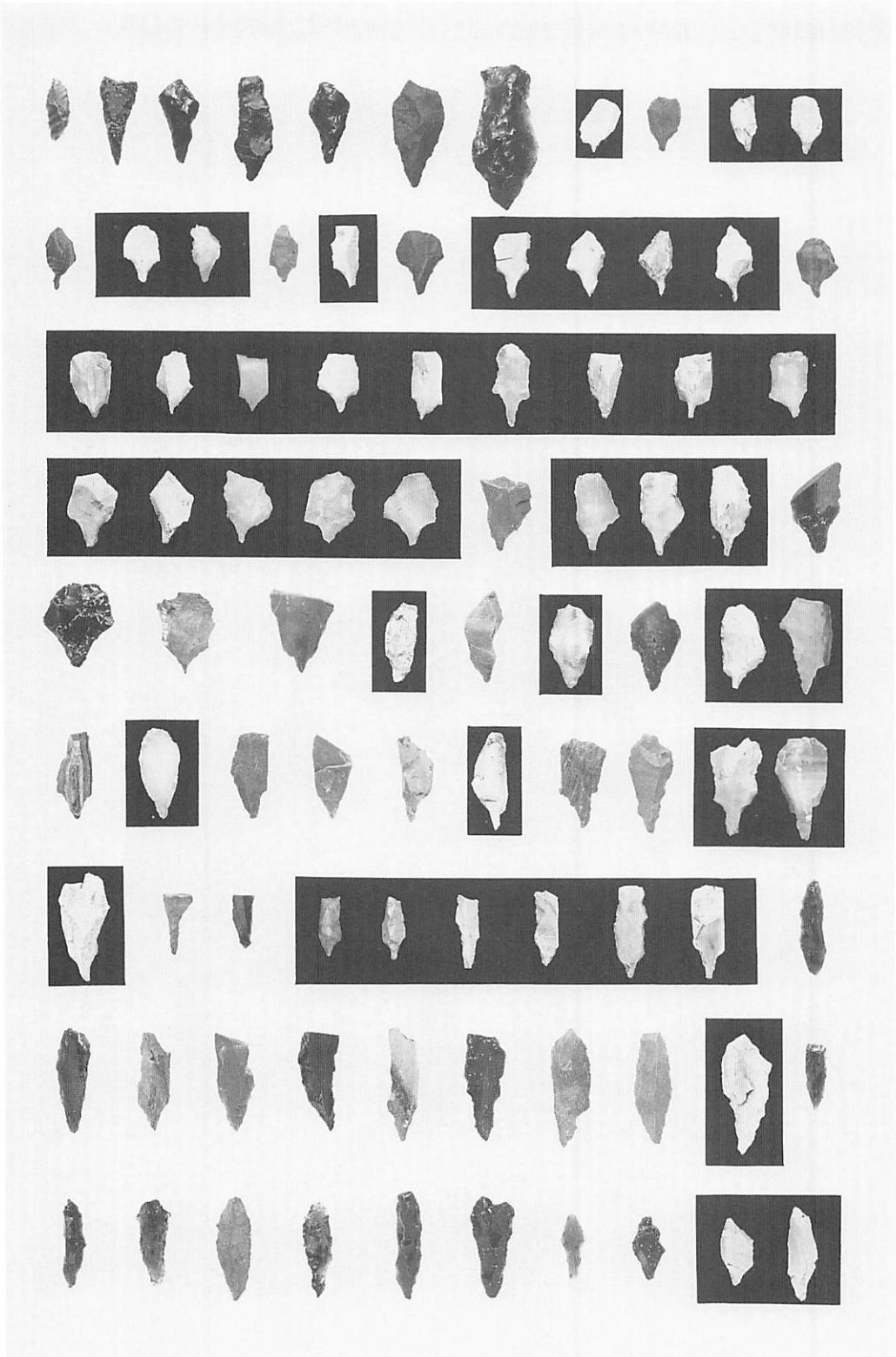
石　器 (3)



石　器 (4)

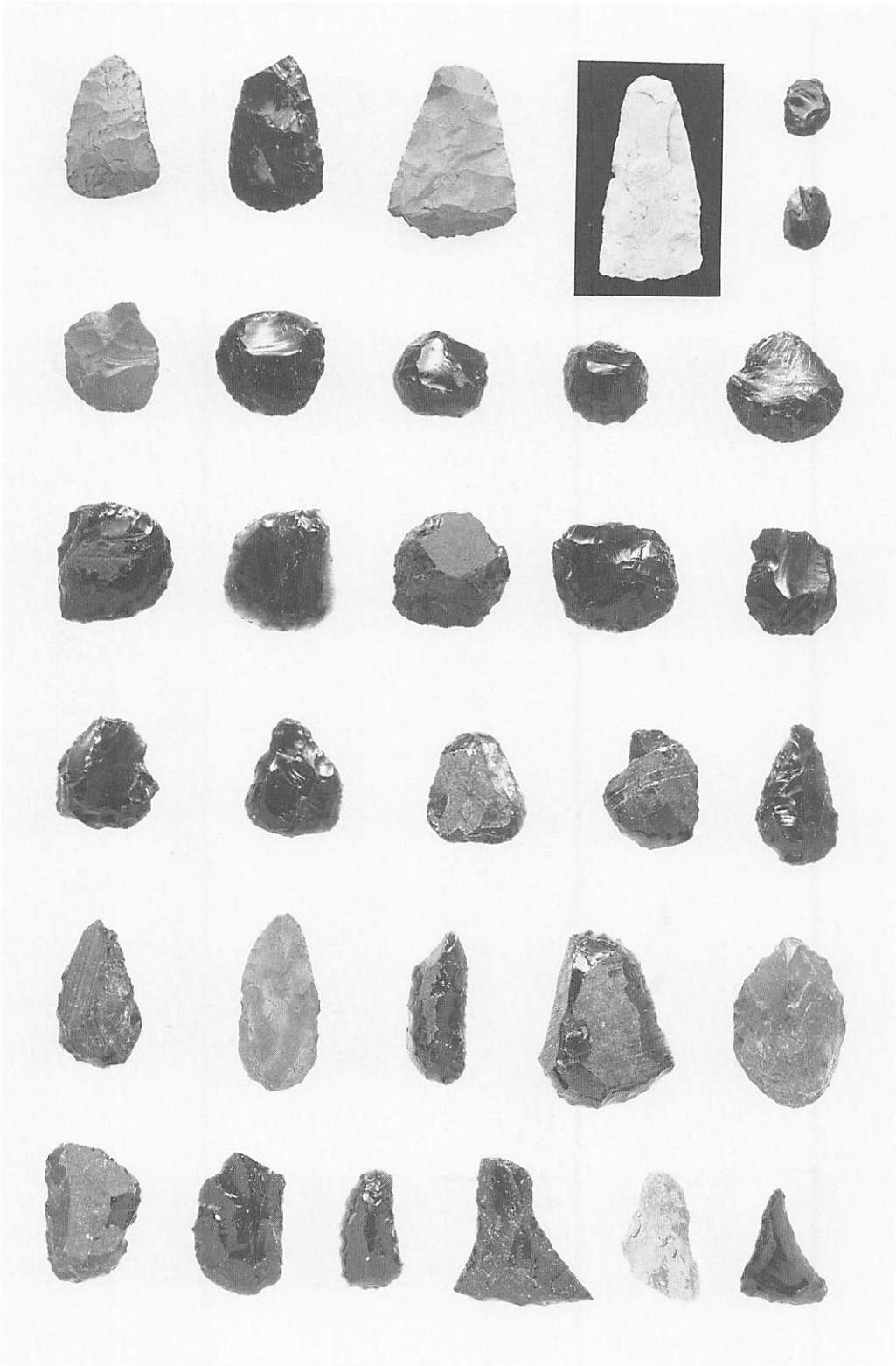


石　器 (5)

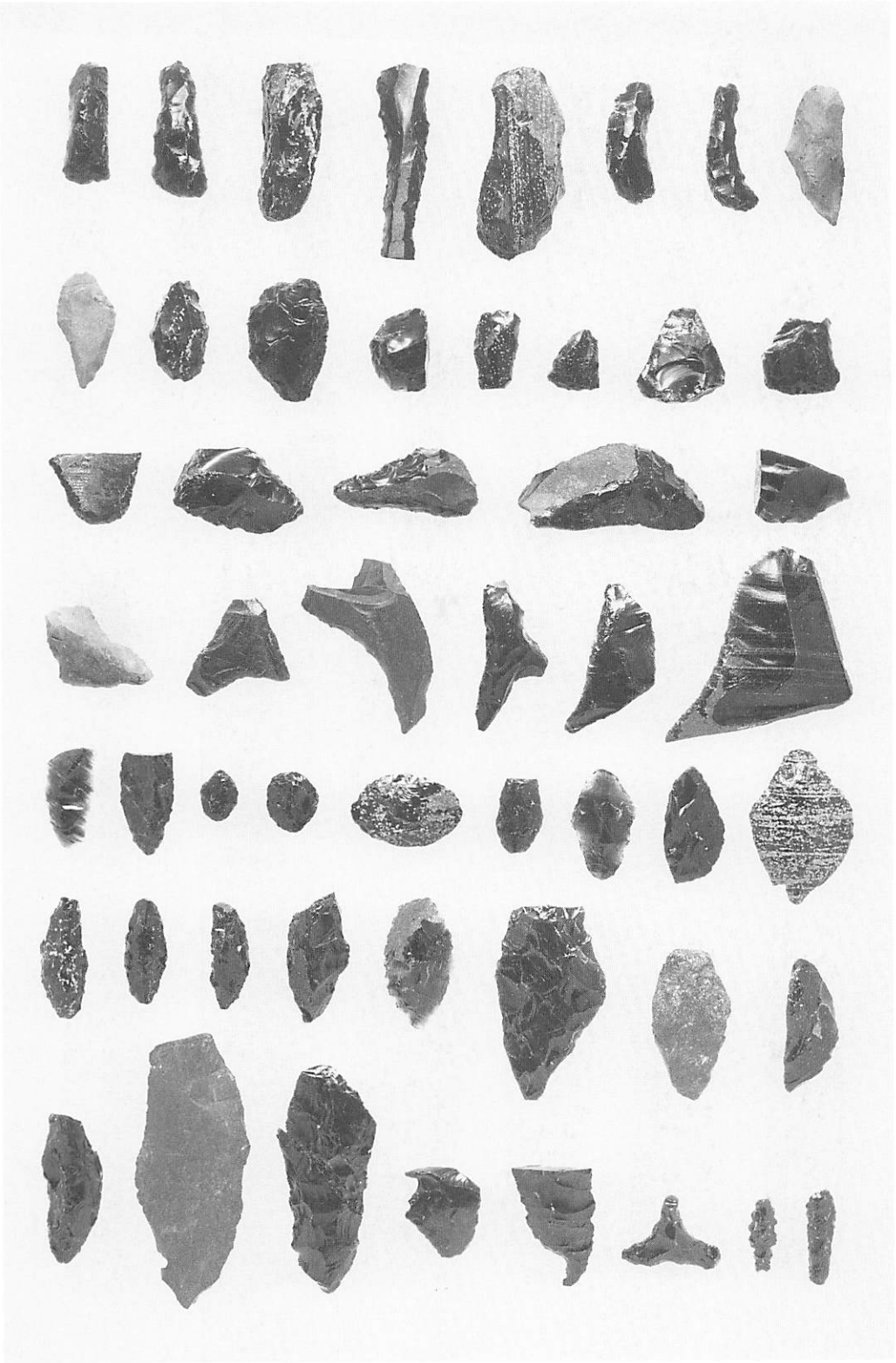


石　器（6）

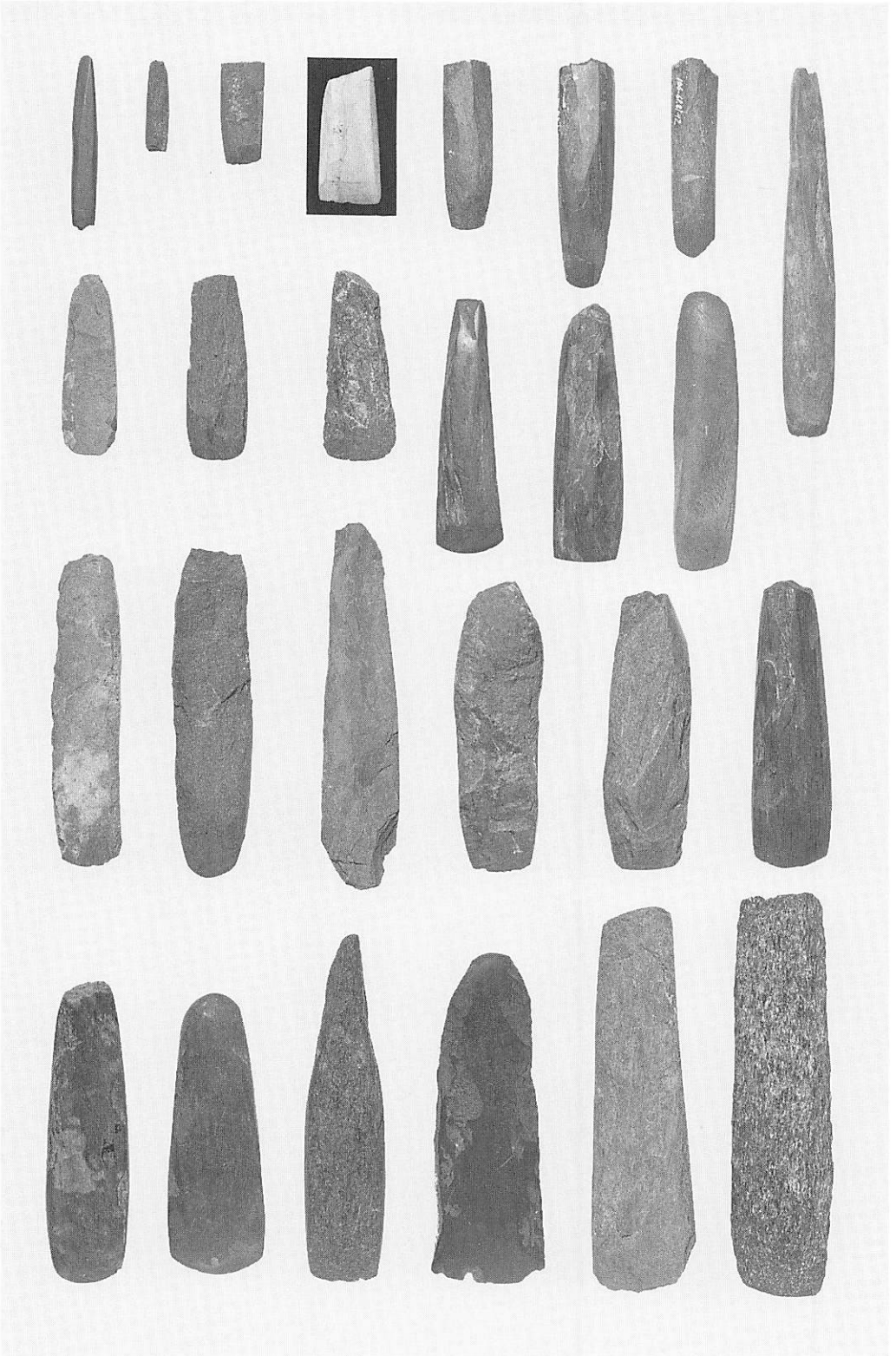
石　器 (7)



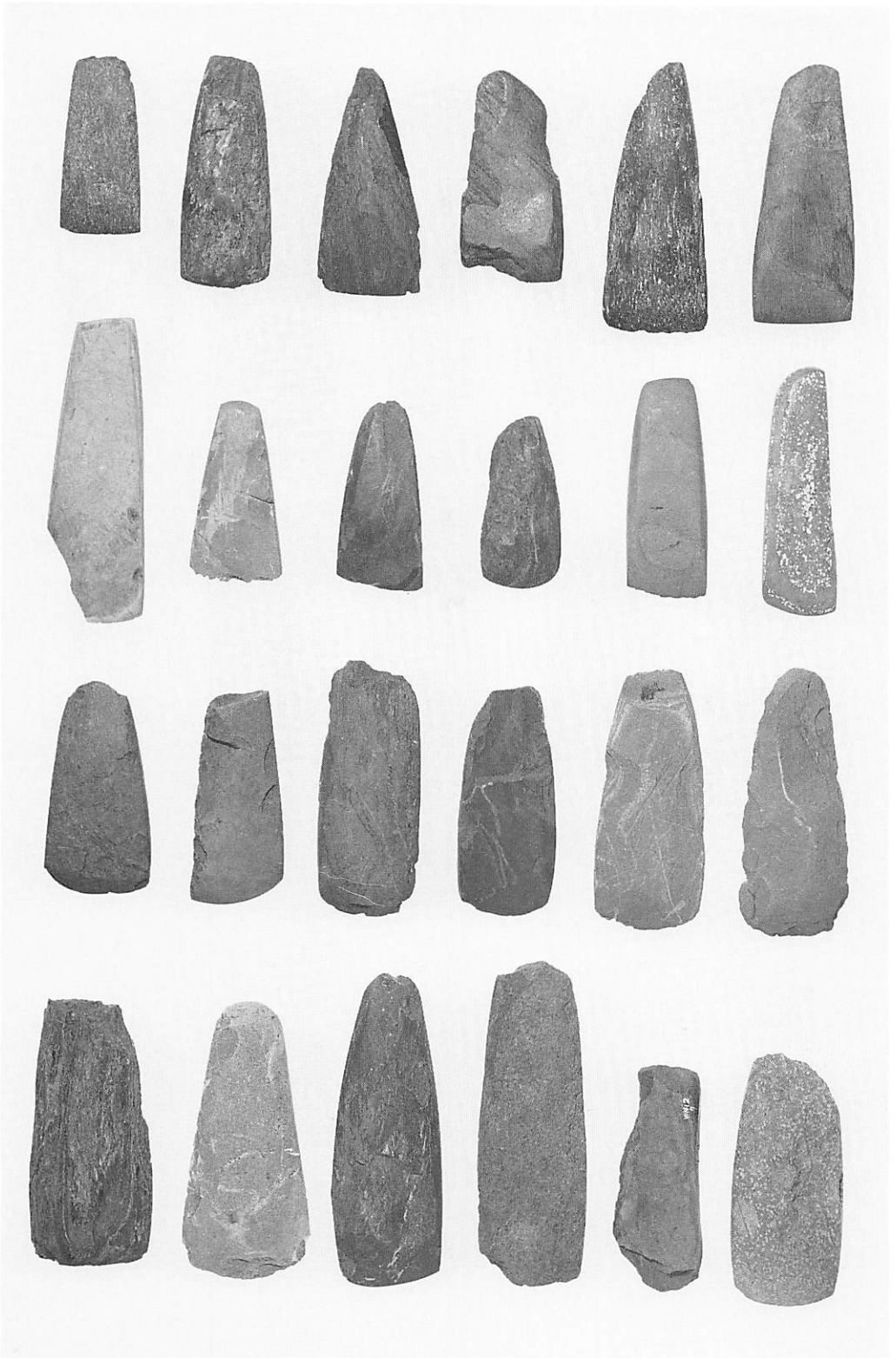
石　器 (8)



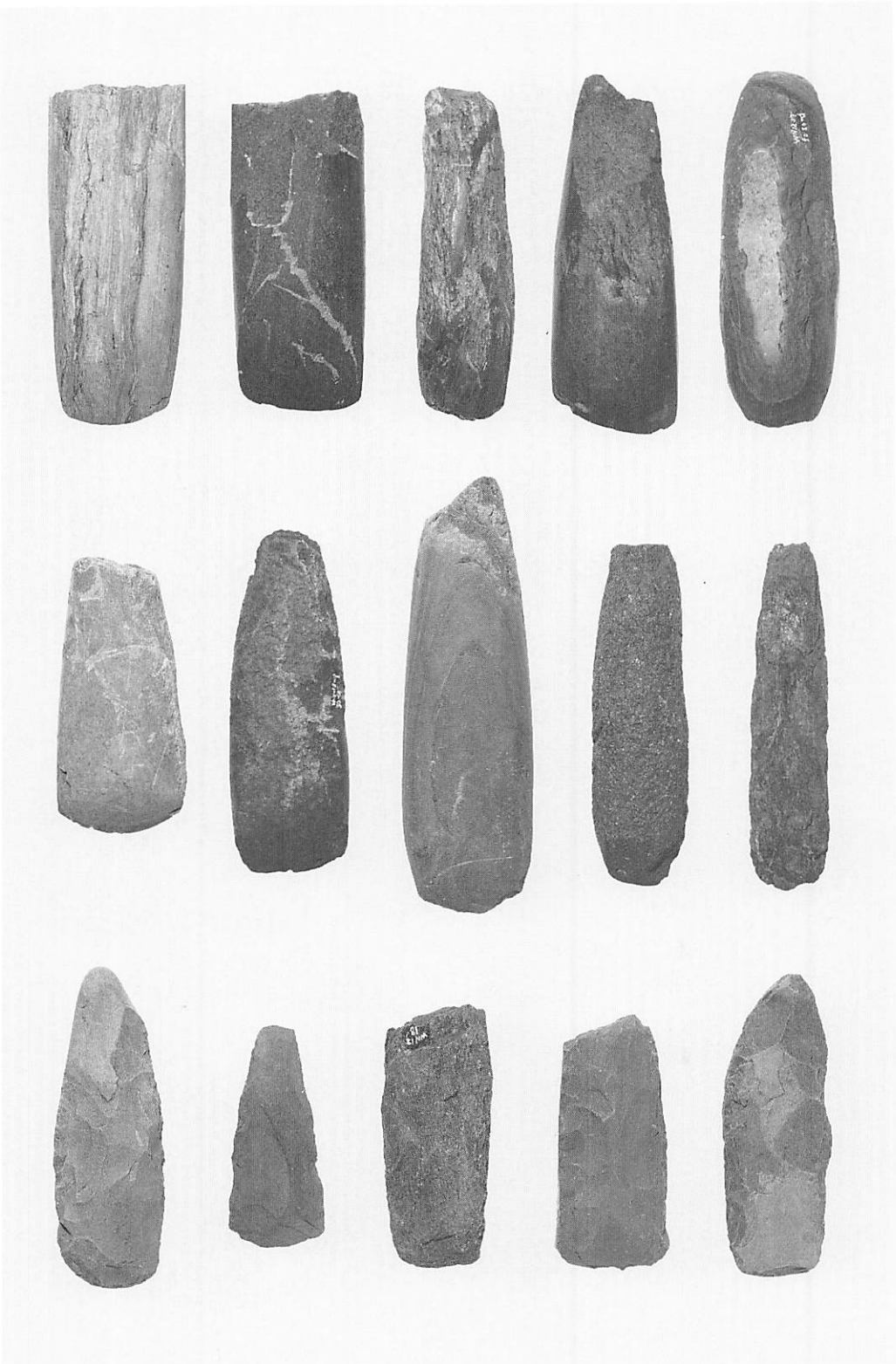
石　器 (9)



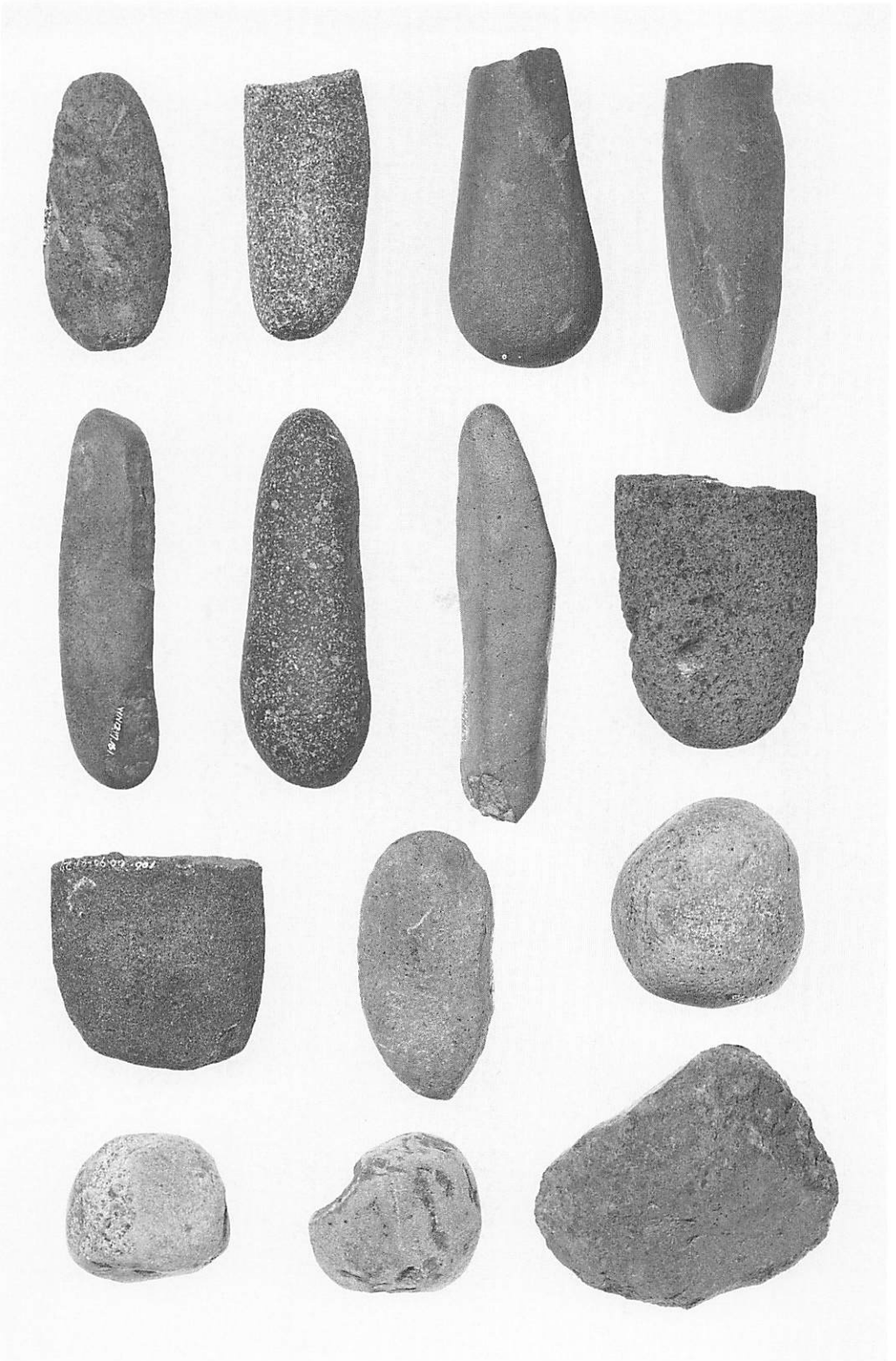
石　器 (10)



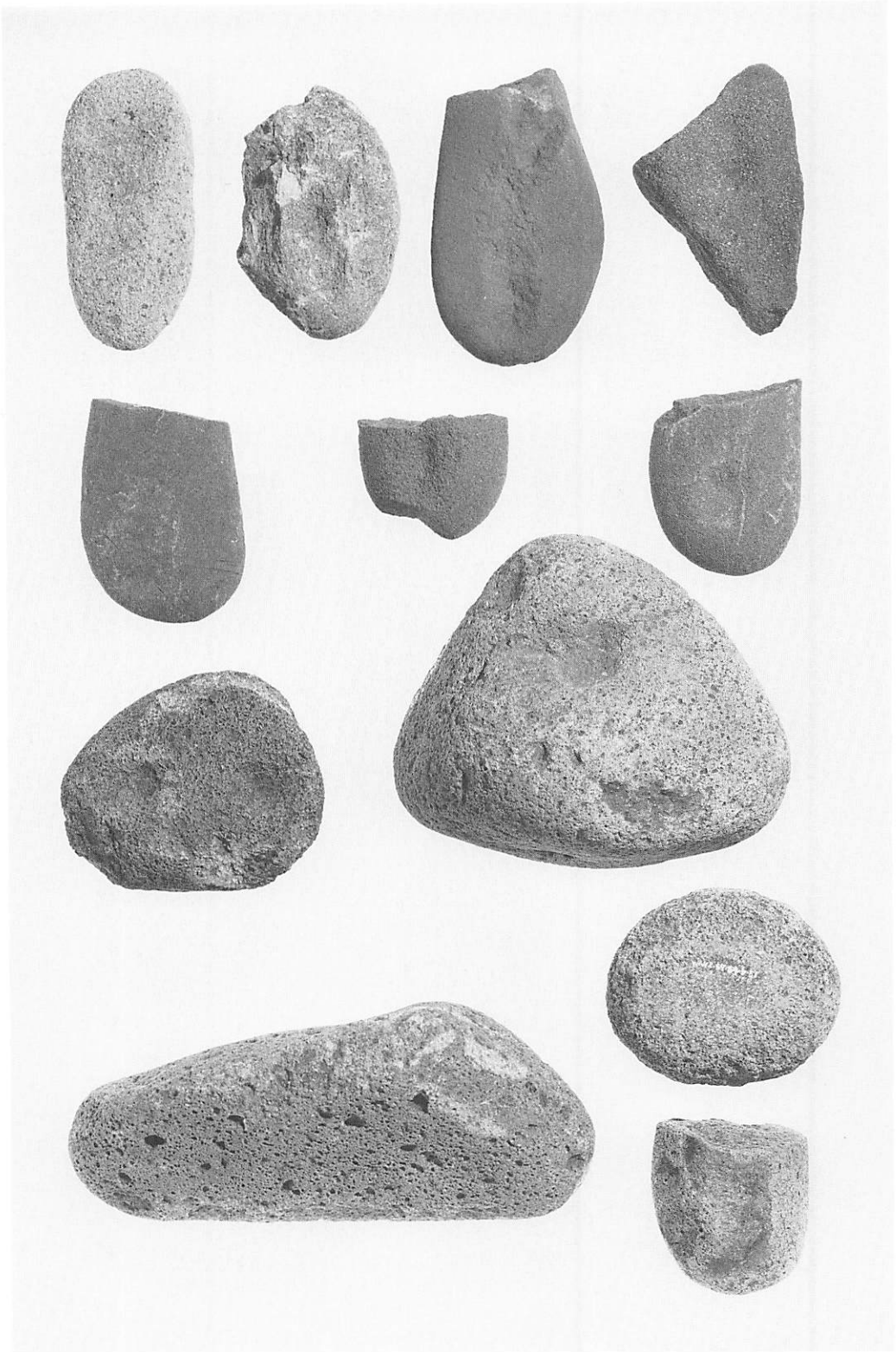
石　器 (11)



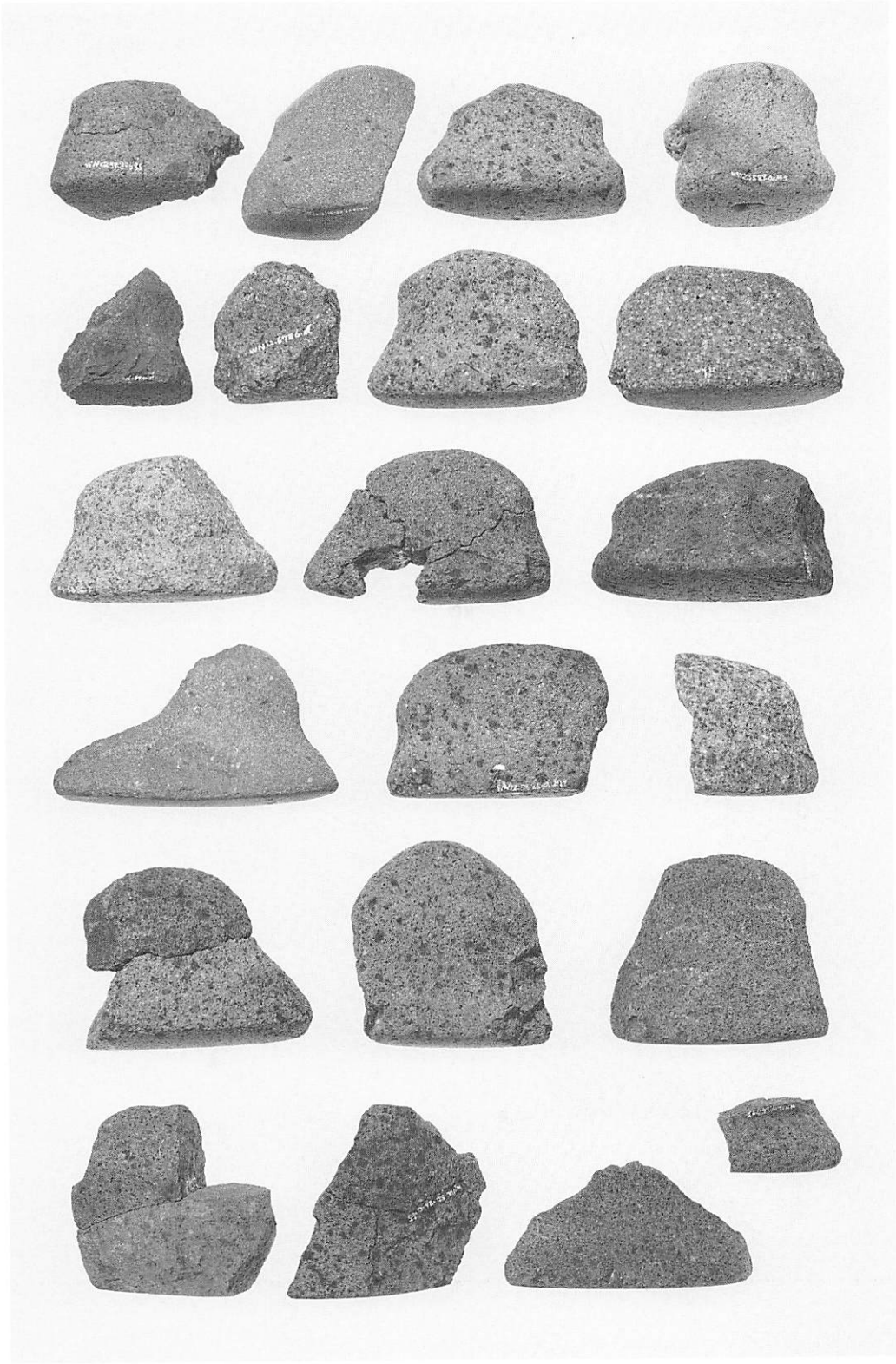
石　器 (12)



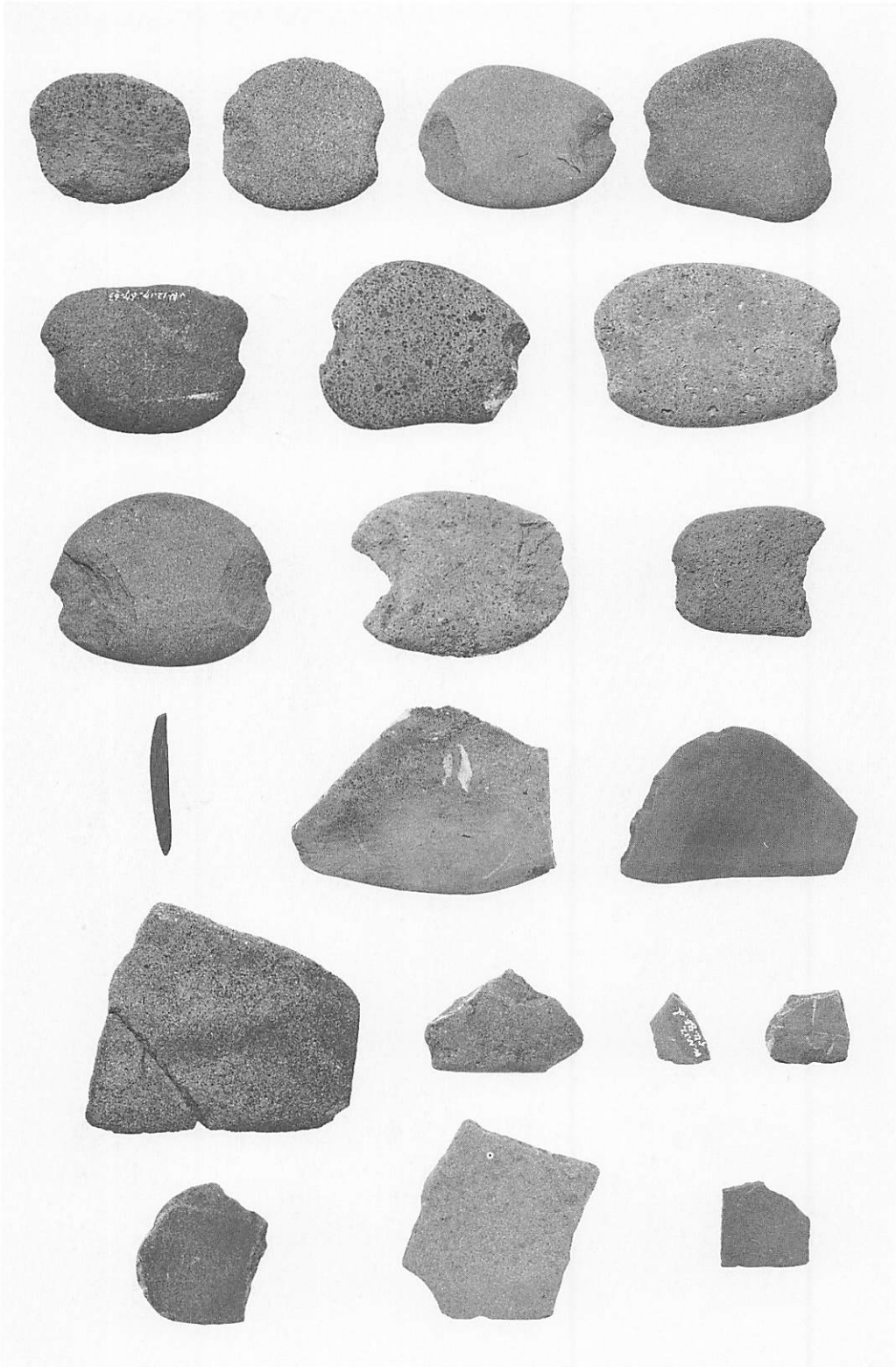
石　器 (13)



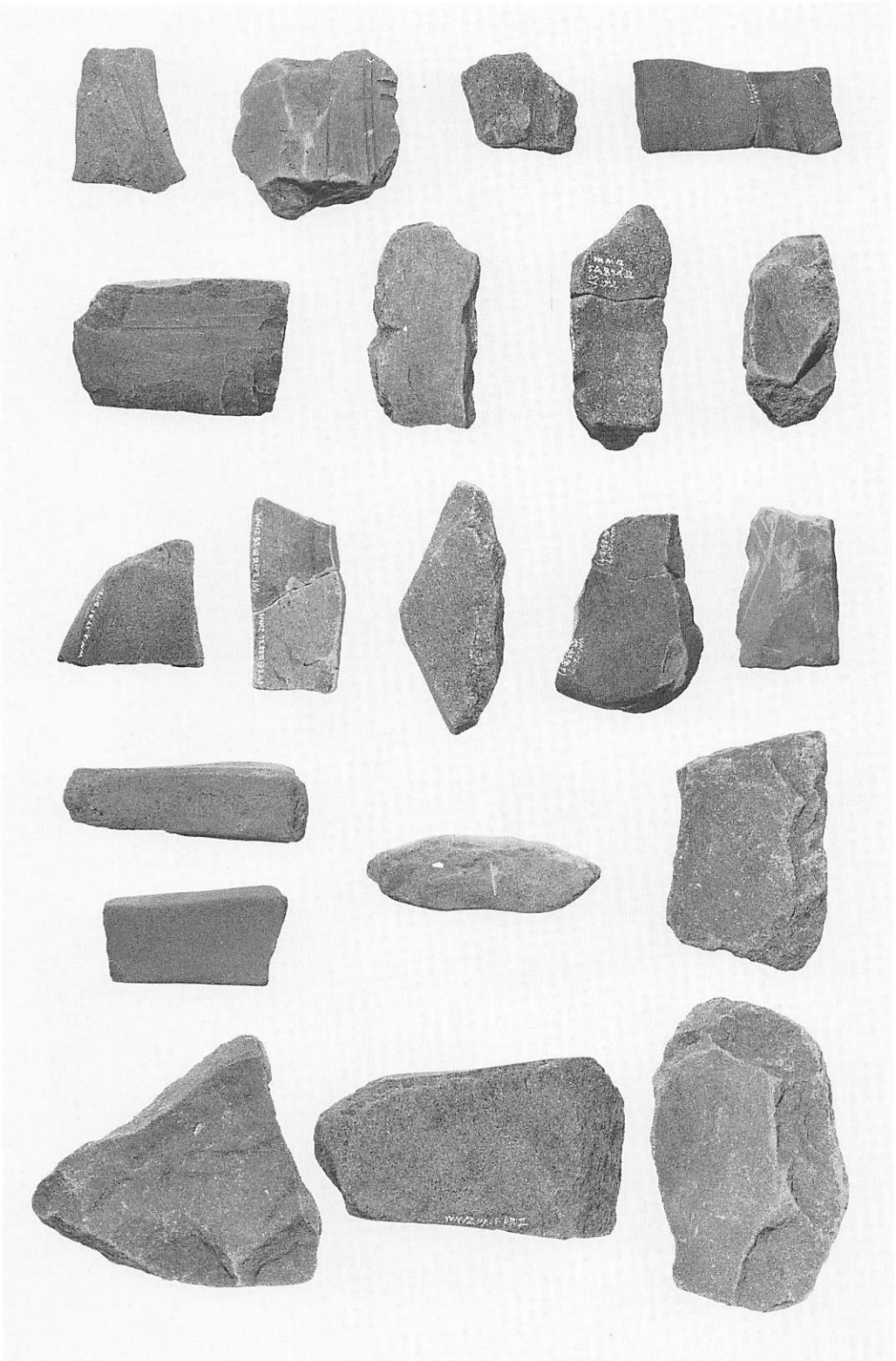
石　器 (14)



石　器 (15)

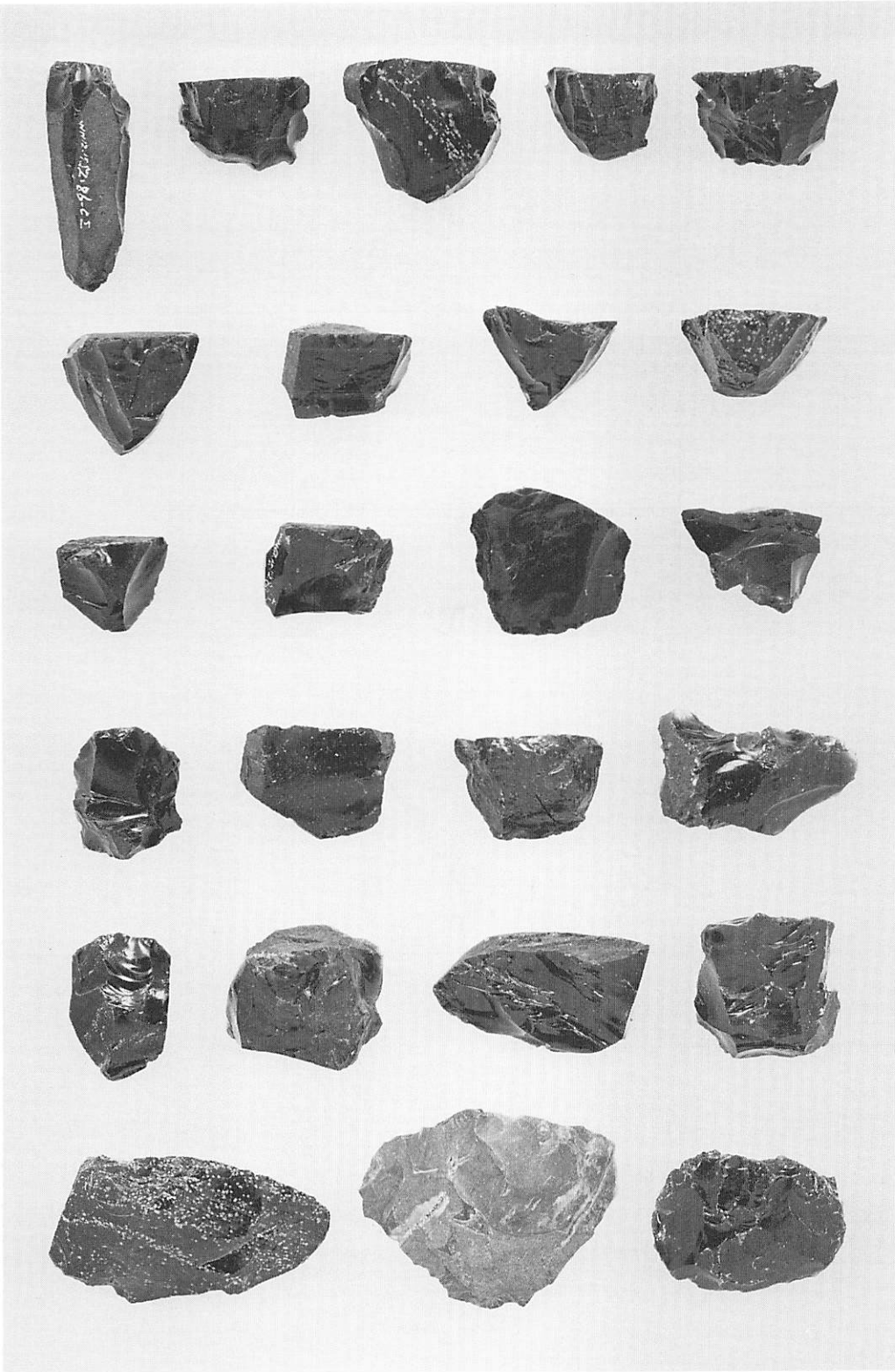


石　器 (16)

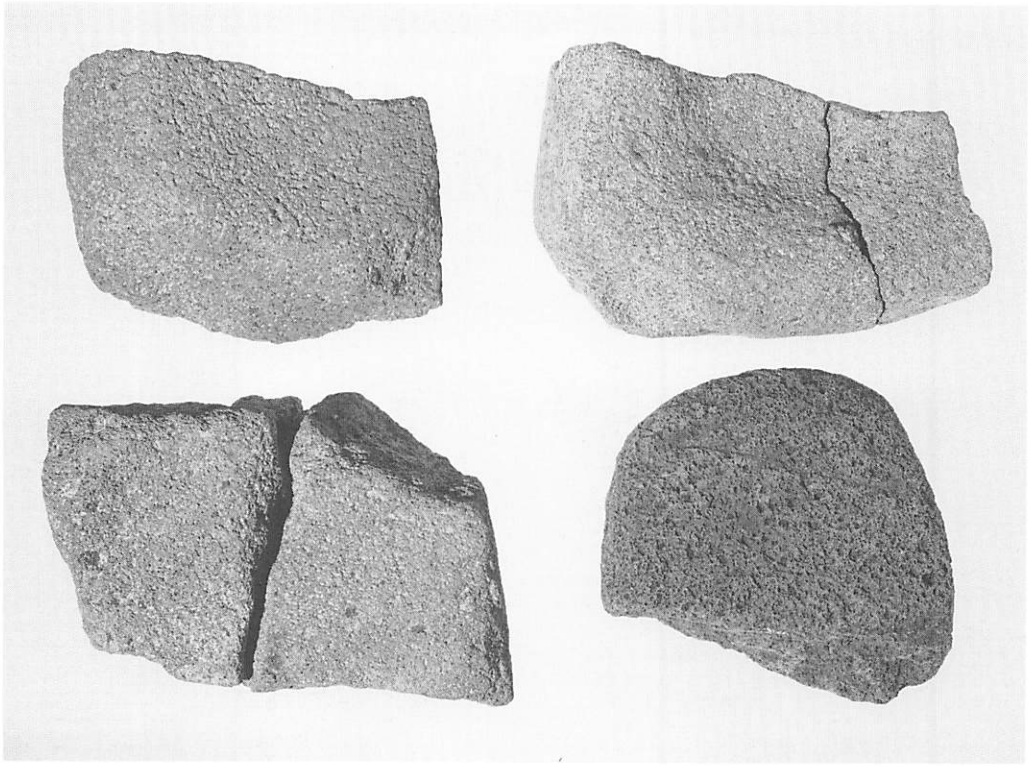


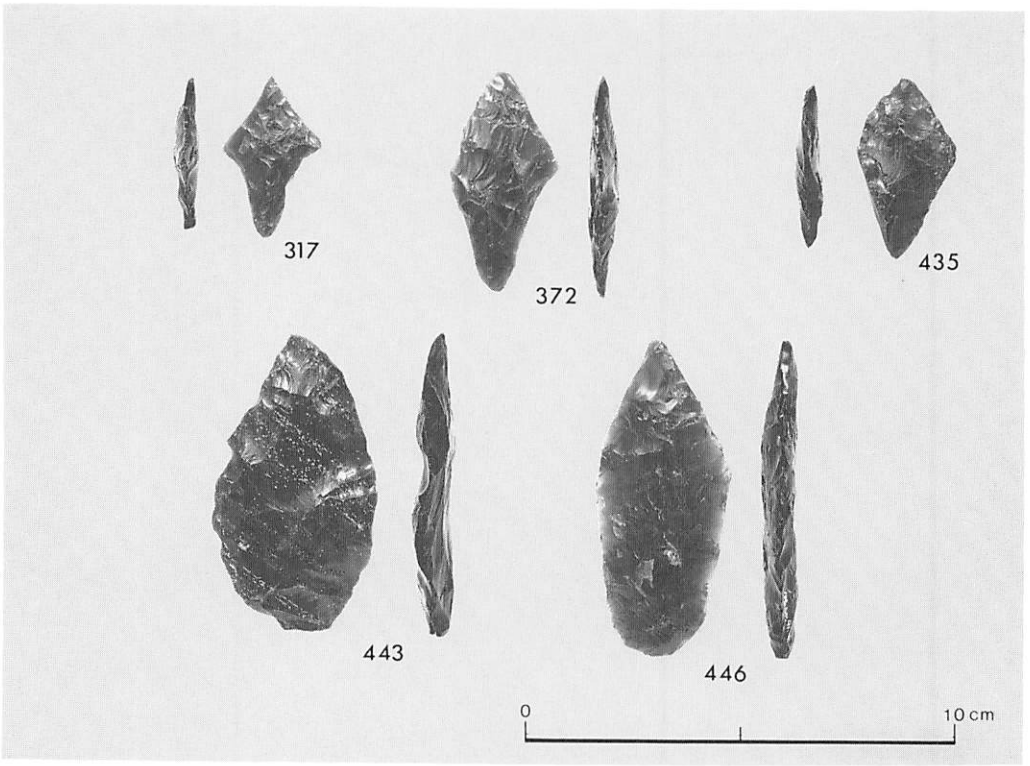
石　器 (17)

石　器 (18)



石　器 (19)





石　器 (20)

石器一覧表(1)

番号	位置	層位	器種名	重量(g)	石質
1	62-69	Ⅰ	石鏃	0.2	Obs.
2	67-66	Ⅰ	石鏃	0.2	Obs.
3	64-67	Ⅰ	石鏃	0.1	Obs.
4	65-67	Ⅰ	石鏃	0.1	Obs.
5	64-67	Ⅰ	石鏃	0.1	Obs.
6	61-81	Ⅱ	石鏃	0.2	Obs.
7	65-68	Ⅰ	石鏃	0.2	Obs.
8	67-64	Ⅰ	石鏃	0.1	Obs.
9	65-68	Ⅰ	石鏃	0.2	Obs.
10	64-68	Ⅰ	石鏃	0.2	Obs.
11	64-67	Ⅰ	石鏃	0.2	Obs.
12	65-67	Ⅰ	石鏃	0.2	Obs.
13	64-68	Ⅰ	石鏃	0.2	Obs.
14	64-68	Ⅰ	石鏃	0.2	Obs.
15	66-67	Ⅰ	石鏃	0.2	Obs.
16	64-67	Ⅰ	石鏃	0.2	Obs.
17	65-68	Ⅰ	石鏃	0.4	Obs.
18	54-86	Ⅰ	石鏃	0.5	Obs.
19	54-86	Ⅰ	石鏃	0.4	Obs.
20	60-80	Ⅰ	石鏃	0.3	Obs.
21	表採		石鏃	0.4	Obs.
22	58-79	Ⅰ	石鏃	0.1	Obs.
23	59-81	Ⅰ	石鏃	0.3	Obs.
24	58-84	Ⅰ	石鏃	0.3	Obs.
25	55-84	Ⅰ	石鏃	0.3	Obs.
26	59-69	Ⅰ	石鏃	0.4	Obs.
27	59-81	Ⅰ	石鏃	1.0	Obs.
28	56-87	Ⅰ	石鏃	(0.8)	Obs.
29	59-87	Ⅰ	石鏃	1.0	Obs.
30	58-83	Ⅰ	石鏃	0.7	Obs.
31	52-82	Ⅰ	石鏃	0.7	Obs.
32	66-62	Ⅰ	石鏃	1.0	Obs.
33	49-82	Ⅱ	石鏃	(1.0)	Obs.
34	67-73	Ⅰ	石鏃	1.2	Obs.
35	54-86	Ⅱ	石鏃	0.8	Obs.
36	66-68	Ⅰ	石鏃	1.4	Obs.
37	66-64	Ⅰ	石鏃	1.0	Obs.
38	54-79	Ⅰ	石鏃	1.2	Obs.
39	47-85	Ⅰ	石鏃	0.9	Obs.
40	55-85	Ⅰ	石鏃	1.0	Si.Sh.
41	51-81	Ⅰ	石鏃	1.2	Obs.
42	59-78	Ⅰ	石鏃	1.1	Obs.
43	51-89	Ⅰ	石鏃	0.6	Obs.
44	57-81	撹乱	石鏃	0.7	Obs.
45	59-85	Ⅱ	石鏃	1.0	Obs.
46	63-69	Ⅱ	石鏃	1.2	Sch.
47	58-90	Ⅰ	石鏃	1.3	Obs.
48	52-85	Ⅰ	石鏃	1.2	Obs.
49	65-66	Ⅰ	石鏃	1.4	Obs.
50	66-64	Ⅰ	石鏃	2.4	Obs.
51	53-85	Ⅱ	石鏃	0.1	Obs.
52	60-83	Ⅰ	石鏃	0.6	Obs.
53	58-85	Ⅰ	石鏃	0.5	Obs.
54	58-79	Ⅰ	石鏃	0.9	Obs.
55	50-86	Ⅰ	石鏃	0.5	Obs.
56	66-66	Ⅰ	石鏃	0.8	Obs.
57	59-82	Ⅰ	石鏃	0.5	Obs.
58	59-80	Ⅰ	石鏃	0.7	Obs.
59	60-88	Ⅰ	石鏃	0.8	Obs.
60	58-83	Ⅰ	石鏃	1.0	Obs.
61	54-83	Ⅰ	石鏃	0.6	Rhy.
62	56-87	Ⅰ	石鏃	0.8	Obs.
63	59-75	Ⅰ	石鏃	1.3	Obs.
64	59-79	Ⅰ	石鏃	0.8	Obs.
65	61-81	Ⅰ	石鏃	0.9	Obs.
66	52-85	ⅡB	石鏃	1.8	Obs.
67	65-67	Ⅰ	石鏃	(2.8)	Obs.
68	51-87	Ⅰ	石鏃	1.1	Obs.
69	54-87	Ⅱ	石鏃	2.0	Obs.
70	61-82	Ⅰ	石鏃	1.7	Obs.
71	50-86	Ⅰ	石鏃	3.2	Obs.
72	58-81	Ⅰ	石鏃	1.5	Obs.
73	56-87	Ⅰ	石鏃	1.6	Obs.
74	56-84	Ⅰ	石鏃	1.8	Obs.
75	59-83	Ⅰ	石鏃	2.9	Obs.
76	48-73	Ⅰ	石鏃	2.9	Obs.
77	59-90	Ⅰ	石鏃	(3.4)	Obs.
78	46-79	Ⅰ	石鏃	0.3	Obs.
79	54-85	Ⅰ	石鏃	0.4	Si.Sh.
80	60-90	Ⅱ	石鏃	0.6	Obs.
81	59-81	Ⅰ	石鏃	0.7	Obs.
82	60-84	Ⅱ	石鏃	1.0	Si.Sh.
83	60-92	Ⅰ	石鏃	0.6	Obs.
84	61-82	Ⅰ	石鏃	0.6	Obs.
85	58-82	Ⅱ	石鏃	0.8	Obs.
86	55-85	Ⅰ	石鏃	0.6	Obs.
87	58-82	Ⅰ	石鏃	(0.8)	Ha-Sh.
88	60-84	Ⅰ	石鏃	1.2	Obs.
89	56-85	Ⅰ	石鏃	0.6	Obs.
90	55-83	Ⅰ	石鏃	0.6	Obs.
91	56-85	Ⅰ	石鏃	0.8	Obs.
92	67-62	Ⅰ	石鏃	1.0	Obs.
93	55-83	Ⅰ	石鏃	0.9	Si.Sh.
94	58-82	Ⅰ	石鏃	(1)	Si.Sh.
95	58-85	Ⅰ	石鏃	0.8	Obs.
96	59-83	Ⅰ	石鏃	1.0	Obs.
97	59-83	Ⅰ	石鏃	0.8	Obs.
98	60-91	Ⅰ	石鏃	1.4	Obs.
99	59-92	Ⅱ	石鏃	1.0	Si.Sh.
100	59-82	Ⅰ	石鏃	1.4	Ha-Sh.
101	59-79	Ⅰ	石鏃	1.2	Si.Sh.
102	56-85	Ⅰ	石鏃	1.6	Obs.
103	63-77	Ⅰ	石鏃	2.2	Si.Sh.
104	59-78	Ⅰ	石鏃	(1.2)	Si.Sh.
105	60-90	Ⅰ	石鏃	1.4	Obs.
106	62-70	Ⅰ	石鏃	1.6	Obs.
107	60-81	Ⅰ	石鏃	(1.4)	Obs.
108	59-83	Ⅰ	石鏃	(1.4)	Si.Sh.
109	58-85	Ⅰ	石鏃	1.7	Obs.
110	48-82	Ⅱ	石鏃	1.8	Obs.
111	59-91	Ⅱ	石鏃	1.0	Obs.
112	60-77	Ⅰ	石鏃	1.9	Obs.
113	59-84	Ⅰ	石鏃	1.5	Obs.
114	60-90	Ⅱ	石鏃	2.2	Obs.
115	59-81	Ⅰ	石鏃	1.8	Obs.
116	56-86	Ⅱ	石鏃	1.9	Obs.
117	60-91	Ⅰ	石鏃	2.8	Obs.
118	61-79	Ⅰ	石鏃	0.4	Obs.
119	60-90	Ⅱ	石鏃	0.8	Obs.
120	56-85	Ⅰ	石鏃	0.8	Obs.
121	60-85	Ⅰ	石鏃	1.0	Obs.
122	59-84	Ⅰ	石鏃	1.2	Obs.
123	53-85	Ⅱ	石鏃	0.5	Obs.
124	59-90	Ⅱ	石鏃	1.2	Obs.
125	60-78	Ⅰ	石鏃	(1.5)	Obs.
126	56-83	Ⅰ	石鏃	(0.4)	Ha-Sh.
127	52-79	Ⅱ	石鏃	0.4	Obs.
128	58-87	Ⅰ	石鏃	0.5	Obs.
129	59-84	Ⅰ	石鏃	0.8	Obs.
130	56-86	Ⅱ	石鏃	(0.6)	Si.Sh.
131	61-82	Ⅰ	石鏃	0.7	Si.Sh.
132	57-84	Ⅰ	石鏃	0.6	Obs.
133	59-79	Ⅰ	石鏃	0.8	Si.Sh.
134	59-77	Ⅰ	石鏃	0.8	Obs.
135	56-86	Ⅱ	石鏃	1.0	Obs.
136	54-82	Ⅰ	石鏃	0.8	Obs.
137	59-86	Ⅰ	石鏃	1.2	Obs.
138	47-81	Ⅰ	石鏃	1.1	Obs.
139	56-85	Ⅰ	石鏃	1.4	Si.Sh.
140	61-76	Ⅰ	石鏃	1.4	Ha-Sh.
141	61-82	Ⅰ	石鏃	1.4	Obs.
142	57-85	撹乱	石鏃	1.8	Si.Sh.
143	58-85	Ⅱ	石鏃	1.7	Si.Sh.
144	60-90	Ⅱ	石鏃	1.2	Si.Sh.
145	56-84	Ⅰ	石鏃	1.8	Si.Sh.
146	60-82	Ⅰ	石鏃	2.9	Obs.
147	60-85	Ⅱ	石鏃	(1.7)	Obs.
148	55-85	Ⅰ	石鏃	(1.4)	Obs.
149	54-81	Ⅰ	石鏃	1.6	Obs.
150	58-90	Ⅱ	石鏃	1.7	Ha-Sh.
151	59-79	Ⅱ	石鏃	(3.0)	Obs.
152	56-85	ⅡC	石鏃	2.8	Obs.
153	59-83	Ⅰ	石鏃	3.1	Obs.
154	58-84	Ⅱ	石鏃	0.5	Obs.
155	65-67	Ⅰ	石鏃	(1.2)	Obs.
156	56-86	Ⅰ	石鏃	0.7	Obs.
157	58-86	Ⅰ	石鏃	1.0	Obs.
158	55-86	Ⅰ	石鏃	1.2	Obs.
159	61-81	Ⅰ	石鏃	1.7	Obs.
160	56-87	Ⅰ	石鏃	1.6	Obs.
161	58-81	Ⅰ	石鏃	1.5	Si.Sh.
162	50-86	Ⅱ	石鏃	1.1	Obs.
163	57-85	Ⅱ	石鏃	1.1	Obs.
164	59-86	Ⅰ	石鏃	1.8	Obs.
165	59-90	Ⅱ	石鏃	0.4	Obs.
166	表採		石鏃	0.4	Obs.
167	50-82	Ⅰ	石鏃	0.4	Obs.
168	59-91	Ⅰ	石鏃	0.2	Obs.
169	52-87	Ⅰ	石鏃	0.6	Obs.
170	60-91	Ⅰ	石鏃	0.3	Obs.
171	63-70	Ⅰ	石鏃	0.6	Obs.

石器一覧表(2)

番号	位置	層位	器種名	重量(g)	石質
172	61-81	Ⅰ	石鏃	0.4	Obs.
173	59-90	Ⅰ	石鏃	0.4	Obs.
174	59-90	Ⅰ	石鏃	0.6	Obs.
175	59-90	Ⅱ	石鏃	0.6	Obs.
176	58-80	Ⅰ	石鏃	0.5	Obs.
177	59-85	Ⅰ	石鏃	0.7	Obs.
178	62-70	Ⅰ	石鏃	1.0	Obs.
179	65-62	Ⅰ	石鏃	(0.9)	Obs.
180	59-90	Ⅰ	石鏃	0.8	Obs.
181	67-70	Ⅰ	石鏃	1.0	Obs.
182	53-86	Ⅰ	石鏃	0.9	Obs.
183	61-81	Ⅰ	石鏃	1.0	Obs.
184	55-86	Ⅱ	石鏃	1.4	Obs.
185	60-81	Ⅰ	石鏃	1.0	Obs.
186	61-93	Ⅰ	石鏃	(1.6)	Obs.
187	52-87	Ⅰ	石鏃	1.0	Obs.
188	52-86	Ⅰ	石鏃	0.9	Obs.
189	60-85	Ⅰ	石鏃	0.3	Obs.
190	59-82	Ⅰ	石鏃	0.4	Obs.
191	60-79	Ⅰ	石鏃	0.4	Obs.
192	表採		石鏃	0.4	Obs.
193	59-81	Ⅰ	石鏃	0.6	Ha-Sh.
194	60-79	Ⅰ	石鏃	0.4	Obs.
195	54-79	Ⅰ	石鏃	0.5	Obs.
196	60-78	Ⅰ	石鏃	0.5	Obs.
197	58-83	Ⅰ	石鏃	0.6	Obs.
198	60-80	Ⅰ	石鏃	0.4	Obs.
199	59-80	Ⅰ	石鏃	0.8	Obs.
200	53-87	Ⅰ	石鏃	0.5	Obs.
201	57-84	Ⅰ	石鏃	0.6	Obs.
202	55-87	Ⅱ	石鏃	0.8	Obs.
203	60-93	Ⅰ	石鏃	(0.5)	Obs.
204	55-86	Ⅰ	石鏃	1.0	Obs.
205	54-87	Ⅰ	石鏃	0.8	Obs.
206	52-86	Ⅰ	石鏃	1.1	Obs.
207	52-87	ⅡA	石鏃	1.5	Obs.
208	55-86	Ⅱ	石鏃	1.4	Obs.
209	54-86	撹乱	石鏃	1.3	Obs.
210	58-88	Ⅰ	石鏃	3.2	Obs.
211	55-85	Ⅰ	石鏃	2.7	Obs.
212	53-86	Ⅰ	石鏃	2.7	Obs.
213	55-82	Ⅰ	石鏃	0.7	Obs.
214	58-84	Ⅰ	石鏃	0.8	Obs.
215	67-69	Ⅰ	石鏃	1.1	Obs.
216	59-89	Ⅱ	石鏃	1.3	Obs.
217	58-85	Ⅰ	石鏃	1.0	Obs.
218	60-90	Ⅰ	石鏃	1.4	Obs.
219	59-91	Ⅰ	石鏃	2.1	Obs.
220	58-85	Ⅰ	石鏃	1.4	Obs.
221	53-87	Ⅰ	石鏃	1.3	Obs.
222	53-87	Ⅰ	石鏃	2.0	Obs.
223	60-92	Ⅰ	石鏃	0.8	Obs.
224	53-87	Ⅱ	石鏃	1.0	Obs.
225	55-86	ⅡA	石鏃	1.3	Obs.
226	59-90	Ⅱ	石鏃	1.4	Obs.
227	59-91	Ⅱ	石鏃	1.2	Obs.
228	60-93	Ⅰ	石鏃	1.2	Obs.
229	59-90	Ⅰ	石鏃	(1.3)	Obs.
230	48-79	Ⅰ	石鏃	1.1	Obs.
231	49-82	Ⅱ	石鏃	1.2	Obs.
232	50-88	Ⅰ	石鏃	1.4	Obs.
233	60-74	Ⅰ	石鏃	2.2	Obs.
234	59-79	Ⅰ	石鏃	0.4	Obs.
235	57-85	Ⅱ	石鏃	0.6	Obs.
236	59-83	Ⅰ	石鏃	0.5	Obs.
237	55-87	Ⅱ	石鏃	0.9	Obs.
238	66-64	Ⅰ	石鏃	1.4	Obs.
239	61-80	Ⅰ	石鏃	0.8	Obs.
240	59-82	Ⅰ	石鏃	0.8	Obs.
241	60-78	Ⅰ	石鏃	1.0	Obs.
242	58-85	Ⅰ	石鏃	1.2	Obs.
243	60-83	Ⅰ	石鏃	1.9	Obs.
244	53-88	Ⅰ	石鏃	1.7	Ha-Sh.
245	50-80	Ⅰ	石鏃	(1.8)	Obs.
246	52-86	Ⅰ	石鏃	1.2	Obs.
247	59-91	Ⅱ	石鏃	0.8	Si.Sh.
248	54-86	ⅡC	石鏃	0.6	Obs.
249	58-85	Ⅰ	石鏃	0.9	Obs.
250	54-86	撹乱	石鏃	0.6	Obs.
251	55-86	Ⅰ	石鏃	1.3	Obs.
252	56-86	Ⅱ	石鏃	2.3	Obs.
253	55-86	Ⅱ	石鏃	1.0	Obs.
254	49-88	Ⅰ	石鏃	1.5	Obs.
255	59-77	Ⅰ	石鏃	0.3	Obs.
256	60-74	Ⅰ	石鏃	0.2	Obs.
257	60-79	Ⅰ	石鏃	0.4	Obs.
258	59-85	Ⅱ	石鏃	0.3	Obs.
259	59-80	Ⅰ	石鏃	0.3	Obs.
260	59-77	Ⅰ	石鏃	0.5	Obs.
261	59-83	Ⅰ	石鏃	0.5	Obs.
262	64-68	Ⅰ	石鏃	(0.6)	Obs.
263	59-81	Ⅰ	石鏃	0.5	Obs.
264	58-82	Ⅰ	石鏃	(0.6)	Obs.
265	46-85	Ⅰ	石鏃	0.9	Obs.
266	60-75	Ⅰ	石鏃	1.0	Obs.
267	59-78	Ⅰ	石鏃	0.7	Obs.
268	58-82	Ⅰ	石鏃	0.6	Obs.
269	54-82	Ⅰ	石鏃	0.8	Obs.
270	57-79	Ⅰ	石鏃	0.7	Obs.
271	49-86	Ⅱ	石鏃	(0.8)	Obs.
272	59-86	Ⅰ	石鏃	1.6	Obs.
273	54-84	撹乱	石鏃	2.0	Si.Sh.
274	52-86	Ⅰ	石鏃	0.8	Obs.
275	59-91	Ⅰ	石鏃	0.6	Obs.
276	51-82	Ⅱ	石鏃	1.4	Obs.
277	53-87	Ⅱ	石鏃	1.4	Obs.
278	49-80	Ⅰ	石鏃	2.9	Obs.
279	67-66	Ⅲ	石鏃	2.4	Obs.
280	48-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	4.2	Obs.
281	60-83	Ⅱ	ポイント・ナイフ	2.8	Obs.
282	53-87	Ⅰ	ポイント・ナイフ	4.1	Obs.
283	56-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	(5.8)	Obs.
284	56-86	ⅡC	ポイント・ナイフ	5.0	Obs.
285	55-87	Ⅱ	ポイント・ナイフ	5.4	Ha-Sh.
286	55-87	ⅡC	ポイント・ナイフ	4.0	Obs.
287	46-86	Ⅱ	ポイント・ナイフ	5.0	Obs.
288	58-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	4.7	Obs.
289	57-85	Ⅱ	ポイント・ナイフ	6.5	Obs.
290	56-81	Ⅰ	ポイント・ナイフ	6.6	Obs.
291	50-81	Ⅱ	ポイント・ナイフ	8.3	Obs.
292	58-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	7.7	Obs.
293	58-84	Ⅱ	ポイント・ナイフ	6.5	Obs.
294	59-90	Ⅱ	ポイント・ナイフ	8.3	Obs.
295	61-93	Ⅰ	ポイント・ナイフ	9.2	Obs.
296	59-80	Ⅰ	ポイント・ナイフ	11.3	Obs.
297	56-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	12.5	Obs.
298	58-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	9.7	Obs.
299	58-82	Ⅱ	ポイント・ナイフ	9.7	Obs.
300	59-84	Ⅰ	ポイント・ナイフ	16.8	Che.
301	59-83	Ⅰ	ポイント・ナイフ	13.6	Obs.
302	57-84	Ⅱ	ポイント・ナイフ	(13.0)	Obs.
303	59-90	Ⅱ	ポイント・ナイフ	(3.9)	Obs.
304	55-91	Ⅱ	ポイント・ナイフ	4.9	Obs.
305	63-67	Ⅰ	ポイント・ナイフ	5.6	Obs.
306	53-87	ⅡC	ポイント・ナイフ	4.8	Obs.
307	59-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	10.8	Obs.
308	56-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	8.0	Obs.
309	56-91	Ⅱ	ポイント・ナイフ	(5.7)	Obs.
310	53-87	Ⅰ	ポイント・ナイフ	(7.8)	Obs.
311	58-83	Ⅰ	ポイント・ナイフ	(9.0)	Obs.
312	60-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	(7.2)	Obs.
313	55-86	Ⅱ	ポイント・ナイフ	6.8	Obs.
314	60-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	(5.6)	Obs.
315	48-76	Ⅰ	ポイント・ナイフ	4.2	Obs.
316	56-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	5.7	Si.Sh.
317	55-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	3.5	Obs.
318	54-87	Ⅰ	ポイント・ナイフ	4.5	Obs.
319	60-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	(2.7)	Obs.
320	52-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	4.1	Obs.
321	59-90	Ⅰ	ポイント・ナイフ	4.6	Obs.
322	59-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	4.5	Obs.
323	54-87	Ⅰ	ポイント・ナイフ	4.0	Obs.
324	57-84	Ⅰ	ポイント・ナイフ	4.5	Obs.
325	59-83	Ⅰ	ポイント・ナイフ	4.4	Obs.
326	54-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	3.8	Obs.
327	55-87	Ⅱ	ポイント・ナイフ	5.2	Obs.
328	54-87	Ⅱ	ポイント・ナイフ	4.0	Obs.
329	55-86	Ⅱ	ポイント・ナイフ	3.9	Obs.
330	59-89	Ⅱ	ポイント・ナイフ	3.8	Obs.
331	59-81	Ⅰ	ポイント・ナイフ	(5.1)	Obs.
332	58-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	4.2	Obs.
333	51-87	Ⅰ	ポイント・ナイフ	4.4	Obs.
334	60-83	Ⅰ	ポイント・ナイフ	4.7	Obs.
335	54-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	4.0	Obs.
336	49-77	Ⅰ	ポイント・ナイフ	1.4	Obs.
337	56-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	6.0	Obs.
338	54-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	5.2	Obs.
339	51-87	Ⅰ	ポイント・ナイフ	5.3	Obs.
340	60-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	4.5	Obs.
341	56-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	6.0	Obs.
342	57-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	5.0	Obs.

石器一覧表(3)

番号	位置	層位	器種名	重量(g)	石質
343	50-88	Ⅰ	ポイント・ナイフ	7.6	Obs.
344	53-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	7.7	Obs.
345	52-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	(4.6)	Obs.
346	58-89	Ⅰ	ポイント・ナイフ	5.1	Obs.
347	59-90		ポイント・ナイフ	5.4	Obs.
348	54-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	7.0	Obs.
349	53-87	Ⅱ	ポイント・ナイフ	8.3	Obs.
350	51-87	Ⅱ	ポイント・ナイフ	9.0	Obs.
351	60-90	Ⅰ	ポイント・ナイフ	5.5	Obs.
352	60-84	Ⅰ	ポイント・ナイフ	6.2	Obs.
353	66-63	Ⅰ	ポイント・ナイフ	7.2	Obs.
354	57-85	撹乱	ポイント・ナイフ	6.3	Obs.
355	58-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	7.4	Obs.
356	56-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	(6.3)	Obs.
357	51-88	Ⅰ	ポイント・ナイフ	5.0	Obs.
358	60-88	Ⅰ	ポイント・ナイフ	5.3	Obs.
359	59-82	Ⅰ	ポイント・ナイフ	10.3	Obs.
360	51-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	5.9	Obs.
361	50-88	Ⅱ	ポイント・ナイフ	8.2	Obs.
362	52-88	Ⅰ	ポイント・ナイフ	6.9	Obs.
363	59-80	Ⅰ	ポイント・ナイフ	11.2	Obs.
364	59-87	Ⅰ	ポイント・ナイフ	6.8	Obs.
365	59-90	Ⅰ	ポイント・ナイフ	9.2	Obs.
366	51-87	Ⅱ	ポイント・ナイフ	13.8	Obs.
367	60-79	Ⅰ	ポイント・ナイフ	8.2	Obs.
368	58-84	Ⅱ	ポイント・ナイフ	8.0	Obs.
369	59-89	Ⅱ	ポイント・ナイフ	7.2	Obs.
370	51-88	Ⅰ	ポイント・ナイフ	6.3	Obs.
371	56-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	(8.6)	Ha-Sh.
372	56-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	7.5	Obs.
373	59-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	7.0	Obs.
374	59-90	Ⅰ	ポイント・ナイフ	9.2	Obs.
375	58-84	Ⅱ	ポイント・ナイフ	(14.3)	Obs.
376	59-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	6.5	Obs.
377	55-91	Ⅱ	ポイント・ナイフ	7.2	Obs.
378	56-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	(8.0)	Obs.
379	46-86	Ⅱ	ポイント・ナイフ	(9.8)	Obs.
380	55-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	11 3	Obs.
381	60-84	Ⅰ	ポイント・ナイフ	12.2	Ha-Sh.
382	58-84	Ⅱ	ポイント・ナイフ	23.7	Obs.
383	51-84	Ⅰ	ポイント・ナイフ	2.6	Obs.
384	57-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	3.6	Obs.
385	55-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	3.6	Obs.
386	56-86	Ⅱ	ポイント・ナイフ	4.0	Obs.
387	59-83	Ⅰ	ポイント・ナイフ	4.8	Obs.
388	60-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	3.3	Obs.
389	56-91	Ⅰ	ポイント・ナイフ	5.5	Obs.
390	59-91	Ⅱ	ポイント・ナイフ	4.7	Obs.
391	50-87	Ⅰ	ポイント・ナイフ	7.7	Obs.
392	56-91	Ⅰ	ポイント・ナイフ	9.8	Obs.
393	50-85	Ⅱ	ポイント・ナイフ	(13.2)	Phy.
394	53-89	撹乱	ポイント・ナイフ	14.7	Obs.
395	60-90	Ⅰ	ポイント・ナイフ	(12.0)	Obs.
396	56-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	15.3	Obs.
397	51-88	ⅡA	ポイント・ナイフ	(4.0)	Obs.
398	58-85	Ⅱ	ポイント・ナイフ	4.1	Obs.
399	57-83	Ⅰ	ポイント・ナイフ	(2.2)	Obs.
400	58-81	Ⅰ	ポイント・ナイフ	3.0	Aga.
401	55-86	ⅡA	ポイント・ナイフ	(4.8)	Obs.
402	49-88	Ⅰ	ポイント・ナイフ	4.2	Obs.
403	57-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	4.0	Obs.
404	57-91	Ⅱ	ポイント・ナイフ	5.0	Obs.
405	60-83	Ⅰ	ポイント・ナイフ	2.2	Obs.
406	57-85	Ⅱ	ポイント・ナイフ	3.8	Obs.
407	55-84	Ⅰ	ポイント・ナイフ	5.0	Ha-Sh.
408	56-82	Ⅰ	ポイント・ナイフ	3.9	Obs.
409	46-79	Ⅰ	ポイント・ナイフ	5.6	Obs.
410	56-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	5.0	Obs.
411	表採		ポイント・ナイフ	7.3	Obs.
412	56-83	Ⅰ	ポイント・ナイフ	10.5	Obs.
413	56-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	8.2	Obs.
414	56-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	47.4	Obs.
415	55-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	(22.0)	Ha-Sh.
416	50-88	Ⅰ	ポイント・ナイフ	20.7	Ha-Sh.
417	58-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	(12.5)	Ha-Sh.
418	60-76	Ⅰ	ポイント・ナイフ	(30.3)	Obs.
419	60-79	Ⅰ	ポイント・ナイフ	2.8	Obs.
420	60-77	Ⅰ	ポイント・ナイフ	3.8	Obs.
421	59-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	6.1	Obs.
422	53-87	Ⅰ	ポイント・ナイフ	5.6	Obs.
423	61-92	Ⅰ	ポイント・ナイフ	6.6	Obs.
424	62-93	Ⅰ	ポイント・ナイフ	4.9	Obs.
425	65-61	Ⅰ	ポイント・ナイフ	5.8	Obs.
426	56-86	Ⅱ	ポイント・ナイフ	5.0	Obs.
427	55-87	Ⅰ	ポイント・ナイフ	4.6	Obs.
428	54-87	Ⅰ	ポイント・ナイフ	5.0	Obs.
429	51-88	Ⅱ	ポイント・ナイフ	5.9	Obs.
430	59-79	Ⅰ	ポイント・ナイフ	8.5	Obs.
431	57-84	Ⅰ	ポイント・ナイフ	9.0	Obs.
432	59-92	Ⅱ	ポイント・ナイフ	(4.1)	Obs.
433	55-86	Ⅱ	ポイント・ナイフ	9.0	Obs.
434	55-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	5.7	Obs.
435	52-86	Ⅰ	ポイント・ナイフ	5.1	Obs.
436	61-78	Ⅰ	ポイント・ナイフ	(9.3)	Obs.
437	61-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	17.3	Obs.
438	47-79	Ⅰ	ポイント・ナイフ	(15.0)	Obs.
439	54-87	Ⅰ	ポイント・ナイフ	14.8	Obs.
440	52-88	Ⅰ	ポイント・ナイフ	11.8	Obs.
441	67-63	Ⅰ	ポイント・ナイフ	13.9	Obs.
442	58-83	Ⅰ	ポイント・ナイフ	18.0	Obs.
443	50-83	Ⅱ	ポイント・ナイフ	24.2	Obs.
444	54-86	Ⅱ	ポイント・ナイフ	(29.4)	Obs.
445	53-87	Ⅱ	ポイント・ナイフ	(22.8)	Obs.
446	60-91	Ⅰ	ポイント・ナイフ	20.5	Obs.
447	57-85	Ⅰ	ポイント・ナイフ	(9.0)	Obs.
448	57-84	Ⅱ	ポイント・ナイフ	6.3	Obs.
449	59-83	Ⅰ	ポイント・ナイフ	11.4	Obs.
450	59-85	Ⅰ	ドリル	0.4	Obs.
451	58-85	Ⅰ	ドリル	1.2	Obs.
452	66-66	Ⅰ	ドリル	1.5	Obs.
453	54-87	Ⅰ	ドリル	1.7	Obs.
454	66-69	Ⅱ	ドリル	1.6	Obs.
455	59-85	Ⅱ	ドリル	3.3	Ha-Sh.
456	59-70	Ⅰ	ドリル	9.0	Obs.
457	55-85	Ⅰ	ドリル	0.4	Si.Sh.
458	58-85	Ⅰ	ドリル	0.5	Si.Sh.
459	55-85	Ⅰ	ドリル	0.6	Si.Sh.
460	59-85	Ⅰ	ドリル	0.6	Si.Sh.
461	55-85	Ⅰ	ドリル	0.7	Si.Sh.
462	55-85	Ⅰ	ドリル	0.8	Si.Sh.
463	53-87	Ⅰ	ドリル	0.8	Aga.
464	60-90	Ⅰ	ドリル	0.8	Si.Sh.
465	52-87	Ⅰ	ドリル	0.8	Si.Sh.
466	52-88	Ⅰ	ドリル	0.8	Ha-Sh.
467	56-85	Ⅰ	ドリル	0.8	Si.Sh.
468	56-86	Ⅰ	ドリル	1.0	Si.Sh.
469	56-85	Ⅰ	ドリル	1.0	Si.Sh.
470	59-90	Ⅱ	ドリル	1.0	Ha-Sh.
471	56-85	Ⅰ	ドリル	1.1	Si.Sh.
472	59-90	Ⅰ	ドリル	1.6	Ha-Sh.
473	52-87	Ⅰ	ドリル	1.1	Si.Sh.
474	56-85	Ⅰ	ドリル	1.2	Aga.
475	59-90	Ⅰ	ドリル	1.2	Ha-Sh.
476	59-90	Ⅱ	ドリル	1.4	Ha-Sh.
477	54-87	Ⅰ	ドリル	1.5	Aga.
478	51-88	Ⅰ	ドリル	1.9	Si.Sh.
479	60-90	Ⅰ	ドリル	1.6	Si.Sh.
480	56-85	Ⅰ	ドリル	1.9	Aga.
481	58-85	Ⅰ	ドリル	1.6	Si.Sh.
482	51-87	Ⅰ	ドリル	1.6	Si.Sh.
483	57-91	Ⅰ	ドリル	2.7	Aga.
484	52-88	Ⅰ	ドリル	1.7	Aga.
485	56-85	Ⅰ	ドリル	2.4	Aga.
486	60-90	Ⅰ	ドリル	2.4	Si.Sh.
487	55-85	Ⅰ	ドリル	2.5	Aga.
488	60-90	Ⅰ	ドリル	2.0	Ha-Sh.
489	59-87	Ⅰ	ドリル	2.0	Ha-Sh.
490	54-86	Ⅰ	ドリル	1.5	Obs.
491	52-87	Ⅰ	ドリル	2.3	Obs.
492	59-90	Ⅰ	ドリル	3.0	Si.Sh.
493	57-90	Ⅰ	ドリル	4.6	Che.
494	59-85	Ⅰ	ドリル	1.7	Ha-Sh.
495	60-90	Ⅱ	ドリル	4.6	Si.Sh.
496	59-85	Ⅱ	ドリル	2.0	Aga.
497	56-86	ⅡA	ドリル	1.8	Obs.
498	55-85	Ⅰ	ドリル	3.1	Si.Sh.
499	53-87	Ⅰ	ドリル	3.2	Aga.
500	56-85	Ⅰ	ドリル	1.4	Si.Sh.
501	59-78	Ⅰ	ドリル	3.0	Aga.
502	59-91	Ⅱ	ドリル	2.0	Che.
503	52-88	Ⅰ	ドリル	2.1	Si.Sh.
504	52-88	Ⅰ	ドリル	1.8	Si.Sh.
505	59-86	Ⅰ	ドリル	2.7	Ha-Sh.
506	58-85	Ⅰ	ドリル	4.0	Aga.
507	52-87	Ⅰ	ドリル	2.1	Ha-Sh.
508	56-91	Ⅰ	ドリル	2.6	Si.Sh.
509	60-90	Ⅱ	ドリル	4.5	Aga.
510	60-90	Ⅱ	ドリル	4.9	Ha-Sh.
511	57-91	Ⅰ	ドリル	0.6	Si.Sh.
512	56-85	Ⅰ	ドリル	0.6	Obs.
513	51-89	Ⅰ	ドリル	0.6	Aga.

石器一覧表(4)

番号	位置	層位	器種名	重量(g)	石質
514	52-89	Ⅰ	ドリル	0.8	Si.Sh.
515	53-87	Ⅱ	ドリル	0.7	Si.Sh.
516	52-88	Ⅰ	ドリル	1.0	Si.Sh.
517	59-91	Ⅱ	ドリル	2.0	Si.Sh.
518	60-90	Ⅱ	ドリル	4.0	Ha-Sh.
519	59-87	Ⅰ	ドリル	1.4	Obs.
520	59-89	Ⅱ	ドリル	1.6	Obs.
521	53-86	Ⅰ	ドリル	2.7	Si.Sh.
522	57-91	Ⅰ	ドリル	4.5	Che.
523	60-90	Ⅰ	ドリル	2.4	Obs.
524	55-85	Ⅰ	ドリル	2.0	Ha-Sh.
525	52-87	Ⅰ	ドリル	1.7	Obs.
526	55-85	Ⅰ	ドリル	3.0	Si.Sh.
527	67-68	Ⅰ	ドリル	3.3	Si.Sh.
528	59-86	Ⅰ	ドリル	5.2	Ha-Sh.
529	59-83	Ⅰ	ドリル	0.6	Obs.
530	59-79	Ⅰ	ドリル	0.9	Obs.
531	58-81	Ⅰ	ドリル	1.6	Obs.
532	59-88	Ⅰ	ドリル	3.0	Ha-Sh.
533	59-81	Ⅰ	ドリル	1.2	Obs.
534	59-89	Ⅱ	ドリル	1.8	Obs.
535	58-85	Ⅰ	ドリル	2.4	Obs.
536	59-86	Ⅱ	ドリル	0.5	Obs.
537	60-91	Ⅰ	ドリル	1.0	Obs.
538	51-89	Ⅰ	ドリル	1.2	Si.Sh.
539	51-88	Ⅰ	ドリル	2.3	Si.Sh.
540	60-83	Ⅱ	つまみ付ナイフ	3.8	Aga.
541	63-77	Ⅱ	つまみ付ナイフ	(3.7)	Si.Sh.
542	59-89	Ⅱ	つまみ付ナイフ	5.8	Si.Sh.
543	57-84	Ⅰ	つまみ付ナイフ	7.5	Ha-Sh.
544	59-86	Ⅰ	つまみ付ナイフ	8.1	Ha-Sh.
545	58-80	ⅡC	つまみ付ナイフ	7.5	Si.Sh.
546	54-82	Ⅰ	つまみ付ナイフ	14.1	Ha-Sh.
547	56-85	Ⅰ	つまみ付ナイフ	4.6	Ha-Sh.
548	55-84	Ⅰ	つまみ付ナイフ	10.0	Ha-Sh.
549	59-85	Ⅱ	つまみ付ナイフ	11.8	Si.Sh.
550	55-85	Ⅰ	つまみ付ナイフ	1.6	Ha-Sh.
551	58-83	Ⅰ	つまみ付ナイフ	5.5	Obs.
552	58-83	Ⅰ	つまみ付ナイフ	5.8	Ha-Sh.
553	58-85	Ⅰ	つまみ付ナイフ	5.8	Si.Sh.
554	58-85	Ⅰ	つまみ付ナイフ	7.9	Ha-Sh.
555	52-88	Ⅰ	つまみ付ナイフ	4.5	Rhy.
556	49-84	Ⅱ	つまみ付ナイフ	9.6	Ha-Sh.
557	59-82	Ⅰ	つまみ付ナイフ	14.2	Ha-Sh.
558	50-84	ⅡC	つまみ付ナイフ	16.8	Ha-Sh.
559	57-80	Ⅰ	つまみ付ナイフ	8.0	Si.Sh.
560	58-85	Ⅰ	つまみ付ナイフ	3.3	Si.Sh.
561	58-81	Ⅰ	つまみ付ナイフ	12.0	Ha-Sh.
562	56-85	Ⅰ	つまみ付ナイフ	3.7	Si.Sh.
563	60-84	Ⅰ	つまみ付ナイフ	11.6	Ha-Sh.
564	59-90	Ⅱ	つまみ付ナイフ	9.6	Obs.
565	66-70	Ⅰ	つまみ付ナイフ	12.0	Aga.
566	50-80	Ⅰ	つまみ付ナイフ	(28.7)	Ha-Sh.
567	53-83	Ⅰ	つまみ付ナイフ	10.0	Ha-Sh.
568	55-85	Ⅰ	つまみ付ナイフ	8.4	Obs.
569	54-87	Ⅰ	つまみ付ナイフ	(2.2)	Obs.
570	59-83	Ⅰ	つまみ付ナイフ	6.0	Ha-Sh.
571	59-84	Ⅱ	つまみ付ナイフ	8.2	Ha-Sh.
572	55-82	Ⅰ	つまみ付ナイフ	2.9	Si.Sh.
573	54-87	Ⅰ	つまみ付ナイフ	(6.0)	Obs.
574	67-73	Ⅰ	つまみ付ナイフ	13.3	Si.Sh.
575	58-82	Ⅰ	つまみ付ナイフ	12.1	Ha-Sh.
576	59-92	Ⅰ	スクレイパー	12.4	Ha-Sh.
577	61-92	Ⅰ	スクレイパー	15.6	Obs.
578	58-85	Ⅰ	スクレイパー	20.9	Ha-Sh.
579	59-86	Ⅰ	スクレイパー	14.6	Ha-Sh.
580	67-64	Ⅰ	スクレイパー	1.3	Obs.
581	66-66	Ⅰ	スクレイパー	1.4	Obs.
582	55-91	Ⅰ	スクレイパー	6.1	Ha-Sh.
583	52-87	Ⅱ	スクレイパー	10.7	Obs.
584	59-90	Ⅰ	スクレイパー	11.6	Obs.
585	60-91	Ⅰ	スクレイパー	9.6	Obs.
586	59-79	Ⅰ	スクレイパー	8.1	Obs.
587	59-85	Ⅰ	スクレイパー	18.3	Obs.
588	59-85	Ⅰ	スクレイパー	9.0	Obs.
589	59-88	Ⅰ	スクレイパー	13.9	Obs.
590	56-86	ⅡA	スクレイパー	15.3	Obs.
591	59-83	Ⅰ	スクレイパー	9.1	Obs.
592	59-86	Ⅰ	スクレイパー	16.0	Obs.
593	55-87	Ⅱ	スクレイパー	9.1	Obs.
594	57-91	Ⅰ	スクレイパー	12.6	Obs.
595	58-81	Ⅱ	スクレイパー	13.0	Obs.
596	57-91	Ⅱ	スクレイパー	9.1	Obs.
597	56-85	Ⅰ	スクレイパー	17.8	Obs.
598	65-70	Ⅰ	スクレイパー	19.9	Ha-Sh.
599	58-84	Ⅱ	スクレイパー	10.4	Obs.
600	56-84	Ⅰ	スクレイパー	38.0	Obs.
601	59-86	Ⅰ	スクレイパー	30.5	Obs.
602	53-86	Ⅰ	スクレイパー	16.7	Obs.
603	51-88	Ⅱ	スクレイパー	10.0	Obs.
604	59-90	Ⅰ	スクレイパー	6.8	Obs.
605	50-85	Ⅰ	スクレイパー	12.8	Obs.
606	54-86	Ⅰ	スクレイパー	11.2	Ha-Sh.
607	58-80	Ⅰ	スクレイパー	5.1	Obs.
608	60-86	Ⅰ	スクレイパー	10.5	Obs.
609	55-85	Ⅰ	スクレイパー	9.6	Obs.
610	51-89	Ⅰ	スクレイパー	23.5	Obs.
611	56-85	Ⅰ	スクレイパー	14.0	Obs.
612	57-91	Ⅱ	スクレイパー	46.2	Obs.
613	66-63	Ⅰ	スクレイパー	9.4	Obs.
614	55-86	Ⅰ	スクレイパー	5.5	Obs.
615	59-83	Ⅰ	スクレイパー	16.1	Si.Sh.
616	58-83	Ⅰ	スクレイパー	6.5	Ha-Sh.
617	57-91	Ⅰ	スクレイパー	10.2	Obs.
618	59-82	Ⅰ	スクレイパー	18.2	Obs.
619	67-69	Ⅰ	スクレイパー	10.9	Obs.
620	65-67	Ⅰ	スクレイパー	5.9	Obs.
621	65-66	Ⅰ	スクレイパー	3.7	Obs.
622	55-84	Ⅱ	スクレイパー	9.5	Obs.
623	66-66	Ⅰ	スクレイパー	8.1	Obs.
624	46-85	Ⅱ	スクレイパー	7.8	Obs.
625	64-78	Ⅱ	スクレイパー	18.5	Obs.
626	53-86	Ⅰ	スクレイパー	17.0	Obs.
627	57-83	Ⅱ	スクレイパー	28.0	Obs.
628	65-68	Ⅰ	スクレイパー	14.6	O s.
629	58-86	Ⅰ	スクレイパー	11.6	Si.Sh.
630	50-82	Ⅱ	スクレイパー	5.7	Obs.
631	55-86	Ⅰ	スクレイパー	36.2	Si.Sh.
632	59-91	Ⅱ	スクレイパー	9.0	Obs.
633	58-84	Ⅰ	スクレイパー	12.2	Obs.
634	51-82	Ⅱ	スクレイパー	46.6	Obs.
635	46-85	Ⅰ	スクレイパー	4.8	Obs.
636	57-86	Ⅰ	スクレイパー	5.3	Obs.
637	66-66	Ⅰ	スクレイパー	1.9	Obs.
638	65-67	Ⅰ	スクレイパー	3.5	Obs.
639	59-86	Ⅱ	スクレイパー	10.0	Obs.
640	58-85	Ⅰ	スクレイパー	4.1	Obs.
641	54-87	Ⅱ	スクレイパー	7.3	Obs.
642	60-90	Ⅰ	スクレイパー	7.9	Obs.
643	51-83	Ⅰ	スクレイパー	27.6	Obs.
644	59-80	Ⅰ	スクレイパー	7.8	Obs.
645	59-86	Ⅰ	スクレイパー	4.6	Obs.
646	59-86	Ⅰ	スクレイパー	4.8	Obs.
647	66-61	Ⅰ	スクレイパー	11.8	Obs.
648	60-90	Ⅱ	スクレイパー	15.1	Obs.
649	57-84	撹乱	スクレイパー	32.3	Obs.
650	58-84	Ⅰ	スクレイパー	21.2	Si.Sh.
651	52-82	Ⅰ	スクレイパー	11.7	Obs.
652	60-85	Ⅰ	スクレイパー	11.1	Obs.
653	51-89	Ⅰ	スクレイパー	69.3	Bas.
654	54-55·5	Ⅰ	スクレイパー	(33.2)	Obs.
655	59-86	Ⅰ	スクレイパー	6.2	Obs.
656	58-84	Ⅰ	スクレイパー	11.1	Obs.
657	51-87	Ⅰ	スクレイパー	6.2	Obs.
658	48-87	Ⅰ	鋸歯縁石器	1.4	Obs.
659	57-84	ⅡC	サイドスクレイパー	2.2	Obs.
660	59-86	Ⅰ	石斧	(3.0)	Mud.
661	55-86	Ⅰ	石斧	(1.2)	Sch.
662	56-84	Ⅰ	石斧	(5.7)	Mud.
663	60-90	Ⅱ	石斧	13.4	Mud.
664	47-84	Ⅱ	石斧	(10.0)	Sch.
665	55-86	Ⅰ	石斧	34.4	Mud.
666	61-81	Ⅰ	石斧	(19.6)	Sch.
667	46-86	Ⅰ	石斧	34.5	Sch.
668	56-86	ⅡA	石斧	8.0	Mud.
669	56-86	Ⅰ	石斧	(15.8)	Sch.
670	53-87	Ⅰ	石斧	16.9	Sch.
671	59-83	Ⅰ	石斧	23.4	Sch.
672	58-85	Ⅱ	石斧	34.8	Sch.
673	54-87	Ⅰ	石斧	(35.8)	Sch.
674	59-77	Ⅰ	石斧	35.3	Mud.
675	57-91	Ⅰ	石斧	(59.4)	Mud.
676	57-85	Ⅰ	石斧	(44.2)	Phy.
677	52-87	Ⅰ	石斧	53.7	Sch.
678	58-84	Ⅰ	石斧	49.3	Sch.
679	54-86	Ⅰ	石斧	58.7	Sch.
680	67-72	Ⅰ	石斧	53.8	Sch.
681	53-85	Ⅰ	石斧	45.7	Mud.
682	49-86	Ⅰ	石斧	62.3	Sch.
683	52-86	Ⅰ	石斧	84.4	Mud.
684	67-63	Ⅰ	石斧	77.1	Sch.

石器一覧表(5)

番号	位置	層位	器種名	重量(g)	石質
685	59-85	Ⅱ	石斧	78.3	Sch.
686	56-85	Ⅰ	石斧	31.6	Sch.
687	58-84	Ⅰ	石斧	51.0	Sch.
688	58-84	Ⅱ	石斧	55.5	Sch.
689	65-67	Ⅰ	石斧	(50.7)	Sch.
690	59-90	Ⅱ	石斧	70.0	Sch.
691	59-85	Ⅱ	石斧	79.2	Sch.
692	54-86	Ⅱ	石斧	(92.2)	Mud.
693	59-87	Ⅰ	石斧	42.0	Mud.
694	55-82	Ⅰ	石斧	34.8	Sch.
695	49-87	Ⅰ	石斧	38.2	Sch.
696	59-86	Ⅱ	石斧	67.2	Mud.
697	57-85	Ⅰ	石斧	59.6	Mud.
698	51-85	Ⅰ	石斧	71.4	Gne.
699	57-85	Ⅱ	石斧	60.3	Mud.
700	53-87	Ⅰ	石斧	75.2	Sch.
701	61-68	Ⅱ	石斧	77.2	Phy.
702	61-71	Ⅰ	石斧	78.8	Mud.
703	55-85	Ⅰ	石斧	81.0	Mud.
704	55-85	Ⅰ	石斧	111.3	Sch.
705	55-86	Ⅰ	石斧	110.8	Mud.
706	53-82	Ⅱ	石斧	144.8	Mud.
707	48-82	Ⅰ	石斧	110.0	Sch.
708	48-84	Ⅱ	石斧	(55.0)	Mud.
709	56-85	Ⅰ	石斧	160.5	Mud.
710	55-86	Ⅱ	石斧	(301.1)	Sch.
711	51-87	Ⅰ	石斧	(425.0)	Sch.
712	64-66	Ⅰ	石斧	229.0	Sch.
713	56-85	Ⅰ	石斧	321.0	Sch.
714	50-80	Ⅰ	石斧	330.0	Mud.
715	59-77	Ⅰ	石斧	200.0	Mud.
716	50-85	Ⅱ	石斧	245.0	Mud.
717	55-87	Ⅰ	石斧	510.0	Mud.
718	50-80	Ⅰ	石斧	282.0	Mud.
719	53-87	Ⅱ	石斧	92.7	Sch.
720	57-85	Ⅱ	石斧	166.6	Mud.
721	56-86	ⅡA	石斧	49.5	Mud.
722	45-83	Ⅰ	石斧	(170.0)	Sch.
723	55-85	Ⅰ	石斧	145.0	Mud.
724	46-82	Ⅰ	石斧	155.0	Mud.
725	52-83	Ⅰ	たたき石	124.1	And.
726	56-85	Ⅰ	たたき石	146.8	Sa.
727	57-82	Ⅰ	たたき石	310.0	Sa.
728	64-71	Ⅰ	たたき石	182.5	Sa.
729	56-84	Ⅱ	たたき石	119.2	Sa.
730	56-85	Ⅰ	たたき石	290.0	Sa.
731	58-82	Ⅱ	たたき石	150.0	And.
732	50-86	Ⅱ	たたき石	270.0	And.
733	60-90	Ⅱ	たたき石	202.0	Sa.
734	56-86	Ⅰ	たたき石	146.9	Qua.
735	59-86	Ⅱ	たたき石	434.6	Per.
736	58-84	Ⅰ	たたき石	140.0	Per.
737	57-91	Ⅱ	たたき石	189.2	Per.
738	55-87	Ⅱ	たたき石	590.0	Per.
739	52-87	Ⅱ	くぼみ石	171.5	Tu.
740	56-85	Ⅰ	くぼみ石	150.8	Tu.
741	55-87	Ⅰ	くぼみ石	254.6	Sa.
742	55-87	Ⅰ	くぼみ石	152.3	Sa.
743	50-86	Ⅰ	くぼみ石	175.0	Sa.
744	56-85	Ⅰ	くぼみ石	72.9	Sa.
745	51-87	Ⅰ	くぼみ石	152.6	Sa.
746	58-85	Ⅰ	くぼみ石	339.4	And.
747	59-90	Ⅱ	くぼみ石	1880.0	And.
748	54-86	Ⅰ	すり石	1350.0	And.
749	57-84	Ⅰ	すり石	364.0	And.
750	65-67	Ⅰ	すり石	255.0	And.
751	57-85	Ⅱ	北海道式石冠	(510.0)	Por.
752	58-81	Ⅰ	北海道式石冠	(510.0)	Sa.
753	55-91	ⅡC	北海道式石冠	562.0	Por.
754	55-87	Ⅰ	北海道式石冠	585.0	Tu.
755	59-90	Ⅱ	北海道式石冠	(260.0)	And.
756	57-86	ⅡB	北海道式石冠	(402.5)	Por.
757	51-88	Ⅱ	北海道式石冠	680.0	Por.
758	48-84	Ⅱ	北海道式石冠	755.0	Gr.Po.
759	58-86	Ⅰ	北海道式石冠	521.0	And.
760	54-87	Ⅰ	北海道式石冠	(563.5)	Por.
761	47-82	Ⅰ	北海道式石冠	(790.0)	And.
762	60-83	Ⅰ	北海道式石冠	750.0	Por.
763	56-86	Ⅰ	北海道式石冠	(800.0)	Por.
764	55-86	Ⅱ	北海道式石冠	(391.8)	Por.
765	54-86	Ⅰ	北海道式石冠	(850.0)	Por.
766	54-86	Ⅱ	北海道式石冠	1036.0	Por.
767	51-86	Ⅰ	北海道式石冠	893.0	And.
768	58-89	Ⅰ	北海道式石冠	(725.0)	And.
769	54-86	Ⅱ	北海道式石冠	(625.0)	Por.
770	59-83	Ⅰ	北海道式石冠	(607.0)	And.
771	56-86	Ⅱ	北海道式石冠	(307.5)	Sa.
772	59-74	Ⅰ	石錘	46.8	Sa.
773	61-81	Ⅰ	石錘	46.0	Sa.
774	58-90	Ⅰ	石錘	54.4	Sa.
775	45-82	Ⅱ	石錘	100.0	Sa.
776	67-63	Ⅰ	石錘	67.5	Sa.
777	51-89	Ⅰ	石錘	94.8	And.
778	58-85	Ⅰ	石錘	155.9	Sa.
779	50-83	Ⅰ	石錘	90.1	And.
780	58-81	Ⅰ	石錘	95.0	Sa.
781	66-70	Ⅰ	石錘	(42.6)	And.
782	59-86	Ⅰ	石鋸	1.4	Cla.
783	52-87	Ⅱ	石鋸	46.0	Sa.
784	59-86	Ⅰ	石鋸	41.2	Sa.
785	51-80	Ⅰ	石鋸	80.4	Sa.
786	52-88	Ⅰ	石鋸	(25.1)	Sa.
787	54-86	Ⅰ	石鋸	(2.8)	Sa.
788	53-88	Ⅰ	石鋸	(7.3)	Sa.
789	52-87	Ⅰ	石鋸	(9.3)	Sa.
790	59-89	Ⅰ	石鋸	(40.0)	Sa.
791	55-85	Ⅰ	石鋸	(5.9)	Sa.
792	52-87	Ⅰ	砥石	36.0	Sa.
793	51-88	Ⅰ	砥石	183.1	Sa.
794	57-85	Ⅰ	砥石	(28.6)	Sa.
795	55-86	Ⅰ	砥石	55.6	Sa.
796	45-83	Ⅰ	砥石	135.0	Sa.
797	51-87	Ⅱ	砥石	(104.9)	Sa.
798	54-87	Ⅱ	砥石	(157.0)	Sa.
799	52-87	Ⅰ	砥石	(113.0)	Sa.
800	57-85	Ⅰ	砥石	(72.2)	Sa.
801	53-88	Ⅰ	砥石	(48.4)	Sa.
802	57-85	Ⅱ	砥石	(105.6)	Sa.
803	58-83	Ⅰ	砥石	(82.6)	Sa.
804	55-82	Ⅰ	砥石	(93.7)	Sa.
805	57-85	Ⅱ	砥石	153.3	Sa.
806	58-84	Ⅱ	砥石	141.8	Sa.
807	55-86	Ⅰ	砥石	83.3	Sa.
808	59-86	Ⅰ	砥石	(210.0)	Sa.
809	59-86	Ⅱ	砥石	(280.0)	Sa.
810	65-67	Ⅱ	砥石	485.0	Sa.
811	59-86	Ⅱ	砥石	(320.0)	Sa.
812	54-88	撹乱	砥石	1250.0	Sa.
813	58-85	Ⅰ	砥石	280.0	Sa.
814	55-86	Ⅱ	砥石	(214.8)	Sa.
815	47-83	Ⅱ	砥石	(370.0)	Sa.
816	58-84	Ⅱ	砥石	700.0	Sa.
817	56-84	Ⅰ	砥石	641.0	Sa.
818	56-87	Ⅰ	砥石	(249.4)	Sa.
819	51-87	Ⅰ	砥石	791.0	Sa.
820	52-87	Ⅱ	砥石	1050.0	Sa.
821	52-86	Ⅰ	石核	16.6	Obs.
822	49-86	Ⅰ	石核	13.4	Obs.
823	60-91	Ⅰ	石核	35.3	Obs.
824	55-85	Ⅰ	石核	8.5	Obs.
825	56-84	Ⅰ	石核	17.2	Obs.
826	50-88	Ⅰ	石核	17.9	Obs.
827	59-86	Ⅱ	石核	17.0	Obs.
828	55-85	Ⅰ	石核	15.2	Obs.
829	59-90	Ⅰ	石核	20.4	Obs.
830	50-88	Ⅰ	石核	8.9	Obs.
831	52-86	Ⅰ	石核	16.4	Obs.
832	52-82	Ⅰ	石核	19.9	Obs.
833	56-85	Ⅰ	石核	13.6	Obs.
834	63-68	Ⅱ	石核	16.3	Obs.
835	65-67	Ⅰ	石核	20.1	Obs.
836	63-68	Ⅰ	石核	16.6	Obs.
837	51-85	Ⅰ	石核	16.0	Obs.
838	56-84	Ⅰ	石核	9.7	Obs.
839	50-85	Ⅱ	石核	33.2	Obs.
840	53-85	Ⅱ	石核	30.8	Obs.
841	56-84	Ⅰ	石核	24.8	Obs.
842	56-84	Ⅰ	石核	48.5	Obs.
843	53-85	Ⅱ	石核	54.4	Qua.
844	58-86	Ⅰ	石核	28.8	Obs.
845	59-83	撹乱	石皿	(2850)	And.
846	59-83	撹乱	石皿	(3650)	And.
847	59-83	撹乱	石皿	(4350)	And.
848	56-86	撹乱	石皿	(2450)	And.

3．土製品・石製品

西野幌12遺跡からは19点の石製品、41点の土製品が出土している。石製品は、垂飾、石棒、環石、浮子など、土製品には、円盤状土製品、土版、土玉、棒状土製品、オロシガネ状土製品、焼成粘土塊などが出土している。以下、石製品、土製品の順に遺物の特徴を述べる。

石製品

1～14は、垂飾である。1は⅓を欠いているが隅丸方形に近い形をなすと思われ、片面が削られ、貫通孔が穿たれている。淡い緑色の滑石製。2は、円形をなし、両側からの貫通孔が中央からややずれた位置にあけられている。明緑色の蛇紋岩製である。3は、円形で中央が穿孔されている。茶褐色の凝灰砂岩製。4は、隅丸の三角形をなし一部欠けている。5は、ほぼ円形をなし、表面に磨いた目が残っている。6は、½を欠くがほぼ円形をなすと思われる。中央にやや斜めに貫通孔があけられており、全面がつややかに磨かれ明緑色の中に茶褐色のしまが入っている。7は、葉巻型をしており、長軸の両端から穿孔されているが貫通しておらず未製品と思われる。石質は、緑褐色に褐色のしまが入る蛇紋岩である。8は、断面が四角ないしカマボコ形を呈する柱状で長軸の両端および側面から穿孔され、L字形の貫通孔があけられている。貫通孔は、側縁につけられたり、幅2㎜深さ1㎜程の溝から両端に向って斜めにつけられており、内面にはドリルによると思われる段と条痕がみられる。両端部からは、4～3㎜の孔が穿たれ貫通孔となっている。9は、8と同様の葉巻形で長軸の両端及び側縁に穿孔されているが貫通はしていない。未製品であろう。10は台形をなし、片面がややふくらむ。両面から穿孔されているが貫通していない。11も台形で、珪化した凝灰岩が用いられている。12は、半円形をなし、側縁に未調整の部分が残っている。また片面から穿孔されているが、貫通していないため未製品と思われる。13は、不等辺の七角形をなし、側縁の中央に部分的に稜がみられる。14は、緑色凝灰岩を用いており、両端が細くなる短冊形をなす。丁寧に調整されているが、穿孔などされていないことから装飾品とすれば未製品であろうが、小型石斧の未製品とも考えられる。15は、灰褐色の蛇紋岩製で片面に敲打されたくぼみがある。横に磨きがかけられている。反対側の面には、鋭角な断面をもつ溝がつけられている。16は、四角柱の石製品で、緑色凝灰岩を用いている。長軸の一端に敲打痕がみられ、一部を欠く。17は、断面が卵形の棒状石製品で両端を欠いている。橄欖岩製で表面は摩って滑らかに調整されている。18は、環状をなすと思われる石製品であるが¾を欠いている。断面は、円に近いが、内側に稜がある。両端の割れ口の大きさが違っていることから、太さは一様ではないと推測される。19は、軽石でつくられ卵形を呈する。側縁の一部が切ったように鋭利なタッチで削られている。

土製品

1～12は、土製円盤である。12は、三角形であるが､便宜上ここに含めておく。1～6は、楕円形、7～11は円形で、12は三角形をなす。ほとんど全点の表面が摩滅しており、6には結束

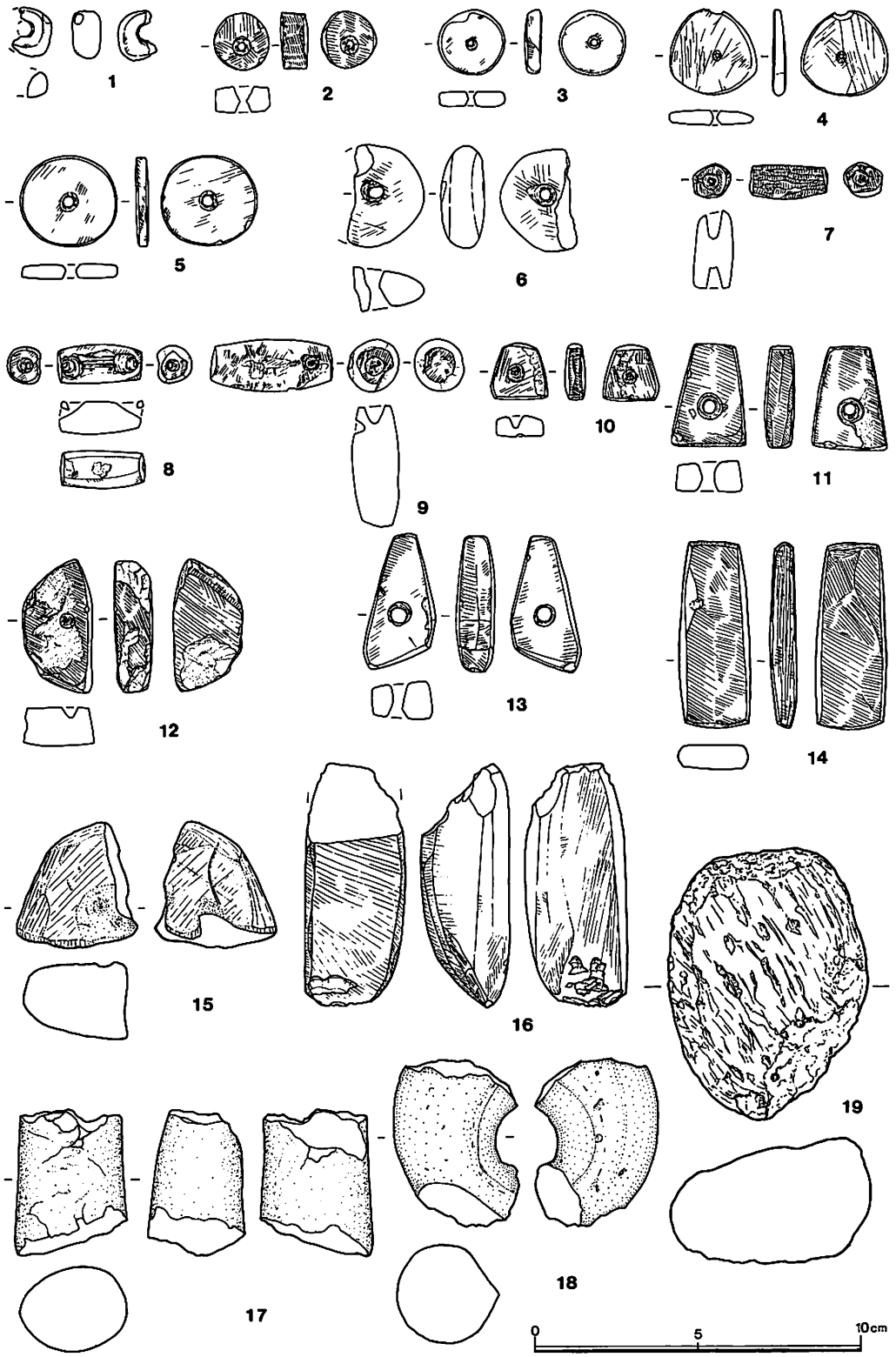
羽状縄文が施されている。

13は、土版である。小判形をなすと思われるが½を欠く。両面とも無文で、指頭による調整痕がみられる。14・15は土玉で、12は焼成前に穿孔されている。13は、葉巻形の土製品で、長軸上に焼成前に孔があけられている。

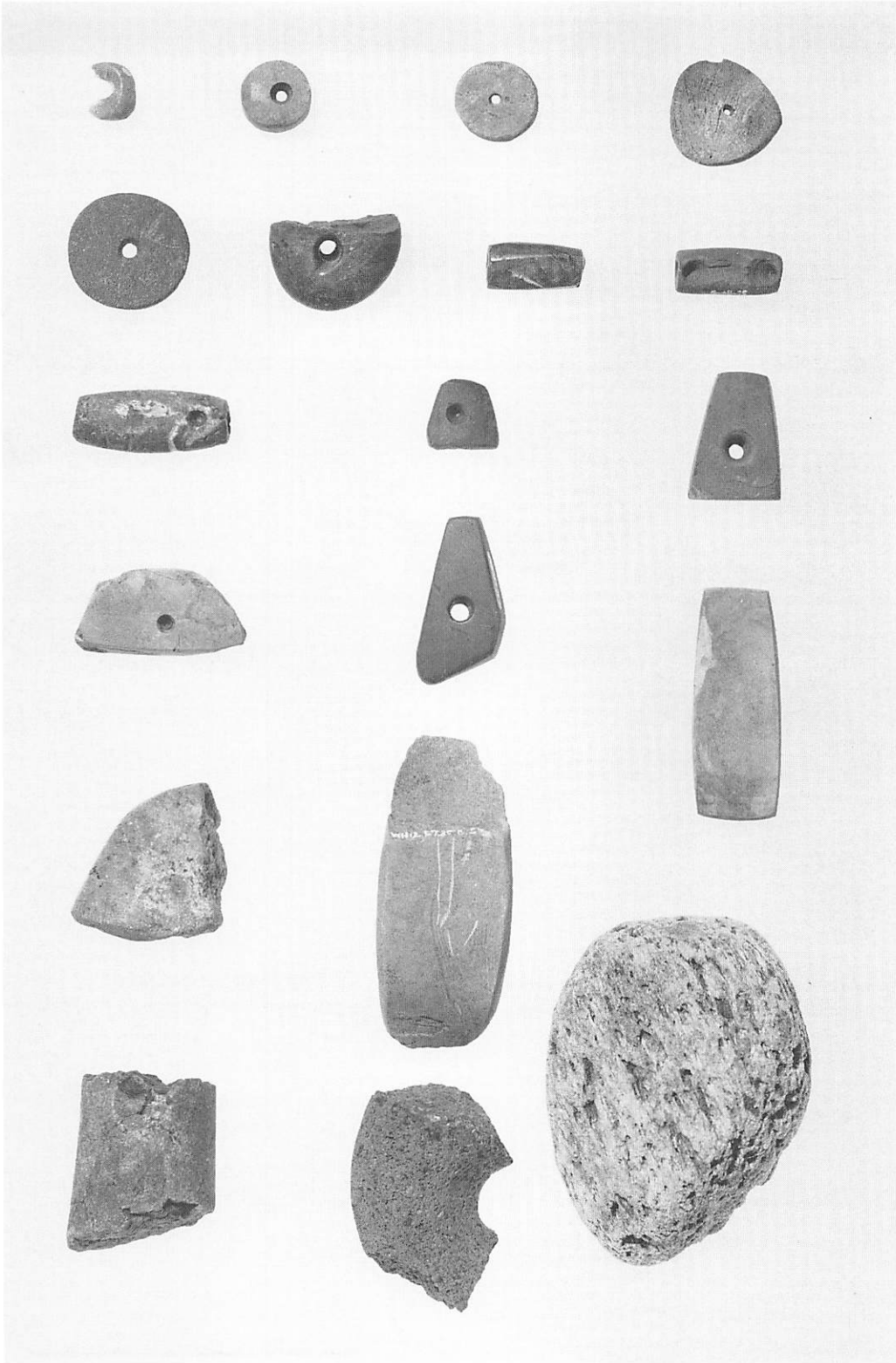
17～21は、棒状土製品である。17は、端がやや尖るようにすぼまり、径11mm前後の貫通孔が、穿たれている。断面は、隅丸四角形ないし不整円形で長軸方向に60mmほどの長さの刻線がみられる。18も17と非常に良く似ており同一個体かもしれない。21は、スタンプ形土製品の一部かもしれない。22は、スタンプ形土製品の版部と思われる。無文で指頭による調整痕がみられ、円形をなすと思われるが、約½を欠いている。版面は、ほぼ平坦である。

23は、脚状の突起をもつ板状の土製品である。楕円形をなし、片面に径が約24mmの突起をもち、先端を欠いている。表面は黄褐色を呈し、ＲＬ縄文が施文されている。胎土には小礫を含む。24は、表面に指頭による調整痕が見られ、やや摩滅している。25は、指頭による調整痕がみられる。23の脚の一部である可能性もある。

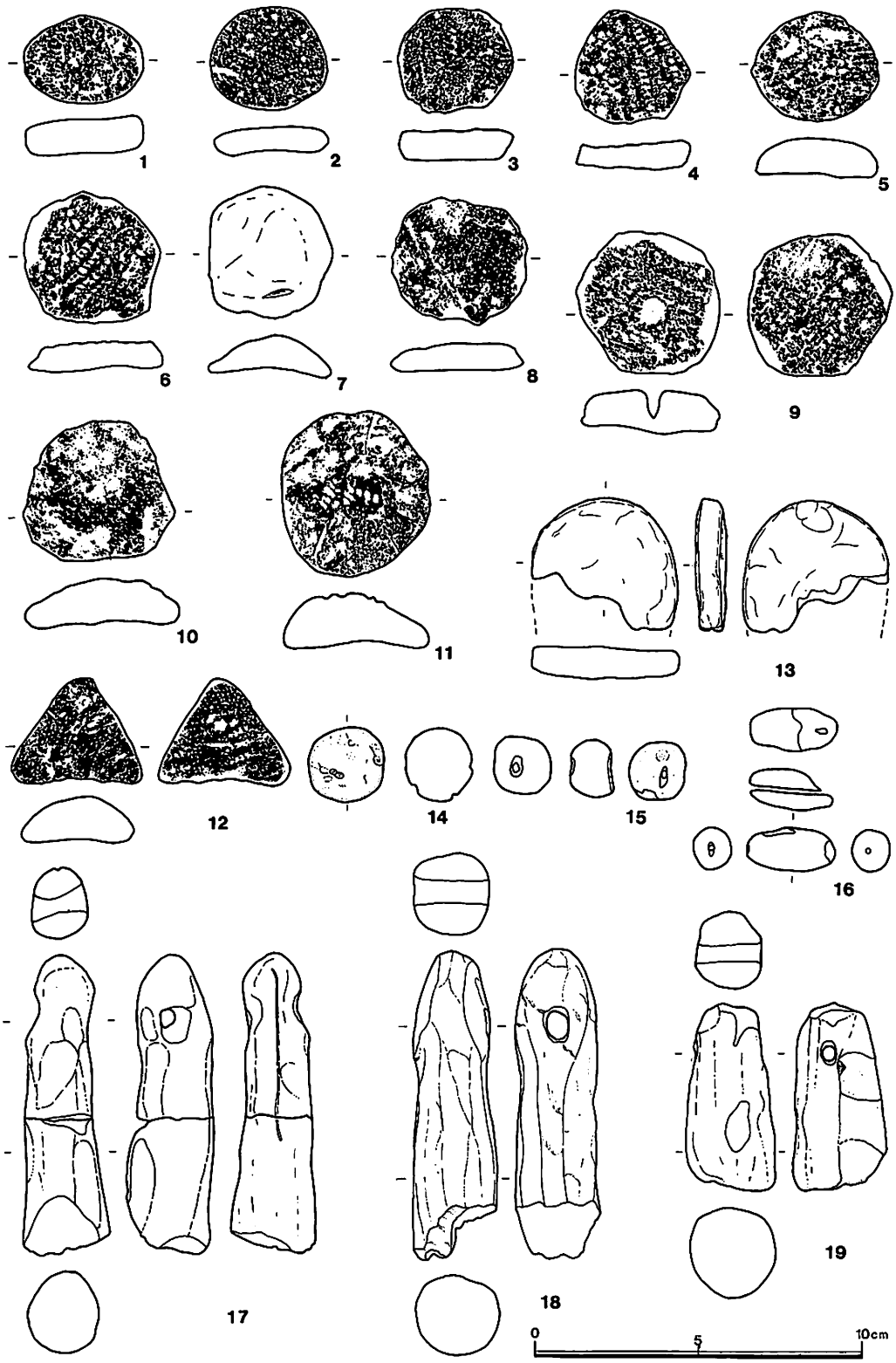
26～32は、いわゆる焼成粘土塊である。26は、楕円形で版状をなすと思われる。黄褐色を呈し、胎土は粒子が細かくやや粉っぽい印象を受ける。28は、やや粒の大きい石英、垂鉱物を含み、棒状工具による刺突、押圧などが加えられており、今年度行った胎土分析試料の19に酷似している。31は、平たい粘土を指で丸めたような土製品である。



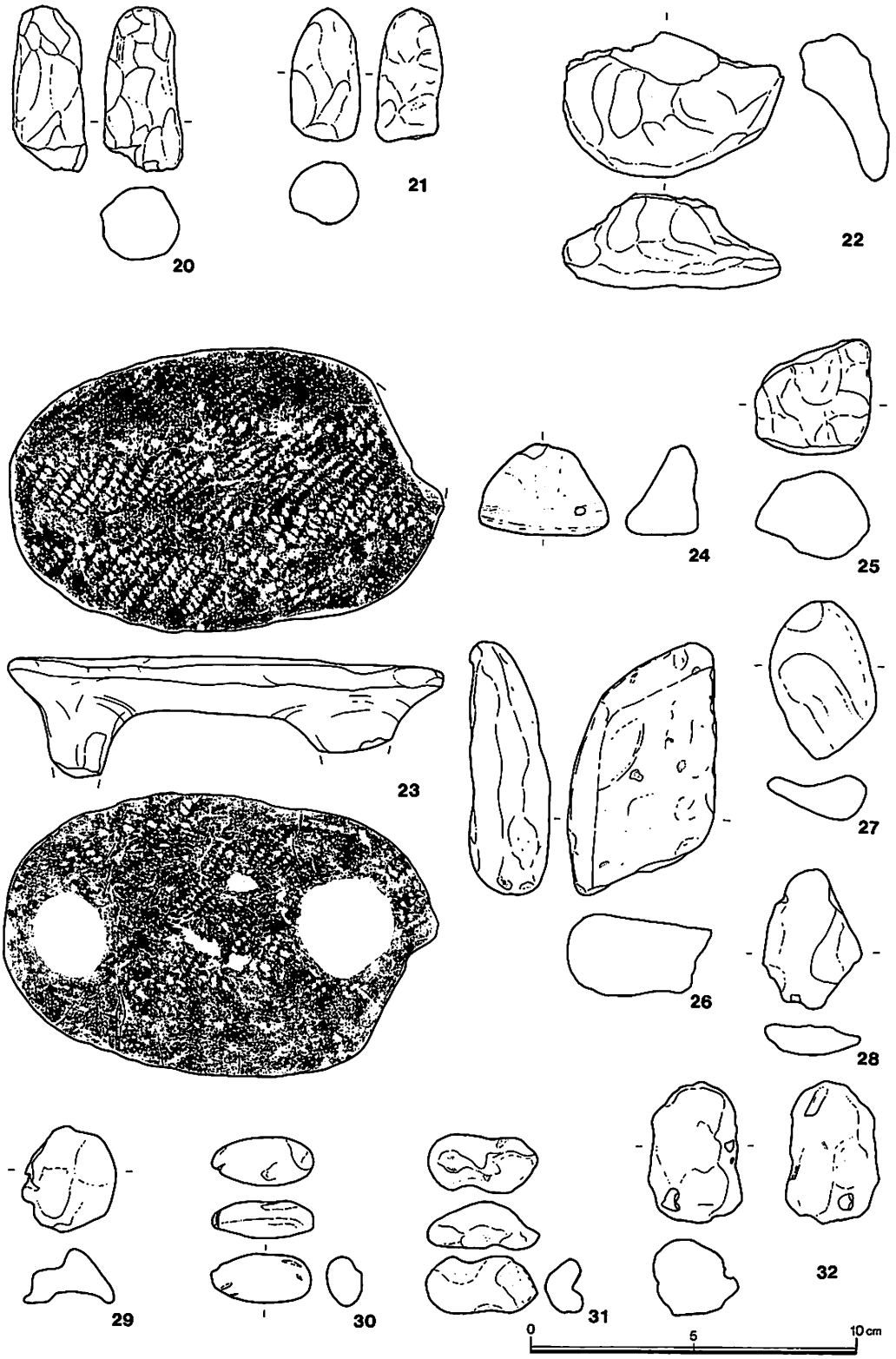
石製品



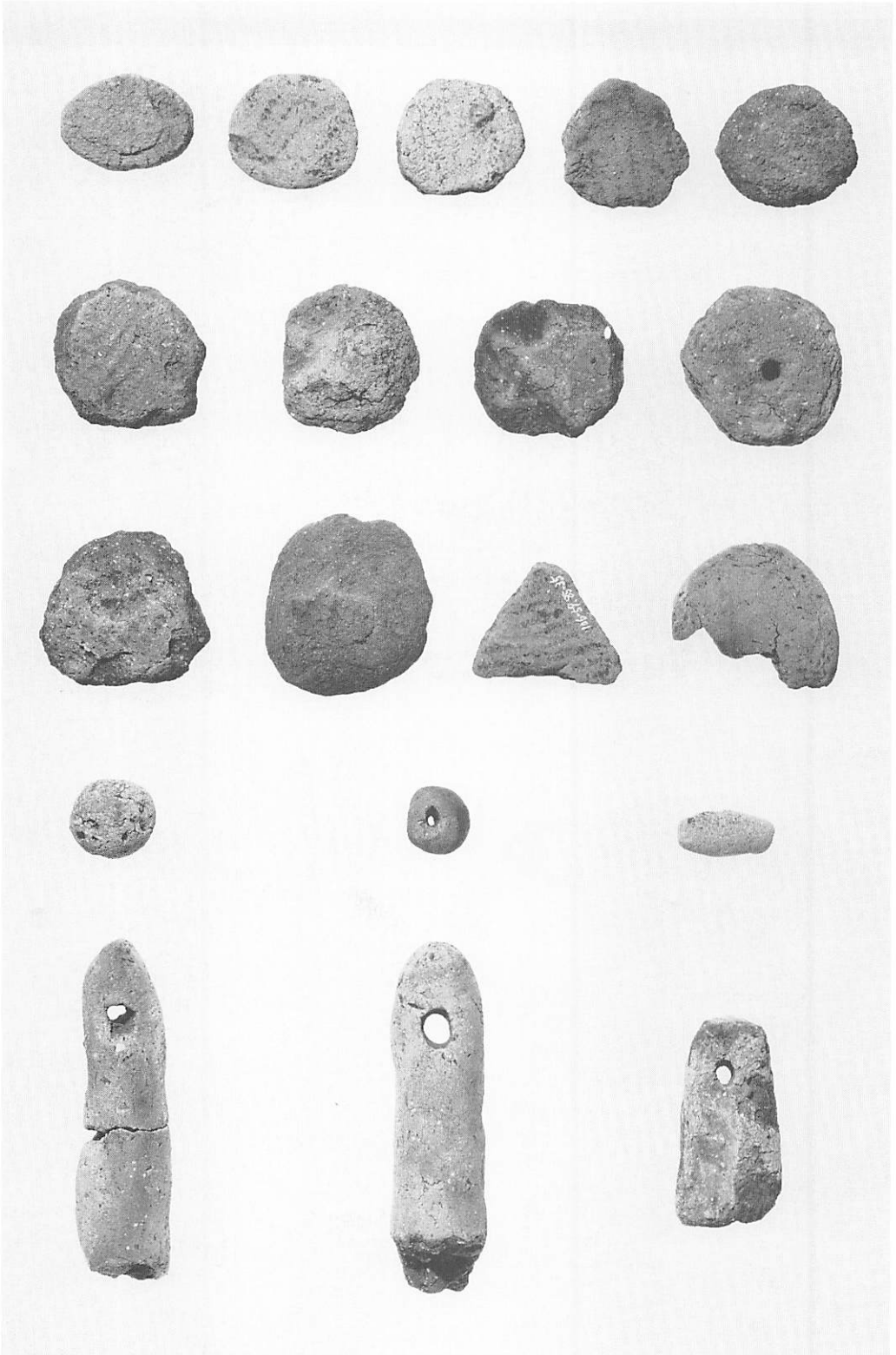
石 製 品



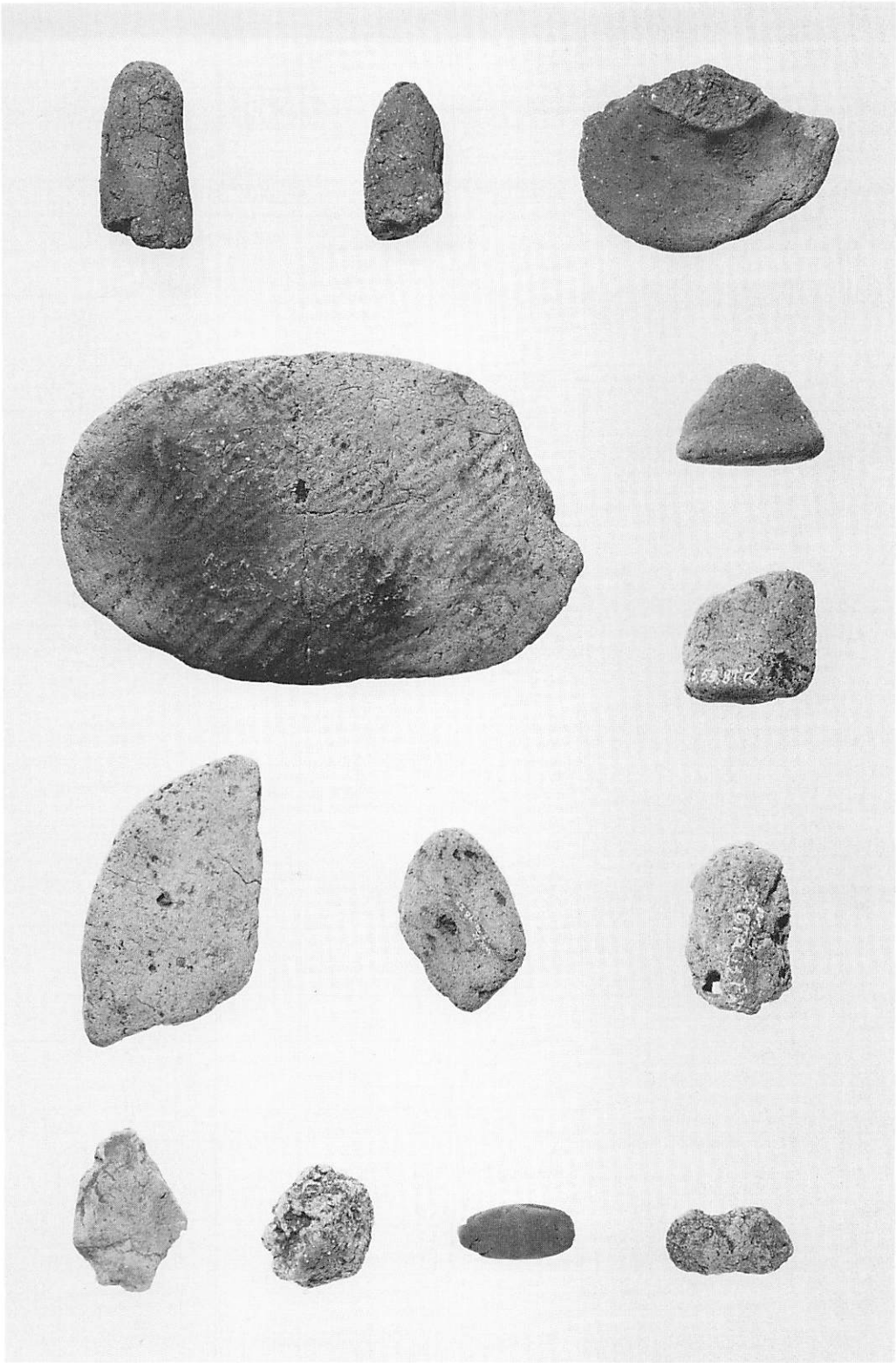
土 製 品 (1)



土 製 品 (2)



土 製 品 (1)



土 製 品 (2)

西野幌12遺跡石製品一覧

No	整No	名　称	グリッド	層位	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	備　　考
1	05	垂飾	57-78-4	Ⅰ	1.5	(1.2)	0.6	1.7	滑石	隅丸方形・1/3欠
2	03	垂飾	56-85-c	Ⅰ	1.7	1.7	0.8	3.3	蛇紋岩	未製品
3	14	垂飾	59-85-30	Ⅱ	1.9	2.0	0.5	2.3	凝灰質砂岩	略円形・中央穿孔
4	12	垂飾	54-87-d	Ⅰ	2.6	2.7	0.5	3.5	凝灰岩？	隅丸三角形・側縁一部欠
5	06	垂飾	60-85-06	Ⅰ	2.7	3.0	0.4	4.5	凝灰質砂岩	略円形・中央穿孔
6	11	垂飾	56-86-a	Ⅱ	3.2	(2.3)	1.3	12.1	琥珀？	略円形・半欠
7	02	管玉	56-85-c	Ⅰ	2.4	1.1	1.2	4.9	虹紋岩	未製品
8	13	垂飾	56-84-b	Ⅰ	2.6	1.2	1.0	4.4	凝灰岩？	葉巻形
9	04	垂飾	55-85-b	Ⅰ	3.7	1.6	1.5	13.3	蛇紋岩	葉巻形・未製品
10	08	垂飾	57-85-a	Ⅱ	1.7	1.8	0.6	2.6	凝灰岩	台形・未製品
11	10	垂飾	57-85-a	Ⅱ	3.1	2.3	1.0	9.0	凝灰岩(珪化)	台形
12	09	垂飾	55-86-b	Ⅰ	4.0	2.1	1.2	13.4	凝灰岩	半円形・未製品
13	01	垂飾	59-84-10	Ⅰ	4.1	2.0	1.2	11.6	凝灰岩？	不等辺三角形
14	07	垂飾	54-87-a	Ⅰ	5.7	2.2	0.8	14.1	緑色凝灰岩	未製品
15	19	垂飾	54-87-a	Ⅱ	3.8	3.7	2.4	42.2	蛇紋岩	敲打痕・未製品？
16	17	石斧未製品？	57-85-c	Ⅱ	(7.4)	(3.1)	2.7	72.1	緑色凝灰岩	
17	15	石棒？	59-86-4	Ⅰ	(4.5)	(3.4)	2.6	63.6	橄欖岩	断面卵型・両端欠
18	18	環石	55-91-73	Ⅱ	(5.2)	(3.8)	3.2	77.4	安山岩	3/4欠
19	16	浮子？	59-90-b	Ⅱ	8.3	6.1	3.6	38.9	軽石	

西野幌12遺跡土製品一覧

No	整No	名　　称	グリッド	層位	長さ	幅	厚さ	重量	備　　考
1	1	土製円盤	58-58	Ⅱ	3.7	2.7	1.1	9.6	表面磨滅。中期後半の土器か。
2	6	土製円盤	54-87-a		3.6	3.1	0.8	8.0	表面磨滅。
3	2	土製円盤	52-87-c		3.6	3.2	0.9	11.3	表面磨滅。中期後半の土器か。
4	3	土製円盤	57-85-d		3.5	3.5	0.9	9.6	結節羽状縄文。
5	5	土製円盤	52-88-a		3.9	3.4	1.2	11.6	表面磨滅。
6	7	土製円盤	57-85-c		4.2	4.0	0.9	15.8	結節羽状縄文。
7	36	土製円盤	49-88-48	Ⅰ	4.0	3.8	1.0	13.9	表両剝落。
8	4	土製円盤	51-88-b		4.1	3.7	0.9	14.7	無文。
9	8	土製円盤	57-85-c	Ⅱ	4.4	4.3	1.3	23.8	中央部に穿孔。未貫通。
10	43	土製円盤	56-91-d		4.2	4.7	1.3	23.6	
11	44	土製円盤	51-86-d	Ⅰ	4.9	4.5	1.5	27.2	
12	10	土製円盤	59-85-35	Ⅰ	4.0	3.1	1.3	9.4	三角形。裏面に縄文。
13	23	土　　版	58-90-85	Ⅲ	(3.8)	4.4	1.0	14.3	無文。
14	13	土　　玉	58-84-b	Ⅱ下	2.3	2.3	2.3	8.0	無文。
15	12	土　　玉	55-86-a	Ⅰ	1.7	1.7	1.6	3.2	一部欠。
16	21	土　　玉	57-91-b	Ⅰ	(2.7)	1.3	1.3	3.2	貫通孔。
17	16	棒状土製品	56-91-d		(9.2)	2.6	2.2	46.5	断面不整円形。刻線。
18	15	棒状土製品	52-87-a	Ⅰ	(9.3)	2.5	2.5	55.3	
19	30	棒状土製品	53-86-d	Ⅰ	5.5	2.7	2.7	39.2	
20	29	棒状土製品	50-87-a	Ⅲ	(5.0)	2.4	2.4	42.3	
21	17	棒状土製品	51-88-78	Ⅰ	(4.0)	2.1	2.1	13.6	
22	27	スタンプ形土製品？	56-85		(4.4)	(6.6)	(2.2)	25.2	
23	31	オロシガネ状土製品	59-89-24		13.4	8.5	1.8	198.4	結束縄文。二脚付き。
24	11	脚状土製品	52-87-d	Ⅱ	2.8	4.0	2.2	14.3	
25	32	脚状土製品	53-87-d		(3.2)	3.5	3.5	25.0	23の脚部か。
26	28	焼成粘土塊	59-81	Ⅰ	(6.3)	(4.5)	2.4	56.0	
27	33	焼成粘土塊	55-91-98	Ⅱ上	4.8)	3.1	1.4	10.8	
28	38	焼成粘土塊	52-87-a		4.4	2.8	2.3	21.0	
29	40	焼成粘土塊	54-86-d		4.3	3.0	0.9	7.2	
30	39	焼成粘土塊	54-86-a		3.3	2.8	1.3	10.5	
31	19	焼成粘土塊	55-91-77		3.1	1.5	1.1	3.8	
32	25	焼成粘土塊	57-91-b	Ⅰ	3.4	1.8	0.9	5.9	

明赤褐色土について

1．はじめに

野幌丘陵一帯の諸遺跡では、縄文時代の焼土と考えられる明赤褐色土の広範囲な分布が見られるケースが少なくない。この明赤褐色土は、表土層の下の、主要な遺物包含層である黒色土層中に認められ、江別市萩ヶ岡遺跡で指摘されたように「遺物と多少の炭化物を含むほかは、単一の焼土で、ピットなどの遺構や他の人為的な痕跡はない」（高橋・野中1982、161頁）ようだ。沢地形に沿って特に厚く堆積する傾向があるが、前章に報告した本遺跡の例のように、ほぼ平坦地でも濃密な分布を示す場合がある。その成因については、縄文中期末頃における森林の伐採、或は山火事等による陽地性の草本群落のひろがりと、それに伴う多量の焼土の生成を説く、江別市吉井の沢１遺跡や萩ヶ岡遺跡などの花粉分析結果に裏付けられた山田悟郎氏らの見解があり（山田・北川1982、山田1982)、支持を得てきたが、一部には明赤褐色土が焼土ではなく、火山灰ではないかと疑うむきもあった。最近では、旧石器時代からの焼狩の伝統を受け継ぐ、野焼を生業の手段とする黒ボク土文化の提唱があり（阪口1987）、新たな局面を迎えた観がある。本節では、この明赤褐色土の成因を明らかにするために、明赤褐色土及びその上･下の層準の土壌の一次鉱物組成を調べ、土壌母材上の相異があるか否かを検討した。

2．試料の処理

土壌試料はグリッド50—88—ｃから得た（Ｐ.262、２・３・５・７)。各試料は次の手順で処理し検鏡した。水洗→６％H_2O_2・10％HCI 処理→超音波洗浄→水洗→乾燥→篩分け→粒径１／４－１／８mmについてカナダバルサムで封入したプレパラートを作成→偏光顕微鏡下で350粒前後検鏡→一次鉱物・その他の粒子量比を粒数％で表わす。粒径１／４mm＜については実体顕微鏡下で観察した。

なお、各試料とも、水洗中に炭化植物片が浮上するのが認められた。

3．結果

土壌中の一次鉱物組成を表１に示す。各試料の主要な構成鉱物は、石英、斜長石、角閃石、斜方輝石、単斜輝石、不透明（鉄）鉱物、及び火山ガラスである。

２：鉱物量は、斜長石＞火山ガラス＞斜方輝石＞石英＞不透明（鉄）鉱物＞角閃石＞単斜輝石。単斜輝石比（単斜輝石量／全輝石量）0.20。粒径１／４mm＜では、角状の灰褐色岩片を多く含む。亜円～円状のチャートを含む。

３：鉱物量は、火山ガラス＞斜長石＞石英＝斜方輝石＞角閃石＞不透明（鉄）鉱物＞単斜輝石。黒雲母を僅量含む。単斜輝石比0.04。粒径１／４mm＜では、角～円状の白・褐灰・黒色岩片を多く含む。黒曜石石器のチップと海綿骨針が認められた。

５：鉱物量は、斜長石＞火山ガラス＞斜方輝石＞角閃石＞石英＝単斜輝石＞不透明（鉄）鉱

物。単斜輝石比0.32。粒径1／4mmでは角状の白色岩片を多く含む。亜円～円状のチャートを含む。

7：鉱物量は、火山ガラス＞斜長石＞斜方輝石＞石英＞角閃石＞単斜輝石＞不透明（鉄）鉱物。クリストバライトを僅量含む。単斜輝石比0.24。粒径1／4mm＜では、角～円状の白・灰色岩片を多く含む。円状のチャートを含む。黒曜石石器のチップが認められた。

各試料とも岩片が多く、角状のものから円状のものまでを含んでいる。一般に、火山ガラスの形態はL－C型（仮称。気泡が破砕し、泡壁がridgeをなして直線～曲線状に走るもの。）が多く、粒径1／4mm＜では、2を除いてF型（仮称。気泡が繊維状に細長く平行に伸びているもの。）も多く含まれる。前述のように、各試料とも炭化植物片を含んでいる。

4．議論と結論

明赤褐色土の主体は、Ⅱb層とした層位の下半部であって、試料5に相当する。Ⅱc層とした層位はⅡb層の直下にあって、試料7に相当する。試料5と7では、粒径1／4－1／8mmの一次鉱物組成と粒径1／4mm＜の粒子の特徴には差異を認め難い。したがってⅡb層下半部はⅡc層を母材とする土壌であり、Ⅱb層下半部の明赤褐色の色調は焼土化によるものと考えられる。

Ⅱb層上半部は、本遺跡における遺物包含層の主体である。野外観察では、本層準はⅡb層下半部が土壌化したものと考えられるが、下位の層準より重鉱物量が少なく、単斜輝石比も小さい。このことは、人為的影響下での表層物質の移動・集積を示していると思われる。

Ⅱa層から得た試料2は、Ⅱb層上半部の試料3と比較すると、重鉱物量がやや多く、火山ガラスが少ない。Ⅱb層との境は非常に明瞭である。これらのことから、Ⅱa層の土壌母材はⅡb層上半部ではない（少なくとも *in situ* なⅡb層上半部ではない）と考えられる。

以上、土壌母材の一次鉱物組成から土壌層の成因を考察した。その結果、明赤褐色土は焼土と考えられる。また、明赤褐色土の上方の土壌も人為的な影響を受けていることが推定される。

（花岡正光・高橋和樹・谷島由貴）

表1　土壌中の一次鉱物組成

（粒径1/4—1/8mm、粒数%）

試料	2	3	5	7	単斜輝石	1.8	0.3	2.6	2.2
重鉱物	14.2	8.9	13.2	12.8	不透明（鉄）鉱物	2.9	0.5	1.6	1.1
石英	5.3	5.6	2.6	2.7	火山ガラス	18.3	33.2	28.0	30.6
クリストバライト	0	0	0	0.5	軽石	0	0.3	0	0
斜長石	27.1	26.0	30.9	27.9	スコリヤ	1.8	1.0	1.1	0.5
黒雲母	0	0.3	0	0	岩片・風化粒	33.3	24.5	24.3	24.9
角閃石	2.4	2.3	3.4	2.5	炭化植物片	0	0.5	0	0
斜方輝石	7.1	5.6	5.5	7.1	単斜輝石比	0.20	0.04	0.32	0.24

西野幌12遺跡の白色火山灰について

1．はじめに

本遺跡では、昭和63年度調査時に表土直下から、島状に薄く堆積した白色の火山灰が検出され、少量の試料を採取した。本遺跡のみならず野幌丘陵では、遺跡の発掘調査のおり表土直下に白色の火山灰がごく薄く見られることがある。この火山灰は、経験的に樽前a火山灰と考えられてきたが報告書などで言及されることは少なかった。わずかに江別市吉井の沢1遺跡でこの火山灰を含む層の直下から擦文土器が出土したことが報告されている（北埋文、1981）ほか、同萩ヶ岡遺跡では、水道部庁舎用地の東側斜面に「灰白色火山灰層（Ta－a）」が3～5cmの厚さで継続的に残っていたり、続縄文時代の土壙墓の上部にも見られた（江別市教育委員会、1982）とされている。

この火山灰が樽前a火山灰とされる根拠は外見的特徴のみであったが、ここでは本遺跡で採取された試料の岩石記載学的な特徴を調べることによってその起源を明らかにしようとするものである。

2．試料の処理

節分け法によって粒度分析を行い、Folk and Ward(1957)の式による中央粒径・平均粒径・分級度・歪度・尖度を求めた。節分けによって得られた細粒砂分（粒径1／4－1／8mm）について次の処理を行い検鏡した。10%HC1処理（湯煎、60℃）→水洗→乾燥→カナダバルサムを封入剤としてプレパラート作成→約500粒を偏光顕微境下で検鏡→各鉱物の量比を粒数%として求める。

3．結　果

火山灰の粒度分布を図1に示す。この累積曲線から、中央粒径Mdϕ＝1.12ϕ（≒0.460mm）、平均粒径Mz＝1.11ϕ（≒0.463mm）、分級度σ_I＝0.842（“moderately sorted”）、歪度Sk_I＝－0.138（“negative-skewed”）、尖度KG＝1.531（“very leptokurtic”）である。粒度は粗粒砂分と中粒砂分でほとんどを占められ、粗粒側に偏している。

鉱物組成は、斜長石43.3%、斜方輝石15.6%、単斜輝石4.9%、不透明（鉄）鉱物10.4%、火山ガラス19.8%、岩片・風化粒6.0%である。火山ガラスは、漿果状のものと泡壁のつくる模様が網目状のものが多い。鉱物粒は新鮮で、自形を示すものや火山ガラスに取り囲まれたものが多い。重鉱物量は30.9%である。単斜輝石比（単斜輝石量／全輝石量）は0.24である。軽石粒は灰白色を呈し、発泡度良く、重鉱物の斑晶を含む。

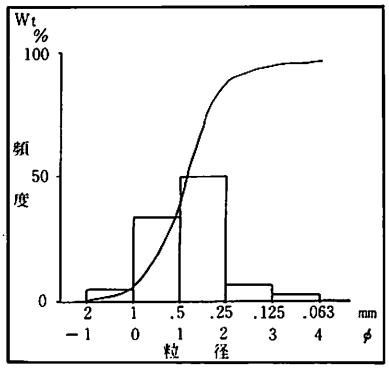


図1　火山灰の粒度分布

4．火山灰の対比

北海道火山灰命名委員会（1979）によれば、本遺跡周辺には樽前起源のTa－a(1739A.D.)が分布する可能性

が大きい(図2)。そこで、模式地附近(苫小牧市美沢)のTa−aと本遺跡の火山灰を比較する。美沢でのTa−aの特徴は次の通りである(筆者未公表資料)。

Ta−aは少なくとも七つのフォールユニットから成る。各ユニットとも、単粒結晶は斜長石・斜方輝石・単斜輝石・不透明(鉄)鉱物から成る(粒径1／4−1／8㎜)。結晶粒は新鮮である。重鉱物量が多く、ほとんどのユニットで40%を超し、斜方輝石≒不透明(鉄)鉱物>単斜輝石である。単斜輝石比0.25−0.36である。火山ガラス量は少なく、主に漿果状・網目状形態のものが認められる。軽石粒は白色を呈し、発泡度良、重鉱物の斑晶を含む。

本遺跡の火山灰と美沢附近のTa−aとは、鉱物組成・火山ガラスの形態・軽石粒の特徴から同じ火山灰と考えて良いであろう。さらに詳しくは、野外における連続性や鉱物の屈折率・化学組成等を調べることが必要であるが、現段階ではTa−aに対比されるものと考える。

(花岡正光・工藤義衛)

引用文献

江別市教育委員会(1982):萩ヶ岡遺跡.

Folk, R.L. and Ward, W.C. (1957): Brazos river bar: A study in the significance of grain size parameters. Jour. Sedimentary Petrology, Vol. 27, pp. 3−26.

北海道火山灰命名委員会(1979):北海道の火山灰分布.

北海道埋蔵文化財センター(1981):吉井の沢の遺跡.

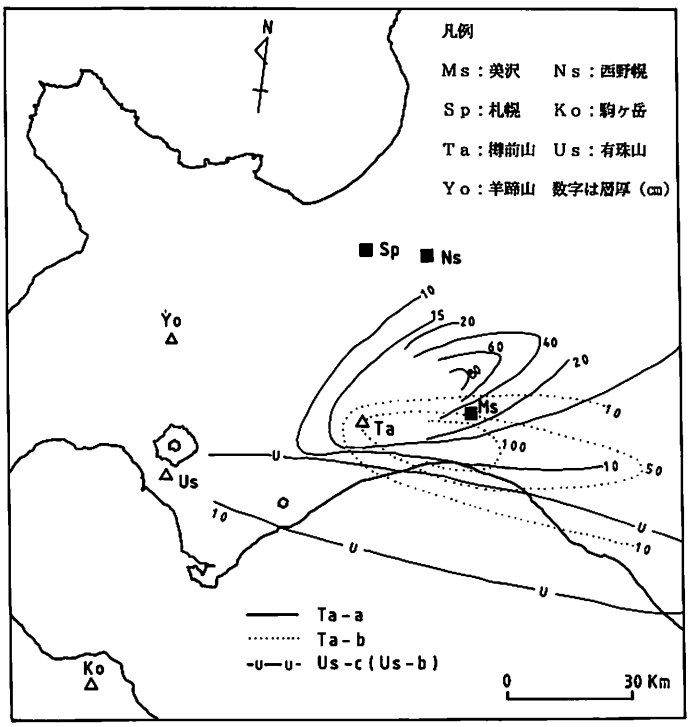


図2 西野幌周辺の完新世火山灰分布
(北海道火山灰命名委員会〈1979〉から引用。一部加筆・省略)

西野幌12遺跡の土器の胎土分析

1．はじめに

西野幌12遺跡の土器、土製品等の胎土分析を行った。野幌丘陵では先年、西野幌14遺跡（北埋文､1988)で胎土分析が行われており、このような限定された地域において継続的に胎土に含まれる鉱物組成の記述が行われることは、各時代、各地域との比較を行う場合、興味深いデータを提供すると思われる。

分析試料は、出来るだけ広く各時代からとったが、本遺跡のみでは良好な試料が得られない時期については、近接する西野幌11遺跡の土器を使用した。また縄文晩期後半については、先に述べた西野幌14遺跡で行っているため、除外した。土製品は、いわゆる焼成粘土塊である。分析に供した試料は、すべて拓本及び実測図で示している。以下に各試料について記述する。

図１は、Ｐ－141から出土したⅠ群ｂ－２類土器の破片で、細い貼付帯が付せられている。表面、割れ口とも摩滅し、粉っぽい印象を受ける。２～10は、縄文時代中期の土器である。２・３は、Ⅲ群ａ類土器で、２点ともよく磨かれており、やや硬質な感じがする。４は、Ｐ－142出土のⅢ群ｂ－２類の破片である（実測図Ａ)。表面は、全体にザラザラしている。５・６は、Ⅲ群ｂ－２類で貼付帯に刺突や突引文が加えられている。７・８は、Ⅲ群ｂ－３類で、７は口唇部、貼付帯状に平たい工具による突引文が加えられており、Ⅲ群ｂ－２類に含まれる可能性もある。８は先に包含層の土器の項で実測図を示した遺物である（実測図Ｂ)。９・10は、時期未詳であるが、その出土状況から極めてⅢ群ｂ－３類と近い関係にあると推測される土器で、いずれも口縁部に２条の縄線文を巡らし胎土に繊維を含む。口縁部はやや細くなり、内面にも縄文が施文される11はⅣ群ａ類土器である。やや鋭い沈線で弧線文が描かれている。12はⅣ群ｂ類で頸部に無文帯をもち、口縁部文様帯には鋸歯状沈線文が描かれる。13は、西野幌11遺跡Ｐ－１から出土した土器と同一個体で胴部の磨消縄文の部分である。14・15は、続縄文時代のⅥ群土器である。14は後北式前半の土器で、硬質で口唇に刻みが施されている（実測図Ｃ)。15は、後北式後半のＣ式と思われる。器面に縦走する線縄文が加えられている。

16～20は土製品である。16・17は表面調整が非常に粗く、16には棒状工具による刺突押圧が加えられている。18・19は表面が比較的滑らかで指でひねったような形をしている。20は、Ｐ-217出土の遺物と同様の白色の礫である。表面はやわらかく、爪でも傷がつくほどである。凝灰岩の可能性もあるが遺跡周辺の地層にこうした礫は認められない。

2．試料の処理

上條（1983）の方法に準じ、以下の手順で処理した。

土器片の採取→写真・拓本等による記録→肉眼や実体顕微鏡による土器表面の観察→乾燥→約10ｇを鉄製乳鉢にて粉砕→1NのHC1中で超音波洗浄→クエン酸ナトリウム・ハイドロサルファイトナトリウム・炭酸水素ナトリウムによる脱鉄処理→乾燥→節分け→極細粒砂分（粒径１／８－１／16㎜）についてカナダバルサムを封入剤としてプレパラート作成→偏光顕微鏡下で

No	図No	発掘区 遺構名	層位	時代	型式	部位	文様	厚さ㎜	色調* 内面	色調* 外面	焼成及び保存状態**	表面観察
07	1	60-91 P-141		縄文早期後葉	東釧路Ⅲ式	胴	貼付帯に刺突	7～8	10YR7/4	7.5YR4/2	良	中粒～極細粒砂質.moderately sorted.angular な白色岩片、重鉱物を多く含む。angular な長石を含む.赤褐色の鉄結核を含む.断面に径0.2㎜±の孔が散在し.ごく弱い片理様組織が認められる。細かい植物圧痕が認められる。
13	2	表採	Ⅰ	縄文中期前葉	円筒上層式	口縁	肥厚帯に貼り付	7～10	7.5YR5/8	7.5YR7/4	良	粗粒～細粒砂質泥.poorly sorted.angular な長石を多く含む。angular な石英、火山ガラスを含む。断面には0.2㎜以下の孔が認められる。外面には細かいひびが認められる。
14	3	52-87-d		縄文中期前葉	円筒上層式	口縁	肥厚帯に貼付文	9～11	2.5YR5/8	2.5YR5/8	良	中粒～極細粒砂質. moderately sorted. angular な石英、長石、重鉱物、白色岩片を多く含み、roundedなチャートを含む.海面骨針をまれに含む。断面には径0.3㎜以下の孔が多く認められる。
06	4	59-85-89 P-142	覆土	縄文中期後葉	天神山式	胴	竹管文	7～9	2.5YR4/8	2.5YR2/1	良	粗粒～細粒砂質泥. poorly sorted. angular な長石、岩片を多く含み、angular な重鉱物を含む。断面に径0.3㎜以下の孔が多く認められる。細かい植物圧痕が認められる。
11	5	51-87-24	Ⅱ	縄文中期後葉	柏木川式	胴	貼付帯に突引文	6～7	10YR8/4	10YR5/2	良	粗粒～細粒砂質泥.poorly sorted.angularな長石、白色岩片を多く含み、angularな石英、重鉱物を含む。赤褐色の鉄結核を含む。断面に片理様組織及び、径0.2㎜以下の孔が認められる。
10	6	59-87-b		縄文中期後葉	柏木川式	口縁	刺突を持つ貼付帯	9～10	7.5YR2/2	10YR2/1	良	中粒～細粒砂質.poorly sorted.angularな白色岩片を多く含み、細礫大のangularな白色岩片を含む。(最大6×3.5㎜).断面に径0.1㎜±の孔が散在し、中央の黒色部分に特に多い。
18	7	56-91-06	Ⅱ	縄文中期後葉	北筒式	口縁	貼付帯に刺突	10～12	7.5YR7/4	7.5YR7/6	良	中粒～細粒砂質泥.poorly sorted.angularな白色岩片を多く含み、angularな長石、重鉱物を含む.赤褐色の鉄結核を含み、火山ガラスをまれに含む.断面に弱い片理様組織が認められ、径1㎜±の孔が多く認められる。内外面に植物圧痕が認められる。
05	8	54-86-c	Ⅱ	縄文中期後葉	北筒式	口縁	ＯＩ突瘤紋	6～12	10YR3/3	7.5YR6/4	良	中粒～細粒砂質泥.poorly sorted.angular な白色岩片を多く含み、angularな長石、重鉱物(主に角閃石)を含む赤褐色の鉄結核を含む.断面に径0.2㎜以下の孔が、内外面には、植物圧痕が認められる。口縁部肥厚帯の貼り足した粘土に角閃石が含まれる。
12	9	54-86-d		縄文中期後葉	北筒式？	口縁	二条の縄線文	8～9	10YR6/2	10YR6/2	良	粗粒～中粒砂質泥.poorly sorted.angularな白色岩片を多く含み、angularな長石、重鉱物を含む.sub-angular～sub-roundedなチャートを含む。断面に径0.2㎜以下の孔が認められる.剝落面には、植物圧痕が認められる。
15	10	55-91-91	Ⅱ	縄文中期後葉	北筒式？	口縁	二条の縄線文	12～13	10YR7/3	10YR5/1	良	粗粒～細粒砂質泥.poorly sorted.angularな白色岩片、長石、石英、重鉱物を多く含む.roundedなチャートを多く含む.断面に径0.2㎜の孔が認められる。内面に植物圧痕が認められる。
19	11	57-91-d	撹乱	縄文後期前葉	手稲砂山式	胴	弧状沈線文	11～10	5YR3/1	7.5YR3/1	良	粗粒～細粒砂質泥.poorly sorted.angularな白色岩片を多く含む。angularな長石を含む.断面に径0.2㎜以下の孔が認められる。
20	12			縄文後期中葉	船泊上層式	口縁	鋸歯状沈線文	7～8	7.5YR6/3	7.5YR6/3	良	粗粒～細粒砂質泥.moderately sorted.angularな石英、長石を多く含む。angularな重鉱物、火山ガラスを含む。angular～sub-angularな白色岩片を多く含む(最大径5.5×3㎜).内面に細かいひびが見られる。
	13	西野幾11遺跡 P－1	覆土	縄文後期中葉	船泊上層式	胴	磨消し縄文	8	7.5YR7/2	裏面剝離	良	粗粒～中粒砂質泥.poorly sorted.sub-roundedなチャートを多く含む。angularな長石、重鉱物を含む.赤褐色の鉄結核を含む。断面に弱い片理様組織が認められ、径0.5㎜以下の孔が認められる。
	14	56-85-c	Ⅰ	縄縄文時代	後北A式	口縁	磨消し縄文	7～9	10YR6/1	7.5YR4/2	良	粗粒～中粒砂質泥.poorly sorted.angularな白色岩片、長石、石英、重鉱物を含む。赤褐色の鉄結核を含む.断面に径0.5㎜以下の孔が認められる。
24	15	65-68-9 P－22	覆土	縄縄文時代	後北C式	胴		6～7	7.5YR6/4	7.5YR6/6	良	中粒～細粒砂質泥.moderately sorted.angularな長石、重鉱物を多く含み、sub-rounded なチャードを含む。赤褐色の鉄結核を含む.断面に片理様組織が認められる。
04	16	52-87-13	Ⅰ	未詳	未詳		刺突など	14～20	10YR7/4	10YR7/4	良	粗粒～中粒砂質.moderately sorted.angularな石英、長石、重鉱物を含む。sub-roundedな赤色チャートを含む。細かいヒビが多数認められる。
01	17	51-88-06	Ⅰ	未詳	未詳		無文	5～13	2.5Y7/3	2.5Y7/3	良	粗粒～中粒砂質泥.poorly sorted.angularな白色岩片を多く含む。angularな長石、重鉱物を多く含み、sub-roundedなチャートを含む。赤褐色の鉄結核を含む.断面に弱い片理様組織が認められる。細かいひびが認められる。
03	18	58-84-10		未詳	未詳		無文	22～25	10YR7/6	10YR7/6	良	中粒砂質～泥質.well sorted.angularな石英、長石、重鉱物、暗灰色の岩片を含む。黒褐色のマンガン結核を含む.雲母をまれに含む。表面は、磨滅し細かい亀裂が認められる。
02	19	57-91-84	Ⅱ	未詳	未詳		無文	9～10	7.5YR7/4	7.5YR7/4	良	泥質.well sorted.angularな白色岩片を多く含む。表面は、磨滅し細かい亀裂が認められる。
09	20	56-91-27	Ⅱ	未詳	未詳		無文	24～31	2.5Y8/1	2.5Y8/1		細粒～極細粒砂質.poorly sorted.angularな石英を多く含む。angularな重鉱物を含む.表面に、径0.1～0.2㎜の孔が多数認められる.植物圧痕、擦痕等は認められない。

＊　標準土色帖（小山・竹原、1976）による。
＊＊　上條（1983）による。

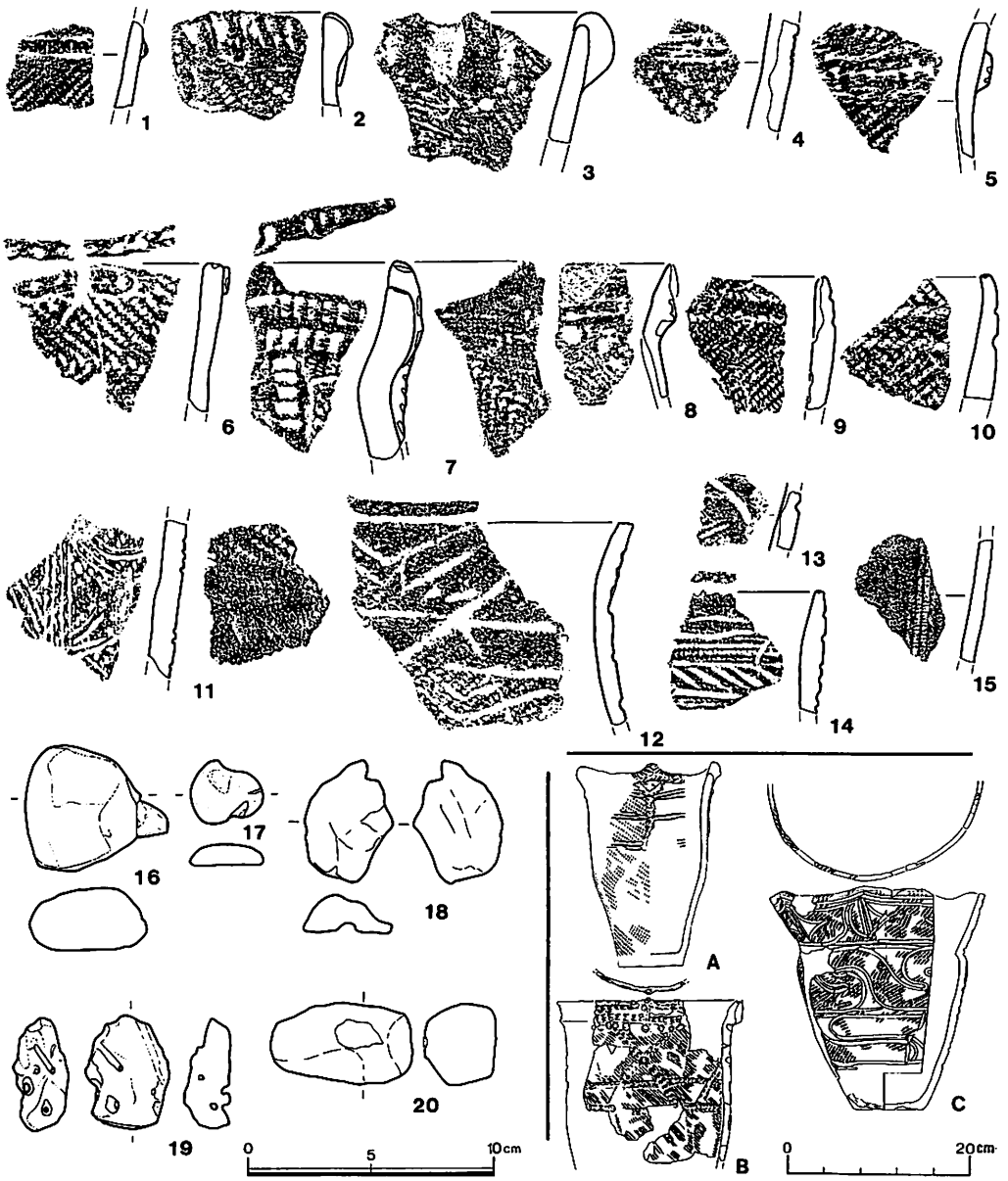
表１　胎土分析試料一覧

雲母類を除き約350粒を検鏡→各鉱物・生物起源粒の粒数％を求める。雲母類については検鏡粒数（約350）に含めず、その粒数が検鏡粒数の１％＞のとき「まれ」、１－10％のとき「少ない」と表現した。

火山ガラスについては形態分類を行い、各型の粒数％を求めた。形態は、主に気泡と泡壁の形状によって以下のように分類した。

Ｆ型：扁平で、気泡が繊維状に細長く平行に伸びているもの。

Ｌ－Ｃ型：気泡が破砕し、泡壁が ridge をなして直線－曲線状に走るもの。



西野幌胎土分析試料

M型：気泡と泡壁がつくる模様が網目状にみえるもの。

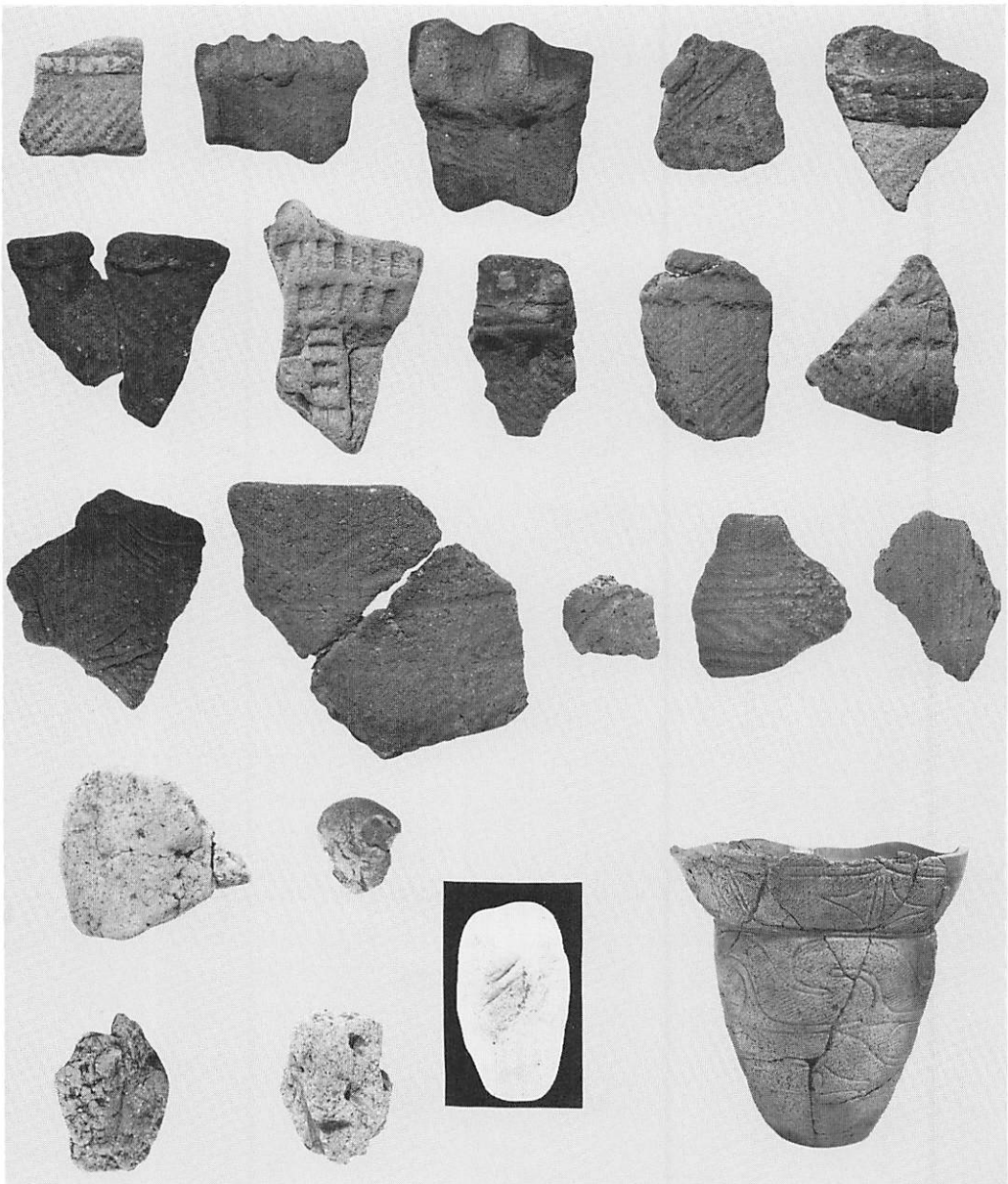
N型：扁平または塊状で、針状の気泡・条線があるもの。

P型：薄い平板状。

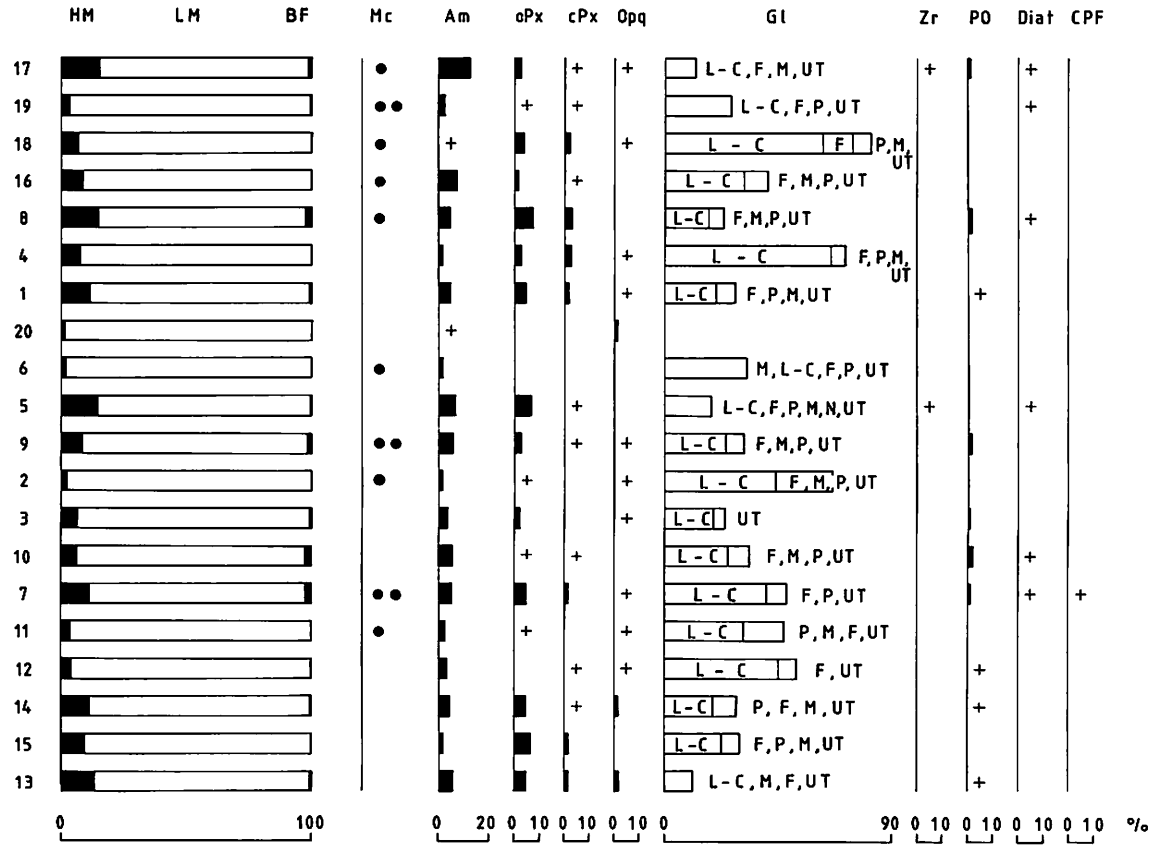
UT：未分類。上記の型に属さないものを一括する。ほとんどはL－C型様であるが、ridgeの形状が異なる点でL－C型とは区別する。

3．結　果

土器の表面観察結果を表1に、胎土・焼成粘土塊・礫の極細粒砂分の一次鉱物組成を図2に



写真図版　胎土分析試料



凡例　HM：重鉱物　LM：軽鉱物　BF：生物起源粒　Mc：雲母類　Am：角閃石　oPx：斜方輝石　cPx：単斜輝石
Opq：不透明（鉄）鉱物　Gl：火山ガラス（L－C，F等は火山ガラスの型。本文参照。）　Zr：ジルコン
Po：植物珪酸体　Diat：珪藻　CPF：炭化植物片

図２、土器胎土・焼成粘土塊・礫の一次鉱物組成

示す。各試料の一次鉱物組成上の特徴は以下の通りである（試料№.は図№.に同じ）。

試料１：主に斜長石から成る。石英を含む。重鉱物量は比較的多く、角閃石≒斜方輝石＞単斜輝石＞不透明（鉄）鉱物である。角閃石は褐色種が多い。火山ガラスはＬ－Ｃ型が多く、次いでＦ型が多い。植物珪酸体を含む。

試料２：主に火山ガラスから成る。重鉱物量は少なく、角閃石＞不透明（鉄）鉱物＞斜方輝石である。角閃石は緑色種のみである。角閃石・斜方輝石はかなり変質している。雲母類をまれに含む。火山ガラスはＬ－Ｃ型が多く、次いでＵＴが多い。

試料３：主に斜長石から成る。石英を含む。重鉱物量は比較的少なく、角閃石＞斜方輝石＞不透明（鉄）鉱物である。角閃石は褐色種がやや多い。火山ガラスはＬ－Ｃ型とＵＴから成り、Ｌ－Ｃ型が多い。植物珪酸体を含む。

試料４：主に火山ガラスから成る。重鉱物量は比較的多く、単斜輝石≒斜方輝石＞角閃石＞不透明（鉄）鉱物である。角閃石は緑色種が多い。火山ガラスはほとんどＬ－Ｃ型から成る。

試料５：主に斜長石から成る。石英を含む。重鉱物量は多く、角閃石≒斜方輝石≫単斜輝石＞ジルコンである。角閃石はほとんど緑色種である。火山ガラスは主にＬ－Ｃ型から成り、次いでＦ型が多い。羽状目の珪藻破片を含む。

試料６：主に斜長石から成る。石英を含む。重鉱物量は少なく、緑色種の角閃石を少量含む。雲母類をまれに含む。火山ガラスは主にＵＴから成り、次いでＭ型が多い。

試料７：主に火山ガラスから成る。石英を含む。重鉱物量は比較的多く、角閃石≒斜方輝石＞単斜輝石＞不透明（鉄）鉱物である。角閃石は緑色種のみである。雲母類は少ない。火山ガラスはほとんどＬ－Ｃ型から成る。植物珪酸体・羽状目珪藻破片・炭化植物片を含む。

試料８：主に斜長石から成る。石英を含む。重鉱物量は多く、斜方輝石＞角閃石＞単斜輝石である。角閃石はほとんど緑色種である。雲母類をまれに含む。火山ガラスはほとんどＬ－Ｃ型から成る。植物珪酸体・羽状目珪藻破片を含む。

試料９：主に斜長石から成る。石英・クリストバライトを含む。重鉱物は比較的多く、角閃石＞斜方輝石＞不透明（鉄）鉱物≒単斜輝石である。角閃石は緑色種のみである。雲母類は少ない。火山ガラスはほとんどＬ－Ｃ型から成る。植物珪酸体を含む。

試料10：主に斜長石から成る。重鉱物量は比較的少なく、角閃石≫斜方輝石≒単斜輝石である。角閃石は緑色種のみである。火山ガラスはほとんどＬ－Ｃ型から成る。植物珪酸体・羽状目珪藻破片を含む。

試料11：主に斜長石と火山ガラスから成り、両者はほぼ等量である。重鉱物量は少なく、角閃石＞斜方輝石＞不透明（鉄）鉱物である。角閃石は緑色種のみである。雲母類をまれに含む。火山ガラスは主にＬ－Ｃ型から成り、次いでＵＴが多い。

試料12：主に火山ガラスと斜長石から成る。火山ガラス量が斜長石量をやや上回る。石英を含む。重鉱物量は少なく、角閃石≫不透明（鉄）鉱物＞単斜輝石である。角閃石は緑色種のみで、自形－半自形を呈し新鮮である。火山ガラスはほとんどＬ－Ｃ型から成る。植物珪酸体を

含む。

試料13：主に斜長石から成る。石英を含む。重鉱物量は多く、角閃石＞斜方輝石＞不透明（鉄）鉱物≒単斜輝石である。角閃石はほとんど緑色種である。火山ガラスはＬ－Ｃ型が多く、次いでＵＴが多い。植物珪酸体を含む。

試料14：主に斜長石から成る。石英を含む。重鉱物量は比較的多く、斜方輝石≒角閃石＞不透明（鉄）鉱物＞単斜輝石である。角閃石は緑色種が多い。火山ガラスはＬ－Ｃ型が多く、次いでＰ型が多い。植物珪酸体を含む。

試料15：主に斜長石から成る。石英を含む。重鉱物量は比較的多く、斜方輝石＞角閃石≒単斜輝石である。角閃石は緑色種と褐色種がほぼ等量である。火山ガラスはＬ－Ｃ型が多く、次いでＵＴが多い。

試料16：主に斜長石と火山ガラスから成る。斜長石量が火山ガラス量をやや上回る。重鉱物量は比較的多く、角閃石≫斜方輝石≒単斜輝石である。角閃石は緑色種のみである。雲母類をまれに含む。火山ガラスはＬ－Ｃ型が多く、次いでＦ型が多い。

試料17：主に斜長石から成る。石英を含む。重鉱物量は多く、角閃石≫斜方輝石＞単斜輝石≒不透明（鉄）鉱物＝ジルコンである。角閃石はほとんど緑色種である。雲母類をまれに含む。火山ガラスはほとんどＬ－Ｃ型から成る。植物珪酸体・羽状目珪藻破片を含む。

試料18：ほとんど火山ガラスから成る。重鉱物量は比較的多く、斜方輝石＞単斜輝石＞角閃石≒不透明（鉄）鉱物である。雲母類をまれに含む。火山ガラスはＬ－Ｃ型が多く、次いでＦ型が多い。植物珪酸体を含む。

試料19：主に斜長石から成る。石英・クリストバライトを含む。重鉱物量は少なく、角閃石＞斜方輝石＞単斜輝石である。角閃石は、褐色種が多い。雲母類は少ない。火山ガラスはＬ－Ｃ型が多く、次いでＵＴが多い。円心目珪藻破片を含む。

試料20：ほとんど全て斜長石から成る。石英を含む。重鉱物量は少なく、不透明（鉄）鉱物＞角閃石である。ガラス質の粘土塊を多く含む。

４．まとめ

極細粒砂分の一次鉱物組成上の類似性から、試料を以下のように分類した。

Ⅰ：重鉱物量が多く、角閃石と斜方輝石がほぼ等量で、角閃石は緑色種が多いもの。試料５・８・13・14（縄文時代中期後葉柏木川式・同北筒式・同後期中葉船泊上層式・続縄文時代後北Ａ式）。

Ⅱ：重鉱物量は少ないものから比較的多いものまである。重鉱物は主に角閃石から成り、緑色種のみである。試料９・10・12・16（縄文時代中期後葉北筒式？・同北筒式？・同後期中葉船泊上層式・焼成粘土塊）。

Ⅲ：重鉱物量は比較的少ないものと比較的多いものがある。重鉱物は主に角閃石と斜方輝石から成り、角閃石は褐色種が多い。試料１・３（縄文時代早期後葉東釧路Ⅲ式・同中期前葉円筒上層式）。

Ⅳ：火山ガラス量が多い。重鉱物量は比較的多く、主に斜方輝石と単斜輝石から成るもの。試料４・18（縄文時代中期後葉天神山式・焼成粘土塊）。

Ⅴ：火山ガラス量が多く、重鉱物量は少ない。重鉱物は主に角閃石から成り、緑色種のみである。試料２・11（縄文時代中期前葉円筒上層式・同後期前葉手稲砂山式）。

Ⅵ：重鉱物量が少なく、火山ガラス型にＵＴとともにＭ型ガラスを多く含むもの。重鉱物は少量の緑色角閃石から成る。試料６（縄文時代中期後葉柏木川式）。

Ⅶ：重鉱物量が比較的多く、主に角閃石と斜方輝石から成り、角閃石は緑色種のみのもの。試料７（縄文時代中期後葉北筒式）。

Ⅷ：重鉱物量は比較的多く、主に斜方輝石から成るもの。試料15（続縄文時代後北Ｃ式）。

Ⅸ：重鉱物量が多く、主に角閃石から成るもの。角閃石は緑色種が多い。試料17（焼成粘土塊）。

Ⅹ：重鉱物量は少ない。重鉱物は主に角閃石から成り、褐色種が多い。試料19(焼成粘土塊)。

Ⅺ：重鉱物量が少なく、ほとんど斜長石から成るもの。試料20（礫）。

試料数が少ないためもあるであろうが、試料の時代・時期・型式と上記の分類型との間にはほとんど相関が認められない。ただし、試料９・10は同一原材料を使用したと推定される。また、試料16の焼成粘土塊は試料９・10・12の、試料18の粘土塊は試料４の材料となった可能性がある。

西野幌14遺跡出土の土器（Ｖ群ｃ類 ―縄文時代晩期後葉タンネトウＬ式―)の胎土分析が行われている（北埋文、1988)。西野幌14遺跡と本遺跡の試料を比較すると、西野幌14遺跡の試料No．51・70は本報告のⅠに、No．58はⅤに属するとみなすことができる。両遺跡を合わせるとⅠに属する試料が最も多い。

今回の分析においては、試料と胎土物質との相関が一部を除いて不明瞭であった。今後、試料数を増やすことによって、この問題が解決されるであろう。

引用文献

北海道埋蔵文化財センター（1988)：江別市西野幌11遺跡・西野幌13遺跡・西野幌14遺跡・下学田遺跡．186pp．

上條朝宏（1983)：胎土分析Ⅰ．加藤晋平・小林達雄・藤本　強編「縄文文化の研究　５」、270 pp．，雄山閣出版：pp．47－67．

小山正忠・竹原秀雄（1976)：新版標準土色帖（５版)．日本色研事業．

（花岡正光・工藤義衛）

結　語

前章までに西野幌12遺跡の７年間に及ぶ発掘調査の結果を報告してきたが、遺構や遺物の個々について説明が簡略にすぎるという批判を免れえないであろう。長い間に積み残されてきた仕事量は予想をはるかに上回り、このような形に編集するだけで多大の労力を必要とした。単年度毎に力を尽くして報告書をまとめなければ、事実関係すら曖昧なままに、記録が風化してしまう危険性の大きいことを、肝に銘じたい。

調査結果を簡単に振り返ると、調査区内最古の資料は、縄文時代早期中葉の貝殻文土器である。僅か２点と出土量は少ない。早期後葉のコッタロ式の段階では竪穴住居（Ｈ－３）がつくられ、集落が営まれるようになる。Ｐ-141とした土壙も、住居内の一施設であった可能性が残る。Ｈ－３とほぼ同時期の竪穴住居跡は、西野幌13遺跡（北埋文1988）にも見出されている。

縄文前期では、Ｐ－101の覆土や包含層から若干の大麻Ｖ式土器の破片が得られている。

縄文中期の遺物は円筒上層式からあり、竪穴住居跡（Ｈ－１）が残された天神山式の段階で漸増、北筒式に至るや遺構や遺物が激増する。検出された住居や土壙は、比較的簡単な構造で、季節的な経済活動や一時的な作業に伴うものが多いと推定される。広範囲に分布する焼土や柱穴も、この時期のものが少なくないであろう。焼土は、花岡の分析によって、火山灰などではなく焼土と確認された。出土した北筒式土器には、器形や文様にさまざまな変化がみられ、ごく初期のものから最終段階のものまで、幅のあることが知られる。個々の出土状態や他遺跡でのセット関係などを勘案して、型式学的な序列をきわめるべきところであるが、現状では困難であり、今後の課題としたい。石器も豊富で各器種があり、黒曜石のチップや石斧を調整した片岩の剝片なども多い。ここでは道具類の加工も盛んに行われたのである。

縄文後期では、初頭から中葉にかけての資料が見出された。特に余市式系の新しい段階に位置づけられる、縄線文をもつ土器群の存在が目につく。高砂貝塚（大島1987）などでも注意されたように、結束部など節目をもつ縄文原体が多用されるようだ。

縄文晩期では、末葉のタンネトウＬ式土器を伴出する土壙が検出されている。それらは、西野幌14遺跡（北埋文1988）の類例と、時間や性格をほぼ一にするものと思われる。

続縄文期の資料は初頭から後葉のものまであり、特に後北Ａ式期のものと、後北C_2・Ｄ式期のものが多い。後北Ａ式期の所産らしいピットは、調査区の中央部西側にまとまっており、東へ150ｍ程離れた南東部でも、該期の遺物の分布が濃く、空間利用の一端が窺われる。後北C_2・Ｄ式期の墓壙は、北西部に80基以上集中していた。配石を伴う例が多く、土器の伴出例はそう多くない。ただし、上部に献供された土器が、耕作によって攪乱された例もあるようだ。

その他、溝状８基、楕円形３基のＴピットなどが検出されている。また、黒色土上部に残存する白色火山灰が、樽前火山灰ａ層に対比されることなども、花岡によって明らかとなった。

最後に、７年間に亘って御指導、御協力いただいた高橋正勝、直井孝一、園部真幸の三氏をはじめ江別市教育委員会の皆様や、調査を手伝ってくれた方々に深く感謝申し上げる次第です。

（高橋　和樹）

引用・参考文献

石川　徹　1967「札幌郡手稲砂山出土の土器について」『北海道考古学３』
石田正夫・曽屋龍典　1980　20万分の１地質図幅「札幌」　北海道立地下資源調査所
上野秀一・羽賀憲二・高橋和樹　1975『Ｓ256遺跡　Ｓ257遺跡　Ｓ253遺跡』札幌市文化財調査報告書ＸＩ
上野秀一・加藤邦雄　1987『Ｋ135遺跡』札幌市文化財調査報告書ＸＸＸ
遠藤龍畝　1978『富ヶ岡遺跡』広島町教育委員会
大島直行編　1979『知内川流域の縄文時代遺跡』知内町教育委員会
大島直行・瀬川拓郎　1982『札内台地の縄文時代集落址』登別市教育委員会
大島直行　1987「遺構外出土の遺物」『高砂貝塚』札幌医科大学解剖学第二講座
大谷敏三・田村俊之　1982『末広遺跡における考古学的調査(下)』千歳市教育委員会
大沼忠春　1981「北海道中央部の縄文中期から後期初頭の編年について」『考古学雑誌』66―４
大沼忠春　1982「後北式土器」『縄文土器大成　５　統縄文』講談社
大沼忠春ほか　1983『南稲府５遺跡』北海道文化財保護協会
大沼忠春　1986「道南の縄文前期土器群の編年について(Ⅱ)」『北海道考古学22』
大場利夫・石川　徹　1956『手稲遺跡』手稲町教育委員会
加藤邦雄・上野秀一・高橋和樹・土田亜佐子　1976『Ｔ210遺跡』札幌市文化財調査報告書ＸⅢ
加藤邦雄・上野秀一・羽賀憲二　1982『Ｓ458遺跡　Ｓ320遺跡　Ｓ456遺跡』札幌市文化財調査報告書ＸＸⅢ
加藤邦雄・上野秀一・羽賀憲二・田村美智子　1982『Ｓ153遺跡』札幌市文化財調査報告書ＸＸⅣ
加藤邦雄・上野秀一・羽賀憲二・田部　淳　1982『Ｓ354遺跡』札幌市文化財調査報告書ＸＸＶ
加藤邦雄・上野秀一・羽賀憲二・田部淳・田村美智子　1983『Ｔ151遺跡』札幌市文化財調査報告書ＸＸⅥ
加藤邦雄・上野秀一ほか　1984『Ｔ464遺跡　Ｔ465遺跡　Ｔ466遺跡』札幌市文化財調査報告書ＸＸⅦ
加藤邦雄　1987『Ｓ270遺跡』札幌市文化財調査報告書ＸＸＸＩ
加藤邦雄・上野秀一・羽賀憲二　1987『Ｎ295遺跡』札幌市文化財調査報告書ＸＸＸⅡ
北川芳男・中村　斎ほか　1974「野幌丘陵周辺の第四紀に関する諸問題」北海道開拓記念館研究年報　第３号
北川芳男・矢野牧夫ほか　1975「野幌丘陵の地質と古生物」北海道開拓記念館調査報告書　第９号
斎藤　傑ほか　1968『嵐山遺跡』嵐山遺跡調査会
斎藤　傑・氏江敏文　1974『松前町大津遺跡発掘報告書』松前町教育委員会
斎藤　傑ほか　1981『東神楽町沢田の沢遺跡発掘報告』東神楽町教育委員会
西連寺健・田村俊之　1979『ウサクマイ遺跡群とその周辺における考古学的調査』千歳市埋蔵文化財調査報告書Ⅳ
阪口　豊　1987『黒ボク土文化』『科学』57―６
佐藤一夫・工藤　肇・宮夫靖夫　1976『植苗貝塚』苫小牧市教育委員会
佐藤一夫・工藤　肇ほか　1980『苫小牧東部工業地帯　埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅳ』苫小牧市教育委員会
佐藤一夫・宮夫靖夫編　1984『タプコプ』苫小牧市教育委員会・苫小牧市埋蔵文化財調査センター
佐藤一夫ほか　1987『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』苫小牧市教育委員会・苫小牧市埋蔵文化財調査センター
佐藤訓敏ほか　1981『東野幌４・元江別３』江別市文化財調査報告書ＸⅡ
佐藤訓敏　1983『猿別Ｃ遺跡の考古学的調査』幕別町教育委員会
佐藤訓敏・北沢　実編　1985『帯広・晩遺跡』帯広市教育委員会
佐藤忠雄ほか　1987『葭原２』音更町教育委員会
関谷マリ子　1974（1947）『野幌部落史（復刊）』国書刊行会
園部真幸・中村織音　1986『大麻15遺跡』江別市文化財調査報告書ＸＸⅡ
園部真幸　1987『高砂遺跡』江別市文化財調査報告書25
高倉新一郎・知里真志保ほか監修　1954『北海道駅名の起源』札幌鉄道管理局
高橋正勝・直井孝一・園部真幸・土田亜佐子　1979『江別太遺跡』北海道先史学協会
高橋正勝・直井孝一ほか　1981『元江別遺跡群』江別市文化財調査報告書ＸⅢ
高橋正勝・野中一宏ほか　1982『萩ヶ岡遺跡』江別市文化財調査報告書ＸＶ
高橋正勝・園部真幸　1984『旧豊平河畔　七丁目沢７』江別市文化財調査報告書ＸⅦ
高橋正勝・園部真幸　1985『旧豊平河畔』江別市文化財調査報告書ＸⅨ
高橋正勝・園部真幸　1986『大麻３遺跡』江別市文化財調査報告書ＸＸ
高橋正勝・園部真幸・中村織音　1986『高砂遺跡』江別市文化財調査報告書ＸＸＩ
高橋正勝・園部真幸　1986『旧豊平河畔Ｖ』江別市文化財調査報告書23
高橋正勝・園部真幸　1987『大麻21遺跡』江別市文化財調査報告書24
田部　淳・田村リラコ・今田瑞恵　1987『Ｔ361遺跡』札幌市文化財調査報告書ＸＸⅨ
豊原熙司　1981「北海道東部の土器」『縄文文化の研究　４』雄山閣
直井孝一編　1982『大麻６』江別市文化財調査報告書ＸⅣ
直井孝一編　1983『大麻６』江別市文化財調査報告書ＸⅥ
直井孝一編　1988『高砂遺跡（４）』江別市文化財調査報告書26
永田方正　1891（1984）『北海道蝦夷語地名解（復刻）』草風館
中村　斎・君　尹彦　1970『江別市大麻第Ｖ遺跡発掘調査報告書』江別市教育委員会

中村　斎・松下　亘　1975 『小島の沢遺跡』江別市教育委員会
野村　崇　1977 『長沼町幌内タンネトウ遺跡の発掘調査』空知地方史研究協議会
羽賀憲二編　1988 『K482遺跡』札幌市文化財調査報告書ＸＸＸＶ
長谷川　徹　1987 『エサンヌップ遺跡』門別町教育委員会
北海道開拓記念館　1981 『野幌丘陵とその周辺の自然と歴史』北海道開拓記念館研究報告　第６号
北海道教育委員会　1978 『美沢川流域の遺跡群Ⅱ』
(財) 北海道埋蔵文化財センター　1980 『大麻１遺跡・西野幌１遺跡・西野幌３遺跡・東野幌３遺跡』
(財) 北海道埋蔵文化財センター　1981 『大麻１遺跡』北埋調報２
(財) 北海道埋蔵文化財センター　1982 『吉井の沢の遺跡』北埋調報５
(財) 北海道埋蔵文化財センター　1982 『ママチ遺跡』北埋調報９
(財) 北海道埋蔵文化財センター　1983 『千歳５遺跡』北埋調報12
(財) 北海道埋蔵文化財センター　1983 『川上Ｂ遺跡』北埋調報13
(財) 北海道埋蔵文化財センター　1984 『美沢川流域の遺跡群Ⅶ』北埋調報14
(財) 北海道埋蔵文化財センター　1985 『千歳５遺跡』北埋調報21
(財) 北海道埋蔵文化財センター　1986 『美沢川流域の遺跡群Ⅸ』北埋調報24
(財) 北海道埋蔵文化財センター　1985 『西野幌11遺跡』北埋調報25
(財) 北海道埋蔵文化財センター　1986 『川上Ｂ遺跡・Ｃ地区』北埋調報27
(財) 北海道埋蔵文化財センター　1986 『小岱遺跡』北埋調報30
(財) 北海道埋蔵文化財センター　1987 『ママチ遺跡Ⅲ』北埋調報36
(財) 北海道埋蔵文化財センター　1986 『西野幌３遺跡』北埋調報39
(財) 北海道埋蔵文化財センター　1986 『空知太２遺跡』北埋調報41
(財) 北海道埋蔵文化財センター　1987 『迷川２・新道４遺跡』北埋調報43
(財) 北海道埋蔵文化財センター　1988 『西野幌11遺跡・西野幌13遺跡・西野幌14遺跡・下学田遺跡』北埋調報48
(財) 北海道埋蔵文化財センター　1988 『新道４遺跡』北埋調報52
松下勝秀　1971　５万分の１地質図幅「江別」および説明書（札幌一第22号）北海道地下資源調査所
三浦孝一　1983 『栄浜』八雲町教育委員会
森田知忠　1981 「北海道」『縄文土器大成　３　後期』講談社
矢野牧夫・山田悟郎　1982 「北海道野幌丘陵に分布する最終氷期堆積物の粘土層」北海道開拓記念館研究年報　第10号
山田悟郎・北川芳男　1982 「吉井の沢１遺跡に於ける古植性の変化と埋積谷について」『吉井の沢の遺跡』北埋調報５
山田悟郎　1982 「萩ヶ岡遺跡の古植性について」『萩ヶ岡遺跡』江別市文化財調査報告書ＸＶ
山田秀三　1984 『北海道の地名』北海道新聞社
渡辺俊一・佐藤一夫・工藤　肇ほか　1984 「苫小牧東部工業地帯　埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅵ」苫小牧市教育委員会

財団法人北海道埋蔵文化財センター
平成11年11月8日
28424

財団法人　北海道埋蔵文化財センター調査報告書　第54集

西野幌12遺跡

— 道立野幌総合運動公園用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成元年3月31日　発行

編集・発行　財団法人　北海道埋蔵文化財センター
〒064 札幌市中央区南26条西11丁目
TEL(011)561—3131

印　　刷　中西印刷株式会社
〒065 札幌市東区東雁来3条1丁目1番34号
TEL(011)781—7501